2025

TBGUハンドブック

HANDBOOK FOR STUDENTS

輝く者

東北文化学園大学

TOHOKU BUNKA GAKUEN UNIVERSITY

目　　次

はじめに

建学の精神 …… 1
本学の教育理念・学部の教育目標・アドミッション・ポリシー・カリキュラム・ポリシー・
　ディプロマ・ポリシー・アセスメント・ポリシー …… 1
「輝ける者 Principle（全学共通教育）」について …… 5
学長メッセージ …… 7
学園の沿革 …… 8
東北文化学園大学の構成図 …… 9
2025 年度学事日程 …… 10
2026 年度入学試験日程 …… 12
東北文化学園大学における個人情報保護等に係る基本方針について …… 13

Ⅰ　学生生活案内（基本編）

1.　各種相談窓口案内 …… 15
2.　学生生活の基本 …… 16
　⑴学生証　⑵学内における連絡方法等　⑶通学方法　⑷学内での遺失・盗難について
　⑸通学証明書について　⑹学割について
3.　大学キャンパスにおける禁止事項 …… 18
　⑴全学禁煙について　⑵自家用車・自動二輪車等の乗り入れ
　⑶キャンパス内におけるスケートボード等、ボール運動等の規制について
　⑷その他、学則違反について
4.　TBGU ポータルサイトについて …… 19
5.　各種証明書・願書等について …… 19
　⑴取扱時間　⑵各種証明書　⑶　証明書自動発行機について　⑷願書・届出書等
6.　各種届出、身分異動等 …… 25
　⑴本人の住所、氏名、電話番号、本籍地、保証人（保護者）の住所、氏名、電話番号等に変更の
　　あった場合について　⑵学籍の異動
　⑶除籍・賞罰　⑷　公認欠席について（特別な事由により授業を欠席した場合の手続き）
7.　授業料について …… 28
　⑴授業料等納付金額　⑵授業料等の納付期限　⑶退学及び除籍の場合の授業料等
　⑷休学の場合の授業料等　⑸復学の場合の授業料等　⑹学年の途中で卒業する場合の授業料等
　⑺授業料等の延納・分納　⑻納付した授業料等

Ⅱ　修学案内

1.　授業科目の履修について …… 31
　⑴修業年限・在学期間　⑵学期　⑶単位制　⑷単位の計算方法　⑸授業科目の種類
　⑹ナンバリングについて　⑺授業時間　⑻休講・補講・集中講義
2.　履修登録手続きについて …… 33
　⑴履修登録　⑵履修登録単位数の上限（キャップ（CAP）制）について　⑶登録上の注意事項
　⑷履修登録の修正（取消し､追加）　⑸再履修　⑹履修登録の方法（PC 版サイト･モバイル版サイト共通）
3.　他学部履修について …… 38
　⑴概要　⑵他学部履修対象科目　⑶体系的な学修のための科目群（2025 年度以降入学者対象）
　⑷他学部履修に関する注意事項　⑸卒業に必要な単位としての認定
4.　その他、単位認定について …… 44
　⑴既修得単位の認定　⑵単位互換制度について　⑶初年次ポートフォリオについて
5.　授業評価アンケートについて …… 45

6. 定期試験等 …… 46
⑴試験の種類　⑵受験資格　⑶不正行為について　⑷定期試験時間割
⑸定期試験受験上の注意事項
7. 成績評価 …… 47
⑴評価方法　⑵成績発表　⑶成績の通知について　⑷成績に関する問い合わせについて
8. GPA について …… 47
⑴ GPA の計算例
9. 卒業・学位 …… 48

Ⅲ　学生生活案内（全般編）

1. スチューデント・アドバイザー制度（SA 制度）について …… 49
2. オフィスアワー …… 49
3. 定期健康診断の実施について …… 49
4. 奨学金制度 …… 49
⑴日本学生支援機構奨学金　⑵その他の奨学金
5. 高等教育の修学支援新制度 …… 50
⑴給付奨学金　⑵支援を受けられる世帯年収の目安支援額　⑶授業料等の減免制度（上限額）
6. 加入者被扶養者証・遠隔地被保険者証 …… 51
7. 学生保険について …… 51
⑴保険金が支払われる事故の範囲　⑵保険金が支払われるまでの手続き
⑶保険金が支払われない場合　⑷看護学科学生の保険
8. 国民年金保険料の学生納付特例制度について …… 52
9. Student JOB 制度（SJ 制度）について …… 52
⑴派遣業務　⑵授業等ピアサポーター　⑶ SJ 本部業務
10. アルバイト・ボランティア活動について …… 53
11. 学友会・課外活動 …… 53
⑴学生団体一覧（2025 年 1 月現在）⑵諸手続　⑶文書類の掲示　⑷施設（用具）の使用
12. サークル室の利用について …… 54
⑴利用資格　⑵利用時間　⑶利用方法
13. ハラスメントについて …… 55
⑴セクシャルハラスメント・アカデミックハラスメント　⑵アルコール・ハラスメント
14. 「危険ドラッグ」を含む薬物乱用の禁止について …… 55
⑴危険ドラッグとは？　⑵使用するとどうなる？　⑶絶対に手を出さないこと！
15. 一人暮らしのマナーについて …… 56
16. 東北文化学園大学　学生用 SNS（ソーシャルメディア）活用ガイドラインについて …… 56
17. 学生意見箱について …… 57
18. 地震・火災等、災害非常時の心構えについて …… 57

Ⅳ　各種センター、施設等利用案内

1. 大学施設（講義室・実習室等）の利用について …… 59
2. 図書館の利用方法について …… 61
⑴利用資格　⑵開館時間　⑶利用の注意　⑷館内閲覧　⑸館外貸出　⑹館内資料の複写
⑺相互利用　⑻購入希望図書　⑼グループ学習室の利用
3. ラーニング・コモンズ E サポについて …… 62
⑴利用方法　⑵利用上の注意　⑶問合せ先
4. 健康管理センターについて …… 63
⑴健康管理センター（保健室・学生相談室・特別支援室）利用時間　⑵利用方法・連絡先
⑶新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等学校感染症に罹患した場合の手続きについて
5. キャリアサポートセンター（就職支援について）…… 66

⑴就職活動支援　⑵キャリア形成の支援　⑶就職情報収集支援　⑷就職に関する参考書籍の提供
⑸就職活動に必要な書類準備の支援
6.　地域連携センターについて …… 67
⑴開設時間　⑵活動内容
7.　PC コーナーとレンタルパソコンの利用方法について …… 67
⑴ 2 階 PC コーナー　⑵レンタルパソコン
8.　学生食堂・その他厚生施設情報 …… 67
⑴学生食堂（5 号館地下 1 階、2 号館地下 1 階）
⑵セブンイレブン東北文化学園店（厚生棟 1 階）⑶厚生棟自習室（厚生棟 2 階）⑷コピー機
⑸自動販売機コーナー　⑹ ATM・キャッシュコーナー　⑺全館で Wi-Fi が利用可能です。
9.　運動施設（体育館・運動場等）の利用について …… 68
⑴使用目的　⑵使用時間
10.　宮城県美術館及び仙台市博物館のキャンパスメンバーズ …… 68

V　学部、学科案内

1.　医療福祉学部 …… 71
（1）リハビリテーション学科 …… 71
《理学療法学専攻》…… 71
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）カリキュラムの特徴　3）学外実習
4）授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表　5）カリキュラムツリー
6）進級要件　7）カリキュラム配置図　8）授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表
9）目標とする国家試験・資格　10）取得可能資格［団体認定資格］　11）将来の仕事
《作業療法学専攻》…… 89
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）カリキュラムの特徴　3）学外実習
4）授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表　5）カリキュラムツリー
6）進級要件　7）カリキュラム配置図　8）授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表
9）その他（詳細は別に定める）　10）目標とする国家試験・資格　11）将来の仕事
《言語聴覚学専攻》…… 105
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）カリキュラムの特徴　3）実習プログラム
4）授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表　5）カリキュラムツリー
6）カリキュラム配置図　7）授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表
8）進級要件　9）その他　10）目標とする国家試験・資格　11）将来の仕事
《視覚機能学専攻》…… 121
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）カリキュラムの特徴　3）実習プログラム
4）授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表　5）カリキュラムツリー
6）カリキュラム配置図　7）授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表
8）その他　9）目標とする国家試験・資格　10）将来の進路
○東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則
…… 141
○東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における履修登録単位数の上限に
関する細則 …… 142
（2）看護学科 …… 144
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）カリキュラムの特徴　3）学外実習
4）授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表　5）カリキュラムツリー
6）カリキュラム配置図　7）授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表

8）その他（詳細は別に定める）　9）目標とする国家試験・資格　10）将来の進路
○東北文化学園大学医療福祉学部看護学科における進級及び臨地実習の履修に関する細則 …… 171
○東北文化学園大学医療福祉学部看護学科における保健師課程の履修に関する細則 …… 173
○東北文化学園大学医療福祉学部看護学科における履修登録単位数の上限に関する細則 …… 173
（3）保健福祉学科 …… 174
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）教育目標と専攻の特徴　3）保健福祉学科のカリキュラムの特徴・カリキュラムツリー
4）就職活動支援について　5）取得可能資格［任用資格］　6）取得可能資格［団体認定資格］
7）進級要件等　8）カリキュラム配置図
9）授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表
・任用資格指定科目の読替表
○東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科における進級に関する細則 …… 188
○東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科保健福祉専攻における精神保健福祉士援助実習の履修に関する細則 …… 188
○東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科における履修登録単位数の上限に関する細則 …… 189
2.　現代社会学部 …… 190
1）現代社会学部の学びの基礎　2）現代社会学部の教育目標
現代社会学科 …… 190
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）専攻の特徴　3）現代社会学科のカリキュラムの特徴　4）キャリア教育について
5）専攻の配属について　6）社会学専攻における取得可能資格
7）社会福祉学専攻における取得可能資格　8）社会福祉学専攻の実習教育プログラムについて
9）社会福祉士、精神保健福祉士国家試験対策について
10）取得可能資格【団体認定資格】（学科共通）
11）専攻配属、進級、履修登録単位数にかかる規程、細則　12）就職活動支援について
13）任用資格指定科目の読替表
14）授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表　15）カリキュラムツリー
16）カリキュラム配置図　17）授業科目一覧表、卒業要件単位数
○東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科における社会学専攻及び社会福祉学専攻の配属に関する規程 …… 236
○東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科における進級に関する細則 …… 236
○東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科における履修登録単位数の上限に関する細則 …… 237
○東北文化学園大学現代社会学部社会福祉学専攻におけるスクールソーシャルワーク実習の履修に関する細則 …… 238
3.　経営法学部 …… 239
経営法学科 …… 239
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）本学部の特色　3）カリキュラムについて
4）授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表　5）カリキュラムツリー
6）卒業に必要な単位数　7）カリキュラム配置図
8）授業科目一覧、卒業要件単位数、カリキュラム対照表　9）履修モデル
10）資格取得をサポートする補助制度　11）卒業後の進路　12）履修上の諸注意
○東北文化学園大学経営法学部経営法学科における進級に関する細則 …… 262
○東北文化学園大学経営法学部経営法学科における履修登録単位数の上限に関する細則 …… 262
工学部／科学技術学部 …… 263
（1）知能情報システム学科 …… 263
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表　3）カリキュラムツリー
4）カリキュラム配置図　5）授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表

6）東北文化学園大学科学技術学部知能情報システム学科における進級及び卒業研究の履修に関する細則
7）目標とする国家試験・資格　8）将来の仕事　9）その他（詳細は別に定める）
○東北文化学園大学工学部知能情報システム学科における進級及び卒業研究の履修に関する細則 …… 282
○東北文化学園大学科学技術学部知能情報システム学科における進級及び卒業研究の履修に関する細則 …… 283
（2）建築環境学科 …… 284
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表　3）カリキュラムツリー
4）カリキュラム配置図　5）授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表
○東北文化学園大学工学部建築環境学科における進級及び履修の取扱いに関する細則 …… 303
○東北文化学園大学科学技術学部建築環境学科における進級及び履修の取扱いに関する細則 …… 304
（3）臨床工学科 …… 305
1）ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
2）カリキュラムの特徴　3）臨床実習
4）授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表　5）カリキュラムツリー
6）カリキュラム配置図　7）授業科目一覧表、卒業要件単位数　8）その他（詳細は別に定める）
9）臨床工学科推奨履修モデルⅠ
10）東北文化学園大学科学技術学部臨床工学科における進級及び臨床実習の履修に関する細則
11）目標とする国家試験・資格　12）将来の進路
○東北文化学園大学工学部臨床工学科における進級及び履修に関する細則 …… 334
○東北文化学園大学科学技術学部臨床工学科における進級及び履修に関する細則 …… 335
○東北文化学園大学工学部における履修登録単位数の上限に関する細則 …… 336
○東北文化学園大学科学技術学部における履修登録単位数の上限に関する細則 …… 338

Ⅵ　諸規程

東北文化学園大学学則 …… 341
東北文化学園大学学位規程 …… 352
東北文化学園大学履修規程 …… 357
東北文化学園大学における成績評価平均値（GPA）に関する細則 …… 360
東北文化学園大学試験規程 …… 360
定期試験受験者心得 …… 362
東北文化学園大学学生懲戒規程 …… 363
東北文化学園大学転学部又は転学科若しくは転専攻規程 …… 365
東北文化学園大学の公認欠席の取扱いに関する申合せ …… 365
東北文化学園大学授業料等特別措置制度規程 …… 369
東北文化学園大学授業料等特別措置制度規程実施細則 …… 370
東北文化学園大学気象条件等非常時における授業等の取扱いに関する申合せ …… 370
東北文化学園大学総合情報センター図書館利用規程 …… 371
東北文化学園大学基礎教育センター施設等利用規程 …… 372
東北文化学園大学学友会会則 …… 373
東北文化学園大学学友会サークルに関する細則 …… 376
東北文化学園大学学友会同好会に関する細則 …… 378
東北文化学園大学学友会会長特別賞に関する申合せ …… 379
東北文化学園大学学友会における弔意及び見舞金の贈与等に関する申合せ …… 379

Ⅶ　校舎案内・防災ガイド

校舎配置図 …… 381
施設見取図 …… 382
防災ガイド …… 395

はじめに

TOHOKU BUNKA GAKUEN

建学の精神

「輝ける者を育む」

建学の精神・理念に基づく人材像

「輝ける者」とは、自立した力を持ち、他者とかかわり合いながら未経験の問題に応える人

学生へのメッセージ

私達の学園は協同ということを大切にしています。教職員や同級生とのかかわりはもとより、上級生や下級生、地域の人達とのつながりの中から、同じ目的のもとに行動するチームアプローチを学びます。

人口流出、高齢化、少子化、地域コミュニティの再構築、地域文化の継承と創造、震災復興…。東北は今、全国に先んじて、誰もが経験したことのない深刻な課題に直面しています。豊かな自然あふれる東北で、その恵みを享受し、また、地域の誇りを持ち続けるために、目的を共有する人達と力を合わせて解決策を練らなければなりません。

さまざまな垣根を越えて協同しながらの課題研究や課外活動、学生自らが企画しての社会貢献や地域活動など、仲間たちと熱く輝く瞬間が学生生活を彩ります。

一人の職業人として活躍するための専門知識や資格に加えて、周囲とつながる学生生活によって「輝ける者」に至るあなたを全力で支え、未来に送り出していきます。

本学の教育理念

新時代の実学を担う有為な人材を育成するために 5 つの教育理念を掲げ、
人間教育を重視した専門教育を実施する。

(1)　豊かな人間性と創造力の養成

専門技術・知識を習得し、独自に工夫・応用できる創造性を育成する。同時に、豊かな人間性と愛情をはぐくむ。

(2)　専門技術の研鑽

専門技術の学問としての確立と研究の推進を行い、あわせて、実社会の需要に積極的に応えられる技術と情熱を持つ人材を育成する。

(3)　国際性豊かな人材の育成

高い識見と専門技術を生かし、多様な世界との文化・技術交流に積極的に取り組むことのできる国際性豊かな人材を育成する。

(4)　社会の一員としての自覚と問題解決能力による貢献

国際社会、国家、地域社会の一員としての役割、責任を自覚し、社会に対する洞察力と問題解決能力をもって、進んで社会貢献に参加する人材を育成する。

(5)　地域社会とともに発展する大学

地域社会との交流を活発に行い、同時に職業人の再教育、編入学、科目等履修生及び社会人の受け入れなど、生涯学習に対応する。

学部の教育目標

⑴　医療福祉学部は、広い教養と豊かな人間性を有し生命の尊厳に対し深い理解を示す能力を養うとともに、医療福祉分野の専門能力を備えた専門職としての自覚を持ち、積極的な行動のできる人材を育成することを目的とする。

①　リハビリテーション学科は、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、視覚機能学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれに十分な知識と技能を有し、医療福祉の実践を担う専門能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成する。

②　看護学科は、看護学、保健学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれに十分な知識と技能を有し、医療福祉の実践を担う専門能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成する。

⑵　現代社会学部現代社会学科は、社会学と社会福祉学の理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれに十分な知識と技能を有し、幅広い視野と柔軟な思考を持った人材、ならびに現代において多様な人々が共に生きる社会の創生に貢献できる人材を育成する。

⑶　経営法学部経営法学科は、法学及び経営学を中心とした社会科学、その他の関連する分野を総合的に教授し、研究することにより、豊かな教養と人間性を養うとともに、日々変化する社会を的確に捉え対応していく能力、地域活性化に資する能力、国際社会で活躍する能力を持った人材を育成する。

⑷　工学部は、実践的教育に基づき、工学に関わる深い見識と高度の技術力を身に付けることに加えて、高い倫理観と豊かな創造力、多面的な分析力と協調性、実社会における具体的な問題把握力と解決能力をもつ、情報・建築・医療領域の人材の育成を目的とする。

①　知能情報システム学科は、ネットワーク、マルチメディア、ロボティクスの各分野について、幅広いコンピュータの基礎知識に加え実践的な技術力を教授し、豊かな発想力と自在な応用力を身に付けた高度情報化社会に対応できる人材を育成する。

②　建築環境学科は、建築デザイン、健康インテリア、建築設備の各分野を核として、環境に配慮した建築空間の構成技術、長寿命化技術の獲得とその実践をとおして、充実した基礎教育と時代に適合した先端教育を行い、建築空間と人間生活の適正な関係の改善に寄与できる人材を育成する。

③　臨床工学科は、臨床工学に関わる医療技術や医療機器開発の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、チーム医療の重要な一員として活動でき、さらに新たな医療機器の開発に参画できる人材を育成する。

アドミッション・ポリシー

本学は、地域に根差して未来を志向した実学教育を目指しています。
次のような学生（高校生や社会人）を求めています。

未来：夢ある若者が人類の未来を担う

少子高齢化・国際化・情報化が進む現代において、人類の持続的な発展を実現するためには、地球の環境維持を考え、子孫のことを考えた生き方の創造と実践が必要とされています。

未来に向けて夢や目的をもち、その実現に向けて努力する人、未来に向けて革新性を発揮しようとする人を本学は求めています。

文系・理系の枠にとらわれず、学際領域にも興味をもって、情報収集や読書・学習に努めてください。

実学：専門技術を目指した学習や体験を

社会で生きていくためには教養を身につけるだけではなく、専門的な知識や技術を獲得することが大切です。それによって私たちは社会に役立つ存在となり、同時に、充実した人生を送ることが可能となります。

専門知識・技術を学び社会の発展に寄与しようとする人、また、専門分野間の連携・協同活動に意欲をもっている人を本学は求めています。

実習・実験などの体験学習や職業体験などに積極的に参加し、広い意味での学習を進めてください。

地域：地域社会や国際社会まで活躍の場は広い

個々人が地域社会に貢献するためには、広く人類の文化・歴史に興味をもつとともに、社会の一員としての責任を自覚し、節度ある生活習慣を身につけることが大切です。

豊かな心とコミュニケーション能力をもっている人、創造性を活かして地域・国際社会の発展に貢献しようとする人を本学は求めています。

サークル活動や地域のボランティア活動などに積極的に参加し、社会性と倫理観を養ってください。

カリキュラム・ポリシー

本学は、ディプロマ・ポリシーの具現化に向けて、3 つの柱に基づくカリキュラムを実践します。

1.　未来を担う人材の育成

社会を構成する一員として、他者を尊重し、良好なコミュニケーションによって、自律、協調し、未来を見据えて主体的に行動できる創造的能力を涵養する。

①全学共通教育「輝ける者 Principle」に基づく、「育みプロジェクト」及び「探求・理解プロジェクト」科目を初年次に配置し、主体的な学びの基礎と、生涯にわたり社会や地域と協働、共存するための人間力を育みます。

②少人数のゼミナール等を通して、それぞれの課題に向かう学生一人ひとりの学修を支援します。

2.　実学を重んじた専門教育

職業人としての高い倫理観を養い、高度な知識と技術・技能を応用し、広い視野で問題解決する能力を涵養する。

①「専門基礎科目」・「専門科目」等の科目群を段階的に配置し、系統的に学ぶことにより、より深い知識や教養に根差した技術・技能を修得できるカリキュラムを構成しています。

②グループワーク、演習、実験・実習を多く配置し、知識と技能をバランスよく身につける教育課程を実践します。

③各分野に求められる情報リテラシーを身につけ、データサイエンスに基づく課題解決ができる人材を育成します。

④初年次からキャリア観形成に重点を置き、関連科目やインターンシップを通じて、社会人基礎力を醸成します。

3.　社会に幅広く貢献できる実践的能力の養成

自国及び他国の文化を理解し、幅広い視野に基づき社会に貢献するための実践的能力を涵養する。

①総合大学の強みを活かし、学部横断的な学際教育と研究活動を実践します。

②他学部履修制度や専門職連携セミナー等、専門分野を越えて連携、協働することで、学びへの探求心を育みます。

③地域の文化と伝統に基づく自国の価値観を学びながら、様々な国際問題や異文化理解への興味、関心を深めるために海外研修プログラムを含む、多彩な関連科目を展開します。

ディプロマ・ポリシー

東北文化学園大学は、その教育の過程において厳正な成績評価を行い、各学部学科の教育課程における所定の単位を修めるとともに以下の要件を備えた学生に対して、卒業を認定し学位を授与します。

1.　社会人としての基礎力

社会を構成する一員として、他者を尊重し、良好なコミュニケーションによって、自律、協調して主体的に行動する創造的能力が身についている。

2.　実学の修得と倫理観

職業人として、社会に評価される知識や技術・技能を修得し、必要とされる倫理観を養い、他者と連携し問題を解決する能力が身についている。

3.　地域の理解と社会貢献

地域社会や国際社会を視野に入れ、地域に対する理解と社会に貢献するための実践的能力が身についている。

アセスメント・ポリシー

東北文化学園大学は、教育における学修成果を厳正に評価し、その結果を教育の質改善につなげることを目的として、入学前・入学時から卒業までの学修過程で、大学全体、学部・学科・専攻、科目の各レベルにおける評価指標を用い、学修成果を多面的に評価する。

学修過程及び評価のレベルにおける評価指標

学修過程 評価のレベル	**入学前・入学時** アドミッション・ポリシーを充たしている人材かどうかの検証	**在学中** カリキュラム・ポリシーに即して学修を展開しているかどうかの評価	**卒業時** ディプロマ・ポリシーを充たす人材になっているかどうかの検証
大学全体レベルの評価指標	・各種入学試験 ・調査書 ・志望理由書 ・面接 ・小論文	・学修状況調査 ・学生生活実態調査 ・休学率 ・退学率	・学位授与数 ・卒業率 ・就職率 ・進学率 ・卒業生満足度調査（卒業時）
学部・学科・専攻レベルの評価指標	・入学前教育	・初年次ポートフォリオ ・修学指導記録 ・成果発表（ゼミ発表、実習報告会等） ・年次修得単位数 ・年次 GPA ・進級率 ・休学率 ・転学部転学科等率 ・退学率	・卒業論文（卒業研究含む） ・卒業研究発表 ・通算 GPA ・卒業率 ・学位授与数 ・就職率 ・国家試験合格率 ・各種資格試験合格率
科目レベルの評価指標	・輝ける者ベーシックテスト	・各種試験（定期試験含む） ・各種レポート ・成績評価 ・授業評価アンケート	・各種試験（定期試験含む） ・各種レポート ・成績評価 ・授業評価アンケート

注：学修過程及び評価のレベル毎に、適切な評価指標を用いる。

「輝ける者 Principle（全学共通教育）」について

本学では、全学共通教育「輝ける者 Principle」として、共通教養教育「探求・理解プロジェクト」と初年次教育「育みプロジェクト」に取り組んでいます。専門的な学びの礎となる初年次教育と、生涯にわたり学ぶ姿勢を身につける教養教育を、全学共通カリキュラムとして展開し、1 人ひとりの学びを深めます。

輝ける者 Principle

［初年次教育］育みプロジェクト

- ●育みコンセプト
- ●アクティブラーニング
- ●育みルーブリック
- ●複数科目の組み合わせ学修

［共通教養教育］探求・理解プロジェクト

- ●学部を横断したプログラム
- ●共生社会への模索
- ●学生として学びの基礎をつくる
- ●被災地学修・ボランティア精神の醸成

「共通教養教育　探求・理解プロジェクト」

「探求・理解プロジェクト」は、本学の建学の精神である「輝ける者を育む」ために用意された、下表の 6 科目からなる教養プログラムです。総合大学の特色を活かし、医療、工学、社会学、経営法学等、学部専門領域の垣根を超えて、様々な分野の教員たちがチームをつくり、実践的なプログラムを提供します。特に全学共通教養科目「輝ける者」は、実社会を学びのフィールドとし、東北・宮城で活躍する起業家や地域の方々との交流や協同活動を通じて、自ら課題を発見し、解決しようとする力や生涯学び続ける姿勢を育むプログラムです。

なお、本科目は、選択必修科目（2 単位以上）です。卒業要件になりますので、必ず 1 科目は履修しなければなりません。科目選択に当たっては、1 年次に基礎教育センターから履修ガイダンスがあります。

基礎科目【探求・理解プロジェクト】＊授業内容の詳細はシラバスを確認してください。

科目名	配当年次	授業概要
輝ける者	1 年通年	地元宮城県を支える取り組みを題材とし、「①地元の産業を支えるとは」「②地元を支える活動の実践」の観点により授業を展開することで、「主体的に考える力」、「コミュニケーション力」、「問題解決力」を高め、「チームワーク・リーダーシップ」、「市民としての社会的責任」に対する基本的態度を育む。
生命（いのち）を考える	1 年前期	「ヒトの生命」を主たるテーマとし、「生きること」「死ぬこと」「障害と共に生きること」等について講義と意見交換を通じて考える。
	1 年後期	
現代社会を視る	1 年前期	「現代社会」をさまざまな角度から「視る」。そのことを通して、社会を知る・捉える・理解する力を培う。最終的には、社会で起きている現象を知るだけでなく、体験したり、問題を見つけて解決方法を考えたり、優れた点を発展させる案を考えることなどができる力を身につける。
	1 年後期	
生活の中の科学	1 年前期	生活の「安全・安心・便利・豊かさ」をキーワードに、現在の科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているか、また科学技術の将来あるべき姿について学ぶ。
	1 年後期	
経済・法律・世界を視る	1 年前期	経済・法律・世界に関する多方面の課題を調べ、それらの課題について自分との関係性を考察した上で、必要な解決策を自ら検討する。
	1 年後期	
社会活動入門	1 年前期	社会活動を「社会貢献を目的として社会に参加または参画して行う活動」と位置づけ、ボランティア活動をはじめ企業の CSR（Corporate Social Responsibility）活動など多様で広範な諸活動を扱う。
	1 年後期	

「初年次教育　育みプロジェクト」

「育みプロジェクト」は、全学共通の理念に沿った一連の教育プログラムです。入学後、大学生としての学びを円滑にスタートし、2年次以降の学びに興味・関心を持って臨めるように導くための教育プログラムです。アカデミック・ライティングの基礎的な技法を身につけ、グループワーク等を通じて、他者の意見や考え方を理解しながら、自分自身で課題を発見し、「解」を導き出すための広い視野を身につける学びです。学修の到達目標と評価を明確にすることで、能動的に学ぶ力を育みます。

【基本的な4つの取り組み】①アカデミック・ライティング　②ディスカッションを通した深い学び　③育みルーブリック（到達目標を明確にした学修と評価）　④多様な考え方を引き出し、専門性へ誘うカリキュラム

評価規準 学生に身につけさせたい力		育みルーブリック（全学共通）				基準 学科専攻ごとに定める具体的尺度
3観点	評価項目 （構成要素）	評価規準	S：基準を大きく超え 優秀 90～100	A：基準を超え 優秀 80～89	B：望ましい基準 70～79	C：最低限の基準 60～69
知識 技能 表現力	基礎力 ・言語スキル ・数量スキル ・情報スキル	文章や発言内容、数学的な情報等を正確に読み取り、適切な言葉や数式・図表、ICTを活用するなど、自分の考えを効果的に表現できる。	情報モラルの知識があり、言語・数量・情報スキルを駆使した説明や解釈ができ、説明に脈絡と根拠が見られる。	情報モラルの知識があり、言語・数量スキルなどを工夫し、効果的に自分の考えを伝えることができる。	情報モラルの知識があり、言語・数量スキルなどを工夫し、自分の考えを伝えることができる。	情報モラルの知識があり、ICTを活用するなどして自分の考えを伝えることができる。
思考力 判断力	思考力 ・論理的・批判的思考力 ・問題発見・解決力 ・メタ認知	様々な発言、資料や情報等を比較・関連付け、分析・評価し、問い・解決策を設定しながら自力解決を図り、自身の学修をモニターできる。	発言や情報等を比較・関連付けながら適切な理由付けをし、解決の手法を活用して、問題の解決に取り組むとともに、学修の過程をモニターすることができる。	発言や情報等を比較・関連付けながら適切な理由付けをし、解決の手法を活用して、問題の解決に取り組むことができる。	発言や情報等を比較・関連付けながら適切な理由付けをし、問題の解決に取り組むことができる。	発言や資料等を理解し、問題を解決するプロセスを考えることができる。
主体的に取り組む態度	実践力 ・自律的活動力 ・人間関係形成力	自己を理解して行動を調整し、意思決定するとともに、他者あるいは集団との効果的なコミュニケーションを通して目標を共有し、協働できる。	自分の生き方を考え、キャリア設計をし、他者あるいは集団とのコミュニケーションを図り、リーダー性を発揮して目標を共有した協働的な学修や行動ができる。	自分の生き方を考え、キャリア設計をし、他者とコミュニケーションをとって協働的な学修や行動ができる。	自分の生き方を考え、キャリア設計をし、学修や行動を意思決定できる。	自分の学修や行動を意思決定できる。

【育みプロジェクト】対象科目　＊内容詳細はシラバスを確認してください。

学科・専攻		育みプロジェクト対象科目	学科・専攻	育みプロジェクト対象科目
リハビリテーション学科	理学療法学	基礎セミナーⅠ（1年・前期） 基礎セミナーⅡ（1年・後期）	現代社会学科	基礎ゼミナールⅠ（1年・前期） 基礎ゼミナールⅡ（1年・後期） キャリア形成Ⅰ（1年・前期） キャリア形成Ⅱ（1年・後期）
	作業療法学	アカデミック・スキル演習（1年・通年）		
	言語聴覚学	アカデミック・スキル演習（1年・通年）	経営法学科	初年次セミナー（1年・前期） アカデミックスキルズ（1年・後期）
	視覚機能学	アカデミック・スキル演習Ⅰ（1年・前期） アカデミック・スキル演習Ⅱ（1年・後期） 基礎眼光学（1年・前期） 医療のための基礎数学（1年・前期）	知能情報システム学科	基礎セミナー（1年・前期）
			建築環境学科	建築探求（1年・前期） 建築環境学A（1年・前期） 建築環境学B（1年・後期）
看護学科		アカデミック・スキル演習（1年・通年）	臨床工学科	基礎セミナー（1年・前期）

私たちは全力で皆さんを支援します

東北文化学園大学
学長　**加賀谷　　豊**

新入生の皆さん、そして在学生の皆さん、新年度の始まりをどんな気持ちで迎えているでしょうか。私がこの原稿を書いているのは 2024 年の年末です。感染症の状況が落ち着いたまま新しい年度を迎えられることを心から願っています。

さて、東北文化学園大学は 1999 年に開学されましたので、間もなく 27 年目に入ろうとしています。一方、学校法人としての東北文化学園は宮城デザイン専門学校が 1978 年に開校したのが始まりですので、 3 年後の 2028 年に創立 50 周年を迎えます。50 周年を迎えるにあたり、本学は 50 周年ビジョン「一人ひとりが高い成長力を実感できる教育力 No.1 の学園となる」を定め、学修者中心の教育を究めるための努力を積み重ねています。具体的な例としては、講義科目であっても一方向性の喋りっぱなしの授業とせず、少人数のグループ・ディスカッションを取り入れたり、ICT を活用した学生の理解度の確認と教員からのフィードバックを行ったりするなど、双方向性を少しでも取り入れることを大学全体で進めています。一方、この 50 周年を機に大学のキャンパス整備も行う予定です。具体的な計画の詳細が決まるのはこれからですが、教職員と学生が一緒に意見を出し合っていくことができればと思っています。

本学には個別学習支援「コンサルティング＆コーチング（C&C）」という、学生のニーズや理解度に寄り添いサポートすることで、小さな疑問や質問をすぐに解決し、学びを止めさせないプログラムが用意されています。具体的には、文章表現・面接対策、数学の基礎から応用、さらには英語に関して、それぞれ専属のスタッフが丁寧に対応します。もちろん費用はかかりません。「就職活動を始める前に文章表現力を高めたい」、「数学のちょっとした質問をしたい」、「英会話を上達させたい」などの要望に答えます。詳しくは本学ウェブページを参照するか、基礎教育センターで直接聞いてみてください。

結びに、このハンドブックには学生の皆さんとの修学上の約束ごとや学生生活を送るうえで欠かせない情報が載っています。授業科目に関する詳細が書かれているシラバスと一緒に活用して下さい。高校とは異なり、大学では自ら学ぶ積極性が問われます。一方、**もし学修や日常生活で困ったら一人で悩まず、是非、早めに私たち教職員に相談してください。学生相談室を利用する方法もあります。**2025 年度が、皆さんにとってかけがえのない 1 年となるように私たちは全力で支援します。

学園の沿革

1978年 3月　学校法人東北文化学園の設立認可。
1978年 4月　仙台市青葉区本町に宮城デザイン専門学校開校。
1981年 4月　東北工科美術専門学校に学校名称変更。
1983年12月　専修学校として東北医療専門学校の設置認可。
1984年 4月　東北医療専門学校開校。
1985年 3月　学校法人木村学園から東北商科専門学校（昭和 55 年 4 月設置認可）を継承。
　　9月　東北情報工学専門学校に学校名称変更。
1990年 4月　仙台市青葉区国見にキャンパスを移転。
　　科増設に伴う東北工科美術専門学校と東北情報工学専門学校を統合、東北工科情報専門学校に学校名称変更。
　　東北医療専門学校に科を増設、東北医療福祉専門学校に学校名称変更。
1993年 4月　東北初の理工系カレッジとして東北科学技術短期大学開学。
1995年 1月　東北工科情報専門学校及び東北医療福祉専門学校の平成 6 年度卒業生から、文部大臣告示により「専門士」の称号を付与。
1998年12月　東北文化学園大学の設置認可、学校法人東北文化学園大学に法人名称変更。
1999年 4月　東北文化学園大学開学。
　　東北医療福祉専門学校と東北工科情報専門学校を統合、東北文化学園専門学校に学校名称変更。
2000年10月　東北科学技術短期大学の廃止認可。
2002年 9月　学校法人東北文化学園大学に設置していた東北文化学園専門学校を、友愛幼稚園を設置している学校法人友愛学園に移管。
2002年10月　東北文化学園大学医療福祉学部収容定員の変更認可。
2002年12月　東北文化学園大学大学院の設置認可。
2003年 3月　学校法人東北文化学園大学とアレン国際短期大学及び久慈幼稚園を設置している学校法人頌美学園が合併。
2003年 4月　東北文化学園大学大学院開学。
2006年11月　東北文化学園大学大学院修士課程を博士課程に課程変更認可。
2007年 1月　アレン国際短期大学の廃止認可。
2007年 4月　東北文化学園大学大学院博士課程前期課程及び博士課程後期課程を設置。
2008年 4月　東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科に言語聴覚学専攻及び視覚機能学専攻を設置。
2009年10月　学校法人東北文化学園大学と友愛幼稚園及び東北文化学園専門学校を設置する学校法人友愛学園が合併。
2010年 4月　東北文化学園大学医療福祉学部に看護学科を設置。
2011年 4月　東北文化学園大学大学院の健康社会システム研究科健康福祉専攻博士課程前期課程にナースプラクティショナー養成分野を設置。
2016年 2月　東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科健康福祉専攻（ナースプラクティショナー養成分野）が、厚生労働大臣から保健師助産師看護師法第 37 条の 2 第 2 項第 5 号に規定する特定行為研修指定研修機関（特定行為 21 区分）として指定。
2016年 4月　東北文化学園大学科学技術学部に臨床工学科を設置。
2017年 9月　東北文化学園大学に附属施設「東北文化学園大学総合発達研究センター附属国見の杜クリニック」を設置。
2021年 4月　東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科社会学専攻及び社会福祉学専攻を設置。
　　東北文化学園大学総合政策学部総合政策学科を、経営法学部経営法学科に学部学科名称変更。
　　東北文化学園大学科学技術学部を、工学部に学部名称変更。

本学園のロゴマークには、次のような意味が込められています。

TOHOKU BUNKA GAKUEN UNIVERSITY

1. 3 つの輪は「東北文化学園大学の 3 つの柱（社会科学系、工学系、医療系）の協調による学際教育」を表しています。
2. 右肩上がりの楕円形は「現状に甘んじることなく、常に成長・発展を志向する姿勢を表しています。

　ロゴマークのデザインは、東北芸術工科大学の名誉教授で、長野冬季五輪デザイン検討委員長を務められた馬場雄二先生の制作によります。

東北文化学園大学の構成図

- 大学
  - 医療福祉学部
    - リハビリテーション学科
      - 理学療法学専攻
      - 作業療法学専攻
      - 言語聴覚学専攻
      - 視覚機能学専攻
    - 看護学科
  - 現代社会学部
    - 現代社会学科
      - 社会学専攻
      - 社会福祉学専攻
  - 経営法学部
    - 経営法学科
  - 工学部
    - 知能情報システム学科
    - 建築環境学科
    - 臨床工学科
  - 大学院
    - 健康社会システム研究科（博士課程前期二年の課程）（後期三年の課程）
      - 健康福祉専攻
      - 生活環境情報専攻
  - （附属施設）総合発達研究センター
    - 附属国見の杜クリニック

（事務局・各センター・IR室）

- ○ 庶務課
- ○ 教務部
  - 教務課
  - 実習教育計画課
- ○ 学生部
  - 学生課
- ○ キャリアサポートセンター
  - キャリアサポート課
- ○ アドミッションセンター
  - 入試・広報課
- ○ 総合情報センター
  - 図書館
- ○ 健康管理センター
  - 保健室
  - 学生相談室
  - 特別支援室
- ○ 基礎教育センター
  - ラーニング・コモンズEサポ
- ○ 地域連携センター
- ○ IR室

2025 年度学事日程（※丸付の数字は授業回数を表す）

4月				5月				6月				7月				8月				9月			
1	火	在学生健康診断		1	木		④	1	日			1	火		⑪	1	金	集中講義期間		1	月		
2	水	前期在学生ガイダンス/前期Web履修登録(～14日)		2	金		④	2	月		⑧	2	水		⑫	2	土			2	火		
3	木			3	土	憲法記念日		3	火		⑦	3	木		⑫	3	日	オープンキャンパス		3	水		
4	金	入学式		4	日	みどりの日		4	水		⑧	4	金		⑫	4	月	集中講義期間		4	木		
5	土	在学生健康診断		5	月	こどもの日		5	木		⑧	5	土			5	火	集中講義期間		5	金		
6	日			6	火	振替休日		6	金		⑧	6	日	オープンキャンパス		6	水	FD・SD 研修会		6	土		
7	月	新入生ガイダンス(～9日)		7	水		④	7	土			7	月		⑬	7	木			7	日		
8	火	輝ける者ベーシックテスト		8	木	補講日（月曜日割当）	④	8	日			8	火		⑫	8	金	追試験日程発表		8	月		
9	水			9	金	補講日（火曜日割当）	③	9	月		⑨	9	水		⑬	9	土			9	火		
10	木	前期授業開始	①	10	土			10	火		⑧	10	木		⑬	10	日	大学閉鎖期間		10	水		
11	金		①	11	日			11	水		⑨	11	金		⑬	11	月	山の日 大学閉鎖期間		11	木		
12	土	新入生健康診断		12	月		⑤	12	木		⑨	12	土			12	火	大学閉鎖期間		12	金	前期成績発表	
13	日			13	火		④	13	金		⑨	13	日			13	水	大学閉鎖期間		13	土		
14	月		①	14	水		⑤	14	土			14	月		⑭	14	木			14	日		
15	火		①	15	木		⑤	15	日			15	火		⑬	15	金			15	月	敬老の日	
16	水	履修登録修正期間	①	16	金		⑤	16	月		⑩	16	水		⑭	16	土			16	火		
17	木	履修登録修正期間	②	17	土			17	火		⑨	17	木		⑭	17	日			17	水	後期 Web 履修登録期間（～24）	
18	金	履修登録修正期間	②	18	日			18	水		⑩	18	金		⑭	18	月	追試験期間		18	木	夏季休業終了	
19	土			19	月		⑥	19	木		⑩	19	土			19	火	追試験期間		19	金	後期ガイダンス 防災訓練	
20	日			20	火		⑤	20	金		⑩	20	日			20	水	追試験期間		20	土	教育相談会	
21	月		②	21	水		⑥	21	土			21	月	海の日		21	木	追試験期間		21	日	教育相談会	
22	火		②	22	木		⑥	22	日	オープンキャンパス		22	火	前期授業終了	⑭	22	金	追試験期間 大学院一般Ⅰ期・学内推薦Ⅰ期入試		22	月	後期授業開始	①
23	水		②	23	金		⑥	23	月		⑪	23	水	前期定期試験期間		23	土			23	火	秋分の日	
24	木		③	24	土			24	火		⑩	24	木	前期定期試験期間		24	日	オープンキャンパス		24	水		①
25	金		③	25	日	オープンキャンパス		25	水		⑪	25	金	前期定期試験期間		25	月			25	木		①
26	土			26	月		⑦	26	木		⑪	26	土	オープンキャンパス		26	火			26	金	履修登録修正期間	①
27	日	創立記念日		27	火		⑥	27	金		⑪	27	日	オープンキャンパス		27	水			27	土	履修登録修正期間	
28	月			28	水		⑦	28	土			28	月	前期定期試験期間		28	木			28	日	履修登録修正期間	
29	火	昭和の日		29	木		⑦	29	日			29	火	前期定期試験期間		29	金			29	月	履修登録修正期間	②
30	水		③	30	金		⑦	30	月		⑫	30	水	夏季休業開始 集中講義期間		30	土			30	火	履修登録修正期間 9 月学位記授与式	①
				31	土							31	木	集中講義期間		31	日						

2025 年度学事日程（※丸付の数字は授業回数を表す）

10月				11月				12月				1月				2月				3月			
1	水		②	1	土			1	月		⑨	1	木	元旦 大学閉鎖期間		1	日			1	日		
2	木		②	2	日			2	火		⑩	2	金	大学閉鎖期間		2	月	集中講義期間		2	月		
3	金		②	3	月	文化の日		3	水		⑩	3	土	大学閉鎖期間		3	火	追試日程発表		3	火		
4	土			4	火		⑥	4	木		⑨	4	日	大学閉鎖期間		4	水	立入制限（入試準備）		4	水	立入制限（入試準備）	
5	日	東北文化学園大学 フォーラム		5	水	補講日（月曜日割当）	⑥	5	金		⑩	5	月			5	木	一般前期入試		5	木	一般後期・一般編 入学Ⅱ期入試	
6	月		③	6	木		⑥	6	土			6	火	冬季休業終了		6	金			6	金		
7	火		②	7	金		⑥	7	日			7	水	後期授業再開	⑬	7	土			7	土		
8	水		③	8	土			8	月		⑩	8	木		⑬	8	日			8	日		
9	木		③	9	日			9	火		⑪	9	金		⑭	9	月			9	月		
10	金	休講・立入制限 （入試準備）		10	月		⑦	10	水		⑪	10	土			10	火			10	火		
11	土	総合型選抜Ⅰ期入試		11	火		⑦	11	木		⑩	11	日			11	水	建国記念の日		11	水		
12	日	総合型選抜Ⅰ期入試		12	水		⑦	12	金		⑪	12	月	成人の日		12	木	追試験期間		12	木		
13	月	スポーツの日		13	木	補講日（金曜日割当）	⑦	13	土	総合型選抜Ⅱ期入試		13	火		⑭	13	金	追試験期間		13	金	学位記授与式	
14	火		③	14	金	休講・立入制限 （入試準備）		14	日	学校推薦入試Ⅱ期、 社会人入試		14	水		⑭	14	土			14	土		
15	水		④	15	土	学校推薦型Ⅰ期・ 一般編入学Ⅰ期・ 指定校編入学入試		15	月		⑪	15	木		⑭	15	日			15	日		
16	木	補講日（金曜日割当）	③	16	日	学校推薦型Ⅰ期・ 一般編入学Ⅰ期・ 指定校編入学入試		16	火		⑫	16	金	休講・立入制限 （入試準備）		16	月	追試験期間		16	月		
17	金	休講（大学祭準備）		17	月		⑧	17	水	補講日（月曜日割当）	⑫	17	土	大学入学共通テスト		17	火	追試験期間		17	火		
18	土	大学祭		18	火		⑧	18	木		⑪	18	日	大学入学共通テスト		18	水	追試験期間		18	水		
19	日	大学祭 オープンキャンパス		19	水		⑧	19	金		⑫	19	月	後期授業終了	⑭	19	木			19	木		
20	月		④	20	木		⑦	20	土			20	火	定期試験期間		20	金			20	金	春分の日	
21	火		④	21	金		⑧	21	日			21	水	定期試験期間		21	土			21	土		
22	水		⑤	22	土			22	月		⑬	22	木	定期試験期間		22	日			22	日	オープンキャンパス	
23	木		④	23	日	勤労感謝の日		23	火		⑬	23	金	定期試験期間		23	月	天皇誕生日		23	月		
24	金		④	24	月	振替休日		24	水		⑫	24	土	大学入学共通テスト 予備日		24	火			24	火		
25	土			25	火		⑨	25	木		⑫	25	日	大学入学共通テスト 予備日		25	水	大学院一般Ⅱ期・ 学内推薦Ⅱ期入試		25	水		
26	日			26	水		⑨	26	金		⑬	26	月	定期試験期間		26	木			26	木		
27	月		⑤	27	木		⑧	27	土	冬季休業開始		27	火	春季休業開始 集中講義期間		27	金	卒業認定者発表		27	金		
28	火		⑤	28	金		⑨	28	日			28	水	集中講義期間		28	土			28	土		
29	水		⑥	29	土			29	月	大学閉鎖期間		29	木	集中講義期間						29	日		
30	木		⑤	30	日			30	火	大学閉鎖期間		30	金	集中講義期間						30	月		
31	金		⑤					31	水	大学閉鎖期間		31	土							31	火		

2026 年度　入学試験日程

<table>
<tr><th colspan="2">入　試　名</th><th>試　験　日</th><th>入　構　制　限</th></tr>
<tr><td rowspan="2">大学院Ⅰ期</td><td>一般</td><td rowspan="2">2025 年 8 月 21 日（木）</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>学内推薦</td></tr>
<tr><td rowspan="3">総合型選抜Ⅰ期</td><td>育成</td><td>2025 年 10 月 11 日（土）</td><td rowspan="3">前日 10 日（金）から制限（休講措置有り）</td></tr>
<tr><td>自己アピール</td><td rowspan="2">2025 年 10 月 12 日（日）</td></tr>
<tr><td>スポーツ特別</td></tr>
<tr><td rowspan="2">編入学試験Ⅰ期</td><td>一般編入</td><td rowspan="2">2025 年 11 月 15 日（土）</td><td rowspan="5">前日 14 日（金）から制限（休講措置有り）</td></tr>
<tr><td>指定校編入</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学校推薦型選抜Ⅰ期</td><td>一般推薦</td><td rowspan="2">2025 年 11 月 15 日（土）</td></tr>
<tr><td>協定校推薦</td></tr>
<tr><td>指定校推薦</td><td>2025 年 11 月 16 日（日）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">総合型選抜Ⅱ期</td><td>自己アピール</td><td rowspan="2">2025 年 12 月 13 日（土）</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>スポーツ特別</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学校推薦型選抜Ⅱ期</td><td>一般推薦</td><td rowspan="3">2025 年 12 月 14 日（日）</td></tr>
<tr><td>指定校推薦</td></tr>
<tr><td colspan="2">社会人特別選抜</td></tr>
<tr><td colspan="2">大学入学共通テスト</td><td>2026 年 1 月 17 日（土）
・18 日（日）</td><td>前日 16 日（金）から制限（休講措置有り）
予備日（予定）: 2026 年 1 月 24 日（土）・25 日（日）</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般選抜前期日程</td><td>2026 年 2 月 5 日（木）</td><td>前日 4 日（水）から制限
翌日 6 日（金）5 号館の一部立入り制限有り</td></tr>
<tr><td rowspan="2">大学院Ⅱ期</td><td>一般</td><td rowspan="2">2026 年 2 月 25 日（水）</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>学内推薦</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般選抜後期日程</td><td rowspan="2">2026 年 3 月 5 日（木）</td><td rowspan="2">前日 4 日（水）から制限</td></tr>
<tr><td>編入学試験Ⅱ期</td><td>一般編入</td></tr>
</table>

東北文化学園大学における個人情報保護等に係る基本方針について

東北文化学園大学（以下「本学」という。）は、入学時及び在学中などに取得した個人情報が安全に管理されるよう、法令及び東北文化学園大学個人情報保護規程に基づき、以下のとおり基本方針（プライバシーポリシー）を定めています。この基本方針は、本学が取得した個人情報をどのような目的で取得し、どのように利用・共有するのか、また、ご自身に係る個人情報の管理について説明するものです。

東北文化学園大学における個人情報保護等に係る基本方針

1.　個人情報の取得

本学は、本学の入学志願者、入学予定者、学生、保護者・保証人、地域住民その他本学の教育研究活動に関連のある方々、等の個人情報の重要性に鑑み、取得する個人情報は、業務の遂行上必要な場合に限り、かつ、利用目的の範囲内で個人情報を取得します。取得にあたっては、個人情報保護法などの法令や東北文化学園大学個人情報保護規程等に基づき、適法かつ公正な手段によりこれを行います。

2.　個人情報を利用する業務

個人情報は、利用する業務の目的の範囲内のみで利用します。この範囲を超えて個人情報を利用させていただく場合には、事前にその目的及び利用範囲をお知らせし同意いただくものとします。 なお、個人情報を利用する業務は以下のとおりです。

（1）　教育指導上の個人情報の利用

- 学生生活全般に関する連絡（呼出掲示を含む）、手続きに関すること
- 学納金等諸納付金管理に伴う連絡・手続きに関すること
- 履修登録、授業試験運営、単位認定、進級卒業判定、学位記授与、学籍簿の管理その他学事に必要な連絡、手続きに関すること
- 学生の課外活動、ボランティア活動、福利厚生、健康管理、学生保険等の学生生活の支援及び指導助言に関すること
- 課外講座及び資格取得、検定試験受験等に関すること
- 各種証明書の交付に関すること
- 学友会活動に関すること
- 入学者の統計解析等に関すること
- 就職活動や進路選定活動等の支援に関すること
- 入試広報、調査あるいはアンケート活動等に関すること
- 高大接続、入学前教育に関すること
- 図書館サービス等に関すること
- 学内情報ネットワークの利用・管理・運営等に関すること
- その他の教育研究上の活動に関すること

（2）　卒業生の個人情報の利用

- 各種証明書発行等に関すること
- 図書館サービス等に関すること
- 在学学生就職活動支援に関すること
- 卒業生のデータベース管理に関すること
- 同窓会運営に関すること
- 各種統計解析、調査に関すること
- その他卒業生に対するサービスに関すること

（3）　保護者・保証人の個人情報の利用

- 各種案内、通知、依頼文書等発送に関すること
- 各種統計調査に関すること
- その他学生の修学及び学生生活上の支援等に関すること

（4）　地域連携事業の利用

- 大学公開講座、市民学習講座等に関すること
- 大学開放事業に関すること
- 社会貢献、ボランティア活動に関すること
- 図書館サービス等に関すること
- その他、地域連携事業に関すること

3.　利用する個人情報

（1）　在学生、卒業生、入学予定者、高校卒業予定者など本学を志願・利用する者に関する個人情報

氏名、所属、生年月日、性別、郵便番号・住所、電話番号、メールアドレス、学籍番号、学籍情報、課外活動情報、ボランティア活動情報、地域連携等活動情報、図書館利用情報、福利厚生・健康管理情報、学生保険・奨学金受給関連の情報、入試情報、志願者情報、高等学校学籍記録　等

（2）　保護者・保証人等に関する個人情報

氏名、住所、電話番号、奨学金受給関連の情報、公的機関の各種証明情報　等

（3）　地域住民・一般市民、企業等（地域連携事業、就職活動等）に関する個人情報

氏名、所属、性別、年齢、郵便番号・住所、職業、電話番号、メールアドレス、所属町内会、ボランティア依頼者の場合、所属、氏名、郵便番号・住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレス、所属先機関の URL、図書館利用情報　等

4.　データの共同利用

（1）　東北文化学園大学学友会

【共同利用の目的】

本学では正規の授業以外にも学生が主体的に企画立案する行事、スポーツ活動、文化芸術活動など、様々な自発的な活動が行われています。これらの活動を支援する全学的な組織が東北文化学園大学学友会です。学友会は、本学の教職員・学生で構成され、会員相互の交流と支援により、その運営が行われています。本学は、学生が主体的に行事やサークル活動等に参加し、その中で他者との関わりながら、豊かな人間性を身につけていくことを期待しています。東北文化学園大学学友会ではこのような活動のために個人情報を本学と共同利用します。

【利用する個人情報】

学生に関する個人情報のうち、氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、所属学部・学科・専攻、入学年月日、学籍番号、メールアドレス　等

（2）　東北文化学園大学同窓会

【共同利用の目的】

東北文化学園大学同窓会は、本学の卒業生を中心に構成されており、会員相互の親睦を図るとともに、本学の発展に寄与することを目的として、様々な同窓会活動を行っています。東北文化学園大学同窓会ではこのような活動のために個人情報を本学と共同利用します。

【利用する個人情報】

学生及び卒業生に関する個人情報のうち、氏名、生年月日、住所、電話番号、卒業学部、学科、専攻、入学年月日、卒業年月日、学籍番号、メールアドレス、保証人の氏名、住所、続柄、電話番号、卒業生に関する個人情報のうち、進路・進学情報　等

（3）　株式会社 TBG サービス

【共同利用の目的】

株式会社 TBG サービスは、学校法人東北文化学園大学が 100% 出資し設立された会社です。株式会社 TBG サービスは、学校法人の多方面にわたる関連業務を引き受け、その効率化とコスト削減に寄与するとともに、学生、保護者、保証人、教職員並びに地域の方々のニーズに応える様々なサービスを提供します。株式会社 TBG サービスはこのような活動のために個人情報を本学と共同利用します。

【利用する個人情報】

本学の学生及び入学予定者に関する個人情報のうち、氏名、生年月日、住所、電話番号、性別、受験番号、学籍番号、メールアドレス、保証人の氏名・住所　等

5.　個人データを安全に管理するための措置

本学は、個人情報を正確かつ最新の内容に保つよう努め、不正なアクセス、改ざん、漏えい・滅失及び毀損から保護するための予防措置及び安全対策を講じます。また、東北文化学園大学個人情報保護規程に基づき、個人情報の安全管理に関する定期的な点検を行います。

6.　個人情報の第三者への提供

本学では、法令及び政府のガイドライン等に別段の定めがある場合を除き、あらかじめ同意を得ることなく個人情報を第三者に提供することはありません。

7.　個人情報の開示等

本学では、個人情報の開示、訂正、利用停止、消去等の要望があったときは、所定の手続きにより本人確認をしたうえ、すみやかに対応します。

8.　Web サイトにおける扱い

本個人情報保護方針は、本学の公式 Web サイトを通じて、学生・保護者（保証人）その他本学を利用する方からご提供いただく個人情報についても適用します。

9.　個人情報をご提供いただけない場合

個人情報の一部または全部がご提供いただけない場合は、それに関連する本学のサービスの一部を利用できないことがあります。

10.　問合せ先

個人情報の問合せ等については、下記まで書面等にてご連絡ください。

〒 981-8551
仙台市青葉区国見 6 丁目 45-1
東北文化学園大学　大学事務局　庶務課

Ⅰ　学生生活案内（基本編）

TOHOKU BUNKA GAKUEN

1.　各種相談窓口案内

窓口受付時間【平日　8 : 40–17 : 00】

場所（号館・階）		担当窓口	主な取り扱い内容
1号館	1 階【学生総合サービスセンター】	教務課	各種証明書発行／授業・成績及び試験／履修登録／転学部・転学科／休退学等
		実習教育計画課	学外実習／国家試験等
		学生課	サークル・同好会関係・課外活動／通学証明書及び学割証明書発行／拾得・遺失物届／各種奨学金／学生保険等／ Student JOB
		庶務課	学部ゼミ活動及び大学院研究活動に伴う補助経費申請／ TA、学生アルバイト（SJ を除く）の報酬申請等
	1 階	総合情報センター	図書の貸出／ノート PC 貸出等
	地下　1 階	基礎教育センター（ラーニング･コモンズ E サポ）	コンサルティング＆コーチング（修学に関する相談、学習指導等）／ E サポセミナー等

窓口受付時間【平日　9 : 00–17 : 00】

場所（号館・階）		担当窓口	主な取り扱い内容
1号館	1 階	キャリアサポートセンター	就職活動支援／進路相談／求人紹介等
		地域連携センター	ボランティアに関すること
		学生相談室	学生生活全般に関する相談
		特別支援室	特別な配慮を必要とする学生への支援・相談
	2 階	保健室	健康相談／応急処置／禁煙相談等
5号館	1 階	管理課	施設管理／警備・防災に関すること
	1 階	アドミッションセンター	入試相談・入学願書受付に関すること／オープンキャンパス等の実施・広報に関すること
	1 階	経理課	授業料等納入に関すること

※ハラスメント相談窓口 : 学生部学生課、健康管理センター（保健室、学生相談室、特別支援室）等

2.　学生生活の基本

(1)　学生証

学生証は、東北文化学園大学の学生であることを証明するものなので、通学の際はもちろん常時携行してください。

また、学生証は定期試験の受験、図書館等本学施設の利用、学割その他各種証明書の申請及び通学定期券購入の際にも必要です。学生証の有効期間は、原則として４年間ですので、汚したり、紛失したりしないよう大切に取り扱ってください。

なお、退学等により学籍を失ったときは、直ちに返還しなければなりません。

1)　学籍番号：入学してから卒業するまで、各自固有の番号を使用します。

学籍番号は下記のように８桁で表示されています。

例）　５ ２５ １ １ ００１
　　Ａ　Ｂ　ＣＤ　Ｅ

Ａ：大学コード

Ｂ：入学年度　※西暦の下２桁で表示

Ｃ：所属学部
- 医療福祉学部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 経営法学部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 工学部／科学技術学部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 現代社会学部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ｄ：学科・専攻
- リハビリテーション学科
  - 理学療法学専攻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
  - 作業療法学専攻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 保健福祉学科
  - 保健福祉専攻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- リハビリテーション学科
  - 言語聴覚学専攻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
  - 視覚機能学専攻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- 看護学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- 現代社会学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 経営法学科／総合政策学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 知能情報システム学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 建築環境学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 臨床工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ｅ：学生番号
- 新入生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・001 ～
- 編入生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・301 ～
- 転学部等・再入学生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・401 ～
- 科目等履修生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・501 ～
- 研究生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・601 ～
- 受託生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・701 ～
- 聴講生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・801 ～
- 特別聴講学生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・901 ～

2)　紛失・汚損：学生証を紛失した場合は、悪用されるおそれがあるので、速やかに学生課に申し出て、所定の「学生証再発行願」を提出してください。また、汚損した場合は、汚損した学生証を持参して再発行の申請をしてください。

(2)　学内における連絡方法等

1)　WEB 上での連絡：

授業・試験等学修に関する事項をはじめ、学生生活上必要な連絡事項は、主に WEB によって連絡します。そのためのユーザー ID とパスワードを一人ひとりに配付します。アクセスの方法等は、p. 19「4. TBGU ポータルサイトについて」を参照してください。

2）　掲示板：

WEB 上での連絡の他、奨学金情報や学生生活上の注意喚起などは掲示によって周知を行うことがあります。登下校の際は必ず掲示板を確認してください。

＜医療福祉学部・現代社会学部・経営法学部・工学部／科学技術学部掲示板＞

なお、掲示や WEB 上での連絡を確認しなかったことによる不利益は、個人の責任となりますので、注意してください。

3）　授業欠席の連絡：

病気その他の事由により、授業を 7 日以上欠席する場合は、速やかに「欠席届」を教務課に提出してください。

公共交通機関の遅延、運休や忌引きなど、公認欠席対象の事由により、授業を欠席する場合は、教務課で「公認欠席」の手続きをとってください。（詳細は別頁「公認欠席の取扱いに関する申合せ」参照）

4）　郵便物：私的郵便物は取り扱いません。郵便物は必ず自宅の住所に郵送してください。

5）　電　話：私的電話の学生呼出しは、緊急時を除いては取り次ぎません。（家族の方も同様です。）

（3）　通学方法

1）　本学では、自動二輪車・自動車等での通学を禁止しています。公共交通機関、自転車、原付一種等の認められている通学手段を利用してください。

ただし、通常の交通手段による通学が困難な学生に対しては、自動車通学が認められる場合がありますので、学生課に相談してください。

2）　原付一種又は自転車で通学する場合は、学生課に届け出て許可証の交付を受けてください。

なお、所定の駐輪場（体育館裏）を利用してください。

3）　大学が認めていない手段により通学した学生に対しては、厳しい対応を行います。

4）　通学途中の交通事故によるケガの治療費は学生保険の対象となります。事故処理・応急処置等が一段落したら、速やかに学生課に連絡し「いつ」「どこで」「何が起きたか」等を報告してください。

なお、大学が認めていない通学手段で事故があった場合は、学生保険の対象とはなりませんので、保険金は支払われません。また、学生課に届け出がなく、許可証の交付をうけていない原付一種等で通学して事故にあったときも保険金が支払われない場合があります。

（詳細は別頁「学生保険について」参照）　【学生課☎ 022-233-6116】

（4）　学内での遺失・盗難について

学内での遺失、盗難、拾得については、学生課に届け出てください。

拾得物のうち、現金、貴重品は学生課で **1 週間**保管し、その間に申し出がなければ警察へ引渡します。それ以外の拾得物は学生課で保管し、**3 ヶ月**を経過した時点で処分します。

なお、貴重品については、常に携帯するようにし、盗難防止に努めてください。また、教科書や大切なものには、氏名等の記入を心掛けてください。

（5）　通学証明書について

1）　JR 及び仙台市営バス、地下鉄、宮城交通バスの通学定期乗車券を購入する際は、毎年度初めの購入時に「通学証明書」が必要となる場合があります。通学証明書が必要な学生は、必要とする日の 2 日前（土・日曜日・祝日・大学閉鎖期間を除く）までに「通学証明書発行願」を学生課へ提出してください。

【JR の場合】次回以降は、旧通学定期乗車券と学生証を提示することにより新たな通学定期乗車券を購入することができます。

【仙台市営バス、地下鉄の場合】次回以降は旧通学定期券と学生証を提示することにより新たな通学定期券を購入することができます。（有効期限は次年度の 4 月 30 日を越えないものに限る）

2）　実習用定期乗車券を購入する際は実習用の通学証明書が必要となりますので、実習教育計画課に申し出てください。

（6）　学割について

1）　学生旅客運賃割引制度は、修学上の経済的負担を軽減することを目的として、JR の乗車区間が片道 101 Km 以上の区間を学生が下記の目的で旅行する場合に限り、通常旅客運賃が 2 割引される制度です。

〔対象となる旅行目的〕

①休暇、所用による帰省

②実験実習及び試験などの正課の教育活動

③学校が認めた体育・文化に関する正課外の教育活動
④就職又は進学のための受験等
⑤学校が修学上、適当と認めた見学又は行事への参加
⑥傷病の治療、その他修学上、支障となる問題の処理
⑦保護者の旅行への随行

学割の有効期限は発行日から 3 ヶ月です。（但し、卒業年次生に関しては、卒業する年の 3 月 31 日が使用期限となります）

なお、本人以外が学割を使用することは禁じられています。

2）　学生旅行団体割引制度は、8 人以上の学生が課外活動等で本学教職員の引率のもと、同一行程を JR を利用し旅行する際に、学生団体割引（鉄道・連絡船が 5 割引、JR バスが 2 割引）が受けられる制度です。

申し込みを希望する場合は、駅、旅行センター及び旅行会社等に備え付けてある「団体（グループ）旅行申込書」に必要事項を記入の上、学生課に提出し「証明」を受けて、出発の 14 日前までに申し込んでください。

3.　大学キャンパスにおける禁止事項

(1)　全学禁煙について

本学はキャンパス構内全面禁煙です。学生の皆さんには、自らの健康維持のためだけでなく、非喫煙者の受動喫煙防止のためにも本学の禁煙推進活動に協力してください。

＜禁煙推進の取り組み＞

1）　キャンパス内の全面禁煙

学生・教職員はもとより、来学者を含めすべての方の喫煙を禁止しています。

2）　入学時の宣誓と禁煙励行に関する調査

①新入生には、禁煙に係る宣誓を求めます。（宣誓書の提出）
②学生の禁煙励行状況等について、全学生を対象とした調査を実施します。

3）　禁煙教育講習の実施

ガイダンス等を通じて、禁煙の社会的必要性、喫煙が身体に及ぼす健康被害等について、禁煙教育講習を実施します。

4）　健康管理センターによる禁煙支援

①健康管理センターに禁煙相談窓口を設け、禁煙したい学生を対象に禁煙支援を行います。
②禁煙治療が必要な学生については、医療機関を紹介します。

5）　違反学生に対する指導、処分の実施

違反学生には、学生課及び学科教員スチューデントアドバイザー（SA）からの厳重注意及び指導を行います。悪質な違反者は、懲戒規程に則した処分対象となる場合があります。

(2)　自家用車・自動二輪車等の乗り入れ

本学は、自家用車・自動二輪車等による通学を認めていません。また、サークル等の課外活動においても学内への車両乗り入れや駐車・駐輪は許可を受けた車両以外を禁止しています。

(3)　キャンパス内におけるスケートボード等、ボール運動等の規制について

キャンパス内でのスケートボード、それに準ずるものの使用は、事故防止のため、禁止されています。また、ボールを使う運動は屋上テニスコート前広場でのみ認められていますが、以下の注意を必ず守り、周囲に迷惑がかからないようにしてください。

1）　バットや硬式・準硬式ボール等は使用しない。
2）　多人数で場所を独占して行うボール遊びは行わない。
3）　隣接する車路部分、駐車場にボールが飛ばないように充分注意する。

その他、奇声を上げたり騒音を出すなど、授業及び自習学生の妨げになることは禁止されています。

なお、危険行為等により、施設を損壊した場合は自己責任で弁償することになります。

(4)　その他、学則違反について

上記以外であっても、学生の本分に反することをした場合は、学則に従い処分の対象となりますので注意してください。（学内での飲酒、迷惑行為等）

4.　TBGU ポータルサイトについて

本学に在籍する学生は大学が運営するポータルサイト（名称：TBGU ポータルサイト）を利用し、学内外からいつでも大学に関する情報を確認することができます。また、受講を希望する科目の登録を行う「履修登録」についても本ポータルサイトを利用して行います。履修登録方法についての詳細は P. 33 の「履修登録手続きについて」の内容を確認してください。

1）　TBGU ポータルサイトの主な機能

・WEB 上での履修登録
・個人の時間割・履修状況・成績（期間限定）の確認
・授業支援（講義予告等）
・大学からの各種お知らせ
・休講、補講及び教室変更等の授業に関する連絡
・奨学金説明会、就職支援ガイダンス等の開催に関する連絡

※　大学からの各種お知らせについては学内の掲示板も併せて確認してください。

2）　ログイン方法

①東北文化学園大学のホームページにアクセスします。（https://www.tbgu.ac.jp/）
② TBGU ポータルサイトのバナーをクリックします。
③ユーザー ID（＝学籍番号）とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。
※　初期パスワードは生年月日西暦 8 桁です。［（例）生年月日が 2005 年 4 月 27 日の場合：「20050427」］
不正アクセス防止のため、初回ログイン時に必ずパスワードを変更してください。

3）　利用方法

学内及び学外（自宅等）のパソコンやスマートフォン等からアクセス可能です。
アクセス方法：大学ホームページのトップ画面のバナーをクリックしてください。

5.　各種証明書・願書等について

（1）　取扱時間

各種証明書及び諸届等の取扱時間は、次のとおりです。
平　日　8：40～17：00（※月末最終営業日は 15：00 まで）

（2）　各種証明書

各種証明書は、その種類に応じて証明書自動発行機（1 号館 1 階）又は窓口で交付します。なお、窓口での受取り時には学生証の提示が必要です。

種別	取扱窓口	発行所要日数	手数料	備考
1.　在学証明書	証明書自動発行機	即時	100 円	
2.　卒業見込証明書			100 円	注①
3.　成績証明書			200 円	

種別	取扱窓口		発行所要日数	手数料	備考
4.　卒業証明書	証明書自動発行機		即時	200 円	
5.　健康診断証明書	証明書自動発行機		即時	100 円	
6.　学割証（学生旅客運賃割引証）				無料	
7.　学生証（再発行）	注②	学生課	2 日	1,000 円	（入学時交付）
8.　通学証明書		学生課	2 日	無料	
9.　推薦書		教務課	2 日	300 円	
10.　英文証明書		教務課	7 日	500 円	卒業又は成績証明書等
11.　仮学生証		教務課	即時	200 円	定期試験受験者心得参照
12.　再試験受験料		教務課	即時	1,000 円	試験規程参照

注①　卒業見込証明書は、4 年生を対象にその年度に卒業要件を満たす見込みのある学生にのみ 5 月上旬以降発行します。
注②　証明書自動発行機で申請書を発行（手数料納付を含む）し、必要事項を記入の上、窓口で申請してください。

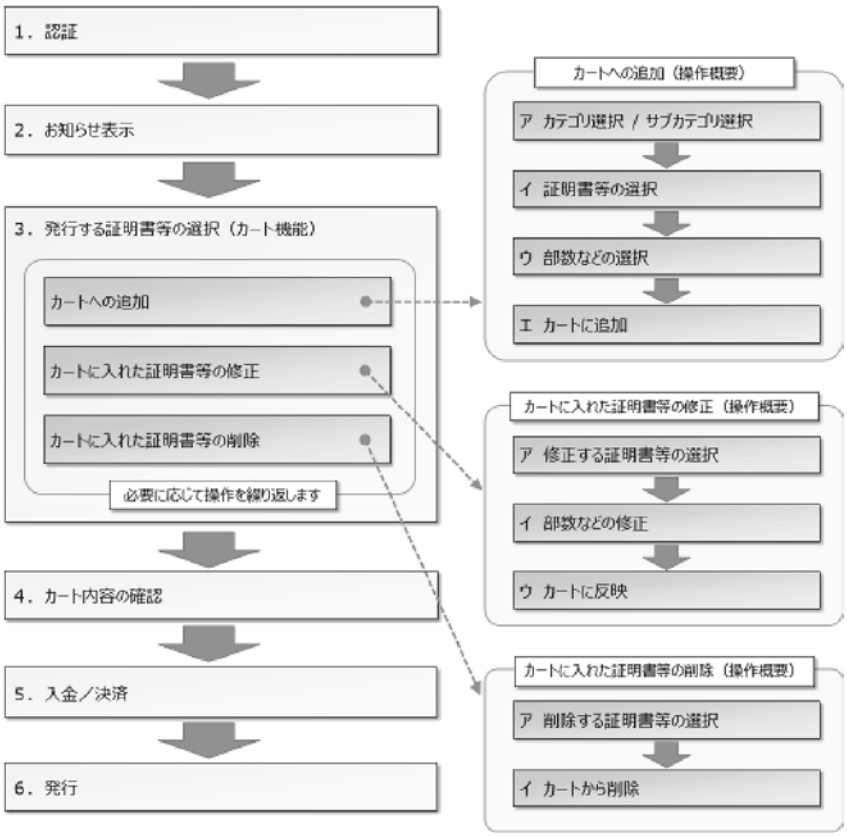
(3)　証明書自動発行機について

証明書自動発行機では、証明書を即日発行することができます。

○　証明書自動発行機で発行できる証明書

・在学証明書
・卒業見込証明書
・成績証明書
・卒業証明書
・健康診断証明書
・学割証（学生旅客運賃割引証）
・各種申請書

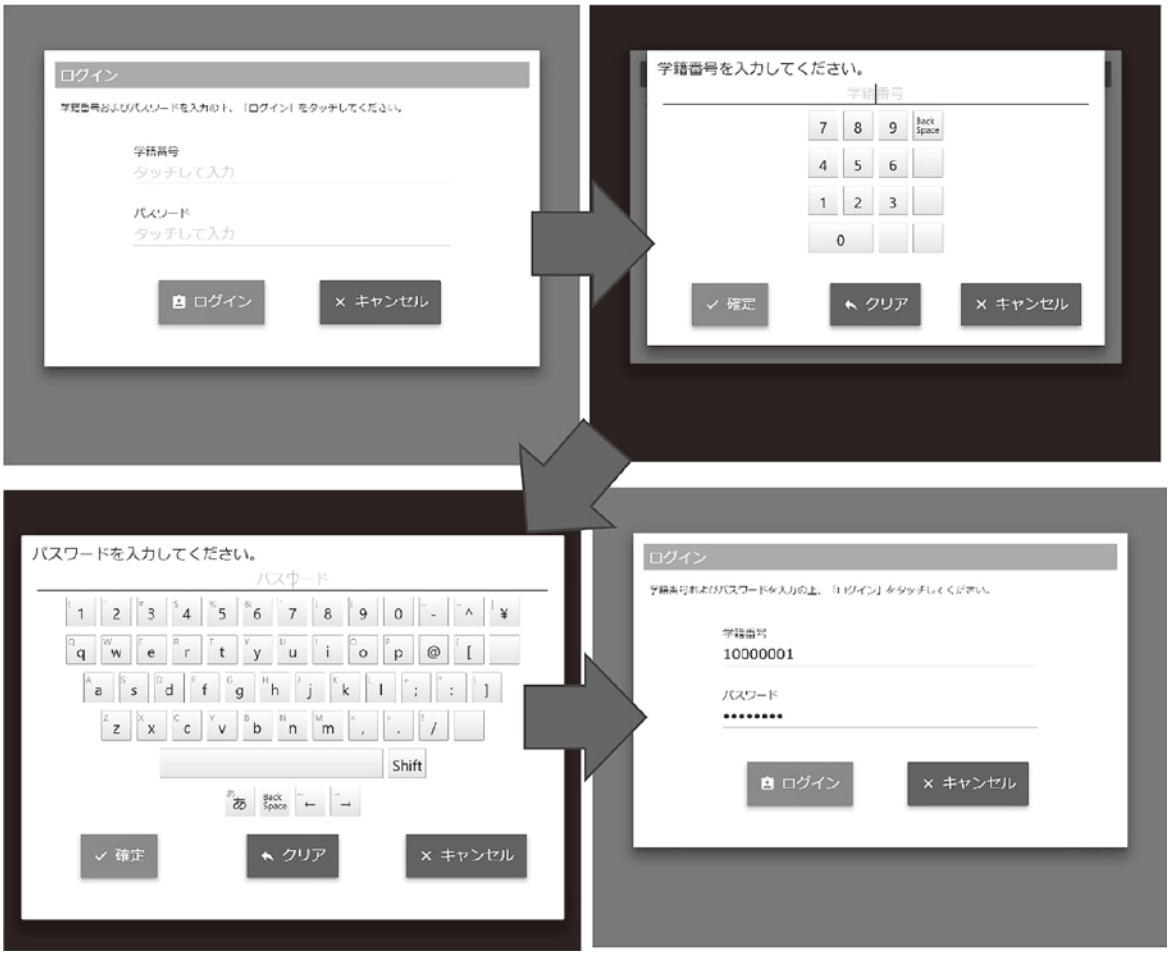
○　発行までの操作の流れ



1）　認証

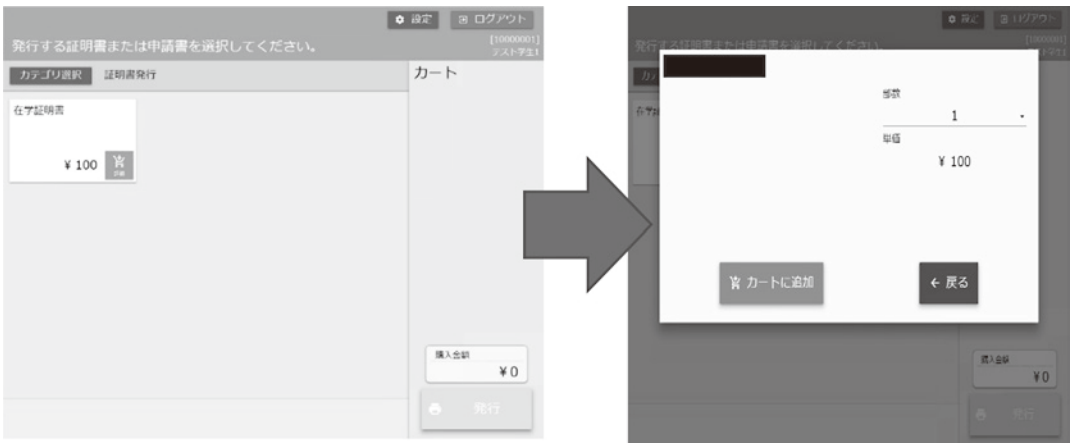
❶ 「在籍中の学生はこちらをタッチ」をタッチします。

❷ 指定の入力欄をタッチし、学籍番号及びパスワードを入力後、「ログイン」ボタンをタッチします。
（初期パスワードは生年月日西暦 8 桁となります。
例：生年月日が 2005 年 4 月 27 日の場合、「20050427」となります）
※パスワードはログイン後、「設定」メニューから変更できます。



2）　発行する証明書（カテゴリ）の選択について
選択可能なカテゴリが表示されますので、目的のカテゴリを選択し、タッチしてください。

❶　証明書発行及び各種申請
希望する証明書を選択後、必要部数を選択し、「カートに追加」をタッチしてください。
＜証明書発行＞
在学証明書、卒業見込証明書、成績証明書、卒業証明書、健康診断証明書



＜各種申請＞
発行する証明書または申請書を選択し、教務課窓口で申し込んでください。

❷　学割証発行

学割証の使用目的が表示されるので、該当する使用目的の「詳細」ボタンをタッチしてください。

①　部数：学生証の必要発行部数を選択してください。

②　カートへ追加：カート確認画面に遷移します。

③　戻る：１つ前の画面に戻ります。

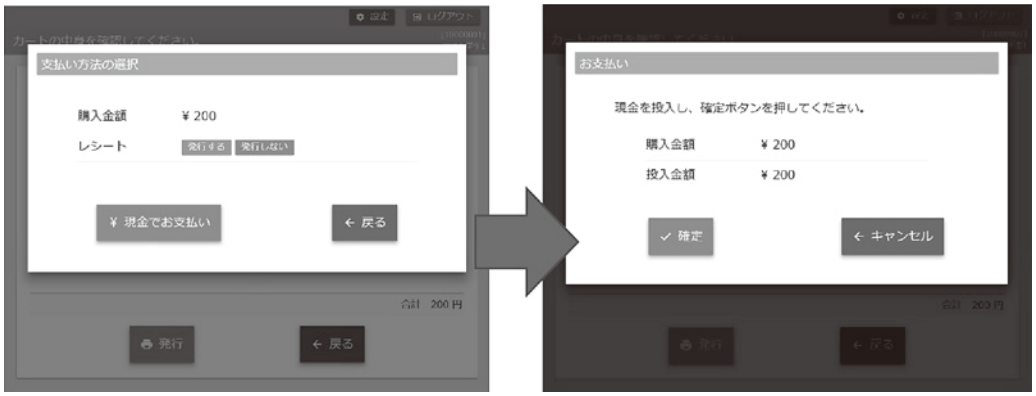
3）　カートに追加

「カートへ追加」ボタンをタッチすることで、追加した証明書等は、カート欄に表示されます。発行に進む場合は「発行」ボタンを押してください。「戻る」ボタンを押すと証明書等の選択画面に戻ります。

4）　発行手数料の納入

「支払方法の選択」画面で「現金でお支払い」ボタンをタッチし、必要な金額を入金した上で、「確定」ボタンをタッチください。

（レシートの発行を希望する場合は「発行する」ボタンををタッチしてください。）



5）　発行

発行された証明書等の取り出してください。取り出しが完了するとタイトル画面に遷移します。

(4)　願書・届出書等

1）　身上異動、授業関係

種　　別	担当窓口	備　　考
1.　公認欠席届	教務課	「公認欠席の取扱いに関する申合せ」に基づく理由で欠席する場合
2.　欠席届	教務課	授業を 7 日以上欠席する場合
3.　追試験願	教務課	病気等が理由の場合は診断書添付（詳しくは p. 361 参照）
4.　休学願	教務課	2 か月以上修学困難な場合
5.　復学願（届）	教務課	事由が発生した時
6.　留学願	教務課	事由が発生した時
7.　退学願	教務課	あらかじめ相談してください。
8.　届出事項変更届	学生課	本人の住所、氏名、電話番号、本籍地（国籍）、保護者及び保証人の住所、氏名、電話番号に変更のあった場合

2）　課外活動

種　　別	担当窓口	備　　考
1.　サークル承認申請書	学生課	—
2.　同好会承認申請書		—
3.　解散届		—
4.　休部届		—
5.　学外行事参加願		—
6.　学外行事実施報告書		—
7.　文書等掲示願		—
8.　施設等使用願		—

3）　その他問い合わせ先等

事　　項	問　い　合　わ　せ　先
1.　奨学金の申請手続等	学生課
2.　拾得物関係	学生課
3.　遺失物・盗難関係	学生課
4.　自転車・原付一種通学	学生課
5.　学生生活・進路等に関する相談	スチューデント・アドバイザー（SA）、学生相談室
6.　アルバイト情報	学生課
7.　サークル・同好会活動関係	学生課、入部申込は各サークル・同好会責任者へ
8.　ボランティア関係	地域連携センター
9.　履修方法・手続き関係	教務課
10.　大学行事等	教務課、学生課（※巻頭学事日程参照）
11.　定期試験時間割・受験心得	教務課、その都度掲示
12.　休講・補講関係	教務課、TBGU ポータルサイトで周知
13.　図書館	図書館カウンター
14.　就職関係	キャリアサポートセンター
15.　傷害保険の手続関係	学生課
16.　授業料等の納入（延納・分納）	経理課

6.　各種届出、身分異動等

（1）　本人の住所、氏名、電話番号、本籍地、保証人（保護者）の住所、氏名、電話番号等に変更のあった場合について

在学中、入学時に届け出た学生記録記載の本人及び保証人（保護者）に関する事項について、変更があった場合は、速やかに以下のとおり、学生課に届け出てください。

1）　本人の住所・電話番号、保証人（保護者）の住所・電話番号を変更する場合、「届出事項変更届」を提出してください。

2）　本人氏名、本籍地、保証人（保護者）氏名を変更する場合、「届出事項変更届」に公的な証明書（戸籍抄本等）を添付して提出してください。

※奨学金を借りている場合は、別途変更手続きが必要な場合があります。速やかに学生課で変更手続きについて相談してください。

（2）　学籍の異動

以下 1）～4）の学籍異動を願い出る場合は、手続きをする前に、必ず各自のスチューデントアドバイザー（SA）に相談してください。また、必ず保護者の承諾を得てから、教務課窓口に申し出て、所定の用紙を受取り、記入上の説明を受けてください。

なお、学籍異動を願い出る場合には、当該学期の授業料等が納付されていなければなりません。

1）　休学

疾病その他やむを得ない理由により、2 か月以上修学することが困難な場合は、「休学願」を教務課に提出し、学長の許可を得て休学することができます。休学できる期間は 1 年以内ですが、特別な事由がある場合は、1 年を限度に延長することができます。また、休学期間は、継続して 2 年、通算して 4 年を超えることはできません。そのため、休学期間が 4 年を超えて復学できない場合は、除籍になります。

なお、疾病による休学の場合は、休学願と併せて医師の診断書を提出してください。

また、休学の申請期限は、前期休学の場合は前年度の 3 月末日、後期休学の場合は当該年度の 9 月末日です。学期の途中で休学の事由が生じた場合は、速やかに申請してください。

※休学期間の授業料等の取扱いについては、p. 28「7. 授業料について（4）休学の場合の授業料等」を

参照してください。

2）　復学

休学期間が満了したときは「復学**届**」を提出して復学することができます。また休学期間の途中で、休学事由が消滅した時は、「復学**願**」を教務課に提出し、学長の許可を得て、復学することができます。復学理由が疾病の回復であれば、医師の診断書を提出してください。

3）　退学

疾病、進路変更、その他やむを得ない理由により退学しようとする場合は、「退学願」を教務課に提出し学長の許可を得なければなりません。

なお、学期の途中で退学した場合でも授業料等は返還しません。また、退学に関する手続きは期日に注意してください。（前期末で退学する場合は９月末日まで、後期末で退学する場合は３月末日までに退学届を提出してください。）

4）　留学

留学を志願する場合は、「留学願」を教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。また、留学先の大学で修得した単位は、その内容を審査した上で、60 単位を限度として、本学の卒業要件単位として認められ、留学した期間を修業年限に算入することができます。

5）　転学

他の大学へ入学又は転学を志願する場合は、所定の用紙を教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。

6）　再入学

本学を退学した後、再度入学を志願しようとする場合は、教務課に相談してください。当該学部の収容定員に余裕がある場合に限り、選考の上、相当年次に再入学を許可することがあります。

7）　転学部等（転学部・転学科・転専攻）

他の学部や学科又は専攻に、転学部等を志願する場合は、「転学部等志願書」を教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。

なお、転学部等が可能な時期は学年の初めであり、受入れ学部に欠員がある場合に限ります。

※別頁の「転学部又は転学科若しくは転専攻規程」を参照

（3）　除籍・賞罰

1）　除籍

学生が、次のいずれかの項目に該当する場合は、除籍になります。

①授業料等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

②在学年限を超えた者

③休学の期間を超えて、なお復学しない者

④死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者

2）　賞罰

①表彰

学生として表彰に値する行為があった者には、学長が表彰することがあります。

②懲戒

本学の学則その他の諸規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為を行った場合には、懲戒処分を受けることになります。

懲戒の種類は、訓告、謹慎、停学及び退学です。次のいずれかの項目に該当する場合には退学処分の対象となります。

ア）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

イ）　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

ウ）　正当な理由がなく、出席が常でない者

エ）　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

※別頁の本学学則及び懲戒規程等を参照

（4）　公認欠席について（特別な事由により授業を欠席した場合の手続き）

①概要

「東北文化学園大学の公認欠席の取扱いに関する申合せ」に定められた事由により、授業を欠席した場合、所定の手続きを行うことにより「公認欠席」の承認を得ることができます。欠席した授業につい

て、担当教員から補講又はレポート等の特別な配慮がなされます。

②申請手続き

「公認欠席」の申請をする場合は「公認欠席届」を指定の窓口で受け取り、以下の③の手続きを行ってください。欠席事由ごとに定められた「認定日数」「添付書類」「確認者等」「公認欠席届の受け取り窓口」「その他注意事項」については、以下の表を参照してください。

③手続きの流れ

（1）　欠席事由が解消し、通学可能となったら、指定の窓口で公認欠席届を受け取る。

（2）「作成例」にならい、公認欠席届に必要事項を記入の上、指定の添付書類を準備する。

（3）　作成した公認欠席届と添付書類を指定の確認者等に確認してもらい、押印をもらう。

（4）　通学が可能となった日から 1 週間以内に教務課又は学生課（「正課外活動への参加」が欠席事由の場合のみ）へ提出する。

※　授業を欠席する際の大学への事前連絡は不要ですが、教員から別途指示がある場合はそれに従ってください。

【欠席事由ごとの手続きに関する項目一覧】

欠席事由	認定日数	添付書類	確認者等	届の受取り窓口	その他注意事項
忌引	配偶者　7 日以内 1 親等　7 日以内 2 親等　3 日以内 3 親等　1 日以内	会葬御礼通知等	指導教員（スチューデント・アドバイザー含む）	教務部教務課	・認定日数は土日祝を含む連続した期間 ・法事は対象外
正課外活動への参加	大会等に出場する期間で、必要と認められる最小限度の日数		サークル顧問又は学生部長	学生部学生課	原則として、学外行事参加願いが事前に提出されているもの
就職活動	試験当日	日付、要件等が明記された書類及び就職試験報告書	指導教員（スチューデント・アドバイザー含む）及びキャリアサポートセンター	キャリアサポートセンター	
公共交通機関の運休・遅延	当日	運休証明書・遅延証明書	指導教員（スチューデント・アドバイザー含む）及び教務部教務課	教務部教務課	・証明書の裏面に学籍番号と氏名を記入すること ・自宅から大学までの通学区間のみ対象
罹災した場合	登校が可能となるまでの日数	罹災証明書又は被災証明書	指導教員（スチューデント・アドバイザー含む）及び教務部教務課	教務部教務課	自己都合によらない不可抗力の事故等が対象
規定の感染症罹患	健康管理センター保健室から指示された日数	※　医療機関が発行した診断書、又は登校許可証明書	健康管理センター所長又は保健室看護師	教務部教務課	・インフルエンザに限り薬剤情報提供文書等も添付する書類として認める ・インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症に限り、健康管理センター所長が認めた書類の提出、画像の提供その他の方法をもって添付する書類に代えることができる

※　登校許可証明書の書式については本学 HP の健康管理センター保健室のページからダウンロードできます。

【公認欠席届の作成例と注意事項】

作成例

公　認　欠　席　届

提出日：　2024　年　2　月　1　日

担　当　教　員　殿

届出者	所　属	医療福祉　学部	看護　学科	専攻	学年	1　年
	氏　名	文化　太郎	学籍番号	5 2 3 1 8 9 9 9		

1.　欠席期間及び事由

欠席期間	※1　2024　年　1　月　30　日　～　2024　年　1　月　31　日
事由 （該当事由に☑）	☑ 忌引（続柄　：　祖母　）　☐ 正課外活動への参加　☐ 就職試験 ☐ 公共交通機関の運休・遅延　☐ 罹災した場合 ☐ 学校保健安全法施行規則第 18 条に規定する感染症罹患
事由の詳細	祖母の死去のため

2.　欠席した授業の詳細

科目名	担当教員名	曜日時限	欠席した月日		
英語	東北二郎	火曜　1　限	1／30	／	／
経済学	仙台三郎	※2　水曜 12　限	1／31	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／
		曜　限	／	／	／

※ 事由が解消後、1 週間以内に提出すること。
※ 同一科目の授業を同一日に複数時限で行う場合は 1 行にまとめて記入すること。

確認者（SA）	※3	㊞
確認者（関係部局）	※3	㊞

【授業担当の先生へ】

公認欠席の取扱いに関する申合せに基づき、適切な対応をお願いします。

教務課処理欄		
教員通知日	受付	
	／	

※ 1　「欠席期間」には授業を欠席した期間を記入し、「欠席した月日」と一致させること。
※ 2　同一日に複数時限で実施した授業を欠席した場合は 1 行にまとめて記入すること。
※ 3　提出前に「欠席事由ごとの手続きに関する項目一覧」で指定された確認者等の記名・押印を得ること。（ただし、教務課を除く）

7.　授業料について

(1)　授業料等納付金額

本学に在籍する学生は、下表の授業料等（年額）を納付しなければなりません。

納付を怠り、督促してもなお納付に応じない場合は、学則第 40 条第 1 項により除籍になり、その場合は、学生としての一切の資格を失います。

経理課から督促があった場合は、速やかに経理課へ連絡してください。

（連絡先：経理課　022-233-3055）

〈2021 ～ 2025 年度入学生〉

授業料等納付金（年額）　（単位：円）

区　分		医療福祉学部		現代社会学部	経営法学部	工学部		
		リハビリテーション学科	看護学科	現代社会学科	経営法学科	知能情報システム学科	建築環境学科	臨床工学科
授　業　料		1,000,000	1,000,000	760,000	760,000	950,000	950,000	950,000
施設設備費		400,000	400,000	250,000	250,000	250,000	250,000	300,000
教育充実費	1 年次	―	―	100,000	18,000	―	―	―
	2 年次	―	―	100,000	98,000	―	―	―
	3 年次	―	―	100,000	98,000	―	―	―
	4 年次	―	―	100,000	98,000	―	―	―
実験実習費	1 年次	210,000	210,000	―	―	110,000	110,000	160,000
	2 年次	350,000	350,000	90,000*1	―	250,000	250,000	300,000
	3 年次	350,000	350,000	90,000*1	―	250,000	250,000	300,000
	4 年次	350,000	350,000	90,000*1	―	250,000	250,000	300,000

*1 社会福祉学専攻のみ徴収

〈2019・2020 年度入学生〉

授業料等納付金（年額）　（単位：円）

区　分		医療福祉学部			総合政策学部	科学技術学部		
		リハビリテーション学科	看護学科	保健福祉学科	総合政策学科	知能情報システム学科	建築環境学科	臨床工学科
授　業　料		1,000,000	1,000,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000
施設設備費		400,000	400,000	300,000	300,000	300,000	300,000	400,000
実験実習費	1 年次	150,000	150,000	140,000	0	150,000	150,000	150,000
	2 年次	350,000	350,000	220,000	100,000	350,000	350,000	350,000
	3 年次	350,000	350,000	220,000	150,000	350,000	350,000	350,000
	4 年次	350,000	350,000	220,000	150,000	350,000	350,000	350,000

(2)　授業料等の納付期限

授業料・施設設備費及び実験実習費（以下「授業料等」という）は、次の 2 期に分けて年額の 2 分の 1 に相当する額を、それぞれの納付期限までに納付してください。

・前期　納付期限：　4 月末日
・後期　納付期限：10 月末日

(3)　退学及び除籍の場合の授業料等

学期の途中で退学を願い出る場合又は除籍された学生は、学則第 52 条により当該期の授業料等を納付しなければなりません。

(4)　休学の場合の授業料等

1)　学期の全期間を休学する場合

休学が許可された期間の授業料等は免除されます。ただし、2022 年度以降の入学者については、在

籍料（各学期 10,000 円）を納付しなければなりません。

2）　学期の途中で休学する場合

当該期の授業料等を納付しなければなりません。

（5）　復学の場合の授業料等

学期の途中に復学した学生は、復学した月から当該学期末までの授業料等を復学した月に納付してください。

（6）　学年の途中で卒業する場合の授業料等

学年の途中で卒業する学生は、卒業する学期までの授業料等を納付してください。

（7）　授業料等の延納・分納

授業料等負担者が経済的理由等により、納付期限までに納入できない場合には、授業料等の延納・分納を規程により申請することができます。申請方法等については、経理課に問い合わせてください。

（8）　納付した授業料等

既に納付した授業料等はいかなる事情があっても返還しません。

Ⅱ 修 学 案 内

TOHOKU BUNKA GAKUEN

1.　授業科目の履修について

本学に入学した学生は、「学則」、「履修規程」にしたがって学修し、所定の単位を修得しなければなりません。履修登録の誤りは、その後の履修、卒業に直接影響しますので、学則、履修規程、授業時間割、シラバス等を熟読し、各自履修計画を立ててください。

(1)　修業年限・在学期間

修業年限は、4年です。また、学生は8年を超えて在学することはできません。

(2)　学期

学年を分けて、次の2学期制とします。

ただし、授業開始日は学事日程により別途決定します。

前期：　4月1日から9月30日まで

後期：10月1日から3月31日まで

※前・後期の授業開始日は年度によって変更になることがあります。特に後期授業開始日は、授業回数確保のため、例年9月中旬となっていますので、学事日程を確認してください。

(3)　単位制

「単位」は、学修の量を示す基準で、個々の授業科目について所定の授業時間数を履修し、試験に合格することにより、単位が与えられるもので、所定の単位修得をもって卒業要件としています。

(4)　単位の計算方法

次の基準により単位数を計算します。

・講義：15時間の授業をもって1単位とする。

・演習：15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

・実験、実習、実技：30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

(5)　授業科目の種類

授業科目は、基礎科目、専門基礎科目、専門科目などの科目群から構成されています。

また、必修科目、選択科目、自由科目の別があります。

・必　修　科　目：必ず単位を修得しなければならない授業科目です。すべての必修科目の単位を修得しないと卒業することはできません。

・選　択　科　目：自主的に選択履修する授業科目です。ただし、選択科目でも、学科が定めた必要単位数以上の単位を修得しないと卒業することはできません。

・自　由　科　目：選択授業科目の中で、所属学科のカリキュラムに無い科目や卒業要件単位に読み替えできない科目は自由科目となります。

（科目群の一例）

・基　礎　科　目：専門教育の基礎となる科目であるとともに、幅広い視野や豊かな人間性を養成する授業科目。

・専門基礎科目：専門科目に直結する基礎的知識、技術を習得する授業科目。

・専　門　科　目：各学科の分野に特化した専門的理論、実践知識、高度な専門技術を習得する授業科目。

その他にも資格関係等、各学部学科独自の科目群がありますので、カリキュラムを参考にしてください。

(6)　ナンバリングについて

本学は教育課程（カリキュラム）に「科目ナンバリング」の仕組みを導入しています。科目ナンバリングとは、科目ごとに学修の段階や順序等を表す番号を付けることです。科目ナンバリングは、カリキュラムを「入学から卒業までの学修体系」として分かり易く表現するとともに、各科目がカリキュラムのどこに位置するのかを明示します。

【コードの構造】

①学種－②学科・専攻－③科目区分―④科目難易度―⑤カリキュラム年度－⑥科目ナンバー

（例）総合政策学科「哲学（基礎科目）」の場合

1　－　08　－　01　－　1　―　14　－　001

①学種

1：大学

2：大学院　博士課程前期2年の課程

3：大学院　博士課程後期3年の課程

②学科・専攻

大　学　01：リハビリテーション学科理学療法学専攻
　　02：リハビリテーション学科作業療法学専攻
　　03：リハビリテーション学科言語聴覚学専攻
　　04：リハビリテーション学科視覚機能学専攻
　　05：看護学科
　　06：保健福祉学科保健福祉専攻
　　07：経営法学科/総合政策学科
　　08：知能情報システム学科
　　09：建築環境学科
　　10：臨床工学科
　　11：現代社会学科

大学院　（博士課程前期 2 年の課程及び後期 3 年の課程）
　　01：大学院健康社会システム研究科健康福祉専攻
　　02：大学院健康社会システム研究科生活環境情報専攻

③科目区分

01：全学共通の教養科目
02：基礎科目
03：専門基礎科目
04：専門科目
05：選択必修科目（言語聴覚学専攻）
06：統合科目（看護学科）
07：研修科目（科学技術学部）
08：共通科目（大学院）
09：学際領域科目（大学院）

④科目難易度（それぞれの学種（大学、大学院）ごとに設定する）

1：基礎的・教養的科目
2：基盤となる科目
3：応用的な科目
4：専門性の高い科目

⑤カリキュラム年度（西暦の下二桁）

⑥科目ナンバー：下三桁を科目ナンバーとして使用する。

(7)　授業時間

授業の開始時刻及び終了時刻は、次のとおりです。ただし、授業科目によっては別に指定することがあります。

時限	授業時間帯	時間
1 時限	8：50 ～ 10：30	（100 分）
2 時限	10：40 ～ 12：20	（100 分）
昼休み（12：20 ～ 13：10）		
3 時限	13：10 ～ 14：50	（100 分）
4 時限	15：00 ～ 16：40	（100 分）
5 時限	16：50 ～ 18：30	（100 分）

※事情の都合により、授業時間が変更される場合があります。その場合は掲示、TBGU ポータルサイト等で連絡します。

※土曜日は、原則として授業は行いませんが、集中講義や補講、実習等を行うことがあります。

(8)　休講・補講・集中講義

・休　　講：授業担当教員の諸事情（公務、出張、病気等）により、授業を行わない場合があります。
・補　　講：休講となった授業に対しては、原則として補講を行います。

・集中講義：科目によっては、ある一定期間に集中して講義を行うことがあります。

【注 意】
1. 「休講」・「補講」・「教室変更」・「時間割変更」は TBGU ポータルサイトで連絡します。「定期試験」・「授業に関する重要な情報」はすべて掲示、TBGU ポータルサイトで連絡します。登下校の際には、必ず学部掲示板を確認してください。
2. 掲示板を確認せずに、不利益を被った場合は、自己責任となります。
3. 掲示内容に関する電話等による確認、問い合わせには一切お答えできません。

2.　履修登録手続きについて

(1)　履修登録

授業を履修して、単位を修得するためには、所定の期間内に、当該学期に開講する授業科目の履修登録手続きを行わなければなりません。本学では、TBGU ポータルサイト上で履修登録を行います。この履修登録を怠ると、授業や試験を受けることができませんので、慎重に手続きを行ってください。履修登録期間中であれば、何度でも変更することが可能です。

(2)　履修登録単位数の上限（キャップ（CAP）制）について

本学では、履修登録単位数の上限（キャップ（CAP）制）を設けています。CAP 制は、学生が学修すべき授業科目を精選し、1 単位当たり必要な学修時間（45 時間）を確保することで授業内容を深く理解し身につけることを目的に（単位の実質化）、1 年間又は 1 学期間に履修登録できる単位数の上限を設ける制度です。

学生は各年次にわたって適切に履修することで学修の質を向上させることができます。

1 年間で履修登録できる単位数の上限等は、別頁の各学部学科の細則を確認してください。

(3)　登録上の注意事項

1）　病気等により履修登録期間内に履修手続きができない場合は、必ず事前に教務課に連絡し、指示を受けてください。
2）　履修登録を行う際は、所属学科の履修ガイダンスに従い、授業時間割、授業概要等を参照しながら 4 年間の履修計画を立てて履修するよう心がけてください。
3）　時間割上、同じ時間帯に複数の授業を履修することはできません。（隔週開講の授業を除く）
4）　履修登録者数が適正履修人数を超えた場合には、履修人員を制限することがあります。
5）　履修登録者数が極端に少ない場合は、その授業を開講しない場合があります。なお、履修した科目が開講されなかった場合は、代替の授業科目を追加登録することができます。
6）　自分の学年より下の年次に開講される授業科目については、配当年次にかかわらず、履修登録することができます。ただし、所属する学年次に配当される必修科目と重複しないように十分注意してください。また、選択科目であっても、時間割の都合上、必ずしも次年度以降に履修できるとは限りませんので、自分が所属する学年に配当されている科目を優先に履修するようにしてください。

(4)　履修登録の修正（取消し、追加）

やむを得ない事由により履修登録の内容を変更する場合は、履修登録修正期間に TBGU ポータルサイト上で、履修登録内容の修正（取消し、追加）を行うことができます。

ただし、履修登録修正期間までには、授業開始からすでに数回授業が終了していますので、安易な科目の追加は行わないようにしてください。（出席していない授業を追加登録した場合、終了した授業については欠席として取扱われます。）

(5)　再履修

不合格になった授業科目については、次年度以降に再履修することができます。

ただし、再履修の科目が他の必修科目と時間割上重複した場合等、二重履修はできませんので、履修した科目は確実に修得するよう心がけてください。

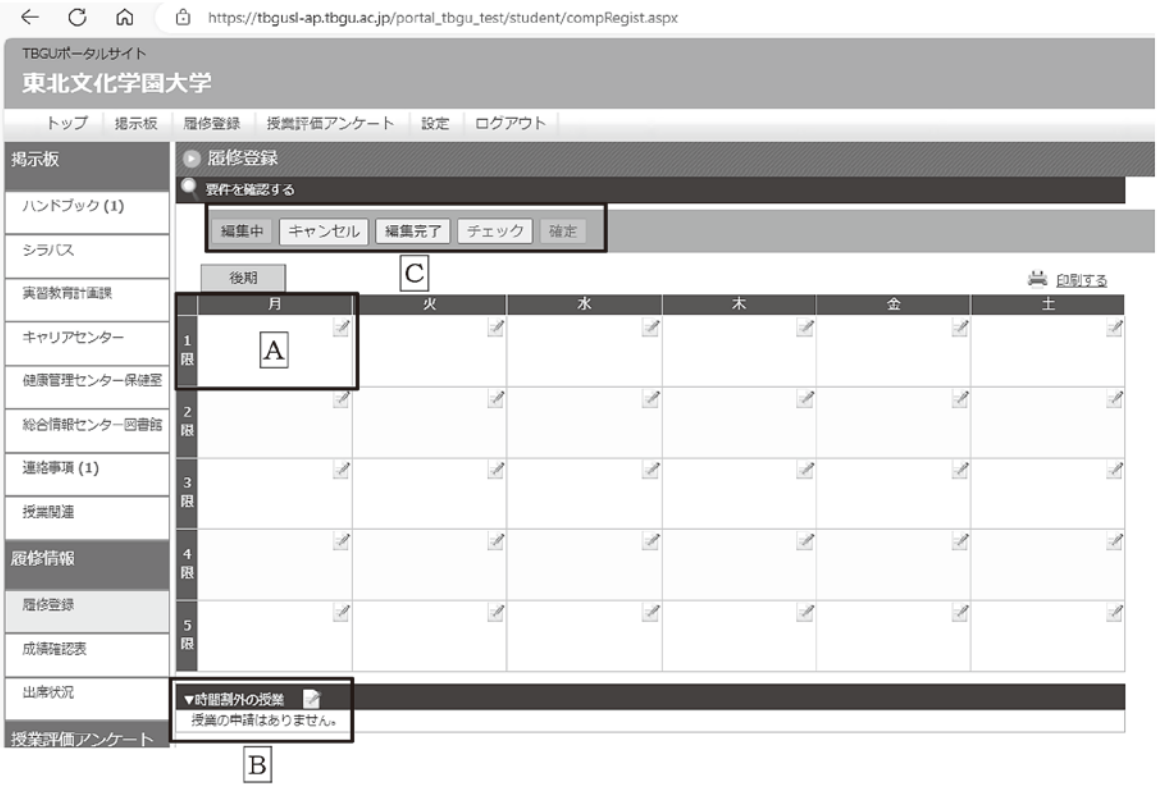
(6)　履修登録の方法（PC 版サイト・モバイル版サイト共通）

※ TBGU ポータルサイトへのログイン方法に関しては、P. 19 ページを参照してください。

以下のような画面になります

次ページへ

【履修登録画面の説明】



A

マス目内のアイコンをクリックし、
対象科目の選択を行います。

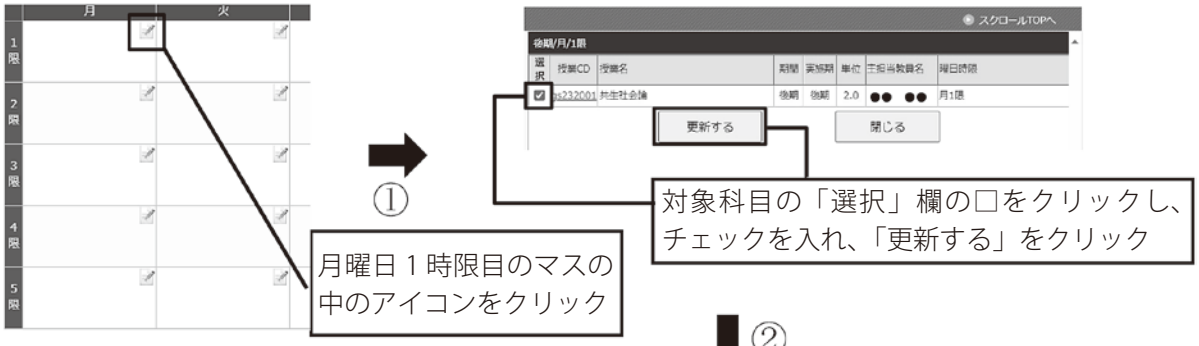
B

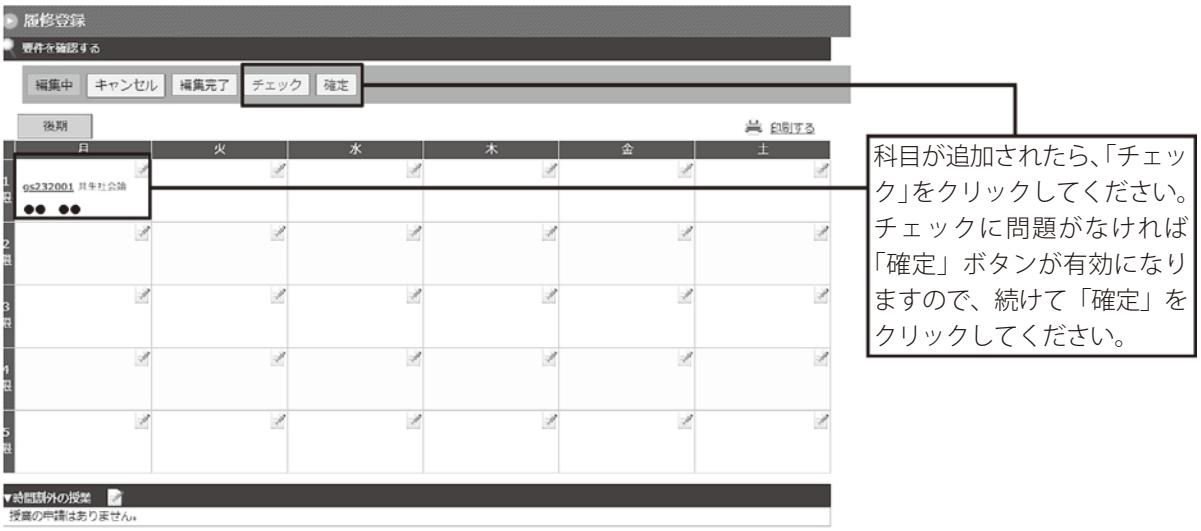
時間割表の欄外に設定されている科目（主に集中科目や実習科目等）について選択ができます。
Aの場合と同様にアイコンをクリックし、科目の選択を行います。

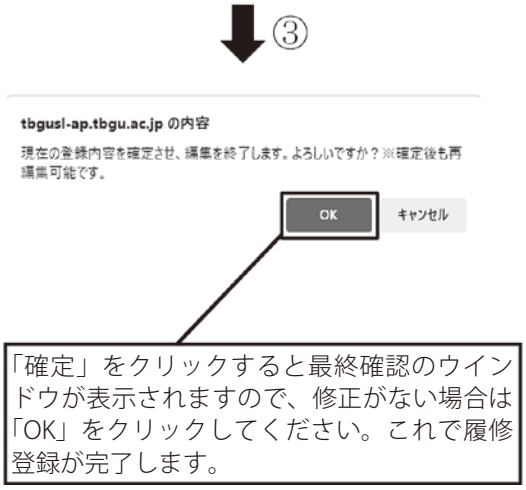
C

A及びBで対象科目を選択後、「チェック」をクリックし、エラーチェックを行ってください。チェックに問題がなければ、「確定」ボタンが有効になりますので、必ずクリックして履修登録は完了をしてください。クリックを忘れた場合、履修登録は未完了となりますので、注意してください。

【履修登録操作の例】
履修登録を行う場合は、以下の例を参考に操作を行ってください。
例：月曜日　1時限の「共生社会論」の履修登録を行います。

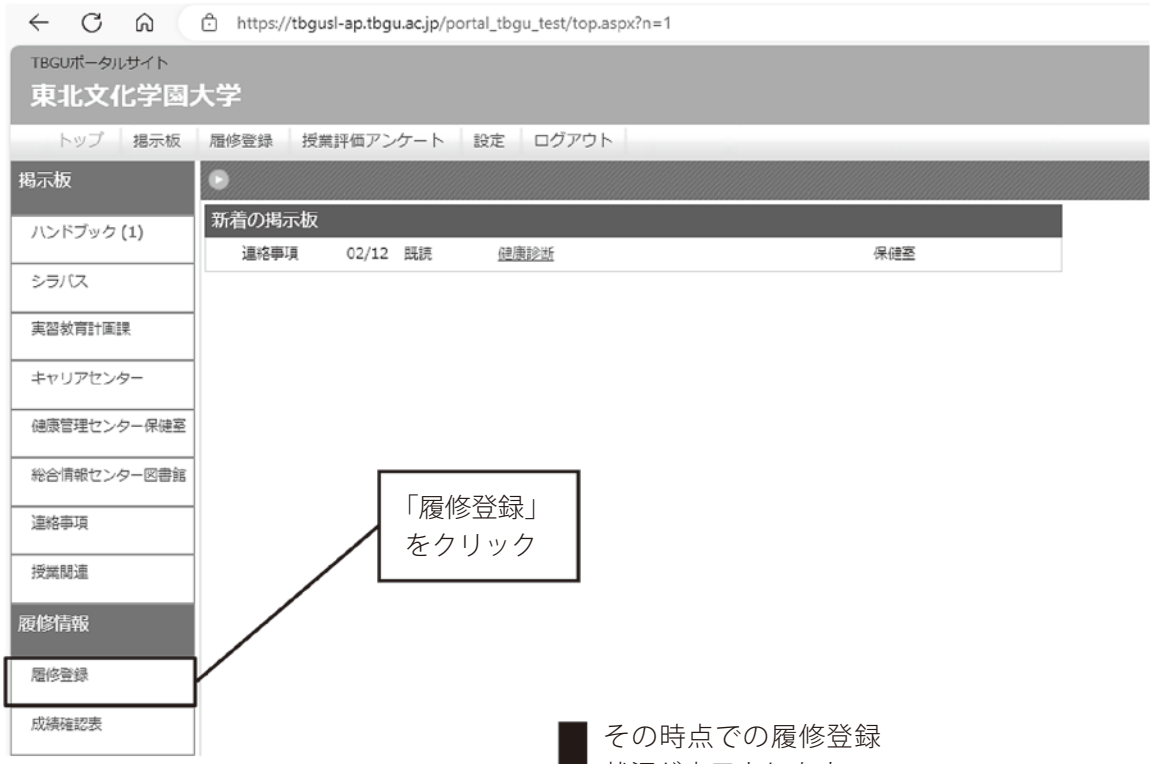






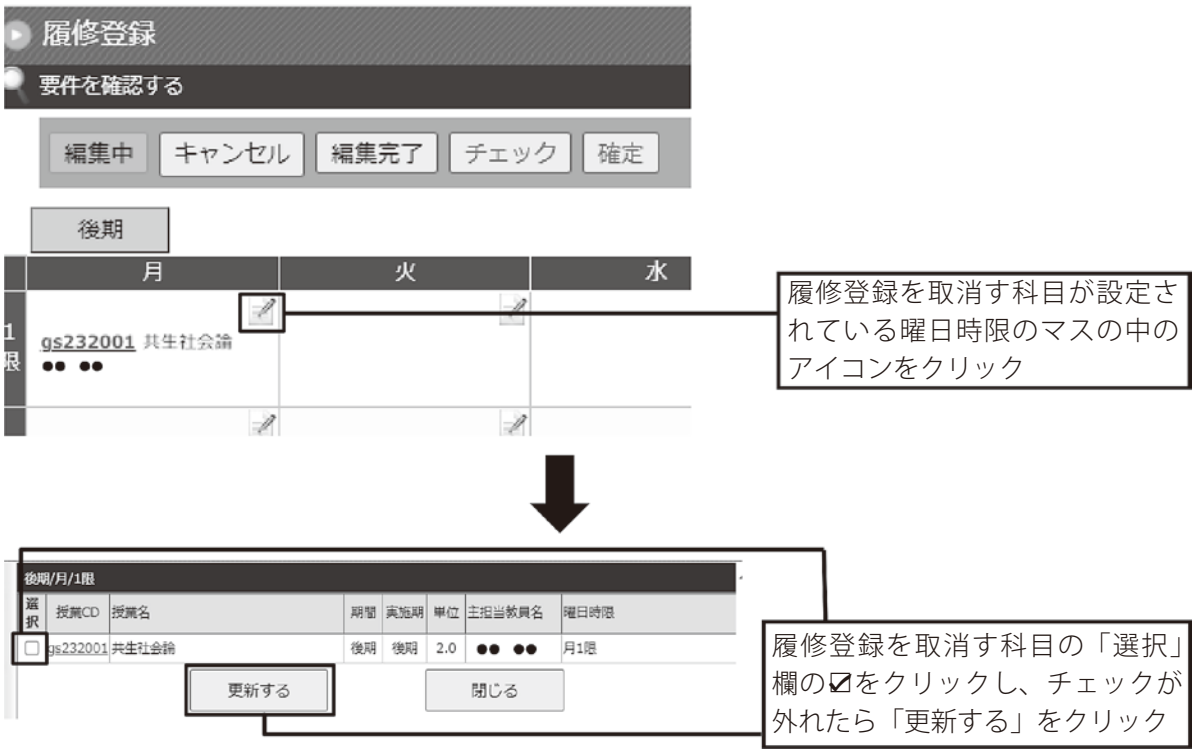
チェック時にエラーがある場合は上記のようにエラーの詳細を示すメッセージが表示されます。エラーを解消した上で再度「チェック」及び「確定」をクリックしてください。

【履修登録の取消し操作の例】
履修登録を行った科目の取消しをする場合は、以下の例を参考に操作を行ってください。
例：月曜日　1時限の「共生社会論」の履修登録取消しを行います。



その時点での履修登録
状況が表示されます

次ページへ



※　履修登録画面から科目の表示が消えたことを確認したら､「登録」の場合と同様に「チェック」と「確定」を行ってください。

「チェック」及び「確定」を行うと「履修登録の取消し」が完了します。

【履修登録に関する注意点】

・毎年、履修登録期間終了後に「履修登録を忘れた」「履修登録漏れがありました」という相談が教務課窓口にありますが、**原則として、期間外の履修登録はできません。**ご自身の成績や卒業・進級に影響がないように「登録したつもり」で終了せず、**必ず確認を行ってください。**

・スマートフォンで履修登録を行う場合も PC 版の説明を参考にしてください。

・「他学部等開設授業科目」の履修登録については別途掲示等で連絡します。

・その他、履修登録に関する不明点等は履修登録期間内に教務課窓口にお問い合わせください。

3.　他学部履修について

(1)　概要

他学部履修とは、専門領域にとらわれない幅広い分野の中から、目的や興味に応じた学修を通して、より幅広い知識を修得することを目的として、他学科・他専攻において開放されている授業科目を履修することです。

なお、他学部履修で修得した単位については、学科・専攻により卒業に必要な単位として認定される場合があります。他学部履修を希望する場合は、以下の内容を確認して、所定の手続きを行ってください。

(2)　他学部履修対象科目

2025 年度以降入学者対象

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
リハビリテーション学科（理学療法学専攻）	医療のための基礎数学	1 前	2
	現代国語表現	1 前	2
	解剖学 I	1 前	2
	生理学 I	1 前	2
	理学療法学概論	1 前	2
	理学療法学基礎演習 I	1 前	1
	解剖学 II	1 後	2
	生理学 II	1 後	2
	臨床医学総論	1 後	2
	理学療法学基礎演習 II	1 後	1
	救命救急学演習	2 後	1
	統計解析	4 前	1
リハビリテーション学科（作業療法学専攻）	作業療法概論	1 前	2
	基礎作業学	1 前	1
リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）	言語聴覚障害学総論	1 前	2
リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）	眼の解剖としくみ I	1 前	1
	生活の中の視覚	1 前	1
	生理光学 I	1 前	1
	基礎眼光学	1 前	1
	眼の解剖としくみ II	1 後	1
	生理光学 II	1 後	1
	ロービジョン学 I	2 後	1
看護学科	成人看護学概論	1 後	1
	老年看護学概論	2 前	1
	地域・在宅看護学概論	2 後	1
現代社会学科	夏季野外活動実習	1 前	1
	アダプテッド・スポーツ基礎実習	1 前	1
	現代社会と人間	1 前	2
	文化人類学	1 前	2
	現代社会と福祉	1 前	2
	心理学と心理的支援	1 前	2
	社会学と社会システム	1 前	2
	冬季野外活動実習	1 後	1
	アダプテッド・スポーツ論	1 後	2
	レクリエーション理論	1 後	2
	社会福祉政策	1 後	2
	社会学史	1 後	2
	生涯発達心理学	2 前	2
	社会保障 I	2 前	2
	レクリエーション実技 I	2 前	1
	健康心理学	2 後	2
	社会保障 II	2 後	2
	レクリエーション実技 II	2 後	1
	レクリエーション現場実習	2 通	1
	社会心理学	3 前	2
	地域社会健康論	3 前	2
	コミュニティ心理学	3 後	2
	地域社会健康演習	3 後	2
現代社会学科（社会学専攻）	労働と社会	2 前	2
	情報技術と社会	2 前	2
	スポーツと社会	2 前	2
	地域文化論	2 前	2
	メディア社会論	2 後	2
	家族社会学	2 後	2
	都市社会学	2 後	2
現代社会学科（社会福祉学専攻）	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	2 前	2

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
現代社会学科（社会福祉学専攻）	ソーシャルワークの理論と方法 I	2 前	2
	障害者福祉	2 前	2
	児童・家庭福祉	2 前	2
	高齢者福祉	2 前	2
	ソーシャルワークの理論と方法 II	2 後	2
	地域福祉と包括的支援体制 I	2 後	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職 II	2 後	2
	障害者支援論	2 後	2
	児童・家庭支援論	2 後	2
	高齢者支援論	2 後	2
経営法学科	経営学概論	1 前	2
	経営・経済事情	1 前	2
	統計・数理入門	1 前	2
	マーケティング論	1 後	2
	ミクロ経済学	1 後	2
	簿記論 I	1 後	4
	民法総則	1 後	2
	経営・経済のための数学	1 後	2
	経営戦略論	2 前	2
	マクロ経済学	2 前	2
	簿記論 II	2 前	2
	契約法	2 前	2
	物権法	2 前	2
	刑法	2 前	2
	統計学	2 前	2
	英語コミュニケーションIII	2 前	1
	フィールドワーク英語 I	2 前	1
	中国語コミュニケーションIII	2 前	1
	韓国語コミュニケーションIII	2 前	1
	流通論	2 前	2
	中小企業論	2 前	2
	マーケティング戦略論	2 前	2
	財務会計 I	2 前	2
	簿記論 III	2 後	2
	英語コミュニケーションIV	2 後	1
	フィールドワーク英語 II	2 後	1
	中国語コミュニケーションIV	2 後	1
	韓国語コミュニケーションIV	2 後	1
	経営組織論	2 後	2
	経営史	2 後	2
	マーケティングリサーチ	2 後	2
	ファイナンシャル・プランニング（FP）論	2 後	2
	財務会計 II	2 後	2
	金融論	2 後	2
	財政学	2 後	2
	不法行為法	2 後	2
	家族法	2 後	2
	消費者法	2 後	2
	組織行動論	3 前	2
	ビジネスケース分析	3 前	2
	グローバルマーケティング	3 前	2
	管理会計	3 前	2
	国際経済学	3 前	2
	会社法	3 前	2
	不動産法	3 前	2
	行政法総論	3 前	2
	経済法	3 前	2

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
経営法学科	国際取引法	3 前	2
	医療福祉経済論	3 前	2
	地域医療マネジメントⅠ	3 前	2
	社会保障論	3 前	2
	韓国研究	3 前	2
	経営情報論	3 後	2
	アントレプレナーシップ論	3 後	2
	消費者行動入門	3 後	2
	コーポレイト・ファイナンス論	3 後	2
	地域経済論	3 後	2
	労働法	3 後	2
	知的財産権法	3 後	2
	行政救済法	3 後	2
	民事手続法	3 後	2
	行政学	3 後	2
	医療政策論	3 後	2
	地域医療マネジメントⅡ	3 後	2
	多文化共生論	3 後	2
	中国研究	3 後	2
	アメリカ研究	3 後	2
知能情報システム学科	プログラミング方法論Ⅰ	1 後	2
	プログラミング方法論Ⅱ	2 前	2
	電子工学概論	2 前	2
	コンピュータネットワーク	2 前	2
	人工知能Ⅰ	2 前	2
	オブジェクト指向プログラミング	2 後	2
	ロボット工学	2 後	2
	マルチメディア工学	2 後	2
	ソフトウェア工学	3 後	2

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
建築環境学科	建築史	1 前	2
	建築インテリア製図Ⅰ	1 前	2
	建築探究	1 前	2
	建築環境学 A	1 前	2
	建築計画Ⅰ	1 後	2
	建築環境工学Ⅰ	1 後	2
	構造力学Ⅰ	1 後	2
	建築インテリア製図Ⅱ　※1	1 後	2
	建築環境学 B	1 後	2
	構造力学Ⅱ ※2	2 前	2
	建築構法Ⅰ	2 前	2
	建築計画Ⅱ	2 前	2
	建築環境工学Ⅱ	2 前	2
	建築環境学演習Ⅰ	2 前	2
	建築法規Ⅰ	2 後	2
	建築構法Ⅱ	2 後	2
	インテリア環境Ⅰ	2 後	2
	建築設備Ⅰ	2 後	2
	建築環境学演習Ⅱ	2 後	2
	居住福祉論	3 後	2
臨床工学科	医用機器安全管理学	2 前	2
	医用機器学概論	2 前	2
	基礎血液浄化装置学	2 前	2
	人工臓器概論	2 後	2
	基礎呼吸療法装置学	2 後	2
	基礎体外循環装置学	2 後	2

※1 「建築インテリア製図Ⅰ」の単位修得者のみ履修可能
※2 「構造力学Ⅰ」の単位修得者のみ履修可能

2022 年度から 2024 年度入学者対象

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
リハビリテーション学科（共通）	現代国語表現	1 前	2
	生命倫理	1 前	1
	基礎化学	1 前	2
	基礎生物学	1 前	2
	心理学	1 後	2
	基礎数学	1 後	2
	統計解析	1 後	2
	臨床医学総論	1 後	2
	救命救急学演習	1 後	1
リハビリテーション学科（理学療法学専攻）	理学療法学概論	1 前	2
	理学療法学基礎演習Ⅰ	1 前	1
	理学療法学基礎演習Ⅱ	1 後	1
リハビリテーション学科（作業療法学専攻）	作業療法概論	1 前	2
	基礎作業学	1 前	1
リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）	言語聴覚障害学概論	1 前	2
看護学科	看護学概論Ⅰ	1 前	2
	成人看護学概論	1 後	1
	公衆衛生看護学概論	1 後	2
	老年看護学概論	2 前	1
	小児看護学概論	2 前	1
	母性看護学概論	2 前	1
	精神看護学概論	2 前	1
	在宅看護学概論	2 後	1
現代社会学科	心理学と心理的支援	1 前	2
	文化人類学	1 前	2
	夏季野外活動実習	1 前	1
	アダプテッド・スポーツ基礎実習	1 前	1
	現代社会と人間	1 前	2

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
現代社会学科	現代社会と福祉	1 前	2
	社会学と社会システム	1 前	2
	教育学	1 後	2
	冬季野外活動実習	1 後	1
	アダプテッド・スポーツ論	1 後	2
	レクリエーション理論	1 後	2
	社会福祉政策	1 後	2
	社会学史	1 後	2
	生涯発達心理学	2 前	2
	社会保障Ⅰ	2 前	2
	レクリエーション実技Ⅰ	2 前	1
	健康心理学	2 後	2
	社会保障Ⅱ	2 後	2
	障害者支援論	2 後	2
	高齢者支援論	2 後	2
	児童・家庭支援論	2 後	2
	レクリエーション実技Ⅱ	2 後	1
	レクリエーション現場実習	2 通	1
	社会心理学	3 前	2
	介護予防論	3 前	2
	復興のまちづくり	3 後	2
	コミュニティ心理学	3 後	2
現代社会学科（社会学専攻）	地域社会学	2 前	2
	都市社会学	2 前	2
	メディア社会学	2 前	2
	地域文化論	2 前	2
	情報社会論	2 後	2
	家族社会学	2 後	2
	東北文化論	3 前	2

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
現代社会学科（社会福祉学専攻）	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2前	2
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前	2
	障害者福祉	2前	2
	児童・家庭福祉	2前	2
	高齢者福祉	2前	2
	保健医療と福祉	2前	2
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後	2
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2後	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2後	2
	生活支援工学	2後	2
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3前	2
	貧困に対する支援	3前	2
	医療ソーシャルワーク論	3前	2
	医療福祉マネジメント論	3後	2
経営法学科	現代史	1前	2
	芸術論	1前	2
	文化人類学	1前	2
	文学	1前	2
	宗教学	1前	2
	倫理学	1前	2
	特別講座Ⅰ	1前	2
	法学概論	1前	2
	経済学概論	1前	2
	経営学概論	1前	2
	現代思想	1後	2
	コミュニケーション論	1後	2
	東北の歴史	1後	2
	特別講座Ⅱ	1後	2
	憲法	1後	2
	ミクロ経済学	1後	2
	民法総則	1後	2
	環境論入門	1後	2
	簿記論Ⅰ	1後	4
	政策基礎数理Ⅰ	1後	2
	マーケティング論	1後	2
	政治学	2前	2
	刑法	2前	2
	マクロ経済学	2前	2
	社会保障概論	2前	2
	地域文化論	2前	2
	財務会計Ⅰ	2前	2
	簿記論Ⅱ	2前	2
	政策基礎数理Ⅱ	2前	2
	統計学	2前	2
	流通論	2前	2
	契約法	2前	2
	物権法	2前	2
	経営戦略論	2前	2
	国際関係論	2後	2
	財務会計Ⅱ	2後	2
	家族法	2後	2
	財政学	2後	2
	金融論	2後	2
	経営組織論	2後	2
	持続的農業論	2後	2
	消費者法	2後	2
	経営史	2後	2
	現代のマーケティング	2後	2
	流通政策	2後	2
	会社法	3前	2
	行政法総論	3前	2

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
経営法学科	行政学	3前	2
	非営利組織論	3前	2
	不動産法	3前	2
	管理会計	3前	2
	国際経済学	3前	2
	医療福祉経済論	3前	2
	グリーンツーリズム論	3前	2
	韓国研究	3前	2
	東北文化論	3前	2
	中小企業論	3前	2
	ロジスティック論	3前	2
	消費者行動入門	3前	2
	企業福祉論	3前	2
	医療管理学Ⅰ	3前	2
	労働法	3後	2
	行政救済法	3後	2
	知的財産権法	3後	2
	地域行政論	3後	2
	国際経営論	3後	2
	地方財政論	3後	2
	起業論	3後	2
	経営情報論	3後	2
	中国研究	3後	2
	多文化共生論	3後	2
	東北の民俗	3後	2
	アメリカ研究	3後	2
	アグリビジネス論	3後	2
	地域経済論	3後	2
	医療政策論	3後	2
	医療管理学Ⅱ	3後	2
知能情報システム学科	基礎物理学	1前	2
	物理学	1後	2
	電気工学概論	1後	2
	プログラミング方法論Ⅰ	1後	2
	基礎化学	2前	2
	基礎生物学	2後	2
	マルチメディア工学	2後	2
建築環境学科	基礎物理学	1前	2
	基礎化学	1前	2
	建築計画Ⅰ	1前	2
	インテリア環境Ⅰ	1前	2
	基礎生物学	1後	2
	建築構法Ⅰ	1後	2
	建築法規Ⅰ	1後	2
	建築環境工学Ⅰ	1後	2
	構造力学Ⅰ	1後	2
	建築環境学入門Ⅱ	1後	2
	健康インテリアⅠ	2前	2
	建築構法Ⅱ	2前	2
	建築環境工学Ⅱ	2前	2
	建築法規Ⅱ	2前	2
	構造力学Ⅱ	2前	2
	建築アメニティ論	2前	2
	建築史	2後	2
	インテリア環境Ⅱ	2後	2
	建築計画Ⅱ	2後	2
	建築設備Ⅰ	2後	2
	建築設備Ⅱ	2後	2
	建築環境技術論	2後	2
臨床工学科	医用機器安全管理学	2前	2

（3）　体系的な学修のための科目群（2025 年度以降入学者対象）

2025 年度以降の入学者を対象に、他学部履修をする際、目的や興味に応じて体系的な学修が可能となるように、各学科・専攻ごとに履修を推奨する科目群が設定されています。科目を選択する際の参考にしてください。

他学部履修対象科目における体系的な学修のための科目群

科目群	【リハビリテーション学科　理学療法学専攻】 理学療法の基礎学問
概要	この科目群は、理学療法学の基礎学問として位置付けられている「運動学・解剖学・生理学」のうちの２つと理学療法士が関わる医学の概要をまとめています。そのため、理学療法士の基盤となる知識を学ぶことができます。
科目名	解剖学Ⅰ（1 前・2 単位）
	解剖学Ⅱ（1 後・2 単位）
	生理学Ⅰ（1 前・2 単位）
	生理学Ⅱ（1 後・2 単位）
	臨床医学総論（1 後・2 単位）

科目群	【リハビリテーション学科　理学療法学専攻】 理学療法を知る
概要	この科目群は、理学療法学の基礎となる理学療法士の思考過程や仕事を知ることのできるものをまとめています。理学療法士という職業を学ぶことができます。
科目名	理学療法学概論（1 前・2 単位）
	理学療法学基礎演習Ⅰ（1 前・1 単位）
	理学療法学基礎演習Ⅱ（1 後・1 単位）

科目群	【リハビリテーション学科　作業療法学専攻】 作業療法とは・作業療法士の仕事を知る
概要	作業療法や作業療法士の仕事、役割について知りたい受講生の興味に応える。
科目名	作業療法概論（1 前・2 単位）
	基礎作業学（1 前・1 単位）

科目群	【リハビリテーション学科　視覚機能学専攻】 視覚機能学科目群
概要	本科目群は視覚の基礎の基礎として、「眼の解剖としくみ」「眼光学（生理光学）」「ロービジョン学」について概説し、「生活の中の視覚（演習）」にて眼科臨床における知識や検査法などの理解を深めるための先駆けとなる基礎知識と考える力を習得する。
科目名	眼の解剖としくみⅠ（1 前・1 単位）
	眼の解剖としくみⅡ（1 後・1 単位）
	生活の中の視覚（1 前・1 単位）
	生理光学Ⅰ（1 前・1 単位）
	生理光学Ⅱ（1 後・1 単位）
	基礎眼光学（1 前・1 単位）
	ロービジョン学Ⅰ（2 後・1 単位）

科目群	【現代社会学科】 現代社会学科目群
概要	この科目群は社会学の基礎を学び、同時に社会の特定領域を対象にした社会学を学ぶことを通して、受講生の現代社会を視る目を涵養するものである。
科目名	現代社会と人間（1 前・2 単位）
	社会学と社会システム（1 前・2 単位）
	社会学史（1 後・2 単位）
	社会学専攻「社会学各論」区分に設定されている履修可能な科目のうち１科目以上

科目群	【現代社会学科】 現代社会心理学科目群
概要	この科目群は心理学の基礎を理解していることを前提として現代社会における人々の心理について、応用的に理解する科目群である。諸理論を身近な心理学的現象と結びつけて具体的に学ぶことができる。
科目名	生涯発達心理学（2 前・2 単位）
	健康心理学（2 後・2 単位）
	社会心理学（3 前・2 単位）
	コミュニティ心理学（3 後・2 単位）

科目群	【現代社会学科】 生涯健康科学科目群
概要	この科目群は現代社会における健康づくりの概要とその実践方法を学ぶ科目群である。学修を通して、障がい者や高齢者などを対象とした身体的な健康づくりだけでなく精神的な健康づくりや生きがい支援などについて実践的に学ぶことができる。
科目名	レクリエーション理論（1 後・2 単位）
	アダプテッド・スポーツ論（1 後・2 単位）
	アダプテッド・スポーツ基礎実習（1 前・1 単位）
	地域社会健康演習（3 後・2 単位）

科目群	【現代社会学科】 社会福祉基礎科目群
概要	この科目群は社会福祉が対象とする個別支援領域の基礎的な概要の理解を深める科目群である。学修により、現代社会における福祉対象者を取り巻く様々なサービス、制度、福祉的政策、社会的課題について学ぶことができる。
科目名	障害者福祉（2 前・2 単位）
	児童・家庭福祉（2 前・2 単位）
	高齢者福祉（2 前・2 単位）
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（2 後・2 単位）

科目群	【経営法学科】 経済系科目群
概要	経済的な視点を養いたい人向けの科目群。特に、公務員や金融系の職業を目指す人向け。国の経済政策について理解・評価することができるようになることが目標。
科目名	ミクロ経済学（1 後・2 単位）
	マクロ経済学（2 前・2 単位）
	金融論（2 後・2 単位）
	財政学（2 後・2 単位）

科目群	【経営法学科】 経営系科目群
概要	経営学を学ぶ上で基本的に押さえておくべき基本事項を理解することを到達目標とした場合に、まずは履修するべき科目群。
科目名	経営学概論（1 前・2 単位）
	経営戦略論（2 前・2 単位）
	経営組織論（2 後・2 単位）
	簿記論Ⅰ（1 後・4 単位）
	マーケティング戦略論（2 前・2 単位）

科目群	【経営法学科】 法律系科目群
概要	法律の中でも、私たちの生活に密接に関連する私法分野の中心となる民法を体系的に理解する科目群。法律と生活がどのように関連するかを理解することができるようになる。
科目名	民法総則（1 後・2 単位）
	物権法（2 前・2 単位）
	契約法（2 前・2 単位）
	不法行為法（2 後・2 単位）
	家族法（2 後・2 単位）

科目群	【知能情報システム学科】 プログラミング基礎
概要	代表的な二つのプログラミング方法論 (手続き型とオブジェクト指向型) とプログラム開発工程の概要を学修し、プログラムの基本的なアイデアおよび技術と工学的な特性を理解する。
科目名	プログラミング方法論Ⅰ（1 後・2 単位）
	プログラミング方法論Ⅱ（2 前・2 単位）
	オブジェクト指向プログラミング（2 後・2 単位）
	ソフトウェア工学（3 後・2 単位）

科目群	【建築環境学科】 建築・インテリア
概要	快適で安全な生活空間を構成・デザインする能力を培うために、建築史から計画理論・構法等、建築・インテリアに関する基礎知識を修得する。
科目名	建築探究（1 前・2 単位）
	建築史（1 前・2 単位）
	建築計画Ⅰ（1 後・2 単位）
	建築計画Ⅱ（2 前・2 単位）
	建築構法Ⅰ（2 前・2 単位）
	建築構法Ⅱ（2 後・2 単位）

科目群	【建築環境学科】 環境・設備
概要	健康・快適な建築環境の音・熱・光・空気等に関する基礎理論を理解し、それらを実現する給排水・衛生・空調・電気等の建築設備の基礎知識を修得する。
	建築探究（1 前・2 単位）
	建築環境工学Ⅰ（1 後・2 単位）
	建築環境工学Ⅱ（2 前・2 単位）
	インテリア環境Ⅰ（2 後・2 単位）
	建築設備Ⅰ（2 後・2 単位）

科目群	【臨床工学科】 臨床工学科目群
概要	臨床工学技士の主たる業務である医療機器の保守点検および生命維持管理装置の操作に係る基礎科目。
科目名	医用機器安全管理学（2 前・2 単位）
	基礎血液浄化装置学（2 前・2 単位）
	基礎呼吸療法装置学（2 後・2 単位）
	基礎体外循環装置学（2 後・2 単位）

(4)　他学部履修に関する注意事項

・手続き方法等の詳細については、履修登録期間に TBGU ポータルサイトの掲示板でお知らせします。
・医療福祉学部リハビリテーション学科及び現代社会学部現代社会学科に所属する学生は「自身が所属する専攻以外の専攻」を対象として他学部等で開設されている授業科目の履修が可能です。
・他学部履修を希望する科目が、自身が所属する学科・専攻に設定されている科目と名称や内容が同一又は類似性が高い場合、履修は認められません。なお、手続きの不備を理由に履修が不許可となる場合がありますので、申請の際は十分注意してください。
・上位年次配当科目の履修はできません。（例：2 年生の場合　→　3 年及び 4 年次配当の授業科目は履修不可）
・他学部履修の対象科目が非開講となる場合がありますので、授業時間割表等を確認してください。
・他学科・専攻のシラバスは TBGU ポータルサイトで閲覧することができます。

(5)　卒業に必要な単位としての認定

他学部履修で修得した単位は入学年度及び所属する学部・学科ごとに定められた条件を満たした場合、卒業に必要な単位として認定します。認定のための条件の詳細は以下のとおりです。それ以外の場合はすべて「自由聴講科目」の単位として認定されます。自由聴講科目とは卒業のために修得が必要な科目に含まれない科目のことです。

卒業に必要な単位としての認定条件

医療福祉学部リハビリテーション学科（2025 年度以降入学者）

開講学科	単位を修得した科目名	配当	単位数	単位認定する科目区分	認定の上限
リハビリテーション学科	理学療法学概論	1 前	2	科学的思考の基礎	2 単位
リハビリテーション学科	作業療法概論	1 前	2		
リハビリテーション学科	言語聴覚障害学総論	1 前	2		
リハビリテーション学科	基礎眼光学	1 前	1		
看護学科	成人看護学概論	1 後	1		
看護学科	老年看護学概論	2 前	1		
看護学科	地域・在宅看護学概論	2 後	1		
経営法学科	経営学概論	1 前	2		
経営法学科	ミクロ経済学	1 後	2		
経営法学科	民法総則	1 後	2		
経営法学科	刑法	2 前	2		
経営法学科	統計学	2 前	2		
知能情報システム学科	プログラミング方法論Ⅰ	1 後	2		
知能情報システム学科	人工知能Ⅰ	2 前	2		
現代社会学科	レクリエーション理論	1 後	2	自己形成	2 単位
現代社会学科	健康心理学	2 後	2		
現代社会学科	社会学史	1 後	2		
建築環境学科	建築史	1 前	2		
リハビリテーション学科	生活の中の視覚	1 前	1	人と生活	2 単位
現代社会学科	社会福祉政策	1 後	2		
現代社会学科	地域社会健康論	3 前	2		

開講学科	単位を修得した科目名	配当	単位数	単位認定する科目区分	認定の上限
現代社会学科	コミュニティ心理学	3 後	2	人と生活	2 単位
現代社会学科	現代社会と人間	1 前	2		
現代社会学科	現代社会と福祉	1 前	2		
現代社会学科	心理学と心理的支援	1 前	2		
現代社会学科	社会学と社会システム	1 前	2		
現代社会学科	障害者福祉	2 前	2		
現代社会学科	児童・家庭福祉	2 前	2		
現代社会学科	高齢者福祉	2 前	2		
現代社会学科	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2 前	2		
現代社会学科	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2 前	2		
現代社会学科	労働と社会	2 前	2		
現代社会学科	情報技術と社会	2 前	2		
現代社会学科	スポーツと社会	2 前	2		
現代社会学科	地域文化論	2 前	2		
現代社会学科	メディア社会論	2 後	2		
現代社会学科	家族社会学	2 後	2		
現代社会学科	都市社会学	2 後	2		
経営法学科	マーケティング論	1 後	2		
経営法学科	家族法	2 後	2		
建築環境学科	インテリア環境Ⅰ	2 後	2		
建築環境学科	居住福祉論	3 後	2		

医療福祉学部リハビリテーション学科（2022 年度から 2024 年度入学者）

開講学科	単位を修得した科目名	配当	単位数	単位認定する科目区分	認定の上限
看護学科	成人看護学概論	1 後	1	科学的思考の基礎	2 単位
看護学科	母性看護学概論	2 前	1		
看護学科	精神看護学概論	2 前	1		
看護学科	地域・在宅看護学概論	2 後	1		
看護学科	公衆衛生看護学概論	1 後	1		
経営法学科	倫理学	1 前	2		
経営法学科	統計学	2 前	2		
知能情報システム学科	電気工学概論	1 後	2		
知能情報システム学科	プログラミング方法論Ⅰ	1 後	2		
臨床工学科	医用機器学概論	2 前	2		
現代社会学科	健康心理学	2 後	2	自己形成	2 単位
現代社会学科	レクリエーション理論	1 後	2		
経営法学科	現代史	1 前	2		
経営法学科	芸術論	1 前	2		
経営法学科	文学	1 前	2		
経営法学科	宗教学	1 前	2		
経営法学科	現代思想	1 後	2		
現代社会学科	社会学と社会システム	1 前	2	人と生活	2 単位
現代社会学科	社会福祉政策	1 後	2		
現代社会学科	障害者福祉	2 前	2		

開講学科	単位を修得した科目名	配当	単位数	単位認定する科目区分	認定の上限
現代社会学科	保健医療と福祉	2 前	2	人と生活	2 単位
現代社会学科	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2 後	2		
現代社会学科	高齢者支援論	2 後	2		
現代社会学科	児童・家庭支援論	2 後	2		
現代社会学科	障害者支援論	2 後	2		
現代社会学科	医療ソーシャルワーク論	3 前	2		
経営法学科	法学概論	1 前	2		
経営法学科	経済学概論	1 前	2		
経営法学科	経営学概論	1 前	2		
経営法学科	国際関係論	2 後	2		
経営法学科	社会保障概論	2 前	2		
経営法学科	地域文化論	2 前	2		
経営法学科	環境論入門	1 後	2		
経営法学科	簿記論Ⅰ	1 後	4		
経営法学科	家族法	2 後	2		
経営法学科	マーケティング論	1 後	2		
建築環境学科	健康インテリアⅠ	2 前	2		
建築環境学科	建築史	2 後	2		
建築環境学科	建築環境技術論	2 後	2		

医療福祉学部看護学科
　他学部履修により修得した単位は全て「自由聴講科目」として認定する。
　※　卒業に必要な単位としては認定されません。

現代社会学部現代社会学科（2025 年度以降入学者）
　他学部履修により修得した単位は 20 単位を上限に、「選択科目（区分問わず）」の単位として認定する。

現代社会学部現代社会学科（2022 年度から 2024 年度入学者）
　※　現代社会学部以外の学部が開設する授業科目の単位を修得した場合

開講学科	単位を修得した科目名	配当	単位数	単位認定する科目区分	認定の上限
リハビリテーション学科	人間生涯発達学	2 前	2	教養・基礎科目	6 単位
経営法学科	現代思想	1 後	2		
経営法学科	経営学概論	1 前	2		
経営法学科	消費者法	2 後	2		
経営法学科	家族法	2 後	2		
経営法学科	宗教学	1 前	2		
経営法学科	国際関係論	2 後	2		
知能情報システム学科	マルチメディア工学	2 後	2		
建築環境学科	建築史	2 後	2		
リハビリテーション学科	臨床医学総論	1 後	2	専門科目	10 単位
リハビリテーション学科	理学療法学概論	1 前	2		
リハビリテーション学科	作業療法概論	1 前	2		

開講学科	単位を修得した科目名	配当	単位数	単位認定する科目区分	認定の上限
リハビリテーション学科	言語聴覚障害学概論	1 前	2	専門科目	10 単位
看護学科	地域・在宅看護学概論	2 後	1		
看護学科	老年看護学概論	2 前	1		
看護学科	精神看護学概論	2 前	1		
経営法学科	マクロ経済学	2 前	2		
経営法学科	ミクロ経済学	1 後	2		
経営法学科	経営戦略論	2 前	2		
建築環境学科	インテリア環境Ⅰ	1 前	2		
建築環境学科	健康インテリアⅠ	2 前	2		
建築環境学科	インテリア環境Ⅱ	2 後	2		
建築環境学科	建築アメニティ論	2 前	2		
建築環境学科	建築環境学入門Ⅱ	1 後	2		

　※　所属する専攻以外の専攻が開設する授業科目の単位を修得した場合
　他専攻履修により修得した単位は 10 単位を上限に、「専門科目」区分の単位として認定する。

経営法学部経営法学科（2025 年度以降入学者）
　他学部履修により修得した単位は 20 単位を上限に、「選択科目（区分問わず）」の単位として認定する。

経営法学部経営法学科（2022 年度から 2024 年度入学者）
　他学部履修により修得した単位は 24 単位を上限に、「教養・基礎科目」区分の単位として認定する。

工学部知能情報システム学科
　他学部履修により修得した単位は 6 単位を上限に、「選択科目（区分問わず）」の単位として認定する。

工学部建築環境学科
　他学部履修により修得した単位は 4 単位を上限に、「選択科目（区分問わず）」の単位として認定する。

工学部臨床工学科（2025 年度以降入学者）
　他学部履修により修得した単位は 6 単位を上限に、「選択科目（区分問わず）」の単位として認定する。

工学部臨床工学科（2022 年度から 2024 年度入学者）
　他学部履修により修得した単位は全て「自由聴講科目」として認定する。
　※　卒業に必要な単位としては認定されません。

【卒業に必要な単位としての認定に関する注意事項】
・全て「選択科目」の単位として認定されます。
・上記以外の学生の条件については教務課へ問い合わせてください。
・転学科生及び編入学生は、転学科又は編入学時に同学年に所属している一般入学（編入学又は転学科をしていない）の学生に適用となる条件を基準にしてください。

4.　その他、単位認定について

(1)　既修得単位の認定

　本学入学前に他の大学・短大等において、単位を修得している場合は、本人の申請により、審査のうえ

60 単位を超えない範囲で、本学の修得単位として認定を受けることができます。なお、単位認定を受けた授業科目については、履修登録をすることができませんので、注意してください。

(2)　単位互換制度について

本学では、県内外の国･公私立大学･短大等 22 校と単位互換ネットワーク協定を締結し、これらの大学･短大と学生の交流を図っています。

この単位互換制度は、意欲ある学生に対して、多様な学習の機会を提供することを目的に設けられたもので、希望する学生に他の協定締結大学の授業科目の履修を認め、その単位を認定するものです。

なお募集方法等については、その都度掲示等で周知します。

(3)　初年次ポートフォリオについて

本学では「初年次ポートフォリオ」の仕組みを導入しています。1 年生は、課外の学修時間等を一定の様式に記録し、振り返りを行います。振り返りの内容や、次の学修目標の設定等について、学科専攻の教員から定期的にフィードバックを受けながら、主体的に学ぶ力の獲得及び学修習慣の確立・維持を目指す仕組みです。

5.　授業評価アンケートについて

本学では多様な学生のニーズを把握し、授業内容の改善を目的とした授業評価アンケートを各学期最終の授業の際に時間を取って実施しています。

担当教員より実施の連絡があった場合には、以下の手順に従い、アンケートに回答してください。

【学生ポータル】WEB 授業アンケート（スマホ）

［学生 Web ポータル］メニュー：

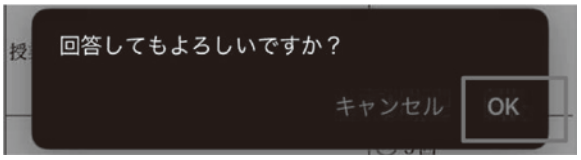
授業評価アンケート > 授業評価アンケート回答　　回答可能な授業が表示されます。

各授業の［回答］をタップします。

質問への回答を選択肢よりタップします。

そのほか伝えたい内容があれば自由記記述欄に入力し、［回答］をタップ。

メッセージに OK を選択すると回答データが送信されます。
※「OK」をタップしないと回答データは送信されませんので、必ずタップしてください。



*回答は期間中であれば何度でも変更することが可能です。

6.　定期試験等

(1)　試験の種類

1 年に 2 回、前期末・後期末にそれぞれ定期試験が行われます。また、他に追試験及び再試験があります。

・定期試験：定期試験は、原則として各学期末に一定期間実施されます。
ただし、授業の担当教員が必要と認めたときは、定期試験の期間外に随時試験が実施されることがあります。

・追 試 験：試験規程に定められた事由により、定期試験を受験できなかった学生に対して行う試験です。受験を希望する場合、定められた期日までに診断書等の必要書類を添えて「追試験願」を教務課に提出し、学部長の許可を受けなければなりません。
規定された事由以外での欠席の場合、受験は認められません。

・再 試 験：定期試験の結果、不合格になった学生に対して、授業担当教員の裁量で実施する試験であり、すべての授業科目について実施されるものではありません。
また、再試験を受験する場合は、受験料（1 科目 1,000 円）を納めた上で、教務課で受験申請をしなければなりません。

(2)　受験資格

1)　受験する授業科目について履修登録を行っていること。
2)　授業の出席時間数が、総時間数の 3 分の 2 以上であること。
3)　当該学期分の授業料等を滞納していないこと。

(3)　不正行為について

試験に際して、不正行為が確認された学生は、懲戒規程により停学等処分の対象となります。

(4)　定期試験時間割

試験の日程及び試験室については、掲示板、TBGU ポータルサイトで発表します。

(5)　定期試験受験上の注意事項

1)　受験の際は、学生証を机上に提示してください。
学生証を忘れた場合は、仮学生証（手数料 200 円）発行を申請してください。

2）　試験開始後 20 分を過ぎた場合、途中入室は認められません。
3）　試験開始後 30 分を経過し、かつ監督者が許可した場合は、退室することができます。
4）　正当な理由がなく試験を欠席した場合は、履修を放棄したものとみなされます。

詳細については、「東北文化学園大学試験規程」（p. 360）、「定期試験受験者心得」（p. 362）を必ず確認してください。

7.　成績評価

（1）　評価方法

1）　授業科目の成績の評価は、S、A、B、C、及び D の 5 種とし、S、A、B 及び C を合格とし、D を不合格とします。
2）　授業科目によって、成績評価の方法が異なりますので、授業概要（シラバス）を参照してください。
3）　合格と認定された授業科目については、所定の単位が与えられます。

（2）　成績発表

成績の発表方法等については、学期末に掲示及び TBGU ポータルサイトにより周知します。

（3）　成績の通知について

本学では、学期末または学期初めに TBGU ポータルサイトで成績を確認できます。
なお、教育的な見地から、保護者に対しても成績・修学状況等を通知いたします。

（4）　成績に関する問い合わせについて

成績評価で不合格となった科目について疑義がある場合は、成績発表日から 10 日以内（土・日曜日・祝日を除く）に、所定の様式で教務課窓口に申し出ることができます。
その他、成績に関する問い合わせについては、教務課窓口に相談してください。

8.　GPA について

本学では、履修登録科目の成績の評価平均値（Grade Point Average　以下、GPA）を導入しています。
GPA は Grade Point Average の略称で、世界的に用いられている学生の学修到達度の成績評価方法です。授業科目ごとに成績を 5 段階で評価し、4〜0 の評価点（以下、GP）が付与されます。評価と GP は表のとおりです。
学修到達の目安として GPA2.0 以上を目指しましょう。GPA により自身の成績の状況や学修の到達水準を具体的に知り、適切な履修計画を立てることに活用できます。SA に相談しながら履修計画を立て学修時間を確保し学修成果を向上させましょう。
なお、基礎科目「全学共通科目」（2019 年度以前入学者用カリキュラム）及び転学部等により単位認定された科目は、GPA 対象外科目とします。
また、2021 年度入学生から成績証明書に GPA が記載されます。

表　成績の評価と GP

成績評価			学修到目標と成績	判定
評価	GP（評価点）	点数（100 点満点）		
S	4	90 〜 100 点	学修内容を充分満たし学修目標（到達目標）を達成している。きわめて優秀な成績である	合格
A	3	80 〜 89 点	学修内容を満たし学修目標（到達目標）を達成している。優秀な成績である	
B	2	70 〜 79 点	学修内容を満たし学修目標（到達目標）を達成している	
C	1	60 〜 69 点	必要最低限であるが学修目標（到達目標）を達成している。	
D	0	59 点以下	必要とされる学修水準を満たしてない。学修目標（到達目標）を達成してない。	不合格
F		0 点	履修を放棄した科目	

(1)　GPA の計算例

授業科目	単位数	評価	GP	単位数× GP
英語Ⅰ	2	A	3	2 × 3 ＝ 6
情報処理	1	S	4	1 × 4 ＝ 4
心理学	2	C	1	2 × 1 ＝ 2
政治学	2	F	0	2 × 0 ＝ 0
数学	2	A	3	2 × 3 ＝ 6
地球科学	2	A	3	2 × 3 ＝ 6
合計	11 単位			24 点

GPA　＝　24 点　÷　11 単位　＝　2.2

9.　卒業・学位

本学に 4 年以上在学し、所定の単位を修得した学生は、教授会の議を経て卒業が認定され、所属学部・学科（専攻）に応じて、それぞれ次に掲げる学位が授与されます。

2021 年度以降入学者

医療福祉学部	リハビリテーション学科	
	理学療法学専攻	学士（理学療法学）
	作業療法学専攻	学士（作業療法学）
	言語聴覚学専攻	学士（言語聴覚学）
	視覚機能学専攻	学士（視覚機能学）
	看護学科	学士（看護学）
現代社会学部	現代社会学科	
	社会学専攻	学士（社会学）
	社会福祉学専攻	学士（社会学）
経営法学部	経営法学科	学士（経営法学）
工学部	知能情報システム学科	学士（工　学）
	建築環境学科	学士（工　学）
	臨床工学科	学士（工　学）

2020 年度以前入学者

医療福祉学部	リハビリテーション学科	
	理学療法学専攻	学士（理学療法学）
	作業療法学専攻	学士（作業療法学）
	言語聴覚学専攻	学士（言語聴覚学）
	視覚機能学専攻	学士（視覚機能学）
	看護学科	学士（看護学）
	保健福祉学科	
	保健福祉専攻	学士（保健福祉学）
	生活福祉専攻	学士（保健福祉学）
総合政策学部	総合政策学科	学士（総合政策学）
科学技術学部	知能情報システム学科	学士（工　学）
	建築環境学科	学士（工　学）
	臨床工学科	学士（工　学）

※ 4 年間在学して、卒業に必要な単位を充足できなかった場合や、休学歴があって在学期間が 4 年に満たなかった場合は、留年することになります。

Ⅲ　学生生活案内（全般編）

TOHOKU BUNKA GAKUEN

1.　スチューデント・アドバイザー制度（SA 制度）について

本学はスチューデント・アドバイザー制度を採用しています。これは各学科の教員がきめ細やかな学生指導をするための制度であり、高校の担任のような性格を持ちます。学生一人ひとりに SA 教員が配置されており、学生の修学状況や学生生活全般にわたっての相談に応じます。

なお、SA 教員は年度初めに、それぞれの学部学科ごと決定し、学生に発表されます。

2.　オフィスアワー

オフィスアワーとは、学生と教員のコミュニケーションを充実させるために設けられた時間帯のことです。この時間帯は、学生からの授業についての質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるため教員が研究室で待機している時間帯のことです。

学生の質問や相談に対しては、教員は普段から時間の許す限り、いつでも対応するように努めていますが、学生への便宜をいっそう図るため、この制度を設けました。

オフィスアワーは、あらかじめ設定された時間帯に専任の教員が研究室で待機し、質問や相談を受けやすくするための制度です。所属学科の教員だけでなく、どの学部・学科の教員を訪ねてもかまいません。授業・履修に関すること、進路相談など、気軽に相談できるように各教員は待機しています。

オフィスアワー予定表は、学期の始めに掲示等で発表します。

相談を希望する教員のオフィスアワーの実施時間を確認したうえで研究室を訪問してください。

また、非常勤講師のオフィスアワーは、原則として授業終了時に教室で質問を受け付けています。

3.　定期健康診断の実施について

本学では、「学校保健安全法」に基づき、全学生の健康増進、疾病の予防・早期発見・早期治療などに役立てるために、毎年 4 月に定期健康診断を実施します。実施日、場所等については、その都度掲示しますので、必ず受診してください。また、医療福祉学部リハビリテーション学科、看護学科及び工学部臨床工学科学生については、別途実習に必要な集団検査をする場合もあります。

なお、受診しなかった場合は、就職試験、奨学金申請等で必要となる「健康診断証明書」は発行できませんので注意してください。

4.　奨学金制度

（1）　日本学生支援機構奨学金

奨学金の募集は、1 号館 1 階学生総合サービスセンターそばの奨学金専用掲示板と TBGU ポータルサイトで案内します。奨学金の募集がある都度、情報を提供しますので、見落とさないように注意してください。奨学金の募集は 4 ～ 6 月に案内が集中します。なお、奨学金のほとんどは貸与型であり、卒業後には返還が必要となります。慎重に検討してから申込みをしてください。

1）　貸与奨学金（卒業後返還の義務があります）

	第 1 種		第 2 種
貸与月額	自宅通学	自宅外通学	20,000 円～120,000 円の間で 1 万円単位で選択可能
	20,000 円、30,000 円、40,000 円、54,000 円から選択	20,000 円、30,000 円、40,000 円、50,000 円、64,000 円から選択	
利息	利息なし		利息あり
出願資格	学業成績が優秀 家計支持者の年収が一定基準以下		学業成績が平均水準以上 家計支持者の年収が一定基準以下
	基本的に今年度の留年者および休学者は出願資格なし		

募集期間	原則として毎年 1 回（4 月下旬ころ）
その他	翌年度の奨学金を継続するための手続きが必要（毎年 12 月～1 月ころ） 継続の手続きをしても成績が不良の場合は、「停止」または「廃止」となります。

2）　給付奨学金（返還不要の奨学金）（次の表は 4 人世帯の目安となります）

区分	世帯年収の目安	自宅通学	自宅外通学
第Ⅰ区分	約 295 万円未満 （住民税所得割非課税世帯）	38,300 円／月 （459,600 円／年）	75,800 円／月 （909,600 円／年）
第Ⅱ区分	約 395 万円未満	25,600 円／月 （307,200 円／年）	50,600 円／月 （607,200 円／年）
第Ⅲ区分	約 461 万円未満	12,800 円／月 （153,600 円／年）	25,300 円／月 （303,600 円／年）
第Ⅳ区分 （多子世帯に限る）	約 698 万円未満	9,600 円／月 （115,200 円／年）	19,000 円／月 （228,000 円／年）

※貸与第 1 種奨学金と併用の場合、貸与第 1 種奨学金の月額が調整され、減額または増額されることがあります。
※多子世帯とは、子どもが 3 人以上の世帯です。
※上記の表は 2024 年度の実績です。

3）　緊急採用・応急採用奨学金

通常の申込みは年 1 回に限られますが、以下のようなことが発生してから 1 年以内の場合、緊急的な措置として奨学金を申し込むことができます。詳しくは学生課に問い合わせてください。

・家計支持者が失業・会社倒産・破産・死亡・病気等で著しく収入が減少、または支出が増大
・火災・風水害・震災等自然災害により著しく支出が増大、または収入が減少

（2）　その他の奨学金

自治体（都道府県）や民間団体が募集する奨学金支援制度があります。大学に案内がきた場合は、その都度案内しますが、情報提供がない場合もありますので、各自で照会してください。なお、大学での手続きの「要・不要」にかかわらず、応募から採否まで、その都度学生課に報告してください。

5.　高等教育の修学支援新制度

経済的理由で大学等への進学をあきらめないよう、2020 年 4 月に進学・進級する学生から、給付奨学金の対象者が広がりました。世帯収入の基準を満たしていること、しっかりと「学ぶ意欲」があることが支援を受ける条件です。また、給付奨学金（4. 奨学金制度（1）日本学生支援機構奨学金　2）給付奨学金）の対象となれば、授業料・入学金も免除または減額されます。

＜支援内容＞
・給付奨学金（原則返還不要の奨学金）
・授業料等の減免（授業料と入学金を免除または減額）

※詳細については文部科学省ホームページをご覧ください。

（1）　給付奨学金　※ 4. 奨学金制度　（1）日本学生支援機構奨学金　2）給付奨学金の表参照

（2）　支援を受けられる世帯年収の目安及び支援額（次の表は 4 人世帯の目安となります）

区分	世帯年収の目安	支援額（授業料等の減免・給付型奨学金）	
第Ⅰ区分	約 295 万円未満 （住民税所得割非課税世帯）	満額	入学金減免額　約 260,000 円 授業料減免額　約 700,000 円（年額） 給 付 奨 学 金　約 910,000 円（年額）
第Ⅱ区分	約 395 万円未満	満額の 2/3	入学金減免額　約 170,000 円 授業料減免額　約 470,000 円（年額） 給 付 奨 学 金　約 610,000 円（年額）

第Ⅲ区分	約 461 万円未満	満額の 1/3	入学金減免額　約 90,000 円 授業料減免額　約 230,000 円（年額） 給 付 奨 学 金　約 300,000 円（年額）
第Ⅳ区分 （多子世帯）	約 698 万円未満	満額の 1/4	入学金減免額　約 65,000 円 授業料減免額　約 175,000 円（年額） 給 付 奨 学 金　約 220,000 円（年額）
第Ⅳ区分 （理工農系）	約 698 万円未満	満額の 1/3	入学金減免額　約 90,000 円 授業料減免額　約 230,000 円（年額） ※この区分の場合、給付奨学金はありません。

※上記の表の支援額は、最大支援額です。
※上記の表は 2024 年度実績です。2025 年度には、多子世帯の所得制限が撤廃される予定です。

（3）　授業料等の減免制度（上限額）

入学金	授業料（年額）
26 万円	70 万円

※実際に減免される金額は、支援を受ける学生の世帯年収などによって異なります。
※授業料等減免申請は給付奨学金の家計基準等と同等であり、同時に申し込むことが奨励されています。
※上記の表などに記載されている金額等は、あくまでも目安です。詳しくは学生課に問い合わせてください。

6.　加入者被扶養者証・遠隔地被保険者証

学生が親元を離れて生活をしている場合、風邪や疾病等で医療機関の診察する際に、「加入者被扶養者証」または「遠隔地被保険者証」が必要になります。一人暮らしを始める際には、早めに保護者から取り寄せておいてください。

なお、「遠隔地被保険者証」の交付手続きには、「在学証明書」が必要ですので、早めに証明書発行申請を行い、保護者に送付してください。（保護者が勤務先を通じ保険事務所に申請して交付を受けます。）

7.　学生保険について

本学では、学生が教育研究活動中の不慮の災害・事故及び、課外活動中や通学途中の事故を補償するために、「学生教育研究災害傷害保険」の賛助会員となっており、入学時の手続きと併せて、学生保険に全員加入しています。保険制度の概要は次のとおりです。医療機関で治療を受けた場合、完治後に学生課に必ず報告してください。

（1）　保険金が支払われる事故の範囲

教育研究活動中に事故によって傷害をうけた場合

1）　正課中（治療日数 1 日目から）　講義、実験、実習、などの授業中とそれらに関する研究活動を行っている間の傷害事故
2）　学校行事中（治療日数 1 日目から）　入学式、オリエンテーション、学位記授与式等大学が主催する行事中の傷害事故
3）　大学施設内にいる間（治療日数 4 日目から）　大学が教育研究活動のために管理している施設内にいる間の傷害事故
4）　課外活動中（治療日数 14 日目から）　大学が認めている課外活動団体の管理下で行っている活動の間の傷害事故
5）　通学中・学校施設相互間の移動中（治療日数 4 日目から）　大学の授業等の他、学校行事または課外活動への参加の目的を持って合理的な経路及び方法により住居と大学施設等との間を往復する間の傷害事故

（2）　保険金が支払われるまでの手続き

1）　事故発生　速やかに学生課へ事故の連絡（代理者による報告も可）
学生課で「Skett Book」の案内を受取り、アプリで必要事項を入力して東京海上日動へ提出

2）　治療が終了したら　保険金請求手続
「Skett Book」の案内に従い、手続きを行う
3）　保険会社手続き（事実の確認等）を経て、保険金が振り込まれます。

（3）　保険金が支払われない場合

1）　故意、犯罪行為、地震、噴火等及び危険を伴う運動（山岳登はん、スカイダイビング、ヨット等）による傷害の場合
2）　通学中・学校施設相互間の移動中の事故による治療日数が 3 日以内（課外活動中においては 13 日以内）で怪我が完治した場合
3）　本学が認めていない通学方法による通学途中の事故による傷害の場合

（4）　看護学科学生の保険

看護学科の学生は、看護学生総合補償制度「Will」に入学時に全員加入しています。

「Will」は「一般社団法人日本看護学校協議会共済会」が契約者となり、東京海上日動火災保険株式会社が引き受け会社となっている、看護学生のための総合補償制度です。

授業や実習中の傷害・賠償・感染事故（微生物による感染事故含）はもちろん、学校活動以外のプライベートな時間も補償される国内外 24 時間補償タイプの保険です。

（1）1）～5）の事故の範囲の他、プライベートな時間の事故も補償の範囲に含まれます。保険金の支払手続きに必要な書類は学生課でお渡ししますので、事故が発生した場合は、速やかに学生課へ連絡してください。

補償内容等の詳細については、入学手続き又は新入生ガイダンス時に配布しているパンフレットを確認してください。

8.　国民年金保険料の学生納付特例制度について

学生を含めた日本国内に住むすべての人は、20 歳になった時から国民年金の被保険者となり、保険料を納付することが義務付けられていますが、申請により在学中の国民年金保険料の納付が猶予される「学生納付特例制度」が設けられています。

本学は、日本年金機構から指定を受けているため、住所地の市（区）役所・町（村）役場、年金事務所にかわり、学生課で本制度の申請を受け付けることができます。

日本年金機構のホームページから「国民年金保険料学生納付特例申請書」をダウンロードし、必要事項を記入して学生課へ提出してください。

9.　Student JOB 制度（SJ 制度）について

「Student JOB」（スチューデントジョブ）制度とは、学生が、授業の空き時間などを有効に利用して学内軽作業及び事務補助などの業務を行い、学内で修学資金などを得ることが出来る制度です。

具体的な活動は以下のとおりです。

（1）　派遣業務

学内で学生が担える業務を教職員と共に行う業務です。勤務日や勤務時間は業務によって様々です。

・業務内容

入試や学内イベントの誘導、大学内外の美化活動、包装作業や郵送作業など

（2）　授業等ピアサポーター

授業等の教務補助を行います。（原則、2 年生以上の学生が対象です）

・業務内容

演習補助、出席確認、学生からの質問対応、実習用具の確認作業など

・勤務時間　1 時限～ 5 時限（1 時限 100 分）

（3）　SJ 本部業務

シフト作成、給与管理、授業ピアサポーター出勤表の受渡し業務など、SJ が業務を行う上で必要な事務作業を行います。SJ 業務の改善や企画などの運営統括業務も行います。

☆業務内容

給与管理、シフト作成、授業ピアサポーター出勤表作成、派遣業務関連作業など

☆勤務時間（平日のみ）

9 : 00 ～ 17 : 00（左記時間内で、1 時間単位での勤務が可能）

10.　アルバイト・ボランティア活動について

学生時代のアルバイト経験やボランティア活動は、現実の社会を学ぶ貴重な経験であり、豊かな人間形成のためにも必要な機会であると考えます。そのため､大学宛にアルバイトやボランティアの案内が届いた場合は、掲示等で情報提供をしています。

ただし、アルバイトは家計的に必要な場合もありますが、その職種や勤務時間帯によっては、疲労等が原因で、学生の本分である学業がおろそかになってしまう場合もありますので、過度なアルバイト活動は自粛し、学業に支障のない範囲にとどめるよう注意してください。

＜ボランティアポイント制度＞

ボランティア・ポイントカードを取得し、ボランティア活動や社会貢献活動に携わった学生に、ポイントを付与する制度。ボランティアポイントは活動 1 時間＝ 1 ポイントを基本とし、各学部学科を代表する教員で組織する地域連携センターが作業実態を勘案してポイント数を算定します。ポイントの通算獲得数の多い者は別途表彰されるほか、40 ポイント以上を達成した場合には、申請するとボランティア活動証明書も発行されます。

ポイントの対象となるのは、本学主催のイベントや地域連携センター及び教職員が所管するボランティアのほか、自発的、個人的な活動も申告に基づいて地域連携センターでポイントの付与を審議します。

なお、ボランティア・ポイントカードは地域連携センターにボランティア登録申請書を提出すると交付されます。

〈ボランティア情報の公開について〉

大学に届いたボランティア情報は下記の方法で公開しています。

（1）　掲示板による公開

① 1 号館 1 階図書館入り口前
② 1 号館 1 階地域連携センター前
③ 3 号館 1 階南入口付近
④ 5 号館地下食堂入り口付近

（2）　Google classroom による公開

クラスコード「6 ｂ ｙ ｓ 2 ｉ 6」で情報を確認できます。

※気になる情報があれば、気軽に 1 号館 1 階【地域連携センター】へお問い合わせください。

11.　学友会・課外活動

本学では、学生及び教職員相互の親睦を図るとともに、文化、体育及び学生生活の向上に資することを目的に「学友会」が組織されています。学生は入学と同時に会員となり各種委員会、課外活動に参加することができます。

学生の自主的活動は人間的成長を促すための活動として非常に重要であると捉え、積極的な資金援助を行うと共に、その活動を適切に評価し、優秀者に対する表彰制度や報奨制度が設けられています。

学生生活をより楽しく充実したものにするために、課外活動に積極的に参加し、学内の学生・学外の団体との交流を通じ、豊かな人間性を身につけてください。

※課外活動については、「東北文化学園大学　課外活動カイドライン」参照のこと

（1）　学生団体一覧（2025 年 1 月現在）

【サークル】

	No	サークル名	顧問教員氏名 （所属学部）	サークル室
運動系	1	バスケットボール	犬塚　　剛（医）	G01
	2	バレーボール	小野部　純（医）	G02
	3	準硬式野球	藤澤　宏幸（医） 髙橋　一揮（医） 山田　祥康（医）	107
	4	剣道	松田　優二（医）	G03
	5	バドミントン	立花顕一郎（経）	G09
	6	サッカー	文　　慶喆（経）	108
	7	ダンス	森田　清美（医）	G06
	8	フェンシング	須藤　　諭（工）	G07
文化系	1	吹奏楽	神村　伸一（工）	104
	2	軽音・JAZZ	久保田茂裕（経）	101
	3	TBGU 手話	八鍬　央子（医）	106
	4	オープンキャンパススタッフ	一條　佑介（工）	G08
	5	Working Dog’s	岡　　惠介（現）	503
	6	創作	安達いづみ（医）	109

※サークル室　　G●●：体育館　1●●：1 号館地下　5●●：5 号館地下

（2）　諸手続

1）　学友会サークル等設立、解散、届出事項の変更

学友会サークル等の諸手続きは、学友会会則及びサークルに関する細則並びに同好会に関する細則の規程に従い、手続きしてください。

2）　学外での活動とその報告

学生団体及び学友会サークル等が学外の連盟等に加入する場合は、連盟等加入届を学生課に提出してください。対外試合等のため学外行事に参加する場合は、所定の「学外（学内）行事参加願」及び「学外（学内）行事参加者名簿」を学生課に提出してください。

また、参加後は、所定の「学外（学内）行事実施報告書」を学生課に提出してください。

（3）　文書類の掲示

学生が学内で文書、ポスター等を掲示しようとする場合は、所定の「文書等掲示願」と文書等を学生課に提出し、許可を受けてください。

なお、掲示期間を経過した文書等は、速やかに撤去してください。

（4）　施設（用具）の使用

学生が学生団体・学友会サークル等の課外活動等で学内の教室等の施設を使用する場合は、所定の「施設等使用願」を学生課に提出し、許可を受けてください。

なお、使用後は原状に復元するとともに、火の元の確認、戸締まりを確実に行ってください。

12.　サークル室の利用について

本学は、課外活動のミーティングや用具収納に使用するサークル室を 1 号館地下、5 号館（本部棟）地下及び体育館に計 27 室設置し、学生の課外活動を支援しています。

（1）　利用資格

原則として、学友会において承認されたサークル

（2）　利用時間

平　日　9 : 00〜21 : 00

土曜日　9：00〜18：00

日曜・祝日・年末年始の休業日、その他本学が定めた日は使用できません。

※日曜日・休日等に利用する場合又は利用時間を延長して利用する場合は、事前に学生課に申し出てください。

(3)　利用方法

1)　サークル室の鍵は、使用団体に最大 3 本まで貸与します。複製は認めません。

2)　各サークル員は、自己の責任で防火、防犯について十分注意し、管理してください。

3)　学内行事、授業等に支障があると認められるときは、サークル室の利用を一時制限する場合があります。

13.　ハラスメントについて

以下のハラスメントの被害にあった場合や、友人等の被害を見聞した時は、速やかに学部教員や SA または大学事務局学生課、教務課、健康管理センター（保健室、学生相談室、特別支援室）等に相談してください。秘密は厳守します。

本学にはこれらのハラスメント防止委員会が組織されており、ハラスメントに関する相談窓口が置かれています。プライバシーを尊重し学生の不利益にならないよう十分配慮して対応します。

相談用メールアドレス　harasskenkou@office.tbgu.ac.jp　又は　harassgaku@office.tbgu.ac.jp

(1)　セクシャルハラスメント・アカデミックハラスメント

セクシャルハラスメント（相手を不快にさせる性的な言動）、アカデミックハラスメント（教育、研究上の権力関係に由来した不適切な言動）等により、精神面を含め、教育、研究又は修学に関連して一定の不利益を生じさせる行為等のことです。

(2)　アルコール・ハラスメント

アルコール・ハラスメントとは、酒を介して嫌がらせをしたり、人権侵害を行うことを言います。イッキ飲み、罰ゲームで酒を飲ませる、伝統や慣習の名目に飲酒を強要する、酔いつぶすことを目的として飲ませる、宴会の席上等で酒が飲めない人がいるのにアルコール（類）しか用意しない、酔ってからんだり暴言・暴力・性的嫌がらせなどを行う、などです。時には、命を失うケースもあり、また傷害などの犯罪に発展する可能性のある極めて悪質かつ危険な行為です。

特に、最近は新入生歓迎コンパと称して新入生に「イッキ飲み」を強要する等の悪習により、急性アルコール中毒により救急車で病院に搬送され最悪の場合、死に至る事例が新聞等で多数報道されています。また、1 年生のほぼ全員と 2 年生の半数以上が、新入生歓迎行事の時点では 20 歳未満であり、法的に飲酒は禁止されています。事故を絶対起こさないよう、他人に迷惑をかけないよう、十分気をつけてください。

14.　「危険ドラッグ」を含む薬物乱用の禁止について

いわゆる「脱法ハーブ」等の薬物が関係する事件・事故が全国で相次ぎ、社会問題になっています。その危険性が十分に理解されないことが背景にあることから、「危険ドラッグ」と呼ばれることになりました。

(1)　危険ドラッグとは？

法律の網をくぐりぬけるために、「ハーブ」「アロマオイル」「バスソルト」等、一見すると人体に無害な製品を装って販売されているドラッグです。形状も様々で、粉末・液体・乾燥植物など、見た目で危険だとはわからないように巧妙に作られています。

(2)　使用するとどうなる？

「一回だけなら大丈夫」「いい気分が味わえる」などという誘惑に騙されてはいけません。

実際には意識障害、嘔吐（おうと）、けいれん、呼吸困難等を発症し、思わぬ事件・事故などに発展するおそれがあります。最悪の結果、死に至ることもあります。

さらに、使用した本人だけでなく、幻覚や興奮のために周囲に暴力をふるったり、車を運転して暴走し、ひき逃げや死亡事故などの重大な犯罪を引き起こしたケースもあります。

危険ドラッグには、既に規制されている麻薬や覚せい剤に似せた物質等が含まれており、体への影響は麻薬や覚せい剤と変わらないだけでなく、それ以上に危険な成分が含まれていることもあります。

(3)　絶対に手を出さないこと！

危険ドラッグ等の指定薬物の所持、使用、購入、譲り受けについて法律で禁止となっております。これに違反した場合は、3 年以下の懲役または 300 万円以下の罰金か、その両方が科せられます。

また、万一そのような行為をした学生については、退学を含む厳重な処分の対象となります。本学の学生としての自覚を常に持ち、責任ある行動をとるよう心がけてください。

15.　一人暮らしのマナーについて

アパートや下宿生活をするにあたっては、他人に迷惑をかけることのないよう学生として節度ある生活を心がけ、近隣とのトラブルを回避するよう次のマナーを守ってください。

●ゴミの分別収集等は居住地域（町内会等）のルールを守る。
●部屋の中では騒音を出さないよう気をつける。（特に夜間等）
●アパートの駐輪・駐車スペースに無断で友人等の車輌を停めさせない。

16.　東北文化学園大学　学生用 SNS（ソーシャルメディア）活用ガイドラインについて

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス ; X、Facebook、TikTok、LINE、ブログ、掲示板等）の利用にあたって、あらかじめその特徴とルールを十分理解しておく必要があります。

以下のガイドラインをよく読み、理解した上で SNS を有効的に活用しましょう。

【SNS 利用で知っておきたいこと】

(1)「SNS」の世界は、普通の社会と同様です。

SNS は、匿名でも気軽に自分の言葉を発信できますが、時にはこれがインターネット上に広がり、削除してもその発信が世界中のどこかのコンピュータに記録される可能性があります。

「容易に削除できる」「特定の友人しか見ない」などの意識はやめ、十分考えてから発信しましょう。匿名であっても、責任が伴う発言として取り扱われます。

(2)　個人情報の重みをもう一度確認してください。

個人情報には、個人を特定できる氏名や電話番号などのほかにも、行動（いつ、どこにいた等）や文字情報以外の写真、動画、音声も個人情報に含まれます。

匿名で個人名は伏せていても、発信された情報を組み合わせることで、個人を特定することもできるので、注意しましょう。

また、友人や知人が写っている写真や動画を SNS 上に掲載したいときは、必ず本人の承諾を得ましょう。

(3)「絶対に書いていけないこと」を確認してください。

臨床実習先、アルバイト先等で、病院、会社等の内部情報や内情等を知る機会がありますが、そこで知り得た情報は SNS で発信してはいけません。発信したことにより、病院、会社等に被害があった場合は、法的に訴えられたり、損害賠償を請求されることもありますので、絶対に発信しないでください。

また、「外部で○○がデートしていた」という目撃情報や「20 歳未満の学生が飲酒している」といった法律に反すること、他人に不快感を与える情報も発信してはいけません。

(4)　セキュリティに対する意識を高めてください。

ID・パスワード・登録時のメールアドレスはしっかり管理してください。忘れた場合、発信した情報が消せない場合もあります。

また、第三者が他人に成りすまして発信する場合もあるので、パスワードは容易に想像できるものとしないようにしましょう。

(5)　発信した情報が自分の未来や家族、友人に影響があることを知ってください。

不用意な発信が原因で、時には、過去の投稿等から、第三者によって家族や友人の個人情報が特定され、その情報がインターネットに掲載され、迷惑をかけることがあります。

また、就職活動の際に、病院や会社等が SNS の発信内容を確認することにより、内定にも影響する場合があります。第三者がその情報をみてどのように感じるかを常に意識してください。

SNS やインターネット上は、一般社会と同じです。
「他人を思いやる気持ち」「自分を大事にする気持ち」を持って利用してください。

17.　学生意見箱について

みなさんが意見を伝えることができるように、大学ホームページ上に「学生意見箱」を設置しています（トップページ＞在学生の方へ＞学生意見箱）。お寄せいただいた意見には、直接メール等で回答します。環境の充実等について、建設的なご意見をお待ちしています。

18.　地震・火災等、災害非常時の心構えについて

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災では、宮城県は甚大な被害を受けました。

本学も校舎が一部損壊し、多くの在学生や保護者の方々が被災しました。

そして、日本は今後も大きな地震の発生が予測されており、宮城県も決して油断の出来ない状況です。

本学では、このような中、この東日本大震災での経験を活きた教訓として、常に防災意識を忘れないよう、学生や教職員に災害時の心構え、有事の備え等について啓蒙活動を継続的に行っています。

また、大学では災害避難時に必要となる医薬品、非常食、飲料水、毛布等を常備し、万一の際の学生や地域住民の受入れに備えています。

災害はいつ発生するか誰も予測ができません。学生の皆さんも「最後は自分の身は自分で守る」という意識を持ち、日頃から非常時の備えをしておくよう心がけてください。

（※別途配布の「震災対応マニュアル」参照）

以下は、授業中、サークルや課外活動等、大学にいる時間帯に地震や火事等の災害が発生した場合の留意事項です。大学で災害が発生した際には、教職員が避難誘導しますので、その指示に従ってください。

非常時にはパニックにならず、冷静に行動することが一番大切です。普段から万一の事態にどう行動するかをイメージしておいてください。

- 日頃から、避難経路、非常口、建物の状況等を校舎配置図などで確認しておくこと。
- 授業中に火災や地震が発生した場合は、教職員や構内放送の指示、誘導に従って、落ち着いて行動、避難すること。（荷物は最小限に、出入り口に殺到しないこと。）
- 地震の際は、頭上からの落下物に気をつけて、机等の下に入るなど、自分の身を守ること。
- 学内で火災を発見した場合は、周囲に大声で知らせること。
- 避難する際、特に階段は駆け下りないこと。（将棋倒しの危険有。）
- 地震の際、エレベーターは絶対に使用しないこと。また、エレベーター内で地震に遭ったら、ただちに、最寄りの階で降りること。万一閉じ込められたら、非常ボタンを押して冷静に待つこと。（携帯電話があれば外部に連絡を試みること。）

【安否連絡について（大学 HP からも確認できます）】

大地震が発生した場合、本学は学生の安否確認を行います。

地震発生時に登校していない場合は、連絡可能な状況になり次第、下記の方法で学校に連絡してください。

（1）　E メール
　　anpi@tbgu.ac.jp

（2）　電話
　　0120-556-923
　　※電話がつながりにくくなる可能性が高いので、なるべく E メールで連絡してください。

報告事項

1）　所属（大学・専学・教職員）
2）　学籍番号・氏名
3）　本人・家族の状況
4）　自宅や付近の状況・連絡先

Ⅳ　各種センター、施設等利用案内

TOHOKU BUNKA GAKUEN

1.　大学施設（講義室・実習室等）の利用について

講義室、実習室、ゼミ室等、校舎内の施設利用時間は、原則として、以下のとおりです。

平日　時間内：8：50〜18：30、時間外：18：30〜22：00（2号館のみ時間外：18：00〜20：00）

土・日曜日・祝日・年末年始の休業日、その他本学が定めた日は使用できません。

授業がない時間帯に自習などで、講義室や実習室を使用したい場合は、時間内、時間外にかかわらず、担当教員の承認を受け事前に「施設等使用願」を教務課に提出してください。

また、学内の諸施設を利用する場合は、大学のルールを守り、学生として節度ある行動を心がけてください。卒業年次生については、夜間の施設利用が担当教員の申請により認められる場合があるので、利用を希望する場合は、担当教員に申請してください。許可された際は、次頁の注意事項を遵守してください。

（注意事項）

(1)　代表者は、施設等の使用状況を確認のうえ、「施設等使用願」を事前に提出すること。
(2)　時間外に使用する場合は、使用日の16：00までに「施設等使用願」を提出すること。
(3)　破損や紛失が生じた場合は、速やかに申し出ること。
(4)　使用後は原状復帰し、実習室等は施錠を行うこと。
(5)　時間外に鍵を返却する場合は、警備室に返却すること。
(6)　借りた鍵は、又貸ししたり、持ち帰ったりしないこと。

施設等使用願

西暦　　年　　月　　日

東北文化学園大学学長　殿

使用代表者				承認者　※顧問・担当教員等
所属	学科・研究科 理　作　言　視　保　社　福　【健　生】　専攻			印
学籍番号		年次		
氏名		TEL	―　　―	
サークル名 ゼミ名	□　特に無し	使用人数	名	

使用施設	使用施設名称 使用備品等	※　該当する場合はチェックすること □　鍵の貸し出し不要 □　空調を終了時刻まで利用
使用日	年　月　日（　）〜　年　月　日（　）　のうち a.毎　日　　b.毎週（月　火　水　木　金） c.その他使用日 （　　）	
※使用時間	時間内　時　分　〜　時　分 時間外　時　分　〜　時　分	※　使用日によって異なる場合は、備考に使用日ごとの時間を記入すること。
使用理由		
備考		

1. 施設等の使用状況を確認のうえ、事前に提出すること。
2. **時間外（18：30〜22：00）に使用する場合は、使用日の16：00までに提出**すること。
3. サークル室を利用する際、21：00を超える場合は提出すること。
4. 設備及び備品の破損　紛失等が生じた場合は、速やかに申し出ること。
5. 使用後は教室の原状復帰及び施錠を行い、必ず「当日中」に鍵を返却すること。
6. 鍵の返却は、時間内の場合は教務課窓口、時間外の場合は警備室にて行うこと。
7. 感染症の対策に努めること。

管理課連絡	受付

夜間に及ぶ時間外施設等使用に関する注意事項（卒業年次生対象）

所属学科からの学長への届け出により、夜間及び翌朝までの時間外施設等使用を認められた場合、学生の皆さんには、下記【施設等使用上の注意事項】をよく読み、マナーを守って大学の施設を利用するようにしてください。ただし、夜間から翌朝までの時間外申請については、原則として卒業研究に限り、許可されています。

また、夜間の時間外利用申請が許可されていても、警備保安上の理由により、実際に使用する日時を明確にして、必ず事前に「施設使用願」を教務課に届出を提出してください。

なお、夜間の施設利用中に大学の学則等に違反する行為が認められた場合は、それ以降の施設使用については、全面禁止となりますので注意してください。

記

【施設等使用上の注意事項】

・時間外（特に夜間）の大学施設の使用中の事件事故については、基本的に自己責任になるので、保安上、避難経路や、消火器の位置を事前に確認し、事件、事故の未然防止に努めるとともに、必要以上に滞在しないようにすること。
・自家用車やバイクの構内乗り入れは、全面禁止とする。
・講義室、実習室、演習室、ゼミ室、湯沸し室、その他自分が使用した施設について、汚した場合は掃除し、原状復帰に努めること。
・照明、ポット、コーヒーメーカー等電気器具を使用した場合は、必ず、退館時にスイッチを切るかまたはコンセントを抜く等、電源を切ること。（コーヒーメーカー等の電源切り忘れは、火災の原因となるので特に注意すること。）
・大学の施設・備品は大事に取り扱うこと。また、誤って破損した場合は翌朝教務課に申し出ること。（学生保険で対応可能な場合有）
・急病や怪我など、緊急を要する場合は、119 番と警備室（内線 1916、電話 022-233-7118）に通報すること。
・地震や火災が発生した場合は、一時的な消火活動を行える場合を除いては、119 番と警備室に通報の上、緊急避難をすること。
・不審者を見かけた場合は、すぐに警備室もしくは 110 番通報し、必要に応じて避難すること。
・21 時以降は以下の出入り口を除いて施錠するので、他の出入り口は利用しないこと。
　1 号館：増築棟 1 階出口（駐車場側）　3 号館：東側出口　5 号館：南側出口
・時間外の施設使用を許可された者以外の施設等利用は認められないので、友人などを勝手に構内に入れないこと。
・深夜や明け方に帰宅する場合は、必ず警備室に連絡すること。（機械警備上）

教務課・管理課

2.　図書館の利用方法について

下記の事項と「図書館利用規程」（別頁）を参照し、積極的に図書館を利用してください。

（1）　利用資格

① 本学の学生
② 本学の教職員
③ 同窓会員
④ その他センター長が許可した者

（2）　開館時間

通常期間
平日　　8 : 40〜21 : 00
土曜　　9 : 00〜18 : 00
※試験前は日曜も開館。（10 : 00〜17 : 00）
長期休業期間
平日　9 : 00〜17 : 00
土曜・日曜は休館
※大学の定める休業日は休館、または時間を変更して開館。
※蔵書点検期間中は休館、または利用を制限して開館。

（3）　利用の注意

①入館の際は、学生証を必ず携帯してください。
②図書館には、飲み物を持参できますが、食べ物は持ち込み禁止です。飲み物はふたが密閉できるペットボトル・水筒に限り、飲用可能です。必ず席についてお飲みください。
③大声での談話、携帯電話の使用など、他の利用者の迷惑となる行為はしないでください。
④図書を紛失・破損した場合は、速やかに申し出てください。
⑤返却期限を厳守してください。
⑥借りた図書の転貸はできません。
⑦盗難には各自注意し、所持品を放置しないでください。盗難等が発生した場合、図書館では責任を負いかねますので、注意してください。
⑧ 1 階入口にブックディテクション・システム（BDS）を設置しています。貸出手続きを行っていない資料を持って BDS を通るとアラームが鳴ります。必ず貸出手続きを行ってください。
⑨プライバシー保護および著作権保護のため、館内での写真（動画）撮影は禁止しております。撮影を必要とする場合は、カウンターにご相談ください。

（4）　館内閲覧

館内の蔵書は約 14 万冊です。閲覧席は約 400 席で、書架から図書を自由に取り出して閲覧できます。利用を終えた図書は、必ず元の位置に戻してください。禁帯出図書・雑誌・新聞・視聴覚資料は、館内での閲覧のみとなります。

（5）　館外貸出

①貸　出 : 借りたい図書と学生証をカウンターに提示してください。
貸出可能冊数と期間は以下の通りです。

学部学生	5 冊	14 日間
大学院生	10 冊	30 日間
聴講生・研究生・科目等履修生	3 冊	14 日間
教職員	10 冊	30 日間
同窓会員	3 冊	14 日間

※貸出期間の延長 : 借りている図書に予約が入っていなければ、1 回のみ継続して借りることができます。返却期限内に、図書と学生証をカウンターに提示してください。
※実習による長期貸出は、実習開始日 2 週間前から利用可能です。返却日は、実習終了日から 10 日以内を申告してください。延長はできません。

※卒業論文・卒業研究による長期貸出は 1 ヶ月となります。延長はできません。

②返　却：借りた図書は、カウンターで返却手続きを行ってください。閉館時は、図書館入口の返却ポストへ入れてください。

※返却期限に遅れた場合は、遅れた日数分貸出停止となりますので注意してください。

③予　約：利用したい図書が貸出中のときは、カウンターまたは OPAC から予約手続きをすることができます。予約図書の返却があり次第連絡します。ただし、連絡から 1 週間過ぎても貸出手続きがない場合、予約は取り消しになります。

④視聴覚資料：視聴覚資料を利用したい学生は、学生証を提示し、館内の視聴覚コーナーで利用してください。（館外貸出不可）

なお、DVD・CD-R などの視聴覚資料は、2 階 PC コーナーでも利用できます。

※視聴覚資料の持込みは認めていません。ただし、教材等の資料については、認める場合があるので、カウンターに申し出てください。

(6)　館内資料の複写

図書館所蔵の資料は、著作権法の範囲内で複写することができます。「複写申込書」に必要事項を記入し、提出してください。1 人につき、1 部のみ複写することができます。料金は、白黒 1 枚 10 円、カラー 1 枚 40 円です。

※持ち込んだ資料やノート、プリントなどのコピーはできません。

(7)　相互利用

必要な資料が本学に所蔵されていない場合、他機関からコピーや資料そのものを郵送してもらうことができます。

※詳しくは、「図書館利用案内」又は、ホームページ（https://www.tbgu.ac.jp/library）を参照してください。

(8)　購入希望図書

読みたい図書や、学習・研究・論文作成等で利用したい図書が図書館にない場合、購入希望の申込をすることができます。「購入希望図書申込書」に必要事項を記入し、カウンターまでお申し込みください。希望図書は利用が前提となります。なお、必ず購入されるとは限りませんのでご了承ください。

(9)　グループ学習室の利用

複数人で学習する（グループワーク）場合は、図書館入口付近のグループ学習室を利用することができます。予約制となりますので、利用する際にはカウンターにて手続きを行ってください。空きがあれば、当日予約も可能です。

3.　ラーニング・コモンズ E サポについて

ラーニング・コモンズ E サポは、学生の主体的な学びをサポートする場所です。開かれた学修空間で、議論や発表会の場としてのアクティブな学修にも、個別学修にも、目的に合わせて利用できます。PC やプリンター、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボードが完備され、自由に使用することができます。E サポ内の学修スペースは予約も可能です。教育アドバイザーが常駐しているので、わからないことがあれば、気軽に声をかけてください。

また、次のような学修に関する様々なサポートも行っています。

・コンサルティング＆コーチング（C&C）：
専門アドバイザーが一人ひとりに合った指導で多様な学修ニーズに応え、きめ細かく対応します。

・E サポセミナー：
教養教育の一環としてユニークなプログラムを展開しており、所属を越えた多様な体験や人との出会いが魅力となっています。

・海外研修・留学・国際交流：
海外研修や異文化交流イベント、海外留学・語学学修サポートなどを行っています。

(1)　利用方法

入館時に必ず学生証をカウンターの入館システムにかざして入館してください。

①開館時間

平日　8：40〜21：00（スタッフ対応は 19：00 まで）

土曜　9：00〜18：00（スタッフ対応は無し）

日曜・祝日、その他大学が定めた日は休館

② C&C

事前予約が必要です。利用希望の方は予約フォーム（以下の QR コード）より予約してください。

文章表現・面接対策　　わかる数学　　英会話

（2）　利用上の注意

・E サポ内ではスタッフの指示に従ってください。

・E サポで食事はできません（菓子を含む）。飲物の持ち込みは可能です。食事は E サポベース（テラスエリア）をご利用ください（冬期は利用できません）。

・マナーを守り、他の利用者に迷惑をかけないように利用してください。

（3）　問合せ先

Email　kyouikus@office.tbgu.ac.jp

HP　https://www.tbgu.ac.jp/support

HP

4.　健康管理センターについて

健康管理センターは 1 号館 2 階に「保健室」、1 階に「学生相談室」・「特別支援室」を設置し、皆さんが健康で快適な大学生活を送るための健康相談、学生相談、ハラスメント相談、修学環境の整備・調整等の相談ならびに発達障がい支援を行っています。

個人情報は厳重に管理し、秘密は厳守しますので、気軽に利用してください。

（1）　健康管理センター（保健室・学生相談室・特別支援室）利用時間

平　日　9 : 00〜17 : 00

土・日曜日・祝日、大学の休業日は休館となります。

（2）　利用方法・連絡先

①保健室

学生の皆さんが充実したキャンパスライフを送ることができるよう、心身両面にわたる健康の保持増進のため支援を行っています。

【健康相談】

看護師が健康に関する相談に応じます。禁煙支援も行いますのでご相談ください。

【応急処置】

けがや病気の応急処置を行います。体調不良時はベッドで休むこともできます。また必要な場合は医療機関を案内します。医薬品はありませんので常用薬のある方は携行し備えてください。

【健康診断】

学校保健安全法で定められています。必ず受診してください。なお有所見の方には再検査や受診勧奨等の事後措置を行います。

【身体測定】

身長計・体重計・血圧計などを設置していますのでご利用ください。

※保健室からのお知らせはホームページやポータルサイトに掲示しますので、こまめに確認してください。

保健室直通☎ 022-233-5245

②学生相談室

性格、対人関係、こころの健康、進路など、学生生活を送るにあたっての困りごとなら、どんなことでもご相談ください。公認心理師・臨床心理士である専任のカウンセラーが対応します。

もちろん、相談内容等の秘密は厳守されます。

【たとえば、こんなとき】

・人とうまく関われない

・夜眠れない、落ち着かず、なにもする気にならない

・勉強が身に入らない
・セクシャリティ・ジェンダーに関する悩みがある

直接、学生相談室にお越しください。予約は電話・メール・相談予約フォーム（以下の QR コード）でも受け付けます。

相談予約フォーム

学生相談室　直通☎ 022-207-0074
面談予約専用メールアドレス：gakuso@office.tbgu.ac.jp

③特別支援室

心身の障がいや病気等により、修学上で困り事や悩み事のある方は、お気軽にご相談ください。
教職員と連携し、修学しやすい環境の整備・調整をいたします。

※注意

適切な配慮・調整には準備が必要です。障がいによる困り事・悩み事がある場合は、なるべく早くご相談ください。

また、学生本人との話し合い、意思表明が大切になりますので、ご相談の際は、保護者（保証人）だけでなく、必ず学生本人もお越しください。

また、特別支援室では、休憩利用できる居場所「学生サロン」を週 3 日オープンしています（月・木・金曜日 11 : 00〜13 : 30）。予約等は不要ですので、気軽にお越しください。

特別支援室　直通☎ 022-233-6098
面談予約専用メールアドレス：gakushien@office.tbgu.ac.jp

(3)　新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等学校感染症に罹患した場合の手続きについて

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等学校感染症に罹患した場合は、入構せず速やかに連絡フォームにて保健室まで連絡してください。連絡フォームはホームページやポータルサイトにあります。公認欠席扱いになりますので、速やかに学生課または教務課に連絡してください。

なお、感染症治癒後の登校に際しては、別紙の登校許可証明書の提出が必要となります。登校許可証明書については、次頁をコピーして利用してください。

保健室☎ 022-233-5245
学生課・教務課☎ 022-233-6116

御担当医様

東北文化学園大学

登校許可証明書記入のご依頼

学校保健安全法の定めにより、学校で予防すべき感染症に罹患した本学学生について、診断名及び出席停止が必要であったと考えられる期間を、下記にご記入いただきますようお願い申し上げます。

【問い合わせ先】健康管理センター保健室　TEL022-233-5245

登校許可証明書

（本人記入）

学部　　学科　　専攻

学籍番号　　氏名

上記の学生は、下記疾病が軽快したので登校しても支障がないことを証明します。

・インフルエンザ
・麻疹
・流行性耳下腺炎
・風疹
・水痘
・新型コロナウイルス感染症
・結核
・感染性胃腸炎
・その他の感染症（　　）

○初診　　２０　　年　　月　　日
○出席停止期間　２０　　年　　月　　日～２０　　年　　月　　日

２０　　年　　月　　日

医療機関名

医師名　　印

5.　キャリアサポートセンター（就職支援について）

キャリアサポートセンターは「職業安定法」第 33 条の 2 第 1 項「学校等の行う無料職業紹介事業」に基づき、様々な形で学生の「キャリア形成」を応援しています。

3、4 年次の採用試験対策や、全学年を対象としたキャリアカウンセリングを行っており、時期に合わせて就活に役立つ各種講座を開講しています。

また、本センターでは、過去の就職実績や先輩が受験した採用試験等の情報も提供しています。「Next Stage のお手伝い」を合言葉に掲げ、就職に限らず進学等、進路全般に関する相談業務を行っており、学年を問わず個別相談ができますので、1 年次生から積極的に活用してください。

本センターの具体的な支援内容は以下の通りです。

（1）就職活動支援	①	「合同就職説明会」「業種別就職説明会」の開催
	②	「学内個別企業説明会」の開催
	③	「学内業界研究会」の開催
	④	インターンシップや求人・採用試験情報の収集と情報提供・相談業務
	⑤	活動報告書の整理、採用試験内容に関する情報提供
	⑥	エントリーシート・履歴書・論作文等の添削支援
	⑦	面接試験対策（対面・オンライン）
	⑧	学科別就職ガイダンスの開催
	⑨	各種講座の開講（就活作文講座・公務員講座・就活ゼミなど）
	⑩	就活ガイド「キャリアハンドブック」の作成・活用ガイダンス

（2）キャリア形成の支援	①	進路・就職関連セミナーの開催・キャリア形成科目の授業支援
	②	新卒応援ハローワーク等外部講師による学内個別相談の実施
	③	職業選択、進学など進路全般に関する相談と情報提供

（3）就職情報収集支援	①	就職支援システム「東北文化学園 CareerNavi」の運用
	②	情報収集用 PC コーナーの整備
	③	学外就労支援事業所に関する相談と情報提供

（4）就職に関する参考書籍の提供	①	就職関連書籍（就職活動・自己分析・論作文・SPI 対策など）の閲覧
	②	企業研究書籍（会社四季報・就職四季報など）の閲覧
	③	新聞雑誌（日本経済新聞・河北新報・日経ビジネスなど）の閲覧

（5）就職活動に必要な書類準備の支援	①	学校指定履歴書	キャンパス内「セブン・イレブン」にて販売
	②	成績証明書	各種証明書の発行については、本ハンドブック 19 ページ「5.　各種証明書・願書等について」を参照してください。
	③	卒業見込証明書	
	④	健康診断証明書	
	⑤	証明写真撮影会の実施	

〈キャリアサポートセンターの利用について〉

利用時間：平日　9：00〜17：00
場所：1 号館 1 階　学生総合サービスセンター内
電話：022-233-7998　　FAX：022-233-8372
代表メールアドレス：career@office.tbgu.ac.jp

キャリアサポートセンター
ホームページ

6.　地域連携センターについて

地域連携センターは地域と大学との窓口として、本学の教育研究活動を最大限に活用し、地域の活性化と地域振興に寄与する事業を運営します。また、ボランティア活動を通じて本学学生が地域社会の実態を学び、今何をすべきかを人として考えていくための支援も行っています。

(1)　開設時間

平　日　9 : 00〜17 : 00

土・日曜日・祝日・大学閉鎖期間は利用できません。

（地域連携センター　直通電話 022-233-3451）

(2)　活動内容

①社会貢献活動／ボランティア活動の支援

②地域連携事業の推進

③市民講座・公開講座事業の推進

④その他地域連携を目的とする事業の推進

7.　PC コーナーとレンタルパソコンの利用方法について

図書館カウンターで、ノートパソコンの貸出を行っています。利用に際しては「利用誓約書」の提出が必要となりますが、手続き後は学生証の提示のみで利用することができます。また、図書館 2 階には「PC コーナー」が開設されており、自由に使用することができます。

(1)　2 階 PC コーナー

①利用時間

平　日　8 : 40〜閉館 1 時間前まで　土　曜　9 : 00〜閉館 1 時間前まで

②利用上のルール

1. 食事はできません。飲み物はふたが密閉できるペットボトル・水筒に限り飲用可能です。
2. ソフトウェアのダウンロード、インストールはできません。
3. パソコンの設定変更はしないでください。
4. 使用後は、電源を切り整理整頓を心がけてください。

(2)　レンタルパソコン

①利用資格

1. 本学の学生
2. その他総合情報センター長が特に許可をした者

②利用時間

平　日　8 : 40〜閉館 30 分前まで　土　曜　9 : 00〜閉館 30 分前まで

③利用上のルール

1. 機器の利用は、大学の施設内のみです。
2. 機器は、利用者が保管の責任を負い、他者への転貸はできません。
3. 返却時間を厳守してください。

8.　学生食堂・その他厚生施設情報

(1)　学生食堂（5 号館地下 1 階、2 号館地下 1 階）

営業内容 : 日替定食、麺類、パスタ、カレー他

営業時間 : 平日（月曜日〜金曜日）: 学生の休業期間中は営業時間帯を変更する場合があります。

11 : 00〜14 : 30（オーダーストップ 14 : 00）

※土・日曜日・祝日は休業。

※営業時間以外は学生のコミュニティースペースや自習室として開放されています。

利用時間は、以下のとおりです。利用する際はマナーとルールを守ってください。

【利用時間】平日 9 : 00〜20 : 00

【注　　意】11 : 45〜13 : 30 までは食事のみの利用とします。

(2)　セブンイレブン東北文化学園店（厚生棟 1 階）

営業内容：文房具、日用品、飲食類、書籍、雑貨等

営業時間：月曜日～金曜日　7：00～20：00・土曜日（営業の場合）　7：00～18：00

休業日：日曜日・祝日（その他学事日程により営業日は変更があります。）

（休業期間中は変更されます。）

(3)　厚生棟自習室（厚生棟 2 階）

自習スペースとして自由に利用できます。

【利用時間】平日のみ　8：00～21：00

(4)　コピー機

1 号館西入口、2 号館正面入口、3 号館南入口、5 号館南入口（各 1F）付近にコピー機が設置されています。

(5)　自動販売機コーナー

1 号館（地下ドライエリア中央入口、1F 南入口外、北入口（地域連携センター前））、3 号館（南入口）、2 号館 1F 中央階段、2・5 号館地下学生食堂、体育館入口、セブンイレブン前に飲料自動販売機が設置されています。なお、災害時対応の緊急時飲料提供ベンダーが 5 号館地下食堂、1 号館地下（ドライエリア）、1 号館北入口に設置されています。

(6)　ATM・キャッシュコーナー

1)　セブン銀行：セブン・イレブン東北文化学園店内に自動預払機（ATM）　1 台設置

営業時間：月曜日～金曜日　7：00～20：00

土曜日（営業の場合）　7：00～18：00

（※銀行によって取扱可能な時間帯は異なります。）

休業期間中は変更されます。

2)　ゆうちょ銀行：本学正門脇に自動預払機（ATM）　1 台設置

営業時間：月曜日～金曜日　9：00～18：00

※営業日、営業時間等は変更される場合があります。

(7)　全館で Wi-Fi が利用可能です。（体育館は利用不可）

9.　運動施設（体育館・運動場等）の利用について

本学の体育館、屋上テニスコート、第一総合運動公園、第二総合運動公園は、授業や研究以外でも、以下の目的であれば、サークルや、各種スポーツの練習に利用することができます。使用を希望する場合は、所定の「体育施設使用願」を使用予定日の 2 週間前までに学生課に提出し、許可を受けてください。

(1)　使用目的

1)　本学の学生の課外体育活動

2)　本学の教職員の体育活動

3)　本学が行う行事

4)　その他学長が使用を認めたもの

(2)　使用時間

区　分	体育館	第一・第二総合運動公園・屋上テニスコート
平　日	9 時 15 分から 21 時まで	9 時 15 分から 19 時（又は日没）まで
土曜日	9 時 15 分から 18 時まで	9 時 15 分から 18 時（又は日没）まで

日曜日・祝日・年末年始の休業日、その他本学が定めた日は原則として使用できません。

前項の規程にかかわらず、許可を得て使用時間を延長することができます。

10.　宮城県美術館及び仙台市博物館のキャンパスメンバーズ

本学では、下記施設のキャンパスメンバーズに加入しています。学生の皆さんは、学生証を提示することにより、展示内容により何度でも無料・割引などの特典が受けられます。ぜひ積極的に活用してください。

1.　利用対象施設

（1）宮城県美術館［改修工事に伴い、現在休館中（2025 年度中オープン予定）］

（2）仙台市博物館

（3）東北歴史博物館

2.　利用方法

窓口で学生証を提示し、キャンパスメンバーズ制度を利用することを申し出てください。

3.　特典

①常設展は観覧無料（何度でも観覧可能）

②特別展は観覧料の半額割引（年数回開催される特別展すべて、当日券のみ）

Ⅴ　学部、学科案内

TOHOKU BUNKA GAKUEN

1.　医療福祉学部

医療福祉学部の教育目標について

私たちをとりまく社会では、現在、少子・高齢化が大きくクローズアップされています。この中で誰もが望むものの一つに『生涯健康、より質の高い充実した生活（Quality of Life : QOL）』があります。しかし、高齢化にともない目標としていたQOLに届かない方々が多くなってきています。また、子どもたちも全てが健康面で恵まれているわけではありません。そして日常の生活を送る上で何らかの困難を抱えている方々もいます。これらのみなさんには国をはじめとする多方面からサポートが準備されていますが、その実践活動の中心となっているのは医療・保健・福祉領域の関係者です。しかし、サポートに対するニーズは拡がる傾向にあり、また、多様化もしていますので、制度的にも人的にも充実しているわけではありません。

こうした現状にあって、医療福祉学部は、幅広い教養と豊かな人間性の涵養、そして生命の尊厳に対し深い理解を示す能力の涵養を行うとともに、医療・保健・福祉各分野の専門能力を備えた専門職としての自覚を持ち、積極的な行動のできる人材を育成することを目指しています。

カリキュラムの特徴について

医療福祉学部は、リハビリテーション学科、看護学科の2学科から構成されています。リハビリテーション学科には理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚学専攻および視覚機能学専攻の4専攻があります。それぞれの学科・専攻の教育主目標の一つとして、リハビリテーション学科では理学療法士、作業療法士、言語聴覚士及び視能訓練士、看護学科では看護師、保健師の国家試験受験資格取得があります。何れも国家資格であり、全ての学科から多くの有資格卒業生が送り出され、先輩達は医療の現場で活躍しています。

これは、4年間を通して学ぶ教育課程が、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、看護師、保健師といったそれぞれの職業人としての専門性を備えるに十分な体系になっているからです。また、専門性を培うために必要な臨床実習、現場実習などの科目が組み込まれていますから、授業で学んだことをもとに実習に臨み、実習の臨床現場で刺激を受けて意欲を高め、さらに学ぶという積み重ねをとおして専門性を修得していくことになります。医療従事者は対象者の人生を支援する職業でもあります。その意味において、本学部では人を生物学的に捉えるのみならず、生活者としての視点を大切にしたいと考えています。

学部共通の専門職連携教育科目について

これからの時代において、医療・保健の専門職に就くためには、専門知識のみを学習し修得するだけでは十分ではありません。現代の医療や福祉の現場に求められているのは、医療・保健・福祉の多様な専門職が連携しながらサービスを提供する協働のチームワークです。したがって学生の皆さんには、専門性とともに他の専門職との協調を図る連携の姿勢、そしてそのための幅広い教養、人と関わるコミュニケーション能力が必要です。こうした連携と協働に向けた専門職連携の教育活動にも学部全体として取り組んでいます。その成果を生かし、学部共通科目として『専門職連携セミナー』を開設しています。皆さんにはこの専門職連携教育科目にも積極的に取り組まれることを期待しています。

本学部ではこのように4年間の学生生活が充実したものになることを考慮したカリキュラムを用意しています。入学された学生の皆さんすべてが将来の希望を実現できるよう全力で支援します。

(1)　リハビリテーション学科

本学科は理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚学専攻、視覚機能学専攻の4専攻から構成されています。各専攻とも医療系の専門職を目指し、医療人に求められる知識と豊かな資質を備えた人材の育成を目的としています。カリキュラムはそれぞれの専門職に必要な指定科目群から構成され、それらを学ぶ講義・実習のための施設設備・機器等が用意されています。

《理学療法学専攻》

1)　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・広い教養と豊かな人間性を備え、生命の尊厳に対し深い理解を示すことができる。

・理学療法士に必要とされる基本的な知識を修得している。

「思考・判断」
・身体運動学と運動生理学を基軸として、科学的根拠に基づき問題を解決できる。
「技能・表現」
・理学療法士の専門的技術のみならず、人を支援する専門職の一員として、他の専門職種と協働することができる。
「関心・意欲・態度」
・学際的な広い視野を持ち、自分を高める為に常に新しいことに取り組むことができる。
・多様な価値観の基に、人の生活全体に関心を持って支援できる。

2.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）
求める学生像
「知識・技能」
・高校で学習する国語、英語、数学、理科の基礎学力を有する人。
・課外活動等でリーダーシップを発揮したことのある人。
・課外活動等で他者をサポートした経験がある人。
「思考力・判断力・表現力」
・人との関わりを大切にし、様々な意見を受け入れながら、自身の考えを表現できる人。
・広い視野から考え、判断することができる人。
「主体的に、多様な人々と協働して学ぶ態度」
・理学療法士になりたい気持ちの強い人。
・社会の中で生活する人に関心がある人。
・相手を認めることができる人。
・課外活動等に一生懸命打ち込んだことがある人。
求める学習経験
・理学療法士の仕事について、見たり、聞いたり、調べたりしたことがある。
・身体の仕組みを理解する基礎として「生物」あるいは「化学」、運動を理解する基礎として「物理」を学習していることが望ましい。

3.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
ディプロマ・ポリシーを踏まえ、教育課程を編成し実施する。
「基礎科目」
・人の動作を運動学的及び生体力学的に理解することが要求されることから、数学、物理学、生物学、化学の基礎を学習する。また、医療専門職としての素養を醸成する多様な科目を配置している。
「専門基礎科目」
・基礎医学系と臨床医学系に大別し、人間の構造と機能及び心身の発達、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーション理念を多くの演習と実習を組み込みながら学習する。
「専門科目」
・専門分野は、基礎理学療法学、理学療法管理学、理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学、臨床実習に沿って系統的に学習できるように障害領域別の科目構成としている。
上記に加えて、理学療法士としての人間性を育むために、主に初年次に各種セミナーを多く配置する。

2）　カリキュラムの特徴

理学療法学専攻のカリキュラムは、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則（以下、指定規則）に定められた内容を全て含む科目構成で、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に分かれています。基礎分野と専門基礎分野は作業療法学専攻と共通する科目が多く、主として 1～2 年次の開講となっています。

専門分野は専攻独自の科目から成り、主に 2 年次以降に開講されますが、理学療法への興味と関心を持ち、専門分野への学習意欲を高めるための科目を 1 年次にも開講しています。学外の医療機関および福祉施設において実施される臨床実習（20 単位）は 2 年次から 4 年次に行われ、卒業要件に含まれる必修科

目です。

【基礎分野】

専門職を目指す者は、個人が生きていく上においても、身につけるべき知識と理解力などの教養を高め、人格を陶冶することが求められます。基礎分野の区分は、①「探求・理解プロジェクト」②「科学的思考の基礎」③「自己形成」④「ことばと相互理解」そして⑤「人と生活」の 5 群であり、各群に配置されている科目の中から各人の学習目的と卒業要件に沿って選択履修することになります。基礎分野での学習を通して、幅広い知識と科学的思考力を養う基礎を身につけるよう努めて下さい。国際語としては英語を必修とし、近隣国との提携を考えて中国語と韓国語を選択科目として配置しています。地域・社会・文化を広く学ぶ科目、医療情報科学・処理に関する基礎知識を習得できる科目などもあり、各人の希望に合わせた履修が可能です。また、理学療法では人の動作を運動学的および生体力学的に理解することが要求されることから、数学、物理学、生物学、化学の基礎も学べるようにしています。

【専門基礎分野】

指定規則に基づいて基礎医学系と臨床医学系に大別した構成とし、基礎医学系として①「人体の構造と機能及び心身の発達」を、臨床医学系として②「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」と③「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」を位置づけた構成になっています。

①「人体の構造と機能及び心身の発達」には、解剖学と生理学およびそれらの演習・実習を基礎として身体の構造と機能にかかわる科目を多く取り入れるとともに、人間生涯発達学を含めて人間の基本的な発達と心身の機構について総合的に学習します。②「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」には、神経障害系、運動器障害系、精神障害系、発達障害系、内部障害系のそれぞれに発生する疾病の成り立ちとその治療について学習します。③「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」には、リハビリテーション概論や公衆衛生学、医療経済論などに加え、地域医療を支える専門職に求められている多職種連携に基づくチームアプローチについて学科・専攻の垣根を越えて共に学習・実習できる科目が配置されています。

【専門分野】

指定規則に定められた①「基礎理学療法学」②「理学療法管理学」③「理学療法評価学」④「理学療法治療学」⑤「地域理学療法学」⑥「臨床実習」の 6 区分に⑦「特別科目」を加えた 7 つの区分で専門科目を構成しています。各区分に配置した科目は、理学療法士に必要な知識と技術を系統的に学習できるように障害領域別とし、それを各年次の積み上げによって習得できる構成になっています。また、特に専門科目では、問題解決能力の向上を目的として演習・実習形態の科目が多く配置されていることが特徴です。学外の医療機関および福祉施設での臨床実習は、規定に基づいて必修科目の単位修得を前提に履修可能となります。

1 年次に「理学療法学概論」「理学療法学基礎演習」「理学療法評価技術演習」などの専門科目を履修するとともに、「基礎セミナーⅠ・Ⅱ」で少人数ゼミを行い、早い時期からの専門職への自覚を促します。2 年次には 1 年次に引き続き「基礎セミナーⅢ・Ⅳ」が行われます。加えて、理学療法評価学系科目である「運動動作分析演習」「臨床動作分析演習」、理学療法治療学系科目では「物理療法学」「義肢装具学」が開講され、障害別の「運動器理学療法演習」「小児理学療法演習」「神経理学療法演習」「内部障害理学療法演習」が始まります。2 年次前期の終わりには「臨床実習Ⅰ」（2 単位）が学外臨床施設で実施されます。3 年次では障害別の理学療法治療学系科目が多く配置されるとともに、11 月から 12 月中旬まで「臨床実習Ⅱ」（6 単位）、2 月に「地域理学療法実習」（1 単位）が学外臨床施設で実施されます。また、理学療法学専攻の特色をより鮮明に打ち出した特別科目が多く配置されており、より深く・広く理学療法の世界を学ぶことができます。4 年次前期には「臨床実習Ⅲ」（11 単位）が配置され、それまでの学習成果が臨床の場で試されます。通年科目である「理学療法学特論」ではグループ活動を通して研究手法と発表スキルを学びます。

3）　学外実習

【臨床実習の目的と配当年次】

・臨床実習Ⅰ（2 年次前期、見学体験実習）

臨床実習指導者のもと、対象者に接する基本的姿勢や理学療法士としての在り方を学ぶとともに、理学療法の実践に必要な基本的検査・測定を体験します。見学と体験を通して知識・技術の不足点を認識するとともに検査・測定技術の信頼性と効率性を高めることを目的としています。

・臨床実習Ⅱ（3 年次通年、評価実習）
　臨床実習指導者のもと、情報収集、検査・測定、問題点抽出、介入目標の設定、介入計画策定までの一連の評価過程を実習します。
・地域理学療法実習（3 年次後期）
　通所あるいは訪問リハビリテーション現場での理学療法士や他の専門職・スタッフの業務見学と体験をとおして、生活期の人々を支える地域リハビリテーションの一端を学ぶことを目的とします。
・臨床実習Ⅲ（4 年次前期、総合実習）
　評価から介入という理学療法の実践過程を臨床実習指導者のもとで習得することを目的に実施します。とくに、理学療法計画の策定、理学療法技術の適用、計画のチェックと変更、帰結評価をとおして、介入効果を判断するとともに臨床技術の向上を図るようにします。

4）　授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表（別頁）

5）　カリキュラムツリー（別頁）

6）　進級要件
・東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則（別頁）

7）　カリキュラム配置図（別頁）

8）　授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表（別頁）

9）　目標とする国家試験・資格
・理学療法学専攻の卒業により理学療法士国家試験受験資格を取得
・国家試験に合格後、理学療法士免許を取得（厚生労働大臣）

10）　取得可能資格［団体認定資格］
【初級障がい者スポーツ指導員】
1.　初級障がい者スポーツ指導者について
　初級障がい者スポーツ指導者は公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が認定する資格であり、以下の役割を担います。
・主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する。
・障がいの基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識･技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視した指導ができる。
・地域の大会や行事に参加すると共に、指導者組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支える。
2.　履修方法
　本学在学中に資格を取得するためには、次の科目をすべて履修し、単位を取得しなければなりません。

本学開設科目名	単位	開講時期	選択・必修の別
アダプテッド・スポーツ論	2	3 年後期	選択科目
アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	3 年前期	選択科目

3.　資格申請の手続きについて
　必要な科目の単位取得を要件とし、資格取得希望者を大学がまとめて手続申請します。申請手続き等については必要単位取得後に別途案内します。
　申請手続きをする際は、申請･認定料 5,500 円※および登録料 3,800 円※を納める必要があります。また、資格を継続するためには登録料 3,800 円※を毎年納める必要があります（年度更新）。
（※金額が変更される可能性があります。）

11）　将来の仕事

理学療法士の国家資格を得て、将来の職場として目指すのは以下のような機関あるいは領域です。この他、卒業後は大学院などへの進学も可能となります。

・病院及び診療所等の医療施設、介護老人保健施設、障害者更生施設や療護施設等の福祉施設
・国及び地方自治体の医療・保健・福祉行政部門
・特別支援学校への参画や大学教員を含めた教育研究機関など

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【医療福祉学部　リハビリテーション学科　理学療法学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・広い教養と豊かな人間性を備え、生命の尊厳に対し深い理解を示すことができる。 ・理学療法士に必要とされる基本的な知識を修得している。
②	「思考・判断」	・身体運動学と運動生理学を基軸として、科学的根拠に基づき問題を解決できる。
③	「技能・表現」	・理学療法士の専門的技術のみならず、人を支援する専門職の一員として、他の専門職種と協働することができる。
④	「関心・意欲・態度」	・学際的な広い視野を持ち、自分を高める為に常に新しいことに取り組むことができる。 ・多様な価値観の基に、人の生活全体に関心を持って支援できる。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2		○			◎
		生命を考える	1 通		2		○			◎
		現代社会を視る	1 通		2		○			◎
		生活の中の科学	1 通		2		○			◎
		社会活動入門	1 通		2		○			◎
		経済・法律・世界を視る	1 通		2		○			◎
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1 前	2			◎	○		
		統計解析	4 前	1			◎	○		
		医療情報科学	1 後		1		◎	○		
		医療のための基礎数学	1 前		2		◎	○		
		生活の中の物理学	1 前		2		◎	○		
		生活の中の化学	1 前		2		◎	○		
		生活の中の生物学	1 前		2		◎	○		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	2					○	◎
		スポーツ実技	1 前		1				◎	○
		心理学概論	1 後		2		◎			○
		生命倫理学	1 後	1			◎			○
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			◎			○
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1			◎			○
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		◎			○
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		◎			○
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		◎			○
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		◎			○
		海外研修	1・2・3・4 通		2				○	◎
		コミュニケーション論	1 前		2		◎			○
		現代国語表現	1 前		2		◎			○
	人と生活	健康科学	1 前	1			○			◎
		教育学	1 後		2		◎			○
		教育方法論	2 前		2		◎			○
		憲法と法律	2 前		2		○			◎
		文化人類学	2 前		2		○			◎
		東北の歴史	2 前		2		○			◎
		現代史	2 前		2		○			◎

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	人と生活	哲学	1後		2		○			◎
		ジェンダー論	1後		2		○			◎
		生活と地球科学	2後		2		○			◎
		生活と経済	2後		2		○			◎
		教養としての政治学	2後		2		○			◎
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	2			◎	◎		
		解剖学実習	1前	1			◎	◎		
		解剖学Ⅱ	1後	2			◎	◎		
		基礎運動学	1前	2			◎	◎		
		身体運動学演習	1後	1			◎	◎		
		運動制御論	2前	1			◎	◎		
		身体運動学実習	2後	1				◎	◎	
		生理学Ⅰ	1前	2			◎	◎		
		生理学Ⅱ	1後	2			◎	◎		
		人間生涯発達学	2前	2			◎	◎		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	1後	2			◎	◎		
		内部障害系病学	2前	2			◎	◎		
		神経障害系病学	2前	2			◎	◎		
		運動器障害系病学	2前	2			◎	◎		
		精神障害系病学	2前	2			◎	◎		
		発達障害系病学	2後	1			◎	◎		
		栄養学概論	2後	1			◎	◎		
		救命救急学演習	2後	1			◎		◎	
		臨床心理学	2前	2			◎	◎		
		リハビリテーション医学	1後	2			◎	◎		
		病態薬理学	3前	1			◎	◎		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1前		1		◎			◎
		チーム医療福祉論	1後	1				◎	◎	
		保健医療福祉概論	2後	2				◎	◎	
		専門職連携論	3前	2				◎	◎	
		専門職連携セミナー	3後		1			◎	◎	
		公衆衛生学	3前		1		◎			◎
		医療経済論	2後		1		◎			◎
		リハビリテーション心理	3前		1		◎	◎		
		重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4後		1		○			◎
専門科目	理学療法学基礎	理学療法学概論	1前	2			◎			◎
		理学療法学基礎演習Ⅰ	1前	1			◎			◎
		理学療法学基礎演習Ⅱ	1後	1			◎		◎	
		理学療法障害論	3前	2			◎	◎		
	理学療法管理学	理学療法管理学	3後	2			◎	◎		
	理学療法評価学	理学療法評価学演習Ⅰ	1後	2			◎		◎	
		理学療法評価学演習Ⅱ	2前	2			◎		◎	
		運動動作分析演習	2前	1			◎		◎	
		臨床動作分析演習	2後	1				◎	◎	
	理学療法治療学	運動療法学演習	2前	2				◎	◎	
		運動器理学療法演習Ⅰ	2後	1			◎	◎		
		運動器理学療法演習Ⅱ	3前	1			◎		◎	
		運動器理学療法演習Ⅲ	3後	1				◎	◎	

授業科目の名称			配当年次	単位数			ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	理学療法治療学	小児理学療法演習Ⅰ	2後	1			◎	◎		
		小児理学療法演習Ⅱ	3前	1			◎	◎		
		神経理学療法演習Ⅰ	2後	1			◎		◎	
		神経理学療法演習Ⅱ	3前	1			◎		◎	
		神経理学療法演習Ⅲ	3後	1				◎	◎	
		内部障害理学療法演習Ⅰ	2後	1			◎	◎		
		内部障害理学療法演習Ⅱ	3前	1			◎		◎	
		内部障害理学療法演習Ⅲ	3後	1			◎		◎	
		総合理学療法学演習	3後	1			◎			◎
		義肢装具学演習	2後	1			◎	◎		
		義肢装具学実習	3前	1				◎	◎	
		物理療法学演習	2後	1			◎	◎		
		物理療法学実習	3前	1				◎	◎	
		日常生活活動演習Ⅰ	3前	1			◎		◎	
		日常生活活動演習Ⅱ	3後	1			◎		◎	
	地域理学療法学	地域理学療法学演習Ⅰ	3前	2			◎			◎
		地域理学療法学演習Ⅱ	3後	1			◎			◎
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	2前	2				◎	◎	
		臨床実習Ⅱ	3通	6				◎	◎	
		地域理学療法実習	3後	1				◎	◎	
		臨床実習Ⅲ	4前	11				◎	◎	
	特別科目	基礎セミナーⅠ	1前	1					◎	◎
		基礎セミナーⅡ	1後	1					◎	◎
		基礎セミナーⅢ	2前	1					◎	◎
		基礎セミナーⅣ	2後	1					◎	◎
		夏季集中セミナー	1前		1				◎	◎
		動物理学療法	3後		1		○			◎
		ハンドリング技術演習	2後		1		◎		◎	
		地域理学療法セミナー	3前		1				◎	◎
		スポーツ理学療法セミナー	3後		1				◎	◎
		ウイメンズ・メンズ理学療法	3後		1		○			◎
		医学英語	3後		1		◎			◎
		福祉住環境論	3前		1		◎			◎
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	3前		1				◎	◎
		アダプテッド・スポーツ論	3後		2				◎	◎
		理学療法学特論	4通	1				◎		◎
		理学療法学特別演習Ⅰ	3前	1			◎	◎		
		理学療法学特別演習Ⅱ	4後	1			◎			◎

※ 2024 年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025 年度シラバスで確認してください。

理学療法学専攻　カリキュラムツリー

基礎科目	基礎専門科目	専門科目
		学外の臨床実習

ゴシック体：必須科目，*明朝体：選択科目*

4年生

理学療法学特論，理学療法学特別演習Ⅱ

臨床実習Ⅲ

ことばと相互理解(海外研修)　統計解析

3年生

臨床実習Ⅱ、地域理学療法実習

理学療法管理学 理学療法障害論	運動器 理学療法演習 Ⅱ・Ⅲ *スポーツ理学療法* *セミナー*	小児 理学療法演習Ⅱ	神経 理学療法演習 Ⅱ・Ⅲ	内部障害系 理学療法演習 Ⅱ・Ⅲ	地域理学療法演習 Ⅰ・Ⅱ *地域理学療法* *セミナー* *福祉住環境論*	

総合理学療法学演習，義肢装具学実習，物理療法学実習，日常生活活動演習Ⅰ，日常生活活動演習Ⅱ，理学療法学特別演習Ⅰ
動物理学療法，ウイメンズ・メンズ理学療法，医学英語，アダプテッド・スポーツ論，アダプテッド・スポーツ基礎実習

専門職連携論，*専門職連携セミナー，公衆衛生学，リハビリテーション心理，重度障がい者自立生活支援演習*

ことばと相互理解(海外研修)

2年生

臨床実習Ⅰ

基礎セミナーⅢ 基礎セミナーⅣ	運動器 理学療法演習Ⅰ	小児 理学療法演習Ⅰ	神経 理学療法演習Ⅰ	内部障害 理学療法演習Ⅰ	
	運動器障害系 病学	発達障害系 病学	神経障害系 病学	内部障害系 病学	

運動療法学演習，義肢装具学演習，物理療法学演習，*ハンドリング技術演習*

理学療法評価学演習Ⅱ，運動動作分析演習，臨床動作分析演習

保健医療福祉概論，*医療経済論，重度障がい者自立生活支援演習*

精神障害系病学，栄養学概論，救命救急学演習，臨床心理学

運動制御論，身体運動学実習，人間生涯発達学

ことばと相互理解(海外研修)
人と生活(教育方法論，憲法と法律，文化人類学，東北の歴史，現代史，生活と地球科学，生活と経済，教養としての政治学)

1年生

初年次セミナー 基礎セミナーⅠ 基礎セミナーⅡ *夏季集中セミナー*	理学療法評価技術演習Ⅰ
	理学療法学概論，理学療法学基礎演習Ⅰ，理学療法学基礎演習Ⅱ

チーム医療福祉論，*リハビリテーション概論，重度障がい者自立生活支援演習*

臨床医学総論，リハビリテーション医学

解剖学Ⅰ，解剖学Ⅱ，解剖学実習，生理学Ⅰ，生理学Ⅱ，基礎運動学，身体運動学演習

探求・理解プロジェクト(輝ける者，生命を考える，現代社会を視る，生活の中の科学，社会活動入門，経済・法律・世界を視る)
科学的思考の基礎(データサイエンス入門，医療情報科学，医療のための基礎数学，生活の中の物理学，生活の中の化学，生活の中の生物学)
自己形成(アカデミック・スキル演習，スポーツ実技，心理学概論，生命倫理学)
ことばと相互理解(英語コミュニケーションⅠ，英語コミュニケーションⅡ，韓国語コミュニケーションⅠ，韓国語コミュニケーションⅡ，中国語コミュニケーションⅠ，中国語コミュニケーションⅡ，海外研修，コミュニケーション論，現代国語表現)
人と生活(健康科学，教育学，哲学，ジェンダー論)

医療専門職の倫理観を学ぶ ／ 運動器障害・スポーツ障害の理学療法を学ぶ ／ 発達障害・小児の理学療法を学ぶ ／ 神経障害系理学療法をを学ぶ ／ 内部障害系・呼吸循環器の理学療法を学ぶ ／ 地域における理学療法を学ぶ ／ 研究活動計測技術を学ぶ

医療福祉学部　リハビリテーション学科　理学療法学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	医療情報科学					統計解析	
		医療のための基礎数学							
		生活の中の物理学							
		生活の中の化学							
		生活の中の生物学							
	自己形成	アカデミック・スキル演習							
		スポーツ実技	生命倫理学						
			心理学概論						
	言葉と相互理解	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		コミュニケーション論							
		現代国語表現							
		海外研修							
	人と生活	健康科学	教育学	教育方法論	生活と地球科学				
			哲学	憲法と法律	生活と経済				
			ジェンダー論	文化人類学	教養としての政治学				
				東北の歴史					
				現代史					
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	解剖学Ⅱ	運動制御論	身体運動学実習				
		解剖学実習	身体運動学演習	人間生涯発達学					
		基礎運動学	生理学Ⅱ						
		生理学Ⅰ							
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		臨床医学総論	内部障害系病学	発達障害系病学	病態薬理学			
			リハビリテーション医学	神経障害系病学	栄養学概論				
				運動器障害系病学	救命救急学演習				
				精神障害系病学					
				臨床心理学					
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	チーム医療福祉論		保健医療福祉概論	専門職連携論	専門職連携セミナー		
					医療経済論	公衆衛生学			
			重度障がい者自立生活支援演習		重度障がい者自立生活支援演習	リハビリテーション心理	重度障がい者自立生活支援演習		重度障がい者自立生活支援演習
		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期

必　修

選　択

医療福祉学部　リハビリテーション学科　理学療法学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期
専門科目	基礎理学療法学	理学療法学概論 理学療法学基礎演習 I	理学療法学基礎演習 II			理学療法障害論			
	理学療法管理学						理学療法管理学		
	理学療法評価学		理学療法評価学演習 I	理学療法評価学演習 II 運動動作分析演習	臨床動作分析演習				
	理学療法治療学			運動療法学演習	運動器理学療法演習 I 小児理学療法演習 I 神経理学療法演習 I 内部障害理学療法演習 I 義肢装具学演習 物理療法学演習	運動器理学療法演習 II 小児理学療法演習 II 神経理学療法演習 II 内部障害理学療法演習 II 義肢装具学実習 物理療法学実習 日常生活活動演習 I	運動器理学療法演習 III 神経理学療法演習 III 内部障害理学療法演習 III 総合理学療法学演習 日常生活活動演習 II		
	地域理学療法学					地域理学療法学演習 I	地域理学療法学演習 II		
	臨床実習			臨床実習 I		臨床実習 II	地域理学療法実習	臨床実習 III	
	特別科目	基礎セミナー I 夏季集中セミナー	基礎セミナー II	基礎セミナー III	基礎セミナーIV ハンドリング技術演習	理学療法学特別演習 I 地域理学療法セミナー 福祉住環境論 アダプテッド・スポーツ基礎実習	動物理学療法 スポーツ理学療法セミナー ウイメンズ・メンズ理学療法 アダプテッド・スポーツ論 医学英語	理学療法学特論	理学療法学特別演習 II
		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期

必　修
選　択

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
〔リハビリテーション学科・理学療法学専攻〕

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	01	01	1	25	1	1通		2		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	01	01	1	25	2	1前・1後		2		
		現代社会を視る	1	01	01	1	25	3	1前・1後		2		
		生活の中の科学	1	01	01	1	25	4	1前・1後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	01	01	1	25	5	1前・1後		2		
		社会活動入門	1	01	01	1	25	6	1前・1後		2		
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1	01	02	1	25	7	1前	2			
		統計解析	1	01	02	1	25	8	4前	1			
		医療情報科学	1	01	02	1	25	9	1後		1		選択科目5科目から1単位以上修得すること。
		医療のための基礎数学	1	01	02	1	25	10	1前		2		
		生活の中の物理学	1	01	02	1	25	11	1前		2		
		生活の中の化学	1	01	02	1	25	12	1前		2		
		生活の中の生物学	1	01	02	1	25	13	1前		2		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	01	02	1	25	14	1通	2			
		スポーツ実技	1	01	02	1	25	15	1前		1		
		心理学概論	1	01	02	1	25	16	1後		2		
		生命倫理学	1	01	02	1	25	17	1後	1			
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1	01	02	1	25	18	1前	1			
		英語コミュニケーションⅡ	1	01	02	1	25	19	1後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	01	02	1	25	20	1前		1		
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	01	02	1	25	21	1後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	01	02	1	25	22	1前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	01	02	1	25	23	1後		1		
		海外研修	1	01	02	1	25	24	1通		2		
		コミュニケーション論	1	01	02	1	25	25	1前		2		
		現代国語表現	1	01	02	1	25	26	1前		2		
	人と生活	健康科学	1	01	02	1	25	27	1前	1			
		教育学	1	01	02	1	25	28	1後		2		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		教育方法論	1	01	02	1	25	29	2前		2		
		憲法と法律	1	01	02	1	25	30	2前		2		
		文化人類学	1	01	02	1	25	31	2前		2		
		東北の歴史	1	01	02	1	25	32	2前		2		
		現代史	1	01	02	1	25	33	2前		2		
		哲学	1	01	02	1	25	34	1後		2		選択科目5科目から2単位以上修得すること。
		ジェンダー論	1	01	02	1	25	35	1後		2		
		生活と地球科学	1	01	02	1	25	36	2後		2		
		生活と経済	1	01	02	1	25	37	2後		2		
		教養としての政治学	1	01	02	1	25	38	2後		2		
	基礎科目の合計									9	56	0	20単位以上修得すること。
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	01	03	2	25	39	1前	2			
		解剖学実習	1	01	03	2	25	40	1前	1			
		解剖学Ⅱ	1	01	03	2	25	41	1後	2			
		基礎運動学	1	01	03	2	25	42	1前	2			
		身体運動学演習	1	01	03	2	25	43	1後	1			
		運動制御論	1	01	03	2	25	44	2前	1			
		身体運動学実習	1	01	03	2	25	45	2後	1			
		生理学Ⅰ	1	01	03	2	25	46	1前	2			
		生理学Ⅱ	1	01	03	2	25	47	1後	2			
		人間生涯発達学	1	01	03	2	25	48	2前	2			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	1	01	03	2	25	49	1後	2			
		内部障害系病学	1	01	03	2	25	50	2前	2			
		神経障害系病学	1	01	03	2	25	51	2前	2			
		運動器障害系病学	1	01	03	2	25	52	2前	2			
		精神障害系病学	1	01	03	2	25	53	2前	2			
		発達障害系病学	1	01	03	2	25	54	2後	1			
		栄養学概論	1	01	03	2	25	55	2後	1			
		救命救急学演習	1	01	03	2	25	56	2後	1			
		臨床心理学	1	01	03	2	25	57	2前	2			
		リハビリテーション医学	1	01	03	2	25	58	1後	2			
		病態薬理学	1	01	03	2	25	59	3前	1			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1	01	03	2	25	60	1前		1		
		チーム医療福祉論	1	01	03	2	25	61	1後	1			
		保健医療福祉概論	1	01	03	2	25	62	2後	2			
		専門職連携論	1	01	03	2	25	63	3前	2			
		専門職連携セミナー	1	01	03	2	25	64	3後		1		選択科目4科目から1単位以上修得すること。
		公衆衛生学	1	01	03	2	25	65	3前		1		
		医療経済論	1	01	03	2	25	66	2後		1		
		リハビリテーション心理	1	01	03	2	25	67	3前		1		
		重度障がい者自立生活支援演習	1	01	03		25	68	1・2・3・4後		1		
	専門基礎分野の合計									39	6	0	40単位以上修得すること。

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
〔リハビリテーション学科・理学療法学専攻〕

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	理学療法学基礎	理学療法学概論	1	01	04	2	25	69	1前	2			
		理学療法学基礎演習Ⅰ	1	01	04	2	25	70	1前	1			
		理学療法学基礎演習Ⅱ	1	01	04	2	25	71	1後	1			
		理学療法障害論	1	01	04	2	25	72	3前	2			
	理学療法管理学	理学療法管理学	1	01	04	3	25	73	3後	2			
	理学療法評価学	理学療法評価学演習Ⅰ	1	01	04	3	25	74	1後	2			
		理学療法評価学演習Ⅱ	1	01	04	3	25	75	2前	2			
		運動動作分析演習	1	01	04	3	25	76	2前	1			
		臨床動作分析演習	1	01	04	3	25	77	2後	1			
	理学療法治療学	運動療法学演習	1	01	04	3	25	78	2前	2			
		運動器理学療法演習Ⅰ	1	01	04	3	25	79	2後	1			
		運動器理学療法演習Ⅱ	1	01	04	3	25	80	3前	1			
		運動器理学療法演習Ⅲ	1	01	04	3	25	81	3後	1			
		小児理学療法演習Ⅰ	1	01	04	3	25	82	2後	1			
		小児理学療法演習Ⅱ	1	01	04	3	25	83	3前	1			
		神経理学療法演習Ⅰ	1	01	04	3	25	84	2後	1			
		神経理学療法演習Ⅱ	1	01	04	3	25	85	3前	1			
		神経理学療法演習Ⅲ	1	01	04	3	25	86	3後	1			
		内部障害理学療法演習Ⅰ	1	01	04	3	25	87	2後	1			
		内部障害理学療法演習Ⅱ	1	01	04	3	25	88	3前	1			
		内部障害理学療法演習Ⅲ	1	01	04	3	25	89	3後	1			
		総合理学療法学演習	1	01	04	3	25	90	3後	1			
		義肢装具学演習	1	01	04	3	25	91	2後	1			
		義肢装具学実習	1	01	04	3	25	92	3前	1			
		物理療法学演習	1	01	04	3	25	93	2後	1			
		物理療法学実習	1	01	04	3	25	94	3前	1			
		日常生活活動演習Ⅰ	1	01	04	3	25	95	3前	1			
		日常生活活動演習Ⅱ	1	01	04	3	25	96	3後	1			
	地域理学療法学	地域理学療法学演習Ⅰ	1	01	04	3	25	97	3前	2			
		地域理学療法学演習Ⅱ	1	01	04	3	25	98	3後	1			
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	1	01	04	4	25	99	2前	2			
		臨床実習Ⅱ	1	01	04	4	25	100	3通	6			
		地域理学療法実習	1	01	04	4	25	101	3後	1			
		臨床実習Ⅲ	1	01	04	4	25	102	4前	11			
	特別科目	基礎セミナーⅠ	1	01	04	1	25	103	1前	1			
		基礎セミナーⅡ	1	01	04	1	25	104	1後	1			
		基礎セミナーⅢ	1	01	04	2	25	105	2前	1			
		基礎セミナーⅣ	1	01	04	2	25	106	2後	1			
		夏季集中セミナー	1	01	04	1	25	107	1前		1		
		動物理学療法	1	01	04	2	25	108	3後		1		
		ハンドリング技術演習	1	01	04	2	25	109	2後		1		
		地域理学療法セミナー	1	01	04	3	25	110	3前		1		選択科目5科目から2単位以上修得すること。
		スポーツ理学療法セミナー	1	01	04	3	25	111	3後		1		
		ウイメンズ・メンズ理学療法	1	01	04	2	25	112	3後		1		
		医学英語	1	01	04	3	25	113	3後		1		
		福祉住環境論	1	01	04	3	25	114	3前		1		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	01	04	1	25	115	3前		1		
		アダプテッド・スポーツ論	1	01	04	1	25	116	3後		2		
		理学療法学特論	1	01	04	4	25	117	4通	1			
		理学療法学特別演習Ⅰ	1	01	04	4	25	118	3前	1			
		理学療法学特別演習Ⅱ	1	01	04	4	25	119	4後	1			
専門科目の合計										64	11	0	66単位以上修得すること。
理学療法学専攻の総合計										112	73	0	126単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
基礎科目	9	11	20
専門基礎科目	39	1	40
専門科目	64	2	66
合計	112	14	126

2020～2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
〔リハビリテーション学科・理学療法学専攻〕

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	01	01	1	20	1	1通		3		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	01	01	1	20	2	1前･1後		2		
		人間文化探求	1	01	01	1	20	3	1通		2		
		生活の中の科学	1	01	01	1	20	4	1前･1後		2		
		地域活動・ボランティア	1	01	01	1	20	5	1通		2		
		現代社会を視る	1	01	01	1	20	6	1前･1後		2		
		ボランティア探求	1	01	01	1	20	7	2通		2		
	科学的思考の基礎	情報処理	1	01	02	1	20	8	1前		1		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		医療情報科学	1	01	02	1	20	9	1後		1		
		医療数理基礎	1	01	02	1	20	10	1前		1		
		基礎数学	1	01	02	1	20	11	1後		2		
		基礎物理学	1	01	02	1	20	12	1前	2			
		基礎化学	1	01	02	1	20	13	1前		2		
		基礎生物学	1	01	02	1	20	14	1前		2		
		統計解析	1	01	02	1	20	15	1後	2			
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	01	02	1	20	16	1通	1			
		スポーツ実技	1	01	02	1	20	17	1前		1		
		心理学	1	01	02	1	20	18	1後		2		
		生命倫理	1	01	02	1	20	19	1前	1			
	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1	01	02	1	20	20	1通	2			選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		英語Ⅱ	1	01	02	1	20	21	2通		2		
		韓国語	1	01	02	1	20	22	1前		1		
		中国語	1	01	02	1	20	23	1前		1		
		コミュニケーション論	1	01	02	1	20	24	1前		2		
		現代国語表現	1	01	02	1	20	25	1前		2		
		海外研修	1	01	02	1	20	26	1･2･3･4通		2		
	人と生活	憲法と法律	1	01	02	1	20	27	2前		2		
		文化人類学	1	01	02	1	20	28	2前		2		
		日本・東北文化論	1	01	02	1	20	29	2前		2		
		日本近代史	1	01	02	1	20	30	2前		2		
		健康科学	1	01	02	1	20	31	2前		2		
		教育学Ⅰ	1	01	02	1	20	32	2前		2		選択科目7科目から3単位以上修得すること。
		教育学Ⅱ	1	01	02	2	20	33	4後		2		
		地球の科学	1	01	02	2	20	34	4後		1		
		哲学	1	01	02	2	20	35	4後		1		
		生活と経済	1	01	02	2	20	36	4後		1		
		ジェンダー論	1	01	02	2	20	37	4後		1		
		政治学	1	01	02	2	20	38	4後		1		
	基礎科目の合計									8	56	0	20単位以上修得すること。
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	01	03	2	20	39	1前	2			
		解剖学実習	1	01	03	2	20	40	1前	1			
		解剖学Ⅱ	1	01	03	2	20	41	1後	2			
		基礎運動学	1	01	03	2	20	42	1前	2			
		身体運動学演習	1	01	03	2	20	43	1後	1			
		運動制御論	1	01	03	2	20	44	2前	2			
		身体運動学実習	1	01	03	2	20	45	2前	1			
		生理学Ⅰ	1	01	03	2	20	46	1前	2			
		生理学Ⅱ	1	01	03	2	20	47	1後	2			
		生理学実習	1	01	03	2	20	48	1後	1			
		人間生涯発達学	1	01	03	2	20	49	2前	2			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	1	01	03	2	20	50	1後	2			
		内部障害系病学	1	01	03	2	20	51	2前	2			
		神経障害系病学Ⅰ	1	01	03	2	20	52	2前	2			
		神経障害系病学Ⅱ	1	01	03	2	20	53	2後	1			
		運動器障害系病学	1	01	03	2	20	54	2前	2			
		精神障害系病学Ⅰ	1	01	03	2	20	55	2前	2			
		発達障害系病学	1	01	03	2	20	56	2後	1			
		老年期病学	1	01	03	2	20	57	2後	1			
		栄養学概論	1	01	03	2	20	58	2後	1			
		救命救急学演習	1	01	03	2	20	59	1後	1			
		臨床心理学	1	01	03	2	20	60	2前	2			
		リハビリテーション医学	1	01	03	2	20	61	2前	1			
		病態薬理学	1	01	03	2	20	62	3前	1			

2020～2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
〔リハビリテーション学科・理学療法学専攻〕

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1	01	03	2	20	63	1 後		1		
		チーム医療福祉論	1	01	03	2	20	64	1 後	1			
		保健医療福祉概論	1	01	03	2	20	65	2 後	2			
		専門職連携論	1	01	03	2	20	66	3 前	2			
		専門職連携セミナー	1	01	03	2	20	67	3 後		1		選択科目 4 科目から 1 単位以上修得すること。
		公衆衛生学	1	01	03	2	20	68	3 前		1		
		医療経済論	1	01	03	2	20	69	2 後		1		
		リハビリテーション心理	1	01	03	2	20	70	3 前		1		
	専門基礎科目の合計									42	5	0	43 単位以上修得すること。
専門科目	理学療法学 基礎理学	理学療法学概論	1	01	04	2	20	71	1 前	2			
		理学療法学基礎演習 I	1	01	04	2	20	72	1 前	1			
		理学療法学基礎演習 II	1	01	04	2	20	73	1 後	1			
		理学療法障害論	1	01	04	2	20	74	3 前	2			
	管理学	理学療法管理学	1	01	04	3	20	75	3 後	2			
	理学療法評価学	理学療法評価技術演習 I	1	01	04	3	20	76	1 後	2			
		理学療法評価技術演習 II	1	01	04	3	20	77	2 前	2			
		運動動作分析演習	1	01	04	3	20	78	2 前	1			
		臨床動作分析演習	1	01	04	3	20	79	2 後	1			
	理学療法治療学	運動療法学演習	1	01	04	3	20	80	2 前	2			
		運動器理学療法演習 I	1	01	04	3	20	81	2 後	1			
		運動器理学療法演習 II	1	01	04	3	20	82	3 前	1			
		運動器理学療法演習 III	1	01	04	3	20	83	3 後	1			
		小児理学療法演習 I	1	01	04	3	20	84	2 後	1			
		小児理学療法演習 II	1	01	04	3	20	85	3 前	1			
		神経理学療法演習 I	1	01	04	3	20	86	2 後	1			
		神経理学療法演習 II	1	01	04	3	20	87	3 前	1			
		神経理学療法演習 III	1	01	04	3	20	88	3 後	1			
		内部障害理学療法演習 I	1	01	04	3	20	89	2 後	1			
		内部障害理学療法演習 II	1	01	04	3	20	90	3 前	1			
		内部障害理学療法演習 III	1	01	04	3	20	91	3 後	1			
		総合理学療法学演習	1	01	04	3	20	92	3 後	1			
		義肢装具学	1	01	04	3	20	93	2 後	2			
		義肢装具学実習	1	01	04	3	20	94	3 前	1			
		物理療法学	1	01	04	3	20	95	2 後	2			
		物理療法学実習	1	01	04	3	20	96	3 前	1			
		日常生活活動演習 I	1	01	04	3	20	97	3 前	1			
		日常生活活動演習 II	1	01	04	3	20	98	3 後	1			
	地域理学療法学	地域理学療法学演習 I	1	01	04	3	20	99	3 前	2			
		地域理学療法学演習 II	1	01	04	3	20	100	3 後	1			
	臨床実習	臨床実習 I セミナー	1	01	04	4	20	101	2 後	1			
		臨床実習 I	1	01	04	4	20	102	2 後	2			
		臨床実習 II セミナー	1	01	04	4	20	103	3 前	1			
		臨床実習 II	1	01	04	4	20	104	3 後	7			
		地域理学療法実習	1	01	04	4	20	105	3 後	1			
		臨床実習 III セミナー	1	01	04	4	20	106	4 前	1			
		臨床実習 III	1	01	04	4	20	107	4 前	11			
	特別科目	基礎セミナー I	1	01	04	1	20	108	1 前	1			
		基礎セミナー II	1	01	04	1	20	109	1 後	1			
		基礎セミナー III	1	01	04	2	20	110	2 前	1			
		基礎セミナーIV	1	01	04	2	20	111	2 後	1			
		夏季集中セミナー	1	01	04	1	20	112	1 前		1		
		地域理学療法セミナー	1	01	04	3	20	113	3 前		1		選択科目 4 科目から 1 単位以上修得すること。
		スポーツ理学療法セミナー	1	01	04	3	20	114	3 後		1		
		ウイメンズヘルス	1	01	04	3	20	115	3 後		1		
		医学英語	1	01	04	3	20	116	3 後		1		
		福祉住環境論	1	01	04	3	20	117	3 前		2		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	01	04	1	20	118	3 前		1		
		アダプテッド・スポーツ論	1	01	04	1	20	119	3 後		2		
		理学療法学特論	1	01	04	4	20	120	4 通	2			
		理学療法学特別演習 I	1	01	04	4	20	121	3 前	1			
		理学療法学特別演習 II	1	01	04	4	20	122	4 後	1			
	専門科目の合計									71	10	0	72 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数 必修	選択	計
基礎科目	8	12	20
専門基礎科目	42	1	43
専門科目	71	1	72
合計	121	14	135

理学療法学専攻カリキュラム対照表

2020 ～ 2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	※			
生命を考える	1 前・1 後		2	生命を考える	1 前・1 後		2
人間文化探求	1 通		2	※			
生活の中の科学	1 前・1 後		2	生活の中の科学	1 前・1 後		2
地域活動・ボランティア	1 通		2	※			
現代社会を視る	1 前・1 後		2	現代社会を視る	1 前・1 後		2
ボランティア探求	2 通		2	※			
情報処理	1 前		1	※			
医療情報科学	1 後		1	医療情報科学	1 後		1
医療数理基礎	1 前		1	※			
基礎数学	1 後		2	医療のための基礎数学	1 前		2
基礎物理学	1 前	2		生活の中の物理学	1 前		2
基礎化学	1 前		2	生活の中の化学	1 前		2
基礎生物学	1 前		2	生活の中の生物学	1 前		2
統計解析	1 後	2		※			
アカデミック・スキル演習	1 通	1		アカデミック・スキル演習	1 通	2	
スポーツ実技	1 前		1	スポーツ実技	1 前		1
心理学	1 後		2	心理学概論	1 後		2
生命倫理	1 前	1		生命倫理学	1 後	1	
英語Ⅰ	1 通	2		英語コミュニケーションⅠ	1 前	1	
				英語コミュニケーションⅡ	1 後	1	
英語Ⅱ	2 通		2	※			
韓国語	1 前		1	韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1
中国語	1 前		1	中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1
コミュニケーション論	1 前		2	コミュニケーション論	1 前		2
現代国語表現	1 前		2	現代国語表現	1 前		2
海外研修	1･2･3･4 通		2	海外研修	1 通		2
憲法と法律	2 前		2	憲法と法律	2 前		2
文化人類学	2 前		2	文化人類学	2 前		2
日本・東北文化論	2 前		2	東北の歴史	2 前		2
日本近代史	2 前		2	※			
健康科学	2 前		2	※			
教育学Ⅰ	2 前		2	※			
教育学Ⅱ	4 後		2	※			
地球の科学	4 後		1	※			
哲学	4 後		1	※			
生活と経済	4 後		1	※			
ジェンダー論	4 後		1	※			
政治学	4 後		1	※			
解剖学Ⅰ	1 前	2		解剖学Ⅰ	1 前	2	
解剖学実習	1 前	1		解剖学実習	1 前	1	
解剖学Ⅱ	1 後	2		解剖学Ⅱ	1 後	2	
基礎運動学	1 前	2		基礎運動学	1 前	2	
身体運動学演習	1 後	1		身体運動学演習	1 後	1	
運動制御論	2 前	2		※			
身体運動学実習	2 前	1		身体運動学実習	2 後	1	
生理学Ⅰ	1 前	2		生理学Ⅰ	1 前	2	
生理学Ⅱ	1 後	2		生理学Ⅱ	1 後	2	
生理学実習	1 後	1		※			
人間生涯発達学	2 前	2		人間生涯発達学	2 前	2	
臨床医学総論	1 後	2		臨床医学総論	1 後	2	
内部障害系病学	2 前	2		内部障害系病学	2 前	2	
神経障害系病学Ⅰ	2 前	2		神経障害系病学	2 前	2	
神経障害系病学Ⅱ	2 後	1		※			
運動器障害系病学	2 前	2		運動器障害系病学	2 前	2	
精神障害系病学Ⅰ	2 前	2		精神障害系病学	2 前	2	
発達障害系病学	2 後	1		発達障害系病学	2 後	1	
老年期病学	2 後	1		※			
栄養学概論	2 後	1		栄養学概論	2 後	1	
救命救急学演習	1 後	1		救命救急学演習	2 後	1	
臨床心理学	2 前	2		臨床心理学	2 前	2	

理学療法学専攻カリキュラム対照表

2020 ～ 2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
リハビリテーション医学	2 前	1		リハビリテーション医学	1 後	2	
病態薬理学	3 前	1		病態薬理学	3 前	1	
リハビリテーション概論	1 後		1	リハビリテーション概論	1 前		1
チーム医療福祉論	1 後	1		チーム医療福祉論	1 後	1	
保健医療福祉概論	2 後	2		保健医療福祉概論	2 後	2	
専門職連携論	3 前	2		専門職連携論	3 前	2	
専門職連携セミナー	3 後		1	専門職連携セミナー	3 後		1
公衆衛生学	3 前		1	公衆衛生学	3 前		1
医療経済論	2 後		1	医療経済論	2 後		1
リハビリテーション心理	3 前		1	リハビリテーション心理	3 前		1
理学療法学概論	1 前	2		理学療法学概論	1 前	2	
理学療法学基礎演習 I	1 前	1		理学療法学基礎演習 I	1 前	1	
理学療法学基礎演習 II	1 後	1		理学療法学基礎演習 II	1 後	1	
理学療法障害論	3 前	2		理学療法障害論	3 前	2	
理学療法管理学	3 後	2		理学療法管理学	3 後	2	
理学療法評価技術演習 I	1 後	2		理学療法評価学演習 I	1 後	2	
理学療法評価技術演習 II	2 前	2		理学療法評価学演習 II	2 前	2	
運動動作分析演習	2 前	1		運動動作分析演習	2 前	1	
臨床動作分析演習	2 後	1		臨床動作分析演習	2 後	1	
運動療法学演習	2 前	2		運動療法学演習	2 前	2	
運動器理学療法演習 I	2 後	1		運動器理学療法演習 I	2 後	1	
運動器理学療法演習 II	3 前	1		運動器理学療法演習 II	3 前	1	
運動器理学療法演習 III	3 後	1		運動器理学療法演習 III	3 後	1	
小児理学療法演習 I	2 後	1		小児理学療法演習 I	2 後	1	
小児理学療法演習 II	3 前	1		小児理学療法演習 II	3 前	1	
神経理学療法演習 I	2 後	1		神経理学療法演習 I	2 後	1	
神経理学療法演習 II	3 前	1		神経理学療法演習 II	3 前	1	
神経理学療法演習 III	3 後	1		神経理学療法演習 III	3 後	1	
内部障害理学療法演習 I	2 後	1		内部障害理学療法演習 I	2 後	1	
内部障害理学療法演習 II	3 前	1		内部障害理学療法演習 II	3 前	1	
内部障害理学療法演習 III	3 後	1		内部障害理学療法演習 III	3 後	1	
総合理学療法学演習	3 後	1		総合理学療法学演習	3 後	1	
義肢装具学	2 後	2		※			
義肢装具学実習	3 前	1		義肢装具学実習	3 前	1	
物理療法学	2 後	2		※			
物理療法学実習	3 前	1		物理療法学実習	3 前	1	
日常生活活動演習 I	3 前	1		日常生活活動演習 I	3 前	1	
日常生活活動演習 II	3 後	1		日常生活活動演習 II	3 後	1	
地域理学療法学演習 I	3 前	2		地域理学療法学演習 I	3 前	2	
地域理学療法学演習 II	3 後	1		地域理学療法学演習 II	3 後	1	
臨床実習 I セミナー	2 後	1		※			
臨床実習 I	2 後	2		臨床実習 I	2 前	2	
臨床実習 II セミナー	3 前	1		※			
臨床実習 II	3 後	7		※			
地域理学療法実習	3 後	1		地域理学療法実習	3 後	1	
臨床実習 III セミナー	4 前	1		※			
臨床実習 III	4 前	11		臨床実習 III	4 前	11	
基礎セミナー I	1 前	1		基礎セミナー I	1 前	1	
基礎セミナー II	1 後	1		基礎セミナー II	1 後	1	
基礎セミナー III	2 前	1		基礎セミナー III	2 前	1	
基礎セミナー IV	2 後	1		基礎セミナー IV	2 後	1	
夏季集中セミナー	1 前		1	夏季集中セミナー	1 前		1
地域理学療法セミナー	3 前		1	地域理学療法セミナー	3 前		1
スポーツ理学療法セミナー	3 後		1	スポーツ理学療法セミナー	3 後		1
ウイメンズヘルス	3 後		1	ウイメンズ・メンズ理学療法	3 後		1
医学英語	3 後		1	医学英語	3 後		1
福祉住環境論	3 前		2	※			
アダプテッド・スポーツ基礎実習	3 前		1	アダプテッド・スポーツ基礎実習	3 前		1
アダプテッド・スポーツ論	3 後		2	アダプテッド・スポーツ論	3 後		2
理学療法学特論	4 通	2		※			
理学療法学特別演習 I	3 前	1		理学療法学特別演習 I	3 前	1	

理学療法学専攻カリキュラム対照表

2020 ～ 2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
理学療法学特別演習 II	4 後	1		理学療法学特別演習 II	4 後	1	
				輝ける者	1 通		2
				経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2
				社会活動入門	1 前・1 後		2
				データサイエンス入門	1 前	2	
				統計解析	4 前	1	
				韓国語コミュニケーション II	1 後		1
				中国語コミュニケーション II	1 後		1
				健康科学	1 前	1	
				教育学	1 後		2
				教育方法論	2 前		2
				現代史	2 前		2
				哲学	1 後		2
				ジェンダー論	1 後		2
				生活と地球科学	2 後		2
				生活と経済	2 後		2
				教養としての政治学	2 後		2
				運動制御論	2 前	1	
				重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4 後		1
				義肢装具学演習	2 後	1	
				物理療法学演習	2 後	1	
				臨床実習 II	3 通	6	
				動物理学療法	3 後		1
				ハンドリング技術演習	2 後		1
				福祉住環境論	3 前		1
				理学療法学特論	4 通	1	

注）※は別途開講する。

《作業療法学専攻》

1）　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・作業療法士の資格を取得し、実践するための基本的な知識を身につけている。

「思考・判断」

・情報を収集・分析することや柔軟に対応・解決する能力を身につけている。

「技能・表現」

・作業療法士としての基本的評価・治療技術を身につけている。

・円滑な対人交流を行う技術と論理的に説明できる表現力を身につけている。

「関心・意欲・態度」

・人や社会に関心を持ち、自ら学び続ける意欲を持っている。

・倫理観を持ち、他者を思いやる態度を身につけている。

2.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

「知識・技能」

・入学後の修学に必要な国語・数学・理科・英語の基本的な知識を有している人。

・学習を計画的に進めるための技能を有している人。

「思考力・判断力・表現力」

・探究心を持ち、論理的で柔軟な判断ができる人。

・判断したことを言葉で表現できる人。

「主体的に、多様な人々と協働して学ぶ態度」

・良好な人間関係を形成するための意思の伝達・受容ができる人。

・他者への敬意と思いやりがある人。

・困難に出会っても、あきらめずに努力できる人。

求める学習経験

・理科は「生物」「化学」「物理」のうち１つ以上を学習している。

・仲間と協力し合って課題に取り組んだことを一緒に喜び合った経験がある。

・作業療法士の仕事について調べたり、見学したりするなど自主的に学んだことがある。

3.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーを踏まえ、科目間のつながりに配慮しながら教育課程を編成し実施する。

「基礎科目」

・未来に向けて輝ける者を育むための全学共通科目を配置する。

・医療人（看護、リハビリテーション専門職）として共通する素養である広い教養と豊かな人間性を有し、生命の尊厳に対し深い理解を示す能力を養う科目を配置する。

「専門基礎科目」

・作業療法を学ぶ上で必要な基礎医学系と臨床医学系の科目を系統的に配置する。

・保健医療福祉とリハビリテーションの理念を学ぶための科目を配置する。さらにその中に医療人に求められる多職種連携を学ぶ科目を配置する。

「専門科目」

・作業療法に興味・関心を持ち、将来作業療法士として活躍する様子が想像できる科目群を系統的に配置する。

・作業療法の基盤となる専門知識を習得できるよう基礎作業療法学、作業療法管理学に関する科目を系統的に配置する。

・作業療法実践に必要な専門知識を習得できるよう作業療法評価学、作業療法治療学、地域作業療法学に関する科目を障害領域に配慮し系統的に配置する。

・臨床実践を系統的に学習・経験できるように臨床実習関連科目を配置する。

・基礎科目・専門基礎科目と専門科目をつなげられるように特別科目を配置する。

2）　カリキュラムの特徴

作業療法学専攻のカリキュラムは、理学療法士作業療法士養成施設指定規則に定められた内容を全て含む科目構成で、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に分かれています。基礎分野と専門基礎分野は理学療法学専攻と共通の科目構成で、主として 1〜2 年次の開講となっています。

専門分野は作業療法学専攻独自の科目構成で、作業療法士への志向を高めるために専門分野の基本となる数科目を 1 年次開講としています。学外の病院や施設で 2 年次から 4 年次に行う臨床実習（24 単位）は卒業要件に含まれる必修の科目です。

【基礎分野】

「輝ける者」を育むために全学で取り組む全学共通科目群と専門職としての自覚を持ち、積極的な行動のできる人材を育成することを目的に医療福祉学部で取り組む学部共通科目群（科学的思考の基礎、自己形成、ことばと相互理解、人と生活）から選択履修することになります。

作業療法士として必要な素養を身に着けてもらうために、各科目群には必修科目を設けています。それらの科目と自分の志向する科目を選択し、専門を学ぶ導入として組まれている基礎科目の多様な学習を通して、幅広い知識と科学的思考力を養う基礎を身につけるよう努めて貰いたいと願っています。また、2019 年度の養成施設指定規則の改正に伴い、将来作業療法士養成教育に携わりたいと希望する者には、教育学の履修が義務付けられました。

【専門基礎分野】

養成施設指定規則に基づいて基礎医学系と臨床医学系に大別し、基礎医学系として「人体の構造と機能及び心身の発達」を、臨床医学系として「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」を位置づけた科目構成となっています。

「人体の構造と機能」では、解剖学、生理学、運動学などを含め、「心身の発達」には人間生涯発達学を対応させ、人間の基本的な心身の機構について学習します。

「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」では、栄養・薬理・救急救命や臨床医学に関する総論、内部障害・神経障害・運動器障害・精神障害・老年・発達障害などの各種の一般臨床医学、リハビリテーション医学等の科目を通して、医用画像や予防を含めた、幅広い医学の基礎を学習します。

「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」では、リハビリテーション概論、公衆衛生、医療経済学の他、多職種連携の各種科目を通して、自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム及び多職種連携について学習します。

【専門分野】

養成施設指定規則に定められた基礎作業療法学、作業療法管理学、作業療法評価学、作業療法治療学、地域作業療法学、臨床実習に沿って、作業療法士として必要な知識と技術を系統的に学習できるように障害領域別の科目構成とし、各年次の積み上げによる履修を基本としています。学外の病院・施設での各臨床実習は学科規定に基づいて必修科目の修得を前提に履修可能となります。

早い時期から専門職への道を自覚するため、1 年次から「作業療法概論」「基礎作業学」「作業療法基礎評価学」などの専門科目を学びます。

作業療法実践に必要な専門知識は、作業療法評価学を 1 年次後期から 2 年次にかけて学び、作業療法治療学、地域作業療法学を 2 年次から 3 年次前期にかけて身体障害・精神障害・発達障害等、各障害領域に沿って、専門基礎科目の臨床医学系科目と並行しつつ系統的に学びます。

作業療法の臨床実践を系統的に学習・経験できるように、1 年次の臨床体験における見学実習を行い、2 年次からの臨床実習につなげていきます。

基礎科目・専門基礎科目と専門科目をつなげられるように配置された特別科目では、「基礎科目演習セミナー」で専門基礎科目での学びが専門科目にどのようにつながるかの道筋を示します。「作業療法研究法」では、臨床実習での学びと専門科目とのつながりを研究的視点から学び、4 年次の卒業研究につなげます。卒業研究では、指導教員の下でテーマの設定から、データ収集と解析、結果の公表の研究過程を学びます。さらに、4 年間の学びを総括するために、「作業療法学特別演習」を通して国家試験に向かいます。

3）　学外実習

【臨床実習の目的と配当年次】

・臨床実習Ⅰ（2 年次後期、評価計画立案実習）

実習指導者の下で、対象者やリハビリテーションチームの専門職に対する基本的な接し方や姿勢を学習するとともに、対象者との面接や情報収集を実施し、これらの情報をもとに対象者に必要な評価を考え、評価実施計画の立案を経験します。さらに立案した評価実施計画の一部を実施し、結果を整理する経験もします。

・臨床実習Ⅱ（3 年次後期、総合実習）

実習指導者の指導の下、前半の 3 週間の評価実習で事例を担当し、評価および作業療法計画立案の経験や、対象者の全体像を把握しながら作業療法の評価過程を学びます。後半の 7 週間の実践過程実習では、評価結果に基づき、介入の実施を経験し、経過に応じて効果判定（再評価）を行い、一連の作業療法の実践過程を学びます。

・臨床実習Ⅲ（4 年次前期、総合実習）

臨床実習Ⅱと同様に、実習指導者の指導の下、一連の作業療法の実践過程を学びます。さらに、対象者を取り巻く種々の背景や生活を考えながら、在宅生活、地域保健活動など幅広い視点をもった作業療法や対象者に関わる他職種との連携について考えます。また、作業療法士として進むべき方向性について考え、職業人としての意識を高めていきます。

・地域作業療法学実習（4 年次前期）

これからの地域包括ケアシステムに貢献できる作業療法士になるために、これまで学んだ地域作業療法学の知識を基礎に地域での作業療法の実践を実際の現場で、見学・体験します。医療領域に限らず保健福祉領域や障害種別・年齢層など多様に展開します。

4）　授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表（別頁）

5）　カリキュラムツリー（別頁）

6）　進級要件

東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則（別頁）

7）　カリキュラム配置図（別頁）

8）　授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表（別頁）

9）　その他（詳細は別に定める）

・実習概要
・卒業研究（特論）
・その他

10）　目標とする国家試験・資格

・作業療法学専攻の卒業により作業療法士国家試験の受験資格を取得
・国家試験に合格後、作業療法士免許を取得（厚生労働大臣）

11）　将来の仕事

作業療法士の国家資格を得て、将来の仕事として目指す職場は以下のようなものです。この他、卒業後は大学院などへの進学も可能となります。

・病院及び診療所等の医療施設、介護老人保健施設、障害者更生施設や療護施設等の障害者支援施設
・国及び地方自治体の医療・保健・福祉行政部門
・特別支援教育への参画や大学教員を含めた教育研究機関など（教育分野に進むには、基礎科目において教育学の単位取得が必須になります）

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【医療福祉学部　リハビリテーション学科　作業療法学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・作業療法士の資格を取得し、実践するための基本的な知識を身につけている。
②	「思考・判断」	・情報を収集・分析することや柔軟に対応・解決する能力を身につけている。
③	「技能・表現」	・作業療法士としての基本的評価・治療技術を身につけている。 ・円滑な対人交流を行う技術と論理的に説明できる表現力を身につけている。
④	「関心・意欲・態度」	・人や社会に関心を持ち、自ら学び続ける意欲を持っている。 ・倫理観を持ち、他者を思いやる態度を身につけている。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

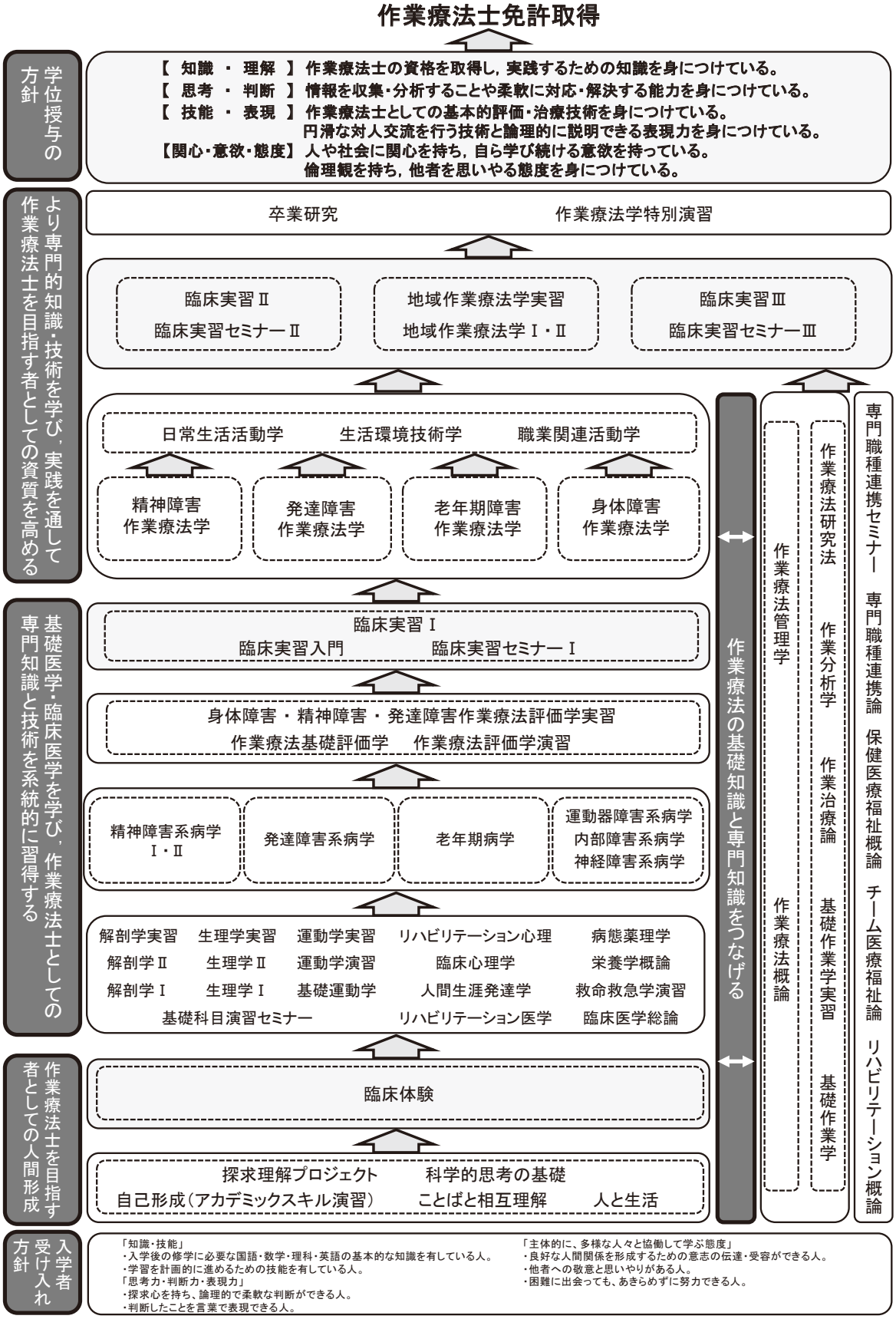
授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2			○		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2			○		○
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2			○		○
		社会活動入門	1 前・1 後		2			○		○
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1 前	2			◎	◎		
		生活の中の物理学	1 後		2		◎	◎		
		生活の中の化学	1 前		2		◎	◎		
		生活の中の生物学	1 前		2		◎	◎		
		統計解析	1 後		2		○	◎		
		医療情報科学	1 後		1			◎		○
		医療のための基礎数学	1 前		1		◎	◎		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	2					◎	◎
		スポーツ実技	1 前		1				○	○
		心理学概論	1 後	2			◎		◎	○
		生命倫理学	1 後	1			◎	◎	◎	◎
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			◎	○	◎	
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1			◎	○	◎	
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		◎	○	◎	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		◎	○	◎	
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		◎	○	◎	
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		◎	○	◎	
		コミュニケーション論	1 前		2				○	◎
		現代国語表現	1 前		2				○	◎
		海外研修	1 通		2		○			◎
	人と生活	健康科学	1 前	1			○			◎
		教育学	1 後		2		◎	◎		
		教育方法論	2 前		2		◎	◎		
		哲学	1 後		2		○			◎
		現代史	2 前		2		○			○
		東北の歴史	2 前		2		○			○
		ジェンダー論	1 後		2		○			◎
		憲法と法律	1 前		2		○			◎
		文化人類学	2 前		2		○			◎

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	人と生活	生活と地球科学	2後		2		○			◎
		生活と経済	2後		2		○			◎
		教養としての政治学	2後		2		○			◎
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	2			◎	○		
		解剖学実習	1前	1			◎	○		
		解剖学Ⅱ	1後	2			◎	○		
		基礎運動学	1前	2			◎	◎		
		運動学演習	1後	1			◎	◎		
		運動学実習	2前	1			◎	○		
		生理学Ⅰ	1前	2			◎	◎		
		生理学Ⅱ	1後	2			◎	◎		
		生理学実習	1後	1			◎	◎		
		人間生涯発達学	2前	2			◎			○
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	1後	2			◎	◎		
		内部障害系病学	2前	2			◎	◎		
		神経障害系病学	2前	2			◎	◎		
		運動器障害系病学	2前	2			◎	◎		
		精神障害系病学Ⅰ	2前	2			◎	◎		
		精神障害系病学Ⅱ	2後	2			◎	◎		
		発達障害系病学	2後	1			◎	◎		
		老年期病学	2後	1			◎	◎		
		臨床心理学	2前	2			◎	◎	◎	
		栄養学概論	2後	1			◎	◎		
		救命救急学演習	1後	1			◎			○
		リハビリテーション医学	1後	1			◎	◎		
		病態薬理学	3前	1			◎	○		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1前	1			◎	◎		
		リハビリテーション心理	3前		1		◎		◎	
		医療経済論	2後		1		◎			○
		公衆衛生学	3前		1		◎			○
		チーム医療福祉論	1後	1			◎			◎
		保健医療福祉概論	2後	2			◎			◎
		専門職連携論	3前	2			◎			◎
		専門職連携セミナー	3後		1			◎		◎
		重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4後		1		◎		◎	○
専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1前	2			◎			◎
		基礎作業学	1前	1			◎	◎		
		基礎作業学実習	1後	1					◎	◎
		作業分析学	3前	1				◎	◎	◎
	作業療法管理学	作業療法管理学	3前	2			◎			◎
	作業療法評価学	作業療法基礎評価学	1後	1			◎	◎		
		作業療法評価学演習	1後	1			◎		◎	
		身体障害作業療法評価学実習	2前	1			◎		◎	
		精神障害作業療法評価学実習	2後	1			◎		◎	
		発達障害作業療法評価学実習	2後	1			◎		◎	
	作業治療学	作業治療論	2前	1			○	◎		
		身体障害作業療法学	2前	1			◎			○
		身体障害作業療法学演習	2後	2			◎		◎	

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	作業治療学	身体障害作業療法学実習	3 前	1				◎	◎	
		精神障害作業療法学	2 後	2			◎	◎		
		精神障害作業療法学演習	3 前	1			◎		◎	
		精神障害作業療法学実習	3 前	1				◎	◎	
		高次脳機能障害作業療法学	3 前	1			◎	◎		
		発達障害作業療法学	2 後	2			◎			○
		発達障害作業療法学実習	3 前	1				◎	◎	○
		老年期障害作業療法学	2 後	2			◎		◎	
		日常生活活動学	2 前	1			◎	◎		
		生活環境技術学	3 前	2			◎		◎	
		職業関連活動学	3 前	1			◎		◎	
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	2 後	2			◎			◎
		地域作業療法学Ⅱ	3 前	2			◎			◎
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	2 後	3				◎		◎
		臨床実習入門	2 前	1			◎			◎
		臨床実習セミナーⅠ	2 後	1			◎		◎	
		臨床実習Ⅱ	3 後	10				◎		◎
		臨床実習セミナーⅡ	3 前	1			◎		◎	
		臨床実習Ⅲ	4 前	10				◎		◎
		臨床実習セミナーⅢ	4 前	1			◎		◎	
		地域作業療法学実習	4 前	1				◎		◎
	特別科目	臨床体験	1 通	1				◎		◎
		作業療法研究法	3 後	1				◎		○
		卒業研究	4 前	1			◎	◎		
		基礎科目演習セミナー	1 通	1			◎	○		
		作業療法学特別演習	4 後	1			◎	◎		

※ 2024 年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025 年度シラバスで確認してください。

作業療法学専攻カリキュラムツリー



医療福祉学部　リハビリテーション学科　作業療法学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	生活の中の物理学						
		生活の中の化学	統計解析						
		生活の中の生物学	医療情報科学						
		医療のための基礎数学							
	自己形成	アカデミック・スキル演習							
		スポーツ実技	心理学概論						
			生命倫理学						
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		コミュニケーション論							
		現代国語表現							
		海外研修							
	人と生活	健康科学	教育学	教育方法論	生活と地球科学				
		憲法と法律	哲学	現代史	生活と経済				
			ジェンダー論	東北の歴史	教養としての政治学				
				文化人類学					
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	解剖学Ⅱ	運動学実習					
		解剖学実習	運動学演習	人間生涯発達学					
		基礎運動学	生理学実習						
		生理学Ⅰ	生理学Ⅱ						
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		臨床医学総論	内部障害系病学	精神障害系病学Ⅱ	病態薬理学			
			救命救急学演習	神経障害系病学	発達障害系病学				
			リハビリテーション医学	運動器障害系病学	老年期病学				
				精神障害系病学Ⅰ	栄養学概論				
				臨床心理学					
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	チーム医療福祉論		医療経済論	リハビリテーション心理	専門職連携セミナー		
					保健医療福祉概論	公衆衛生学			
			重度障がい者自立生活支援演習		重度障がい者自立生活支援演習	専門職連携論	重度障がい者自立生活支援演習		重度障がい者自立生活支援演習
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期

■ 必修
□ 選択

医療福祉学部　リハビリテーション学科　作業療法学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論 基礎作業学	基礎作業学実習			作業分析学			
	作業療法管理学					作業療法管理学			
	作業療法評価学		作業療法基礎評価学 作業療法評価学演習	身体障害作業療法評価学実習	精神障害作業療法評価学実習 発達障害作業療法評価学実習				
	作業療法治療学			作業治療論 身体障害作業療法学 日常生活活動学	身体障害作業療法学演習 精神障害作業療法学 発達障害作業療法学 老年期障害作業療法学	身体障害作業療法学実習 精神障害作業療法学演習 精神障害作業療法学実習 高次脳機能障害作業療法学 発達障害作業療法学実習 生活環境技術学 職業関連活動学			
	地域作業療法学				地域作業療法学Ⅰ	地域作業療法学Ⅱ			
	臨床実習			臨床実習入門	臨床実習Ⅰ 臨床実習セミナーⅠ	臨床実習セミナーⅡ	臨床実習Ⅱ	臨床実習Ⅲ 臨床実習セミナーⅢ 地域作業療法学実習	
	特別科目	臨床体験 基礎科目演習セミナー					作業療法研究法	卒業研究	作業療法学特別演習
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期

■ 必修
□ 選択

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・作業療法学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	02	01	1	25	1	1通		2		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	02	01	1	25	2	1前・1後		2		
		現代社会を視る	1	02	01	1	25	3	1前・1後		2		
		生活の中の科学	1	02	01	1	25	4	1前・1後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	02	01	1	25	5	1前・1後		2		
		社会活動入門	1	02	01	1	25	6	1前・1後		2		
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1	02	02	1	25	7	1前	2			選択科目6科目から1単位以上修得すること。
		生活の中の物理学	1	02	02	1	25	8	1後		2		
		生活の中の化学	1	02	02	1	25	9	1前		2		
		生活の中の生物学	1	02	02	1	25	10	1前		2		
		統計解析	1	02	02	2	25	11	1後		2		
		医療情報科学	1	02	02	1	25	12	1後		1		
		医療のための基礎数学	1	02	02	1	25	13	1前		1		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	02	02	1	25	14	1通	2			
		スポーツ実技	1	02	02	1	25	15	1前		1		
		心理学概論	1	02	02	1	25	16	1後	2			
		生命倫理学	1	02	02	1	25	17	1後	1			
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1	02	02	1	25	18	1前	1			
		英語コミュニケーションⅡ	1	02	02	1	25	19	1後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	02	02	1	25	20	1前		1		選択科目7科目から1単位以上修得すること。
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	02	02	1	25	21	1後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	02	02	1	25	22	1前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	02	02	1	25	23	1後		1		
		コミュニケーション論	1	02	02	1	25	24	1前		2		
		現代国語表現	1	02	02	1	25	25	1前		2		
		海外研修	1	02	02	1	25	26	1通		2		
	人と生活	健康科学	1	02	02	1	25	27	1前	1			
		教育学	1	02	02	1	25	28	1後		2		選択科目11科目から4単位以上修得すること。
		教育方法論	1	02	02	1	25	29	2前		2		
		哲学	1	02	02	1	25	30	1後		2		
		現代史	1	02	02	1	25	31	2前		2		
		東北の歴史	1	02	02	1	25	32	2前		2		
		ジェンダー論	1	02	02	1	25	33	1後		2		
		憲法と法律	1	02	02	1	25	34	1前		2		
		文化人類学	1	02	02	1	25	35	2前		2		
		生活と地球科学	1	02	02	1	25	36	2後		2		
		生活と経済	1	02	02	1	25	37	2後		2		
		教養としての政治学	1	02	02	1	25	38	2後		2		
	基礎科目の合計									10	55	0	18単位以上修得すること。
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	02	03	2	25	39	1前	2			
		解剖学実習	1	02	03	2	25	40	1前	1			
		解剖学Ⅱ	1	02	03	2	25	41	1後	2			
		基礎運動学	1	02	03	2	25	42	1前	2			
		運動学演習	1	02	03	2	25	43	1後	1			
		運動学実習	1	02	03	2	25	44	2前	1			
		生理学Ⅰ	1	02	03	2	25	45	1前	2			
		生理学Ⅱ	1	02	03	2	25	46	1後	2			
		生理学実習	1	02	03	2	25	47	1後	1			
		人間生涯発達学	1	02	03	2	25	48	2前	2			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	1	02	03	2	25	49	1後	2			
		内部障害系病学	1	02	03	2	25	50	2前	2			
		神経障害系病学	1	02	03	2	25	51	2前	2			
		運動器障害系病学	1	02	03	2	25	52	2前	2			
		精神障害系病学Ⅰ	1	02	03	2	25	53	2前	2			
		精神障害系病学Ⅱ	1	02	03	2	25	54	2後	2			
		発達障害系病学	1	02	03	2	25	55	2後	1			
		老年期病学	1	02	03	2	25	56	2後	1			
		臨床心理学	1	02	03	2	25	57	2前	2			
		栄養学概論	1	02	03	2	25	58	2後	1			
		救命救急学演習	1	02	03	3	25	59	1後	1			
		リハビリテーション医学	1	02	03	2	25	60	1後	1			
		病態薬理学	1	02	03	2	25	61	3前	1			

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・作業療法学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1	02	03	2	25	62	1 前	1			
		リハビリテーション心理	1	02	03	2	25	63	3 前		1		選択科目 5 科目から 1 単位以上修得すること。
		医療経済論	1	02	03	2	25	64	2 後		1		
		公衆衛生学	1	02	03	2	25	65	3 前		1		
		チーム医療福祉論	1	02	03	2	25	66	1 後	1			
		保健医療福祉概論	1	02	03	2	25	67	2 後	2			
		専門職連携論	1	02	03	2	25	68	3 前	2			
		専門職連携セミナー	1	02	03	2	25	69	3 後		1		
		重度障がい者自立生活支援演習	1	02	03		25	70	1・2・3・4 後		1		
専門基礎分野の合計										42	5	0	43 単位以上修得すること。
専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1	02	04	2	25	71	1 前	2			
		基礎作業学	1	02	04	2	25	72	1 前	1			
		基礎作業学実習	1	02	04	2	25	73	1 後	1			
		作業分析学	1	02	04	3	25	74	3 前	1			
	作業療法管理学	作業療法管理学	1	02	04	3	25	75	3 前	2			
	作業療法評価学	作業療法基礎評価学	1	02	04	3	25	76	1 後	1			
		作業療法評価学演習	1	02	04	3	25	77	1 後	1			
		身体障害作業療法評価学実習	1	02	04	2	25	78	2 前	1			
		精神障害作業療法評価学実習	1	02	04	3	25	79	2 後	1			
		発達障害作業療法評価学実習	1	02	04	3	25	80	2 後	1			
	作業治療学	作業治療論	1	02	04	3	25	81	2 前	1			
		身体障害作業療法学	1	02	04	3	25	82	2 前	1			
		身体障害作業療法学演習	1	02	04	3	25	83	2 後	2			
		身体障害作業療法学実習	1	02	04	3	25	84	3 前	1			
		精神障害作業療法学	1	02	04	3	25	85	2 後	2			
		精神障害作業療法学演習	1	02	04	3	25	86	3 前	1			
		精神障害作業療法学実習	1	02	04	3	25	87	3 前	1			
		高次脳機能障害作業療法学	1	02	04	3	25	88	3 前	1			
		発達障害作業療法学	1	02	04	3	25	89	2 後	2			
		発達障害作業療法学実習	1	02	04	3	25	90	3 前	1			
		老年期障害作業療法学	1	02	04	3	25	91	2 後	2			
		日常生活活動学	1	02	04	3	25	92	2 前	1			
		生活環境技術学	1	02	04	3	25	93	3 前	2			
		職業関連活動学	1	02	04	3	25	94	3 前	1			
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	1	02	04	3	25	95	2 後	2			
		地域作業療法学Ⅱ	1	02	04	3	25	96	3 前	2			
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	1	02	04	4	25	97	2 後	3			
		臨床実習入門	1	02	04	3	25	98	2 前	1			
		臨床実習セミナーⅠ	1	02	04	4	25	99	2 後	1			
		臨床実習Ⅱ	1	02	04	4	25	100	3 後	10			
		臨床実習セミナーⅡ	1	02	04	4	25	101	3 前	1			
		臨床実習Ⅲ	1	02	04	4	25	102	4 前	10			
		臨床実習セミナーⅢ	1	02	04	4	25	103	4 前	1			
		地域作業療法学実習	1	02	04	4	25	104	4 前	1			
専門科目	特別科目	臨床体験	1	02	04	2	25	105	1 通	1			
		作業療法研究法	1	02	04	4	25	106	3 後	1			
		卒業研究	1	02	04	4	25	107	4 前	1			
		基礎科目演習セミナー	1	02	04	2	25	108	1 通	1			
		作業療法学特別演習	1	02	04	4	25	109	4 後	1			
専門科目の合計										68	0	0	68 単位以上修得すること。
作業療法学専攻の総合計										120	60	0	129 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数 必修	選択	計
基礎科目	10	8	18
専門基礎科目	42	1	43
専門科目	68	0	68
合計	120	9	129

2020～2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・作業療法学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	02	01	1	20	1	1通		3		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	02	01	1	20	2	1前・1後		2		
		人間文化探求	1	02	01	1	20	3	1通		2		
		生活の中の科学	1	02	01	1	20	4	1前・1後		2		
		地域活動・ボランティア	1	02	01	1	20	5	1通		2		
		現代社会を視る	1	02	01	1	20	6	1前・1後		2		
		ボランティア探求	1	02	01	1	20	7	2通		2		
	科学的思考の基礎	情報処理	1	02	02	1	20	8	1前		1		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		医療情報科学	1	02	02	1	20	9	1後		1		
		医療数理基礎	1	02	02	1	20	10	1前		1		
		基礎数学	1	02	02	1	20	11	1後		2		
		基礎物理学	1	02	02	1	20	12	1前	2			
		基礎化学	1	02	02	1	20	13	1前		2		
		基礎生物学	1	02	02	1	20	14	1前	2			
		統計解析	1	02	02	2	20	15	1後		2		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	02	02	1	20	16	1通	1			
		スポーツ実技	1	02	02	1	20	17	1前		1		
		心理学	1	02	02	1	20	18	1後	2			
		生命倫理	1	02	02	2	20	19	1前	1			
	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1	02	02	1	20	20	1通	2			
		英語Ⅱ	1	02	02	1	20	21	2通		2		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		韓国語	1	02	02	1	20	22	1前		1		
		中国語	1	02	02	1	20	23	1前		1		
		コミュニケーション論	1	02	02	1	20	24	1前		2		
		現代国語表現	1	02	02	1	20	25	1前		2		
		海外研修	1	02	02	1	20	26	1・2・3・4通		2		
	人と生活	憲法と法律	1	02	02	1	20	27	2前		2		選択科目12科目から4単位以上修得すること。 ※選択科目は合計12単位以上修得すること。
		文化人類学	1	02	02	1	20	28	2前		2		
		日本・東北文化論	1	02	02	1	20	29	2前		2		
		日本近代史	1	02	02	1	20	30	2前		2		
		健康科学	1	02	02	1	20	31	2前		2		
		教育学Ⅰ	1	02	02	1	20	32	2前		2		
		教育学Ⅱ	1	02	02	2	20	33	4後		2		
		地球の科学	1	02	02	2	20	34	4後		1		
		哲学	1	02	02	2	20	35	4後		1		
		生活と経済	1	02	02	2	20	36	4後		1		
		ジェンダー論	1	02	02	2	20	37	4後		1		
		政治学	1	02	02	2	20	38	4後		1		
	基礎科目の合計									10	54	0	22単位以上修得すること。
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	02	03	2	20	39	1前	2			
		解剖学実習	1	02	03	2	20	40	1前	1			
		解剖学Ⅱ	1	02	03	2	20	41	1後	2			
		基礎運動学	1	02	03	2	20	42	1前	2			
		運動学演習	1	02	03	2	20	43	1後	1			
		運動学実習	1	02	03	2	20	44	2前	1			
		生理学Ⅰ	1	02	03	2	20	45	1前	2			
		生理学Ⅱ	1	02	03	2	20	46	1後	2			
		生理学実習	1	02	03	2	20	47	1後	1			
		人間生涯発達学	1	02	03	2	20	48	2前	2			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	1	02	03	2	20	49	1後	2			
		内部障害系病学	1	02	03	2	20	50	2前	2			
		神経障害系病学Ⅰ	1	02	03	2	20	51	2前	2			
		神経障害系病学Ⅱ	1	02	03	2	20	52	2後	1			
		運動器障害系病学	1	02	03	2	20	53	2前	2			
		精神障害系病学Ⅰ	1	02	03	2	20	54	2前	2			
		精神障害系病学Ⅱ	1	02	03	2	20	55	2後	2			
		発達障害系病学	1	02	03	2	20	56	2後	1			
		老年期病学	1	02	03	2	20	57	2後	1			
		臨床心理学	1	02	03	2	20	58	2前	2			
		栄養学概論	1	02	03	2	20	59	2後	1			
		救命救急学演習	1	02	03	3	20	60	1後	1			
		リハビリテーション医学	1	02	03	2	20	61	2前	1			
		病態薬理学	1	02	03	2	20	62	3前	1			

2020～2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・作業療法学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1	02	03	2	20	63	1前	1			選択科目４科目から２単位以上修得すること。
		リハビリテーション心理	1	02	03	2	20	64	3前		1		
		医療経済論	1	02	03	2	20	65	2後		1		
		公衆衛生学	1	02	03	2	20	66	3前		1		
		チーム医療福祉論	1	02	03	2	20	67	1後	1			
		保健医療福祉概論	1	02	03	2	20	68	2後	2			
		専門職連携論	1	02	03	2	20	69	3前	2			
		専門職連携セミナー	1	02	03	2	20	70	3後		1		
	専門基礎の合計									43	4	0	45単位以上修得すること。
専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1	02	04	2	20	71	1前	2			
		基礎作業学	1	02	04	2	20	72	1前	1			
		基礎作業学実習	1	02	04	2	20	73	1後	1			
		作業分析学	1	02	04	3	20	74	3前	1			
	作業療法管理学	作業療法管理学	1	02	04	3	20	75	3前	2			
	作業療法評価学	作業療法評価学	1	02	04	3	20	76	1後	1			
		作業療法評価学演習	1	02	04	3	20	77	1後	1			
		作業療法評価学実習Ⅰ	1	02	04	3	20	78	2前	1			
		作業療法評価学実習Ⅱ	1	02	04	3	20	79	2後	1			
		作業療法評価学実習Ⅲ	1	02	04	3	20	80	2後	1			
	作業療法治療学	作業治療論	1	02	04	3	20	81	2前	1			
		身体障害作業療法学	1	02	04	3	20	82	2前	1			
		内部障害作業療法学	1	02	04	3	20	83	3前	1			
		神経障害作業療法学	1	02	04	3	20	84	2後	2			
		運動器障害作業療法学	1	02	04	3	20	85	2後	1			
		身体障害作業療法学演習	1	02	04	3	20	86	2後	1			
		身体障害作業療法学実習	1	02	04	3	20	87	3前	1			
		発達障害作業療法学	1	02	04	3	20	88	2後	2			
		発達障害作業療法学実習	1	02	04	3	20	89	3前	1			
		精神障害作業療法学	1	02	04	3	20	90	2後	2			
		精神障害作業療法学実習	1	02	04	3	20	91	3前	1			
		高次脳機能障害作業療法学	1	02	04	3	20	92	3前	1			
		老年期障害作業療法学	1	02	04	3	20	93	3前	1			
		日常生活活動学	1	02	04	3	20	94	2前	1			
		生活環境技術学	1	02	04	3	20	95	3前	2			
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	1	02	04	3	20	96	2後	1			
		地域作業療法学Ⅱ	1	02	04	3	20	97	3前	2			
		地域作業療法学演習	1	02	04	3	20	98	3前	1			
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	1	02	04	4	20	99	2後	2			
		臨床実習セミナーⅠ	1	02	04	4	20	100	2通	1			
		臨床実習Ⅱ	1	02	04	4	20	101	3後	10			
		臨床実習セミナーⅡ	1	02	04	4	20	102	3通	1			
		臨床実習Ⅲ	1	02	04	4	20	103	4前	10			
		臨床実習セミナーⅢ	1	02	04	4	20	104	4前	1			
		地域作業療法学実習	1	02	04	4	20	105	4前	1			
	特別科目	臨床体験	1	02	04	2	20	106	1通	1			
		作業療法研究法	1	02	04	4	20	107	3後	1			
		作業療法実践特論	1	02	04	4	20	108	4通		2		選択科目２科目から２単位以上修得すること。
		作業療法研究特論	1	02	04	4	20	109	4通		2		
		基礎科目演習セミナーⅠ	1	02	04	1	20	110	1前	1			
		基礎科目演習セミナーⅡ	1	02	04	1	20	111	1後	1			
		作業療法学特別演習	1	02	04	4	20	112	4後	1			
	専門科目の合計									66	4	0	68単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数 必修	選択	計
基礎科目	10	12	22
専門基礎科目	43	2	45
専門科目	66	2	68
合計	119	16	135

作業療法学専攻カリキュラム対照表

2020 ～ 2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	※			
生命を考える	1 前・1 後		2	生命を考える	1 前・1 後		2
人間文化探求	1 通		2	※			
生活の中の科学	1 前・1 後		2	生活の中の科学	1 前・1 後		2
地域活動・ボランティア	1 通		2	※			
現代社会を視る	1 前・1 後		2	現代社会を視る	1 前・1 後		2
ボランティア探求	2 通		2	※			
情報処理	1 前		1	※			
医療数理基礎	1 前		1	医療のための基礎数学	1 前		1
医療情報科学	1 後		1	医療情報科学	1 後		1
基礎数学	1 後		2	※			
基礎物理学	1 前	2		生活の中の物理学	1 後		2
基礎化学	1 前		2	生活の中の化学	1 前		2
基礎生物学	1 前	2		生活の中の生物学	1 前		2
統計解析	1 後		2	統計解析	1 後		2
アカデミック・スキル演習	1 通	1		アカデミック・スキル演習	1 通	2	
スポーツ実技	1 前		1	スポーツ実技	1 前		1
心理学	1 後	2		心理学概論	1 後	2	
生命倫理	1 前	1		生命倫理学	1 後	1	
英語Ⅰ	1 通	2		英語コミュニケーションⅠ	1 前	1	
				英語コミュニケーションⅡ	1 後	1	
英語Ⅱ	2 通		2	※			
韓国語	1 前		1	韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1
中国語	1 前		1	中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1
コミュニケーション論	1 前		2	コミュニケーション論	1 前		2
現代国語表現	1 前		2	現代国語表現	1 前		2
海外研修	1・2・3・4通		2	海外研修	1 通		2
憲法と法律	2 前		2	※			
文化人類学	2 前		2	文化人類学	2 前		2
日本・東北文化論	2 前		2	東北の歴史	2 前		2
日本近代史	2 前		2	※			
健康科学	2 前		2	※			
教育学Ⅰ	2 前		2	※			
教育学Ⅱ	4 後		2	※			
地球の科学	4 後		1	※			
哲学	4 後		1	※			
生活と経済	4 後		1	※			
ジェンダー論	4 後		1	※			
政治学	4 後		1	※			
解剖学Ⅰ	1 前	2		解剖学Ⅰ	1 前	2	
解剖学実習	1 前	1		解剖学実習	1 前	1	
解剖学Ⅱ	1 後	2		解剖学Ⅱ	1 後	2	
基礎運動学	1 前	2		基礎運動学	1 前	2	
運動学演習	1 後	1		運動学演習	1 後	1	
運動学実習	2 前	1		運動学実習	2 前	1	
生理学Ⅰ	1 前	2		生理学Ⅰ	1 前	2	
生理学Ⅱ	1 後	2		生理学Ⅱ	1 後	2	
生理学実習	1 後	1		生理学実習	1 後	1	
人間生涯発達学	2 前	2		人間生涯発達学	2 前	2	
臨床医学総論	1 後	2		臨床医学総論	1 後	2	
内部障害系病学	2 前	2		内部障害系病学	2 前	2	
神経障害系病学Ⅰ	2 前	2		神経障害系病学	2 前	2	
神経障害系病学Ⅱ	2 後	1		※			
運動器障害系病学	2 前	2		運動器障害系病学	2 前	2	
精神障害系病学Ⅰ	2 前	2		精神障害系病学Ⅰ	2 前	2	
精神障害系病学Ⅱ	2 後	2		精神障害系病学Ⅱ	2 後	2	
発達障害系病学	2 後	1		発達障害系病学	2 後	1	
老年期病学	2 後	1		老年期病学	2 後	1	
臨床心理学	2 前	2		臨床心理学	2 前	2	
栄養学概論	2 後	1		栄養学概論	2 後	1	
救命救急学演習	1 後	1		救命救急学演習	1 後	1	

作業療法学専攻カリキュラム対照表

2020 ～ 2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
リハビリテーション医学	2 前	1		リハビリテーション医学	1 後	1	
病態薬理学	3 前	1		病態薬理学	3 前	1	
リハビリテーション概論	1 前	1		リハビリテーション概論	1 前	1	
リハビリテーション心理	3 前		1	リハビリテーション心理	3 前		1
医療経済論	2 後		1	医療経済論	2 後		1
公衆衛生学	3 前		1	公衆衛生学	3 前		1
チーム医療福祉論	1 後	1		チーム医療福祉論	1 後	1	
保健医療福祉概論	2 後	2		保健医療福祉概論	2 後	2	
専門職連携論	3 前	2		専門職連携論	3 前	2	
専門職連携セミナー	3 後		1	専門職連携セミナー	3 後		1
作業療法概論	1 前	2		作業療法概論	1 前	2	
基礎作業学	1 前	1		基礎作業学	1 前	1	
基礎作業学実習	1 後	1		基礎作業学実習	1 後	1	
作業分析学	3 前	1		作業分析学	3 前	1	
作業療法管理学	3 前	2		作業療法管理学	3 前	2	
作業療法評価学	1 後	1		作業療法基礎評価学	1 後	1	
作業療法評価学演習	1 後	1		作業療法評価学演習	1 後	1	
作業療法評価学実習Ⅰ	2 前	1		身体障害作業療法評価学実習	2 前	1	
作業療法評価学実習Ⅱ	2 後	1		精神障害作業療法評価学実習	2 後	1	
作業療法評価学実習Ⅲ	2 後	1		発達障害作業療法評価学実習	2 後	1	
作業治療論	2 前	1		作業治療論	2 前	1	
身体障害作業療法学	2 前	1		身体障害作業療法学	2 前	1	
身体障害作業療法学演習	2 後	1		身体障害作業療法学演習	2 後	2	
内部障害作業療法学	3 前	1		※			
身体障害作業療法学実習	3 前	1		身体障害作業療法学実習	3 前	1	
神経障害作業療法学	2 後	2		※			
運動器障害作業療法学	2 後	1		※			
精神障害作業療法学	2 後	2		精神障害作業療法学	2 後	2	
精神障害作業療法学実習	3 前	1		精神障害作業療法学実習	3 前	1	
発達障害作業療法学	2 後	2		発達障害作業療法学	2 後	2	
発達障害作業療法学実習	3 前	1		発達障害作業療法学実習	3 前	1	
高次脳機能障害作業療法学	3 前	1		高次脳機能障害作業療法学	3 前	1	
老年期障害作業療法学	3 前	1		老年期障害作業療法学	2 後	2	
日常生活活動学	2 前	1		日常生活活動学	2 前	1	
生活環境技術学	3 前	2		生活環境技術学	3 前	2	
地域作業療法学Ⅰ	2 後	1		地域作業療法学Ⅰ	2 後	2	
地域作業療法学Ⅱ	3 前	2		地域作業療法学Ⅱ	3 前	2	
地域作業療法学演習	3 前	1		※			
臨床実習Ⅰ	2 後	2		臨床実習Ⅰ	2 後	3	
臨床実習セミナーⅠ	2 通	1		臨床実習セミナーⅠ	2 後	1	
臨床実習Ⅱ	3 後	10		臨床実習Ⅱ	3 後	10	
臨床実習セミナーⅡ	3 通	1		臨床実習セミナーⅡ	3 前	1	
臨床実習Ⅲ	4 前	10		臨床実習Ⅲ	4 前	10	
臨床実習セミナーⅢ	4 前	1		臨床実習セミナーⅢ	4 前	1	
地域作業療法学実習	4 前	1		地域作業療法学実習	4 前	1	
臨床体験	1 通	1		臨床体験	1 通	1	
作業療法研究法	3 後	1		作業療法研究法	3 後	1	
作業療法実践特論	4 通		2	※			
作業療法研究特論	4 通		2	※			
基礎科目演習セミナーⅠ	1 前	1		基礎科目演習セミナー	1 通	1	
基礎科目演習セミナーⅡ	1 後	1		※			
作業療法学特別演習	4 後	1		作業療法学特別演習	4 後	1	
				輝ける者	1 通		2
				経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2
				社会活動入門	1 前・1 後		2
				データサイエンス入門	1 前	2	
				韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1
				中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1
				健康科学	1 前	1	
				教育学	1 後		2
				教育方法論	2 前		2

作業療法学専攻カリキュラム対照表

2020 ～ 2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
				哲学	1 後		2
				現代史	2 前		2
				ジェンダー論	1 後		2
				憲法と法律	1 前		2
				生活と地球科学	2 後		2
				生活と経済	2 後		2
				教養としての政治学	2 後		2
				重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4後		1
				精神障害作業療法学演習	3 前	1	
				職業関連活動学	3 前	1	
				臨床実習入門	2 前	1	
				卒業研究	4 前	1	

注）※は別途開講する。

《言語聴覚学専攻》

1）　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・言語聴覚学に関わる基本的な専門知識を習得し、科学的・論理的思考が身についている。

「思考・判断」

・対象の多様性を理解し、科学的根拠に基づいた問題の把握と基本的な対応が身についている。

「技能・表現」

・言語聴覚士として必要な基本的な臨床知識・技能・技術を修得し、実践できる能力が身についている。

・保健・医療・福祉・教育における関連職種と協働し、専門職としての責務を果たすことができる。

「関心・意欲・態度」

・広い視野を持ち専門職として主体的に学び、資質向上のために努力し続けることができる。

・幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、多様な価値観を基に支援する態度が身についている。

2.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

「知識・技能」

・言語聴覚士になるための学習に必要な国語力（読解・作文）を持つ人。

・コミュニケーションに積極的で、他者と豊かな人間関係を結べる人。

「思考力・判断力・表現力」

・他者の身になって考えることができる人。

・自分がとる行動が置かれている状況にふさわしいか判断できる人。

・適切な行動やことばで自己表現ができる人。

・自ら課題を発見、探求し、その成果を適切に表現できる人。

「主体的に、多様な人々と協働して学ぶ態度」

・自分を高めていくことに対して積極的な人。

・人の役に立ちたいという志を持つ人。

・多様な人々と協働しようとする姿勢を持つ人。

求める学習経験

・身体の仕組みを理解する基礎として「生物」を学んでいることが望ましい。

・言語聴覚士の仕事について見たり、聴いたり、調べたりしたことがある。

3.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーを踏まえ、教育課程を編成し実施する。

「基礎科目」

・人のコミュニケーションや摂食嚥下を科学的に理解し、論理的に思考することができるように、その基礎として現代国語表現、生物学、統計学なども学べるよう科目を配置する。

・医療職者として、広い視野を持ち、豊かな人間性と倫理観、生涯にわたる学ぶ姿勢と考える力を育むために、探求・理解プロジェクトや生命倫理の科目を配置する。

「専門基礎科目」

・基礎医学系と臨床医学系、言語科学系、心理・教育・社会学系に大別する。

・人体の構造と機能、疾病と病態、コミュニケーションに重要な役割をもつ音声・言語学、ことばと密接に関係する聴覚の仕組みや機能並びにこれらを理解するために必要な音響学、さらに心身の発達や心理学、保健医療福祉やリハビリテーションの理念などについて学修する。

「専門科目」

・専門的知識・技術の中核となる科目を配置する。

・失語・高次脳機能障害学、言語発達障害学、発声発語・嚥下障害学、聴覚障害学について系統的に学修できるように障害領域別の科目構成とする。また、主体的に臨床知識・技能・技術を習得し実践できる能力を身に付けるために演習科目を配置する。さらに、学内で修得した専門知識や技術・

技能、態度を臨床実習で統合する。
・学修方法の確立や知識の定着を目的に、1 年次から 4 年次まで小人数のゼミナールに所属し担当教員による指導の下で学修を進める各種セミナーを配置する。

2）　カリキュラムの特徴

本専攻のカリキュラムは、① 基礎科目、② 専門基礎科目、③ 専門科目で構成されています。

基礎科目（1 年次中心）は一専門職を目指す者として身につけるべき教養科目であり、専門基礎科目（1〜2 年次中心）は専門科目を学修する上で必要となる科目です。

専門科目（2〜3 年次中心）では言語聴覚士として必須の各種言語聴覚障害の診断法・訓練法を学びます。アカデミック・スキル演習（1 年次）では大学における学修方法と言語聴覚障害学の学び方を習得し、これをもとにして、2 年次の基礎ゼミナールでは、実際に国家試験で出題された問題を取り上げながら、より実践的な学修方法を習得します。アカデミック・スキル演習、基礎ゼミナールともに少人数グループで進行します。

臨床実習（1〜4 年次）は、1 年次は大学附属の国見の杜クリニック、2 年次は外部の医療機関で各 1 週間の見学実習を行います。3、4 年次は主に外部の医療機関などで合計 12 週間にわたって実施されます。言語聴覚学研究（3 年通年、選択）は各学生が研究テーマを決めて実施し、その成果・結果をとりまとめて発表します。

本専攻の第一の目標は国家試験合格ですが、専門知識はもちろんのこと常識と教養を身につけた人間性の豊かな言語聴覚士になるよう教育を行います。そのために、4 年間で 127 単位以上の取得を課しています。

【基礎科目】

基礎科目には、① 探求・理解プロジェクト（輝ける者、生命を考えるなど）、② 科学的思考の基礎（データサイエンス入門、統計解析、生活の中の生物学など）、③ 自己形成（生命倫理学、心理学概論など）、④ ことばと相互理解（英語などの語学、現代国語表現など）、⑤ 人と生活（哲学、健康科学、教育学など）があります。また、言語聴覚療法の基礎として、リハビリテーション医療に携わる専門職として学んで欲しい科目を用意しています。リハビリテーション職種間の相互理解を深め、連携や協働の視点を学ぶ専門職連携セミナーや認知神経科学などがあります。これらから必修 18 単位、選択 8 単位、合計 26 単位以上を履修してください。

必修科目の「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」（必修）は、卒業後も新しい知識やより多くの情報を得るために必要であり、1 年次の前期から後期にわたって学びます。「現代国語表現」（必修）、「心理学概論」（選択）はコミュニケーション障害を扱う言語聴覚士にとって欠くことのできないものです。また、「統計・解析学」（選択）は検査法や訓練法の成果を評価する際や、症例をまとめる際の科学的手法であり、重要な科目です。しっかり学修してください。

基礎科目は軽視されがちですが、その多くは物事の本質を理解し、科学的に思考する上での基盤になるものです。いろいろな分野に関心を持ち、視野を広げて自分を高めてください。

【専門基礎科目】

専門基礎科目は全科目が必修です。① 基礎医学（解剖・生理学概論Ⅰ・Ⅱ、医学総論など）、② 臨床医学（内科学、小児科学、耳鼻咽喉科学、リハビリテーション医学など）、③ 臨床歯科医学（口腔外科学を含む）、④ 音声・言語・聴覚医学、⑤ 心理学（心理測定法を含む）、⑥ 言語学、⑦ 音声学、⑧ 音響学（聴覚心理学を含む）、⑨ 言語発達学、⑩ 社会保障・教育とリハビリテーションについて合計 36 単位を履修します。

言語聴覚士としての専門知識を身につけるためには、人体の構造、機能や病的状態、検査や治療法、コミュニケーションに重要な役割を持っている音声・言語学、言葉と密接な関係がある聴覚の仕組みや機能およびこれらを理解するために必要な音響学や聴覚心理学、さらにヒトの心を知るための各種心理学、等々多くの基礎的な知識を獲得する必要があります。

専門基礎科目の学習が不十分では決して先に進めませんので、心して学修してください。

【専門科目】

専門科目は言語聴覚士の専門的知識の中核をなす科目です。① 言語聴覚障害学総論、② 失語・高次脳機能障害学、③ 言語発達障害学、④ 発声発語・嚥下障害学（吃音・流暢性障害学を含む）、⑤ 聴覚障害学（聴力検査、補聴器、人工内耳を含む）、⑥ 言語聴覚療法管理学、⑦ 地域言語聴覚療法学、⑧ 臨床実

習（実習時間の 3 分の 2 以上は病院または診療所において行う）、⑨ ゼミナール（総合演習、領域別セミナーⅠ・Ⅱ、言語聴覚学特別講義を含む）で構成されており全て必修です。殆どが 2〜3 年次の履修で、65 単位の取得を課しています。

これらの科目は、臨床実習に出た時に必要になるもので、実習現場で立ち往生しないようしっかり身に付けておかなければなりません。

3）　実習プログラム

【臨床実習の目的と配当年次】

ア．見学実習Ⅰ（1 年次通年）・見学実習Ⅱ（2 年次通年）

見学実習Ⅰでは、小児の言語聴覚障害を対象とした大学附属のクリニックで見学を行います。見学実習Ⅱでは、主に成人の言語聴覚療法を対象とした外部の施設で見学を行います。見学実習では、医療人としての基本的心構えを実践するとともに、言語聴覚療法の業務内容と臨床の流れを理解することを目的としています。また、実習を通して具体的な言語聴覚士像をイメージし、高い志向性を持って専門科目の学修に臨む機会にもなります。

イ．評価実習（3 年次後期）

リハビリテーション医療や言語聴覚士に関する業務、言語聴覚士としての在り方などを、体験を通して、臨床実習指導者から学びます。また、インテーク面接、スクリーニング検査、鑑別診断、掘り下げ検査、短期および長期目標の設定、訓練プログラムの作成という一連の言語聴覚療法の技術について実践を通して習得します。

ウ．総合臨床実習（4 年次前期）

評価から治療までの実際を、臨床実習指導者の下で対象者を通して深めてゆきます。特に短期および長期の訓練計画を立て他職種と連携を取りながら、また、家族や地域への配慮を含め総合的に支援していくことを学びます。評価および訓練方法について自ら省みて、より良い支援を目指し職業人としての意識を高めていきます。

4）　授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表（別頁）

5）　カリキュラムツリー（別頁）

6）　カリキュラム配置図（別頁）

7）　授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表（別頁）

8）　進級要件

東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則（別頁）

9）　その他

1.　臨床実習概要
2.　国家試験対策

以上の詳細は別に定める

10）　目標とする国家試験・資格

・言語聴覚学専攻の卒業により言語聴覚学士の学位、ならびに言語聴覚士の国家試験受験資格を取得
・国家試験合格後、言語聴覚士免許を取得（厚生労働大臣）

11）　将来の仕事

言語聴覚士の資格を得て、活躍できる職場

・病院や診療所などの医療機関
・特別支援学校や発達支援セミナー
・放課後等デイサービス

・難聴幼児通園施設
・介護老人保健施設や特別養護老人ホーム
・国・および地方自治体の保健・福祉施設
・研究機関
・大学や専門学校など養成機関

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【医療福祉学部　リハビリテーション学科　言語聴覚学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・言語聴覚学に関わる基本的な専門知識を習得し、科学的・論理的思考が身についている。
②	「思考・判断」	・対象の多様性を理解し、科学的根拠に基づいた問題の把握と解決に向けて基本的な対応について判断できる能力が身についている。
③	「技能・表現」	・言語聴覚士として必要な基本的な臨床知識・技能・技術を修得し、実践できる能力が身についている。 ・保健・医療・福祉・教育における関連職種と協働し、専門職としての責務を果たすことができる。
④	「関心・意欲・態度」	・広い視野を持ち専門職として主体的に学び、資質向上のために努力し続けることができる。 ・幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、多様な価値観を基に支援する態度が身についている。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当年次	単位数			ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2			○		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2			○		○
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2			○		○
		社会活動入門	1 前・1 後		2			○		○
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1 前	2				○		○
		医療のための基礎数学	1 前		2			○		○
		生活の中の化学	1 前		2			○		○
		生活の中の生物学	1 前		2			○		○
		医療情報科学	1 後		1		○	○		
		統計解析	1 後		2		○	○		
		生活の中の物理学	1 後		2			○		○
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	1				○	◎	
		生命倫理学	1 後	1					○	◎
		スポーツ実技	1 前		1				○	○
		心理学概論	1 後		2				○	○
	ことばと相互理解	コミュニケーション論	1 前	2			○		○	
		現代国語表現	1 前	2			○		◎	
		英語コミュニケーションⅠ	1 前	1						○
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1						○
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1					○
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1					○
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1					○
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1					○
		海外研修	1 通		2					◎
	人と生活	健康科学	1 前	1			○			○
		憲法と法律	1 前		2					○
		東北の歴史	1 前		2					○
		現代史	1 前		2					○

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	人と生活	哲学	1後		2					○
		教育学	1後		2		○			○
		ジェンダー論	1後		2					○
		生活と地球科学	1後		2					○
		生活と経済	1後		2					○
		教養としての政治学	1後		2					○
		文化人類学	2前		2					○
		教育方法論	2前		2		○			○
	言語聴覚療法の基盤	チーム医療福祉論	1後	1					◎	◎
		保健医療福祉概論	2後	2					◎	◎
		専門職連携論	3前	2					◎	◎
		専門職連携セミナー	3後		1				◎	◎
		重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4後		1				◎	◎
		認知神経科学	2前	2			◎			○
		救命救急学	2後		1		◎			○
		栄養学概論	2後		1		◎			○
		病態薬理学	3前		1		◎			○
		公衆衛生学	3前		1		◎			○
		言語聴覚学研究	3通		4			◎		◎
専門基礎科目	人体のしくみ・疾病と治療	解剖・生理学概論Ⅰ	1前	2			◎			
		解剖・生理学概論Ⅱ	1後	2			◎			
		医学総論	1後	1			◎			
		小児科学	1後	1			◎			
		内科学	2前	1			◎			
		耳鼻咽喉科学	2前	2			◎			
		リハビリテーション医学	2前	1			◎			
		形成外科学	2前	1			◎			
		臨床口腔歯科医学	2前	2			◎			
		臨床神経学	2後	2			◎			
		精神医学	2後	1			◎			
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1後	1			◎		○	
		聴覚系の構造・機能・病態	1後	1			◎		○	
		神経系の構造・機能・病態	1後	1			◎		○	
	心の働き	生涯発達心理学	1前	2			◎			
		学習・認知心理学	1後	2			◎			
		心理測定法	2後	2			◎			
		臨床心理学	2後	1			◎			
	言語とコミュニケーション	言語学Ⅰ	1前	2			◎			
		言語学Ⅱ	1後	1			◎			
		音声学	1前	2			◎		○	
		音響学	1前	2			◎		○	
		聴覚心理学	1後	1			◎		○	
		言語発達学	1後	1			◎		○	
	社会保障・教育とリハビリテーション	医療福祉関係法規	3前	1			◎			

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論	1 前	2			◎	○		
	言語聴覚療法管理学	言語聴覚療法管理学	3 後	2			◎		◎	
	失語・高次脳機能障害学	失語症学Ⅰ	2 後	2			◎	○		
		失語症学演習Ⅰ	2 後	1				◎	◎	
		失語症学Ⅱ	3 前	2			◎	○		
		失語症学演習Ⅱ	3 前	1				◎	◎	
		高次脳機能障害学Ⅰ	2 後	1			◎	○		
		高次脳機能障害学演習Ⅰ	2 後	1				◎	◎	
		高次脳機能障害学Ⅱ	3 前	1			◎	○		
		高次脳機能障害学演習Ⅱ	3 前	1				◎	◎	
	言語発達障害学	言語発達障害学Ⅰ	2 前	2			◎	○		
		言語発達障害学演習Ⅰ	2 前	1				◎	◎	
		言語発達障害学Ⅱ	2 後	2			◎	○		
		言語発達障害学演習Ⅱ	2 後	1				◎	◎	
	発声発語・摂食嚥下障害学	構音障害学Ⅰ	2 前	1			◎	○		
		構音障害学演習Ⅰ	2 前	1				◎	◎	
		構音障害学Ⅱ	2 後	1			◎	○		
		構音障害学演習Ⅱ	2 後	1				◎	◎	
		摂食嚥下障害学	3 前	2			◎	○		
		摂食嚥下障害学演習	3 前	1				◎	◎	
		音声障害学	3 前	2			◎		◎	
		吃音・流暢性障害学	3 後	1			◎		◎	
	聴覚障害学	成人聴覚障害学	2 前	2			◎	○		
		聴覚障害学演習Ⅰ	2 前	1				◎	◎	
		小児聴覚障害学	2 後	2			◎	○		
		補聴器・人工内耳	3 前	2			◎	○		
		聴覚障害学演習Ⅱ	3 後	1				◎	◎	
	地域言語聴覚療法学	地域言語聴覚療法学	3 前	2			◎		◎	
	臨床実習	見学実習Ⅰ	1 通	1					◎	◎
		見学実習Ⅱ	2 通	1					◎	◎
		評価実習	3 後	5				◎	◎	
		総合臨床実習	4 前	8				◎	◎	
	ゼミナール	基礎ゼミナール	2 前	1			◎	◎		
		領域別セミナーⅠ	3 前	1			◎	◎		
		総合演習	3 後	3				◎	◎	
		領域別セミナーⅡ	4 通	4			◎	◎		
		言語聴覚学特別講義	4 後	1			◎	◎		

※ 2024 年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025 年度シラバスで確認してください。

言語聴覚学専攻　カリキュラムツリー（２０２５年度以降）

卒業までに身に付けて欲しい力

「知識・理解」　■言語聴覚学に関わる基本的な専門知識を習得し、科学的・論理的思考が身についている。
「思考・判断」　■対象の多様性を理解し、　科学的根拠に基づいた問題の把握と基本的な対応が身についている。
「技能・表現」　■言語聴覚士として必要な基本的な臨床技能を修得し、実践できる能力が身についている。
■保健・医療・福祉・教育における関連職種と協働し、専門職としての責務を果たすことができる。
「関心・意欲・態度」　■広い視野を持ち専門職として主体的に学び、　資質向上のために努力し続けることができる。
■幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、　多様な価値観を基に支援する態度が身についている。

国家試験

言語聴覚学特別講義(４年)

ゼミ

領域別セミナーⅡ（4年）
↑
領域別セミナーⅠ（3年）
↑
基礎ゼミナール（2年）
↑
アカデミックスキル演習（1年）

臨床実習

総合演習（３年・学内）→ 評価実習(３年・学外) → 総合臨床実習(４年・学外)

専門科目

失語･高次脳機能障害学
失語症学Ⅰ・Ⅱ
失語症学演習Ⅰ・Ⅱ
高次脳機能障害学Ⅰ・Ⅱ
高次脳機能障害学演習Ⅰ・Ⅱ

言語発達障害学
言語発達障害学Ⅰ・Ⅱ
言語発達障害学演習Ⅰ・Ⅱ

聴覚障害学
成人聴覚障害学
小児聴覚障害学
聴覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ
補聴器・人工内耳

発声発語･摂食嚥下障害学
構音障害学Ⅰ・Ⅱ
構音障害学演習Ⅰ・Ⅱ
摂食嚥下障害学
摂食嚥下障害学演習
音声障害学
吃音・流暢性障害学

その他の専門科目
言語聴覚障害学総論　地域言語聴覚療法学　言語聴覚療法管理学

専門科基礎科目

心の働き
生涯発達心理学
学習・認知心理学
心理測定法
臨床心理学

言語とコミュニケーション
言語学Ⅰ・Ⅱ
音声学
音響学
聴覚心理学
言語発達学

社会保障･教育とリハビリテーション
医療福祉関係法規

人体のしくみ･疾病と治療
解剖・生理学概論Ⅰ・Ⅱ
医学総論
形成外科学
リハビリテーション医学
臨床口腔歯科医学
内科学
小児科学
精神医学
臨床神経学
耳鼻咽喉科学
呼吸発声発語系の構造･機能･病態
聴覚系の構造･機能･病態
神経系の構造･機能･病態

基礎科目

一般教養科目
探求・理解プロジェクト
科学的思考の基礎
自己形成
ことばと相互理解
人と生活

言語聴覚療法の基礎
チーム医療福祉論
保健医療福祉概論
専門職連携論
専門職連携セミナー
重度障がい者自立生活支援演習
認知神経科学
救命救急学
栄養学概論
病態薬理学
公衆衛生学
言語聴覚学研究

見学実習Ⅱ（2年）
↑
見学実習Ⅰ（1年）

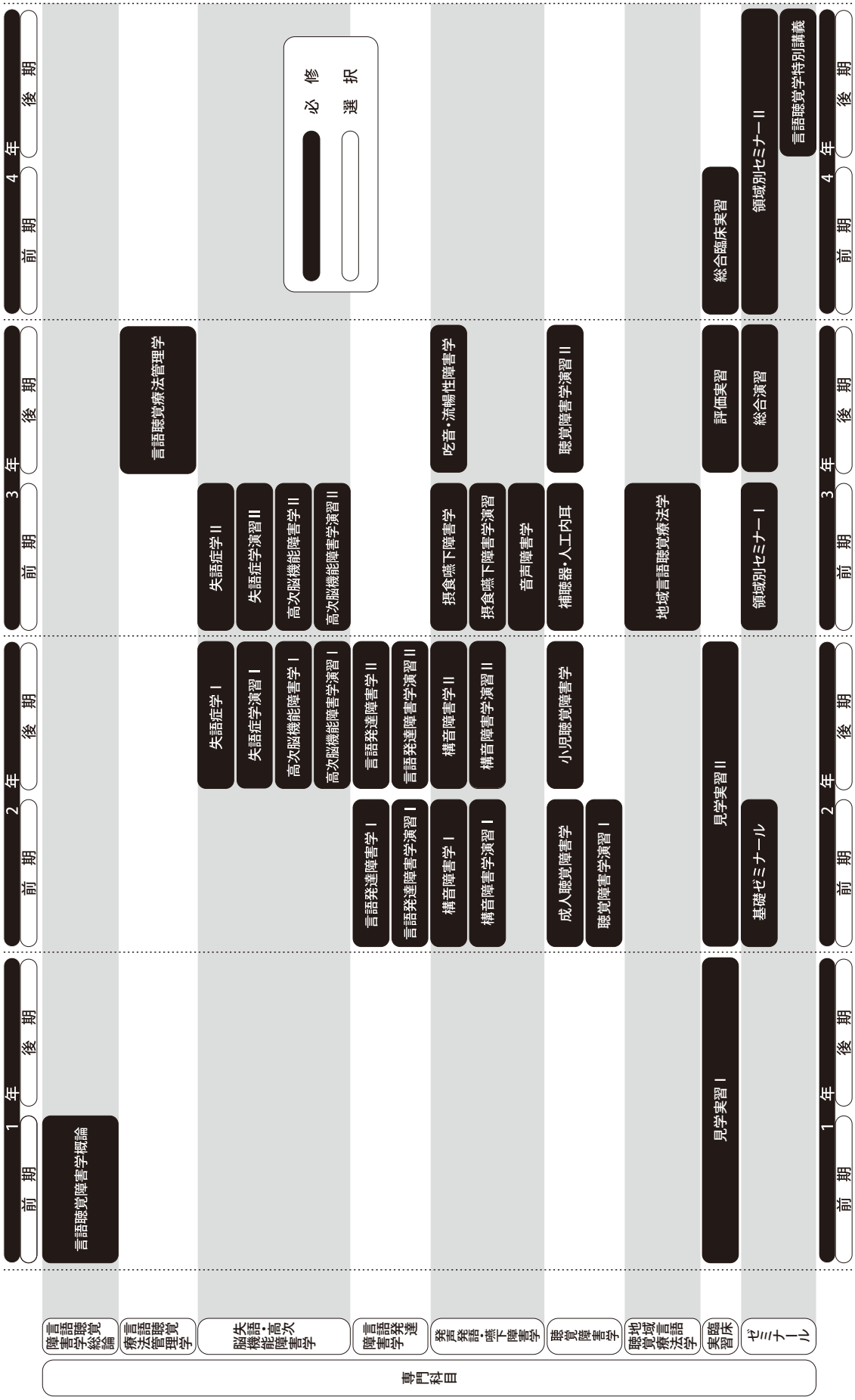
医療福祉学部　リハビリテーション学科　言語聴覚学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	医療情報科学						
		医療のための基礎数学	統計解析						
		生活の中の化学	生活の中の物理学						
		生活の中の生物学							
	自己形成	アカデミック・スキル演習							
		スポーツ実技	生命倫理学						
			心理学概論						
	ことばと相互理解	コミュニケーション論							
		現代国語表現							
		英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		海外研修							
	人と生活	健康科学	哲学	文化人類学					
		憲法と法律	教育学	教育方法論					
		東北の歴史	ジェンダー論						
		現代史	生活と地球科学						
			生活と経済						
			教養としての政治学						
	言語聴覚療法の基盤		チーム医療福祉論		保健医療福祉概論	専門職連携論	専門職連携セミナー		
				認知神経科学	救命救急学	言語聴覚学研究			
					栄養学概論	病態薬理学			
			重度障がい者自立生活支援演習		重度障がい者自立生活支援演習	公衆衛生学	重度障がい者自立生活支援演習		重度障がい者自立生活支援演習
専門基礎科目	人体のしくみ・疾病と治療	解剖・生理学概論Ⅰ	解剖・生理学概論Ⅱ	内科学	臨床神経学				
			医学総論	耳鼻咽喉科学	精神医学				
			小児科学	リハビリテーション医学					
			呼吸発声発語系の構造・機能・病態	形成外科学					
			聴覚系の構造・機能・病態	臨床口腔歯科医学					
			神経系の構造・機能・病態						
	心の働き	生涯発達心理学	学習・認知心理学		心理測定法				
					臨床心理学				
	言語とコミュニケーション	言語学Ⅰ	言語学Ⅱ						
		音声学	聴覚心理学						
		音響学	言語発達学						
	社会保障・教育とリハビリテーション						医療福祉関係法規		
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期

必　修

選　択

医療福祉学部　リハビリテーション学科　言語聴覚学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉



2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	03	01	1	25	1	1通		2		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	03	01	1	25	2	1前・1後		2		
		現代社会を視る	1	03	01	1	25	3	1前・1後		2		
		生活の中の科学	1	03	01	1	25	4	1前・1後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	03	01	1	25	5	1前・1後		2		
		社会活動入門	1	03	01	1	25	6	1前・1後		2		
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1	03	02	1	25	7	1前	2			
		医療のための基礎数学	1	03	02	1	25	8	1前		2		
		生活の中の化学	1	03	02	1	25	9	1前		2		
		生活の中の生物学	1	03	02	1	25	10	1前		2		
		医療情報科学	1	03	02	1	25	11	1後		1		
		統計解析	1	03	02	2	25	12	1後		2		
		生活の中の物理学	1	03	02	1	25	13	1後		2		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	03	02	1	25	14	1通	1			
		生命倫理学	1	03	02	1	25	15	1後	1			
		スポーツ実技	1	03	02	1	25	16	1前		1		
		心理学概論	1	03	02	1	25	17	1後		2		
	ことばと相互理解	コミュニケーション論	1	03	02	1	25	18	1前	2			
		現代国語表現	1	03	02	1	25	19	1前	2			
		英語コミュニケーションⅠ	1	03	02	1	25	20	1前	1			
		英語コミュニケーションⅡ	1	03	02	1	25	21	1後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	03	02	1	25	22	1前		1		
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	03	02	1	25	23	1後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	03	02	1	25	24	1前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	03	02	1	25	25	1後		1		
		海外研修	1	03	02	1	25	26	1通		2		
	人と生活	健康科学	1	03	02	1	25	27	1前	1			
		憲法と法律	1	03	02	1	25	28	1前		2		選択科目11科目から2単位以上修得すること。
		東北の歴史	1	03	02	1	25	29	1前		2		
		現代史	1	03	02	1	25	30	1前		2		
		哲学	1	03	02	1	25	31	1後		2		
		教育学	1	03	02	1	25	32	1後		2		
		ジェンダー論	1	03	02	1	25	33	1後		2		
		生活と地球科学	1	03	02	1	25	34	1後		2		
		生活と経済	1	03	02	1	25	35	1後		2		
		教養としての政治学	1	03	02	1	25	36	1後		2		
		文化人類学	1	03	02	1	25	37	2前		2		
		教育方法論	1	03	02	2	25	38	2前		2		
	言語聴覚療法の基盤	チーム医療福祉論	1	03	02	1	25	39	1後	1			
		保健医療福祉概論	1	03	02	2	25	40	2後	2			
		専門職連携論	1	03	02	2	25	41	3前	2			
		専門職連携セミナー	1	03	02	3	25	42	3後		1		
		重度障がい者自立生活支援演習	1	03	02	1	25	43	1・2・3・4後		1		
		認知神経科学	1	03	02	3	25	44	2前	2			
		救命救急学	1	03	02	2	25	45	2後		1		
		栄養学概論	1	03	02	2	25	46	2後		1		
		病態薬理学	1	03	02	2	25	47	3前		1		
		公衆衛生学	1	03	02	2	25	48	3前		1		
		言語聴覚学研究	1	03	02	4	25	49	3通		4		
	基礎科目の合計									18	64	0	26単位以上修得すること。
専門基礎科目	人体のしくみ・疾病と治療	解剖・生理学概論Ⅰ	1	03	03	2	25	50	1前	2			
		解剖・生理学概論Ⅱ	1	03	03	2	25	51	1後	2			
		医学総論	1	03	03	2	25	52	1後	1			
		小児科学	1	03	03	2	25	53	1後	1			
		内科学	1	03	03	2	25	54	2前	1			
		耳鼻咽喉科学	1	03	03	2	25	55	2前	2			
		リハビリテーション医学	1	03	03	2	25	56	2前	1			
		形成外科学	1	03	03	2	25	57	2前	1			
		臨床口腔歯科医学	1	03	03	2	25	58	2前	2			
		臨床神経学	1	03	03	2	25	59	2後	2			
		精神医学	1	03	03	2	25	60	2後	1			
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1	03	03	2	25	61	1後	1			
		聴覚系の構造・機能・病態	1	03	03	2	25	62	1後	1			
		神経系の構造・機能・病態	1	03	03	2	25	63	1後	1			
	心の働き	生涯発達心理学	1	03	03	2	25	64	1前	2			
		学習・認知心理学	1	03	03	2	25	65	1後	2			
		心理測定法	1	03	03	3	25	66	2後	2			
		臨床心理学	1	03	03	2	25	67	2後	1			

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門基礎科目	言語とコミュニケーション	言語学Ⅰ	1	03	03	2	25	68	1前	2			
		言語学Ⅱ	1	03	03	3	25	69	1後	1			
		音声学	1	03	03	2	25	70	1前	2			
		音響学	1	03	03	3	25	71	1前	2			
		聴覚心理学	1	03	03	3	25	72	1後	1			
		言語発達学	1	03	03	2	25	73	1後	1			
	社会保障・教育とリハビリテーション	医療福祉関係法規	1	03	03	3	25	74	3前	1			
専門基礎科目の合計										36	0	0	36 単位修得すること。
専門科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論	1	03	04	2	25	75	1前	2			
	言語聴覚療法管理学	言語聴覚療法管理学	1	03	04	4	25	76	3後	2			
	失語・高次脳機能障害学	失語症学Ⅰ	1	03	04	4	25	77	2後	2			
		失語症学演習Ⅰ	1	03	04	4	25	78	2後	1			
		失語症学Ⅱ	1	03	04	4	25	79	3前	2			
		失語症学演習Ⅱ	1	03	04	4	25	80	3前	1			
		高次脳機能障害学Ⅰ	1	03	04	4	25	81	2後	1			
		高次脳機能障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	25	82	2後	1			
		高次脳機能障害学Ⅱ	1	03	04	4	25	83	3前	1			
		高次脳機能障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	25	84	3前	1			
	言語発達障害学	言語発達障害学Ⅰ	1	03	04	4	25	85	2前	2			
		言語発達障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	25	86	2前	1			
		言語発達障害学Ⅱ	1	03	04	4	25	87	2後	2			
		言語発達障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	25	88	2後	1			
	発声発語・摂食嚥下障害学	構音障害学Ⅰ	1	03	04	4	25	89	2前	1			
		構音障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	25	90	2前	1			
		構音障害学Ⅱ	1	03	04	4	25	91	2後	1			
		構音障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	25	92	2後	1			
		摂食嚥下障害学	1	03	04	4	25	93	3前	2			
		摂食嚥下障害学演習	1	03	04	4	25	94	3前	1			
		音声障害学	1	03	04	4	25	95	3前	2			
		吃音・流暢性障害学	1	03	04	4	25	96	3後	1			
	聴覚障害学	成人聴覚障害学	1	03	04	4	25	97	2前	2			
		聴覚障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	25	98	2前	1			
		小児聴覚障害学	1	03	04	4	25	99	2後	2			
		補聴器・人工内耳	1	03	04	4	25	100	3前	2			
		聴覚障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	25	101	3後	1			
	地域言語聴覚療法学	地域言語聴覚療法学	1	03	04	4	25	102	3前	2			
	臨床実習	見学実習Ⅰ	1	03	04	2	25	103	1通	1			
		見学実習Ⅱ	1	03	04	3	25	104	2通	1			
		評価実習	1	03	04	4	25	105	3後	5			
		総合臨床実習	1	03	04	4	25	106	4前	8			
	ゼミナール	基礎ゼミナール	1	03	04	3	25	107	2前	1			
		領域別セミナーⅠ	1	03	04	4	25	108	3前	1			
		総合演習	1	03	04	4	25	109	3後	3			
		領域別セミナーⅡ	1	03	04	4	25	110	4通	4			
		言語聴覚学特別講義	1	03	04	4	25	111	4後	1			
		専門科目の合計								65	0	0	65 単位以上修得すること。
		言語聴覚学専攻の総合計								119	64	0	127 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数 必修	選択	計
基礎科目	18	8	26
専門基礎科目	36	0	36
専門科目	65	0	65
合計	119	8	127

2020～2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	03	01	1	20	1	1 通		3		選択科目 6 科目から 2 単位以上修得すること。
		生命を考える	1	03	01	1	20	2	1 前・1 後		2		
		人間文化探求	1	03	01	1	20	3	1 通		2		
		生活の中の科学	1	03	01	1	20	4	1 前・1 後		2		
		地域活動・ボランティア	1	03	01	1	20	5	1 通		2		
		現代社会を視る	1	03	01	1	20	6	1 前・1 後		2		
		ボランティア探求	1	03	01	1	20	7	2 通		2		
	科学的思考の基礎	情報処理	1	03	02	1	20	8	1 前		1		選択科目 7 科目から 1 単位以上修得すること。
		医療情報科学	1	03	02	1	20	9	1 後		1		
		医療数理基礎	1	03	02	1	20	10	1 前		1		
		基礎数学	1	03	02	1	20	11	1 後		2		
		基礎物理学	1	03	02	1	20	12	1 前		2		
		基礎化学	1	03	02	1	20	13	1 前		2		
		基礎生物学	1	03	02	1	20	14	1 前		2		
		統計解析	1	03	02	1	20	15	1 後	2			
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	03	02	1	20	16	1 通	1			
		スポーツ実技	1	03	02	1	20	17	1 前		1		
		心理学	1	03	02	1	20	18	1 後		2		
		生命倫理	1	03	02	1	20	19	1 前	1			
	ことばと相互理解	英語 I	1	03	02	1	20	20	1 通	2			
		英語 II	1	03	02	1	20	21	2 通	2			
		韓国語	1	03	02	1	20	22	1 前		1		
		中国語	1	03	02	1	20	23	1 前		1		
		海外研修	1	03	02	1	20	24	1 通		2		
		コミュニケーション論	1	03	02	1	20	25	1 前		2		
		現代国語表現	1	03	02	1	20	26	1 前	2			
	人と生活	文化人類学	1	03	02	1	20	27	2 前		2		選択科目 4 科目から 2 単位以上修得すること。
		日本・東北文化論	1	03	02	1	20	28	2 前		2		
		日本近代史	1	03	02	1	20	29	2 前		2		
		哲学	1	03	02	1	20	30	4 後		1		
		健康科学	1	03	02	1	20	31	2 前	2			
		憲法と法律	1	03	02	1	20	32	2 前		2		選択科目 7 科目から 3 単位以上修得すること。
		教育学 I	1	03	02	2	20	33	2 前		2		
		教育学 II	1	03	02	2	20	34	4 後		2		
		生活と経済	1	03	02	2	20	35	4 後		1		
		ジェンダー論	1	03	02	2	20	36	4 後		1		
		政治学	1	03	02	2	20	37	4 後		1		
		地球の科学	1	03	02	2	20	38	4 後		1		
	基礎科目の合計									12	52	0	20 単位以上修得すること。
専門基礎科目	基礎医学	解剖・生理学概論 I	1	03	03	2	20	39	1 前	2			
		解剖・生理学概論 II	1	03	03	2	20	40	1 後	2			
		医学総論	1	03	03	2	20	41	1 後	1			
	臨床医学	内科学	1	03	03	2	20	42	2 前	1			
		小児科学	1	03	03	2	20	43	1 後	1			
		耳鼻咽喉科学	1	03	03	2	20	44	2 前	2			
		臨床神経学	1	03	03	2	20	45	2 後	2			
		リハビリテーション医学	1	03	03	2	20	46	2 前	1			
		精神医学	1	03	03	2	20	47	2 後	1			
		形成外科学	1	03	03	2	20	48	2 前	1			
	臨床医学歯科	臨床口腔歯科医学	1	03	03	2	20	49	2 前	2			
	聴覚言語医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1	03	03	2	20	50	1 後	1			
		聴覚系の構造・機能・病態	1	03	03	2	20	51	1 後	1			
		神経系の構造・機能・病態	1	03	03	2	20	52	1 後	1			
	心理学	生涯発達心理学	1	03	03	2	20	53	1 前	2			
		学習・認知心理学	1	03	03	2	20	54	1 後	2			
		心理測定法	1	03	03	2	20	55	2 後	2			
		臨床心理学	1	03	03	2	20	56	2 後	1			
	言語学	言語学	1	03	03	2	20	57	1 前	2			
	音声学	音声学	1	03	03	3	20	58	1 前	2			
	音響学	音響学・聴覚心理学	1	03	03	3	20	59	1 前	2			
	言語発達学	言語発達学	1	03	03	3	20	60	1 後	1			
	社会福祉・教育	リハビリテーション概論	1	03	03	3	20	61	1 後	1			
		医療福祉関係法規	1	03	03	3	20	62	3 前	1			
	専門基礎科目の合計									35	0	0	35 単位修得すること。

2020～2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学概論	1	03	04	1	20	63	1 前	2			
		言語聴覚障害診断学	1	03	04	3	20	64	1 後	1			
	失語・高次脳機能障害学	失語症学Ⅰ	1	03	04	4	20	65	2 後	2			
		失語症学Ⅱ	1	03	04	4	20	66	3 前	2			
		失語症学演習Ⅰ	1	03	04	4	20	67	2 後	1			
		失語症学演習Ⅱ	1	03	04	4	20	68	3 前	1			
		高次脳機能障害学Ⅰ	1	03	04	4	20	69	2 後	1			
		高次脳機能障害学Ⅱ	1	03	04	4	20	70	3 前	1			
		高次脳機能障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	20	71	2 後	1			
		高次脳機能障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	20	72	3 前	1			
	言語発達障害学	言語発達障害学Ⅰ	1	03	04	4	20	73	2 前	2			
		言語発達障害学Ⅱ	1	03	04	4	20	74	2 後	2			
		言語発達障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	20	75	2 前	1			
		言語発達障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	20	76	2 後	1			
	発声発語・嚥下障害学	音声障害学	1	03	04	4	20	77	3 前	2			
		構音障害学Ⅰ	1	03	04	4	20	78	2 前	2			
		構音障害学Ⅱ	1	03	04	4	20	79	2 後	2			
		構音障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	20	80	2 前	1			
		構音障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	20	81	2 後	1			
		吃音学	1	03	04	4	20	82	3 後	1			
		摂食嚥下障害学	1	03	04	4	20	83	3 前	2			
		摂食嚥下障害学演習	1	03	04	4	20	84	3 前	1			
	聴覚障害学	成人聴覚障害学	1	03	04	4	20	85	2 前	2			
		小児聴覚障害学	1	03	04	4	20	86	2 後	2			
		補聴器・人工内耳	1	03	04	4	20	87	3 前	2			
		聴覚障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	20	88	2 前	1			
		聴覚障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	20	89	3 後	1			
		視覚聴覚二重障害	1	03	04	4	20	90	3 後	1			
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	1	03	04	4	20	91	3 後	4			
		臨床実習Ⅱ	1	03	04	4	20	92	4 前	8			
	ゼミナール	基礎ゼミナール	1	03	04	4	20	93	2 前	1			
		総合演習	1	03	04	4	20	94	3 後	3			
		領域別セミナーⅠ	1	03	04	4	20	95	3 前	1			
		領域別セミナーⅡ	1	03	04	4	20	96	4 後	4			
		言語聴覚学特別講義	1	03	04	4	20	97	4 後	1			
	専門科目の合計									62	0	0	62 単位以上修得すること。
選択必修科目	多職種連携	チーム医療福祉論	1	03	05	1	20	98	1 後		1		選択科目 11 科目から 8 単位以上修得すること。
		保健医療福祉概論	1	03	05	2	20	99	2 後		2		
		専門職連携論	1	03	05	2	20	100	3 前		2		
		専門職連携セミナー	1	03	05	2	20	101	3 後		1		
	特別科目	認知神経科学	1	03	05	2	20	102	2 前		2		
		救命救急学	1	03	05	3	20	103	2 後		1		
		栄養学概論	1	03	05	3	20	104	2 後		1		
		病態薬理学	1	03	05	3	20	105	3 前		1		
		公衆衛生学	1	03	05	3	20	106	3 前		1		
		地域言語聴覚療法学	1	03	05	3	20	107	3 前		2		
		言語聴覚学研究	1	03	05	4	20	108	3 通		4		
	選択必修科目の合計									0	18	0	8 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数 必修	選択	計
基礎科目	12	8	20
専門基礎科目	35	0	35
専門科目	62	0	62
選択必修科目	0	8	8
合計	109	16	125

言語聴覚学専攻カリキュラム対照表

2020～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択
輝ける者	1 通		3	※			
生命を考える	1 前・1 後		2	生命を考える	1 前・1 後		2
人間文化探求	1 通		2	※			
生活の中の科学	1 前・1 後		2	生活の中の科学	1 前・1 後		2
地域活動・ボランティア	1 通		2	※			
現代社会を視る	1 前・1 後		2	現代社会を視る	1 前・1 後		2
ボランティア探求	2 通		2	※			
情報処理	1 前		1	※			
医療情報科学	1 後		1	医療情報科学	1 後		1
医療数理基礎	1 前		1	※			
基礎数学	1 後		2	医療のための基礎数学	1 前		2
基礎物理学	1 前		2	生活の中の物理学	1 後		2
基礎化学	1 前		2	生活の中の化学	1 前		2
基礎生物学	1 前		2	生活の中の生物学	1 前		2
統計解析	1 後	2		統計解析	1 後		2
アカデミック・スキル演習	1 通	1		アカデミック・スキル演習	1 通	1	
スポーツ実技	1 前		1	スポーツ実技	1 前		1
心理学	1 後		2	心理学概論	1 後		2
生命倫理	1 前	1		生命倫理学	1 後	1	
英語 I	1 通	2		英語コミュニケーション I	1 前	1	
				英語コミュニケーション II	1 後	1	
英語 II	2 通	2		※			
韓国語	1 前		1	韓国語コミュニケーション I	1 前		1
中国語	1 前		1	中国語コミュニケーション I	1 前		1
海外研修	1 通		2	海外研修	1 通		2
コミュニケーション論	1 前		2	コミュニケーション論	1 前	2	
現代国語表現	1 前	2		現代国語表現	1 前	2	
文化人類学	2 前		2	文化人類学	2 前		2
日本・東北文化論	2 前		2	※			
日本近代史	2 前		2	※			
哲学	4 後		1	※			
健康科学	2 前	2		※			
憲法と法律	2 前		2	※			
教育学 I	2 前		2	※			
教育学 II	4 後		2	※			
生活と経済	4 後		1	※			
ジェンダー論	4 後		1	※			
政治学	4 後		1	※			
地球の科学	4 後		1	※			
解剖・生理学概論 I	1 前	2		解剖・生理学概論 I	1 前	2	
解剖・生理学概論 II	1 後	2		解剖・生理学概論 II	1 後	2	
医学総論	1 後	1		医学総論	1 後	1	
内科学	2 前	1		内科学	2 前	1	
小児科学	1 後	1		小児科学	1 後	1	
耳鼻咽喉科学	2 前	2		耳鼻咽喉科学	2 前	2	
臨床神経学	2 後	2		臨床神経学	2 後	2	
リハビリテーション医学	2 前	1		リハビリテーション医学	2 前	1	
精神医学	2 後	1		精神医学	2 後	1	
形成外科学	2 前	1		形成外科学	2 前	1	
臨床口腔歯科医学	2 前	2		臨床口腔歯科医学	2 前	2	
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1 後	1		呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1 後	1	
聴覚系の構造・機能・病態	1 後	1		聴覚系の構造・機能・病態	1 後	1	
神経系の構造・機能・病態	1 後	1		神経系の構造・機能・病態	1 後	1	
生涯発達心理学	1 前	2		生涯発達心理学	1 前	2	
学習・認知心理学	1 後	2		学習・認知心理学	1 後	2	
心理測定法	2 後	2		心理測定法	2 後	2	
臨床心理学	2 後	1		臨床心理学	2 後	1	
言語学	1 前	2		言語学 I	1 前	2	
音声学	1 前	2		音声学	1 前	2	
音響学・聴覚心理学	1 前	2		音響学	1 前	2	
言語発達学	1 後	1		言語発達学	1 後	1	
リハビリテーション概論	1 後	1		※			
医療福祉関係法規	3 前	1		医療福祉関係法規	3 前	1	
言語聴覚障害学概論	1 前	2		言語聴覚障害学総論	1 前	2	
言語聴覚障害診断学	1 後	1		※			
失語症学 I	2 後	2		失語症学 I	2 後	2	
失語症学 II	3 前	2		失語症学 II	3 前	2	
失語症学演習 I	2 後	1		失語症学演習 I	2 後	1	
失語症学演習 II	3 前	1		失語症学演習 II	3 前	1	

言語聴覚学専攻カリキュラム対照表

2020～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択
高次脳機能障害学Ⅰ	2 後	1		高次脳機能障害学Ⅰ	2 後	1	
高次脳機能障害学Ⅱ	3 前	1		高次脳機能障害学Ⅱ	3 前	1	
高次脳機能障害学演習Ⅰ	2 後	1		高次脳機能障害学演習Ⅰ	2 後	1	
高次脳機能障害学演習Ⅱ	3 前	1		高次脳機能障害学演習Ⅱ	3 前	1	
言語発達障害学Ⅰ	2 前	2		言語発達障害学Ⅰ	2 前	2	
言語発達障害学Ⅱ	2 後	2		言語発達障害学Ⅱ	2 後	2	
言語発達障害学演習Ⅰ	2 前	1		言語発達障害学演習Ⅰ	2 前	1	
言語発達障害学演習Ⅱ	2 後	1		言語発達障害学演習Ⅱ	2 後	1	
音声障害学	3 前	2		音声障害学	3 前	2	
構音障害学Ⅰ	2 前	2		※			
構音障害学Ⅱ	2 後	2		※			
構音障害学演習Ⅰ	2 前	1		構音障害学演習Ⅰ	2 前	1	
構音障害学演習Ⅱ	2 後	1		構音障害学演習Ⅱ	2 後	1	
吃音学	3 後	1		吃音・流暢性障害学	3 後	1	
摂食嚥下障害学	3 前	2		摂食嚥下障害学	3 前	2	
摂食嚥下障害学演習	3 前	1		摂食嚥下障害学演習	3 前	1	
成人聴覚障害学	2 前	2		成人聴覚障害学	2 前	2	
小児聴覚障害学	2 後	2		小児聴覚障害学	2 後	2	
補聴器・人工内耳	3 前	2		補聴器・人工内耳	3 前	2	
聴覚障害学演習Ⅰ	2 前	1		聴覚障害学演習Ⅰ	2 前	1	
聴覚障害学演習Ⅱ	3 後	1		聴覚障害学演習Ⅱ	3 後	1	
視覚聴覚二重障害	3 後	1		※			
臨床実習Ⅰ	3 後	4		評価実習	3 後	5	
臨床実習Ⅱ	4 前	8		総合臨床実習	4 前	8	
基礎ゼミナール	2 前	1		基礎ゼミナール	2 前	1	
総合演習	3 後	3		総合演習	3 後	3	
領域別セミナーⅠ	3 前	1		領域別セミナーⅠ	3 前	1	
領域別セミナーⅡ	4 後	4		領域別セミナーⅡ	4 通	4	
言語聴覚学特別講義	4 後	1		言語聴覚学特別講義	4 後	1	
チーム医療福祉論	1 後		1	チーム医療福祉論	1 後	1	
保健医療福祉概論	2 後		2	保健医療福祉概論	2 後	2	
専門職連携論	3 前		2	専門職連携論	3 前	2	
専門職連携セミナー	3 後		1	専門職連携セミナー	3 後		1
認知神経科学	2 前		2	認知神経科学	2 前	2	
救命救急学	2 後		1	救命救急学	2 後		1
栄養学概論	2 後		1	栄養学概論	2 後		1
病態薬理学	3 前		1	病態薬理学	3 前		1
公衆衛生学	3 前		1	公衆衛生学	3 前		1
地域言語聴覚療法学	3 前		2	地域言語聴覚療法学	3 前	2	
言語聴覚学研究	3 通		4	言語聴覚学研究	3 通		4
				輝ける者	1 通		2
				経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2
				社会活動入門	1 前・1 後		2
				データサイエンス入門	1 前	2	
				韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1
				中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1
				健康科学	1 前	1	
				憲法と法律	1 前		2
				東北の歴史	1 前		2
				現代史	1 前		2
				哲学	1 後		2
				教育学	1 後		2
				ジェンダー論	1 後		2
				生活と地球科学	1 後		2
				生活と経済	1 後		2
				教養としての政治学	1 後		2
				教育方法論	2 前		2
				重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4 後		1
				言語学Ⅱ	1 後	1	
				聴覚心理学	1 後	1	
				言語聴覚療法管理学	3 後	2	
				構音障害学Ⅰ	2 前	1	
				構音障害学Ⅱ	2 後	1	
				見学実習Ⅰ	1 通	1	
				見学実習Ⅱ	2 通	1	

注）※は別途開講する。

《視覚機能学専攻》

1）　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・視覚機能学に関わる幅広い知識、および専門的な基礎知識を習得している。

・視能訓練士に必要とされる教養と豊かな人間性を備え、人の尊厳について理解している。

「思考・判断」

・広い視点を持ち、科学的・論理的に思考することができる。

「技能・表現」

・視能訓練士として眼科学検査全般に対応できる技術、視能矯正、ロービジョンケアに関する訓練、支援技術を身につけている。

・円滑に対人関係を持てるコミュニケーション能力を持ち、論理的に説明できる表現力を身につけている。

「関心・意欲・態度」

・専門職として人や社会に関心を持ち、主体的に学び続ける意欲を持っている。

・患者の気持ちを理解して、思いやる態度を身につけている。

2.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

「知識・技能」

・入学後の修学に必要な数学や物理の基礎学力を有する人。

・読解力と表現力に係る国語と英語を十分学習していること。

「思考力・判断力・表現力」

・自分で考え、自分で判断ができ、それを表現できる人。

・見たものを記録し、データとともに考える作業を行い、それらをまとめることができる人。

「主体的に、多様な人々と協働して学ぶ態度」

・自分の考えを持ちながら、多様な価値観および背景を持つ人とのコミュニケーション能力を持つ人。

・他人の立場にたって考えることができる人。

・特に視覚障害者と協働性を持って行動できる人。

求める学習経験

・眼の仕組みを理解する基礎として「数学」、「物理」あるいは「生物」の学習をしていることが望ましい。

・視能訓練士の国家試験合格に必要な資質や知識を調べてみたことがある。

3.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーを踏まえ、学習の系統性に配慮しながら本専攻として独自のユニークな授業科目も加えて、教育課程を編成し実施する。

「基礎科目」

・専門職を目指す者として、幅広い知識と科学的思考力を養うための基礎となる科目、人の尊厳について考える科目を配置する。

「専門基礎科目」

・視覚の質の重要性を意識する科目を配置する。

・専門職に必要な医療福祉一般と医学一般の科目を系統的に配置する。

・視覚機能学への知的好奇心を高める科目を配置する。

・将来視能訓練士として活躍できる様子を想像できるような科目を配置する。

「専門科目」

・視能訓練士として必要な知識と技術を学ぶ科目を配置する。

・実践する力を系統的に学習するための複数回の臨地実習を配置する。

・学士（視覚機能学）に必要な論理的に思考する力、解り易く説明する力を身に付けるための科目として卒業研究を配置する。

2）　カリキュラムの特徴

視覚機能学専攻のカリキュラムは大きく ① 基礎科目、② 専門基礎科目、③ 専門科目、④ 臨地実習、⑤ 卒業研究、に分けて構成されています。①～⑤ の全ては文部科学省規定の内容を充足したものですが、これに本専攻独自の授業科目を加えた点が最大の特徴です。

基礎科目は 1 年次～2 年次、専門基礎科目は 1 年次～3 年次、専門科目については 2 年次～4 年次にわたって授業が行われます。国家資格である “視能訓練士” の育成が本専攻の第一目標ですので、これに関連する豊富な授業内容が組まれていますが、眼光学にかかわる深い知識の習得、眼科臨床機器学も重視したユニークな教育内容が準備されています。

臨地実習は、指導層の充実した先進的な医療施設と提携し、3 年次後期および 4 年次前期の二回にわたりそれぞれ異なる施設をローテートする方式を採用します。

卒業研究は、ゼミ配置をして、可能な限り早い時期から各自（グループ）に研究テーマを与えます。課外学習の一部として、視覚支援学校、幼児保育施設、光学機器メーカー（工場）、盲導犬訓練施設、特殊な福祉施設などの見学、年数回の国内／国外の指導的な眼科研究者（基礎・臨床）、光学研究者による特別授業、同行援護従業者資格取得のできる選択授業などが組まれています。

【基礎科目】

専門科目履修への導入にあたる基礎科目は、① 探求・理解プロジェクト、② 科学的思考の基礎、③ 自己形成、④ ことばと相互理解、⑤ 人と生活の中から必修 16 単位、選択 9 単位以上、計 25 単位以上の履修となります。

必修科目には、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「データサイエンス入門」、「心理学概論」、「教育学」、「統計・解析」などがあります。卒前、卒後を通して本専攻者には常に新しい知識、技能の修得が求められます。より多くの情報を獲得する手段として、英語理解力向上の重要性を認識して学習に臨んで下さい。「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」は 1 年次を通して学習します。「データサイエンス入門」、「統計・解析」に関する諸知識は以後の学習には不可欠なものです。特に力を入れて学習してもらいます。「基礎物理学」は専門基礎・専門科目では特に重要であり、高等学校での履修者・未履修者を問わず、物理学の基礎的知識を学習してもらうために必修としています。

基礎科目の多くは選択となりますが、何れも将来の自己形成の糧となるものです。出来る限り多くの選択科目履修を望みます。

【専門基礎科目】

専門基礎科目は、① 人体の構造と機能及び心身の発達、② 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進、③ 視覚機能の基礎と検査機器、④ 保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念、の 4 分野の中で、必修 35 単位、選択 1 単位以上、計 36 単位以上を履修します。主な科目は 2 年次に配当されていますが、視覚機能学全般の学習へのモチベーションを高めてもらうことを目的に「生活の中の視覚」を 1 年次前期に行います。また医学全般についての基本的な概念を把握するために 1 年次後期に「医学総論」を学びます。

主な必修科目には、「感覚器解剖・生理」とその演習、「屈折矯正Ⅰ・Ⅱ」「両眼視機能と眼球運動」「専門職連携論」「リハビリテーション概論」「保育概論」などがあります。専門科目へはこれらの科目の基礎知識なしには進めないことを理解した上で授業に臨んで下さい。なお、原則選択科目の中にも必須科目に準ずる科目がありますが、これは学年初めに指定します。

【専門科目】

本来の専門に焦点が絞られた授業となり、すべて必修科目で 64 単位（臨地実習、卒業研究を含む）の履修になります。専門科目は臨地実習と卒業研究を除いて 4 分野に分かれています。① 基礎視能矯正学：視覚生理学、生理光学など、② 視能検査学：視能検査学、眼画像検査など、③ 視能障害学：眼疾病学、神経眼科学、斜視・弱視など、④ 視能訓練学：視能訓練学Ⅰ・Ⅱ・演習、ロービジョン学Ⅰ・Ⅱ、ロービジョンリハビリテーション、臨床心理学が学内での授業です。これを終えて 3 年次後期に第 1 回目の「臨地実習」に入ります。臨地実習直前には、「総合演習Ⅰ」として学内で実習前の模擬演習を行います。4 年次前期の「臨地実習Ⅱ」の後には、「総合演習Ⅱ」で臨地実習後の総合評価（実技演習）を行います。

卒業研究テーマは、3 年次中に各自（グループ）に与えられ、指導教官のもとに随時研究を開始します。

4 年次の主たる履修科目は第 2 回目の臨地実習になりますが、学内授業としては眼科臨床機器学・演習があります。また 4 年次後期には、臨地実習報告、卒業研究発表、学内講師による「特別セミナー」があります。

3）　実習プログラム

【臨地実習の目的と配当年次】

ア．臨地実習Ⅰ

初回の臨地実習は 3 年次後期に 7 週間、学外病院で行いますが、実習施設は指定されます。その内容は所属病院の指導医、指導視能訓練士の指示に従って眼科諸検査、弱視・斜視訓練の見学、眼科医による疾患診断の見学、各種眼科手術の見学、各施設での定期的な勉強会（臨床検討会、抄読会、研究会など）への参加、卒業研究テーマに関する実習施設内での自己学習となります。実習終了時には実習施設指導者および指導教官へ実習日誌を提出します。さらに実習施設で体験した症例 1 例について症例報告会でプレゼンテーションによる発表を行います。

イ．臨地実習Ⅱ

第 2 回目の臨地実習は 4 年次前期に行います。

実習施設は原則初回実習施設とは異なる場所を指定します。実習内容は基本的には初回に準じますが、諸検査、弱視・斜視訓練は初回実習での学習成果に応じて指導者の下で実際に行う機会は増えるはずです。各自の卒業研究テーマについても本学内では得られないものを可能な限り実習施設で修得します。実習日誌提出は初回に準じます。なお、全員が第 2 回臨地実習を終えた時点で、臨地実習Ⅰと同様に全学年を対象とした公開の場で症例報告会を行います。

4）　授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表（別頁）

5）　カリキュラムツリー（別頁）

6）　カリキュラム配置図

7）　授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表（別頁）

8）　その他

1. 進級要件：（別頁：リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則の通り）
2. 実習概要：前記記載の通り
3. 卒業研究：原則 3 年次後期に「視覚機能学研究法」の科目で研究方法を受講し、指導教員の配属を決めます。
   複数人数による共同研究を原則とし、各研究は指導教官の指示に従って進めてもらいます。
   進行状況は随時報告会で求められます。全学生の前で卒業研究発表。

9）　目標とする国家試験・資格

・視覚機能学専攻の卒業により視能訓練士国家試験受験資格を取得
・国家試験合格後、視能訓練士免許を取得（厚生労働大臣）
・視覚機能学専攻が開講している選択科目：同行援護・同行援護演習（同行援護従事者養成研修）を履修し、単位取得することにより同行援護従事者資格を取得（都道府県知事）

10）　将来の進路

・各種医療施設（大学病院、公立および私立病院の眼科、個人眼科診療所）の視能訓練士
・光学関係、眼科医療機器関係の一般企業に、視能訓練士の国家資格をもつ技術者として
・視能訓練士養成施設での教育職（一定期間の臨床経験修得後）
・卒業後大学院へ進学その後、専門領域へ（大学、各種研究機関）

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【医療福祉学部　リハビリテーション学科　視覚機能学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・視覚機能学に関わる幅広い知識、および専門的な基礎知識を習得している。 ・視能訓練士に必要とされる教養と豊かな人間性を備え、人の尊厳について理解している。
②	「思考・判断」	・広い視点を持ち、科学的・論理的に思考することができる。
③	「技能・表現」	・視能訓練士として眼科学検査全般に対応できる技術、視能矯正、ロービジョンケアに関する訓練、支援技術を身につけている。 ・円滑に対人関係を持てるコミュニケーション能力を持ち、論理的に説明できる表現力を身につけている。
④	「関心・意欲・態度」	・専門職として人や社会に関心を持ち、主体的に学び続ける意欲を持っている。 ・患者の気持ちを理解して、思いやる態度を身につけている。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2			○		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2			○		○
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2			○		○
		社会活動入門	1 前・1 後		2			○		○
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1 前	2			◎	○		
		生活の中の化学	1 前		2		○	○		
		生活の中の生物学	1 前		2		○	○		
		生活の中の物理学	1 後		2		○	◎		
		医療情報科学	1 前 ·1 後		1		○	○		
		医療のための基礎数学	1 前	1			○	○		
		統計解析	1 後	2			○	◎		
	自己形成	スポーツ実技	1 前		1		○			○
		生命倫理学	1 後		1		○			◎
		心理学概論	1 後	2			○			○
		アカデミック・スキル演習 I	1 前	1				○		○
		アカデミック・スキル演習 II	1 後	1				○		○
	ことばと相互理解	英語コミュニケーション I	1 前	1			◎			○
		英語コミュニケーション II	1 後	1			○			○
		韓国語コミュニケーション I	1 前		1		○			○
		韓国語コミュニケーション II	1 後		1		○			○
		中国語コミュニケーション I	1 前		1		○			○
		中国語コミュニケーション II	1 後		1		○			○
		コミュニケーション論	1 前		2				○	○
		海外研修	1 通		2			○		○
		現代国語表現	1 前	2					◎	○
	人と生活	健康科学	1 前	1			○			○
		教育学	1 後	2			◎			○
		哲学	1 後		2		○			○
		ジェンダー論	1 後		2		○			○
		憲法と法律	1 前		2		○			○

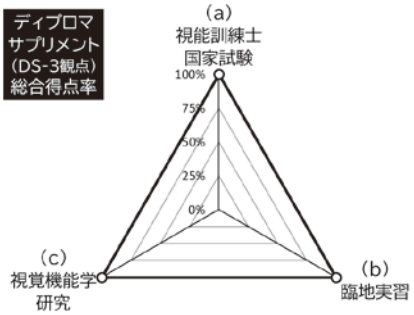
授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	人と生活	東北の歴史	1前		2		○			○
		現代史	1前		2		○			○
		生活と地球科学	1後		2		○			○
		生活と経済	1後		2		○			○
		教養としての政治学	1後		2		○			○
		文化人類学	2前		2		○			○
		教育方法論	2前		2		○			○
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖・生理学概論Ⅰ	1前	2			◎			○
		解剖・生理学概論Ⅱ	1後	2			◎			○
		感覚器解剖・生理	2前	2			◎			○
		感覚器解剖・生理演習	2前	1			◎		○	
		人間生涯発達学	2前	2			◎			○
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	眼の解剖としくみⅠ	1前	1			◎			○
		眼の解剖としくみⅡ	1後	1			◎			○
		医学総論	1後	2			◎			○
		公衆衛生学	2前	1			○			
		臨床神経学	2後	2			◎	○		
		臨床医学	2後	2			◎	○		
		救命救急学	3後	1			◎	○		
	視覚機能の基礎と検査機器	生活の中の視覚	1前	1			○			○
		両眼視機能と眼球運動	1後	1			◎	○		
		両眼視機能と眼球運動演習	2前	2			◎		◎	
		屈折矯正Ⅰ	2前	1			◎		◎	
		屈折矯正Ⅱ	2後	2			◎		◎	
		眼鏡矯正	3前	1			◎		◎	
	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1後	1			◎			○
		チーム医療福祉論	1後	1			○	○		
		保育概論	2後	1			○			
		保健医療福祉概論	2後	2			○	○		
		医療福祉関係法規	3前	1			○			
		専門職連携論	3前	2					◎	○
		専門職連携セミナー	3後		1				◎	○
		看護・保健概論	2後		1		○			
		介護概論	2前		1		○			
		重度障がい者自立生活支援演習	1･2･3･4後		1					◎
	同行援護	同行援護	1･2･3･4後		2		◎			○
		同行援護演習	1･2･3･4後		1			○	◎	
	基礎視能矯正学	生理光学Ⅰ	1前	1			◎	○		
		生理光学Ⅱ	1後	1			◎	○		
		社会と医療Ⅰ	1後	1			◎			○
		社会と医療Ⅱ	3後	1			○			◎
		視覚生理学Ⅰ	2後	2			◎	○		
		視覚生理学Ⅱ	3前	1			◎	○		
		視覚生理学演習	3前	1			◎		◎	
		臨床心理学	2後	1			○	○		
		眼科薬理学	2後	1			◎			○
		眼科臨床機器学	4後	2			◎	◎		

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	視能検査学	基礎眼光学	1 前	1			○	◎		
		視能検査学概論	2 前	2			◎		◎	
		眼画像検査	3 通	3			◎	◎		
		視能検査学 I	3 前	1			◎	○		
		視能検査学演習 I	3 前	1					◎	○
		視能検査学 II	3 後	2			◎	○		
		視能検査学演習 II	3 後	1			◎		◎	
	視能障害学	眼疾病学 I	2 前	2			◎			○
		眼疾病学 II	2 後	2			◎			○
		眼疾病学 III	3 前	1			◎	○		
		神経眼科学	3 前	1			◎			○
		斜視・弱視	3 前	2			◎	○		
	視能訓練学	基礎視能訓練学	2 前	1			◎	○		
		基礎視能訓練学演習	2 前	1				◎	◎	
		視能訓練学 I	2 後	1			◎	○		
		視能訓練学演習 I	2 後	1				◎	◎	
		視能訓練学 II	3 前	1			◎	○		
		視能訓練学演習 II	3 前	1				◎		○
		視能訓練学 III	3 後	2			○	◎		
		ロービジョン学 I	2 後	1			◎			○
		ロービジョン学 II	3 前	1			◎			○
		ロービジョンリハビリテーション	3 後	1				○	◎	
	臨地実習	臨地実習 I	3 後	7			◎			◎
		臨地実習 II	4 前	7				◎	◎	
		総合演習 I	3 前	1					◎	◎
		総合演習 II	4 前	1					◎	◎
	研究・セミナー等	視覚機能学特別セミナー	4 通	3			◎	◎		
		視覚機能学研究法	3 後	1			◎	◎		
		視覚機能学研究	4 通	2				◎		◎

※ 2024 年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025 年度シラバスで確認してください。

VSC:視覚機能学専攻 カリキュラムマップ 2025

ディプロマ
サプリメント
(DS-3観点)
総合得点率



ディプロマ・サプリメント(DS)フロー

DSフロー	ディプロマ・サプリメント(DS)は3年次後期から始まります。臨地実習の前後には客観的臨床能力試験(OSCE)として総合演習を行い、臨地実習Ⅰ・Ⅱの最終的な評価には症例報告会を行います。臨地実習Ⅱと並行して視覚機能学研究(卒業研究)を行い、研究報告会と卒業研究集を提出して学位授与となります。なお、学位授与の前に視能訓練士国家試験が行われます。国家試験対策は4年次の視覚機能学特別セミナーにて行います。		
DS-3観点	(a) 視能訓練士国家試験	(b) 臨地実習	(c) 視覚機能学研究
総合得点	100%換算	100%換算	100%換算
評価方法	・学内実力テスト(全10回+α):達成目標は過去問を使用するので、国家試験合格基準80%(136点/170満点)以上 ・全国統一模擬試験(1回):達成目標は国家試験の合格基準60%(102点/170点満点)以上	ルーブリック評価(実習2回) ・実習指導者による評価 ・実習記録(日誌)の評価 ・症例報告(発表10-15分、600字抄録)	ルーブリック評価 ・指導教員によるゼミでの評価 ・研究ノート ・研究報告(600字抄録、発表15-20分、報告集の作成)

専門:1年次前期～4年次後期

専門科目

DP-4観点

ディプロマ・ポリシー DP-4観点 小区分/得点分布	知識と理解 DP①	思考・判断 DP②	技能・表現 DP③	関心・意欲・態度 DP④	(必修) 合計	ディプロマサプリメント DS-3観点	進め方 (64単位)
基礎視能矯正学					48	—	専門科目は、視覚機能学学士を得るための必修科目(卒業要件:39科目64単位)を設定しており、卒業時に得られるDP-4観点は、知識と理解(DP①)と思考・判断(DP②)を中心になります。 基礎視能矯正学・視能検査学・視能障害学・視能訓練学の4区分の科目はほぼ3年前期で終了し、3年後期からは、ディプロマ・サプリメント(DS)の3観点(視能訓練士国家試験/臨地実習/視覚機能学研究)に沿ってカリキュラムを進めていきます。(DSフローを参照)
視能検査学					44	—	
視能障害学					32	—	
視能訓練学					44	—	
臨地実習					64	b) 臨地実習	
研究・セミナー等					24	a) 国家試験 c) 研究	
計	109	73	35	39	256	7科目22単位	

専門基礎:1年次前期～3年次後期

専門基礎科目

ディプロマ・ポリシー DP-4観点 小区分/得点分布	知識と理解 DP①	思考・判断 DP②	技能・表現 DP③	関心・意欲・態度 DP④	(必+選必) 合計	(サンプル) 選択必修+選択科目	進め方 (36単位以上)
人体の構造と機能及び心身の発達					36	—	専門基礎科目は視覚機能学と眼科学の基礎となる必修科目(24科目35単位)と、リハビリテーション理念から選択必修として4科目1単位以上を設定しており、卒業要件は36単位以上としている。サンプル(左表)のように特に同行援護・演習(選択)の履修を勧めます。修得により視覚障害者の障害状況の理解が深まり、同行援護サービスの移動支援に必要な基礎知識が身につき、この研修修了者は同行援護サービスが提供できます。卒業時に得られるDPは、技能・表現(DP③)も多くしているが、主要は知識と理解(DP①)を設定しています。
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					40	—	
視覚機能の基礎					32	—	
保健医療福祉と視能障害のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念					36	専門職連携セミナー	
同行援護(選択)					12	同行援護 同行援護演習	
計	91	15	24	26	156	3科目4単位	

基礎:1年次前期～2年次前期

基礎科目

ディプロマ・ポリシー DP-4観点 小区分/得点分布	知識と理解 DP①	思考・判断 DP②	技能・表現 DP③	関心・意欲・態度 DP④	(必+選必) 合計	(サンプル) 選択必修科目	進め方 (25単位以上)
探求・理解プロジェクト					8	輝ける者	基礎科目は本学の教育理念に則った全学共通科目です。39科目を5つの小区分に分け、配当年次は主に1年次となっています。必修科目は視覚機能学の基礎の基礎となる11科目16単位、選択必修科目は20科目中9単位以上の修得が必要で、基礎科目の卒業要件は25単位以上となっています。卒業時に得られるディプロマ・ポリシー(DP)は、主に知識と理解(DP①)、思考・判断(DP②)および関心・意欲・態度(DP④)を設定しています。(左サンプル図表を参照)
科学的思考の基礎					32	生活の中の化学 医療情報科学	
自己形成					16	—	
ことばと相互理解					16	—	
人と生活					28	ジェンダー論 生活と経済	
計	40	24	5	31	100	5科目9単位	

医療福祉学部　リハビリテーション学科　視覚機能学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	統計解析						
		医療のための基礎数学							
		生活の中の化学	生活の中の物理学						
		生活の中の生物学	医療情報科学						
	自己形成	アカデミック・スキル演習Ⅰ	アカデミック・スキル演習Ⅱ						
		スポーツ実技	心理学概論						
			生命倫理学						
	ことばと相互理解	現代国語表現							
		英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		コミュニケーション論							
		海外研修							
	人と生活	健康科学	教育学	文化人類学					
		憲法と法律	哲学	教育方法論					
		東北の歴史	ジェンダー論						
		現代史	生活と地球科学						
			生活と経済						
			教養としての政治学						
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖・生理学概論Ⅰ	解剖・生理学概論Ⅱ	感覚器解剖・生理					
				感覚器解剖・生理演習					
				人間生涯発達学					
	病態学・薬学・発達と障害学	眼の解剖としくみⅠ	眼の解剖としくみⅡ	公衆衛生学	臨床神経学		救命救急学		
			医学総論		臨床医学				
	視覚機能の基礎と検査機器	生活の中の視覚	両眼視機能と眼球運動	両眼視機能と眼球運動演習		眼鏡矯正			
				屈折矯正Ⅰ	屈折矯正Ⅱ				
	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念		リハビリテーション概論		保育概論	医療福祉関係法規			
			チーム医療福祉論		保健医療福祉概論	専門職連携論	専門職連携セミナー		
				介護概論	看護・保健概論				
			重度障がい者自立生活支援演習		重度障がい者自立生活支援演習		重度障がい者自立生活支援演習		重度障がい者自立生活支援演習
	同行援護	同行援護		同行援護		同行援護		同行援護	
		同行援護演習		同行援護演習		同行援護演習		同行援護演習	
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期

■ 必修
□ 選択

医療福祉学部　リハビリテーション学科　視覚機能学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
専門科目 基礎視能矯正学	生理光学Ⅰ	生理光学Ⅱ 社会と医療Ⅰ		視覚生理学Ⅰ 臨床心理学 眼科薬理学	視覚生理学Ⅱ 視覚生理学演習	社会と医療Ⅱ		眼科臨床機器学
専門科目 視能検査学	基礎眼光学		視能検査学概論		眼画像検査 視能検査学Ⅰ 視能検査学演習Ⅰ	視能検査学Ⅱ 視能検査学演習Ⅱ		
専門科目 視能障害学			眼疾病学Ⅰ	眼疾病学Ⅱ	眼疾病学Ⅲ 神経眼科学 斜視・弱視			
専門科目 視能訓練学			基礎視能訓練学 基礎視能訓練学演習	視能訓練学Ⅰ 視能訓練学演習Ⅰ ロービジョン学Ⅰ	視能訓練学Ⅱ 視能訓練学演習Ⅱ ロービジョン学Ⅱ	視能訓練学Ⅲ ロービジョンリハビリテーション		
専門科目 臨地実習					総合演習Ⅰ	臨地実習Ⅰ	臨地実習Ⅱ 総合演習Ⅱ	
専門科目 研究・セミナー等						視覚機能学研究法	視覚機能学特別セミナー 視覚機能学研究	

必　修
選　択

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・視覚機能学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	04	01	1	25	1	1 通		2		選択科目 6 科目から 2 単位以上修得すること。
		生命を考える	1	04	01	1	25	2	1 前・1 後		2		
		現代社会を視る	1	04	01	1	25	3	1 前・1 後		2		
		生活の中の科学	1	04	01	1	25	4	1 前・1 後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	04	01	1	25	5	1 前・1 後		2		
		社会活動入門	1	04	01	1	25	6	1 前・1 後		2		
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1	04	02	1	25	7	1 前	2			選択科目 4 科目から 3 単位以上修得すること。
		生活の中の化学	1	04	02	1	25	8	1 前		2		
		生活の中の生物学	1	04	02	1	25	9	1 前		2		
		生活の中の物理学	1	04	02	1	25	10	1 後		2		
		医療情報科学	1	04	02	1	25	11	1 後		1		
		医療のための基礎数学	1	04	02	1	25	12	1 前	1			
		統計解析	1	04	02	1	25	13	1 後	2			
	自己形成	スポーツ実技	1	04	02	1	25	14	1 前		1		
		生命倫理学	1	04	02	1	25	15	1 後		1		
		心理学概論	1	04	02	1	25	16	1 後	2			
		アカデミック・スキル演習Ⅰ	1	04	02	1	25	17	1 前	1			
		アカデミック・スキル演習Ⅱ	1	04	02	1	25	18	1 後	1			
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1	04	02	1	25	19	1 前	1			
		英語コミュニケーションⅡ	1	04	02	1	25	20	1 後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	04	02	1	25	21	1 前		1		
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	04	02	1	25	22	1 後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	04	02	1	25	23	1 前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	04	02	1	25	24	1 後		1		
		コミュニケーション論	1	04	02	1	25	25	1 前		2		
		海外研修	1	04	02	1	25	26	1 通		2		
		現代国語表現	1	04	02	1	25	27	1 前	2			
	人と生活	健康科学	1	04	02	1	25	28	1 前	1			
		教育学	1	04	02	1	25	29	1 後	2			
		哲学	1	04	02	1	25	30	1 後		2		選択科目 10 科目から 4 単位以上修得すること。
		ジェンダー論	1	04	02	1	25	31	1 後		2		
		憲法と法律	1	04	02	1	25	32	1 前		2		
		東北の歴史	1	04	02	1	25	33	1 前		2		
		現代史	1	04	02	1	25	34	1 前		2		
		生活と地球科学	1	04	02	1	25	35	1 後		2		
		生活と経済	1	04	02	1	25	36	1 後		2		
		教養としての政治学	1	04	02	1	25	37	1 後		2		
		文化人類学	1	04	02	1	25	38	2 前		2		
		教育方法論	1	04	02	1	25	39	2 前		2		
	基礎科目の合計									16	49	0	25 単位以上修得すること。
専門基礎科目	人体の構造及び心身の発達と機能	解剖・生理学概論Ⅰ	1	04	03	2	25	40	1 前	2			
		解剖・生理学概論Ⅱ	1	04	03	2	25	41	1 後	2			
		感覚器解剖・生理	1	04	03	2	25	42	2 前	2			
		感覚器解剖・生理演習	1	04	03	2	25	43	2 前	1			
		人間生涯発達学	1	04	03	2	25	44	2 前	2			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	眼の解剖としくみⅠ	1	04	03	3	25	45	1 前	1			
		眼の解剖としくみⅡ	1	04	03	3	25	46	1 後	1			
		医学総論	1	04	03	2	25	47	1 後	2			
		公衆衛生学	1	04	03	2	25	48	2 前	1			
		臨床神経学	1	04	03	2	25	49	2 後	2			
		臨床医学	1	04	03	2	25	50	2 後	2			
		救命救急学	1	04	03	2	25	51	3 後	1			
	視覚機能の基礎と検査機器	生活の中の視覚	1	04	03	1	25	52	1 前	1			
		両眼視機能と眼球運動	1	04	03	3	25	53	1 後	1			
		両眼視機能と眼球運動演習	1	04	03	3	25	54	2 前	2			
		屈折矯正Ⅰ	1	04	03	3	25	55	2 前	1			
		屈折矯正Ⅱ	1	04	03	4	25	56	2 後	2			
		眼鏡矯正	1	04	03	4	25	57	3 前	1			
	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1	04	03	2	25	58	1 後	1			
		チーム医療福祉論	1	04	03	2	25	59	1 後	1			
		保育概論	1	04	03	2	25	60	2 後	1			
		保健医療福祉概論	1	04	03	2	25	61	2 後	2			
		医療福祉関係法規	1	04	03	2	25	62	3 前	1			
		専門職連携論	1	04	03	2	25	63	3 前	2			
		専門職連携セミナー	1	04	03	2	25	64	3 後		1		選択科目 4 科目から 1 単位以上修得すること。
		看護・保健概論	1	04	03	2	25	65	2 後		1		
		介護概論	1	04	03	2	25	66	2 前		1		
		重度障がい者自立生活支援演習	1	04	03	1	25	67	1･2･3･4 後		1		
	同行援護	同行援護	1	04	03	3	25	68	1･2･3･4 通		2		
		同行援護演習	1	04	03	3	25	69	1･2･3･4 通		1		
	専門基礎科目の合計									35	7	0	36 単位以上修得すること。

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・視覚機能学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	基礎視能矯正学	生理光学Ⅰ	1	04	04	3	25	70	1前	1			
		生理光学Ⅱ	1	04	04	4	25	71	1後	1			
		社会と医療Ⅰ	1	04	04	3	25	72	1後	1			
		社会と医療Ⅱ	1	04	04	3	25	73	3後	1			
		視覚生理学Ⅰ	1	04	04	3	25	74	2後	2			
		視覚生理学Ⅱ	1	04	04	4	25	75	3前	1			
		視覚生理学演習	1	04	04	4	25	76	3前	1			
		臨床心理学	1	04	04	3	25	77	2後	1			
		眼科薬理学	1	04	04	3	25	78	2後	1			
		眼科臨床機器学	1	04	04	4	25	79	4後	2			
	視能検査学	基礎眼光学	1	04	04	2	25	80	1前	1			
		視能検査学概論	1	04	04	2	25	81	2前	2			
		眼画像検査	1	04	04	4	25	82	3通	3			
		視能検査学Ⅰ	1	04	04	3	25	83	3前	1			
		視能検査学演習Ⅰ	1	04	04	4	25	84	3前	1			
		視能検査学Ⅱ	1	04	04	4	25	85	3後	2			
		視能検査学演習Ⅱ	1	04	04	4	25	86	3後	1			
	視能障害学	眼疾病学Ⅰ	1	04	04	3	25	87	2前	2			
		眼疾病学Ⅱ	1	04	04	3	25	88	2後	2			
		眼疾病学Ⅲ	1	04	04	4	25	89	3前	1			
		神経眼科学	1	04	04	3	25	90	3前	1			
		斜視・弱視	1	04	04	3	25	91	3前	2			
	視能訓練学	基礎視能訓練学	1	04	04	3	25	92	2前	1			
		基礎視能訓練学演習	1	04	04	3	25	93	2前	1			
		視能訓練学Ⅰ	1	04	04	3	25	94	2後	1			
		視能訓練学演習Ⅰ	1	04	04	3	25	95	2後	1			
		視能訓練学Ⅱ	1	04	04	4	25	96	3前	1			
		視能訓練学演習Ⅱ	1	04	04	4	25	97	3前	1			
		視能訓練学Ⅲ	1	04	04	4	25	98	3後	2			
		ロービジョン学Ⅰ	1	04	04	3	25	99	2後	1			
		ロービジョン学Ⅱ	1	04	04	4	25	100	3前	1			
		ロービジョンリハビリテーション	1	04	04	4	25	101	3後	1			
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	1	04	04	4	25	102	3後	7			
		臨地実習Ⅱ	1	04	04	4	25	103	4前	7			
		総合演習Ⅰ	1	04	04	4	25	104	3前	1			
		総合演習Ⅱ	1	04	04	4	25	105	4前	1			
	研究・セミナー等	視覚機能学特別セミナー	1	04	04	4	25	106	4通	3			
		視覚機能学研究法	1	04	04	4	25	107	3後	1			
		視覚機能学研究	1	04	04	4	25	108	4通	2			
専門科目の合計										64	0	0	64 単位以上修得すること。
視覚機能学専攻の総合計										115	56	0	125 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
基礎科目	16	9	25
専門基礎科目	35	1	36
専門科目	64	0	64
合計	115	10	125

2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・視覚機能学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	04	01	1	24	1	1通		3		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	04	01	1	24	2	1前・1後		2		
		人間文化探求	1	04	01	1	24	3	1通		2		
		生活の中の科学	1	04	01	1	24	4	1前・1後		2		
		地域活動・ボランティア	1	04	01	1	24	5	1通		2		
		現代社会を視る	1	04	01	1	24	6	1前・1後		2		
		ボランティア探求	1	04	01	2	24	7	2通		2		
	科学的思考の基礎	情報処理	1	04	02	1	24	8	1前	1			選択科目4科目から3単位以上修得すること。
		医療情報科学	1	04	02	1	24	9	1後		1		
		医療数理基礎	1	04	02	1	24	10	1通	1			
		基礎数学	1	04	02	1	24	11	1後		2		
		基礎物理学	1	04	02	2	24	12	1前	2			
		基礎化学	1	04	02	1	24	13	1前		2		
		統計解析	1	04	02	2	24	14	1後	2			
		基礎生物学	1	04	02	1	24	15	1前		2		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	04	02	1	24	16	1通	1			選択科目2科目から1単位以上修得すること。
		スポーツ実技	1	04	02	1	24	17	1前		1		
		心理学	1	04	02	1	24	18	1後		2		
		生命倫理	1	04	02	1	24	19	1前	1			
	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1	04	02	1	24	20	1通	2			選択科目5科目から1単位以上修得すること。
		英語Ⅱ	1	04	02	1	24	21	2通		2		
		韓国語	1	04	02	1	24	22	1前		1		
		中国語	1	04	02	1	24	23	1前		1		
		コミュニケーション論	1	04	02	1	24	24	1前		2		
		現代国語表現	1	04	02	1	24	25	1前	2			
		海外研修	1	04	02	1	24	26	1・2・3・4通		2		
	人と生活	憲法と法律	1	04	02	1	24	27	2前		2		選択科目11科目から3単位以上修得すること。
		文化人類学	1	04	02	1	24	28	2前		2		
		日本・東北文化論	1	04	02	1	24	29	2前		2		
		日本近代史	1	04	02	1	24	30	2前		2		
		健康科学	1	04	02	1	24	31	2前		2		
		教育学Ⅰ	1	04	02	1	24	32	2前	2			
		教育学Ⅱ	1	04	02	2	24	33	4後		2		
		地球の科学	1	04	02	2	24	34	4後		1		
		哲学	1	04	02	2	24	35	4後		1		
		生活と経済	1	04	02	2	24	36	4後		1		
		ジェンダー論	1	04	02	2	24	37	4後		1		
		政治学	1	04	02	2	24	38	4後		1		
	基礎科目の合計									14	50	0	24単位以上修得すること。
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖・生理学概論Ⅰ	1	04	03	2	24	39	1前	2			
		解剖・生理学概論Ⅱ	1	04	03	2	24	40	1後	2			
		感覚器解剖・生理	1	04	03	2	24	41	2前	2			
		感覚器解剖・生理演習	1	04	03	2	24	42	2前	1			
		人間生涯発達学	1	04	03	2	24	43	2前	2			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学総論	1	04	03	2	24	44	1後	2			
		眼科学入門	1	04	03	2	24	45	1前	2			
		臨床神経学	1	04	03	2	24	46	2後	2			
		臨床医学	1	04	03	2	24	47	2後	2			
		救命救急学	1	04	03	2	24	48	3後	1			
		公衆衛生学	1	04	03	2	24	49	2前	1			
	視覚機能の基礎と検査機器	視覚機能学概論Ⅰ	1	04	03	2	24	50	1後	2			
		視覚機能学概論Ⅱ	1	04	03	2	24	51	2前	2			
		視能検査機器概論Ⅰ	1	04	03	3	24	52	2前	2			
		視能検査機器演習Ⅰ	1	04	03	3	24	53	2前	1			
		眼科検査基礎演習	1	04	03	2	24	54	1後	1			
		臨床基礎セミナー	1	04	03	2	24	55	2通	1			
	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	医療福祉関係法規	1	04	03	2	24	56	3前	1			選択科目3科目から1単位以上修得すること。
		保育概論	1	04	03	2	24	57	2後	1			
		リハビリテーション概論	1	04	03	2	24	58	1後	1			
		チーム医療福祉論	1	04	03	2	24	59	1後	1			
		保健医療福祉概論	1	04	03	2	24	60	2後	2			
		専門職連携論	1	04	03	2	24	61	3前	2			
		専門職連携セミナー	1	04	03	2	24	62	3後		1		
		看護・保健概論	1	04	03	2	24	63	2後		1		
		介護概論	1	04	03	2	24	64	3前		2		
	同行援護	同行援護	1	04	03	2	24	65	1・2・3・4通		2		
		同行援護演習	1	04	03	2	24	66	1・2・3・4通		1		
	専門基礎科目の合計									36	7	0	37単位以上修得すること。

2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・視覚機能学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	基礎視能矯正学	視能矯正学Ⅰ	1	04	04	3	24	67	1後	1			
		視能矯正学Ⅱ	1	04	04	3	24	68	2前	1			
		視能矯正学Ⅲ	1	04	04	4	24	69	3前	1			
		視覚生理学Ⅰ	1	04	04	3	24	70	1後	2			
		視覚生理学Ⅱ	1	04	04	4	24	71	3前	1			
		視覚生理学演習	1	04	04	4	24	72	3前	1			
		生理光学Ⅰ	1	04	04	3	24	73	1後	2			
		生理光学Ⅱ	1	04	04	4	24	74	3前	1			
		生理光学演習	1	04	04	4	24	75	3前	1			
		臨床心理学	1	04	04	3	24	76	2後	1			
	視能検査学	視能検査学Ⅰ	1	04	04	3	24	77	3前	2			
		視能検査学演習	1	04	04	3	24	78	3前	1			
		視能検査学Ⅱ	1	04	04	4	24	79	3後	2			
		視能検査学演習Ⅱ	1	04	04	4	24	80	3後	1			
		眼科臨床機器学	1	04	04	4	24	81	4後	2			
		眼科臨床機器学演習	1	04	04	4	24	82	4後	1			
		視能検査機器概論Ⅱ	1	04	04	3	24	83	2後	2			
		視能検査機器演習Ⅱ	1	04	04	3	24	84	2後	2			
	視能障害学	眼疾病学Ⅰ	1	04	04	3	24	85	2後	2			
		眼疾病学Ⅱ	1	04	04	3	24	86	2後	2			
		神経眼科学	1	04	04	3	24	87	2後	1			
		斜視・弱視	1	04	04	3	24	88	3前	2			
		眼科薬理学	1	04	04	3	24	89	2後	1			
	視能訓練学	視能訓練学Ⅰ	1	04	04	3	24	90	2後	2			
		視能訓練学演習Ⅰ	1	04	04	3	24	91	2後	2			
		視能訓練学Ⅱ	1	04	04	4	24	92	3前	1			
		視能訓練学演習Ⅱ	1	04	04	4	24	93	3前	1			
		視能訓練学Ⅲ	1	04	04	4	24	94	3後	2			
		ロービジョン学Ⅰ	1	04	04	3	24	95	2後	1			
		ロービジョン学Ⅱ	1	04	04	4	24	96	3前	1			
		ロービジョンリハビリテーション	1	04	04	4	24	97	3後	1			
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	1	04	04	4	24	98	3後	7			
		臨地実習Ⅱ	1	04	04	4	24	99	4前	7			
		総合演習Ⅰ	1	04	04	4	24	100	3前	1			
		総合演習Ⅱ	1	04	04	4	24	101	4前	1			
	研究・ゼミナール等	視覚機能学特別セミナー	1	04	04	4	24	102	4通	3			
		視覚機能学研究法	1	04	04	4	24	103	3後	1			
		視覚機能学研究	1	04	04	4	24	104	4通	2			
専門科目の合計										66	0	0	66 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
基礎科目	14	10	24
専門基礎科目	36	1	37
専門科目	66	0	66
合計	116	11	127

2020～2023 年度入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・視覚機能学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	04	01	1	20	1	1通		3		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	04	01	1	20	2	1前・1後		2		
		人間文化探求	1	04	01	1	20	3	1通		2		
		生活の中の科学	1	04	01	1	20	4	1前・1後		2		
		地域活動・ボランティア	1	04	01	1	20	5	1通		2		
		現代社会を視る	1	04	01	1	20	6	1前・1後		2		
		ボランティア探求	1	04	01	1	20	7	2通		2		
	科学的思考の基礎	情報処理	1	04	02	1	20	8	1前	1			選択科目4科目から3単位以上修得すること。
		医療情報科学	1	04	02	1	20	9	1後		1		
		医療数理基礎	1	04	02	1	20	10	1通	1			
		基礎数学	1	04	02	1	20	11	1後		2		
		基礎物理学	1	04	02	2	20	12	1前	2			
		基礎化学	1	04	02	1	20	13	1前		2		
		統計解析	1	04	02	2	20	14	1後	2			
		基礎生物学	1	04	02	1	20	15	1前		2		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	04	02	1	20	16	1通	1			選択科目2科目から1単位以上修得すること。
		スポーツ実技	1	04	02	1	20	17	1前		1		
		心理学	1	04	02	1	20	18	1後		2		
		生命倫理	1	04	02	1	20	19	1前	1			
	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1	04	02	1	20	20	1通	2			選択科目5科目から1単位以上修得すること。
		英語Ⅱ	1	04	02	1	20	21	2通		2		
		韓国語	1	04	02	1	20	22	1前		1		
		中国語	1	04	02	1	20	23	1前		1		
		コミュニケーション論	1	04	02	1	20	24	1前		2		
		現代国語表現	1	04	02	1	20	25	1前	2			
		海外研修	1	04	02	1	20	26	1・2・3・4通		2		
	人と生活	憲法と法律	1	04	02	1	20	27	2前		2		選択科目11科目から3単位以上修得すること。
		文化人類学	1	04	02	1	20	28	2前		2		
		日本・東北文化論	1	04	02	1	20	29	2前		2		
		日本近代史	1	04	02	1	20	30	2前		2		
		健康科学	1	04	02	1	20	31	2前		2		
		教育学Ⅰ	1	04	02	1	20	32	2前	2			
		教育学Ⅱ	1	04	02	2	20	33	4後		2		
		地球の科学	1	04	02	2	20	34	4後		1		
		哲学	1	04	02	2	20	35	4後		1		
		生活と経済	1	04	02	2	20	36	4後		1		
		ジェンダー論	1	04	02	2	20	37	4後		1		
		政治学	1	04	02	2	20	38	4後		1		
	基礎科目の合計									14	50	0	24単位以上修得すること。
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖・生理学概論Ⅰ	1	04	03	2	20	39	1前	2			
		解剖・生理学概論Ⅱ	1	04	03	2	20	40	1後	2			
		感覚器解剖・生理	1	04	03	2	20	41	2前	2			
		感覚器解剖・生理演習	1	04	03	2	20	42	2前	1			
		人間生涯発達学	1	04	03	2	20	43	2前	2			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学総論	1	04	03	2	20	44	1後	2			
		眼科学入門	1	04	03	2	20	45	1前	2			
		眼科検査基礎演習	1	04	03	2	20	46	1後	1			
		臨床神経学	1	04	03	2	20	47	2後	2			
		臨床医学	1	04	03	2	20	48	2後	2			
		臨床基礎セミナー	1	04	03	2	20	49	2通	1			
		救命救急学	1	04	03	2	20	50	3後	1			
	視覚機能の基礎と検査機器	視覚機能学概論Ⅰ	1	04	03	2	20	51	1後	2			
		視覚機能学概論Ⅱ	1	04	03	2	20	52	2前	2			
		視能検査機器概論Ⅰ	1	04	03	3	20	53	2前	2			
		視能検査機器概論Ⅱ	1	04	03	3	20	54	2後	2			
		視能検査機器演習Ⅰ	1	04	03	3	20	55	2前	1			
		視能検査機器演習Ⅱ	1	04	03	3	20	56	2後	2			
	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	医療福祉関係法規	1	04	03	2	20	57	3前	1			
		公衆衛生学	1	04	03	2	20	58	2前	1			
		保育概論	1	04	03	2	20	59	2後	1			
		リハビリテーション概論	1	04	03	2	20	60	1後	1			
		チーム医療福祉論	1	04	03	2	20	61	1後	1			
		保健医療福祉概論	1	04	03	2	20	62	2後	2			
		専門職連携論	1	04	03	2	20	63	3前	2			
		専門職連携セミナー	1	04	03	2	20	64	3後		1		選択科目3科目から1単位以上修得すること。
		看護・保健概論	1	04	03	2	20	65	2後		1		
		介護概論	1	04	03	2	20	66	3前		2		
	同行援護	同行援護	1	04	03	2	20	67	1・2・3・4通		2		
		同行援護演習	1	04	03	2	20	68	1・2・3・4通		1		
	専門基礎科目の合計									40	7	0	41単位以上修得すること。

2020～2023 年度入学者用

【医療福祉学部】
［リハビリテーション学科・視覚機能学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	基礎視能矯正学	視能矯正学Ⅰ	1	04	04	3	20	69	1後	1			
		視能矯正学Ⅱ	1	04	04	3	20	70	2前	1			
		視能矯正学Ⅲ	1	04	04	4	20	71	3前	1			
		視覚生理学Ⅰ	1	04	04	3	20	72	1後	2			
		視覚生理学Ⅱ	1	04	04	4	20	73	3前	1			
		視覚生理学演習	1	04	04	4	20	74	3前	1			
		生理光学Ⅰ	1	04	04	3	20	75	1後	2			
		生理光学Ⅱ	1	04	04	4	20	76	3前	1			
		生理光学演習	1	04	04	4	20	77	3前	1			
	視能検査学	視能検査学Ⅰ	1	04	04	3	20	78	3前	2			
		視能検査学演習	1	04	04	3	20	79	3前	1			
		視能検査学Ⅱ	1	04	04	4	20	80	3後	2			
		視能検査学演習Ⅱ	1	04	04	4	20	81	3後	1			
		眼科薬理学	1	04	04	3	20	82	2後	1			
		眼科臨床機器学	1	04	04	4	20	83	4後	2			
		眼科臨床機器学演習	1	04	04	4	20	84	4後	1			
	視能障害学	眼疾病学Ⅰ	1	04	04	3	20	85	2後	2			
		眼疾病学Ⅱ	1	04	04	3	20	86	2後	2			
		神経眼科学	1	04	04	3	20	87	2後	1			
		斜視・弱視	1	04	04	3	20	88	3前	2			
		ロービジョン学Ⅰ	1	04	04	3	20	89	2後	1			
		ロービジョン学Ⅱ	1	04	04	4	20	90	3前	1			
		ロービジョンリハビリテーション	1	04	04	4	20	91	3後	1			
	視能訓練学	臨床心理学	1	04	04	3	20	92	2後	1			
		視能訓練学Ⅰ	1	04	04	3	20	93	2後	2			
		視能訓練学演習Ⅰ	1	04	04	3	20	94	2後	2			
		視能訓練学Ⅱ	1	04	04	4	20	95	3前	1			
		視能訓練学演習Ⅱ	1	04	04	4	20	96	3前	1			
		視覚機能学総合演習	1	04	04	4	20	97	3前	1			
		視能訓練学Ⅲ	1	04	04	4	20	98	3後	2			
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	1	04	04	4	20	99	3後	7			
		臨地実習Ⅱ	1	04	04	4	20	100	4前	7			
	研究・セミナー等	視覚機能学特別セミナー	1	04	04	4	20	101	4通	4			
		視覚機能学研究法	1	04	04	4	20	102	3後	1			
		視覚機能学研究	1	04	04	4	20	103	4通	2			
専門科目の合計										62	0	0	62 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
基礎科目	14	10	24
専門基礎科目	40	1	41
専門科目	62	0	62
合計	116	11	127

視覚機能学専攻カリキュラム対照表

2020～2023 年度入学者用				2024 年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	輝ける者	1 通		3
生命を考える	1 前・1 後		2	生命を考える	1 前・1 後		2
人間文化探求	1 通		2	人間文化探求	1 通		2
生活の中の科学	1 前・1 後		2	生活の中の科学	1 前・1 後		2
地域活動・ボランティア	1 通		2	地域活動・ボランティア	1 通		2
現代社会を視る	1 前・1 後		2	現代社会を視る	1 前・1 後		2
ボランティア探求	2 通		2	ボランティア探求	2 通		2
情報処理	1 前	1		情報処理	1 前	1	
医療情報科学	1 後		1	医療情報科学	1 後		1
医療数理基礎	1 通	1		医療数理基礎	1 通	1	
基礎数学	1 後		2	基礎数学	1 後		2
基礎物理学	1 前	2		基礎物理学	1 前	2	
基礎化学	1 前		2	基礎化学	1 前		2
統計解析	1 後	2		統計解析	1 後	2	
基礎生物学	1 前		2	基礎生物学	1 前		2
アカデミック・スキル演習	1 通	1		アカデミック・スキル演習	1 通	1	
スポーツ実技	1 前		1	スポーツ実技	1 前		1
心理学	1 後		2	心理学	1 後		2
生命倫理	1 前	1		生命倫理	1 前	1	
英語 I	1 通	2		英語 I	1 通	2	
英語 II	2 通		2	英語 II	2 通		2
韓国語	1 前		1	韓国語	1 前		1
中国語	1 前		1	中国語	1 前		1
コミュニケーション論	1 前		2	コミュニケーション論	1 前		2
現代国語表現	1 前	2		現代国語表現	1 前	2	
海外研修	1・2・3・4 通		2	海外研修	1・2・3・4 通		2
憲法と法律	2 前		2	憲法と法律	2 前		2
文化人類学	2 前		2	文化人類学	2 前		2
日本・東北文化論	2 前		2	日本・東北文化論	2 前		2
日本近代史	2 前		2	日本近代史	2 前		2
健康科学	2 前		2	健康科学	2 前		2
教育学 I	2 前	2		教育学 I	2 前	2	
教育学 II	4 後		2	教育学 II	4 後		2
地球の科学	4 後		1	地球の科学	4 後		1
哲学	4 後		1	哲学	4 後		1
生活と経済	4 後		1	生活と経済	4 後		1
ジェンダー論	4 後		1	ジェンダー論	4 後		1
政治学	4 後		1	政治学	4 後		1
解剖・生理学概論 I	1 前	2		解剖・生理学概論 I	1 前	2	
解剖・生理学概論 II	1 後	2		解剖・生理学概論 II	1 後	2	
感覚器解剖・生理	2 前	2		感覚器解剖・生理	2 前	2	
感覚器解剖・生理演習	2 前	1		感覚器解剖・生理演習	2 前	1	
人間生涯発達学	2 前	2		人間生涯発達学	2 前	2	
医学総論	1 後	2		医学総論	1 後	2	
眼科学入門	1 前	2		眼科学入門	1 前	2	
眼科検査基礎演習	1 後	1		眼科検査基礎演習	1 後	1	
臨床神経学	2 後	2		臨床神経学	2 後	2	
臨床医学	2 後	2		臨床医学	2 後	2	
臨床基礎セミナー	2 通	1		※			
救命救急学	3 後	1		救命救急学	3 後	1	
視覚機能学概論 I	1 後	2		視覚機能学概論 I	1 後	2	
視覚機能学概論 II	2 前	2		視覚機能学概論 II	2 前	2	
視能検査機器概論 I	2 前	2		視能検査機器概論 I	2 前	2	
視能検査機器概論 II	2 後	2		視能検査機器概論 II	2 後	2	
視能検査機器演習 I	2 前	1		視能検査機器演習 I	2 前	1	
視能検査機器演習 II	2 後	2		視能検査機器演習 II	2 後	2	
医療福祉関係法規	3 前	1		医療福祉関係法規	3 前	1	
公衆衛生学	2 前	1		公衆衛生学	2 前	1	
保育概論	2 後	1		保育概論	2 後	1	
リハビリテーション概論	1 後	1		リハビリテーション概論	1 後	1	
チーム医療福祉論	1 後	1		チーム医療福祉論	1 後	1	

視覚機能学専攻カリキュラム対照表

2020～2023 年度入学者用				2024 年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
保健医療福祉概論	2 後	2		保健医療福祉概論	2 後	2	
専門職連携論	3 前	2		専門職連携論	3 前	2	
専門職連携セミナー	3 後		1	専門職連携セミナー	3 後		1
看護・保健概論	2 後		1	看護・保健概論	2 後		1
介護概論	3 前		2	介護概論	3 前		2
同行援護	1・2・3・4 通		2	同行援護	1・2・3・4 通		2
同行援護演習	1・2・3・4 通		1	同行援護演習	1・2・3・4 通		1
視能矯正学Ⅰ	1 後	1		視能矯正学Ⅰ	1 後	1	
視能矯正学Ⅱ	2 前	1		視能矯正学Ⅱ	2 前	1	
視能矯正学Ⅲ	3 前	1		視能矯正学Ⅲ	3 前	1	
視覚生理学Ⅰ	1 後	2		視覚生理学Ⅰ	1 後	2	
視覚生理学Ⅱ	3 前	1		視覚生理学Ⅱ	3 前	1	
視覚生理学演習	3 前	1		視覚生理学演習	3 前	1	
生理光学Ⅰ	1 後	2		生理光学Ⅰ	1 後	2	
生理光学Ⅱ	3 前	1		生理光学Ⅱ	3 前	1	
生理光学演習	3 前	1		生理光学演習	3 前	1	
視能検査学Ⅰ	3 前	2		視能検査学Ⅰ	3 前	2	
視能検査学演習	3 前	1		視能検査学演習	3 前	1	
視能検査学Ⅱ	3 後	2		視能検査学Ⅱ	3 後	2	
視能検査学演習Ⅱ	3 後	1		視能検査学演習Ⅱ	3 後	1	
眼科薬理学	2 後	1		眼科薬理学	2 後	1	
眼科臨床機器学	4 後	2		眼科臨床機器学	4 後	2	
眼科臨床機器学演習	4 後	1		眼科臨床機器学演習	4 後	1	
眼疾病学Ⅰ	2 後	2		眼疾病学Ⅰ	2 後	2	
眼疾病学Ⅱ	2 後	2		眼疾病学Ⅱ	2 後	2	
神経眼科学	2 後	1		神経眼科学	2 後	1	
斜視・弱視	3 前	2		斜視・弱視	3 前	2	
ロービジョン学Ⅰ	2 後	1		ロービジョン学Ⅰ	2 後	1	
ロービジョン学Ⅱ	3 前	1		※			
ロービジョンリハビリテーション	3 後	1		※			
臨床心理学	2 後	1		臨床心理学	2 後	1	
視能訓練学Ⅰ	2 後	2		視能訓練学Ⅰ	2 後	2	
視能訓練学演習Ⅰ	2 後	2		視能訓練学演習Ⅰ	2 後	2	
視能訓練学Ⅱ	3 前	1		視能訓練学Ⅱ	3 前	1	
視能訓練学演習Ⅱ	3 前	1		視能訓練学演習Ⅱ	3 前	1	
視覚機能学総合演習	3 前	1		※			
視能訓練学Ⅲ	3 後	2		視能訓練学Ⅲ	3 後	2	
臨地実習Ⅰ	3 後	7		臨地実習Ⅰ	3 後	7	
臨地実習Ⅱ	4 前	7		臨地実習Ⅱ	4 前	7	
視覚機能学特別セミナー	4 通	4		※			
視覚機能学研究法	3 後	1		視覚機能学研究法	3 後	1	
視覚機能学研究	4 通	2		視覚機能学研究	4 通	2	
				臨床基礎セミナー	2 通	1	
				ロービジョン学Ⅱ	3 前	1	
				ロービジョンリハビリテーション	3 後	1	
				総合演習Ⅰ	3 前	1	
				総合演習Ⅱ	4 前	1	
				視覚機能学特別セミナー	4 通	3	

注）※は別途開講する

視覚機能学専攻カリキュラム対照表

2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	※			
生命を考える	1 前・1 後		2	生命を考える	1 前・1 後		2
人間文化探求	1 通		2	※			
生活の中の科学	1 前・1 後		2	生活の中の科学	1 前・1 後		2
地域活動・ボランティア	1 通		2	※			
現代社会を視る	1 前・1 後		2	現代社会を視る	1 前・1 後		2
ボランティア探求	2 通		2	※			
情報処理	1 前	1		※			
医療情報科学	1 後		1	医療情報科学	1 後		1
医療数理基礎	1 通	1		医療のための基礎数学	1 前	1	
基礎数学	1 後		2	※			
基礎物理学	1 前	2		※			
基礎化学	1 前		2	生活の中の化学	1 前		2
統計解析	1 後	2		統計解析	1 後	2	
基礎生物学	1 前		2	生活の中の生物学	1 前		2
アカデミック・スキル演習	1 通	1		アカデミック・スキル演習 I	1 前	1	
				アカデミック・スキル演習 II	1 後	1	
スポーツ実技	1 前		1	スポーツ実技	1 前		1
心理学	1 後		2	心理学概論	1 後	2	
生命倫理	1 前	1		生命倫理学	1 後	1	
英語 I	1 通	2		英語コミュニケーション I	1 前	1	
				英語コミュニケーション II	1 後	1	
英語 II	2 通		2	※			
韓国語	1 前		1	韓国語コミュニケーション I	1 前		1
中国語	1 前		1	中国語コミュニケーション I	1 前		1
コミュニケーション論	1 前		2	コミュニケーション論	1 前		2
現代国語表現	1 前	2		現代国語表現	1 前	2	
海外研修	1・2・3・4 通		2	海外研修	1 通		2
憲法と法律	2 前		2	※			
文化人類学	2 前		2	文化人類学	2 前		2
日本・東北文化論	2 前		2	※			
日本近代史	2 前		2	※			
健康科学	2 前		2	※			
教育学 I	2 前	2		※			
教育学 II	4 後		2	教育方法論	2 前		2
地球の科学	4 後		1	※			
哲学	4 後		1	※			
生活と経済	4 後		1	※			
ジェンダー論	4 後		1	※			
政治学	4 後		1	※			
解剖・生理学概論 I	1 前	2		解剖・生理学概論 I	1 前	2	
解剖・生理学概論 II	1 後	2		解剖・生理学概論 II	1 後	2	
感覚器解剖・生理	2 前	2		感覚器解剖・生理	2 前	2	
感覚器解剖・生理演習	2 前	1		感覚器解剖・生理演習	2 前	1	
人間生涯発達学	2 前	2		人間生涯発達学	2 前	2	
医学総論	1 後	2		医学総論	1 後	2	
眼科学入門	1 前	2		※			
臨床神経学	2 後	2		臨床神経学	2 後	2	
臨床医学	2 後	2		臨床医学	2 後	2	
救命救急学	3 後	1		救命救急学	3 後	1	
公衆衛生学	2 前	1		公衆衛生学	2 前	1	
視覚機能学概論 I	1 後	2		眼の解剖としくみ I	1 前	1	
				眼の解剖としくみ II	1 後	1	
視覚機能学概論 II	2 前	2		※			
視能検査機器概論 I	2 前	2		※			
視能検査機器演習 I	2 前	1		※			
眼科検査基礎演習	1 後	1		※			
臨床基礎セミナー	2 通	1		※			
医療福祉関係法規	3 前	1		医療福祉関係法規	3 前	1	
保育概論	2 後	1		保育概論	2 後	1	
リハビリテーション概論	1 後	1		リハビリテーション概論	1 後	1	

視覚機能学専攻カリキュラム対照表

2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
チーム医療福祉論	1 後	1		チーム医療福祉論	1 後	1	
保健医療福祉概論	2 後	2		保健医療福祉概論	2 後	2	
専門職連携論	3 前	2		専門職連携論	3 前	2	
専門職連携セミナー	3 後		1	専門職連携セミナー	3 後		1
看護・保健概論	2 後		1	看護・保健概論	2 後		1
介護概論	3 前		2	※			
同行援護	1・2・3・4 通		2	同行援護	1・2・3・4 通		2
同行援護演習	1・2・3・4 通		1	同行援護演習	1・2・3・4 通		1
視能矯正学Ⅰ	1 後	1		社会と医療Ⅰ	1 後	1	
視能矯正学Ⅱ	2 前	1		※			
視能矯正学Ⅲ	3 前	1		社会と医療Ⅱ	3 後	1	
視覚生理学Ⅰ	1 後	2		視覚生理学Ⅰ	2 後	2	
視覚生理学Ⅱ	3 前	1		視覚生理学Ⅱ	3 前	1	
視覚生理学演習	3 前	1		視覚生理学演習	3 前	1	
生理光学Ⅰ	1 後	2		生理光学Ⅰ	1 前	1	
				生理光学Ⅱ	1 後	1	
生理光学Ⅱ	3 前	1		※			
生理光学演習	3 前	1		※			
臨床心理学	2 後	1		臨床心理学	2 後	1	
視能検査学Ⅰ	3 前	2		※			
視能検査学演習	3 前	1		視能検査学演習Ⅰ	3 前	1	
視能検査学Ⅱ	3 後	2		視能検査学Ⅱ	3 後	2	
視能検査学演習Ⅱ	3 後	1		視能検査学演習Ⅱ	3 後	1	
眼科臨床機器学	4 後	2		眼科臨床機器学	4 後	2	
眼科臨床機器学演習	4 後	1		※			
視能検査機器概論Ⅱ	2 後	2		※			
視能検査機器演習Ⅱ	2 後	2		※			
眼疾病学Ⅰ	2 後	2		眼疾病学Ⅰ	2 前	2	
眼疾病学Ⅱ	2 後	2		眼疾病学Ⅱ	2 後	2	
神経眼科学	2 後	1		神経眼科学	3 前	1	
斜視・弱視	3 前	2		斜視・弱視	3 前	2	
眼科薬理学	2 後	1		眼科薬理学	2 後	1	
視能訓練学Ⅰ	2 後	2		基礎視能訓練学	2 前	1	
				視能訓練学Ⅰ	2 前	1	
視能訓練学演習Ⅰ	2 後	2		基礎視能訓練学演習	2 後	1	
				視能訓練学演習Ⅰ	2 後	1	
視能訓練学Ⅱ	3 前	1		視能訓練学Ⅱ	3 前	1	
視能訓練学演習Ⅱ	3 前	1		視能訓練学演習Ⅱ	3 前	1	
視能訓練学Ⅲ	3 後	2		視能訓練学Ⅲ	3 後	2	
ロービジョン学Ⅰ	2 後	1		ロービジョン学Ⅰ	2 後	1	
ロービジョン学Ⅱ	3 前	1		ロービジョン学Ⅱ	3 前	1	
ロービジョンリハビリテーション	3 後	1		ロービジョンリハビリテーション	3 後	1	
臨地実習Ⅰ	3 後	7		臨地実習Ⅰ	3 後	7	
臨地実習Ⅱ	4 前	7		臨地実習Ⅱ	4 前	7	
総合演習Ⅰ	3 前	1		総合演習Ⅰ	3 前	1	
総合演習Ⅱ	4 前	1		総合演習Ⅱ	4 前	1	
視覚機能学特別セミナー	4 通	3		視覚機能学特別セミナー	4 通	3	
視覚機能学研究法	3 後	1		視覚機能学研究法	3 後	1	
視覚機能学研究	4 通	2		視覚機能学研究	4 通	2	
				輝ける者	1 通		2
				経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2
				社会活動入門	1 前・1 後		2
				データサイエンス入門	1 前	2	
				生活の中の物理学	1 後		2
				韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1
				中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1
				健康科学	1 前	1	
				教育学	1 後	2	
				哲学	1 後		2
				ジェンダー論	1 後		2
				憲法と法律	1 前		2

視覚機能学専攻カリキュラム対照表

2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
				東北の歴史	1 前		2
				現代史	1 前		2
				生活と地球科学	1 後		2
				生活と経済	1 後		2
				教養としての政治学	1 後		2
				生活の中の視覚	1 前	1	
				両眼視機能と眼球運動	1 後	1	
				両眼視機能と眼球運動演習	2 前	2	
				屈折矯正Ⅰ	2 前	1	
				屈折矯正Ⅱ	2 後	2	
				眼鏡矯正	3 前	1	
				介護概論	2 前		1
				重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4後		1
				基礎眼光学	1 前	1	
				視能検査学概論	2 前	2	
				眼画像検査	3 通	3	
				視能検査学Ⅰ	3 前	1	
				眼疾病学Ⅲ	3 前	1	

注）※は別途開講する

東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則

┌平成 20 年 2 月 4 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 9 条の 3 及び第 13 条の規定に基づき、東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚学専攻及び視覚機能学専攻に在籍する学生の進級並びに臨床実習及び臨地実習等の履修に関する取扱いについて定めるものとする。

（定義）

第 2 条　この細則において「留年」とは、次の定義による。

⑴　2 年次から 3 年次への進級が認められなかった場合に、2 年次に留め置くこと。

⑵　所定の修業年限（4 年）を越えて在学すること。

（進級基準）

第 3 条　リハビリテーション学科における 2 年次から 3 年次への進級基準は、次の各号のとおりとする。

⑴　1、2 年次配当の必修科目の単位をすべて修得していること。

⑵　2 年次終了時の通算 GPA が 2.0 以上であること。

（進級の決定）

第 4 条　前条の進級基準を満たした学生は、進級とする。

2　前条の進級基準を満たさない学生の進級は、修得単位数及び GPA 値等を勘案したうえで、進級判定会議に諮り、教授会の議を経て、学長が決定する。

3　進級判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　リハビリテーション学科長

⑵　専攻長

⑶　その他リハビリテーション学科長が必要と認める者　若干人

（留年）

第 5 条　前条第 2 項によって進級が認められなかった学生は、留年とする。

（臨床実習及び臨地実習等の履修）

第 6 条　理学療法学専攻において、「臨床実習 II」、「地域理学療法実習」、「臨床実習 III」及び「理学療法学特論」を履修する時は、原則として当該科目開始までに開講されている必修科目の単位をすべて修得していなければならない。

第 7 条　作業療法学専攻における臨床実習の履修は、次のとおりとする。

⑴「臨床実習 I」及び「臨床実習 II」を履修する時は、原則として当該臨床実習開始までに開講されている必修科目の単位をすべて修得していなければならない。

⑵「臨床実習 III」は「臨床実習 II」の成績にかかわらず履修することができる。

⑶「地域作業療法学実習」は「臨床実習 II」または「臨床実習 III」の単位を修得していなければ履修することができない。

第 8 条　言語聴覚学専攻において、「臨床実習 I」及び「臨床実習 II」を履修する時は、原則として当該科目開始までに開講されている必修科目の単位をすべて修得していなければならない。

第 9 条　視覚機能学専攻において、「臨地実習 I」及び「臨地実習 II」を履修する時は、原則として当該科目開始までに開講されている必修科目の単位をすべて修得していなければならない。

（臨床実習及び臨地実習の再履修）

第 10 条　学部長は、教育上適切と判断できる場合に限り、臨床実習及び臨地実習の配当学期を変更することができる。

（細則の改廃）

第 11 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　則

1　この細則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行し、平成 20 年度以前入学の学生にも適用する。

2　東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び臨床実習の履修に関する細則は、廃止する。

附　則

この細則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、平成 22 年度以前入学の学生にも適用する。

附　則

1　細則の題名を「東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級並びに臨床実習及び臨地実習の履修に関する細則」から「東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則」に改正する。

2　この細則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 24 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 25 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

1　この細則は、平成 27 年 12 月 2 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

2　改正後の第 4 条第 3 号については、平成 28 年度の入学者から適用し、平成 27 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3　改正後の第 3 条の 2 及び第 7 条の 2 については、平成 26 年度の入学者から適用し、平成 25 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、2020 年 5 月 13 日から施行し、2020 年 4 月 1 日から適用する。ただし、2019 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、2020 年 9 月 15 日から施行する。

附　　則

この細則は、2021 年 2 月 16 日から施行する。

附　　則

この細則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2021 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、2024 年 9 月 4 日から施行し、2024 年 4 月 1 日から適用する。ただし、2023 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における履修登録単位数の上限に関する細則

┌平成 26 年 3 月 12 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 5 条の 2 の規定に基づき、東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚学専攻及び視覚機能学専攻に在籍する学生の履修登録できる単位数の上限について定めるものとする。

（対象科目）

第 2 条　学生の履修登録の上限単位数の対象となる授業科目は、卒業の要件として履修する授業科目とする。ただし、次の各号に該当する科目は、対象科目から除くことができる。

⑴　理学療法学専攻：基礎科目の全科目

⑵　作業療法学専攻：「海外研修」

⑶　言語聴覚学専攻：「海外研修」、「基礎ゼミナール」及び科目区分における選択必修科目の全科目

⑷　視覚機能学専攻：「海外研修」、「同行援護」及び「同行援護演習」

（履修登録上限単位数）

第 3 条　リハビリテーション学科における 1 年間の履修登録の上限単位数は、49 単位とする。

（履修登録単位数の特例）

第 4 条　学部長は、履修登録時における通算の GPA が 3.0 以上の学生に対して、前条に定める履修登録単位数の上限を超える履修を認めることができる。

2　上限を超えて履修を認める単位数は、4 単位以内とする。

（雑則）

第 5 条　この細則に定めるもののほか、授業科目の履修登録の上限に関し必要な事項は、医療福祉学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第 6 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　　則

この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行し、平成 26 年度入学者から適用する。

附　　則

この細則は、2020 年 4 月 1 日から施行し、2020 年度入学者から適用する。ただし、2019 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、2024 年 9 月 4 日から施行し、2024 年 4 月 1 日から適用する。ただし、2023 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(2)　看護学科

本学科では、看護師、保健師の専門職を目指し、医療人に求められる知識と豊かな資質を備えた人材の育成を行う。

1)　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・看護職としての専門知識を修得している。
・生命の尊重や人の尊厳について理解している。

「思考・判断」

・論理的思考による看護判断に基づき適切な看護実践を選択し、一連のプロセスを評価･修正できる。

「技能・表現」

・主体的に行動することができ、周囲の人々と協調しながらリーダーシップを取ることができる。
・社会人として責任ある行動をとることができる。
・対象者に必要なケアを安全・安楽に実施できる。
・地域で暮らす人々や、保健・医療・福祉にかかわる人と、連携及び協働する力を身につけることができる。

「関心・意欲・態度」

・自らの成長を自覚し、看護職としての専門性を探求していくことができる。
・社会の中での看護の役割を展望し、地域における健康課題への取組みができる。

2.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

「知識・技能」

・看護を学ぶ上で必要な国語、英語、数学、生物、化学の基礎学力を有している人。

「思考力・判断力・表現力」

・人に対する思いやりがあり、人の気持ちを感じることができる人。
・様々な状況の中で、自分が取るべき行動を判断できる人。
・自分が考えたことや体験したことを、ことばや文章にまとめて発表できる人。

「主体的に、多様な人々と協働して学ぶ態度」

・入学後も自己啓発・自己学習・自立した生活ができる人。
・看護に対する意欲・関心がある人。
・周囲の人と良好な関係を保つことができる人。

求める学習経験

・看護師の仕事を身近で見たり、1 日体験やボランティア活動などの体験をしたことがある。
・看護職について考えたことがある。

3.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに定めた目標を達成するために体系的・順次的な教育課程を編成し実施する。
最初に基礎科目、専門基礎科目を学び、看護の基礎となる知識を学修する。

「基礎科目」

・専門職業人としての共感的態度および高い倫理観を備えた看護を実践できる能力の基礎を学修するために「生命倫理」等の科目を配置する。

「専門基礎科目」

・「人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」、「健康現象の疫学と統計」に大別した科目構成となっており、保健・医療・福祉に関する知識の基礎を学ぶための科目を配置する。

「専門科目」

・基礎、地域・在宅、成人、老年、小児、母性、精神、公衆衛生の各看護学専門領域の学修は、最初

に核となる概論を学び、次に専門知識と確かな技術を身につけるための方法論、看護実践能力を強化するための臨地実習へと段階的に学べるよう科目を配置する。

・地域や保健・医療・福祉に関わる人との連携および協働する力を身につけるための科目を配置する。

2）　カリキュラムの特徴

カリキュラムはカリキュラムポリシーに基づき構成されている。

基礎看護学、地域・在宅看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の学修は、最初に重要な核となる概論を学び、次に学修する技術論や方法論では専門知識を講義で学び、確かな技術を身につけるように演習を行い、その後臨地実習へと進む。

【基礎科目】

看護職は、人間を身体的・心理的・社会的側面から幅広く理解する能力が必要である。また、人間の健康と生活を自然、社会、文化的環境とのダイナミックな相互作用としてとらえることも必要となる。基礎科目では、専門職業人としての共感的態度及び高い倫理観を備えた看護を実践できる能力の基礎を学ぶ。

基礎科目は、「探求･理解プロジェクト」、「科学的思考の基礎」、「自己形成」、「ことばと相互理解」、「人と生活」に大別された科目の中から選択履修することになる。データサイエンス入門､生活の中の生物学、アカデミック・スキル演習、生命倫理学、英語コミュニケーション、現代国語表現、健康科学は看護学教育の基盤であるために必修科目となっている。

【専門基礎科目】

専門基礎科目は､「人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進｣､「健康支援と社会保障制度｣､「健康現象の疫学と統計」に大別した科目構成となっている。

「人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進」では、解剖生理学、生化学、栄養学、病原微生物学、病態治療学、薬理学、救急医療論など医学の基礎的知識を学修する。「健康支援と社会保障制度」では、臨床心理学、カウンセリング、公衆衛生学など、人間、健康、環境について総合的に理解するための知識を学習する。「健康現象の疫学と統計」では、疫学と保健統計学を学び、これらの知識を活用しながら公衆衛生看護学を学んでいくことになる。

【専門科目】

専門科目は、「基礎看護学」、「地域・在宅看護学」、「成人看護学」、「老年看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「精神看護学」、「公衆衛生看護学」、「特別演習」、「看護の統合と実践」、「多職種連携」に大別された科目構成となっている。

それぞれの科目の概論では看護の理論や看護の基礎知識を学び、技術論や方法論で専門的な知識と技術と、人間理解に配慮した態度を身につけて、臨地実習に臨む。最初に基礎看護学領域の臨地実習を学修し、その後成人看護学など領域別の臨地実習に進む。「公衆衛生看護学」は、1 年次の公衆衛生看護学概論は必修であるが、それ以降は 2 年次前期に選抜された者が学修する科目である。4 年次に公衆衛生看護学実習を行う。

「特別演習」では、看護職の自覚を深め実践力を身につけるため、2 年次・3 年次に基礎セミナー、3 年次前期・後期に実習前特別演習を行う。ここでは、看護職のさまざまな分野に応用できる能力を養う。

「看護の統合と実践」では、看護管理学、チーム医療論、看護研究論を学ぶ。4 年次後期に看護学特別演習を行い、看護専門職業人として活躍するための学修を行う。

「多職種連携」では、チーム医療福祉論、保健医療福祉概論、専門職連携論、専門職連携セミナー、重度障がい者自立生活支援演習を学び、多職種連携の重要性を学修する。

3）　学外実習

【臨地実習の目的と配当年次】

臨地実習は、既存の知識・技術・態度を活用し、臨地実習指導者や実習担当教員の指導の下、対象に応じた看護を実施できる基礎的な能力を養う。

①　専門科目　臨地実習

・基礎看護学実習Ⅰ　2 年次前期（1 単位 1 週間）

看護活動の実際の場面を見学し、患者とのコミュニケーションをはかり、患者の基本的欲求と看護活動を理解する。

・基礎看護学実習Ⅱ　2 年次後期（2 単位 2 週間）

病院において成人期の患者を受け持ち、看護過程を展開する。

・地域・在宅看護学実習Ａ　3年次後期、地域・在宅看護学実習Ｂ　4年次前期（Ａ・Ｂいずれか2単位2週間）

在宅療養者およびその家族の生活を理解し、看護援助を行う。また、在宅療養者の社会資源の活用、家族の介護力や地域包括ケアシステムの構築について学修する。

・成人看護学実習ⅠＡ　3年次後期、成人看護学実習ⅠＢ　4年次前期（Ａ・Ｂいずれか3単位3週間）

病院において成人期の急性期・回復期にある患者を、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、異常の早期発見につとめ、治癒促進のための看護、または障害に起因する新たな状態に応じて自立した生活を営めるように看護を展開する。

・成人看護学実習ⅡＡ　3年次後期、成人看護学実習ⅡＢ　4年次前期（Ａ・Ｂいずれか3単位3週間）

病院において成人期の慢性期・終末期にある患者を、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、患者と家族がセルフケアできるように、または患者と家族が望む生活を最後まで送れるように看護を展開する。

・老年看護学実習ⅠＡ　3年次後期、老年看護学実習ⅠＢ　4年次前期（Ａ・Ｂいずれか3単位3週間）

老年期にある患者を、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、疾病や障害によって生活機能が低下している高齢者に対して、残存機能を最大限活用して生活できるように看護を展開する。

・老年看護学実習ⅡＡ　3年次後期、老年看護学実習ⅡＢ　4年次前期（Ａ・Ｂいずれか1単位1週間）

地域の施設で疾病や障害をもって暮らす高齢者と家族を理解し、看護を実践する。

・小児看護学実習ⅠＡ　3年次後期、小児看護学実習ⅠＢ　4年次前期（Ａ・Ｂいずれか1単位1週間）

幼児と積極的に関わり、幼児の成長発達の実際と個別性をとらえ、また、幼児の成長発達と環境との関係や望ましい関わり方について学修する。

・小児看護学実習ⅡＡ　3年次後期、小児看護学実習ⅡＢ　4年次前期（Ａ・Ｂいずれか1単位1週間）

成長発達と健康状態に応じて病児とかかわり、遊びを通じてルールを教え、楽しみを見出しながら発達の援助を行う。また、治療・処置を受ける病児の反応および症状を観察しながら看護援助を行う。

・母性看護学実習Ａ　3年次後期、母性看護学実習Ｂ　4年次前期（Ａ・Ｂいずれか2単位2週間）

産科外来において妊産褥婦と関わり、身体・心理・社会的特性、妊娠に関連した社会資源、女性のライフサイクルについて学ぶ。また、褥婦・産婦の身体・心理・社会的特性を理解し、状態に応じた看護を実施する。早期新生児の身体的特性を理解し、胎外生活への適応を促すよう看護を実施する。

・精神看護学実習Ａ　3年次後期、精神看護学実習Ｂ　4年次前期（Ａ・Ｂいずれか2単位2週間）

精神障害をもつ人とコミュニケーションをはかり、日常生活の自立と安全を守るための看護を実施する。

・実習前特別演習Ａ　3年次前期、実習前特別演習Ｂ　3年次前期（Ａ・Ｂいずれか1単位1週間）

看護職のさまざまな分野に応用できる能力を養う。

・公衆衛生看護学実習Ⅰ　4年次通年（1単位1週間）

保健所において、地域で生活する人々に必要な保健、医療、福祉領域の社会資源や各職種間の連携を含む保健師の機能と役割を学修する。

・公衆衛生看護学実習Ⅱ　4年次通年（2単位2週間）

市町村において、地域における人々の生活、健康課題、保健・看護組織、保健活動の目的と方法を学修する。

・公衆衛生看護学実習Ⅲ　4年次通年（1単位1週間）

学校、事業所において、健康を阻害する要因と心身の健康、ヘルスプロモーション教育を推進する目的と方法を学修する。

・統合看護実習Ａ　4年次前期、統合看護実習Ｂ　4年次後期（Ａ・Ｂいずれか2単位2週間）

複数の患者を受け持ち、優先順位を考えた効率のよい看護の実施について、指導者の指導を受けながら学ぶ。また、質の高い看護サービスを提供するための看護管理について学修する。

※　臨地実習の時期について、実習施設の都合により変更になる場合がある。

4）　授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表（別頁）

5）　カリキュラムツリー（別頁）

6）　カリキュラム配置図（別頁）

7）　授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表（別頁）

8）　その他（詳細は別に定める）

・学修概要
・看護研究論

9）　目標とする国家試験・資格

・看護学科での４年間の単位修得により看護師国家試験受験資格および保健師国家試験受験資格（選抜）を取得
・国家試験に合格後、看護師免許、保健師免許を取得（厚生労働大臣）
・養護教諭免許取得に関する対応科目について（別頁）

10）　将来の進路

看護師免許、保健師免許を得ることにより、以下のような職場での就労が可能となる。

その他、卒業後は大学院などへの進学も可能となる。また、卒業後、認定看護師、専門看護師などの資格を得ることもできる。

保健師免許を有し申請すると第一種衛生管理者、また「情報処理Ⅰ･Ⅱ」、「スポーツ実技」、「健康科学」、「憲法と法律」の科目を修得し所定の単位を取得すると養護教諭２種免許が取得できる。

・病院及び診療所等の医療施設、介護老人保健施設
・国及び地方公共団体の医療・保健・福祉行政部門
・事業所の医療・保健・福祉部門
・訪問看護ステーションなど在宅ケア機関
・大学を含む教育研究機関など

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【医療福祉学部　看護学科】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・看護職としての専門知識を修得している。 ・生命の尊重や人の尊厳について理解している。
②	「思考・判断」	・論理的思考による看護判断に基づき適切な看護実践を選択し、一連のプロセスを評価・修正できる。
③	「技能・表現」	・主体的に行動することができ、周囲の人々と協調しながらリーダーシップを取ることができる。 ・社会人として責任ある行動をとることができる。 ・対象者に必要なケアを安全・安楽に実施できる。 ・地域で暮らす人々や、保健・医療・福祉にかかわる人と、連携及び協働する力を身につけることができる。
④	「関心・意欲・態度」	・自らの成長を自覚し、看護職としての専門性を探求していくことができる。 ・社会の中での看護の役割を展望し、地域における健康問題への取組みができる。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

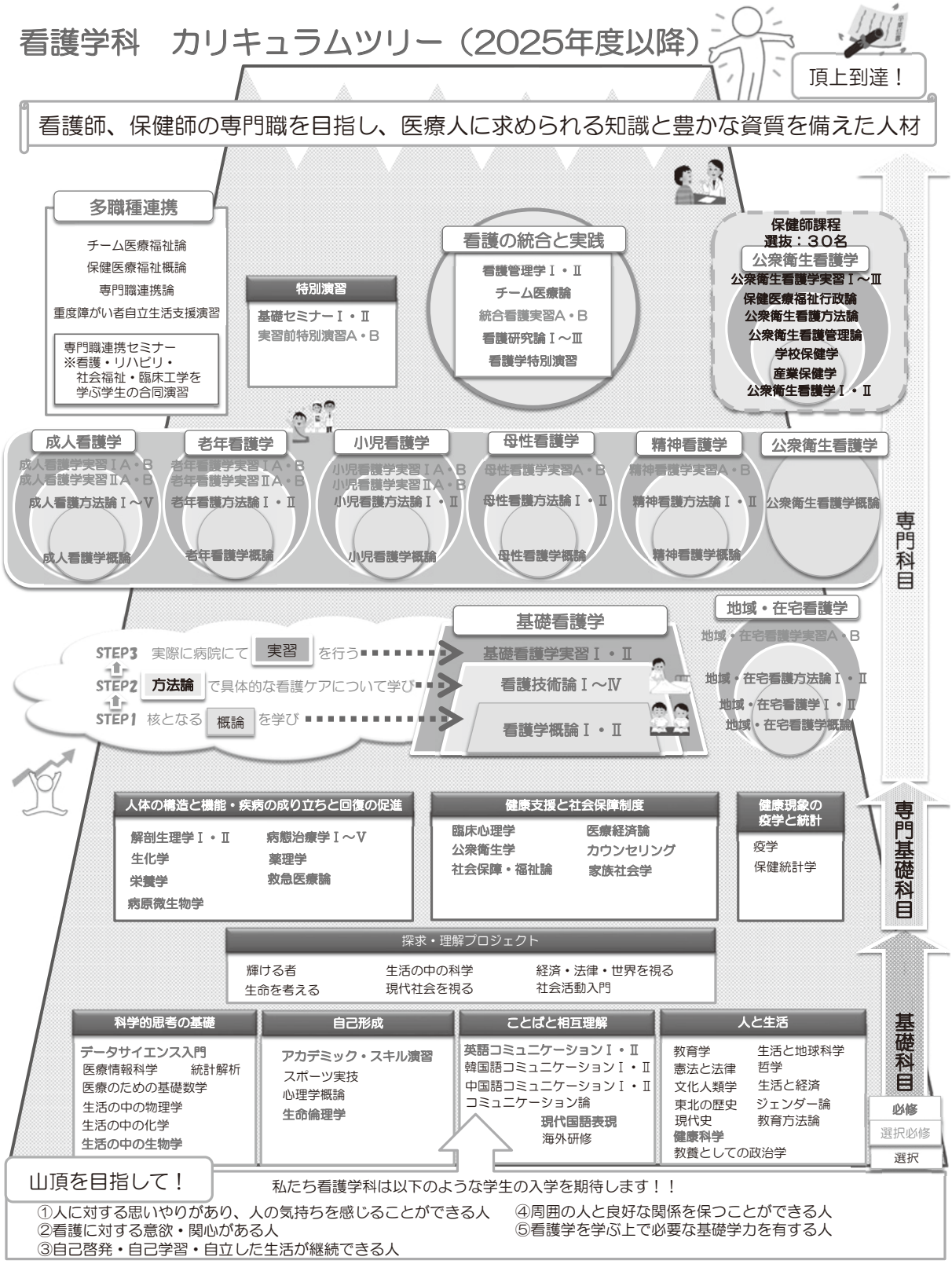
授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2		◎	○		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		○	○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		◎	○	○	○
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2		○	○		
		社会活動入門	1 前・1 後		2		○	○		
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1 前	2				○		
		医療情報科学	1 後		1		○			
		医療のための基礎数学	1 前		1		◎	○		
		生活の中の物理学	1 後		2		○	○		
		生活の中の化学	1 前		2		○	○		
		生活の中の生物学	1 前	2			○	○		
		統計解析	1 後		2		○	○	○	
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	2			◎			○
		スポーツ実技	1 後		1		○		○	
		心理学概論	1 後		2				○	
		生命倫理学	1 後	1					◎	
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1					○	
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1					○	
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1				○	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1				○	
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1				○	
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1				○	
		コミュニケーション論	1 前		2				◎	
		現代国語表現	1 前	2			○	◎		
		海外研修	1 通		2				○	○
	人と生活	教育学	1 後		2		○	○		
		憲法と法律	1 前		2		○		○	
		文化人類学	2 前		2		○	○		○
		東北の歴史	1 前		2					

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	人と生活	現代史	1前		2					
		健康科学	1前	1			○			○
		生活と地球科学	1後		2					
		哲学	1後		2		○			
		生活と経済	1後		2		○			○
		ジェンダー論	1後		2		○	○		○
		教養としての政治学	1後		2		○			
		教育方法論	2前		2		○			
専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理学Ⅰ	1前	2			◎	○		
		解剖生理学Ⅱ	1後	2			◎	○		
		生化学	1後	2			◎	○		
		栄養学	1後	2			◎	○		
		病原微生物学	2前	2			◎	○		
		病態治療学Ⅰ	1後	2			◎	○		
		病態治療学Ⅱ	2前	2			◎	○		
		病態治療学Ⅲ	2前	2			◎	○		
		病態治療学Ⅳ	2後	2			◎	○		
		病態治療学Ⅴ	2後	2			◎	○		
		薬理学	2前	2			◎	○		
		救急医療論	3前	1			◎		◎	
	健康支援と社会保障制度	臨床心理学	2前	2			◎	○		
		公衆衛生学	1後	2			◎	○		
		社会保障・福祉論	2前	2			◎	○		
		医療経済論	2後	1			◎	○		
		カウンセリング	2後	2			◎	○		
		家族社会学	1後	2			◎	○		
	健康現象の疫学と統計	疫学	3前		2		◎	○		
		保健統計学	3前		2		◎	○		
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1前	2			◎			◎
		看護学概論Ⅱ	4後	1			◎			◎
		看護技術論Ⅰ	1前	3			○		◎	
		看護技術論Ⅱ	1後	3			○		◎	
		看護技術論Ⅲ	2前	1			○		◎	
		看護技術論Ⅳ	2後	1			○	◎		
		基礎看護学実習Ⅰ	2前	1				◎	○	
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	2				◎	○	
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論	2後	1			○			◎
		地域・在宅看護学Ⅰ	3前	1			○	◎		
		地域・在宅看護学Ⅱ	4後	1			○			◎
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	3前	2			○		◎	
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	3前	1			○			◎
		地域・在宅看護学実習A	3後		2			◎	○	
		地域・在宅看護学実習B	4前		2			◎	○	
	成人看護学	成人看護学概論	1後	1			○			◎
		成人看護方法論Ⅰ	2前	1			○		◎	
		成人看護方法論Ⅱ	2後	1			○		◎	
		成人看護方法論Ⅲ	2前	1			○		◎	

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	成人看護学	成人看護方法論Ⅳ	2後	1			○		◎	
		成人看護方法論Ⅴ	3前	1			○	◎		
		成人看護学実習Ⅰ A	3後		3			◎	○	
		成人看護学実習Ⅰ B	4前		3			◎	○	
		成人看護学実習Ⅱ A	3後		3			◎	○	
		成人看護学実習Ⅱ B	4前		3			◎	○	
	老年看護学	老年看護学概論	2前	1			○			◎
		老年看護方法論Ⅰ	2後	2			○		◎	
		老年看護方法論Ⅱ	3前	1			○	◎		
		老年看護学実習Ⅰ A	3後		3			◎	○	
		老年看護学実習Ⅰ B	4前		3			◎	○	
		老年看護学実習Ⅱ A	3後		1			◎	○	
		老年看護学実習Ⅱ B	4前		1			◎	○	
	小児看護学	小児看護学概論	2前	1			◎			◎
		小児看護方法論Ⅰ	2後	2			◎		◎	
		小児看護方法論Ⅱ	3前	1			◎	◎		
		小児看護学実習Ⅰ A	3後		1			◎		◎
		小児看護学実習Ⅰ B	4前		1			◎		◎
		小児看護学実習Ⅱ A	3後		1			◎	◎	
		小児看護学実習Ⅱ B	4前		1			◎	◎	
	母性看護学	母性看護学概論	2前	1			○			◎
		母性看護方法論Ⅰ	2後	2			○		◎	
		母性看護方法論Ⅱ	3前	1			○		◎	
		母性看護学実習 A	3後		2			◎	○	
		母性看護学実習 B	4前		2			◎	○	
	精神看護学	精神看護学概論	2前	1			○			◎
		精神看護方法論Ⅰ	2後	2			○		◎	
		精神看護方法論Ⅱ	3前	1			◎		◎	
		精神看護学実習 A	3後		2			◎	◎	
		精神看護学実習 B	4前		2			◎	◎	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1後	1			○			◎
		公衆衛生看護学Ⅰ	2後		1		○	◎		
		公衆衛生看護学Ⅱ	3前		1		○	◎		
		公衆衛生看護方法論	3前		2		○	◎		
		産業保健学	3前		1		◎	○		
		学校保健学	3前		1		◎	○		
		保健医療福祉行政論	3前		2		◎	○		
		公衆衛生看護管理論	3前		1		◎	○		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4通		1			◎	○	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4通		2			◎	○	
		公衆衛生看護学実習Ⅲ	4通		1			◎	○	
	特別演習	基礎セミナーⅠ	2通	1			◎		○	
		基礎セミナーⅡ	3前	1			○		◎	
		実習前特別演習 A	3前		1			◎		◎
		実習前特別演習 B	3後		1			◎		◎
	看護の統合と実践	看護管理学Ⅰ	3前	2			◎	○		
		看護管理学Ⅱ	4後	2			◎			○
		チーム医療論	3前	1			◎			○

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	看護の統合と実践	統合看護実習 A	4 前		2			◎		◎
		統合看護実習 B	4 後		2			◎		◎
		看護研究論 I	3 前	1			◎			○
		看護研究論 II	3 後	1				◎	○	
		看護研究論 III	4 前	1				○	◎	
		看護学特別演習	4 後	1			◎	◎		
	多職種連携	チーム医療福祉論	1 後		1		○			○
		保健医療福祉概論	2 後		2		○	○		○
		専門職連携論	3 前		2		○			
		専門職連携セミナー	3 後		1		○	○	○	○
		重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4 後		1		○			◎

※ 2024 年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025 年度シラバスで確認してください。


看護学科　カリキュラムツリー（2025年度以降）
頂上到達！
看護師、保健師の専門職を目指し、医療人に求められる知識と豊かな資質を備えた人材
多職種連携
チーム医療福祉論
保健医療福祉概論
専門職連携論
重度障がい者自立生活支援演習
専門職連携セミナー
※看護・リハビリ・社会福祉・臨床工学を学ぶ学生の合同演習
特別演習
基礎セミナーⅠ・Ⅱ
実習前特別演習A・B
看護の統合と実践
看護管理学Ⅰ・Ⅱ
チーム医療論
統合看護実習A・B
看護研究論Ⅰ～Ⅲ
看護学特別演習
保健師課程
選抜：30名
公衆衛生看護学
公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅲ
保健医療福祉行政論
公衆衛生看護方法論
公衆衛生看護管理論
学校保健学
産業保健学
公衆衛生看護学Ⅰ・Ⅱ
成人看護学
成人看護学実習ⅠA・B
成人看護学実習ⅡA・B
成人看護方法論Ⅰ～Ⅴ
成人看護学概論
老年看護学
老年看護学実習ⅠA・B
老年看護学実習ⅡA・B
老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ
老年看護学概論
小児看護学
小児看護学実習ⅠA・B
小児看護学実習ⅡA・B
小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ
小児看護学概論
母性看護学
母性看護学実習A・B
母性看護方法論Ⅰ・Ⅱ
母性看護学概論
精神看護学
精神看護学実習A・B
精神看護方法論Ⅰ・Ⅱ
精神看護学概論
公衆衛生看護学
公衆衛生看護学概論
専門科目
STEP3 実際に病院にて 実習 を行う
STEP2 方法論 で具体的な看護ケアについて学び
STEP1 核となる 概論 を学び
基礎看護学
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
看護技術論Ⅰ～Ⅳ
看護学概論Ⅰ・Ⅱ
地域・在宅看護学
地域・在宅看護学実習A・B
地域・在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ
地域・在宅看護学Ⅰ・Ⅱ
地域・在宅看護学概論
人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進
解剖生理学Ⅰ・Ⅱ
生化学
栄養学
病原微生物学
病態治療学Ⅰ～Ⅴ
薬理学
救急医療論
健康支援と社会保障制度
臨床心理学
公衆衛生学
社会保障・福祉論
医療経済論
カウンセリング
家族社会学
健康現象の疫学と統計
疫学
保健統計学
専門基礎科目
探求・理解プロジェクト
輝ける者
生命を考える
生活の中の科学
現代社会を視る
経済・法律・世界を視る
社会活動入門
科学的思考の基礎
データサイエンス入門
医療情報科学
統計解析
医療のための基礎数学
生活の中の物理学
生活の中の化学
生活の中の生物学
自己形成
アカデミック・スキル演習
スポーツ実技
心理学概論
生命倫理学
ことばと相互理解
英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ
韓国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ
中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ
コミュニケーション論
現代国語表現
海外研修
人と生活
教育学
憲法と法律
文化人類学
東北の歴史
現代史
健康科学
教養としての政治学
生活と地球科学
哲学
生活と経済
ジェンダー論
教育方法論
基礎科目
必修
選択必修
選択
山頂を目指して！
私たち看護学科は以下のような学生の入学を期待します！！
①人に対する思いやりがあり、人の気持ちを感じることができる人
②看護に対する意欲・関心がある人
③自己啓発・自己学習・自立した生活が継続できる人
④周囲の人と良好な関係を保つことができる人
⑤看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する人

医療福祉学部　看護学科　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	医療情報科学						
		医療のための基礎数学	生活の中の物理学						
		生活の中の化学	統計解析						
		生活の中の生物学							
	自己形成	アカデミック・スキル演習							
			スポーツ実技						
			心理学概論						
			生命倫理学						
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		コミュニケーション論							
		現代国語表現							
		海外研修							
	人と生活	憲法と法律	教育学	文化人類学					
		東北の歴史	生活と地球科学	教育方法論					
		現代史	哲学						
		健康科学	生活と経済						
			ジェンダー論						
			教養としての政治学						
専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理学Ⅰ	解剖生理学Ⅱ	病原微生物学		救急医療論			
			生化学						
			栄養学						
			病態治療学Ⅰ	病態治療学Ⅱ	病態治療学Ⅳ				
				病態治療学Ⅲ	病態治療学Ⅴ				
				薬理学					
	健康支援と社会保障制度		公衆衛生学	臨床心理学	医療経済論				
			家族社会学	社会保障・福祉論	カウンセリング				
	健康現象の疫学と統計					疫学			
						保健統計学			
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期

必　修

選　択

医療福祉学部　看護学科　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ 看護技術論Ⅰ	看護技術論Ⅱ	看護技術論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ	看護技術論Ⅳ 基礎看護学実習Ⅱ				看護学概論Ⅱ
	地域・在宅看護学				地域・在宅看護学概論	地域・在宅看護学Ⅰ 地域・在宅看護方法論Ⅰ 地域・在宅看護方法論Ⅱ	地域・在宅看護学実習A	地域・在宅看護学実習B	地域・在宅看護学Ⅱ
	成人看護学		成人看護学概論	成人看護方法論Ⅰ 成人看護方法論Ⅲ	成人看護方法論Ⅱ 成人看護方法論Ⅳ	成人看護方法論Ⅴ	成人看護学実習ⅠA 成人看護学実習ⅡA	成人看護学実習ⅠB 成人看護学実習ⅡB	
	老年看護学			老年看護学概論	老年看護方法論Ⅰ	老年看護方法論Ⅱ	老年看護学実習ⅠA 老年看護学実習ⅡA	老年看護学実習ⅠB 老年看護学実習ⅡB	
	小児看護学			小児看護学概論	小児看護方法論Ⅰ	小児看護方法論Ⅱ	小児看護学実習ⅠA 小児看護学実習ⅡA	小児看護学実習ⅠB 小児看護学実習ⅡB	
	母性看護学			母性看護学概論	母性看護方法論Ⅰ	母性看護方法論Ⅱ	母性看護学実習A	母性看護学実習B	
	精神看護学			精神看護学概論	精神看護方法論Ⅰ	精神看護方法論Ⅱ	精神看護学実習A	精神看護学実習B	
	公衆衛生看護学		公衆衛生看護学概論		公衆衛生看護学Ⅰ	公衆衛生看護学Ⅱ 公衆衛生看護方法論 産業保健学 学校保健学 保健医療福祉行政論 公衆衛生看護管理論		公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅲ	
	特別演習			基礎セミナーⅠ		基礎セミナーⅡ 実習前特別演習A	実習前特別演習B		
	看護の統合と実践					看護管理学Ⅰ チーム医療論 看護研究論Ⅰ	看護研究論Ⅱ	統合看護実習A 看護研究論Ⅲ	看護管理学Ⅱ 統合看護実習B 看護学特別演習
	多職種連携		チーム医療福祉論 重度障がい者自立生活支援演習		保健医療福祉概論 重度障がい者自立生活支援演習	専門職連携論	専門職連携セミナー 重度障がい者自立生活支援演習		重度障がい者自立生活支援演習

必　修
選　択

養護教諭免許取得に関する対応科目について

医療福祉学部看護学科学生の養護教諭関連科目受講に関する留意事項

保健師免許取得後に申請により、「養護教諭二種免許状」を取得することができる。養護教諭二種免許状取得に当たっては、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」、「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の科目（各 2 単位）を取得しておくことが必須である。

将来保健師免許による養護教諭二種免許状の取得を希望する学生は、免許状取得に必要な「憲法と法律」（2 単位）、「スポーツ実技」（1 単位）を履修し単位を修得しておくことが必要である。

本学においては、その他の必要な科目に関しては、必修科目に含まれているため、卒業時の単位を修得していれば、申請条件を満たすことができる。

「参考」

文部科学省令に定める科目 （養護教諭二種免許取得に必要な科目）	本学の対応科目（2025 年度以降入学生用） （養護教諭二種免許状取得に利用できる科目）
日本国憲法（2 単位） 体育（2 単位） 外国語コミュニケーション（2 単位） 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作（2 単位）	憲法と法律（2 単位） スポーツ実技（1 単位）及び健康科学（1 単位） 英語コミュニケーションⅠ（1 単位）及び 英語コミュニケーションⅡ（1 単位） データサイエンス入門（2 単位）

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［看護学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	05	01	1	25	1	1 通		2		選択科目 6 科目から 2 単位以上を修得すること
		生命を考える	1	05	01	1	25	2	1 前・1 後		2		
		現代社会を視る	1	05	01	1	25	3	1 前・1 後		2		
		生活の中の科学	1	05	01	1	25	4	1 前・1 後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	05	01	1	25	5	1 前・1 後		2		
		社会活動入門	1	05	01	1	25	6	1 前・1 後		2		
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1	05	02	1	25	7	1 前	2			
		医療情報科学	1	05	02	1	25	8	1 後		1		
		医療のための基礎数学	1	05	02	1	25	9	1 前		1		
		生活の中の物理学	1	05	02	1	25	10	1 後		2		
		生活の中の化学	1	05	02	1	25	11	1 前		2		
		生活の中の生物学	1	05	02	1	25	12	1 前	2			
		統計解析	1	05	02	1	25	13	1 後		2		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	05	02	1	25	14	1 通	2			
		スポーツ実技	1	05	02	1	25	15	1 後		1		*
		心理学概論	1	05	02	1	25	16	1 後		2		
		生命倫理学	1	05	02	1	25	17	1 後	1			
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1	05	02	1	25	18	1 前	1			
		英語コミュニケーションⅡ	1	05	02	1	25	19	1 後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	05	02	1	25	20	1 前		1		
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	05	02	1	25	21	1 後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	05	02	1	25	22	1 前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	05	02	1	25	23	1 後		1		
		コミュニケーション論	1	05	02	1	25	24	1 前		2		
		現代国語表現	1	05	02	1	25	25	1 前	2			
		海外研修	1	05	02	1	25	26	1 通		2		
	人と生活	教育学	1	05	02	1	25	27	1 後		2		
		憲法と法律	1	05	02	1	25	28	1 前		2		*
		文化人類学	1	05	02	1	25	29	2 前		2		
		東北の歴史	1	05	02	1	25	30	1 前		2		
		現代史	1	05	02	1	25	31	1 前		2		
		健康科学	1	05	02	1	25	32	1 前	1			
		生活と地球科学	1	05	02	1	25	33	1 後		2		
		哲学	1	05	02	1	25	34	1 後		2		※「*」は保健師課程を選択する者で養護教諭 2 種の資格取得を希望する者は修得すること
		生活と経済	1	05	02	1	25	35	1 後		2		
		ジェンダー論	1	05	02	1	25	36	1 後		2		
		教養としての政治学	1	05	02	1	25	37	1 後		2		
		教育方法論	1	05	02	1	25	38	2 前		2		
	基礎科目の合計									12	53	0	15 単位以上修得すること
専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理学Ⅰ	1	05	03	2	25	39	1 前	2			
		解剖生理学Ⅱ	1	05	03	2	25	40	1 後	2			
		生化学	1	05	03	2	25	41	1 後	2			
		栄養学	1	05	03	2	25	42	1 後	2			
		病原微生物学	1	05	03	2	25	43	2 前	2			
		病態治療学Ⅰ	1	05	03	2	25	44	1 後	2			
		病態治療学Ⅱ	1	05	03	2	25	45	2 前	2			
		病態治療学Ⅲ	1	05	03	2	25	46	2 前	2			
		病態治療学Ⅳ	1	05	03	2	25	47	2 後	2			
		病態治療学Ⅴ	1	05	03	2	25	48	2 後	2			
		薬理学	1	05	03	2	25	49	2 前	2			
		救急医療論	1	05	03	2	25	50	3 前	1			
	健康支援と社会保障制度	臨床心理学	1	05	03	2	25	51	2 前	2			
		公衆衛生学	1	05	03	2	25	52	1 後	2			
		社会保障・福祉論	1	05	03	2	25	53	2 前	2			
		医療経済論	1	05	03	2	25	54	2 後	1			
		カウンセリング	1	05	03	2	25	55	2 後	2			
		家族社会学	1	05	03	2	25	56	1 後	2			
	健康変動の疫学と統計	疫学	1	05	03	2	25	57	3 前		2		保健師課程を選択する者は修得すること
		保健統計学	1	05	03	2	25	58	3 前		2		
	専門基礎分野の合計									34	4	0	34 単位以上修得すること

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［看護学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	05	04	2	25	59	1前	2			
		看護学概論Ⅱ	1	05	04	2	25	60	4後	1			
		看護技術論Ⅰ	1	05	04	3	25	61	1前	3			
		看護技術論Ⅱ	1	05	04	3	25	62	1後	3			
		看護技術論Ⅲ	1	05	04	3	25	63	2前	1			
		看護技術論Ⅳ	1	05	04	3	25	64	2後	1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1	05	04	4	25	65	2前	1			
		基礎看護学実習Ⅱ	1	05	04	4	25	66	2後	2			
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論	1	05	04	2	25	67	2後	1			
		地域・在宅看護学Ⅰ	1	05	04	3	25	68	3前	1			
		地域・在宅看護学Ⅱ	1	05	04	3	25	69	4後	1			
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	70	3前	2			
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	71	3前	1			
		地域・在宅看護学実習 A	1	05	04	4	25	72	3後		2		選択 2 科目から 2 単位を修得すること
		地域・在宅看護学実習 B	1	05	04	4	25	73	4前		2		
	成人看護学	成人看護学概論	1	05	04	2	25	74	1後	1			
		成人看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	75	2前	1			
		成人看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	76	2後	1			
		成人看護方法論Ⅲ	1	05	04	3	25	77	2前	1			
		成人看護方法論Ⅳ	1	05	04	3	25	78	2後	1			
		成人看護方法論Ⅴ	1	05	04	3	25	79	3前	1			
		成人看護学実習Ⅰ A	1	05	04	4	25	80	3後		3		選択 2 科目から 3 単位を修得すること
		成人看護学実習Ⅰ B	1	05	04	4	25	81	4前		3		
		成人看護学実習Ⅱ A	1	05	04	4	25	82	3後		3		選択 2 科目から 3 単位を修得すること
		成人看護学実習Ⅱ B	1	05	04	4	25	83	4前		3		
	老年看護学	老年看護学概論	1	05	04	2	25	84	2前	1			
		老年看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	85	2後	2			
		老年看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	86	3前	1			
		老年看護学実習Ⅰ A	1	05	04	4	25	87	3後		3		2 科目から 3 単位修得すること
		老年看護学実習Ⅰ B	1	05	04	4	25	88	4前		3		
		老年看護学実習Ⅱ A	1	05	04	4	25	89	3後		1		2 科目から 1 単位修得すること
		老年看護学実習Ⅱ B	1	05	04	4	25	90	4前		1		
	小児看護学	小児看護学概論	1	05	04	2	25	91	2前	1			
		小児看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	92	2後	2			
		小児看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	93	3前	1			
		小児看護学実習Ⅰ A	1	05	04	4	25	94	3後		1		2 科目から 1 単位を修得すること
		小児看護学実習Ⅰ B	1	05	04	4	25	95	4前		1		
		小児看護学実習Ⅱ A	1	05	04	4	25	96	3後		1		2 科目から 1 単位を修得すること
		小児看護学実習Ⅱ B	1	05	04	4	25	97	4前		1		
	母性看護学	母性看護学概論	1	05	04	2	25	98	2前	1			
		母性看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	99	2後	2			
		母性看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	100	3前	1			
		母性看護学実習 A	1	05	04	4	25	101	3後		2		2 科目から 2 単位修得すること
		母性看護学実習 B	1	05	04	4	25	102	4前		2		
	精神看護学	精神看護学概論	1	05	04	2	25	103	2前	1			
		精神看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	104	2後	2			
		精神看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	105	3前	1			
		精神看護学実習 A	1	05	04	4	25	106	3後		2		2 科目から 2 単位修得すること
		精神看護学実習 B	1	05	04	4	25	107	4前		2		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1	05	04	2	25	108	1後	1			
		公衆衛生看護学Ⅰ	1	05	04	3	25	109	2後		1		保健師課程を選択する者は修得すること
		公衆衛生看護学Ⅱ	1	05	04	3	25	110	3前		1		
		公衆衛生看護方法論	1	05	04	3	25	111	3前		2		
		産業保健学	1	05	04	3	25	112	3前		1		
		学校保健学	1	05	04	3	25	113	3前		1		
		保健医療福祉行政論	1	05	04	3	25	114	3前		2		
		公衆衛生看護管理論	1	05	04	3	25	115	3前		1		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	1	05	04	4	25	116	4通		1		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	1	05	04	4	25	117	4通		2		
		公衆衛生看護学実習Ⅲ	1	05	04	4	25	118	4通		1		

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［看護学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	特別演習	基礎セミナーⅠ	1	05	04	2	25	119	2 通	1			
		基礎セミナーⅡ	1	05	04	3	25	120	3 前	1			
		実習前特別演習 A	1	05	04	4	25	121	3 前		1		2 科目から 1 単位を修得すること
		実習前特別演習 B	1	05	04	4	25	122	3 後		1		
	看護の統合と実践	看護管理学Ⅰ	1	05	04	3	25	123	3 前	2			
		看護管理学Ⅱ	1	05	04	3	25	124	4 後	2			
		チーム医療論	1	05	04	3	25	125	3 前	1			
		統合看護実習 A	1	05	04	4	25	126	4 前		2		選択 2 科目から 2 単位を修得すること
		統合看護実習 B	1	05	04	4	25	127	4 後		2		
		看護研究論Ⅰ	1	05	04	2	25	128	3 前	1			
		看護研究論Ⅱ	1	05	04	3	25	129	3 後	1			
		看護研究論Ⅲ	1	05	04	3	25	130	4 前	1			
		看護学特別演習	1	05	04	4	25	131	4 後	1			
	多職種連携	チーム医療福祉論	1	05	04	2	25	132	1 後		1		
		保健医療福祉概論	1	05	04	3	25	133	2 後		2		
		専門職連携論	1	05	04	3	25	134	3 前		2		
		専門職連携セミナー	1	05	04	3	25	135	3 後		1		
		重度障がい者自立生活支援演習	1	05	04	1	25	136	1・2・3・4後		1		
専門科目の合計										54	62	0	75 単位以上修得すること
看護学科の総合計										100	119	0	124 単位以上修得すること

区分	卒業要件単位数 必修	選択	計
基礎科目	12	3	15
専門基礎科目	34	0	34
専門科目	54	21	75
合計	100	24	124

2022～2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
［看護学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	05	01	1	22	1	1 通		3		選択科目 6 科目から 2 単位以上を修得すること
		生命を考える	1	05	01	1	22	2	1 前・1 後		2		
		人間文化探求	1	05	01	1	22	3	1 通		2		
		生活の中の科学	1	05	01	1	22	4	1 前・1 後		2		
		地域活動・ボランティア	1	05	01	1	22	5	1 通		2		
		現代社会を視る	1	05	01	1	22	6	1 前・1 後		2		
		ボランティア探求	1	05	01	1	22	7	2 通		2		
	科学的思考の基礎	情報処理Ⅰ	1	05	02	1	22	8	1 前	1			＊
		情報処理Ⅱ	1	05	02	1	22	9	1 後	1			＊
		医療情報科学	1	05	02	1	22	10	1 後		1		必修 4 単位を含む 5 単位以上を修得すること
		医療数理基礎	1	05	02	1	22	11	1 前		1		
		基礎数学	1	05	02	1	22	12	1 後		2		
		基礎物理学	1	05	02	1	22	13	1 前		2		
		基礎化学	1	05	02	1	22	14	1 前		2		
		基礎生物学	1	05	02	1	22	15	1 前	2			
		統計解析	1	05	02	1	22	16	1 後		2		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	05	02	1	22	17	1 通	1			＊ 必修 2 単位を含む 2 単位以上を修得すること
		スポーツ実技	1	05	02	1	22	18	1 前		1		
		心理学	1	05	02	1	22	19	1 前		2		
		生命倫理	1	05	02	1	22	20	1 後	1			
	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1	05	02	1	22	21	1 通	2			必修 4 単位を含む 4 単位以上を修得すること
		英語Ⅱ	1	05	02	1	22	22	2 通		2		
		韓国語	1	05	02	1	22	23	1 前		1		
		中国語	1	05	02	1	22	24	1 前		1		
		コミュニケション論	1	05	02	1	22	25	1 前		2		
		現代国語表現	1	05	02	1	22	26	1 前	2			
		海外研修	1	05	02	1	22	27	1 通		2		
	人と生活	憲法と法律	1	05	02	1	22	28	2 前		2		＊ 選択科目 12 科目から 4 単位以上を修得すること 「＊」は保健師課程を選択する者で養護教諭 2 種の資格取得を希望する者は修得すること
		文化人類学	1	05	02	1	22	29	2 前		2		
		日本・東北文化論	1	05	02	1	22	30	2 前		2		
		日本近代史	1	05	02	1	22	31	2 前		2		
		健康科学	1	05	02	1	22	32	2 後		2		＊
		教育学Ⅰ	1	05	02	1	22	33	2 前		2		
		教育学Ⅱ	1	05	02	1	22	34	4 後		2		
		地球の科学	1	05	02	1	22	35	4 後		1		
		哲学	1	05	02	1	22	36	4 後		1		
		生活と経済	1	05	02	1	22	37	4 後		1		
		ジェンダー論	1	05	02	1	22	38	4 後		1		
		政治学	1	05	02	1	22	39	4 後		1		
	基礎科目の合計									10	55	0	17 単位以上修得すること
専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理学Ⅰ	1	05	03	2	22	40	1 前	2			
		解剖生理学Ⅱ	1	05	03	2	22	41	1 後	2			
		生化学	1	05	03	2	22	42	1 後	2			
		栄養学	1	05	03	2	22	43	1 後	2			
		病原微生物学	1	05	03	2	22	44	2 前	2			
		病態治療学Ⅰ	1	05	03	2	22	45	1 後	2			
		病態治療学Ⅱ	1	05	03	2	22	46	2 前	2			
		病態治療学Ⅲ	1	05	03	2	22	47	2 前	2			
		病態治療学Ⅳ	1	05	03	2	22	48	2 後	2			
		病態治療学Ⅴ	1	05	03	2	22	49	2 後	2			
		薬理学	1	05	03	2	22	50	2 前	2			
		救急医療論	1	05	03	2	22	51	3 前	1			
	健康支援と社会保障制度	臨床心理学	1	05	03	2	22	52	2 前	2			
		公衆衛生学	1	05	03	2	22	53	1 後	2			
		社会保障・福祉論	1	05	03	2	22	54	2 前	2			
		医療経済論	1	05	03	2	22	55	2 後	1			
		カウンセリング	1	05	03	2	22	56	2 後	2			
		家族社会学	1	05	03	2	22	57	1 後	2			
	健康変動の疫学と統計	疫学	1	05	03	2	22	58	3 前		2		保健師課程を選択する者は修得すること
		保健統計学	1	05	03	2	22	59	3 前		2		
	専門基礎分野の合計									34	4	0	34 単位以上修得すること

2022～2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
［看護学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	05	04	2	22	60	1前	2			
		看護学概論Ⅱ	1	05	04	2	22	61	4後	1			
		看護技術論Ⅰ	1	05	04	3	22	62	1前	3			
		看護技術論Ⅱ	1	05	04	3	22	63	1後	3			
		看護技術論Ⅲ	1	05	04	3	22	64	2前	1			
		看護技術論Ⅳ	1	05	04	3	22	65	2後	1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1	05	04	4	22	66	2前	1			
		基礎看護学実習Ⅱ	1	05	04	4	22	67	2後	2			
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論	1	05	04	2	22	68	2後	1			
		地域・在宅看護学Ⅰ	1	05	04	3	22	69	3前	1			
		地域・在宅看護学Ⅱ	1	05	04	3	22	70	4後	1			
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	22	71	3前	2			
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	22	72	3前	1			
		地域・在宅看護学実習Ａ	1	05	04	4	22	73	3後		2		選択２科目から２単位を修得すること
		地域・在宅看護学実習Ｂ	1	05	04	4	22	74	4前		2		
	成人看護学	成人看護学概論	1	05	04	2	22	75	1後	1			
		成人看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	22	76	2前	1			
		成人看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	22	77	2後	1			
		成人看護方法論Ⅲ	1	05	04	3	22	78	2前	1			
		成人看護方法論Ⅳ	1	05	04	3	22	79	2後	1			
		成人看護方法論Ⅴ	1	05	04	3	22	80	3前	1			
		成人看護学実習Ⅰ Ａ	1	05	04	4	22	81	3後		3		選択２科目から３単位を修得すること
		成人看護学実習Ⅰ Ｂ	1	05	04	4	22	82	4前		3		
		成人看護学実習Ⅱ Ａ	1	05	04	4	22	83	3後		3		選択２科目から３単位を修得すること
		成人看護学実習Ⅱ Ｂ	1	05	04	4	22	84	4前		3		
	老年看護学	老年看護学概論	1	05	04	2	22	85	2前	1			
		老年看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	22	86	2後	2			
		老年看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	22	87	3前	1			
		老年看護学実習Ⅰ Ａ	1	05	04	4	22	88	3後		3		２科目から３単位修得すること
		老年看護学実習Ⅰ Ｂ	1	05	04	4	22	89	4前		3		
		老年看護学実習Ⅱ Ａ	1	05	04	4	22	90	3後		1		２科目から１単位修得すること
		老年看護学実習Ⅱ Ｂ	1	05	04	4	22	91	4前		1		
	小児看護学	小児看護学概論	1	05	04	2	22	92	2前	1			
		小児看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	22	93	2後	2			
		小児看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	22	94	3前	1			
		小児看護学実習Ⅰ Ａ	1	05	04	4	22	95	3後		1		２科目から１単位を修得すること
		小児看護学実習Ⅰ Ｂ	1	05	04	4	22	96	4前		1		
		小児看護学実習Ⅱ Ａ	1	05	04	4	22	97	3後		1		２科目から１単位を修得すること
		小児看護学実習Ⅱ Ｂ	1	05	04	4	22	98	4前		1		
	母性看護学	母性看護学概論	1	05	04	2	22	99	2前	1			
		母性看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	22	100	2後	2			
		母性看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	22	101	3前	1			
		母性看護学実習Ａ	1	05	04	4	22	102	3後		2		２科目から２単位修得すること
		母性看護学実習Ｂ	1	05	04	4	22	103	4前		2		
	精神看護学	精神看護学概論	1	05	04	2	22	104	2前	1			
		精神看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	22	105	2後	2			
		精神看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	22	106	3前	1			
		精神看護学実習Ａ	1	05	04	4	22	107	3後		2		２科目から２単位修得すること
		精神看護学実習Ｂ	1	05	04	4	22	108	4前		2		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1	05	04	2	22	109	1後	1			
		公衆衛生看護学Ⅰ	1	05	04	3	22	110	2後		1		保健師課程を選択する者は修得すること
		公衆衛生看護学Ⅱ	1	05	04	3	22	111	3前		1		
		公衆衛生看護方法論	1	05	04	3	22	112	3前		2		
		産業保健学	1	05	04	3	22	113	3前		1		
		学校保健学	1	05	04	3	22	114	3前		1		
		保健医療福祉行政論	1	05	04	3	22	115	3前		2		
		公衆衛生看護管理論	1	05	04	3	22	116	3前		1		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	1	05	04	4	22	117	4通		1		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	1	05	04	4	22	118	4通		2		
		公衆衛生看護学実習Ⅲ	1	05	04	4	22	119	4通		1		

2022～2024 年度入学者用

【医療福祉学部】
［看護学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	特別演習	基礎セミナーⅠ	1	05	04	2	22	120	2 通	1			
		基礎セミナーⅡ	1	05	04	3	22	121	3 前	1			
		実習前特別演習 A	1	05	04	4	22	122	3 前		1		2 科目から 1 単位を修得すること
		実習前特別演習 B	1	05	04	4	22	123	3 後		1		
	看護の統合と実践	看護管理学Ⅰ	1	05	04	3	22	124	3 前	2			
		看護管理学Ⅱ	1	05	04	3	22	125	4 後	2			
		チーム医療論	1	05	04	3	22	126	3 前	1			
		統合看護実習 A	1	05	04	4	22	127	4 前		2		選択 2 科目から 2 単位を修得すること
		統合看護実習 B	1	05	04	4	22	128	4 後		2		
		看護研究論Ⅰ	1	05	04	2	22	129	3 前	1			
		看護研究論Ⅱ	1	05	04	3	22	130	3 後	1			
		看護研究論Ⅲ	1	05	04	3	22	131	4 前	1			
		看護学特別演習	1	05	04	4	22	132	4 後	1			
	多職種連携	チーム医療福祉論	1	05	04	2	22	133	1 後		1		
		保健医療福祉概論	1	05	04	3	22	134	2 後		2		
		専門職連携論	1	05	04	3	22	135	3 前		2		専門職連携セミナーは専門職連携論の修得が必要
		専門職連携セミナー	1	05	04	3	22	136	3 後		1		
専門科目の合計										54	61	0	75 単位以上修得すること
看護学科の総合計										98	120	0	卒業要件 126 単位以上修得すること

区分	卒業要件単位数 必修	選択	計
基礎科目	10	7	17
専門基礎科目	34	0	34
専門科目	54	21	75
合計	98	28	126

2020・2021 年度入学者用

【医療福祉学部】
［看護学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	05	01	1	20	1	1 通		3		選択科目 6 科目から 2 単位以上修得すること。
		生命を考える	1	05	01	1	20	2	1 前･1 後		2		
		人間文化探求	1	05	01	1	20	3	1 通		2		
		生活の中の科学	1	05	01	1	20	4	1 前･1 後		2		
		地域活動・ボランティア	1	05	01	1	20	5	1 通		2		
		現代社会を視る	1	05	01	1	20	6	1 前･1 後		2		
		ボランティア探求	1	05	01	1	20	7	2 通		2		
	科学的思考の基礎	情報処理	1	05	02	1	20	8	1 前	1			＊養教 2 種 2 単位必要
		医療情報科学	1	05	02	1	20	9	1 後		1		＊養教 2 種 2 単位必要
		医療数理基礎	1	05	02	1	20	10	1 前		1		必修・選択科目から 5 単位以上修得すること。
		基礎数学	1	05	02	1	20	11	1 後		2		
		基礎物理学	1	05	02	1	20	12	1 前		2		
		基礎化学	1	05	02	1	20	13	1 前		2		
		基礎生物学	1	05	02	1	20	14	1 前	2			
		統計解析	1	05	02	1	20	15	1 後		2		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	05	02	1	20	16	1 通	1			＊養教 2 種 2 単位必要 必修・選択科目から 2 単位以上修得すること。
		スポーツ実技	1	05	02	1	20	17	1 前		1		
		心理学	1	05	02	1	20	18	1 後		2		
		生命倫理	1	05	02	1	20	19	1 前	1			
	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1	05	02	1	20	20	1 通	2			必修・選択科目から 4 単位以上修得すること。
		英語Ⅱ	1	05	02	1	20	21	2 通		2		
		韓国語	1	05	02	1	20	22	1 前		1		
		中国語	1	05	02	1	20	23	1 前		1		
		コミュニケーション論	1	05	02	1	20	24	1 前		2		
		現代国語表現	1	05	02	1	20	25	1 前	2			
		海外研修	1	05	02	1	20	26	1 通		2		
	人と生活	憲法と法律	1	05	02	1	20	27	2 前		2		＊養教 2 種 2 単位必要
		文化人類学	1	05	02	1	20	28	2 前		2		
		日本・東北文化論	1	05	02	1	20	29	2 前		2		
		日本近代史	1	05	02	1	20	30	2 前		2		
		健康科学	1	05	02	1	20	31	2 前		2		＊ 選択科目から 6 単位以上修得すること。
		教育学Ⅰ	1	05	02	1	20	32	2 前		2		
		教育学Ⅱ	1	05	02	1	20	33	4 後		2		
		地球の科学	1	05	02	1	20	34	4 後		1		
		哲学	1	05	02	1	20	35	4 後		1		※「＊」は保健師課程を選択する者で養護教諭 2 種の資格取得を希望する者は修得すること。
		生活と経済	1	05	02	1	20	36	4 後		1		
		ジェンダー論	1	05	02	1	20	37	4 後		1		
		政治学	1	05	02	1	20	38	4 後		1		
	基礎科目の合計									9	55	0	19 単位以上修得すること。
専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理学Ⅰ	1	05	03	2	20	39	1 前	2			
		解剖生理学Ⅱ	1	05	03	2	20	40	1 後	2			
		生化学	1	05	03	2	20	41	1 後	2			
		栄養学	1	05	03	2	20	42	1 後	2			
		病原微生物学	1	05	03	2	20	43	2 前	2			
		病態治療学Ⅰ	1	05	03	2	20	44	1 後	2			
		病態治療学Ⅱ	1	05	03	2	20	45	2 前	2			
		病態治療学Ⅲ	1	05	03	2	20	46	2 前	2			
		病態治療学Ⅳ	1	05	03	2	20	47	2 後	2			
		病態治療学Ⅴ	1	05	03	2	20	48	2 後	2			
		薬理学	1	05	03	2	20	49	2 前	2			
		救急医療論	1	05	03	2	20	50	3 前	1			
	健康支援と社会保障制度	臨床心理学	1	05	03	2	20	51	2 前	2			
		関係法規	1	05	03	2	20	52	3 前	2			
		公衆衛生学	1	05	03	2	20	53	1 後	2			
		社会保障・福祉論	1	05	03	2	20	54	2 後	2			
		健康行動学	1	05	03	2	20	55	2 後		1		
		医療経済論	1	05	03	2	20	56	2 後	1			
		医学外国語	1	05	03	2	20	57	2 前		1		
		カウンセリング	1	05	03	2	20	58	2 後	2			
		家族社会学	1	05	03	2	20	59	1 後	2			
	健康現象の疫学と統計	疫学	1	05	03	2	20	60	3 前		2		保健師課程を選択する者は修得すること。
		保健統計学	1	05	03	2	20	61	3 前		2		
	専門基礎分野の合計									36	6	0	36 単位以上修得すること。

2020・2021 年度入学者用

【医療福祉学部】
［看護学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	05	04	2	20	62	1前	2			
		看護学概論Ⅱ	1	05	04	2	20	63	4後	1			
		看護技術論Ⅰ	1	05	04	3	20	64	1前	3			
		看護技術論Ⅱ	1	05	04	3	20	65	1後	3			
		看護技術論Ⅲ	1	05	04	3	20	66	2前	1			
		基礎看護実習Ⅰ	1	05	04	4	20	67	2前	1			
		基礎看護実習Ⅱ	1	05	04	4	20	68	2後	2			
	成人看護学	成人看護学概論	1	05	04	2	20	69	1後	1			
		成人看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	20	70	2前	1			
		成人看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	20	71	2後	1			
		成人看護方法論Ⅲ	1	05	04	3	20	72	2前	1			
		成人看護方法論Ⅳ	1	05	04	3	20	73	2後	1			
		成人看護方法論Ⅴ	1	05	04	3	20	74	3前	1			
		成人看護実習Ⅰ A	1	05	04	4	20	75	3後		3		2科目から3単位修得すること
		成人看護実習Ⅰ B	1	05	04	4	20	76	4前		3		
		成人看護実習Ⅱ A	1	05	04	4	20	77	3後		3		2科目から3単位修得すること
		成人看護実習Ⅱ B	1	05	04	4	20	78	4前		3		
	老年看護学	老年看護学概論	1	05	04	2	20	79	2前	1			
		老年看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	20	80	2後	2			
		老年看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	20	81	3前	1			
		老年看護実習Ⅰ A	1	05	04	4	20	82	3後		3		2科目から3単位修得すること
		老年看護実習Ⅰ B	1	05	04	4	20	83	4前		3		
		老年看護実習Ⅱ A	1	05	04	4	20	84	3後		1		2科目から1単位修得すること
		老年看護実習Ⅱ B	1	05	04	4	20	85	4前		1		
	小児看護学	小児看護学概論	1	05	04	2	20	86	2前	1			
		小児看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	20	87	2後	2			
		小児看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	20	88	3前	1			
		小児看護実習Ⅰ A	1	05	04	4	20	89	3後		1		2科目から1単位修得すること
		小児看護実習Ⅰ B	1	05	04	4	20	90	4前		1		
		小児看護実習Ⅱ A	1	05	04	4	20	91	3後		1		2科目から1単位修得すること
		小児看護実習Ⅱ B	1	05	04	4	20	92	4前		1		
	母性看護学	母性看護学概論	1	05	04	2	20	93	2前	1			
		母性看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	20	94	2後	2			
		母性看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	20	95	3前	1			
		母性看護実習 A	1	05	04	4	20	96	3後		2		2科目から2単位修得すること
		母性看護実習 B	1	05	04	4	20	97	4前		2		
	精神看護学	精神看護学概論	1	05	04	2	20	98	2前	1			
		精神看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	20	99	2後	2			
		精神看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	20	100	3前	1			
		精神看護実習 A	1	05	04	4	20	101	3後		2		2科目から2単位修得すること
		精神看護実習 B	1	05	04	4	20	102	4前		2		
	特別演習	基礎セミナーⅠ	1	05	04	2	20	103	2通	1			
		基礎セミナーⅡ	1	05	04	3	20	104	3前	1			
		実習前特別演習 A	1	05	04	4	20	105	3前		1		2科目から1単位修得すること
		実習前特別演習 B	1	05	04	4	20	106	3後		1		
	専門分野の合計									37	34	0	54単位以上修得すること。
統合科目	在宅看護論	在宅看護学概論	1	05	06	2	20	107	2後	1			
		在宅看護方法論Ⅰ	1	05	06	3	20	108	3前	2			
		在宅看護方法論Ⅱ	1	05	06	3	20	109	3前	1			
		在宅看護実習 A	1	05	06	4	20	110	3後		2		2科目から2単位修得すること
		在宅看護実習 B	1	05	06	4	20	111	4前		2		

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1	05	06	2	20	112	1後	2			
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	1	05	06	3	20	113	2後		2		保健師課程を選択する者は修得すること。
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	1	05	06	3	20	114	3前		2		
		公衆衛生看護方法論Ⅲ	1	05	06	3	20	115	3前		2		
		産業保健支援論	1	05	06	3	20	116	3前		2		
		学校保健支援論	1	05	06	3	20	117	3前		2		
		保健医療福祉行政論	1	05	06	3	20	118	3前		2		
		公衆衛生看護管理論	1	05	06	3	20	119	3前		1		
		公衆衛生看護実習Ⅰ	1	05	06	4	20	120	4通		1		
		公衆衛生看護実習Ⅱ	1	05	06	4	20	121	4通		3		
		公衆衛生看護実習Ⅲ	1	05	06	4	20	122	4通		1		
	看護の統合	看護管理学Ⅰ	1	05	06	3	20	123	3前	2			
		看護管理学Ⅱ	1	05	06	3	20	124	4後	2			
		チーム医療論	1	05	06	3	20	125	3前	1			
		統合看護実習 A	1	05	06	4	20	126	4前		2		2科目から2単位修得すること
		統合看護実習 B	1	05	06	4	20	127	4後		2		
		看護研究論	1	05	06	3	20	128	3前	1			
		卒業研究	1	05	06	3	20	129	4通	2			
		看護学特別演習	1	05	06	4	20	130	4後	1			
	多職種連携	チーム医療福祉論	1	05	06	2	20	131	1後		1		
		社会医療福祉概論	1	05	06	3	20	132	2後		2		
		専門職連携論	1	05	06	3	20	133	3前		2		専門職連携セミナーは専門職連携論の修得が必要
		専門職連携セミナー	1	05	06	3	20	134	3後		1		
統合科目の合計										15	32	0	19単位以上修得すること。
看護学科の総合計										97	127	0	卒業要件 128単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
基礎科目	9	10	19
専門基礎科目	36	0	36
専門科目	37	17	54
統合科目	15	4	19
合計	97	31	128

看護学科カリキュラム対照表

2020・2021 年度入学者用				2022～2024 年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	輝ける者	1 通		3
生命を考える	1前・1後		2	生命を考える	1前・1後		2
人間文化探求	1 通		2	人間文化探求	1 通		2
生活の中の科学	1前・1後		2	生活の中の科学	1前・1後		2
地域活動・ボランティア	1通		2	地域活動・ボランティア	1 通		2
現代社会を視る	1前・1後		2	現代社会を視る	1前・1後		2
ボランティア探求	2 通		2	ボランティア探求	2 通		2
情報処理	1 前	1		情報処理Ⅰ	1 前	1	
				情報処理Ⅱ	1 後	1	
医療情報科学	1 後		1	医療情報科学	1 後		1
医療数理基礎	1 前		1	医療数理基礎	1 前		1
基礎数学	1 後		2	基礎数学	1 後		2
基礎物理学	1 前		2	基礎物理学	1 前		2
基礎化学	1 前		2	基礎化学	1 前		2
基礎生物学	1 前	2		基礎生物学	1 前	2	
統計解析	1 後		2	統計解析	1 後		2
アカデミック・スキル演習	1 通	1		アカデミック・スキル演習	1 通	1	
スポーツ実技	1 前		1	スポーツ実技	1 前		1
心理学	1 後		2	心理学	1 前		2
生命倫理	1 前	1		生命倫理	1 後	1	
英語Ⅰ	1 通	2		英語Ⅰ	1 通	2	
英語Ⅱ	2 通		2	英語Ⅱ	2 通		2
韓国語	1 前		1	韓国語	1 前		1
中国語	1 前		1	中国語	1 前		1
コミュニケーション論	1 前		2	コミュニケーション論	1 前		2
現代国語表現	1 前	2		現代国語表現	1 前	2	
海外研修	1・2・3・4通		2	海外研修	1 通		2
憲法と法律	2 前		2	憲法と法律	2 前		2
文化人類学	2 前		2	文化人類学	2 前		2
日本・東北文化論	2 前		2	日本・東北文化論	2 前		2
日本近代史	2 前		2	日本近代史	2 前		2
健康科学	2 前		2	健康科学	2 後		2
教育学Ⅰ	2 前		2	教育学Ⅰ	2 前		2
教育学Ⅱ	4 後		2	教育学Ⅱ	4 後		2
地球の科学	4 後		1	地球の科学	4 後		1
哲学	4 後		1	哲学	4 後		1
生活と経済	4 後		1	生活と経済	4 後		1
ジェンダー論	4 後		1	ジェンダー論	4 後		1
政治学	4 後		1	政治学	4 後		1
解剖生理学Ⅰ	1 前	2		解剖生理学Ⅰ	1 前	2	
解剖生理学Ⅱ	1 後	2		解剖生理学Ⅱ	1 後	2	
生化学	1 後	2		生化学	1 後	2	
栄養学	1 後	2		栄養学	1 後	2	
病原微生物学	2 前	2		病原微生物学	2 前	2	
病態治療学Ⅰ	1 後	2		病態治療学Ⅰ	1 後	2	
病態治療学Ⅱ	2 前	2		病態治療学Ⅱ	2 前	2	
病態治療学Ⅲ	2 前	2		病態治療学Ⅲ	2 前	2	
病態治療学Ⅳ	2 後	2		病態治療学Ⅳ	2 後	2	
病態治療学Ⅴ	2 後	2		病態治療学Ⅴ	2 後	2	

看護学科カリキュラム対照表

2020・2021 年度入学者用				2022～2024 年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
薬理学	2 前	2		薬理学	2 前	2	
救急医療論	3 前	1		救急医療論	3 前	1	
臨床心理学	2 前	2		臨床心理学	2 前	2	
関係法規	3 前	2		※			
公衆衛生学	1 後	2		公衆衛生学	1 後	2	
社会保障・福祉論	2 後	2		社会保障・福祉論	2 前	2	
健康行動学	2 後		1	※			
医療経済論	2 後	1		医療経済論	2 後	1	
医学外国語	2 前		1	※			
カウンセリング	2 後	2		カウンセリング	2 後	2	
家族社会学	1 後	2		家族社会学	1 後	2	
疫学	3 前		2	疫学	3 前		2
保健統計学	3 前		2	保健統計学	3 前		2
看護学概論Ⅰ	1 前	2		看護学概論Ⅰ	1 前	2	
看護学概論Ⅱ	4 後	1		看護学概論Ⅱ	4 後	1	
看護技術論Ⅰ	1 前	3		看護技術論Ⅰ	1 前	3	
看護技術論Ⅱ	1 後	3		看護技術論Ⅱ	1 後	3	
				看護技術論Ⅲ	2 前	1	
看護技術論Ⅲ	2 前	1		看護技術論Ⅳ	2 後	1	
基礎看護実習Ⅰ	2 前	1		基礎看護学実習Ⅰ	2 前	1	
基礎看護実習Ⅱ	2 後	2		基礎看護学実習Ⅱ	2 後	2	
成人看護学概論	1 後	1		成人看護学概論	1 後	1	
成人看護方法論Ⅰ	2 前	1		成人看護方法論Ⅰ	2 前	1	
成人看護方法論Ⅱ	2 後	1		成人看護方法論Ⅱ	2 後	1	
成人看護方法論Ⅲ	2 前	1		成人看護方法論Ⅲ	2 前	1	
成人看護方法論Ⅳ	2 後	1		成人看護方法論Ⅳ	2 後	1	
成人看護方法論Ⅴ	3 前	1		成人看護方法論Ⅴ	3 前	1	
成人看護実習Ⅰ A	3 後		3	成人看護学実習Ⅰ A	3 後		3
成人看護実習Ⅰ B	4 前		3	成人看護学実習Ⅰ B	4 前		3
成人看護実習Ⅱ A	3 後		3	成人看護学実習Ⅱ A	3 後		3
成人看護実習Ⅱ B	4 前		3	成人看護学実習Ⅱ B	4 前		3
老年看護学概論	2 前	1		老年看護学概論	2 前	1	
老年看護方法論Ⅰ	2 後	2		老年看護方法論Ⅰ	2 後	2	
老年看護方法論Ⅱ	3 前	1		老年看護方法論Ⅱ	3 前	1	
老年看護実習Ⅰ A	3 後		3	老年看護学実習Ⅰ A	3 後		3
老年看護実習Ⅰ B	4 前		3	老年看護学実習Ⅰ B	4 前		3
老年看護実習Ⅱ A	3 後		1	老年看護学実習Ⅱ A	3 後		1
老年看護実習Ⅱ B	4 前		1	老年看護学実習Ⅱ B	4 前		1
小児看護学概論	2 前	1		小児看護学概論	2 前	1	
小児看護方法論Ⅰ	2 後	2		小児看護方法論Ⅰ	2 後	2	
小児看護方法論Ⅱ	3 前	1		小児看護方法論Ⅱ	3 前	1	
小児看護実習Ⅰ A	3 後		1	小児看護学実習Ⅰ A	3 後		1
小児看護実習Ⅰ B	4 前		1	小児看護学実習Ⅰ B	4 前		1
小児看護実習Ⅱ A	3 後		1	小児看護学実習Ⅱ A	3 後		1
小児看護実習Ⅱ B	4 前		1	小児看護学実習Ⅱ B	4 前		1
母性看護学概論	2 前	1		母性看護学概論	2 前	1	
母性看護方法論Ⅰ	2 後	2		母性看護方法論Ⅰ	2 後	2	
母性看護方法論Ⅱ	3 前	1		母性看護方法論Ⅱ	3 前	1	
母性看護実習 A	3 後		2	母性看護学実習 A	3 後		2

看護学科カリキュラム対照表

2020・2021 年度入学者用				2022～2024 年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
母性看護実習 B	4 前		2	母性看護学実習 B	4 前		2
精神看護学概論	2 前	1		精神看護学概論	2 前	1	
精神看護方法論 I	2 後	2		精神看護方法論 I	2 後	2	
精神看護方法論 II	3 前	1		精神看護方法論 II	3 前	1	
精神看護実習 A	3 後		2	精神看護学実習 A	3 後		2
精神看護実習 B	4 前		2	精神看護学実習 B	4 前		2
基礎セミナー I	2 通	1		基礎セミナー I	2 通	1	
基礎セミナー II	3 前	1		基礎セミナー II	3 前	1	
実習前特別演習 A	3 前		1	実習前特別演習 A	3 前		1
実習前特別演習 B	3 後		1	実習前特別演習 B	3 後		1
在宅看護学概論	2 後	1		地域・在宅看護学概論	2 後	1	
在宅看護方法論 I	3 前	2		地域・在宅看護方法論 I	3 前	2	
在宅看護方法論 II	3 前	1		地域・在宅看護学 I	3 前	1	
				地域・在宅看護方法論 II	3 前	1	
				地域・在宅看護学 II	4 後	1	
在宅看護実習 A	3 後		2	地域・在宅看護学実習 A	3 後		2
在宅看護実習 B	4 前		2	地域・在宅看護学実習 B	4 前		2
公衆衛生看護学概論	1 後	2		※			
				公衆衛生看護学概論	1 後	1	
公衆衛生看護方法論 I	2 後		2	※			
				公衆衛生看護学 I	2 後		1
公衆衛生看護方法論 II	3 前		2	※			
				公衆衛生看護学 II	3 前		1
公衆衛生看護方法論 III	3 前		2	公衆衛生看護方法論	3 前		2
産業保健支援論	3 前		2	※			
				産業保健学	3 前		1
学校保健支援論	3 前		2	※			
				学校保健学	3 前		1
保健医療福祉行政論	3 前		2	保健医療福祉行政論	3 前		2
公衆衛生看護管理論	3 前		1	公衆衛生看護管理論	3 前		1
公衆衛生看護実習 I	4 通		1	公衆衛生看護学実習 I	4 通		1
公衆衛生看護実習 II	4 通		3	※			
				公衆衛生看護学実習 II	4 通		2
公衆衛生看護実習 III	4 通		1	公衆衛生看護学実習 III	4 通		1
看護管理学 I	3 前	2		看護管理学 I	3 前	2	
看護管理学 II	4 後	2		看護管理学 II	4 後	2	
チーム医療論	3 前	1		チーム医療論	3 前	1	
統合看護実習 A	4 前		2	統合看護実習 A	4 前		2
統合看護実習 B	4 後		2	統合看護実習 B	4 後		2
看護研究論	3 前	1		看護研究論 I	3 前	1	
				看護研究論 II	3 後	1	
				看護研究論 III	4 前	1	
卒業研究	4 通	2		※			
看護学特別演習	4 後	1		看護学特別演習	4 後	1	
チーム医療福祉論	1 後		1	チーム医療福祉論	1 後		1
社会医療福祉概論	2 後		2	保健医療福祉概論	2 後		2
専門職連携論	3 前		2	専門職連携論	3 前		2
専門職連携セミナー	3 後		1	専門職連携セミナー	3 後		1

※別途開講する

看護学科カリキュラム対照表

2022～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	※			
生命を考える	1前・1後		2	生命を考える	1前・1後		2
人間文化探求	1 通		2	※			
生活の中の科学	1前・1後		2	生活の中の科学	1前・1後		2
地域活動・ボランティア	1通		2	※			
現代社会を視る	1前・1後		2	現代社会を視る	1前・1後		2
ボランティア探求	2 通		2	※			
情報処理Ⅰ	1 前	1		※			
情報処理Ⅱ	1 後	1		※			
医療情報科学	1 後		1	医療情報科学	1 後		1
医療数理基礎	1 前		1	※			
基礎数学	1 後		2	※			
基礎物理学	1 前		2	生活の中の物理学	1 後		2
基礎化学	1 前		2	生活の中の化学	1 前		2
基礎生物学	1 前	2		生活の中の生物学	1 前	2	
統計解析	1 後		2	統計解析	1 後		2
アカデミック・スキル演習	1 通	1		アカデミック・スキル演習	1 通	2	
スポーツ実技	1 前		1	スポーツ実技	1 後		1
心理学	1 前		2	心理学概論	1 後		2
生命倫理	1 後	1		生命倫理学	1 後	1	
英語Ⅰ	1 通	2		英語コミュニケーションⅠ	1 前	1	
				英語コミュニケーションⅡ	1 後	1	
英語Ⅱ	2 通		2	※			
韓国語	1 前		1	韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1
中国語	1 前		1	中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1
コミュニケーション論	1 前		2	コミュニケーション論	1 前		2
現代国語表現	1 前	2		現代国語表現	1 前	2	
海外研修	1 通		2	海外研修	1 通		2
憲法と法律	2 前		2	憲法と法律	1 前		2
文化人類学	2 前		2	文化人類学	2 前		2
日本・東北文化論	2 前		2	※			
日本近代史	2 前		2	※			
健康科学	2 後		2	※			
教育学Ⅰ	2 前		2	※			
教育学Ⅱ	4 後		2	教育方法論	2 前		2
地球の科学	4 後		1	※			
哲学	4 後		1	※			
生活と経済	4 後		1	※			
ジェンダー論	4 後		1	※			
政治学	4 後		1	※			
解剖生理学Ⅰ	1 前	2		解剖生理学Ⅰ	1 前	2	
解剖生理学Ⅱ	1 後	2		解剖生理学Ⅱ	1 後	2	
生化学	1 後	2		生化学	1 後	2	
栄養学	1 後	2		栄養学	1 後	2	
病原微生物学	2 前	2		病原微生物学	2 前	2	
病態治療学Ⅰ	1 後	2		病態治療学Ⅰ	1 後	2	
病態治療学Ⅱ	2 前	2		病態治療学Ⅱ	2 前	2	
病態治療学Ⅲ	2 前	2		病態治療学Ⅲ	2 前	2	
病態治療学Ⅳ	2 後	2		病態治療学Ⅳ	2 後	2	
病態治療学Ⅴ	2 後	2		病態治療学Ⅴ	2 後	2	
薬理学	2 前	2		薬理学	2 前	2	
救急医療論	3 前	1		救急医療論	3 前	1	

看護学科カリキュラム対照表

2022～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
臨床心理学	2 前	2		臨床心理学	2 前	2	
公衆衛生学	1 後	2		公衆衛生学	1 後	2	
社会保障・福祉論	2 前	2		社会保障・福祉論	2 前	2	
医療経済論	2 後	1		医療経済論	2 後	1	
カウンセリング	2 後	2		カウンセリング	2 後	2	
家族社会学	1 後	2		家族社会学	1 後	2	
疫学	3 前		2	疫学	3 前		2
保健統計学	3 前		2	保健統計学	3 前		2
看護学概論Ⅰ	1 前	2		看護学概論Ⅰ	1 前	2	
看護学概論Ⅱ	4 後	1		看護学概論Ⅱ	4 後	1	
看護技術論Ⅰ	1 前	3		看護技術論Ⅰ	1 前	3	
看護技術論Ⅱ	1 後	3		看護技術論Ⅱ	1 後	3	
看護技術論Ⅲ	2 前	1		看護技術論Ⅲ	2 前	1	
看護技術論Ⅳ	2 後	1		看護技術論Ⅳ	2 後	1	
基礎看護学実習Ⅰ	2 前	1		基礎看護学実習Ⅰ	2 前	1	
基礎看護学実習Ⅱ	2 後	2		基礎看護学実習Ⅱ	2 後	2	
地域・在宅看護学概論	2 後	1		地域・在宅看護学概論	2 後	1	
地域・在宅看護学Ⅰ	3 前	1		地域・在宅看護学Ⅰ	3 前	1	
地域・在宅看護学Ⅱ	4 後	1		地域・在宅看護学Ⅱ	4 後	1	
地域・在宅看護方法論Ⅰ	3 前	2		地域・在宅看護方法論Ⅰ	3 前	2	
地域・在宅看護方法論Ⅱ	3 前	1		地域・在宅看護方法論Ⅱ	3 前	1	
地域・在宅看護学実習 A	3 後		2	地域・在宅看護学実習 A	3 後		2
地域・在宅看護学実習 B	4 前		2	地域・在宅看護学実習 B	4 前		2
成人看護学概論	1 後	1		成人看護学概論	1 後	1	
成人看護方法論Ⅰ	2 前	1		成人看護方法論Ⅰ	2 前	1	
成人看護方法論Ⅱ	2 後	1		成人看護方法論Ⅱ	2 後	1	
成人看護方法論Ⅲ	2 前	1		成人看護方法論Ⅲ	2 前	1	
成人看護方法論Ⅳ	2 後	1		成人看護方法論Ⅳ	2 後	1	
成人看護方法論Ⅴ	3 前	1		成人看護方法論Ⅴ	3 前	1	
成人看護学実習Ⅰ A	3 後		3	成人看護学実習Ⅰ A	3 後		3
成人看護学実習Ⅰ B	4 前		3	成人看護学実習Ⅰ B	4 前		3
成人看護学実習Ⅱ A	3 後		3	成人看護学実習Ⅱ A	3 後		3
成人看護学実習Ⅱ B	4 前		3	成人看護学実習Ⅱ B	4 前		3
老年看護学概論	2 前	1		老年看護学概論	2 前	1	
老年看護方法論Ⅰ	2 後	2		老年看護方法論Ⅰ	2 後	2	
老年看護方法論Ⅱ	3 前	1		老年看護方法論Ⅱ	3 前	1	
老年看護学実習Ⅰ A	3 後		3	老年看護学実習Ⅰ A	3 後		3
老年看護学実習Ⅰ B	4 前		3	老年看護学実習Ⅰ B	4 前		3
老年看護学実習Ⅱ A	3 後		1	老年看護学実習Ⅱ A	3 後		1
老年看護学実習Ⅱ B	4 前		1	老年看護学実習Ⅱ B	4 前		1
小児看護学概論	2 前	1		小児看護学概論	2 前	1	
小児看護方法論Ⅰ	2 後	2		小児看護方法論Ⅰ	2 後	2	
小児看護方法論Ⅱ	3 前	1		小児看護方法論Ⅱ	3 前	1	
小児看護学実習Ⅰ A	3 後		1	小児看護学実習Ⅰ A	3 後		1
小児看護学実習Ⅰ B	4 前		1	小児看護学実習Ⅰ B	4 前		1
小児看護学実習Ⅱ A	3 後		1	小児看護学実習Ⅱ A	3 後		1
小児看護学実習Ⅱ B	4 前		1	小児看護学実習Ⅱ B	4 前		1
母性看護学概論	2 前	1		母性看護学概論	2 前	1	
母性看護方法論Ⅰ	2 後	2		母性看護方法論Ⅰ	2 後	2	
母性看護方法論Ⅱ	3 前	1		母性看護方法論Ⅱ	3 前	1	
母性看護学実習 A	3 後		2	母性看護学実習 A	3 後		2
母性看護学実習 B	4 前		2	母性看護学実習 B	4 前		2

看護学科カリキュラム対照表

2022～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
精神看護学概論	2 前	1		精神看護学概論	2 前	1	
精神看護方法論 I	2 後	2		精神看護方法論 I	2 後	2	
精神看護方法論 II	3 前	1		精神看護方法論 II	3 前	1	
精神看護学実習 A	3 後		2	精神看護学実習 A	3 後		2
精神看護学実習 B	4 前		2	精神看護学実習 B	4 前		2
公衆衛生看護学概論	1 後	1		公衆衛生看護学概論	1 後	1	
公衆衛生看護学 I	2 後		1	公衆衛生看護学 I	2 後		1
公衆衛生看護学 II	3 前		1	公衆衛生看護学 II	3 前		1
公衆衛生看護方法論	3 前		2	公衆衛生看護方法論	3 前		2
産業保健学	3 前		1	産業保健学	3 前		1
学校保健学	3 前		1	学校保健学	3 前		1
保健医療福祉行政論	3 前		2	保健医療福祉行政論	3 前		2
公衆衛生看護管理論	3 前		1	公衆衛生看護管理論	3 前		1
公衆衛生看護学実習 I	4 通		1	公衆衛生看護学実習 I	4 通		1
公衆衛生看護学実習 II	4 通		2	公衆衛生看護学実習 II	4 通		2
公衆衛生看護学実習 III	4 通		1	公衆衛生看護学実習 III	4 通		1
基礎セミナー I	2 通	1		基礎セミナー I	2 通	1	
基礎セミナー II	3 前	1		基礎セミナー II	3 前	1	
実習前特別演習 A	3 前		1	実習前特別演習 A	3 前		1
実習前特別演習 B	3 後		1	実習前特別演習 B	3 後		1
看護管理学 I	3 前	2		看護管理学 I	3 前	2	
看護管理学 II	4 後	2		看護管理学 II	4 後	2	
チーム医療論	3 前	1		チーム医療論	3 前	1	
統合看護実習 A	4 前		2	統合看護実習 A	4 前		2
統合看護実習 B	4 後		2	統合看護実習 B	4 後		2
看護研究論 I	3 前	1		看護研究論 I	3 前	1	
看護研究論 II	3 後	1		看護研究論 II	3 後	1	
看護研究論 III	4 前	1		看護研究論 III	4 前	1	
看護学特別演習	4 後	1		看護学特別演習	4 後	1	
チーム医療福祉論	1 後		1	チーム医療福祉論	1 後		1
保健医療福祉概論	2 後		2	保健医療福祉概論	2 後		2
専門職連携論	3 前		2	専門職連携論	3 前		2
専門職連携セミナー	3 後		1	専門職連携セミナー	3 後		1
				輝ける者	1 通		2
				経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2
				社会活動入門	1 前・1 後		2
				データサイエンス入門	1 前	2	
				医療のための基礎数学	1 前		1
				韓国語コミュニケーション II	1 後		1
				中国語コミュニケーション II	1 後		1
				教育学	1 後		2
				東北の歴史	1 前		2
				現代史	1 前		2
				健康科学	1 前	1	
				生活と地球科学	1 後		2
				哲学	1 後		2
				生活と経済	1 後		2
				ジェンダー論	1 後		2
				教養としての政治学	1 後		2
				重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4 後		1

※別途開講する

東北文化学園大学医療福祉学部看護学科における進級及び臨地実習の履修に関する細則

┌平成 23 年 2 月 2 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 9 条の 3 及び第 13 条の規定に基づき、東北文化学園大学医療福祉学部看護学科に在籍する学生の進級及び臨地実習の履修に関する取扱いについて定めるものとする。

（定義）

第 2 条　この細則において「留年」とは、次の定義による。

⑴　2 年次から 3 年次への進級が認められなかった場合に、2 年次に留め置くこと。

⑵　所定の修業年限（4 年）を越えて在学すること。

（進級基準）

第 3 条　看護学科における 2 年次から 3 年次への進級基準は、次のとおりとする。

⑴　1、2 年次配当の必修科目の単位をすべて修得していること。

⑵　基礎科目の選択科目のうち、探求・理解プロジェクトの区分から 2 単位以上修得し、かつ、「科学的思想の基礎」、「自己形成」、「ことばと相互理解」及び「人と生活」の区分のいずれかから 1 単位以上を修得していること。

（進級の決定）

第 4 条　前条の進級基準を満たした学生は、進級とする。

2　前条の進級基準を満たさない学生の進級は、進級判定会議に諮り、教授会の議を経て、学長が決定する。

3　進級判定会議において、2 年次終了時の通算 GPA が 2. 0 以上の場合は、修得単位数等を勘案し、進級を認めることができる。

4　進級判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　看護学科長

⑴　その他看護学科長が必要と認める者　若干人

（留年）

第 5 条　前条第 2 項によって進級が認められなかった学生は、留年とする。

（臨地実習の履修）

第 6 条　看護学科における各臨地実習の履修は、別表に定める授業科目を修得しなければならない。

（臨地実習の単位認定）

第 7 条　臨地実習の単位認定に必要な出席時間数は、原則として各臨地実習で定める実習時間数の 5 分の 4 以上とする。

（臨地実習の再履修）

第 8 条　学部長は、教育上適切と判断できる場合に限り、臨地実習の配当学期を変更することができる。

（履修指導）

第 9 条　2 年次前期の通算 GPA が 2.0 未満の学生は、学科教員から履修指導等を受けなければならない。

（細則の改廃）

第 10 条　この細則の改廃は、学長が行う。

附　　則

この細則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、平成 22 年度入学の学生から適用する。

附　　則

この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行し、平成 22 年度入学の学生から適用する。

附　　則

この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 25 年度以前に入学したものについては、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、平成 26 年 12 月 3 日から施行し、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 23 年度以前に入学したものについては、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、平成 28 年 2 月 3 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附　　則

この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 30 年度以前に入学したものについては、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、2020 年 5 月 13 日から施行し、2020 年 4 月 1 日から適用する。ただし、2019 年度以前に入学したものについては、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、2020 年 9 月 15 日から施行する。

附　　則

この細則は、2021 年 2 月 16 日から施行する。

附　　則

この細則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2021 年度以前に入学したものについては、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2023 年度以前に入学したものについては、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、2025 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2024 年度以前に入学したものについては、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表（2022 年度以降の入学者用）

実習科目	実習科目 配当年次	修得する必要がある授業科目	履修要件科目 配当年次
基礎看護学実習 I	2 前	看護学概論 I	1 前
		看護技術論 I	1 前
		看護技術論 II	1 後
基礎看護学実習 II	2 後	看護技術論 III	2 前
		基礎看護学実習 I	2 前
地域・在宅看護学実習 A 地域・在宅看護学実習 B　2 科目から 2 単位履修すること	3 後 4 前	地域・在宅看護学概論	2 後
		地域・在宅看護学 I	3 前
		地域・在宅看護方法論 I	3 前
		地域・在宅看護方法論 II	3 前
成人看護学実習 IA 成人看護学実習 IB　2 科目から 3 単位履修すること 成人看護学実習 IIA 成人看護学実習 IIB　2 科目から 3 単位履修すること	3 後 4 前 3 後 4 前	成人看護学概論	1 後
		成人看護方法論 I	2 前
		成人看護方法論 II	2 後
		成人看護方法論 III	2 前
		成人看護方法論 IV	2 後
		成人看護方法論 V	3 前
老年看護学実習 IA 老年看護学実習 IB　2 科目から 3 単位履修すること 老年看護学実習 IIA 老年看護学実習 IIB　2 科目から 1 単位履修すること	3 後 4 前 3 後 4 前	老年看護学概論	2 前
		老年看護方法論 I	2 後
		老年看護方法論 II	3 前
小児看護学実習 IA 小児看護学実習 IB　2 科目から 1 単位履修すること 小児看護学実習 IIA 小児看護学実習 IIB　2 科目から 1 単位履修すること	3 後 4 前 3 後 4 前	小児看護学概論	2 前
		小児看護方法論 I	2 後
		小児看護方法論 II	3 前
母性看護学実習 A 母性看護学実習 B　2 科目から 2 単位履修すること	3 後 4 前	母性看護学概論	2 前
		母性看護方法論 I	2 後
		母性看護方法論 II	3 前
精神看護学実習 A 精神看護学実習 B　2 科目から 2 単位履修すること	3 後 4 前	精神看護学概論	2 前
		精神看護方法論 I	2 後
		精神看護方法論 II	3 前
※　保健師課程を選択した者のみ 公衆衛生看護学実習 I 公衆衛生看護学実習 II 公衆衛生看護学実習 III	4 通	公衆衛生看護学概論	1 後
		公衆衛生看護学 I	2 後
		公衆衛生看護学 II	3 前
		公衆衛生看護方法論	3 前
		公衆衛生看護管理論	3 前
		保健医療福祉行政論	3 前
		産業保健学	3 前
		学校保健学	3 前
統合看護実習 A 統合看護実習 B　2 科目から 2 単位履修すること	4 前 4 後	看護管理学 I	3 前
		チーム医療論	3 前

東北文化学園大学医療福祉学部看護学科における保健師課程の履修に関する細則

┌平成 26 年 3 月 5 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 13 条の規定に基づき、東北文化学園大学医療福祉学部看護学科に在籍する学生の、保健師の国家資格の受験資格を取得するための課程（以下「保健師課程」という。）の履修に関する取扱いについて定めるものとする。

（履修者数）

第 2 条　保健師課程の履修者数は、30 人を上限とする。

（履修者の選考及び履修要件）

第 3 条　保健師課程の履修を希望する者（以下「履修希望者」という。）は、2 年次前期末の指定された期間に履修を申出るものとする。

2　看護学科長は、履修希望者に対して、2 年次後期末までに保健師課程選抜試験を行うものとする。

3　履修希望者は、東北文化学園大学医療福祉学部看護学科における進級及び臨地実習の履修に関する細則第 3 条に定める 2 年次から 3 年次への進級要件を満たしていなければならない。なお、選考の際、「公衆衛生看護学概論」の成績を特に重視するものとする。

（履修者の決定）

第 4 条　前条の選考に基づき、履修者判定会議に諮り、医療福祉学部長が履修者を決定するものとする。

2　履修者判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　看護学科長

⑵　公衆衛生看護学担当教員

⑶　その他看護学科長が必要と認める者　若干人

附　　則

この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行し、平成 26 年度入学者から適用する。

東北文化学園大学医療福祉学部看護学科における履修登録単位数の上限に関する細則

┌平成 26 年 3 月 12 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 5 条の 2 の規定に基づき、東北文化学園大学医療福祉学部看護学科に在籍する学生の履修登録できる単位数の上限について定めるものとする。

（対象科目）

第 2 条　学生の履修登録の上限単位数の対象となる授業科目は、卒業の要件として履修する授業科目とする。ただし、基礎科目の「海外研修」「海外語学研修」は、対象科目から除くことができる。

（履修登録上限単位数）

第 3 条　看護学科における 1 年間の履修登録の上限単位数は、49 単位とする。

（履修登録単位数の特例）

第 4 条　学部長は、次の各号に該当する学生に対して、前条に定める履修登録単位数の上限を超えて履修を認めることができる。

⑴　前年度の GPA が 3.0 以上の学生

⑵　保健師課程の学生

2　上限を超えて履修を認める単位数は、4 単位以内とする。

（雑則）

第 5 条　この細則に定めるもののほか、授業科目の履修登録の上限に関し必要な事項は、医療福祉学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第 6 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　　則

この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行し、平成 26 年度入学者から適用する。

附　　則

この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行し、平成 31 年度入学者から適用する。

ただし、平成 30 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、2020 年 4 月 1 日から施行し、2020 年度入学者から適用する。ただし、2019 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(3)　保健福祉学科

1)　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

保健福祉専攻

1.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・保健医療福祉に関する専門的知識と人を理解するための幅広い教養を有している。

「思考・判断」

・保健福祉に関する専門的知識に根差した思考と判断ができる。

「技能・表現」

・福祉社会における諸問題の動向に関心を持ち、福祉的教養と高い専門性を身につけた職業人として、人々のよりよい暮らし（well-being）のために地域貢献できる力を身につけている。

「関心・意欲・態度」

・様々な状況下において、多様なニーズに応えていく柔軟さを持つことができる。

2.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

「知識・理解」

・大学で学ぶ上での基礎学力を有している人。

「思考・判断」

・社会の出来事や人々の悩みなどについて広く考えることができる人。

「技能・表現」

・他者との交流を通して多くのコミュニケーションを図ることができる人。

「関心・意欲」

・社会における多面的な課題に対し、立場の異なる人々と協働して地域に貢献しようとしている人。

「態度」

・豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を高めようとしている人。

求める学習経験

・すべての教科に熱心に取り組んできた人。

・部活動やボランティア活動（見学は除く）に積極的に取り組んできた人。

3.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーを踏まえ、教育課程を編成し実施する。

「基礎科目」

・専門職としてのスキルだけでなく、人間性を高められるような教養科目の履修を促す。

「専門科目」

・ソーシャルワーカー養成における科目群を設定し、高度な知識・技術を修得できるよう配置する。

・学内での講義・演習・実技が、学外実習において理解が深められるよう効果的に科目を配置する。

・臨床に役立つ専門性を高める科目を設定し、履修を促す。

2)　教育目標と専攻の特徴

【教育目標】

「保健福祉」を学ぶとはどういうことでしょうか？

人口構造における少子高齢化の急激な進行、家族形態の多様化、経済状態の不安定による格差社会の進行、地震･津波による自然災害への恐れ、原子力発電所事故をめぐる社会不安の増大など、近年わが国は、大きなリスクを抱えた社会になっています。

こうした社会情勢の中で、人々の心身の健康と生活を守ろうとするのが「保健福祉」です。したがって「保健福祉」を学ぶということは、いかにすれば人々の健康が守れるのか、いかにすれば人々の幸福な生活や未来が作れるのか、それを知り実践するための方法を学ぶということになります。この学びを進めていくうえでたくさんの課題が出てきます。経済状況と人々の生活がいかに結びつくのか。社会の仕組みは、

人々の健康とどのように関わっているのか。少子高齢化社会が、高齢者や障がいを持つ人、子どもたちにどんな変化をもたらすのか。社会不安が人々の心や精神衛生にどんな影響をもたらすのか、などなど。そして、このような課題についての学びを基盤として、私たちが今生きているこの社会が、少しでもすべての人に優しい社会になれるように、私たち自身が何をなし得るかということを知ることが大切です。

「保健福祉」という学問は、時代の傍観者でいるための学問ではありません。「保健福祉」は、人々の健康を守るために私たちができること、人々の生活不安を取り除いていくために私たちができること、そのための術（すべ）を身につけ、実践者として育っていくことを求める学問です。したがって、実践者としてのソーシャルワーカー、実践者としての介護福祉士、心や身体の健康を守るための実践的専門職者を育てたいと考えます。一般企業へ就職したとしても、働く人々の心や身体の健康を守ることを視野にいれた仕事ができます。つまり、「保健福祉」の学びが活かされるフィールドに限定はないのです。

学生の皆さんには、何よりも人と関わる力を身につけて欲しいと考えます。授業のみでなく、サークルや日常の生活においても、そうした力を身につける機会はたくさんあります。決して受身にならず、さまざまな学生生活の場面で積極的に人と関わり、お互いが影響し合い、大きく成長して欲しいと考えています。同時に、世の中で起こるさまざまな出来事に対して、深く洞察する力もまた身につけて欲しいと考えます。たくさんの本を読むこと、たくさんの出来事に直面すること、たくさんの経験をすることを通して、たくさんの「なぜ?」を抱え、さらにはその「なぜ?」を考える幅広い視野を学んでほしいのです。そのために、保健福祉学科では 1、2 年次の基礎演習、3、4 年次の専門セミナーや卒業研究という少人数で、学生と教員が共に学び合う教育活動を重視しています。

なお、保健福祉学科では、国家資格である社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の受験資格を得ることが可能です。学年の進行に伴い自分自身の志向を見極める中で、国家資格の必要性を考えてください。何よりも、国家資格は卒業後の職業選択に大きく関わります。広く学び、目的を持って学び、さらに職業を射程に入れて学んでいく、そんな学生生活を送られることを期待しています。

【保健福祉専攻の特徴】

保健福祉専攻は社会福祉士・精神保健福祉士の取得を想定した保健福祉領域のスペシャリスト養成を目標としています。また、上記 2 つの国家試験指定科目だけでなく、「臨床福祉系」「心理学系」「健康スポーツ系」の各科目群が充実しており、各自が興味関心のある分野について、さらに専門性を深めることができます。つまり、単に国家資格取得を目指すのではなく、より高度な専門性を備えた専門職を目指すということになります。例えば「臨床福祉」の科目群では医療や福祉の制度やサービス等を幅広く学び、クライエントを支援するための方法や技術を身につけます。「健康スポーツ」では健康増進の理論と実践、介護予防や障がい者スポーツに関すること、「心理学」では心のはたらきや環境と心の関係を、より専門的に学ぶことになります。ただし、各国家資格や協会認定資格、任用資格など様々な資格取得に関しては、それぞれ詳細な規定がありますので、科目履修においてはその点を十分に注意してください。

3）　保健福祉学科のカリキュラムの特徴・カリキュラムツリー（別頁）

保健福祉学科のカリキュラムは、基礎科目、専門科目という 2 つの科目群で構成されています。

【基礎科目】

広く社会を理解するための教養科目と、グローバルなコミュニケーション力を高めるための外国語や海外研修、心身の健康を図るための健康スポーツ実習などの科目群で構成されています。現代国語表現、情報処理、総合福祉、英語Ⅰ、健康スポーツ実習の 5 科目が必修ですが、それ以外の科目はそれぞれの関心に応じて自由に選択し、基礎的な教養を深めることができるようになっています。

【専門科目】

全ての専攻に共通する専門科目群として、基礎演習Ⅰ、基礎演習Ⅱ、保健福祉セミナーⅠ、保健福祉セミナーⅡ、及び卒業研究の 5 科目が必修となっています。いずれも少人数で学生が主体的に学習を進めることを目的としています。

以下に、各専攻に設けられている【専門科目】を紹介します。

○保健福祉専攻

保健福祉専攻における【専門科目】には、**福祉士養成共通科目、社会福祉士養成専門科目、精神保健福祉士養成専門科目、臨床福祉系科目、心理学系科目、健康スポーツ系科目、共通科目**の 7 つの科目群が配置されています。臨床福祉系、心理学系、健康スポーツ系の 3 科目群については、各自の興味関心に応じて体系的に履修することで、臨床福祉、心理学、健康スポーツに関する各領域を専門的に学ぶこ

保健福祉専攻カリキュラムツリー

保健福祉専攻のDP
1)「知識・理解」・保健医療福祉に関する専門的知識と人を理解するための幅広い教養を有する。
2)「思考・判断」・保健福祉に関する専門的知識に根差した思考と判断ができる。
3)「技能・表現」・福祉社会における諸問題の動向に関心を持ち、福祉的教養と高い専門職性を身に付けた職業人として、人々のよりよい暮らし(well-being)のために地域貢献できる。
4)「関心・意欲・(態度)」・様々な状況下において、多様なニーズに応えていく柔軟さを持つことができる。

具体的な人材像⇒

さまざまな領域で、クライエント(要援助者)が自身の課題に主体的に取り組むことを支援するソーシャルワーカー。クライエントだけでなく、クライエントを取り巻く環境や社会に対して、保健・医療・福祉に関する専門的な知識や技術を臨機応変に統合して用いることが出来る。その際に、必要に応じて他の専門職や関係者間の調整を行い、適切な連携を図ることが出来る。

高いコミュニケーション能力と顧客ニーズを大切にする福祉マインドをもった職業人として,幅広い分野で活躍できる。

福祉サービスの利用者に心理学的知識を持って接し、相手の心理的な側面への多面的な配慮と理解ができる社会福祉士、あるいは福祉専門職(たとえば、福祉専門職に従事しつつも心理検査の解釈ができる、利用者の心理特性をアセスメントできるなど)

福祉的な視点を備えた健康スポーツ系指導者として、幅広い実技能力と、個人または集団に合わせた運動指導技術をもつ。介護予防や健康増進分野で活躍することが期待される。

進路例⇒

医療ソーシャルワーカー
各種福祉施設の相談員
公務員(福祉職)
社会福祉協議会の職員
地域包括支援センターのソーシャルワーカー

一般企業のビジネスパーソン
農協や郵便局の職員
自治体の公務員

国家および地方公務員(心理職)
児童相談所や精神保健センター等の心理相談員,心理系大学院への進学

健康運動実践指導者
スポーツインストラクター

	達成目標	実習科目	演習科目	社会福祉士養成専門科目	精神保健福祉士養成専門科目	福祉士養成共通科目	専門共通科目	臨床福祉系科目	心理学系科目	健康スポーツ系科目
4年後期	知識と技術を統合する 現場における実習で学び,実習後はその体験を深く考察して理解を深める	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	ソーシャルワーク演習Ⅴ 精神保健福祉援助演習Ⅱ	福祉経営論 司法福祉論		権利擁護と成年後見	卒業研究 保健福祉特別講義Ⅰ・Ⅱ 専門研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			
4年前期		ソーシャルワーク実習 ・ 精神保健福祉援助実習A (精神保健福祉援助実習B)								
3年後期	専門職としての方法論を修得する 相談援助職として求められる知識, 技術を修得する	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	ソーシャルワーク演習Ⅳ 精神保健福祉援助演習Ⅰ	ソーシャルワーク論Ⅳ 社会福祉調査論	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ 精神障害者の生活支援システム	地域福祉方法論 公的扶助論	保健福祉セミナーⅡ 専門職連携セミナー 地域連携演習	ケアの原理と方法 ケアマネジメント論 医療政策論	心理検査法 カウンセリング 福祉心理学	介護予防実習
3年前期		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	ソーシャルワーク演習Ⅲ	ソーシャルワーク論Ⅲ 就労支援サービス論	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	福祉行財政と福祉計画 地域福祉論	保健福祉セミナーⅠ 企業福祉論 専門職連携セミナー	子ども家庭支援論 リハビリテーション論 医療福祉論ほか	神経心理学 臨床心理学	介護予防論
2年後期	各援助対象者と制度について学ぶ 社会福祉の対象となる人々や制度を理解する		ソーシャルワーク演習Ⅱ	ソーシャルワーク論Ⅱ 高齢者総合支援論 子ども家庭福祉論	精神保健学Ⅱ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	社会保障論Ⅱ 保健医療サービス論	基礎演習Ⅱ 生きがい情報総論	生活支援工学 障害者支援論 医療倫理学	認知心理学 障害者心理学 社会心理学ほか	運動行動科学 ストレッチ・トレーニング 救命救急学ほか
2年前期			ソーシャルワーク演習Ⅰ	ソーシャルワーク論Ⅰ 高齢者福祉論	精神保健学Ⅰ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	障害者福祉論 社会保障論Ⅰ			教育心理学 学習心理学 健康心理学ほか	健康運動科学 水泳・水中運動 アダプテッド・スポーツ科学ほか
1年後期	対人援助の専門職について学ぶ 基礎, 教養を身に付け,社会福祉の価値を学び,考察する力を養う			相談援助の基盤と専門職Ⅱ	精神科ソーシャルワーク論 精神医学Ⅱ	心理学 社会学 社会福祉の政策	基礎演習Ⅰ			運動障害と予防 レクリエーション理論 アダプテッド・スポーツ論ほか
1年前期				相談援助の基盤と専門職Ⅰ	精神医学Ⅰ	現代社会と福祉 人体の構造と機能及び疾病				アダプテッド・スポーツ基礎実習 夏季野外活動実習

現代国語表現・総合福祉・情報処理・英語Ⅰ・健康スポーツ実習
＊生命倫理・法学概論等

とができます。また、各科目群には取得可能な資格と連動している科目も含まれています（詳しくは**8〜10**）**取得可能資格**を参照してください）。

福祉士養成共通科目は、社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格を得るために必要な共通科目群であり、**社会福祉士養成専門科目**及び**精神保健福祉士養成専門科目**は、福祉士養成共通科目以外の、社会福祉士や精神保健福祉士の各国家試験の受験資格取得にそれぞれ必要な科目群です。すなわち、社会福祉士を目指す学生は福祉士養成共通科目と社会福祉士養成専門科目を、精神保健福祉士を目指す学生は福祉士養成共通科目、社会福祉士養成専門科目、及び精神保健福祉士養成専門科目のすべてを履修する必要があります。

臨床福祉系科目は、福祉専門職として高度な専門性を身につけるために不可欠な、福祉士養成共通科目・社会福祉士養成専門科目・精神保健福祉士養成専門科目に含まれる科目以外の、専門的な科目群で構成されています。福祉専門職を目指す学生は、社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験の必要な科目に加えて、これらの臨床福祉系科目を重点的に履修することが求められます。

心理学系科目では、人間の心理全般についてより高度な知識を身につけます。目標は、福祉施設や相談機関などにおいて、利用者の心理的な側面に対応できる専門家を養成することにあります。

健康スポーツ系科目では、健康科学に裏づけされた健康運動実践指導や障がい者スポーツ、レクリエーション指導などに関わる科目を学び、高齢社会への対応として重要な生活習慣病予防や介護予防、健康・生きがいづくりなどを担いうる専門家を養成することを目指しています。そのため健康運動実践指導者、レクリエーション・インストラクター、パラスポーツ指導者の資格取得が可能なカリキュラムになっています。

4）　就職活動支援について

就職活動は、主としてキャリアサポートセンターを窓口に行います。全学と学科の就職委員会では、キャリアサポートセンターとともに就職活動支援の方策を立て、求人情報の提供をはじめとして各種の取り組みにより学生の就職活動を応援しています。また、学科では、卒業研究の担当教員を通して個別の学生への就職指導にも努めています。

就職活動では、早い時期から自分の進路を定め、福祉施設職員、公務員、一般企業勤務などの就職希望を明確にし、準備を進めるなど積極的な活動をすることが重要です。その支援のため、早い時期から各種の就職ガイダンスを行います。

将来の仕事として目指すのは次のようなものです。また、福祉の知識、技術を活かして、一般企業への就職も可能です。

・老人福祉施設、障がい者福祉施設などの介護職員、生活指導員、生活相談員等
・病院・診療所など医療施設の医療ソーシャルワーカー（MSW）、精神科ソーシャルワーカー（PSW）
・児童福祉施設などの児童指導員等
・福祉事務所や社会福祉協議会のソーシャルワーカー、コミュニティーワーカー
・地域包括支援センターの社会福祉士等
・福祉サービス企業の専門職
・公務員（一般行政、警察、消防等）
・各種団体、NPO などの職員

5）　取得可能資格［任用資格］

任用資格とは、その職種（福祉行政やその他の関連領域）に就くために求められる国が定めた資格基準のことです。国の定めたそれぞれの任用資格の基準（指定された科目の履修など）を満たしていれば、有資格者として認められます。

これは、該当する職種として採用されると効力を持ち、在職期間に限って適用されるものです。一般的には、その内容は、卒業証明書や成績証明書で確認されるので、それに関する特別な試験や資格証明書が発行されるものではありません。

保健福祉学科では、社会福祉士国家試験受験資格を得て卒業することで以下の任用資格をすべて取得できます。また、指定科目を履修し、単位を取得することで、社会福祉主事任用資格、身体障害者福祉司任用資格、知的障害者福祉司任用資格、児童指導員任用資格、家庭相談員に求められる基準を得ることができます。

【社会福祉主事任用資格】
　社会福祉主事とは、福祉事務所現業員として任用される者に要求される資格（任用資格）です。社会福祉施設職員等の資格にも準用されています。福祉六法に基づいて、各種行政機関で保護・援助を必要とする人のために相談・指導・援助を行います。
【身体障害者福祉司任用資格】
　身体障害者福祉司とは　身体障害者更生相談所や福祉事務所などで、身体障がい者の相談・調査・更生援護の要否や種類の判断、本人への指導等を行います。身体に障がいのある方へ、社会進出のために必要な情報を提供し、生活の実情を調査した上で、社会的な自立も促します。
【知的障害者福祉司任用資格】
　知的障害者福祉司は、知的障害者の福祉に関する相談を受付けたり、日常生活などの指導を行います。なかでも所内の相談員やケースワーカーでは対応しきれない難しいケースや、施設入所等に関する仕事に従事します。
【児童指導員任用資格】
　児童指導員とは、児童福祉施設で生活する子どもたちを、保護者に代わって援助、育成、指導するのが主な仕事です。公務員として、または私営の児童福祉施設に採用後、児童相談員に任用される際に必要な資格であり、ほとんどの児童養護指導者に求められます。

6）　取得可能資格［団体認定資格］

　国家資格のほかに団体認定の資格を取得することができます。
【レクリエーション・インストラクター】
1.　レクリエーション・インストラクターについて
　本資格は、財団法人日本レクリエーション協会公認指導者資格の一つです。福祉現場はもとより、様々な場面における遊びのメニューと技術を有し、楽しさの体験を多くの方々に提供できる人材となります。人と人との楽しい交流促進や、楽しさに主眼を置いた技術指導の方法を学んでいることも特色です。「レクリエーション」という世界に興味・関心を持ち、指導者を目指す方にとって入門的な資格です。
2.　資格取得認定校について
　財団法人日本レクリエーション協会制定公認指導者認定規程に基づき、大学・短期大学・専門学校等の高等教育機関において、財団法人日本レクリエーション協会が定めるカリキュラムと担当教員によって、日本レクリエーション協会公認指導者養成を行う講座を開講している課程を認可された学校を「財団法人日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校」（略称：課程認定校）と称します。課程認定校において、資格取得に必要な理論・実技・現場実習の単位を取得した場合、レクリエーション・インストラクターとして資格を申請し、取得することができます。本学もこの認定校となっています。
3.　履修方法
　本資格を取得するためには、次の科目を全て履修し、単位取得する必要があります。
●レクリエーション・インストラクター資格に必要な科目

本学開設科目名	単位	開講時期	選択・必修の別
レクリエーション理論	2	1 年後期	選択科目
レクリエーション実技 I	1	2 年前期	選択科目
レクリエーション実技 II	1	2 年後期	選択科目
レクリエーション現場実習	1	2 年通年	選択科目
・夏季野外活動実習	1	1 年前期	選択科目
・ソーシャルワーク実習	4	4 年前期	選択科目
・介護予防実習	1	3 年後期	選択科目

※「・」の 3 科目のうち 1 教科を選択
4.　その他、履修することが望ましい科目

本学開設科目名	単位	開講時期	選択・必修の別
冬季野外活動実習	1	1 年後期	選択科目

5.　レクリエーション現場実習について

本実習は、日本レクリエーション協会、都道府県レクリエーション協会、市区町村レクリエーション協会加盟種目団体等の関係する事業（主催、後援、協賛、協力、主管など）への参加をもって単位取得とみなします。具体的には、課程認定校交流会、レクリエーション大会、スポレク大会、市民レクのつどい、ニュースポーツ大会などです。

6.　資格申請の手続きについて

資格取得に必要な理論・実技・現場実習の単位を取得した学生については、学内審査を行い、その合格をもって資格申請が可能になります。申請希望者については課程認定校（大学）がまとめて申請手続きを行います。資格取得時期は 4 年後期となります。

7.　新規に申請手続きをする際は、登録料 16,000 円、消費税 1,600 円の合計 17,600 円を納める必要があります。

【パラスポーツ指導者】

1.　パラスポーツ指導者について

公益財団法人日本パラスポーツ協会は、障がい者のスポーツの普及と発展をめざし、障がい者のスポーツ環境を構築する上で必要な人材の育成を行うために、「公益財団法人日本パラスポーツ協会資格認定制度」を制定しています。

パラスポーツ指導者の種類、役割と資格取得条件を以下に示します。いずれも多様な障がい者のスポーツ活動に対応するため、福祉・医療・体育学・障がい者スポーツ独自の知識を活かし、障がい者スポーツ活動の援助を行いながら安全に指導し、スポーツを通じて生活の質の向上等に寄与することを責務としています。地域における障がい者の社会参加の手段としてますますニーズが高まることが予想されることから、福祉・医療に従事する上では欠かすことのできない資格として捉えられています。

○初級パラスポーツ指導員

地域で活動する 18 歳以上の指導者で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者。また、障がいの基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視した指導ができる者。さらに、地域の大会や行事に参加すると共に、指導者組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支える者（本学においては、保健福祉学科保健福祉専攻の学生で所定の科目の単位を取得した者）。

特定の競技の専門的知識、指導技術と豊富な経験を持ち、障がいのある競技者の強化を進めるとともに、パラリンピック等の国際大会に参加する選手団の監督、コーチとして活動する者。また、競技団体のスタッフ育成、組織化や選手強化のマネジメントなどを担う者。

2.　資格取得認定校について

公益財団法人日本パラスポーツ協会資格認定制度に基づき、申請によって資格取得を認定された学校（学校教育法に基づく大学・短期大学並びに専門課程を置く専修学校）のうち、修業年限 4 年以上の学校において、初級パラスポーツ指導員の資格取得に必要な講習内容を含む科目の単位を取得したものとみなされます。本学は認定校になっています。

3.　履修方法

本学在学中に資格を取得するためには、次の科目をすべて履修し、単位を取得しなければなりません。

初級パラスポーツ指導員資格に必要な科目

2015 年度以降の入学者用

本学開設科目名	単位	開講時期	選択・必修の別
アダプテッド・スポーツ論	2	1 年後期	選択科目
アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	1 年前期	選択科目

○その他、大学が認定する障がい者関連の各種事業

4.　資格申請の手続きについて

○初級パラスポーツ指導員の資格取得は「卒業」を要件とし、卒業が確定した後、60 日以内に資格取得希望者を大学がまとめて申請手続きをします。

○新規に申請手続きをする際は、申請・認定料 5,500 円および登録料 3,800 円を納める必要があります。登録料は、毎年納めます。初級パラスポーツ指導員資格所持者が中級パラスポーツ指導員へ昇級する

際は、認定料と申請料（5,500 円）を納める必要があります。

7）　進級要件等

保健福祉学科には、進級に関する細則および精神保健福祉援助実習の履修に関する細則があります。必ず読むようにしてください。

・東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科における進級に関する細則（別頁）
・東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科保健福祉専攻における精神保健福祉援助実習の履修に関する細則（別頁）

8）　カリキュラム配置図（別頁）

9）　授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表（別頁）

任用資格指定科目の読替表

1　社会福祉主事（以下のうち 3 科目以上履修していること）

厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目	保健福祉学科開講科目名 （2009 年度入学生～）
社会福祉概論	現代社会と福祉 社会福祉の政策 ＊
社会福祉事業史	
社会福祉援助技術論	相談援助の基盤と専門職Ⅰ 相談援助の基盤と専門職Ⅱ ＊
社会福祉調査論	社会福祉調査論
社会福祉施設経営論	福祉経営論
社会福祉行政論	福祉行財政と福祉計画
社会保障論	社会保障論Ⅰ 社会保障論Ⅱ ＊
公的扶助論	公的扶助論
児童福祉論	子ども家庭福祉論 子ども家庭支援論　のうちいずれか
家庭福祉論	
保育理論	
身体障害者福祉論	障害者福祉論 障害者支援論　のうちいずれか
知的障害者福祉論	
精神障害者保健福祉論	精神保健学Ⅰ 精神保健学Ⅱ ＊
老人福祉論	高齢者福祉論 高齢者総合支援論 ＊
医療社会事業論	医療福祉論
地域福祉論	地域福祉論 地域福祉方法論 ＊
法学	法学概論
民法	
行政法	
経済学	経済学概論
社会政策	
経済政策	
心理学	心理学概論 心理学　　のいずれか
社会学	社会学概論 社会学　　のいずれか
教育学	教育学
倫理学	生命倫理学 医療倫理学　のうちいずれか
公衆衛生学	
医学一般	人体の構造と機能及び疾病
リハビリテーション論	リハビリテーション論
看護学	
介護概論	介護の基本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（すべて）
栄養学	
家政学	

*2 科目履修することで、認定基準を満たす。

2　身体障害者福祉司

厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目	保健福祉学科開講科目名 （2009 年度入学生～）
社会事業概論	現代社会と福祉 社会福祉の政策 } ＊
社会事業史	
社会事業施設論	ソーシャルワーク論 II ソーシャルワーク論 IV } ＊
社会事業行政	社会保障論 I 社会保障論 II } ＊
社会事業の方法	相談援助の基盤と専門職 II ソーシャルワーク論 I } ＊
ケースワーク	
グループワーク	
コミュニティオーガニゼイション	地域福祉論
社会立法	法学概論
社会政策	社会保障論 I 社会保障論 II } ＊
社会病理または社会問題	社会学概論
社会調査	社会福祉調査論
社会統計	社会福祉調査論
社会衛生	現代社会と福祉
精神衛生	心理学概論
身体障害者の心理	障害者福祉論 障害者支援論 } ＊
社会教育	教育学
法学	法学概論
職業指導	障害者福祉論 障害者支援論 } ＊
補装具知識	生活支援工学、リハビリテーション論のいずれか 1 科目を履修済みのこと

*2 科目履修することで、認定基準を満たす。

3　知的障害者福祉司

大学で厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目	保健福祉学科開講科目名 （2009 年度入学生～）
	現代社会と福祉 社会福祉の政策 } ＊
	相談援助の基盤と専門職 II ソーシャルワーク論 I } ＊
	ソーシャルワーク論 II ソーシャルワーク論 IV } ＊
	障害者福祉論 障害者支援論 } ＊

*2 科目履修することで、認定基準を満たす。

医療福祉学部　保健福祉学科　保健福祉専攻　カリキュラム配置図〈2020 年度以降　入学者用〉

		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者		ボランティア探求					
		生命を考える	生命を考える						
		人間文化探求							
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		地域活動・ボランティア							
		現代社会を視る	現代社会を視る						
	一般科目	英語 I		英語 II					
		現代国語表現							
		総合福祉							
		情報処理							
		健康スポーツ実習							
		中国語							
		韓国語							
		海外研修		海外研修		海外研修		海外研修	
		現代史	地域文化論						
		文化人類学	教育学						
		心理学概論	生命倫理学						
		哲学	憲法						
		コミュニケーション論	統計・解析						
		経済学概論	ボランティア論						
		政治学							
		法学概論							
		社会学概論							
		環境科学							
		基礎生物学							
		健康科学							
		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期

必　修

選　択

医療福祉学部　保健福祉学科　保健福祉専攻　カリキュラム配置図〈2020 年度以降　入学者用〉

		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期
専門科目	福祉士養成共通科目	人体の構造と機能及び疾病 現代社会と福祉 社会学	心理学 社会福祉の政策	障害者福祉論 社会保障論Ⅰ	保健医療サービス論 社会保障論Ⅱ	福祉行財政と福祉計画 地域福祉論	公的扶助論 地域福祉方法論		権利擁護と成年後見
	社会福祉士養成専門科目	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	ソーシャルワーク論Ⅰ 高齢者福祉論 ソーシャルワーク演習Ⅰ	ソーシャルワーク論Ⅱ 高齢者総合支援論 ソーシャルワーク演習Ⅱ 子ども家庭福祉論	ソーシャルワーク論Ⅲ 就労支援サービス論 ソーシャルワーク演習Ⅲ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	ソーシャルワーク論Ⅳ 社会福祉調査論 ソーシャルワーク演習Ⅳ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク演習Ⅴ 福祉経営論 司法福祉論
	精神保健福祉士養成専門科目	精神医学Ⅰ	精神医学Ⅱ 精神科ソーシャルワーク論	精神保健学Ⅰ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	精神保健学Ⅱ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	精神保健福祉援助演習Ⅰ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 精神障害者の生活支援システム	精神保健福祉援助演習Ⅱ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 精神保健福祉援助実習Ａ 精神保健福祉援助実習Ｂ	
	臨床福祉系科目				生活支援工学 障害者支援論 医療倫理学	子ども家庭支援論 リハビリテーション論 医療福祉論 スクールソーシャルワーク論	医療福祉マネジメント論 ケアの原理と方法 ケアマネジメント論 医療政策論		
	心理学系科目		生涯発達心理学	人格心理学 健康心理学 心理学研究法	障害者心理学 社会心理学	心理学基礎実験Ⅰ 臨床心理学 福祉心理学	心理学基礎実験Ⅱ カウンセリング		
	健康スポーツ系科目	アダプテッド・スポーツ基礎実習 夏季野外活動実習	運動障害と予防 冬季野外活動実習 エアロビック運動論 エアロビックダンス アダプテッド・スポーツ論 レクリエーション理論	レクリエーション現場実習 健康運動科学 健康運動処方論 水泳・水中運動 ジョギング・ウォーキング アダプテッド・スポーツ科学 レクリエーション実技Ⅰ	健康運動栄養学 運動行動科学 ストレッチング・トレーニング 体力測定評価 救命救急学 アダプテッド・スポーツ応用実習 レクリエーション実技Ⅱ	介護予防論	介護予防実習		
	共通科目	基礎演習Ⅰ		基礎演習Ⅱ 生きがい情報総論		専門職連携セミナー 保健福祉セミナーⅠ 企業福祉論	保健福祉セミナーⅡ 地域連携演習	専門職連携セミナー 卒業研究	保健福祉特別講義Ⅰ 保健福祉特別講義Ⅱ 専門研究Ⅰ 専門研究Ⅱ 専門研究Ⅲ
		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期

必　修
選　択

2020 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［保健福祉学科・保健福祉専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	06	01	1	20	1	1通		3		選択科目６科目から２単位以上修得すること。
		生命を考える	1	06	01	1	20	2	1前・1後		2		
		人間文化探求	1	06	01	1	20	3	1通		2		
		生活の中の科学	1	06	01	1	20	4	1前・1後		2		
		地域活動・ボランティア	1	06	01	1	20	5	1通		2		
		現代社会を視る	1	06	01	1	20	6	1前・1後		2		
		ボランティア探求	1	06	01	2	20	7	2通		2		
	一般科目	現代史	1	06	02	1	20	8	1前		2		
		文化人類学	1	06	02	1	20	9	1前		2		
		地域文化論	1	06	02	1	20	10	1後		2		
		現代国語表現	1	06	02	1	20	11	1前	2			
		心理学概論	1	06	02	1	20	12	1前		2		
		哲学	1	06	02	1	20	13	1前		2		
		教育学	1	06	02	1	20	14	1後		2		
		生命倫理学	1	06	02	1	20	15	1後		2		
		コミュニケーション論	1	06	02	1	20	16	1前		2		
		経済学概論	1	06	02	1	20	17	1前		2		
		政治学	1	06	02	1	20	18	1前		2		
		憲法	1	06	02	1	20	19	1後		2		
		法学概論	1	06	02	1	20	20	1前		2		
		社会学概論	1	06	02	1	20	21	1前		2		
		統計・解析	1	06	02	1	20	22	1後		2		
		環境科学	1	06	02	1	20	23	1前		2		
		基礎生物学	1	06	02	1	20	24	1前		2		
		総合福祉	1	06	02	1	20	25	1前	2			
		ボランティア論	1	06	02	1	20	26	1後		2		
		情報処理	1	06	02	1	20	27	1前	2			
		英語Ⅰ	1	06	02	1	20	28	1通	2			
		英語Ⅱ	1	06	02	2	20	29	2通		2		
		中国語	1	06	02	1	20	30	1通		2		
		韓国語	1	06	02	1	20	31	1通		2		
		海外研修	1	06	02	1	20	32	1通		2		
		健康科学	1	06	02	1	20	33	1前		2		
		健康スポーツ実習	1	06	02	1	20	34	1前	1			
	基礎科目の合計									9	59	0	29単位以上修得すること。
専門科目	福祉士養成共通科目	人体の構造と機能及び疾病	1	06	04	1	20	35	1前		2		
		心理学	1	06	04	1	20	36	1後		2		
		社会学	1	06	04	1	20	37	1前		2		
		現代社会と福祉	1	06	04	1	20	38	1前		2		
		社会福祉の政策	1	06	04	1	20	39	1後		2		
		障害者福祉論	1	06	04	2	20	40	2前		2		
		社会保障論Ⅰ	1	06	04	2	20	41	2前		2		
		社会保障論Ⅱ	1	06	04	2	20	42	2後		2		
		保健医療サービス論	1	06	04	2	20	43	2後		2		
		福祉行財政と福祉計画	1	06	04	3	20	44	3前		2		
		地域福祉論	1	06	04	3	20	45	3前		2		
		地域福祉方法論	1	06	04	3	20	46	3後		2		
		公的扶助論	1	06	04	3	20	47	3後		2		
		権利擁護と成年後見	1	06	04	4	20	48	4後		2		
	社会福祉士養成専門科目	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1	06	04	1	20	49	1前		2		
		相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1	06	04	1	20	50	1後		2		
		ソーシャルワーク論Ⅰ	1	06	04	2	20	51	2前		2		
		ソーシャルワーク論Ⅱ	1	06	04	2	20	52	2後		2		
		ソーシャルワーク論Ⅲ	1	06	04	3	20	53	3前		2		
		ソーシャルワーク論Ⅳ	1	06	04	3	20	54	3後		2		
		高齢者福祉論	1	06	04	2	20	55	2前		2		
		高齢者総合支援論	1	06	04	2	20	56	2後		2		
		子ども家庭福祉論	1	06	04	2	20	57	2後		2		
		就労支援サービス論	1	06	04	3	20	58	3前		1		
		社会福祉調査論	1	06	04	3	20	59	3後		2		
		福祉経営論	1	06	04	4	20	60	4後		2		
		司法福祉論	1	06	04	4	20	61	4後		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	1	06	04	2	20	62	2前		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	1	06	04	2	20	63	2後		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	1	06	04	3	20	64	3前		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	1	06	04	3	20	65	3後		1		

2020 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［保健福祉学科・保健福祉専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	社会福祉士養成専門科目	ソーシャルワーク演習Ⅴ	1	06	04	4	20	66	4後		1		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	06	04	3	20	67	3前		1		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	06	04	3	20	68	3後		1		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	06	04	4	20	69	4後		1		
		ソーシャルワーク実習	1	06	04	4	20	70	4前		4		
	精神保健福祉士養成専門科目	精神医学Ⅰ	1	06	04	1	20	71	1前		2		
		精神医学Ⅱ	1	06	04	1	20	72	1後		2		
		精神保健学Ⅰ	1	06	04	2	20	73	2前		2		
		精神保健学Ⅱ	1	06	04	2	20	74	2後		2		
		精神科ソーシャルワーク論	1	06	04	1	20	75	1後		2		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	1	06	04	2	20	76	2前		2		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	1	06	04	2	20	77	2後		2		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	1	06	04	3	20	78	3前		2		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	1	06	04	3	20	79	3後		2		
		精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	1	06	04	2	20	80	2前		2		
		精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	1	06	04	2	20	81	2後		2		
		精神障害者の生活支援システム	1	06	04	3	20	82	3後		2		
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	1	06	04	3	20	83	3通		1		
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	1	06	04	4	20	84	4通		1		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	1	06	04	3	20	85	3前		1		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	1	06	04	3	20	86	3後		1		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	1	06	04	4	20	87	4通		1		
		精神保健福祉援助実習Ａ	1	06	04	4	20	88	4通		4		
		精神保健福祉援助実習Ｂ	1	06	04	4	20	89	4通		5		
	臨床福祉系科目	生活支援工学	1	06	04	2	20	90	2後		2		
		障害者支援論	1	06	04	2	20	91	2後		2		
		医療倫理学	1	06	04	2	20	92	2後		2		
		子ども家庭支援論	1	06	04	3	20	93	3前		2		
		リハビリテーション論	1	06	04	3	20	94	3前		2		
		医療福祉論	1	06	04	3	20	95	3前		2		
		スクールソーシャルワーク論	1	06	04	3	20	96	3前		2		
		医療福祉マネジメント論	1	06	04	3	20	97	3後		2		
		ケアの原理と方法	1	06	04	3	20	98	3後		1		
		ケアマネジメント論	1	06	04	3	20	99	3後		2		
		医療政策論	1	06	04	3	20	100	3後		2		
	心理学系科目	生涯発達心理学	1	06	04	1	20	101	1後		2		
		教育心理学	1	06	04	2	20	102	2前		2		
		学習心理学	1	06	04	2	20	103	2前		2		
		人格心理学	1	06	04	2	20	104	2前		2		
		健康心理学	1	06	04	2	20	105	2前		2		
		心理学研究法	1	06	04	2	20	106	2前		2		
		認知心理学	1	06	04	2	20	107	2後		2		
		生理心理学	1	06	04	2	20	108	2後		2		
		障害者心理学	1	06	04	2	20	109	2後		2		
		社会心理学	1	06	04	2	20	110	2後		2		
		心理学基礎実験Ⅰ	1	06	04	3	20	111	3前		2		
		神経心理学	1	06	04	3	20	112	3前		2		
		臨床心理学	1	06	04	3	20	113	3前		2		
		心理検査法	1	06	04	3	20	114	3後		2		
		心理学基礎実験Ⅱ	1	06	04	3	20	115	3後		2		
		カウンセリング	1	06	04	3	20	116	3後		2		
		福祉心理学	1	06	04	3	20	117	3前		2		
	健康スポーツ系科目	健康運動科学	1	06	04	2	20	118	2前		2		
		健康運動栄養学	1	06	04	2	20	119	2後		2		
		健康運動処方論	1	06	04	2	20	120	2前		2		
		運動行動科学	1	06	04	2	20	121	2後		2		
		運動障害と予防	1	06	04	1	20	122	1後		2		
		エアロビック運動論	1	06	04	1	20	123	1後		2		
		エアロビックダンス	1	06	04	1	20	124	1後		1		
		水泳・水中運動	1	06	04	2	20	125	2前		1		
		ジョギング・ウォーキング	1	06	04	2	20	126	2前		1		
		ストレッチング・トレーニング	1	06	04	2	20	127	2後		1		
		体力測定評価	1	06	04	2	20	128	2後		1		
		救命救急学	1	06	04	2	20	129	2後		1		
		アダプテッド・スポーツ論	1	06	04	1	20	130	1後		2		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	06	04	1	20	131	1前		1		
		アダプテッド・スポーツ科学	1	06	04	2	20	132	2前		2		

2020 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
［保健福祉学科・保健福祉専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	健康スポーツ系科目	アダプテッド・スポーツ応用実習	1	06	04	2	20	133	2後		1		
		レクリエーション理論	1	06	04	1	20	134	1後		2		
		レクリエーション実技Ⅰ	1	06	04	2	20	135	2前		1		
		レクリエーション実技Ⅱ	1	06	04	2	20	136	2後		1		
		レクリエーション現場実習	1	06	04	2	20	137	2通		1		
		夏季野外活動実習	1	06	04	1	20	138	1前		1		
		冬季野外活動実習	1	06	04	1	20	139	1後		1		
		介護予防論	1	06	04	3	20	140	3前		2		
		介護予防実習	1	06	04	3	20	141	3後		1		
	共通科目	基礎演習Ⅰ	1	06	04	1	20	142	1通	1			
		基礎演習Ⅱ	1	06	04	2	20	143	2通	1			
		保健福祉セミナーⅠ	1	06	04	3	20	144	3前	2			
		保健福祉セミナーⅡ	1	06	04	3	20	145	3後	2			
		生きがい情報総論	1	06	04	2	20	146	2前		2		
		企業福祉論	1	06	04	3	20	147	3前		2		
		保健福祉特別講義Ⅰ	1	06	04	4	20	148	4後		2		
		保健福祉特別講義Ⅱ	1	06	04	4	20	149	4後		2		
		専門研究Ⅰ	1	06	04	4	20	150	4後		2		
		専門研究Ⅱ	1	06	04	4	20	151	4後		2		
		専門研究Ⅲ	1	06	04	4	20	152	4後		2		
		地域連携演習	1	06	04	3	20	153	3後		2		
		専門職連携セミナー	1	06	04	3	20	154	3・4通		1		
		卒業研究	1	06	04	4	20	155	4通	4			
専門科目の合計										10	208	0	95単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
基礎科目	9	20	29
専門科目	10	85	95
合計	19	105	124

東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科における進級に関する細則

┌平成 18 年 1 月 6 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 9 条の 3 の規定に基づき、東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科に在籍する学生の進級に関する取扱いについて定めるものとする。

（定義）

第 2 条　この細則において「留年」を、次のとおり定義する。

⑴　2 年次から 3 年次への進級が認められなかった場合に、2 年次に留め置くこと。

⑵　所定の修業年限（4 年）を越えて在学すること。

（進級基準)

第 3 条　2 年次から 3 年次への進級基準は、次のとおりとする。

⑴　1 年次配当の「基礎演習Ⅰ」及び 2 年次配当の「基礎演習Ⅱ」を修得していること。

⑵　1、2 年次配当のすべての科目のうち、合計 30 単位以上を修得していること。

（進級の決定）

第 4 条　学生の進級は、進級判定会議及び教授会の議を経て、学長が決定する。

2　進級判定会議において、1、2 年次配当のすべての科目のうち合計 24 単位以上を修得しており、かつ、2 年次終了時の通算 GPA が 2.7 以上の場合は、学修状況等を勘案し、進級を認めることができる。

3　進級判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　保健福祉学科長

⑵　教務委員会委員

⑶　その他保健福祉学科長が必要と認める者　若干人

（留年）

第 5 条　前条第 1 項によって進級が認められなかった学生は、留年とする。

（細則の改廃）

第 6 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　　則

この細則は、平成 18 年 1 月 6 日から施行し、平成 18 年度の入学者から適用する。

附　　則

この細則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附　　則

この細則は、平成 22 年 5 月 12 日から施行する。

附　　則

この細則は、平成 28 年 2 月 3 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附　　則

この細則は、2020 年 9 月 15 日から施行する。

附　　則

この細則は、2021 年 2 月 16 日から施行する。

東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科保健福祉専攻における精神保健福祉士援助実習の履修に関する細則

┌平成 23 年 10 月 5 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 13 条の規定に基づき、東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科保健福祉専攻（以下「保健福祉専攻」という。）に在籍する学生の、精神保健福祉援助実習及びその実習指導に係る科目（精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、精神保健福祉援助実習指導Ⅱ及び精神保健福祉援助実習指導Ⅲ）の履修に関する取扱いについて定めるものとする。

（履修者数）

第 2 条　精神保健福祉援助実習及びその実習指導に係る科目の履修者数は、30 人を上限とする。

（履修者の選考及び履修要件）

第 3 条　精神保健福祉援助実習及びその実習指導に係る科目の履修を希望する者は、2 年次学年末の指定された期間に履修を申出るものとする。なお、履修希望者数が 30 人を超えた場合は、試験等によって選考を行い、医療福祉学部長が履修者を決定するものとする。

2　前項において、履修を希望する者は、原則として、別表に定める授業科目の単位を全て修得しなければならない。

（編入学または転学部等をした者の取扱い）

第 4 条　東北文化学園大学学則第 25 条及び第 25 条の 2 の規定に基づき、保健福祉専攻の 2 年次に編入学または転学部等をした者については、精神保健福祉援助実習及びその実習指導に係る科目の履修を認めることとする。ただし、保健福祉専攻の 3 年次に編入学または転学部等をした者の履修は原則認めない。

附　　則

この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

別　表

授業科目の名称			配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	福祉士養成共通科目	人体の構造と機能及び疾病	1前		2		
		心理学	1後		2		
		社会学	1後		2		
		現代社会と福祉	1前		2		
		社会福祉の政策	1後		2		
		障害者福祉論	2前		2		
		社会保障論Ⅰ	2前		2		
		社会保障論Ⅱ	2後		2		
		保健医療サービス論	2後		2		
	社会福祉士養成専門科目	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1前		2		
		相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1後		2		
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後		1		
	精神保健福祉士養成専門科目	精神医学Ⅰ	1前		2		
		精神医学Ⅱ	1後		2		
		精神保健学Ⅰ	2前		2		
		精神保健学Ⅱ	2後		2		
		精神科ソーシャルワーク論	1後		2		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2前		2		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	2後		2		
		精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	2前		2		
		精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	2後		2		
	共通科目	基礎演習Ⅰ	1通	1			
		基礎演習Ⅱ	2通	1			

東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科における履修登録単位数の上限に関する細則

┌平成 26 年 3 月 12 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 5 条の 2 の規定に基づき、東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科保健福祉専攻及び生活福祉専攻に在籍する学生の履修登録できる単位数の上限について定めるものとする。

（対象科目）

第 2 条　学生の履修登録の上限単位数の対象となる授業科目（以下「対象科目」という。）は、卒業の要件として履修する授業科目（以下「卒業要件科目」という。）とする。ただし、卒業要件科目であって別表に定める科目は、対象科目から除くことができる。

（履修登録上限単位数）

第 3 条　保健福祉専攻及び生活福祉専攻における 1 年間の履修登録の上限単位数は、50 単位とする。

（履修登録単位数の特例）

第 4 条　学部長は、次の各号に該当する学生に対して、前条に定める履修登録単位数の上限を超える履修を認めることができる。

⑴　3 年次編入学生及び 3 年次転学部等学生

⑵　生活福祉専攻 1 年次学生

⑶　前年度の GPA が 3.0 以上の学生

（雑則）

第 5 条　この細則に定めるもののほか、授業科目の履修登録の上限に関し必要な事項は、医療福祉学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第 6 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　　則

この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行し、平成 26 年度入学者から適用する。

附　　則

この細則は、2020 年 4 月 1 日から施行し、2020 年度入学者から適用する。ただし、2019 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別　表

科目名	配当年次	単位数	備考
輝ける者	1通	3	
生命を考える	1前・1後	2	
人間文化探求	1通	2	
生活の中の科学	1前・1後	2	
地域活動・ボランティア	1通	2	
現代社会を視る	1前・1後	2	
ボランティア探求	2通	2	
海外研修	1・2・3・4通	2	

2.　現代社会学部

1）　現代社会学部の学びの基礎

【学びの基礎】

私たちの社会は日々めまぐるしく変化し、さまざまな現象が生じています。人口構造における少子高齢化の急激な進行、家族形態の多様化、不安定な経済状態のもとでの格差社会の進行、地震・津波による自然災害への恐れ、原子力発電所事故をめぐる社会不安の増大など、近年の日本社会は、大きなリスクを抱えています。現代社会学科での学びは、このような社会の現実を見つめることからスタートします。

具体的には、現代社会を理解する視角を獲得し、自己の確立を促す「社会学」と「社会福祉学」をベースに学びます。

現代社会を知る基礎となる二つの学問をもとに、自身の足でフィールド（現場）に出かけ、フィールド（現場）との “対話” をとおして社会について学ぶ礎を築きます。

地域に出て観察し、他者と話すことで、知らなかったこと、想像できなかったことが見えてきます。それが社会を知る手掛かりとなるのです。

社会の何が問題で課題は何か、解決できる方法はなにか、を体験的に考察し、共に生きる社会を構想します。

2）　現代社会学部の教育目標

【教育目標】

現代社会について学ぶということは、いかにすれば人々の健康が守れるのか、いかにすれば人々の幸福な生活や未来が作れるのかといった問いに取り組むことです。学びを進めていくうえでたくさんの課題が出てきます。

経済状況と人々の生活がいかに結びつくのか、社会の仕組みは人々の健康とどのように関わっているのか、少子・高齢社会が、高齢者や障がいをもつ人、子どもたちにどんな変化をもたらすのか、社会不安が人々の心や精神衛生にどんな影響をもたらすのか、まだまだ多くの課題を見出すことができます。

そして、このような課題についての学びを基盤として、私たちが今生きているこの社会が、すべての人々に優しい社会になれるように、私たち自身が何をなし得るかということを知ることが大切です。

現代社会学部現代社会学科は、以下の 5 つの項目を教育目標として掲げます。

・共生社会とはどのような社会なのかをフィールドワークや体験を通して考えます。
・お互いの違いを認め合いながらそれぞれの自由と平等を実現できる社会について考えます。
・他者があることによって自己があるという相互依存の実態を明らかにします。
・他者の受容のプロセスをケア（配慮的行為）という実践で体験します。
・自己と他者が支えあう生き生きとした社会関係について構想します。

現代社会学科

1）　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・社会学、社会福祉学に関する専門的知識と人を理解するための幅広い教養を有している人。

「思考・判断」

・社会学、社会福祉学に関する専門的知識に根差した思考と判断ができる人。

「技能・表現」

・現代社会における諸問題の動向に関心を持ち、教養と高い専門性を身につけた職業人として、人々のよりよい暮らし（well-being）のために社会貢献できる力を身につけている人

「関心・意欲・態度」

・さまざまな状況下において、多様なニーズに応えていく柔軟さを持つことができる人。

2.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

「知識・技能」

・社会学、社会福祉学領域を学ぶ上で、国語と英語や地理・歴史または公民を中心とした基礎学力を有している人。

「思考力・判断力・表現力」

・社会の出来事や人々の悩みなどについて広く考えることができる人。
・課外活動でリーダーシップを発揮したことのある人。
・豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を高めようとしている人。

「主体的に多様な人々と協働して学ぶ態度」

・人々の多様性を認め、受け入れることができる人。
・社会における多面的な課題に対し、立場の異なる人々と協働して主体的に地域に貢献しようとする人。
・課外活動等に一生懸命打ち込んだことがある人。

「求める学習経験」

・コミュニケーションに関わる国語と英語を意欲的に学習していること。
・社会システムの理解に必要な地理・歴史または公民の学習をしていること。
・地域でのボランティアや社会活動に参加したことがあること。

3.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

「基礎科目」

・全学共通教育として、初年次教育「育みプロジェクト」と教養教育「探求・理解プロジェクト」を配置する。「育みプロジェクト」は、大学での学びによる確かな成長と生涯学び続ける力を育み、「探求・理解プロジェクト」は、現代社会における多元的な教養を獲得し、未体験の状況に協同して対応する力を育む。
・語学や情報リテラシーの実践的技能を獲得する科目を配置するとともに、社会への適応力とキャリアをデザインする能力を促進するキャリア形成科目を配置する。

「専門基礎科目」

・社会学・社会福祉学の学位取得に必要な基礎的な専門知識を学ぶ科目を配置する。

「専門科目」

・変化し多様化する現代社会のシステムを理解するとともに、体系的に専門的知識と技能を獲得できるよう科目を配置する。
・現代の社会的課題に自ら取り組むことのできる専門的知識と調査技法を獲得できる科目を配置する。
・最終学年では、専門教育科目の教育内容を自ら統合するための卒研指導ゼミナールⅠ・Ⅱを必修科目として置く。

現代社会学科社会学専攻

・社会調査、統計分析のスキルを身に付け、地域問題の発見と解決を探るフィールド研究を行う。
・最終学年では、専門教育科目の教育内容を自ら統合するための卒研指導ゼミナールⅠ・Ⅱを必修科目として置く。

現代社会学科社会福祉学専攻

・ソーシャルワーカー養成における科目群を設定し、高度な知識・技術を修得できるよう配置するとともに、学外実習における実践において理解が深められるよう講義・演習科目等を効果的に配置する。
・最終学年では、専門教育科目の教育内容を自ら統合するための卒研指導ゼミナールⅠ・Ⅱを必修科目として置く。

2）　専攻の特徴

【社会学専攻の特徴】

〇社会の作法としての共生について多様な視点から考察します。

貧困、格差、虐待、暴力、孤立、疎外、差別などの社会的な問題は、法制度、経済制度、学校教育制度、社会意識、文化などの要因が絡み合って生じています。こうした社会問題を探求し、解決策を探る知識・技能を身につけるため、社会学の理論や研究方法を学ぶとともに社会調査・統計・分析のスキルを身につけます。さらに、現場に赴き、地域の諸問題を捉える社会調査実習によるフィールドワークを経験し、特

定のテーマ（貧困、子ども、格差、地域スポーツなど）による課題研究にも取り組みます。
〇具体的な社会調査の基礎から実践へ。
　社会調査の基礎だけでなく、調査手法、統計分析手法、調査データの集計・加工などの実践的スキルを講義・演習を通して学び、社会調査士の資格取得を目指しながら知識や技能を身につけることができます。
〇現代社会のなぜ？を探る。
　地域、子ども、若者、貧困、家族、地域スポーツなどの様々な現代的テーマに即して収集したデータに基づいてディスカッションを行い、社会の諸問題を多角的に捉えるための方法を身につけます。
【社会福祉学専攻の特徴】
〇共生の実践知であるケア（配慮的行為）について考察します。
　支援を必要とする人々が抱える諸問題を的確に捉え、多面的（身体的、精神的、社会的、経済的）な包括支援をコーディネートできる知識と技能を身につけます。そのため、相談援助の理論と技術を学ぶとともに、相談支援や育児支援、ハンディを持つ人への支援、孤立支援、災害復興支援、地域生活支援など多様なフィールドでの実践をもとに、現代社会の福祉の問題を読み解き、解決に向けた実行力を養います。
〇ソーシャルワーカーへの道をつなぐ。
　ケアとしてのソーシャルワークに必要な知識・技術を講義・演習・実習の一貫したカリキュラムで学び、他者理解、現場理解、多職種連携などを経験することで、ソーシャルワーカーとしての素養を身につけることができます。また、福祉マインドを持ち、地域福祉の企画・実践に専門性を発揮する能力を身につけます。
〇国家試験の受験資格を取得する。
　ケアの実践者である社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格取得を目指します。

3）　現代社会学科のカリキュラムの特徴

　現代社会学科のカリキュラムは、社会学専攻、社会福祉学専攻とも、基礎科目、専門基礎科目、専門科目という 3 つの科目群で構成されています。
【基礎科目】
　全学共通基礎科目である探究・理解プロジェクト、広く社会を理解するための教養科目、グローバルなコミュニケーション力を高めるための外国語、心身の健康を図るための健康スポーツ実技などの健康運動科目、4 年間をとおして自己のキャリア形成の構築を目的とするキャリア形成科目等、5 つの科目群で構成されています。
　データサイエンス入門、英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、健康科学及びキャリア形成ⅠからⅣが必修となっています。それ以外の科目はそれぞれの関心に応じて自由に選択し、基礎的な教養を深めることができるようになっています。
【専門基礎科目】
　学科として二つの専攻に共通する科目群です。
　現代社会を理解するための基本となる 2 つの科目群で構成され、基盤科目では、現代社会と人間、現代社会と福祉、現代社会学入門Ⅰ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅠからⅣの 8 科目が必修となっています。基礎ゼミナールⅠ～Ⅳは、少人数で学生が主体的に学習を進めることを目的としています。
　二つ目の科目群である基幹科目では、9 つの科目のうち、社会学と社会システム、社会調査の基礎の 2 科目が必修となっています。
【専門科目】
〇社会学専攻
　社会学専攻における専門科目は、社会学各論、社会調査の理論と方法、展開科目、関連科目、専門研究の 5 つの科目群で構成されています。社会学各論では社会学の幅広い領域を学ぶことができます。社会調査の理論と方法には、社会調査士取得に必要な科目が含まれます。
　展開科目は、現代社会の様々な事象をとらえる力と客観的に課題を把握する力を養う 8 つの連動した科目群の現代社会研究と、東北地方を多角的な視点からとらえる 8 つの科目群の地域と東北を学ぶから構成されています。
　関連科目においては、心理学系の科目や介護予防、レクリエーション関係の幅広い科目で構成されています。

○社会福祉学専攻

社会福祉学専攻における専門科目には、社会福祉士、精神保健福祉士の資格取得に関わる福祉士共通科目、ソーシャルワーク系科目、メンタルヘルス系科目と、各自の興味関心に応じて幅広く学ぶことができる専門職連携科目、関連科目、専門研究等の 6 つの科目群で構成されています。また、各科目群には取得可能な資格と連動している科目も含まれています。詳しくは取得可能資格を参照してください。

福祉士共通科目は、社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格を得るために必要な共通科目群であり、二つの資格の同時取得か、どちらか一方の資格取得を目標とする場合においても必ず全て履修しなければならない科目群です。

そのうえで、ソーシャルワーク系科目及びメンタルヘルス系科目は、福祉士共通科目以外の、社会福祉士や精神保健福祉士の各国家試験の受験資格取得にそれぞれ必要な科目群で構成されています。

すなわち、社会福祉士を目指す学生は福祉士共通科目とソーシャルワーク系科目を、精神保健福祉士を目指す学生は福祉士共通科目とメンタルヘルス系科目を、二つの資格の同時取得を目指す学生は、3 つの科目群の科目のすべてを履修する必要があります。

専門職連携科目、関連科目は、今後保健、医療、福祉分野において求められる専門職連携に関わる多様な科目や、レクリエーション、心理学系の幅広い科目で構成されています。特に社会福祉士資格あるいは精神保健福祉士資格取得希望者がスクールソーシャルワーク系の科目を全て履修することにより、スクールソーシャルワーカーの資格取得が可能となります。

二つの専攻とも、必修科目である 3 年前期における専門ゼミナールⅠ、3 年後期における専門ゼミナールⅡ、4 年前期の卒研指導ゼミナールⅠ、4 年後期の卒研指導ゼミナールⅡをとおして 4 年間の貴重な学びを総括することになります。

4）　キャリア教育について

現代社会学科では、1 年次から 3 年次までのキャリア教育として「キャリア形成Ⅰ」〜「キャリア形成Ⅴ」の 5 科目を配置し、学生の社会的・職業的自立の形成を進めます。各学生が自分の将来について、自分で調べ、考え、選ぶことができるよう、カリキュラムが組まれています。これらの科目を通じてライフデザイン、自己分析、さまざまな業界・職種、インターンシップや就職活動の方法などを学びます。

インターンシップは、企業実習や就業体験をとおして、社会で働く自分の姿をイメージするための援助として行われます。実施にあたっては、キャリアサポートセンターと協働し、事前・事後の学習を含めたインターンシップ・プログラムを組み、学生の対人的能力・業務能力の育成を図ります。

5）　専攻の配属について

現代社会学科は、2 年次から社会の諸課題を解決するための人材を養成する「社会学専攻」(70 人）と福祉の専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士を養成する「社会福祉学専攻」(30 人）に分かれて学修を進めます。専攻の配属については 1 年次の配属申し出を受けて選考を行います。選考は 1 年次の科目履修状況と成績評価等によって決定します。配属に関する規程「東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科における社会学専攻及び社会福祉学専攻の配属に関する規程」（P. 237）があります。必ず読むようにしてください。

6）　社会学専攻における取得可能資格

※以下の説明は 2025 年度入学者向けのものなので、2021〜2024 年度入学者は入学時の「ハンドブック」の説明をよく読んでください。

【社会調査士】

1.　社会調査士について

社会調査士とは、インタビュー調査やアンケート調査の方法を学び、統計や世論調査の結果を批判的に検討するなど、社会調査の現場で必要な能力をもった「社会調査の専門家」のことです。一般社団法人社会調査協会は、社会調査に関する教育の水準向上をはかり、また実社会で営まれている社会調査の質を確保し、社会的信頼を確立することをめざして、社会調査士の資格を認定しています。

社会調査士の資格は、大学の学部課程において社会調査に関する基礎的な知識と技能の教育を受け、調査の企画から報告書の作成までの相応の応用力と分析力および倫理観を身につけた人が、社会調査協会に資格を申請して所定の審査を経て認定されます。この資格を申請するためには、学部教育において、

社会調査協会の「社会調査士標準カリキュラム」に準拠する科目群を履修し、単位を取得することが必要です。

資格申請は、学部生が認定された科目を履修して、社会調査士の資格を申請することをいいます。申請書類は、社会調査協会の資格認定委員会が審査し、合格と認められると社会調査士の資格が認定されます。

2.　社会調査士（キャンディデイト）について

資格申請には、さらに社会調査士資格を取得予定であることを示す「社会調査士（キャンディデイト）」があります。必要な科目群の一定部分を履修したのち、在学中の 2 年次から「キャンディデイト」資格を申請すれば、所定の審査を経て大学在学中に「資格を取得しうる候補者として」認定証が発行され、資格を就職活動などに活用できます（社会調査士科目をすべて取得したら、有効期限内に正規資格へと変更する手続きが必要となります）。

3.　社会調査士の取得（履修方法）

本学では、社会調査協会の「社会調査士標準カリキュラム」A～G に対応した科目を在学中に履修し単位取得することで、卒業時に社会調査士資格が取得できます。

社会調査士標準カリキュラム

【A】 社会調査の基本的事項に関する科目
【B】 調査設計と実施方法に関する科目
【C】 基本的な資料とデータの分析に関する科目
【D】 社会調査に必要な統計学に関する科目
【E】 多変量解析の方法に関する科目
【F】 質的な調査と分析の方法に関する科目
【G】 社会調査を実際に経験し学習する科目

●本学における社会調査士標準カリキュラム一覧

標準カリキュラム	本学開設科目名	単位	開講時期	選択・必修の別
【A】	社会調査の基礎	2	1 年後期	必修科目
【B】	社会調査法	2	2 年前期	選択科目
【C】	データ分析の基礎	2	2 年前期	選択科目
【D】	社会と統計	2	2 年前期	選択科目
【E】	量的調査法	2	2 年後期	選択科目
【F】	質的調査法	2	2 年後期	選択科目
【G】	社会調査実習	4	3 年通年	選択科目

以上の科目を履修することになりますが、【E】量的調査法と【F】質的調査法については、どちらか 1 科目を単位取得するようにしてください（両方単位取得してももちろんかまいません）。

4.　資格申請の手続きについて

○社会調査士（正規資格）

資格の認定に必要な科目の単位を取得したうえで、大学卒業時に社会調査士資格を申請することで、社会調査協会から資格の認定を受けることができます。下記の時期に申請条件を満たす資格取得希望者を、大学がまとめて申請手続きを行います。申請手続きの際は、審査・認定手数料 16,500 円（税込）を納める必要があります。有効期限内の社会調査士（キャンディデイト）からの変更の場合は、5,500 円（税込）を納める必要があります。

・申請時期：卒業する年の 3～4 月（9 月卒業の場合は 10 月申請）※具体的な日時は担当者が指示
・申請条件
　①　卒業
　②　社会調査士資格の認定に必要な科目の単位

○社会調査士（キャンディデイト）

資格の認定に必要な科目の単位をすべて取得していなくても以下の申請条件を満たせば、就職活動時などに「卒業時に社会調査士資格を取得予定である」ことを証明する「社会調査士（キャンディデイト）」

を申請して、取得することができます（資格の認定に必要な科目の単位をすべて取得したら、有効期限内に正規資格へと変更する手続きが必要となります）。下記の時期に申請条件を満たす資格取得希望者を、大学がまとめて申請手続きを行います。申請手続きの際は、審査・認定手数料 16,500 円（税込）を納める必要があります。

・申請時期：6〜7 月および 10 月　※具体的な日時は担当者が指示

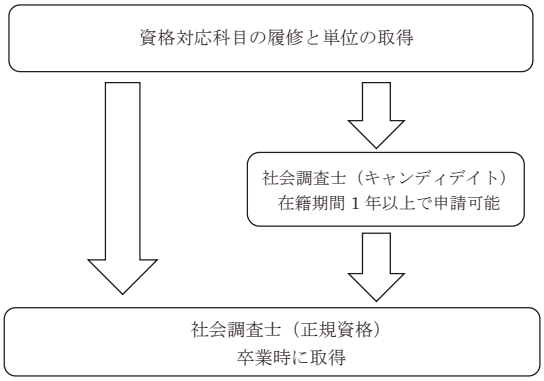
・申請条件

① 在籍期間が 1 年以上であること（2 年次から申請可能）。

② 社会調査士資格の認定に必要な科目を 3 科目以上単位取得していること。

③ ②の単位取得済み科目と申請年度に履修中の科目の合計が 5 科目以上であること（ただし E「量的調査法」／F「質的調査法」科目は選択制のため 1 科目と数える）。

●社会調査士資格取得のルート



【社会調査実習】

「社会調査実習」では社会学的な手法に則り、「社会」や様々な人びとを対象として、社会調査を実際に行い、報告書を作成します。社会調査を行うためには、社会学および社会調査に関する知識と技術を事前に身につけておくことが不可欠です。よって、「社会調査実習」には以下の履修要件を定めています。

履修要件：2 年次末までに、①「社会調査に関する科目」のうち A〜D（4 科目（8 単位））と、「社会調査に関する科目」の E、F のうち少なくとも 1 科目（2 単位）、および、②「社会学の専門科目」のうち 6 科目（12 単位）以上を単位取得済みであること。

①「社会調査に関する科目」

	社会調査に関する科目	開講年次
A	社会調査の基礎	1 年次後期
B	社会調査法	2 年次前期
C	データ分析の基礎	2 年次前期
D	社会と統計	2 年次前期
E	量的調査法	2 年次後期
F	質的調査法	2 年次後期

②「社会学の専門科目」のうち 6 科目以上

社会学の専門科目	開講年次
労働と社会	2 年次前期
地域社会学	2 年次前期
異文化コミュニケーション論	2 年次前期
情報技術と社会	2 年次前期
スポーツと社会	2 年次前期

食と社会	2 年次前期
メディア社会論	2 年次後期
家族社会学	2 年次後期
ジェンダー社会学	2 年次後期
都市社会学	2 年次後期
マスコミュニケーション論	2 年次後期
社会保障概論	2 年次後期
国際社会論	2 年次後期

7）　社会福祉学専攻における取得可能資格

◆国家試験受験資格

【社会福祉士】

社会福祉学専攻の学生は、必要な科目を履修し単位を修得することによって、社会福祉士の国家試験受験資格を得ることができます。さらに、「社会福祉士」の資格を有するためには、国家試験に合格した後、登録をすることが必要です。

なお、3 年次の「ソーシャルワーク実習Ⅰ」、4 年次の「ソーシャルワーク実習Ⅱ」は、履修要件として定められたすべての科目を修得していないと、それぞれ履修できませんので、1 年次から計画的な単位取得を心がけてください。

【精神保健福祉士】

社会福祉学専攻の学生は、必要な科目を履修し単位を修得することによって、精神保健福祉士の国家試験受験資格を得ることができます。さらに、「精神保健福祉士」の資格を有するためには、国家試験に合格した後、登録をすることが必要です。

なお、3 年次の「精神保健福祉援助実習Ⅰ」、4 年次の「精神保健福祉援助実習Ⅱ」は、履修要件として定められたすべての科目を修得していないと、それぞれ履修出来ませんので、1 年次から計画的な単位取得を心がけてください。

また、本学科では精神保健福祉士は社会福祉専門職のひとつとしてとらえています。社会福祉士の資格は精神保健福祉士の専門性をより理解するためにも重要ですので、社会福祉士との W ライセンスを目指すことが望まれます。

◆任用資格

任用資格とは、その職種（福祉行政やその他の関連領域）に就くために求められる国が定めた資格基準のことです。国の定めたそれぞれの任用資格の基準（指定された科目の履修など）を満たしていれば、有資格者として認められます。これは、該当する職種として採用されると効力を持ち、在職期間に限って適用されるものです。一般的には、その内容は、卒業証明書や成績証明書で確認されるので、それに関する特別な試験や資格証明書が発行されるものではありません。

社会福祉学専攻では、社会福祉士国家試験受験資格を得て卒業することで以下の任用資格をすべて取得できます。また、別紙「任用資格指定科目の読替表」（別頁）の指定科目を履修し、単位を取得することで、社会福祉主事任用資格、身体障害者福祉司任用資格、知的障害者福祉司任用資格、児童指導員任用資格に求められる基準を得ることができます。

【社会福祉主事任用資格】

社会福祉主事とは、福祉事務所現業員として任用される者に要求される資格（任用資格）です。社会福祉施設職員等の資格にも準用されています。福祉六法に基づいて、各種行政機関で保護・援助を必要とする人のために相談・指導・援助を行います。

【身体障害者福祉司任用資格】

身体障害者福祉司とは　身体障害者更生相談所や福祉事務所などで、身体障がい者の相談・調査・更生援護の要否や種類の判断、本人への指導等を行います。身体に障がいのある方へ、社会進出のために必要な情報を提供し、生活の実情を調査した上で、社会的な自立も促します。

【知的障害者福祉司任用資格】

知的障害者福祉司は、知的障害者の福祉に関する相談を受付けたり、日常生活などの指導を行います。なかでも所内の相談員やケースワーカーでは対応しきれない難しいケースや、施設入所等に関する仕事に従事します。

【児童指導員任用資格】

児童指導員とは、児童福祉施設で生活する子どもたちを、保護者に代わって援助、育成、指導するのが主な仕事です。公務員として、または私営の児童福祉施設に採用後、児童相談員に任用される際に必要な資格であり、ほとんどの児童養護指導者に求められます。

8）　社会福祉学専攻の実習教育プログラムについて

社会福祉学専攻では社会福祉士及び精神保健福祉士の養成に係る実習（選択）を行います。実習授業は、それぞれの実習の特徴をふまえた詳細な実習教育プログラムのもとで実施されます。

社会福祉士資格を希望する場合、基礎科目の必修科目、専門基礎科目の必修科目及び社会福祉政策、基幹科目の必修科目及び心理学と心理的支援、医学概論、専門科目の福祉士共通科目及びソーシャルワーク系科目に配置されている 34 科目は、社会福祉士国家試験の受験資格要件ですので、社会福祉士を目指す学生は必ず履修する必要があります。

精神保健福祉士資格を希望する場合、基礎科目の教養科目、専門基礎科目の必修科目及び社会福祉政策、基幹科目の必修科目及び心理学と心理的支援、医学概論、専門科目の福祉士共通科目及びメンタルヘルス系科目に配置されている 35 科目は、精神保健福祉士国家試験の受験資格要件ですので、精神保健福祉士を目指す学生は必ず履修する必要があります。

「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」には、別に定めた履修要件があります。

詳しくは『「ソーシャルワーク実習」「精神保健福祉援助実習」の履修要件等について』を参照してください。なお、具体的には、それぞれの実習の詳細なプログラムを記した「実習要項」（ソーシャルワーク実習）、「実習の手引き」（精神保健福祉援助実習）を配布し、指導を行います。

◆「ソーシャルワーク実習」「精神保健福祉援助実習」の履修要件について

【ソーシャルワーク実習】

「ソーシャルワーク実習」（「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」）を履修するには、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を併せて履修する必要があります。実習は、実際に社会福祉の現場で学ぶ科目であり、実習に配属されるためには、必要な知識を確実に身につけておかなければなりません。そのため、「ソーシャルワーク実習指導」、「ソーシャルワーク実習」の各科目には、以下のような履修要件を定めています。

①　「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」（2 年次後期開講）を履修するためには、「基礎ゼミナールⅠ」、及び 2 年次前期までの社会福祉士国家試験指定科目（14 科目）全てを単位取得済みであること。

ソーシャルワーク実習指導Ⅰの履修要件科目	開講年次
現代社会と福祉	1 年次前期
社会学と社会システム	1 年次前期
心理学と心理的支援	1 年次後期
医学概論	1 年次後期
社会福祉政策	1 年次後期
社会調査の基礎	1 年次後期
基礎ゼミナールⅠ	1 年次前期
基礎ゼミナールⅡ	1 年次後期
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2 年次前期
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2 年次前期
社会保障Ⅰ	2 年次前期

障害者福祉	2 年次前期
児童・家庭福祉	2 年次前期
高齢者福祉	2 年次前期
保健医療と福祉	2 年次前期
ソーシャルワーク基礎演習	2 年次前期

② 「ソーシャルワーク実習指導 II」（3 年次前期開講）を履修するためには、「現代社会基礎演習 II」、「ソーシャルワーク実習指導 I」、及び 2 年後期の社会福祉士国家試験指定科目（6 科目）全てを単位取得済みであること。

ソーシャルワーク実習指導 II の履修要件科目	開講年次
ソーシャルワークの基盤と専門職 II	2 年次後期
ソーシャルワークの理論と方法 II	2 年次後期
社会保障 II	2 年次後期
地域福祉と包括的支援体制 I	2 年次後期
権利擁護を支える法制度	2 年次後期
ソーシャルワーク演習 I	2 年次後期
ソーシャルワーク実習指導 I	2 年次後期
基礎ゼミナール III	2 年次前期
基礎ゼミナール IV	2 年次後期

③ 「ソーシャルワーク実習 I」（3 年次後期開講）を履修するためには、「専門ゼミナール I」、「ソーシャルワーク実習指導 II」、及び 3 年前期の社会福祉士国家試験指定科目（6 科目）を全て単位取得済みであること。

ソーシャルワーク実習の履修要件科目	開講年次
地域福祉と包括的支援体制 II	3 年次前期
刑事司法と福祉	3 年次前期
福祉サービスの組織と経営	3 年次前期
貧困に対する支援	3 年次前期
ソーシャルワークの理論と方法 III	3 年次前期
ソーシャルワーク演習 II	3 年次前期
ソーシャルワーク実習指導 II	3 年次前期
専門ゼミナール I	3 年次前期

④ 「ソーシャルワーク実習 II」（4 年次通年開講）を履修するためには、「専門ゼミナール II」、「ソーシャルワーク実習 I」、及び 3 年後期の社会福祉士国家試験指定科目（2 科目）を全て単位取得済みであること。

ソーシャルワーク実習の履修要件科目	開講年次
ソーシャルワークの理論と方法 IV	3 年次後期
ソーシャルワーク演習 III	3 年次後期
ソーシャルワーク実習 I	3 年次後期
専門ゼミナール II	3 年次後期

⑤ 「ソーシャルワーク実習指導 III」（4 年後期開講）を履修するためには、「ソーシャルワーク実習 II」（4 年次前期通年）を修了し、単位取得見込みであること。

また、履修にあたっての注意事項は下記の通りです。
［注意 1］「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」は、社会福祉士国家試験受験資格を得るために必要な科目です。
［注意 2］希望する実習先の領域によっては、履修要件に定めた科目に加えて、必要な関連科目の履修が求められることがあります。必要な科目については別途指定します。
［注意 3］編入生・転学科生等の履修要件については、別途定めます。

【精神保健福祉援助実習】

精神保健福祉援助実習Ⅰ、精神保健福祉援助実習Ⅱでは、精神科病院等の医療機関と障害福祉サービス事業を行う施設その他の実習施設等で実施するなど、機能の異なる 2 以上の実習施設で実施します。実習に配属されるためには、現場での実践に必要な最低限度の知識を確実に身につけておかなければなりません。そこで、精神保健福祉援助実習を履修するために「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」についての履修要件を、以下の ①、②、③、④ に定めています。

なお、「精神保健福祉援助演習」（「精神保健福祉援助演習Ⅰ」（3 年次前期）、「精神保健福祉援助演習Ⅱ」（3 年次後期）、「精神保健福祉援助演習Ⅲ」（4 年次通年）は、「精神保健福祉援助実習」と不可分の関係であるため、「精神保健福祉援助演習」のみの履修は出来ません。

① 「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」（2 年次後期開講）を履修するためには、以下の科目を履修済みであること。

精神保健福祉援助実習指導Ⅰの履修要件科目	開講年次
現代社会と福祉	1 年次前期
心理学と心理的支援	1 年次後期
医学概論	1 年次後期
社会福祉政策	1 年次後期
基礎ゼミナールⅠ	1 年次前期
基礎ゼミナールⅡ	1 年次後期
社会学と社会システム	1 年次前期
社会調査の基礎	1 年次後期
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2 年次前期
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2 年次前期
社会保障Ⅰ	2 年次前期
障害者福祉	2 年次後期
ソーシャルワーク基礎演習	2 年次前期
精神医学Ⅰ	2 年次前期
精神保健福祉の原理Ⅰ	2 年次前期
保健医療と福祉	2 年次前期

② 「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」（3 年次通年）を履修するためには、以下の科目を履修済みであること。

精神保健福祉援助実習指導Ⅱの履修要件科目	開講年次
基礎ゼミナールⅢ	2 年次前期
基礎ゼミナールⅣ	2 年次後期
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2 年次後期
社会保障Ⅱ	2 年次後期
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2 年次後期
権利擁護を支える法制度	2 年次後期

精神医学Ⅱ	2 年次後期
精神保健福祉の原理Ⅱ	2 年次後期
精神保健福祉制度論	2 年次後期
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2 年次後期

③「精神保健福祉援助実習Ⅰ」（3 年後期）を履修するためには、「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」（3 年次通年）が履修中であることに加えて、以下の科目を履修済みもしくは履修中であること。

（履修済である科目）

精神保健福祉援助実習Ⅰの履修要件科目	開講年次
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3 年次前期
刑事司法と福祉	3 年次前期
精神保健学Ⅰ	3 年次前期
ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	3 年次前期
精神障害リハビリテーション論	3 年次前期
精神保健福祉援助演習Ⅰ	3 年次前期
専門ゼミナールⅠ	3 年次前期

（履修中である科目）

精神保健福祉援助実習Ⅰの履修要件科目	開講年次
精神保健学Ⅱ	3 年次後期
ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	3 年次後期
精神保健福祉援助演習Ⅱ	3 年次後期
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	3 年次通年
専門ゼミナールⅡ	3 年次後期

④「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」（4 年次通年）、「精神保健福祉援助実習Ⅱ」（4 年次通年）を履修するためには、上記の①、②、③で示した全ての科目に加え、「精神保健福祉援助実習Ⅰ」（3 年後期）、「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」が単位取得済みであること。

［注意 1］「精神保健福祉援助実習Ⅰ・精神保健福祉援助実習Ⅱ」は、精神保健福祉士国家試験受験資格を得るために必要な科目です。

［注意 2］専門科目の履修のみでは、精神保健福祉士国家試験受験資格は得られません。教養・基礎科目、専門基礎科目のそれぞれを配当年次で取得していないと、次年度の履修が時間割の制約上、履修できなくなることがあります。

◆「スクールソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーカー」について

【スクールソーシャルワーク実習】

「スクールソーシャルワーク実習」では教育機関などで実習を実施します。実習に配属されるためには、現場での実践に必要な知識を確実に身につけておかねばなりません。

そこで、「東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科社会福祉学専攻におけるスクールソーシャルワーク実習の履修に関する細則」（別頁）に記載されているとおり、履修者数の選考及び履修要件を定めています。

スクールソーシャルワーク実習（4 年次通年）を履修するには、社会福祉士または精神保健福祉士の科目の全ての単位を取得済みに加え、以下の科目を履修する必要があります。

本学開講科目名	開講年次
教育学	1 年次後期
生涯発達心理学	2 年次前期

児童・家庭福祉	2 年次前期
児童・家庭支援論	2 年次後期
精神保健学Ⅰ	3 年次前期　※
精神保健学Ⅱ	3 年次後期　※
貧困に対する支援	3 年次前期　※
スクールソーシャルワーク論	3 年次前期
スクールソーシャルワーク演習	3 年次後期
スクールソーシャルワーク実習指導	4 年次前期

※　社会福祉士国家受験資格取得希望者は「精神保健学Ⅰ」、「精神保健学Ⅱ」の単位取得が必要
※　精神保健福祉士国家受験資格取得希望者は「貧困に対する支援」の単位取得が必要

【スクールソーシャルワーカー】

1.　スクールソーシャルワーカーについて

今日の学校現場において、いじめ、不登校、児童虐待、貧困問題など大きな課題となっております。これらの要因として家庭、学校、地域といった児童生徒のおかれている環境が複雑に絡み合って生じているものと考えられています。それらの問題を解決していくためスクールソーシャルワーカーは、教育分野に関する知識に加え、ソーシャルワークの専門的な知識・技術を用いて、児童生徒および家族のおかれている様々な環境に働きかけます。そして、学校の枠を超え関連する関係機関と連携・協働を図るコーディネーター的な役割を担う人材として位置づけられています。

2.　スクールソーシャルワーク教育課程について

本学では、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟が行う「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業」を実施し、スクールソーシャルワーカーの養成を行っております。当該教育課程を修了し、かつ、社会福祉士あるいは精神保健福祉士の国家資格の取得後、認証機関である一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟に教育課程修了者として申請し、認証を受け修了証が交付されることになります。

3.　履修方法

本資格を取得するには、次の科目を全て履修し、単位を取得する必要があります。

●スクールソーシャルワーク教育課程修了証の取得指定科目

規定による指定科目名称	本学開講科目名	単位	開講時期	選択・必修の別
スクール（学校）ソーシャルワーク論	スクールソーシャルワーク論	2	3 年前期	選択科目
スクール（学校）ソーシャルワーク演習	スクールソーシャルワーク演習	1	3 年後期	選択科目
スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導	スクールソーシャルワーク実習指導	1	4 年前期	選択科目
スクール（学校）ソーシャルワーク実習	スクールソーシャルワーク実習	2	4 年通年	選択科目
「教育の基礎的理解に関する科目」のうち「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む）」及び「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む科目の教育内容	教育学	2	1 年後期	選択科目
「教育の基礎的理解に関する科目」のうち「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」及び「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」を含む科目、及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち「生徒指導の理論及び方法」「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」「進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む）の理論及び方法」を含む科目の教育内容	生涯発達心理学	2	2 年前期	選択科目
	児童・家庭支援論	2	2 年後期	選択科目

精神保健の課題と支援	精神保健学Ⅰ	2	3年前期	選択科目※
	精神保健学Ⅱ	2	3年後期	選択科目※
貧困に対する支援	貧困に対する支援	2	3年前期	選択科目※
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭福祉	2	2年前期	必修科目

※　社会福祉士国家受験資格取得者は「精神保健学Ⅰ」、「精神保健学Ⅱ」の単位取得が必要
※　精神保健福祉士国家受験資格取得者は「貧困に対する支援」の単位取得が必要

9）　社会福祉士、精神保健福祉士国家試験対策について

社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験は、4年次に受験することができます。現代社会学科社会福祉学専攻では受験者全員の合格を目指して、以下のような国家試験受験対策を計画しています。

＜社会福祉士国家試験対策＞

国家試験対策ガイダンス：4年次学生対象　4月・9月・1月
受験対策講座の開設：4年次学生対象
前期対策講座：4月～7月
後期対策講座：10月～12月
集中対策講座：9月
模擬試験の実施：4年次学生対象　学内模擬試験：8月
学外模擬試験：9月～12月（毎月1回）
3年次学生対象　学内模擬試験：8月
学外模擬試験：12月

＜精神保健福祉士国家試験対策＞

社会福祉国家試験対策講座に加え、精神保健福祉士専門科目の対策講座を実施します。
模擬試験の実施：4年次学生対象　11月、12月
3年次学生対象　12月

10）　取得可能資格【団体認定資格】（学科共通）

【レクリエーション・インストラクター】

1.　レクリエーション・インストラクターについて

本資格は、財団法人日本レクリエーション協会公認指導者資格の一つです。福祉現場はもとより、様々な場面における遊びのメニューと技術を有し、楽しさの体験を多くの方々に提供できる人材となります。人と人との楽しい交流促進や、楽しさに主眼を置いた技術指導の方法を学んでいることも特色です。「レクリエーション」という世界に興味・関心を持ち、指導者を目指す方にとって入門的な資格です。

2.　資格取得認定校について

日本レクリエーション協会制定公認指導者認定・登録規程に基づいて、大学・短期大学・専門学校等の高等教育機関において、日本レクリエーション協会が定めるカリキュラムと担当教員によって、日本レクリエーション協会公認指導者養成を行う課程を認可された学校を「日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校」（略称：課程認定校）と称します。課程認定校において、資格取得に必要な理論・実技・現場実習の単位を取得した場合、レクリエーション・インストラクターとして資格申請ができます。本学もこの認定校となっています。

3.　履修方法

本資格を取得するためには、次の科目を全て履修し、単位取得する必要があります。

●レクリエーション・インストラクター資格に必要な科目

本学開設科目名	単位	開講時期	選択・必修の別
レクリエーション理論	2	1年後期	選択科目
レクリエーション実技Ⅰ	1	2年前期	選択科目
レクリエーション実技Ⅱ	1	2年後期	選択科目

レクリエーション現場実習	1	2 年通年	選択科目
・夏季野外活動実習	1	1 年前期	選択科目
・ソーシャルワーク実習※	4	4 年前期	選択科目
・介護予防実習	1	3 年後期	選択科目

「・」の 3 科目のうち 1 教科を選択　※精神保健福祉援助実習、スクールソーシャルワーク実習も含む

4.　その他、履修することが望ましい科目

本学開設科目名	単位	開講時期	選択・必修の別
冬季野外活動実習	1	1 年後期	選択科目

5.　レクリエーション現場実習について

本実習は、日本レクリエーション協会、都道府県レクリエーション協会、市区町村レクリエーション協会加盟種目団体等の関係する事業（主催、後援、協賛、協力、主管など）への参加をもって単位取得とみなします。具体的には、課程認定校交流会、レクリエーション大会、スポレク大会、市民レクのつどい、ニュースポーツ大会などです。

6.　資格申請の手続きについて

資格取得に必要な理論・実技・現場実習の単位を取得した学生については、学内審査を行い、その合格をもって資格申請が可能になります。申請希望者については課程認定校（大学）がまとめて申請手続きを行います。資格取得時期は 4 年後期となります。

7.　新規に申請手続きをする際は、登録料 16,000 円、消費税 1,600 円の合計 17,600 円を納める必要があります。

【パラスポーツ指導者】

1.　パラスポーツ指導者について

公益財団法人日本パラスポーツ協会は、障がい者のスポーツの普及と発展をめざし、障がい者のスポーツ環境を構築する上で必要な人材の育成を行うために、「公益財団法人日本パラスポーツ協会資格認定制度」を制定しています。

パラスポーツ指導者は、初級・中級・上級に分かれており、いずれも多様な障がい者のスポーツ活動に対応するため、福祉・医療・体育学・障がい者スポーツ独自の知識を活かし、障がい者スポーツ活動の援助を行いながら安全に指導し、スポーツを通じて生活の質の向上等に寄与することを責務としています。地域における障がい者の社会参加の手段としてますますニーズが高まることが予想されることから、地域社会・福祉・医療に従事する上では欠かすことのできない資格として捉えられています。本学においては、そのうちの「初級パラスポーツ指導員」資格の取得が可能となっています。

〇初級パラスポーツ指導員

地域で活動する 18 歳以上の指導者で、障がいや障がい者スポーツ、安全管理等に関する基礎的な知識や障がい者に対応するための基本的な技術を持ち、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導く。プレーヤーに運動やスポーツの楽しさ、基本的な運動の仕方やその意義や価値を伝える。地域の大会や行事に積極的に参加し、指導員組織の事業にも積極的に参加し、地域の障がい者スポーツ振興を支える。中級パラスポーツ指導員資格取得をめざすなど自己研鑽を積むようにする。（本学においては、現代社会学部現代社会学科および医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻の学生で所定の科目の単位を取得した者）。

2.　資格取得認定校について

公益財団法人日本パラスポーツ協会資格認定制度に基づき、申請によって資格取得を認定された学校（学校教育法に基づく大学・短期大学並びに専門課程を置く専修学校）のうち、修業年限 2 年以上の学校において、初級パラスポーツ指導員の資格取得に必要な講習内容を含む科目の単位を取得したことをもって初級パラスポーツ指導員の研修を修了したものとみなされます。本学は認定校になっています。（本学においては、現代社会学部現代社会学科および医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻の学生で所定の科目の単位を取得した者）。

3.　履修方法

本学在学中に資格を取得するためには、次の科目をすべて履修し、単位を取得しなければなりません。

4.　初級パラスポーツ指導員資格に必要な科目

本学開設科目名	単位	開講時期	選択・必修の別
アダプテッド・スポーツ論	2	1 年後期	選択科目
アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	1 年前期	選択科目

5.　資格申請の手続きについて

○必要な科目の単位の取得を要件とし、単位の取得が確定した後、資格取得希望者を大学がまとめて申請手続きをします。資格申請手続きのガイダンスの日程については別途お知らせします。

○申請手続きをする際は、申請・認定料 5,500 円および登録料 3,800 円を納める必要があります。また、資格を継続するためには登録料 3,800 円を毎年納める必要があります（年度更新）。

11）　専攻配属、進級、履修登録単位数にかかる規程、細則

現代社会学科には、社会学専攻及び社会福祉学専攻の配属に関する規程、進級に関する細則、履修登録単位数の上限に関する細則があります。必ず読むようにしてください。

・東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科における社会学専攻及び社会福祉学専攻の配属に関する規程（別頁）
・東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科における進級に関する細則（別頁）
・東北文化学園大学現代社会学部における履修登録単位数の上限に関する細則（別頁）

12）　就職活動支援について

3、4 年生になると各自がキャリアサポートセンターを活用して就職活動を行います。キャリアサポートセンターは求人情報の提供をはじめとして、各種の取り組みにより学生の就職活動を応援しています。また、学科では、卒業研究の担当教員を通して個別の学生への就職指導にも努めています。

就職活動では、早い時期から自分の進路を定め、福祉施設職員、公務員、一般企業勤務などの就職希望を明確にし、準備を進めるなど積極的な活動をすることが重要です。

将来の仕事として目指すのは次のようなものです。

・コンサルタント会社・市場調査会社
・広告・メディア・通信会社
・出版・印刷会社
・公務員（一般行政、警察、消防等）
・各種団体、NPO などの職員
・老人福祉施設、障がい者福祉施設などの生活指導員、生活相談員等
・病院・診療所など医療施設の医療ソーシャルワーカー（MSW）、精神科ソーシャルワーカー（PSW）
・児童福祉施設などの児童指導員等
・福祉事務所や社会福祉協議会のソーシャルワーカー、コミュニティーワーカー
・地域包括支援センターの社会福祉士等
・福祉サービス企業の専門職

13）　任用資格指定科目の読替表

14）　授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表（別頁）

15）　カリキュラム・ツリー（別頁）

16）　カリキュラム配置図（別頁）

17）　授業科目一覧表、卒業要件単位数

任用資格指定科目の読替表

1　社会福祉主事（以下のうち 3 科目以上履修していること）

厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目	現代社会学科開講科目名（2021 年度入学生～）
社会福祉概論	現代社会と福祉 社会福祉政策　＊
社会福祉事業史	
社会福祉援助技術論	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ　＊
社会福祉調査論 社会福祉施設経営論	社会調査の基礎 福祉サービスの組織と経営
社会福祉行政論	
社会保障論	社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ　＊
公的扶助論	貧困に対する支援
児童福祉論 家庭福祉論	児童・家庭福祉 児童・家庭支援論　のうちいずれか
保育理論	
身体障害者福祉論	障害者福祉
知的障害者福祉論	
精神障害者保健福祉論	精神保健学Ⅰ 精神保健学Ⅱ　＊
老人福祉論	高齢者福祉
医療社会事業論	保健医療と福祉
地域福祉論	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ　＊
法学 民法	法学概論
行政法	
経済学 社会政策	経済学概論
経済政策	
心理学 社会学	心理学と心理的支援 社会学と社会システム
教育学 倫理学	教育学
公衆衛生学	
医学一般	医学概論 保健医療と福祉　＊
リハビリテーション論	
看護学	
介護概論 栄養学	
家政学	

*2 科目履修することで、認定基準を満たす。

2　身体障害者福祉司

厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目	現代社会学科開講科目名（2021 年度入学生～）
社会事業概論	現代社会と福祉 社会福祉政策 } ＊
社会事業史	
社会事業施設論	福祉サービスの組織と経営
社会事業行政	社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ } ＊
社会事業の方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ
ケースワーク	
グループワーク	
コミュニティオーガニゼイション	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ
社会立法	法学概論
社会政策	社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ } ＊
社会病理または社会問題	社会学と社会システム
社会調査	社会調査の基礎
社会統計	社会調査法
社会衛生	現代社会と福祉
精神衛生	心理学と心理的支援
身体障害者の心理	障害者福祉
社会教育	教育学
法学	法学概論
職業指導	障害者支援論
補装具知識	生活支援工学

*2 科目履修することで、認定基準を満たす。

3　知的障害者福祉司

大学で厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目	保健福祉学科開講科目名（2021 年度入学生～）
	現代社会と福祉 社会福祉政策 } ＊
	障害者福祉 障害者支援論 } ＊

*2 科目履修することで、認定基準を満たす。

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【現代社会学部　現代社会学科　社会学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・社会学、社会福祉学に関する専門的知識と人を理解するための幅広い教養を有している人。
②	「思考・判断」	・社会学、社会福祉学に関する専門的知識に根差した思考と判断ができる人。
③	「技能・表現」	・現代社会における諸問題の動向に関心を持ち、教養と高い専門性を身につけた職業人として、人々のよりよい暮らし（well-being）のために社会貢献できる力を身につけている人。
④	「関心・意欲・態度」	・さまざまな状況下において、多様なニーズに応えていく柔軟さを持つことができる人。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2		◎		○	
		生命を考える	1 前・1 後		2		◎		○	
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		◎		○	
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		◎		○	
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2		◎		○	
		社会活動入門	1 前・1 後		2		◎		○	
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			○		○	
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1			○		○	
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○		○	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		○		○	
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○		○	
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		○		○	
		海外研修	1 通		2				○	○
		スポーツ実技	1 後		1		○		○	
		心理学概論	1 前		2		○		○	
		生命倫理学	1 後		1		○		○	
		健康科学	1 前	1			○		○	
		教育学	1 後		2		○			○
		哲学	1 前		2		○			○
		現代史	1 後		2		○			○
		東北の歴史	1 前		2		○			○
		ジェンダー論	1 前		2		○			○
		生活の中の物理学	1 前		2		○			○
		生活の中の化学	1 後		2		○			○
		生活の中の生物学	1 後		2		○			○
		生活と地球科学	1 前		2		○			○
		データサイエンス入門	1 前	2			○			○
		コミュニケーション論	1 後		2		◎			○
		憲法と法律	1 後		2		○			○
		生活と経済	1 前		2		○			○
		教養としての政治学	1 前		2		○			○

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	健康スポーツ	夏季野外活動実習	1前		1			○	○	
		冬季野外活動実習	1後		1			○	○	
		アダプテッド・スポーツ論	1後		2		○	◎		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1前		1				◎	○
		レクリエーション理論	1後		2		◎	○		
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1前	2			○			◎
		キャリア形成Ⅱ	1後	2			○			◎
		キャリア形成Ⅲ	2前	2				◎	○	
		キャリア形成Ⅳ	2後	2					◎	○
		キャリア形成Ⅴ	3通		2				○	◎
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	1前	2			◎	○		
		文化人類学	1前		2		○	○		
		現代社会と福祉	1前	2			◎	○		
		社会福祉政策	1後		2		○	○		
		現代社会学入門Ⅰ	1前	2			◎	○		
		現代社会学入門Ⅱ	1後	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅠ	1前	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅡ	1後	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅢ	2前	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅣ	2後	2			◎	○		
	基幹科目	心理学と心理的支援	1前		2		◎		○	
		医学概論	1後		2		◎		○	
		法学概論	1前		2		○		○	
		経済学概論	1前		2		○		○	
		社会学史	1後		2		◎		○	
		政治学	1後		2		○		○	
		社会学と社会システム	1前	2			◎		○	
		社会調査の基礎	1後	2			◎		○	
		社会調査法	2前		2		○		○	
専門科目	社会学各論	労働と社会	2前		2		◎			○
		地域社会学	2前		2		◎			○
		異文化コミュニケーション論	2前		2		◎			○
		情報技術と社会	2前		2		◎			○
		スポーツと社会	2前		2		◎			○
		食と社会	2前		2		◎			○
		メディア社会論	2後		2		◎			○
		家族社会学	2後		2		◎			○
		ジェンダー社会学	2後		2		◎			○
		都市社会学	2後		2		◎			○
		マスコミュニケーション論	2後		2		◎			○
		社会保障概論	2前		2		◎			○
		国際社会論	2後		2		◎			○
		教育社会学	3前		2		◎			○
		非営利組織論	3前		2		◎			○
		医療社会学	3後		2		◎			○
		災害と社会	3後		2		◎			○
		日本社会とマイノリティ	3後		2		◎			○
		社会的アイデンティティ論	3後		2		◎			○

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	社会調査の理論と方法	データ分析の基礎	2 前		2			○	◎	
		社会と統計	2 前		2			○	◎	
		量的調査法	2 後		2			○	◎	
		質的調査法	2 後		2			○	◎	
		社会調査Ⅰ	3 前		2			○	◎	
		社会調査Ⅱ	3 後		2			○	◎	
	展開科目　現代社会研究	現代社会Ⅰ	3 前		2			◎		◎
		現代社会Ⅱ	3 前		2			◎		◎
		現代社会Ⅲ	3 前		2			◎		◎
		現代社会Ⅳ	3 前		2			◎		◎
		現代社会Ⅴ	3 後		2			◎		◎
		現代社会Ⅵ	3 後		2			◎		◎
		現代社会Ⅶ	3 後		2			◎		◎
		現代社会Ⅷ	3 後		2			◎		◎
	地域と東北を学ぶ	地域文化論	2 前		2		○			◎
		環境と社会	2 前		2		○			◎
		農と社会	2 後		2		○			◎
		東北文化論	3 前		2		○			◎
		観光と社会	3 前		2		○			◎
		地域と民俗	3 後		2		○			◎
		復興のまちづくり	3 後		2		○			◎
		地域社会と国際化	3 後		2		○			◎
	関連科目	生涯発達心理学	2 前		2			○		○
		健康心理学	2 後		2			○		○
		社会心理学	3 前		2			○		○
		コミュニティ心理学	3 後		2			○		○
		社会保障Ⅰ	2 前		2			○		○
		社会保障Ⅱ	2 後		2			○		○
		障がいと社会	2 後		2			○		○
		エイジングと社会	2 後		2			○		○
		児童福祉と社会	2 後		2			○		○
		レクリエーション実技Ⅰ	2 前		1			○		○
		レクリエーション実技Ⅱ	2 後		1			○		○
		レクリエーション現場実習	2 通		1			○		○
		貧困に対する支援	3 前		2			○		○
		地域社会健康論	3 前		2			○		○
		地域社会健康演習	3 後		2			○		○
	専門研究	専門ゼミナールⅠ	3 前	2				◎	◎	
		専門ゼミナールⅡ	3 後	2				◎	◎	
		卒研指導ゼミナールⅠ	4 前	2				◎	◎	
		卒研指導ゼミナールⅡ	4 後	2				◎	◎	
		卒業論文	4 通		4			◎	◎	

※ 2024 年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025 年度シラバスで確認してください。

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【現代社会学部　現代社会学科　社会福祉学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・社会学、社会福祉学に関する専門的知識と人を理解するための幅広い教養を有している人。
②	「思考・判断」	・社会学、社会福祉学に関する専門的知識に根差した思考と判断ができる人。
③	「技能・表現」	・現代社会における諸問題の動向に関心を持ち、教養と高い専門性を身につけた職業人として、人々のよりよい暮らし（well-being）のために社会貢献できる力を身につけている人。
④	「関心・意欲・態度」	・さまざまな状況下において、多様なニーズに応えていく柔軟さを持つことができる人。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2		◎		○	
		生命を考える	1 前・1 後		2		◎		○	
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		◎		○	
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		◎		○	
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2		◎		○	
		社会活動入門	1 前・1 後		2		◎		○	
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			○		○	
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1			○		○	
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○		○	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		○		○	
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○		○	
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		○		○	
		海外研修	1 通		2				○	○
		スポーツ実技	1 後		1		○		○	
		心理学概論	1 前		2		○		○	
		生命倫理学	1 後		1		○		○	
		健康科学	1 前	1			○		○	
		教育学	1 後		2		○			○
		哲学	1 前		2		○			○
		現代史	1 後		2		○			○
		東北の歴史	1 前		2		○			○
		ジェンダー論	1 前		2		○			○
		生活の中の物理学	1 前		2		○			○
		生活の中の化学	1 後		2		○			○
		生活の中の生物学	1 後		2		○			○
		生活と地球科学	1 前		2		○			○
		データサイエンス入門	1 前	2			○			○
		コミュニケーション論	1 後		2		◎			○
		憲法と法律	1 後		2		○			○
		生活と経済	1 前		2		○			○
		教養としての政治学	1 前		2		○			○

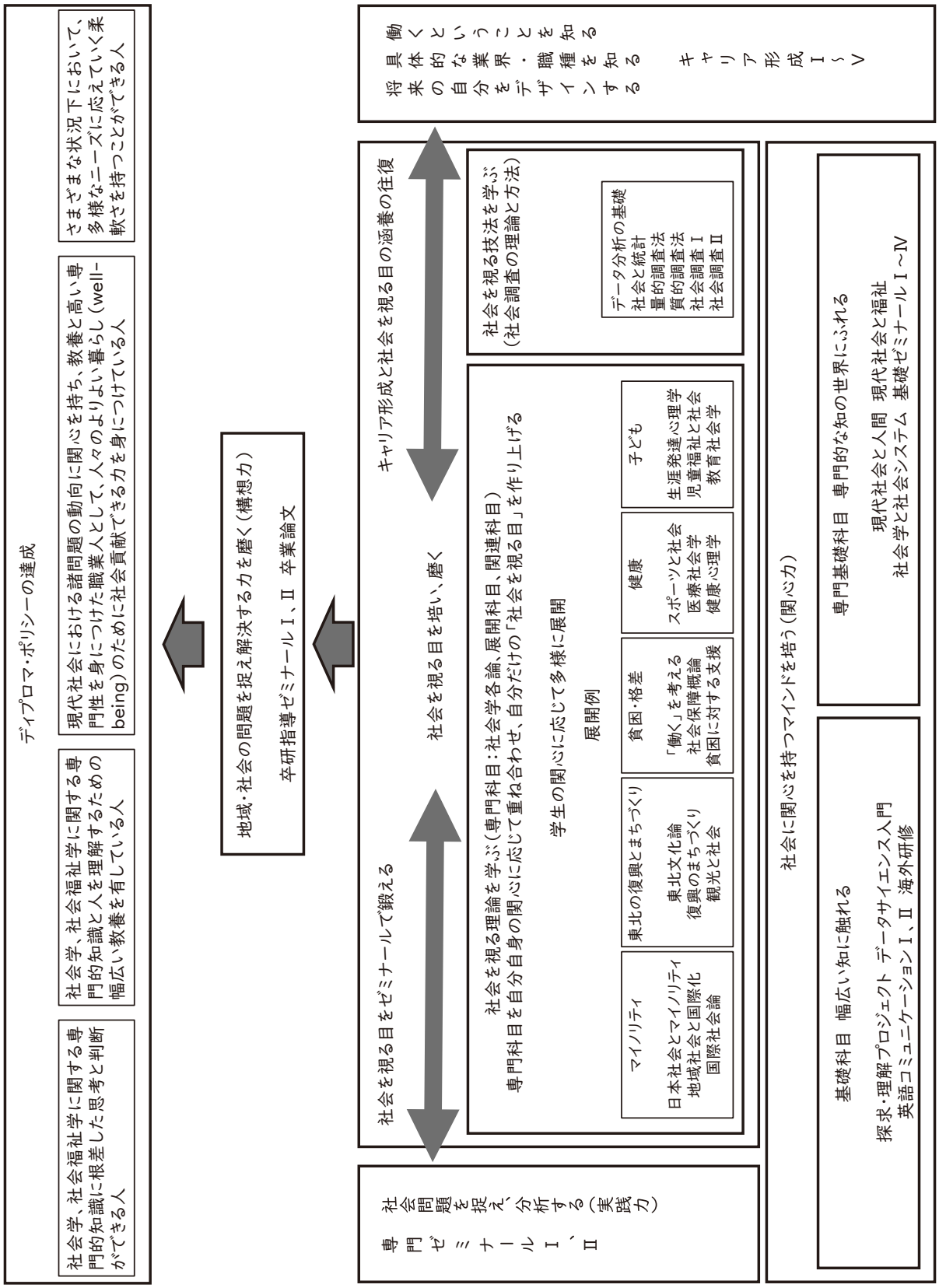
授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
	健康スポーツ	夏季野外活動実習	1前		1			○	○	
		冬季野外活動実習	1後		1			○	○	
		アダプテッド・スポーツ論	1後		2		○	◎		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1前		1				◎	○
		レクリエーション理論	1後		2		◎	○		
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1前	2			○			◎
		キャリア形成Ⅱ	1後	2			○			◎
		キャリア形成Ⅲ	2前	2				◎	○	
		キャリア形成Ⅳ	2後	2					◎	○
		キャリア形成Ⅴ	3通		2				○	◎
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	1前	2			◎	○		
		文化人類学	1前		2		○	○		
		現代社会と福祉	1前	2			◎	○		
		社会福祉政策	1後		2		○	○		
		現代社会学入門Ⅰ	1前	2			◎	○		
		現代社会学入門Ⅱ	1後	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅠ	1前	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅡ	1後	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅢ	2前	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅣ	2後	2			◎	○		
	基幹科目	心理学と心理的支援	1前		2		◎		○	
		医学概論	1後		2		◎		○	
		法学概論	1前		2		○		○	
		経済学概論	1前		2		○		○	
		社会学史	1後		2		◎		○	
		政治学	1後		2		○		○	
		社会学と社会システム	1前	2			◎		○	
		社会調査の基礎	1後	2			◎		○	
		社会調査法	2前		2		○		○	
専門科目	福祉士共通科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2前	2			◎			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前	2			◎			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後	2				◎	◎	
		社会保障Ⅰ	2前	2			◎	○		
		社会保障Ⅱ	2後	2			◎	○		
		障害者福祉	2前	2			◎	○		
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2後	2					◎	○
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3前	2					◎	○
		権利擁護を支える法制度	2後	2			◎	○		
		刑事司法と福祉	3前	2			◎	○		
		ソーシャルワーク基礎演習	2前	1				◎	◎	
	ソーシャルワーク系科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2後	2				◎	◎	
		児童・家庭福祉	2前	2			◎	○		
		高齢者福祉	2前	2				◎	◎	
		福祉サービスの組織と経営	3前		2		◎	○		
		貧困に対する支援	3前		2		◎	○		
		保健医療と福祉	2前		2		◎	○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3前		2		○	◎		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3後		2		○	◎		

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	ソーシャルワーク系科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2後		1			◎	◎	
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	3前		1			◎	◎	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3後		1			◎	◎	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	4後		1			◎	◎	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後		1			◎		◎
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		1			◎		◎
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4後		1			◎		◎
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	3後		2			◎	◎	
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	4通		4			◎	◎	
	メンタルヘルス系科目	精神医学Ⅰ	2前		2		◎	○		
		精神医学Ⅱ	2後		2		◎	○		
		精神保健学Ⅰ	3前		2		◎	○		
		精神保健学Ⅱ	3後		2		◎	○		
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2前		2		◎	○		
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2後		2		◎	○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	3前		2		◎	○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	3後		2		◎	○		
		精神障害リハビリテーション論	3前		2		◎	○		
		精神保健福祉制度論	2後		2		◎	○		
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	3前		1			◎	◎	
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	3後		1			◎	◎	
		精神保健福祉援助演習Ⅲ	4通		1			◎	◎	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2後		1			◎		◎
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	3通		1			◎		◎
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4通		1			◎		◎
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3後		3			◎	◎	
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	4通		2			◎	◎	
	専門職連携科目	チーム医療福祉論	2後		1			◎	◎	◎
		専門職連携論	3前	2				◎	◎	◎
		専門職連携セミナー	3後		1		◎	◎	◎	◎
		生活支援工学	2後		2			◎		
		地域医療マネジメントⅠ	3前		2		◎			○
		地域医療マネジメントⅡ	3後		2				◎	○
		スクールソーシャルワーク論	3前		2		◎	○		
		スクールソーシャルワーク演習	3後		1			◎	◎	
		スクールソーシャルワーク実習指導	4前		1			◎		◎
		スクールソーシャルワーク実習	4通		2			◎	◎	
	関連科目	障害者支援論	2後		2		◎	○		
		児童・家庭支援論	2後		2		○	◎		
		高齢者支援論	2後		2		◎	○		
		生涯発達心理学	2前		2		◎			◎
		健康心理学	2後		2		◎			◎
		社会心理学	3前		2		◎		◎	
		コミュニティ心理学	3後		2			◎		◎
		レクリエーション実技Ⅰ	2前		1				◎	○
		レクリエーション実技Ⅱ	2後		1				◎	○
		レクリエーション現場実習	2通		1			◎		○
		地域社会健康論	3前		2			○		○

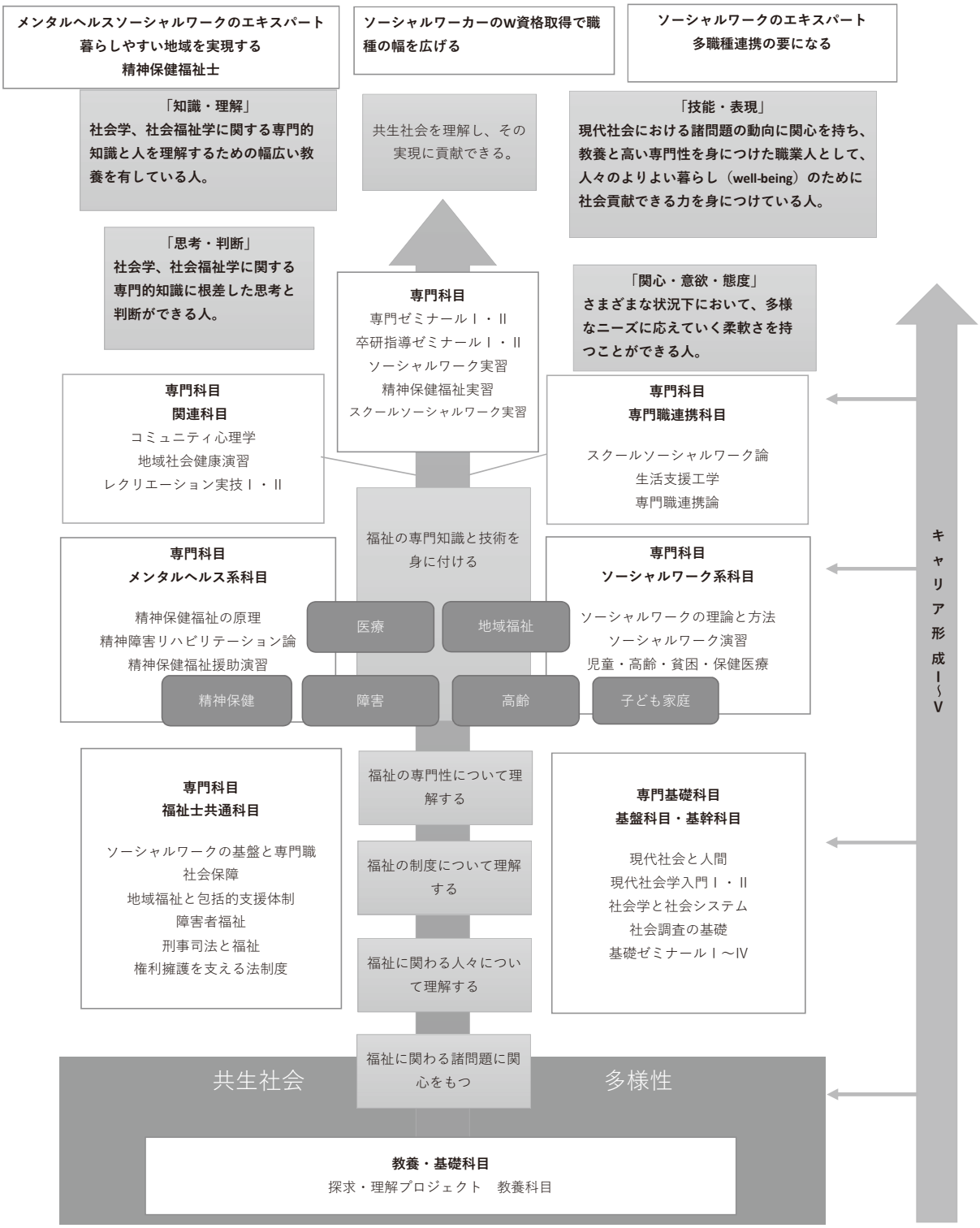
授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	関連科目	地域社会健康演習	3 後		2			○		○
		非営利組織論	3 前		2		◎	◎		
		災害と社会	3 後		2			○		○
		復興のまちづくり	3 後		2		○	◎		
	専門研究	専門ゼミナールⅠ	3 前	2				◎	◎	
		専門ゼミナールⅡ	3 後	2				◎	◎	
		卒研指導ゼミナールⅠ	4 前	2				◎	◎	
		卒研指導ゼミナールⅡ	4 後	2				◎	◎	
		卒業論文	4 通		4			◎	◎	

※ 2024 年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025 年度シラバスで確認してください。

社会学専攻カリキュラムツリー



社会福祉学専攻カリキュラムツリー



現代社会学部　現代社会学科　社会学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		海外研修							
		心理学概論	スポーツ実技						
		健康科学	生命倫理学						
		哲学	教育学						
		東北の歴史	現代史						
		ジェンダー論							
		生活の中の物理学	生活の中の化学						
		生活と地球科学	生活の中の生物学						
		データサイエンス入門							
		生活と経済	コミュニケーション論						
		教養としての政治学	憲法と法律						
	健康スポーツ	夏季野外活動実習	冬季野外活動実習						
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	アダプテッド・スポーツ論						
			レクリエーション理論						
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	キャリア形成Ⅱ	キャリア形成Ⅲ	キャリア形成Ⅳ	キャリア形成Ⅴ			
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	社会福祉政策						
		文化人類学							
		現代社会と福祉							
		現代社会学入門Ⅰ	現代社会学入門Ⅱ						
		基礎ゼミナールⅠ	基礎ゼミナールⅡ	基礎ゼミナールⅢ	基礎ゼミナールⅣ				
	基幹科目	心理学と心理的支援	医学概論	社会調査法					
		法学概論	社会学史						
		経済学概論	政治学						
		社会学と社会システム	社会調査の基礎						

必　修
選　択

現代社会学部　現代社会学科　社会学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
専門科目	社会学各論			労働と社会	メディア社会論	教育社会学	医療社会学		
				地域社会学	家族社会学	非営利組織論	災害と社会		
				異文化コミュニケーション論	ジェンダー社会学		日本社会とマイノリティ		
				情報技術と社会	都市社会学		社会的アイデンティティ論		
				スポーツと社会	マスコミュニケーション論				
				食と社会	国際社会論				
				社会保障概論					
	社会調査の理論と方法			データ分析の基礎	量的調査法	社会調査 I	社会調査 II		
				社会と統計	質的調査法				
	展開科目 現代社会研究					現代社会 I	現代社会 V		
						現代社会 II	現代社会 VI		
						現代社会 III	現代社会 VII		
						現代社会 IV	現代社会 VIII		
	展開科目 地域と東北を学ぶ			地域文化論	農と社会	東北文化論	地域と民俗		
				環境と社会		観光と社会	復興のまちづくり		
							地域社会と国際化		
	関連科目			生涯発達心理学	健康心理学	社会心理学	コミュニティ心理学		
				社会保障 I	社会保障 II	貧困に対する支援			
					障がいと社会	地域社会健康論	地域社会健康演習		
					エイジングと社会				
					児童福祉と社会				
				レクリエーション実技 I	レクリエーション実技 II				
				レクリエーション現場実習					
	専門研究					専門ゼミナール I	専門ゼミナール II	卒研指導ゼミナール I	卒研指導ゼミナール II
								卒業論文	
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期

■ 必　修
□ 選　択

現代社会学部　現代社会学科　社会福祉学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		海外研修							
		心理学概論	スポーツ実技						
		健康科学	生命倫理学						
		哲学	教育学						
		東北の歴史	現代史						
		ジェンダー論							
		生活の中の物理学	生活の中の化学						
		生活と地球科学	生活の中の生物学						
		データサイエンス入門							
		生活と経済	コミュニケーション論						
		教養としての政治学	憲法と法律						
	健康スポーツ	夏季野外活動実習	冬季野外活動実習						
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	アダプテッド・スポーツ論						
			レクリエーション理論						
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	キャリア形成Ⅱ	キャリア形成Ⅲ	キャリア形成Ⅳ	キャリア形成Ⅴ			
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	社会福祉政策						
		文化人類学							
		現代社会と福祉							
		現代社会学入門Ⅰ	現代社会学入門Ⅱ						
		基礎ゼミナールⅠ	基礎ゼミナールⅡ	基礎ゼミナールⅢ	基礎ゼミナールⅣ				
	基幹科目	心理学と心理的支援	医学概論	社会調査法					
		法学概論	社会学史						
		経済学概論	政治学						
		社会学と社会システム	社会調査の基礎						
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期

必　修
選　択

現代社会学部　現代社会学科　社会福祉学専攻　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
専門科目	福祉士共通科目			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 社会保障Ⅰ 障害者福祉 ソーシャルワーク基礎演習	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 社会保障Ⅱ 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 権利擁護を支える法制度	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 刑事司法と福祉			
	ソーシャルワーク系科目			児童・家庭福祉 高齢者福祉 保健医療と福祉	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	福祉サービスの組織と経営 貧困に対する支援 ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ ソーシャルワーク演習Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ	ソーシャルワーク実習Ⅱ	ソーシャルワーク演習Ⅳ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
	メンタルヘルス系科目			精神医学Ⅰ 精神保健福祉の原理Ⅰ	精神医学Ⅱ 精神保健福祉の原理Ⅱ 精神保健福祉制度論 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	精神保健学Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉援助演習Ⅰ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	精神保健学Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ 精神保健福祉援助演習Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅰ	精神保健福祉援助演習Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 精神保健福祉援助実習Ⅱ	
	専門職連携科目				チーム医療福祉論 生活支援工学	専門職連携論 地域医療マネジメントⅠ スクールソーシャルワーク論	専門職連携セミナー 地域医療マネジメントⅡ スクールソーシャルワーク演習	スクールソーシャルワーク実習指導 スクールソーシャルワーク実習	
	関連科目			生涯発達心理学 レクリエーション実技Ⅰ レクリエーション現場実習	障害者支援論 児童・家庭支援論 高齢者支援論 健康心理学 レクリエーション実技Ⅱ	非営利組織論 社会心理学 地域社会健康論	災害と社会 復興のまちづくり コミュニティ心理学 地域社会健康演習		
	専門研究					専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅡ	卒研指導ゼミナールⅠ 卒業論文	卒研指導ゼミナールⅡ

■ 必　修
□ 選　択

2025 年度以降入学者用

【現代社会学部】
［現代社会学科・社会学専攻］

		授業科目の名称	ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	12	01	1	25	1	1通		2		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	12	01	1	25	2	1前・1後		2		
		現代社会を視る	1	12	01	1	25	3	1前・1後		2		
		生活の中の科学	1	12	01	1	25	4	1前・1後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	12	01	1	25	5	1前・1後		2		
		社会活動入門	1	12	01	1	25	6	1前・1後		2		
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	7	1前	1			
		英語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	8	1後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	9	1前		1		選択科目5科目から2単位以上修得すること。
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	10	1後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	11	1前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	12	1後		1		
		海外研修	1	12	02	1	25	13	1通		2		
		スポーツ実技	1	12	02	1	25	14	1後		1		
		心理学概論	1	12	02	1	25	15	1前		2		
		生命倫理学	1	12	02	1	25	16	1後		1		
		健康科学	1	12	02	1	25	17	1前	1			
		教育学	1	12	02	1	25	18	1後		2		
		哲学	1	12	02	1	25	19	1前		2		
		現代史	1	12	02	1	25	20	1後		2		
		東北の歴史	1	12	02	1	25	21	1前		2		
		ジェンダー論	1	12	02	1	25	22	1前		2		
		生活の中の物理学	1	12	02	1	25	23	1前		2		
		生活の中の化学	1	12	02	1	25	24	1後		2		
		生活の中の生物学	1	12	02	1	25	25	1後		2		
		生活と地球科学	1	12	02	1	25	26	1前		2		
		データサイエンス入門	1	12	02	1	25	27	1前	2			
		コミュニケーション論	1	12	02	1	25	28	1後		2		
		憲法と法律	1	12	02	1	25	29	1後		2		
		生活と経済	1	12	02	1	25	30	1前		2		
		教養としての政治学	1	12	02	1	25	31	1前		2		
	健康スポーツ	夏季野外活動実習	1	12	02	1	25	32	1前		1		
		冬季野外活動実習	1	12	02	1	25	33	1後		1		
		アダプテッド・スポーツ論	1	12	02	1	25	34	1後		2		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	12	02	1	25	35	1前		1		
		レクリエーション理論	1	12	02	1	25	36	1後		2		
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1	12	02	1	25	37	1前	2			
		キャリア形成Ⅱ	1	12	02	1	25	38	1後	2			
		キャリア形成Ⅲ	1	12	02	2	25	39	2前	2			
		キャリア形成Ⅳ	1	12	02	2	25	40	2後	2			
		キャリア形成Ⅴ	1	12	02	3	25	41	3通		2		
		基礎科目の合計								13	57	0	27単位以上修得すること。
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	1	12	03	1	25	42	1前	2			
		文化人類学	1	12	03	1	25	43	1前		2		
		現代社会と福祉	1	12	03	1	25	44	1前	2			※「社会福祉政策」については、本学で社会福祉士、精神保健福祉士の各資格の取得を希望する場合は、必ず修得すること。
		社会福祉政策	1	12	03	2	25	45	1後		2		
		現代社会学入門Ⅰ	1	12	03	2	25	46	1前	2			
		現代社会学入門Ⅱ	1	12	03	2	25	47	1後	2			
		基礎ゼミナールⅠ	1	12	03	1	25	48	1前	2			
		基礎ゼミナールⅡ	1	12	03	1	25	49	1後	2			
		基礎ゼミナールⅢ	1	12	03	2	25	50	2前	2			
		基礎ゼミナールⅣ	1	12	03	2	25	51	2後	2			
	基幹科目	心理学と心理的支援	1	12	03	1	25	52	1前		2		選択科目7科目から6単位以上修得すること。ただし、本学で社会福祉士、精神保健福祉士、社会調査士の各資格の取得を希望する場合は、取得要件を確認して、必要な科目を必ず修得すること。
		医学概論	1	12	03	1	25	53	1後		2		
		法学概論	1	12	03	2	25	54	1前		2		
		経済学概論	1	12	03	2	25	55	1前		2		
		社会学史	1	12	03	2	25	56	1後		2		
		政治学	1	12	03	2	25	57	1後		2		
		社会学と社会システム	1	12	03	2	25	58	1前	2			
		社会調査の基礎	1	12	03	2	25	59	1後	2			
		社会調査法	1	12	03	2	25	60	2前		2		
		専門基礎科目の合計								20	18	0	26単位以上履修すること。

2025 年度以降入学者用

【現代社会学部】
［現代社会学科・社会学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	社会学各論	労働と社会	1	12	04	2	25	61	2 前		2		
		地域社会学	1	12	04	2	25	62	2 前		2		
		異文化コミュニケーション論	1	12	04	2	25	63	2 前		2		
		情報技術と社会	1	12	04	2	25	64	2 前		2		
		スポーツと社会	1	12	04	2	25	65	2 前		2		
		食と社会	1	12	04	2	25	66	2 前		2		
		メディア社会論	1	12	04	3	25	67	2 後		2		
		家族社会学	1	12	04	3	25	68	2 後		2		
		ジェンダー社会学	1	12	04	3	25	69	2 後		2		
		都市社会学	1	12	04	2	25	70	2 後		2		
		マスコミュニケーション論	1	12	04	3	25	71	2 後		2		
		社会保障概論	1	12	04	2	25	72	2 前		2		
		国際社会論	1	12	04	3	25	73	2 後		2		
		教育社会学	1	12	04	3	25	74	3 前		2		
		非営利組織論	1	12	04	3	25	75	3 前		2		
		医療社会学	1	12	04	3	25	76	3 後		2		
		災害と社会	1	12	04	3	25	77	3 後		2		
		日本社会とマイノリティ	1	12	04	3	25	78	3 後		2		
		社会的アイデンティティ論	1	12	04	3	25	79	3 後		2		
	社会調査の理論と方法	データ分析の基礎	1	12	04	2	25	80	2 前		2		本学で社会調査士資格取得を希望する場合は、すべて修得すること。
		社会と統計	1	12	04	2	25	81	2 前		2		
		量的調査法	1	12	04	3	25	82	2 後		2		
		質的調査法	1	12	04	3	25	83	2 後		2		
		社会調査Ⅰ	1	12	04	3	25	84	3 前		2		
		社会調査Ⅱ	1	12	04	3	25	85	3 後		2		
展開科目	現代社会研究	現代社会Ⅰ	1	12	04	3	25	86	3 前		2		選択科目 8 科目から 4 単位以上修得すること。
		現代社会Ⅱ	1	12	04	3	25	87	3 前		2		
		現代社会Ⅲ	1	12	04	3	25	88	3 前		2		
		現代社会Ⅳ	1	12	04	3	25	89	3 前		2		
		現代社会Ⅴ	1	12	04	4	25	90	3 後		2		
		現代社会Ⅵ	1	12	04	4	25	91	3 後		2		
		現代社会Ⅶ	1	12	04	4	25	92	3 後		2		
		現代社会Ⅷ	1	12	04	4	25	93	3 後		2		
	地域と東北を学ぶ	地域文化論	1	12	04	2	25	94	2 前		2		
		環境と社会	1	12	04	2	25	95	2 前		2		
		農と社会	1	12	04	3	25	96	2 後		2		
		東北文化論	1	12	04	4	25	97	3 前		2		
		観光と社会	1	12	04	4	25	98	3 前		2		
		地域と民俗	1	12	04	4	25	99	3 後		2		
		復興のまちづくり	1	12	04	4	25	100	3 後		2		
		地域社会と国際化	1	12	04	4	25	101	3 後		2		
関連科目		生涯発達心理学	1	12	04	2	25	102	2 前		2		
		健康心理学	1	12	04	2	25	103	2 後		2		
		社会心理学	1	12	04	3	25	104	3 前		2		
		コミュニティ心理学	1	12	04	3	25	105	3 後		2		
		社会保障Ⅰ	1	12	04	2	25	106	2 前		2		
		社会保障Ⅱ	1	12	04	2	25	107	2 後		2		
		障がいと社会	1	12	04	2	25	108	2 後		2		
		エイジングと社会	1	12	04	2	25	109	2 後		2		
		児童福祉と社会	1	12	04	2	25	110	2 後		2		
		レクリエーション実技Ⅰ	1	12	04	2	25	111	2 前		1		
		レクリエーション実技Ⅱ	1	12	04	2	25	112	2 後		1		
		レクリエーション現場実習	1	12	04	2	25	113	2 通		1		
		貧困に対する支援	1	12	04	3	25	114	3 前		2		
		地域社会健康論	1	12	04	3	25	115	3 前		2		
		地域社会健康演習	1	12	04	3	25	116	3 後		2		
	専門研究	専門ゼミナールⅠ	1	12	04	4	25	117	3 前	2			
		専門ゼミナールⅡ	1	12	04	4	25	118	3 後	2			
		卒研指導ゼミナールⅠ	1	12	04	4	25	119	4 前	2			
		卒研指導ゼミナールⅡ	1	12	04	4	25	120	4 後	2			
		卒業論文	1	12	04	4	25	121	4 通		4		
		専門科目の合計								8	113	0	12 単位以上修得すること。
		現代社会学科　社会学専攻の総合計								41	188	0	124 単位以上修得すること。

区　分	卒業要件単位数 必修	選択 選択必修	区分別要件	区分問わず
基 礎 科 目	13	4	10	（※ 2）左記に加えて 20 単位以上
専門基礎科目	20	6	（※ 1）39	
専 門 科 目	8	4		
小　計	41	14	69	
合　計	124			

（※ 1）専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、専門基礎科目及び専門科目から区分に関係なく 39 単位以上を修得しなければならない。

（※ 2）基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 20 単位以上を修得しなければならない。

2021～2024 年度入学者用

【現代社会学部】
［現代社会学科・社会学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
教養・基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	12	01	1	21	1	1 通		3		選択科目６科目から２単位以上修得すること。
		生命を考える	1	12	01	1	21	2	1 前・1 後		2		
		人間文化探求	1	12	01	1	21	3	1 通		2		
		生活の中の科学	1	12	01	1	21	4	1 前・1 後		2		
		地域活動・ボランティア	1	12	01	1	21	5	1 通		2		
		現代社会を視る	1	12	01	1	21	6	1 前・1 後		2		
		ボランティア探求	1	12	01	2	21	7	2 通		2		
	教養科目	現代文章表現	1	12	02	1	21	8	1 前	2			
		現代文章作法	1	12	02	1	21	9	1 後	2			
		哲学	1	12	02	1	21	10	1 前		2		
		文学	1	12	02	1	21	11	1 前		2		
		芸術論	1	12	02	1	21	12	1 前		2		
		現代史	1	12	02	1	21	13	1 前		2		
		東北の歴史	1	12	02	1	21	14	1 後		2		
		心理学と心理的支援	1	12	02	1	21	15	1 前	2			
		コミュニケーション論	1	12	02	1	21	16	1 後		2		
		文化人類学	1	12	02	1	21	17	1 前		2		
		教育学	1	12	02	1	21	18	1 後		2		
		憲法	1	12	02	1	21	19	1 後		2		
		健康科学	1	12	02	1	21	20	1 前		2		
		基礎生物学	1	12	02	1	21	21	1 前		2		
		生命倫理学	1	12	02	1	21	22	1 後		2		
		環境論入門	1	12	02	1	21	23	1 後		2		
		地球科学	1	12	02	1	21	24	1 後		2		
		医学概論	1	12	02	1	21	25	1 後	2			
		情報リテラシー基礎	1	12	02	1	21	26	1 前	1			
		情報リテラシー応用	1	12	02	1	21	27	1 後	1			
	外国語	英語Ⅰ	1	12	02	1	21	28	1 前	1			
		英語Ⅱ	1	12	02	1	21	29	1 後	1			
		英語Ⅲ	1	12	02	2	21	30	2 前		1		
		英語Ⅳ	1	12	02	2	21	31	2 後		1		
		中国語Ⅰ	1	12	02	1	21	32	1 前		1		
		中国語Ⅱ	1	12	02	1	21	33	1 後		1		
		韓国語Ⅰ	1	12	02	1	21	34	1 前		1		
		韓国語Ⅱ	1	12	02	1	21	35	1 後		1		
		海外研修	1	12	02	1	21	36	1 通		2		
	健康運動科目	健康スポーツ実技	1	12	02	1	21	37	1 前	1			
		夏季野外活動実習	1	12	02	1	21	38	1 前		1		
		冬季野外活動実習	1	12	02	1	21	39	1 後		1		
		アダプテッド・スポーツ論	1	12	02	1	21	40	1 後		2		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	12	02	1	21	41	1 前		1		
		レクリエーション理論	1	12	02	1	21	42	1 後		2		
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1	12	02	1	21	43	1 前	2			
		キャリア形成Ⅱ	1	12	02	1	21	44	1 後	2			
		キャリア形成Ⅲ	1	12	02	2	21	45	2 前	2			
		キャリア形成Ⅳ	1	12	02	2	21	46	2 後	2			
		キャリア形成Ⅴ	1	12	02	3	21	47	3 通		2		
		キャリア形成Ⅵ	1	12	02	3	21	48	4 通		2		
基礎科目の合計										21	62		27 単位以上修得すること。
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	1	12	03	1	21	49	1 前	2			
		現代社会と福祉	1	12	03	1	21	50	1 前	2			
		社会福祉政策	1	12	03	2	21	51	1 後	2			
		共生社会論	1	12	03	2	21	52	1 後	2			
		現代社会基礎演習Ⅰ	1	12	03	1	21	53	1 通	2			
		現代社会基礎演習Ⅱ	1	12	03	2	21	54	2 通	2			
	基幹科目	社会学と社会システム	1	12	03	2	21	55	1 前	2			
		法学概論	1	12	03	2	21	56	1 前		2		
		経済学概論	1	12	03	2	21	57	1 前		2		
		政治学	1	12	03	2	21	58	1 後		2		
		社会学史	1	12	03	2	21	59	1 後	2			
		社会調査の基礎	1	12	03	2	21	60	1 後	2			
		社会調査法	1	12	03	2	21	61	2 前		2		
専門基礎科目の合計										18	8		

2021～2024 年度入学者用

【現代社会学部】
［現代社会学科・社会学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	理論と方法	産業と労働の社会学	1	12	04	2	21	62	2 前		2		
		地域社会学	1	12	04	2	21	63	2 前		2		
		都市社会学	1	12	04	2	21	64	2 前		2		
		データ分析の基礎	1	12	04	2	21	65	2 前		2		
		社会と統計	1	12	04	2	21	66	2 前		2		
		メディア社会学	1	12	04	2	21	67	2 前		2		
		量的調査法	1	12	04	3	21	68	2 後		2		
		質的調査法	1	12	04	3	21	69	2 後		2		
		家族社会学	1	12	04	3	21	70	2 後		2		
		ジェンダー社会学	1	12	04	3	21	71	2 後		2		
		情報社会論	1	12	04	3	21	72	2 後		2		
		マスコミュニケーション論	1	12	04	3	21	73	2 後		2		
		教育社会学	1	12	04	3	21	74	3 前		2		
		医療社会学	1	12	04	3	21	75	3 後		2		
		非営利組織論	1	12	04	3	21	76	3 前		2		
		防災の社会学	1	12	04	3	21	77	3 後		2		
		社会調査演習	1	12	04	3	21	78	2 通		2		
		社会調査実習	1	12	04	4	21	79	3 通		4		
	展開科目 課題研究	現代社会Ⅰ	1	12	04	3	21	80	3 前		2		選択科目８科目から４単位以上修得すること。
		現代社会Ⅱ	1	12	04	3	21	81	3 前		2		
		現代社会Ⅲ	1	12	04	3	21	82	3 前		2		
		現代社会Ⅳ	1	12	04	3	21	83	3 前		2		
		現代社会Ⅴ	1	12	04	4	21	84	3 後		2		
		現代社会Ⅵ	1	12	04	4	21	85	3 後		2		
		現代社会Ⅶ	1	12	04	4	21	86	3 後		2		
		現代社会Ⅷ	1	12	04	4	21	87	3 後		2		
	東北社会研究	地域文化論	1	12	04	2	21	88	2 前		2		
		東北文化論	1	12	04	4	21	89	3 前		2		
		東北の民俗	1	12	04	4	21	90	3 後		2		
		環境と農業	1	12	04	3	21	91	2 前		2		
		持続的農業論	1	12	04	3	21	92	2 後		2		
		グリーンツーリズム論	1	12	04	4	21	93	3 前		2		
		復興のまちづくり	1	12	04	4	21	94	3 後		2		
	関連科目	生涯発達心理学	1	12	04	2	21	95	2 前		2		
		健康心理学	1	12	04	2	21	96	2 後		2		
		社会心理学	1	12	04	3	21	97	3 前		2		
		コミュニティ心理学	1	12	04	3	21	98	3 後		2		
		社会保障Ⅰ	1	12	04	2	21	99	2 前		2		
		社会保障Ⅱ	1	12	04	2	21	100	2 後		2		
		障害者支援論	1	12	04	2	21	101	2 後		2		
		高齢者支援論	1	12	04	2	21	102	2 後		2		
		児童・家庭支援論	1	12	04	2	21	103	2 後		2		
		レクリエーション実技Ⅰ	1	12	04	2	21	104	2 前		1		
		レクリエーション実技Ⅱ	1	12	04	2	21	105	2 後		1		
		レクリエーション現場実習	1	12	04	2	21	106	2 通		1		
		介護予防論	1	12	04	3	21	107	3 前		2		
		介護予防実習	1	12	04	3	21	108	3 後		1		
	卒業研究	専門演習Ⅰ	1	12	04	4	21	109	3 前	2			
		専門演習Ⅱ	1	12	04	4	21	110	3 後	2			
		卒業研究	1	12	04	4	21	111	4 通	4			
専門科目の合計										8	92		
総合計										47	162	0	124 単位以上修得すること。

区　分	卒業要件単位数 必修	選択
教養・基礎科目	21	6
専門基礎科目	18	71
専門科目	8	
小計	47	77
合計	124	

2025 年度以降入学者用

【現代社会学部】
［現代社会学科・社会福祉学専攻］

		授業科目の名称	ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	12	01	1	25	1	1通		2		選択科目６科目から２単位以上修得すること。
		生命を考える	1	12	01	1	25	2	1前・1後		2		
		現代社会を視る	1	12	01	1	25	3	1前・1後		2		
		生活の中の科学	1	12	01	1	25	4	1前・1後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	12	01	1	25	5	1前・1後		2		
		社会活動入門	1	12	01	1	25	6	1前・1後		2		
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	7	1前	1			
		英語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	8	1後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	9	1前		1		選択科目５科目から２単位以上修得すること。
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	10	1後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	11	1前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	12	1後		1		
		海外研修	1	12	02	1	25	13	1通		2		
		スポーツ実技	1	12	02	1	25	14	1後		1		
		心理学概論	1	12	02	1	25	15	1前		2		
		生命倫理学	1	12	02	1	25	16	1後		1		
		健康科学	1	12	02	1	25	17	1前	1			
		教育学	1	12	02	1	25	18	1後		2		
		哲学	1	12	02	1	25	19	1前		2		
		現代史	1	12	02	1	25	20	1後		2		
		東北の歴史	1	12	02	1	25	21	1前		2		
		ジェンダー論	1	12	02	1	25	22	1前		2		
		生活の中の物理学	1	12	02	1	25	23	1前		2		
		生活の中の化学	1	12	02	1	25	24	1後		2		
		生活の中の生物学	1	12	02	1	25	25	1後		2		
		生活と地球科学	1	12	02	1	25	26	1前		2		
		データサイエンス入門	1	12	02	1	25	27	1前	2			
		コミュニケーション論	1	12	02	1	25	28	1後		2		
		憲法と法律	1	12	02	1	25	29	1後		2		
		生活と経済	1	12	02	1	25	30	1前		2		
		教養としての政治学	1	12	02	1	25	31	1前		2		
	健康スポーツ	夏季野外活動実習	1	12	02	1	25	32	1前		1		
		冬季野外活動実習	1	12	02	1	25	33	1後		1		
		アダプテッド・スポーツ論	1	12	02	1	25	34	1後		2		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	12	02	1	25	35	1前		1		
		レクリエーション理論	1	12	02	1	25	36	1後		2		
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1	12	02	1	25	37	1前	2			
		キャリア形成Ⅱ	1	12	02	1	25	38	1後	2			
		キャリア形成Ⅲ	1	12	02	2	25	39	2前	2			
		キャリア形成Ⅳ	1	12	02	2	25	40	2後	2			
		キャリア形成Ⅴ	1	12	02	3	25	41	3通		2		
		基礎科目の合計								13	57	0	27単位以上修得すること。
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	1	12	03	1	25	42	1前	2			※「社会福祉政策」については、本学で社会福祉士、精神保健福祉士の各資格の取得を希望する場合は、必ず修得すること。
		文化人類学	1	12	03	1	25	43	1前		2		
		現代社会と福祉	1	12	03	1	25	44	1前	2			
		社会福祉政策	1	12	03	2	25	45	1後		2		
		現代社会学入門Ⅰ	1	12	03	2	25	46	1前	2			
		現代社会学入門Ⅱ	1	12	03	2	25	47	1後	2			
		基礎ゼミナールⅠ	1	12	03	1	25	48	1前	2			
		基礎ゼミナールⅡ	1	12	03	1	25	49	1後	2			
		基礎ゼミナールⅢ	1	12	03	2	25	50	2前	2			
		基礎ゼミナールⅣ	1	12	03	2	25	51	2後	2			
	基幹科目	心理学と心理的支援	1	12	03	1	25	52	1前		2		選択科目７科目から６単位以上修得すること。ただし、本学で社会福祉士、精神保健福祉士、社会調査士の各資格の取得を希望する場合は、取得要件を確認して、必要な科目を必ず修得すること。
		医学概論	1	12	03	1	25	53	1後		2		
		法学概論	1	12	03	2	25	54	1前		2		
		経済学概論	1	12	03	2	25	55	1前		2		
		社会学史	1	12	03	2	25	56	1後		2		
		政治学	1	12	03	2	25	57	1後		2		
		社会学と社会システム	1	12	03	2	25	58	1前	2			
		社会調査の基礎	1	12	03	2	25	59	1後	2			
		社会調査法	1	12	03	2	25	60	2前		2		
		専門基礎科目の合計								20	18	0	26単位以上履修すること。

2025 年度以降入学者用

【現代社会学部】
［現代社会学科・社会福祉学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	福祉士共通科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	12	04	2	25	61	2前	2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1	12	04	2	25	62	2前	2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	1	12	04	2	25	63	2後	2			
		社会保障Ⅰ	1	12	04	2	25	64	2前	2			
		社会保障Ⅱ	1	12	04	2	25	65	2後	2			
		障害者福祉	1	12	04	2	25	66	2前	2			
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	1	12	04	2	25	67	2後	2			
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	1	12	04	3	25	68	3前	2			
		権利擁護を支える法制度	1	12	04	2	25	69	2後	2			
		刑事司法と福祉	1	12	04	3	25	70	3前	2			
		ソーシャルワーク基礎演習	1	12	04	2	25	71	2前	1			
	ソーシャルワーク系科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1	12	04	2	25	72	2後	2			
		児童・家庭福祉	1	12	04	2	25	73	2前	2			
		高齢者福祉	1	12	04	2	25	74	2前	2			
		福祉サービスの組織と経営	1	12	04	3	25	75	3前		2		
		貧困に対する支援	1	12	04	3	25	76	3前		2		
		保健医療と福祉	1	12	04	2	25	77	2前		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	1	12	04	3	25	78	3前		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	1	12	04	3	25	79	3後		2		
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	1	12	04	2	25	80	2後		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	1	12	04	3	25	81	3前		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	1	12	04	3	25	82	3後		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	1	12	04	4	25	83	4後		1		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	12	04	2	25	84	2後		1		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	12	04	3	25	85	3前		1		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	12	04	4	25	86	4後		1		
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	1	12	04	4	25	87	3後		2		
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	1	12	04	4	25	88	4通		4		
	メンタルヘルス系科目	精神医学Ⅰ	1	12	04	2	25	89	2前		2		
		精神医学Ⅱ	1	12	04	2	25	90	2後		2		
		精神保健学Ⅰ	1	12	04	3	25	91	3前		2		
		精神保健学Ⅱ	1	12	04	3	25	92	3後		2		
		精神保健福祉の原理Ⅰ	1	12	04	2	25	93	2前		2		
		精神保健福祉の原理Ⅱ	1	12	04	2	25	94	2後		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	1	12	04	3	25	95	3前		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	1	12	04	3	25	96	3後		2		
		精神障害リハビリテーション論	1	12	04	3	25	97	3前		2		
		精神保健福祉制度論	1	12	04	2	25	98	2後		2		
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	1	12	04	3	25	99	3前		1		
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	1	12	04	3	25	100	3後		1		
		精神保健福祉援助演習Ⅲ	1	12	04	4	25	101	4通		1		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	1	12	04	2	25	102	2後		1		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	1	12	04	3	25	103	3通		1		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	1	12	04	4	25	104	4通		1		
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	1	12	04	4	25	105	3後		3		
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	1	12	04	4	25	106	4通		2		
	専門職連携科目	チーム医療福祉論	1	12	04	2	25	107	2後		1		
		専門職連携論	1	12	04	3	25	108	3前	2			
		専門職連携セミナー	1	12	04	3	25	109	3後		1		
		生活支援工学	1	12	04	2	25	110	2後		2		
		地域医療マネジメントⅠ	1	12	04	3	25	111	3前		2		
		地域医療マネジメントⅡ	1	12	04	3	25	112	3後		2		
		スクールソーシャルワーク論	1	12	04	3	25	113	3前		2		
		スクールソーシャルワーク演習	1	12	04	3	25	114	3後		1		
		スクールソーシャルワーク実習指導	1	12	04	4	25	115	4前		1		
		スクールソーシャルワーク実習	1	12	04	4	25	116	4通		2		
	関連科目	障害者支援論	1	12	04	2	25	117	2後		2		
		児童・家庭支援論	1	12	04	2	25	118	2後		2		
		高齢者支援論	1	12	04	2	25	119	2後		2		
		生涯発達心理学	1	12	04	2	25	120	2前		2		
		健康心理学	1	12	04	2	25	121	2後		2		
		社会心理学	1	12	04	3	25	122	3前		2		
		コミュニティ心理学	1	12	04	3	25	123	3後		2		
		レクリエーション実技Ⅰ	1	12	04	2	25	124	2前		1		

2025 年度以降入学者用

【現代社会学部】
［現代社会学科・社会福祉学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	関連科目	レクリエーション実技Ⅱ	1	12	04	2	25	125	2後		1		
		レクリエーション現場実習	1	12	04	2	25	126	2通		1		
		地域社会健康論	1	12	04	3	25	127	3前		2		
		地域社会健康演習	1	12	04	3	25	128	3後		2		
		非営利組織論	1	12	04	3	25	129	3前		2		
		災害と社会	1	12	04	3	25	130	3後		2		
		復興のまちづくり	1	12	04	4	25	131	3後		2		
	専門研究	専門ゼミナールⅠ	1	12	04	4	25	132	3前	2			
		専門ゼミナールⅡ	1	12	04	4	25	133	3後	2			
		卒研指導ゼミナールⅠ	1	12	04	4	25	134	4前	2			
		卒研指導ゼミナールⅡ	1	12	04	4	25	135	4後	2			
		卒業論文	1	12	04	4	25	136	4通		4		
		専門科目の合計								37	99	0	37単位以上修得すること。
		現代社会学科　社会福祉学専攻の総合計								70	174	0	124単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数			
	必修	選択		
		選択必修	区分別要件	区分問わず
基礎科目	13	4	10	（※2）左記に加えて20単位以上
専門基礎科目	20	6	（※1）14	
専門科目	37	—		
小計	70	10	44	
合計	124			

（※1）専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、専門基礎科目及び専門科目から区分に関係なく 14 単位以上を修得しなければならない。

（※2）基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 20 単位以上を修得しなければならない。

2021～2024 年度入学者用

【現代社会学部】
［現代社会学科・社会福祉学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
教養・基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	12	01	1	21	1	1通		3		選択科目６科目から２単位以上修得すること。
		生命を考える	1	12	01	1	21	2	1前・1後		2		
		人間文化探求	1	12	01	1	21	3	1通		2		
		生活の中の科学	1	12	01	1	21	4	1前・1後		2		
		地域活動・ボランティア	1	12	01	1	21	5	1通		2		
		現代社会を視る	1	12	01	1	21	6	1前・1後		2		
		ボランティア探求	1	12	01	2	21	7	2通		2		
	一般科目	現代文章表現	1	12	02	1	21	8	1前	2			
		現代文章作法	1	12	02	1	21	9	1後	2			
		哲学	1	12	02	1	21	10	1前		2		
		文学	1	12	02	1	21	11	1前		2		
		芸術論	1	12	02	1	21	12	1前		2		
		現代史	1	12	02	1	21	13	1前		2		
		東北の歴史	1	12	02	1	21	14	1後		2		
		心理学と心理的支援	1	12	02	1	21	15	1前	2			
		コミュニケーション論	1	12	02	1	21	16	1後		2		
		文化人類学	1	12	02	1	21	17	1前		2		
		教育学	1	12	02	1	21	18	1後		2		
		憲法	1	12	02	1	21	19	1後		2		
		健康科学	1	12	02	1	21	20	1前		2		
		基礎生物学	1	12	02	1	21	21	1前		2		
		生命倫理学	1	12	02	1	21	22	1後		2		
		環境論入門	1	12	02	1	21	23	1後		2		
		地球科学	1	12	02	1	21	24	1後		2		
		医学概論	1	12	02	1	21	25	1後	2			
		情報リテラシー基礎	1	12	02	1	21	26	1前	1			
		情報リテラシー応用	1	12	02	1	21	27	1後	1			
	外国語	英語Ⅰ	1	12	02	1	21	28	1前	1			
		英語Ⅱ	1	12	02	1	21	29	1後	1			
		英語Ⅲ	1	12	02	2	21	30	2前		1		
		英語Ⅳ	1	12	02	2	21	31	2後		1		
		中国語Ⅰ	1	12	02	1	21	32	1前		1		
		中国語Ⅱ	1	12	02	1	21	33	1後		1		
		韓国語Ⅰ	1	12	02	1	21	34	1前		1		
		韓国語Ⅱ	1	12	02	1	21	35	1後		1		
		海外研修	1	12	02	1	21	36	1通		2		
	健康運動科目	健康スポーツ実技	1	12	02	1	21	37	1前	1			
		夏季野外活動実習	1	12	02	1	21	38	1前		1		
		冬季野外活動実習	1	12	02	1	21	39	1後		1		
		アダプテッド・スポーツ論	1	12	02	1	21	40	1後		2		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	12	02	1	21	41	1前		1		
		レクリエーション理論	1	12	02	1	21	42	1後		2		
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1	12	02	1	21	43	1前	2			
		キャリア形成Ⅱ	1	12	02	1	21	44	1後	2			
		キャリア形成Ⅲ	1	12	02	2	21	45	2前	2			
		キャリア形成Ⅳ	1	12	02	2	21	46	2後	2			
		キャリア形成Ⅴ	1	12	02	3	21	47	3通		2		
		キャリア形成Ⅵ	1	12	02	3	21	48	4通		2		
		基礎科目の合計								21	62		27単位以上修得すること
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	1	12	03	1	21	49	1前	2			
		現代社会と福祉	1	12	03	1	21	50	1前	2			
		社会福祉政策	1	12	03	2	21	51	1後	2			
		共生社会論	1	12	03	2	21	52	1後	2			
		現代社会基礎演習Ⅰ	1	12	03	1	21	53	1通	2			
		現代社会基礎演習Ⅱ	1	12	03	2	21	54	2通	2			
	基幹科目	社会学と社会システム	1	12	03	2	21	55	1前	2			
		法学概論	1	12	03	2	21	56	1前		2		
		経済学概論	1	12	03	2	21	57	1前		2		
		政治学	1	12	03	2	21	58	1後		2		
		社会学史	1	12	03	2	21	59	1後	2			
		社会調査の基礎	1	12	03	2	21	60	1後	2			
		社会調査法	1	12	03	2	21	61	2前		2		
		専門基礎科目の合計								18	8		

2021～2024 年度入学者用

【現代社会学部】
［現代社会学科・社会福祉学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	福祉士共通科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	12	04	2	21	62	2前	2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1	12	04	2	21	63	2前	2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	1	12	04	2	21	64	2後	2			
		社会保障Ⅰ	1	12	04	2	21	65	2前	2			
		社会保障Ⅱ	1	12	04	2	21	66	2後	2			
		障害者福祉	1	12	04	2	21	67	2前	2			
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	1	12	04	2	21	68	2後	2			
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	1	12	04	3	21	69	3前	2			
		権利擁護を支える法制度	1	12	04	2	21	70	2後	2			
		刑事司法と福祉	1	12	04	3	21	71	3前	2			
		ソーシャルワーク基礎演習	1	12	04	2	21	72	2前	1			
	ソーシャルワーク系科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1	12	04	2	21	73	2後	2			
		児童・家庭福祉	1	12	04	2	21	74	2前	2			
		高齢者福祉	1	12	04	2	21	75	2前	2			
		福祉サービスの組織と経営	1	12	04	3	21	76	3前		2		
		貧困に対する支援	1	12	04	3	21	77	3前		2		
		保健医療と福祉	1	12	04	2	21	78	2前		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	1	12	04	3	21	79	3前		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	1	12	04	3	21	80	3後		2		
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	1	12	04	2	21	81	2後		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	1	12	04	3	21	82	3前		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	1	12	04	3	21	83	3後		1		
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	1	12	04	4	21	84	4後		1		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	12	04	2	21	85	2後		1		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	12	04	3	21	86	3前		1		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	12	04	4	21	87	4後		1		
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	1	12	04	4	21	88	3後		2		
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	1	12	04	4	21	89	4通		4		
	メンタルヘルス系科目	精神医学Ⅰ	1	12	04	2	21	90	2前		2		
		精神医学Ⅱ	1	12	04	2	21	91	2後		2		
		精神保健学Ⅰ	1	12	04	3	21	92	3前		2		
		精神保健学Ⅱ	1	12	04	3	21	93	3後		2		
		精神保健福祉の原理Ⅰ	1	12	04	2	21	94	2前		2		
		精神保健福祉の原理Ⅱ	1	12	04	2	21	95	2後		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	1	12	04	3	21	96	3前		2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	1	12	04	3	21	97	3後		2		
		精神障害リハビリテーション論	1	12	04	3	21	98	3前		2		
		精神保健福祉制度論	1	12	04	2	21	99	2後		2		
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	1	12	04	3	21	100	3前		1		
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	1	12	04	3	21	101	3後		1		
		精神保健福祉援助演習Ⅲ	1	12	04	4	21	102	4通		1		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	1	12	04	2	21	103	2後		1		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	1	12	04	3	21	104	3通		1		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	1	12	04	4	21	105	4通		1		
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	1	12	04	4	21	106	3後		3		
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	1	12	04	4	21	107	4通		2		
	専門職連携科目	チーム医療福祉論	1	12	04	2	21	108	2後		1		
		専門職連携論	1	12	04	3	21	109	3前	2			
		専門職連携セミナー	1	12	04	3	21	110	3後		1		
		生活支援工学	1	12	04	2	21	111	2後		2		
		医療ソーシャルワーク論	1	12	04	3	21	112	3前		2		
		医療福祉マネジメント論	1	12	04	3	21	113	3後		2		
		スクールソーシャルワーク論	1	12	04	3	21	114	3前		2		
		スクールソーシャルワーク演習	1	12	04	3	21	115	3後		1		
		スクールソーシャルワーク実習指導	1	12	04	4	21	116	4前		1		
		スクールソーシャルワーク実習	1	12	04	4	21	117	4通		2		
	関連科目	障害者支援論	1	12	04	2	21	118	2後		2		
		児童・家庭支援論	1	12	04	2	21	119	2後		2		
		高齢者支援論	1	12	04	2	21	120	2後		2		
		生涯発達心理学	1	12	04	2	21	121	2前		2		
		健康心理学	1	12	04	2	21	122	2後		2		
		社会心理学	1	12	04	3	21	123	3前		2		
		コミュニティ心理学	1	12	04	3	21	124	3後		2		
		レクリエーション実技Ⅰ	1	12	04	2	21	125	2前		1		

2021～2024 年度入学者用

【現代社会学部】
［現代社会学科・社会福祉学専攻］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	関連科目	レクリエーション実技Ⅱ	1	12	04	2	21	126	2後		1		
		レクリエーション現場実習	1	12	04	2	21	127	2通		1		
		介護予防論	1	12	04	3	21	128	3前		2		
		介護予防実習	1	12	04	3	21	129	3後		1		
		非営利組織論	1	12	04	3	21	130	3前		2		
		防災の社会学	1	12	04	3	21	131	3後		2		
		復興のまちづくり	1	12	04	4	21	132	3後		2		
	卒業研究	専門演習Ⅰ	1	12	04	4	21	133	3前	2			
		専門演習Ⅱ	1	12	04	4	21	134	3後	2			
		卒業研究	1	12	04	4	21	135	4通	4			
専門科目の合計										37	94		
総合計										76	164		124 単位以上修得すること

区　　分	卒業要件単位数	
	必修	選択
教養・基礎科目	21	6
専門基礎科目	18	42
専門科目	37	
小　　計	76	48
合　　計	124	

社会学専攻　カリキュラム対照表

2021～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	※			
生命を考える	1 前・1 後		2	生命を考える	1 前・1 後		2
人間文化探求	1 通		2	※			
生活の中の科学	1 前・1 後		2	生活の中の科学	1 前・1 後		2
地域活動・ボランティア	1 通		2	※			
現代社会を視る	1 前・1 後		2	現代社会を視る	1 前・1 後		2
ボランティア探求	2 通		2	※			
現代文章表現	1 前	2		※			
現代文章作法	1 後	2		※			
哲学	1 前		2	哲学	1 前		2
文学	1 前		2	※			
芸術論	1 前		2	※			
現代史	1 前		2	現代史	1 後		2
東北の歴史	1 後		2	東北の歴史	1 前		2
心理学と心理的支援	1 前	2		心理学と心理的支援	1 前		2
コミュニケーション論	1 後		2	コミュニケーション論	1 後		2
文化人類学	1 前		2	文化人類学	1 前		2
教育学	1 後		2	教育学	1 後		2
憲法	1 後		2	憲法と法律	1 後		2
健康科学	1 前		2	※			
基礎生物学	1 前		2	生活の中の生物学	1 後		2
生命倫理学	1 後		2	※			
環境論入門	1 後		2	※			
地球科学	1 後		2	生活と地球科学	1 前		2
医学概論	1 後	2		医学概論	1 後		2
情報リテラシー基礎	1 前	1		※			
情報リテラシー応用	1 後	1		※			
英語Ⅰ	1 前	1		英語コミュニケーションⅠ	1 前	1	
英語Ⅱ	1 後	1		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1	
英語Ⅲ	2 前		1	※			
英語Ⅳ	2 後		1	※			
中国語Ⅰ	1 前		1	中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1
中国語Ⅱ	1 後		1	中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1
韓国語Ⅰ	1 前		1	韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1
韓国語Ⅱ	1 後		1	韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1
海外研修	1 通		2	海外研修	1 通		2
健康スポーツ実技	1 前	1		スポーツ実技	1 後		1
夏季野外活動実習	1 前		1	夏季野外活動実習	1 前		1
冬季野外活動実習	1 後		1	冬季野外活動実習	1 後		1
アダプテッド・スポーツ論	1 後		2	アダプテッド・スポーツ論	1 後		2
アダプテッド・スポーツ基礎実習	1 前		1	アダプテッド・スポーツ基礎実習	1 前		1
レクリエーション理論	1 後		2	レクリエーション理論	1 後		2
キャリア形成Ⅰ	1 前	2		キャリア形成Ⅰ	1 前	2	
キャリア形成Ⅱ	1 後	2		キャリア形成Ⅱ	1 後	2	
キャリア形成Ⅲ	2 前	2		キャリア形成Ⅲ	2 前	2	
キャリア形成Ⅳ	2 後	2		キャリア形成Ⅳ	2 後	2	
キャリア形成Ⅴ	3 通		2	キャリア形成Ⅴ	3 通		2
キャリア形成Ⅵ	4 通		2	※			
現代社会と人間	1 前	2		現代社会と人間	1 前	2	
現代社会と福祉	1 前	2		現代社会と福祉	1 前	2	
社会福祉政策	1 後	2		社会福祉政策	1 後		2
共生社会論	1 後	2		現代社会学入門Ⅰ	1 前	2	
現代社会基礎演習Ⅰ	1 通	2		※			
現代社会基礎演習Ⅱ	2 通	2		※			
社会学と社会システム	1 前	2		社会学と社会システム	1 前	2	
法学概論	1 前		2	法学概論	1 前		2
経済学概論	1 前		2	経済学概論	1 前		2
政治学	1 後		2	政治学	1 後		2
社会学史	1 後	2		社会学史	1 後		2
社会調査の基礎	1 後	2		社会調査の基礎	1 後	2	
社会調査法	2 前		2	社会調査法	2 前		2
産業と労働の社会学	2 前		2	労働と社会	2 前		2
地域社会学	2 前		2	地域社会学	2 前		2
都市社会学	2 前		2	都市社会学	2 後		2

社会学専攻　カリキュラム対照表

2021～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
データ分析の基礎	2 前		2	データ分析の基礎	2 前		2
社会と統計	2 前		2	社会と統計	2 前		2
メディア社会学	2 前		2	メディア社会論	2 後		2
量的調査法	2 後		2	量的調査法	2 後		2
質的調査法	2 後		2	質的調査法	2 後		2
家族社会学	2 後		2	家族社会学	2 後		2
ジェンダー社会学	2 後		2	ジェンダー社会学	2 後		2
情報社会論	2 後		2	情報技術と社会	2 前		2
マスコミュニケーション論	2 後		2	マスコミュニケーション論	2 後		2
教育社会学	3 前		2	教育社会学	3 前		2
医療社会学	3 後		2	医療社会学	3 後		2
非営利組織論	3 前		2	非営利組織論	3 前		2
防災の社会学	3 後		2	災害と社会	3 後		2
社会調査演習	2 通		2	※			
社会調査実習	3 通		4	※			
現代社会Ⅰ	3 前		2	現代社会Ⅰ	3 前		2
現代社会Ⅱ	3 前		2	現代社会Ⅱ	3 前		2
現代社会Ⅲ	3 前		2	現代社会Ⅲ	3 前		2
現代社会Ⅳ	3 前		2	現代社会Ⅳ	3 前		2
現代社会Ⅴ	3 後		2	現代社会Ⅴ	3 後		2
現代社会Ⅵ	3 後		2	現代社会Ⅵ	3 後		2
現代社会Ⅶ	3 後		2	現代社会Ⅶ	3 後		2
現代社会Ⅷ	3 後		2	現代社会Ⅷ	3 後		2
地域文化論	2 前		2	地域文化論	2 前		2
東北文化論	3 前		2	東北文化論	3 前		2
東北の民俗	3 後		2	地域と民俗	3 後		2
環境と農業	2 前		2	環境と社会	2 前		2
持続的農業論	2 後		2	農と社会	2 後		2
グリーンツーリズム論	3 前		2	観光と社会	3 前		2
復興のまちづくり	3 後		2	復興のまちづくり	3 後		2
生涯発達心理学	2 前		2	生涯発達心理学	2 前		2
健康心理学	2 後		2	健康心理学	2 後		2
社会心理学	3 前		2	社会心理学	3 前		2
コミュニティ心理学	3 後		2	コミュニティ心理学	3 後		2
社会保障Ⅰ	2 前		2	社会保障Ⅰ	2 前		2
社会保障Ⅱ	2 後		2	社会保障Ⅱ	2 後		2
障害者支援論	2 後		2	障がいと社会	2 後		2
高齢者支援論	2 後		2	エイジングと社会	2 後		2
児童・家庭支援論	2 後		2	児童福祉と社会	2 後		2
レクリエーション実技Ⅰ	2 前		1	レクリエーション実技Ⅰ	2 前		1
レクリエーション実技Ⅱ	2 後		1	レクリエーション実技Ⅱ	2 後		1
レクリエーション現場実習	2 通		1	レクリエーション現場実習	2 通		1
介護予防論	3 前		2	地域社会健康論	3 前		2
介護予防実習	3 後		1	地域社会健康演習	3 後		2
専門演習Ⅰ	3 前	2		※			
専門演習Ⅱ	3 後	2		※			
卒業研究	4 通	4		※			
				輝ける者	1 通		2
				経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2
				社会活動入門	1 前・1 後		2
				心理学概論	1 前		2
				生命倫理学	1 後		1
				健康科学	1 前	1	
				ジェンダー論	1 前		2
				生活の中の物理学	1 前		2
				生活の中の化学	1 後		2
				データサイエンス入門	1 前	2	
				生活と経済	1 前		2
				教養としての政治学	1 前		2
				現代社会学入門Ⅱ	1 後	2	
				基礎ゼミナールⅠ	1 前	2	
				基礎ゼミナールⅡ	1 後	2	
				基礎ゼミナールⅢ	2 前	2	
				基礎ゼミナールⅣ	2 後	2	

社会学専攻　カリキュラム対照表

2021～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
				異文化コミュニケーション論	2 前		2
				スポーツと社会	2 前		2
				食と社会	2 前		2
				社会保障概論	2 前		2
				国際社会論	2 後		2
				日本社会とマイノリティ	3 後		2
				社会的アイデンティティ論	3 後		2
				社会調査Ⅰ	3 前		2
				社会調査Ⅱ	3 後		2
				地域社会と国際化	3 後		2
				貧困に対する支援	3 前		2
				専門ゼミナールⅠ	3 前	2	
				専門ゼミナールⅡ	3 後	2	
				卒研指導ゼミナールⅠ	4 前	2	
				卒研指導ゼミナールⅡ	4 後	2	
				卒業論文	4 通		4

注）※は別途開講する。

社会福祉学専攻　カリキュラム対照表

2021～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	※			
生命を考える	1 前・1 後		2	生命を考える	1 前・1 後		2
人間文化探求	1 通		2	※			
生活の中の科学	1 前・1 後		2	生活の中の科学	1 前・1 後		2
地域活動・ボランティア	1 通		2	※			
現代社会を視る	1 前・1 後		2	現代社会を視る	1 前・1 後		2
ボランティア探求	2 通		2	※			
現代文章表現	1 前	2		※			
現代文章作法	1 後	2		※			
哲学	1 前		2	哲学	1 前		2
文学	1 前		2	※			
芸術論	1 前		2	※			
現代史	1 前		2	現代史	1 後		2
東北の歴史	1 後		2	東北の歴史	1 前		2
心理学と心理的支援	1 前	2		心理学と心理的支援	1 前		2
コミュニケーション論	1 後		2	コミュニケーション論	1 後		2
文化人類学	1 前		2	文化人類学	1 前		2
教育学	1 後		2	教育学	1 後		2
憲法	1 後		2	憲法と法律	1 後		2
健康科学	1 前		2	※			
基礎生物学	1 前		2	生活の中の生物学	1 後		2
生命倫理学	1 後		2	※			
環境論入門	1 後		2	※			
地球科学	1 後		2	生活と地球科学	1 前		2
医学概論	1 後	2		医学概論	1 後		2
情報リテラシー基礎	1 前	1		※			
情報リテラシー応用	1 後	1		※			
英語Ⅰ	1 前	1		英語コミュニケーションⅠ	1 前	1	
英語Ⅱ	1 後	1		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1	
英語Ⅲ	2 前		1	※			
英語Ⅳ	2 後		1	※			
中国語Ⅰ	1 前		1	中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1
中国語Ⅱ	1 後		1	中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1
韓国語Ⅰ	1 前		1	韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1
韓国語Ⅱ	1 後		1	韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1
海外研修	1 通		2	海外研修	1 通		2
健康スポーツ実技	1 前	1		スポーツ実技	1 後		1
夏季野外活動実習	1 前		1	夏季野外活動実習	1 前		1
冬季野外活動実習	1 後		1	冬季野外活動実習	1 後		1
アダプテッド・スポーツ論	1 後		2	アダプテッド・スポーツ論	1 後		2
アダプテッド・スポーツ基礎実習	1 前		1	アダプテッド・スポーツ基礎実習	1 前		1
レクリエーション理論	1 後		2	レクリエーション理論	1 後		2
キャリア形成Ⅰ	1 前	2		キャリア形成Ⅰ	1 前	2	
キャリア形成Ⅱ	1 後	2		キャリア形成Ⅱ	1 後	2	
キャリア形成Ⅲ	2 前	2		キャリア形成Ⅲ	2 前	2	
キャリア形成Ⅳ	2 後	2		キャリア形成Ⅳ	2 後	2	
キャリア形成Ⅴ	3 通		2	キャリア形成Ⅴ	3 通		2
キャリア形成Ⅵ	4 通		2	※			
現代社会と人間	1 前	2		現代社会と人間	1 前	2	
現代社会と福祉	1 前	2		現代社会と福祉	1 前	2	
社会福祉政策	1 後	2		社会福祉政策	1 後		2
共生社会論	1 後	2		現代社会学入門Ⅰ	1 前	2	
現代社会基礎演習Ⅰ	1 通	2		※			
現代社会基礎演習Ⅱ	2 通	2		※			
社会学と社会システム	1 前	2		社会学と社会システム	1 前	2	
法学概論	1 前		2	法学概論	1 前		2
経済学概論	1 前		2	経済学概論	1 前		2
政治学	1 後		2	政治学	1 後		2
社会学史	1 後	2		社会学史	1 後		2
社会調査の基礎	1 後	2		社会調査の基礎	1 後	2	
社会調査法	2 前		2	社会調査法	2 前		2
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2 前	2		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2 前	2	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2 前	2		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2 前	2	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2 後	2		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2 後	2	

社会福祉学専攻　カリキュラム対照表

2021～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
社会保障Ⅰ	2 前	2		社会保障Ⅰ	2 前	2	
社会保障Ⅱ	2 後	2		社会保障Ⅱ	2 後	2	
障害者福祉	2 前	2		障害者福祉	2 前	2	
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2 後	2		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2 後	2	
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3 前	2		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3 前	2	
権利擁護を支える法制度	2 後	2		権利擁護を支える法制度	2 後	2	
刑事司法と福祉	3 前	2		刑事司法と福祉	3 前	2	
ソーシャルワーク基礎演習	2 前	1		ソーシャルワーク基礎演習	2 前	1	
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2 後	2		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2 後	2	
児童・家庭福祉	2 前	2		児童・家庭福祉	2 前	2	
高齢者福祉	2 前	2		高齢者福祉	2 前	2	
福祉サービスの組織と経営	3 前		2	福祉サービスの組織と経営	3 前		2
貧困に対する支援	3 前		2	貧困に対する支援	3 前		2
保健医療と福祉	2 前		2	保健医療と福祉	2 前		2
ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3 前		2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3 前		2
ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3 後		2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3 後		2
ソーシャルワーク演習Ⅰ	2 後		1	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2 後		1
ソーシャルワーク演習Ⅱ	3 前		1	ソーシャルワーク演習Ⅱ	3 前		1
ソーシャルワーク演習Ⅲ	3 後		1	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3 後		1
ソーシャルワーク演習Ⅳ	4 後		1	ソーシャルワーク演習Ⅳ	4 後		1
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2 後		1	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2 後		1
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3 前		1	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3 前		1
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4 後		1	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4 後		1
ソーシャルワーク実習Ⅰ	3 後		2	ソーシャルワーク実習Ⅰ	3 後		2
ソーシャルワーク実習Ⅱ	4 通		4	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4 通		4
精神医学Ⅰ	2 前		2	精神医学Ⅰ	2 前		2
精神医学Ⅱ	2 後		2	精神医学Ⅱ	2 後		2
精神保健学Ⅰ	3 前		2	精神保健学Ⅰ	3 前		2
精神保健学Ⅱ	3 後		2	精神保健学Ⅱ	3 後		2
精神保健福祉の原理Ⅰ	2 前		2	精神保健福祉の原理Ⅰ	2 前		2
精神保健福祉の原理Ⅱ	2 後		2	精神保健福祉の原理Ⅱ	2 後		2
ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	3 前		2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	3 前		2
ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	3 後		2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	3 後		2
精神障害リハビリテーション論	3 前		2	精神障害リハビリテーション論	3 前		2
精神保健福祉制度論	2 後		2	精神保健福祉制度論	2 後		2
精神保健福祉援助演習Ⅰ	3 前		1	精神保健福祉援助演習Ⅰ	3 前		1
精神保健福祉援助演習Ⅱ	3 後		1	精神保健福祉援助演習Ⅱ	3 後		1
精神保健福祉援助演習Ⅲ	4 通		1	精神保健福祉援助演習Ⅲ	4 通		1
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2 後		1	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2 後		1
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	3 通		1	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	3 通		1
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4 通		1	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4 通		1
精神保健福祉援助実習Ⅰ	3 後		3	精神保健福祉援助実習Ⅰ	3 後		3
精神保健福祉援助実習Ⅱ	4 通		2	精神保健福祉援助実習Ⅱ	4 通		2
チーム医療福祉論	2 後		1	チーム医療福祉論	2 後		1
専門職連携論	3 前	2		専門職連携論	3 前	2	
専門職連携セミナー	3 後		1	専門職連携セミナー	3 後		1
生活支援工学	2 後		2	生活支援工学	2 後		2
医療ソーシャルワーク論	3 前		2	地域医療マネジメントⅠ	3 前		2
医療福祉マネジメント論	3 後		2	地域医療マネジメントⅡ	3 後		2
スクールソーシャルワーク論	3 前		2	スクールソーシャルワーク論	3 前		2
スクールソーシャルワーク演習	3 後		1	スクールソーシャルワーク演習	3 後		1
スクールソーシャルワーク実習指導	4 前		1	スクールソーシャルワーク実習指導	4 前		1
スクールソーシャルワーク実習	4 通		2	スクールソーシャルワーク実習	4 通		2
障害者支援論	2 後		2	障害者支援論	2 後		2
児童・家庭支援論	2 後		2	児童・家庭支援論	2 後		2
高齢者支援論	2 後		2	高齢者支援論	2 後		2
生涯発達心理学	2 前		2	生涯発達心理学	2 前		2
健康心理学	2 後		2	健康心理学	2 後		2
社会心理学	3 前		2	社会心理学	3 前		2
コミュニティ心理学	3 後		2	コミュニティ心理学	3 後		2
レクリエーション実技Ⅰ	2 前		1	レクリエーション実技Ⅰ	2 前		1
レクリエーション実技Ⅱ	2 後		1	レクリエーション実技Ⅱ	2 後		1
レクリエーション現場実習	2 通		1	レクリエーション現場実習	2 通		1
介護予防論	3 前		2	地域社会健康論	3 前		2

社会福祉学専攻　カリキュラム対照表

2021～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
介護予防実習	3 後		1	地域社会健康演習	3 後		2
非営利組織論	3 前		2	非営利組織論	3 前		2
防災の社会学	3 後		2	災害と社会	3 後		2
復興のまちづくり	3 後		2	復興のまちづくり	3 後		2
専門演習Ⅰ	3 前	2		※			
専門演習Ⅱ	3 後	2		※			
卒業研究	4 通	4		※			
				輝ける者	1 通		2
				経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2
				社会活動入門	1 前・1 後		2
				心理学概論	1 前		2
				生命倫理学	1 後		1
				健康科学	1 前	1	
				ジェンダー論	1 前		2
				生活の中の物理学	1 前		2
				生活の中の化学	1 後		2
				データサイエンス入門	1 前	2	
				生活と経済	1 前		2
				教養としての政治学	1 前		2
				現代社会学入門Ⅱ	1 後	2	
				基礎ゼミナールⅠ	1 前	2	
				基礎ゼミナールⅡ	1 後	2	
				基礎ゼミナールⅢ	2 前	2	
				基礎ゼミナールⅣ	2 後	2	
				専門ゼミナールⅠ	3 前	2	
				専門ゼミナールⅡ	3 後	2	
				卒研指導ゼミナールⅠ	4 前	2	
				卒研指導ゼミナールⅡ	4 後	2	
				卒業論文	4 通		4

注）※は別途開講する。

東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科における社会学専攻及び社会福祉学専攻の配属に関する規程

┌2020 年 10 月 7 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）
第 1 条　この規程は、東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科に在籍する学生（以下「学生」という。）の 2 年次進級時における社会学専攻及び社会福祉学専攻への配属の取扱いについて定めるものとする。
（配属）
第 2 条　学生は、1 年次の指定された期間に社会学専攻又は社会福祉学専攻への配属を申し出るものとする。
2　学長は、配属の申し出があった学生に対して、2 年次進級時までに社会学専攻又は社会福祉学専攻への配属を行うものとする。
（社会福祉学専攻への配属要件）
第 3 条　社会福祉学専攻への配属を希望する学生は、1 年次後期において、別表に定める授業科目の単位をすべて修得していなければならない。
2　疾病その他やむを得ない理由により、前項の要件を満たすことができなかった学生は、その理由を具して現代社会学科長に申請することにより、配属判定会議に諮ることができる。
（配属の選考及び決定）
第 4 条　現代社会学科長は、学生の 1 年次における GPA、試験等によって選考を行い、配属判定会議及び教授会の議を経て、学長が配属を決定する。
2　配属判定会議は、次のとおり組織する。
⑴　現代社会学科長
⑵　現代社会学科から選出された教務委員会委員
⑶　現代社会学科から選出された実習委員会委員
⑷　その他現代社会学科長が必要と認める者
（雑則）
第 5 条　この規程に定めるもののほか、社会学専攻及び社会福祉学専攻の配属に関し必要な事項は、大学運営会議の議を経て、学長が別に定める。
（規程の改廃）
第 6 条　この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　　則

この細則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

附　　則

1　細則の題名を「東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科における社会学専攻及び社会福祉学専攻の配属に関する細則」から「東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科における社会学専攻及び社会福祉学専攻の配属に関する規程」に改正する
2　この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

附　　則

この附則は、2025 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2024 年度以前に入学した者については、改正後の規程に関わらず、なお従前の例による。

別　表

授業科目の名称			配当年次	単位数		
				必修	選択	自由
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と福祉	1 前	2		
		社会福祉政策	1 後		2	
	基幹科目	心理学と心理的支援	1 前		2	
		医学概論	1 後		2	
		社会学と社会システム	1 前	2		
		社会調査の基礎	1 後	2		

東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科における進級に関する細則

┌2020 年 10 月 7 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）
第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 9 条の 3 の規定に基づき、東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科に在籍する学生の進級に関する取扱いについて定めるものとする。
（定義）
第 2 条　この細則において「留年」を、次のとおり定義する。
⑴　2 年次から 3 年次への進級が認められなかった場合に、2 年次に留め置くこと。
⑵　所定の修業年限（4 年）を超えて在学すること。
（進級基準）
第 3 条　2 年次から 3 年次への進級基準は、次の各号のとおりとする。
⑴　必修科目のうち、基礎ゼミナールⅠ、基礎ゼミナールⅡ、基礎ゼミナールⅢ及び基礎ゼミナールⅣのすべての単位を修得していること、又は 2 年次終了時の通算 GPA が 2.0 以上であること。
⑵　1、2 年次配当のすべての科目のうち、合計 33 単位以上を修得していること。
（進級の決定）
第 4 条　学生の進級は、進級判定会議及び教授会の議を経て、学長が決定する。
2　前条の基準を満たさない者については、進級判定会議において個別に審査したうえで、進級を認めることができる。
3　進級判定会議は、次のとおり組織する。
⑴　現代社会学科長
⑵　現代社会学科から選出された教務委員会委員
⑶　その他現代社会学科長が必要と認める者
（留年）
第 5 条　前条第 1 項によって進級が認められなかった学生は、留年とする。
（細則の改廃）
第 6 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　　則

この細則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

附　　則

この細則は、2022 年 9 月 7 日から施行する。

附　　則

この細則は、2025 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2024 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東北文化学園大学現代社会学部における履修登録単位数の上限に関する細則

┌2021年2月16日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第１条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第５条の２の規定に基づき、東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科に在籍する学生の履修登録できる単位数の上限について定めるものとする。

（対象科目）

第２条　学生の履修登録の上限単位数の対象となる授業科目（以下「対象科目」という。）は、卒業の要件として履修する授業科目（以下「卒業要件科目」という。）とする。ただし、次の各号に定める科目は、対象科目から除くことができる。

⑴　別表に定める科目

⑵　４年次学生については、過去に成績がＤ評価となった科目

（履修登録上限単位数）

第３条　現代社会学科における１年間の履修登録の上限単位数は、49 単位とする。

（履修登録単位数の特例）

第４条　学部長は、次の各号に該当する学生に対して、前条に定める履修登録単位数の上限を超える履修を認めることができる。

⑴　３年次編入学生及び転学部等学生

⑵　前年度の GPA が 3.0 以上の学生

（雑則）

第５条　この細則に定めるもののほか、授業科目の履修登録の上限に関し必要な事項は、現代社会学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第６条　この細則の改廃は、学長が行う。

附　　則

この細則は、2021 年４月１日から施行する。

附　　則

この細則は、2025 年４月１日から施行する。ただし、2024 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別　表

科目区分	科　　目　　名	配当年次	単位数
探求・理解プロジェクト	輝ける者	１通	2
	生命を考える	１前・１後	2
	経済・法律・世界を視る	１前・１後	2
	生活の中の科学	１前・１後	2
	現代社会を視る	１前・１後	2
	社会活動入門	１前・１後	2
キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	１前	2
	キャリア形成Ⅱ	１後	2
	キャリア形成Ⅲ	２前	2
	キャリア形成Ⅳ	２後	2
	キャリア形成Ⅴ	３通	2
基盤科目	基礎ゼミナールⅠ	１前	2
	基礎ゼミナールⅡ	１後	2
	基礎ゼミナールⅢ	２前	2
	基礎ゼミナールⅣ	２後	2
社会調査の理論と方法（社会学専攻）	データ分析の基礎	２前	2
	社会と統計	２前	2
	量的調査法	２後	2
	質的調査法	２後	2
	社会調査Ⅰ	３前	2
	社会調査Ⅱ	３後	2
福祉士共通科目（社会福祉学専攻）	社会保障Ⅰ	２前	2
	障害者福祉	２前	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	２前	2
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	２前	2
	ソーシャルワーク基礎演習	２前	1
	社会保障Ⅱ	２後	2
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	２後	2
	地域福祉と包括的支援体制	２後	2
	権利擁護を支える法制度	２後	2
専門研究	専門ゼミナールⅠ	３前	2
	専門ゼミナールⅡ	３後	2
	卒研指導ゼミナールⅠ	４前	2
	卒研指導ゼミナールⅡ	４後	2

東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科社会福祉学専攻におけるスクールソーシャルワーク実習の履修に関する細則

┌2020 年 9 月 2 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 13 条の規定に基づき、東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科社会福祉学専攻に在籍する学生の、スクールソーシャルワーク実習及びその実習指導に係る科目（スクールソーシャルワーク演習、スクールソーシャルワーク実習指導、スクールソーシャルワーク実習）の履修に関する取扱いについて定めるものとする。

（履修者数）

第 2 条　スクールソーシャルワーク実習及びその実習指導に係る科目の履修者数は、5 人を上限とする。

（履修者の選考及び履修要件）

第 3 条　スクールソーシャルワーク実習及びその実習指導に係る科目の履修を希望する者は、2 年次の指定された期間に履修を申出るものとする。なお、履修希望者数が 5 人を超えた場合は、試験等によって選考を行い、現代社会学部長が履修者を決定するものとする。

2　前項において、履修を希望する者は、原則として、別表に定める授業科目の単位を全て修得しなければならない。

（雑則）

第 4 条　この細則に定めるもののほか、スクールソーシャルワーク実習及びその実習指導に係る科目の履修に関し必要な事項は、大学運営会議の議を経て、学長が別に定める。

（細則の改廃）

第 5 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　　則

この細則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

附　　則

この細則は、2025 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2024 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別　表

授業科目の名称			配当年次	単位数			備　考
				必修	選択	自由	
基礎科目	全学共通科目	教育学	1 後		2		○　★
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と福祉	1 前	2			○　★
		社会福祉政策	1 後		2		○　★
		基礎ゼミナールⅠ	1 前	2			○　★
		基礎ゼミナールⅡ	1 後	2			○　★
		基礎ゼミナールⅢ	2 前	2			○　★
		基礎ゼミナールⅣ	2 後	2			○　★
	基幹科目	心理学と心理的支援	1 前		2		○　★
		医学概論	1 後		2		○　★
		社会学と社会システム	1 前	2			○　★
		社会調査の基礎	1 後	2			○　★
専門科目	福祉士共通科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2 前	2			○　★
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2 前	2			○　★
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2 後	2			○　★
		社会保障Ⅰ	2 前	2			○　★
		社会保障Ⅱ	2 後	2			○　★
		障害者福祉	2 前	2			○　★
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2 後	2			○　★
		権利擁護を支える法制度	2 後	2			○　★
		ソーシャルワーク基礎演習	2 前	1			○　★
	ソーシャルワーク系科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2 後	2			○　★
		児童・家庭福祉	2 前	2			○　★
		高齢者福祉	2 前	2			○　★
		保健医療と福祉	2 前		2		○　★
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2 後		1		○
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2 後		1		○
	メンタルヘルス系科目	精神医学Ⅰ	2 前		2		★
		精神医学Ⅱ	2 後		2		★
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2 前		2		★
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2 後		2		★
		精神保健福祉制度論	2 後		2		★
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2 後		1		★
	関連科目	児童・家庭支援論	2 後		2		○　★
		生涯発達心理学	2 前		2		○　★

・社会福祉士を基礎としたスクールソーシャルワーク実習及び実習指導の履修を希望する者は、「○」の科目の単位を全て修得すること。
・精神保健福祉士を基礎としたスクールソーシャルワーク実習及び実習指導の履修を希望する者は、「★」の科目の単位を全て修得すること。

3.　経営法学部

経営法学科

本学科は豊かな教養と人間性を養うとともに、日々変化する社会を的確に捉え対応できる能力、変化を先取りする先見性、自立した事業運営力、地域の活性化に資する情報収集・分析・発信能力、国際社会で活躍する能力を持った人材の育成を目指している。このために経営学・経済学及び法学を中心とした社会科学と関連する人文科学などの諸分野を、プロジェクト思考の学びを通して横断的に学修し研究していく。

1）　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・豊かな教養と人間性を身に付けている。
・経営学と法学を中心とした社会科学とそれに関連する人文科学等の分野に関して、学際的な知識を有している。
・社会の対立関係を理解し、調整する能力を持つと同時に、協働の必要性とそのあり方について理解している。

「思考・判断」

・自立した社会人として主体的に判断し、行動することができる。
・変化する社会環境を的確に分析し、対応することができる。

「技能・表現」

・経営と法に関する専門的知識と職業的技能を有し、活用できる。
・自分の意見を持ち、それを他者に伝える表現力を持つ。

「関心・意欲・態度」

・社会の諸問題に関心を持ち、それらの解決に積極的に取り組むことができる。
・グローカルなセンスを身に付け、他者との相互理解・信頼に努めようとする意欲を持つ。

2.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

「知識・技能」

・社会科学とその関連領域を学ぶ上で、公民系科目に関する基礎的な知識を有している人。

「思考力・判断力・表現力」

・物事を柔軟に捉え、判断し行動できる人。
・自分の考えを的確に表現し、他者に伝えることができる人。
・社会科学の諸領域について深い関心を持ち、学ぶ意欲を有している人。

「主体的に多様な人々と協働して学ぶ態度」

・他者と円滑なコミュニケーションを図り、共に課題解決に意欲的に取り組もうとする人。
・学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等を通じて、他者と主体的に協働できる人。

「求める学習経験」

・経営・経済、法律・政治の領域を学ぶために必要な「政治・経済」などの公民系科目を学習していること。
・経営・経済に関心ある受験生は「数学」、国際に関心がある受験生は「英語」を学習していることが望ましい。
・学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等に積極的に取り組んでいることが望ましい。

3.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

系統的な学習を促し、教育目標を達成するために、基礎科目、専門基礎科目及び専門科目という区分の中に各種科目を配置し、教育課程を実施する。

「基礎科目」

・全学共通教育として、初年次教育「育みプロジェクト」と教養教育「探求・理解プロジェクト」を配置する。「育みプロジェクト」は、大学での学びによる確かな成長と生涯学び続ける力を育む。「探求・理解プロジェクト」は、現代社会において必要な多元的な教養を身に付け、未経験の状況に共同で対応していく力を育む。
・教養科目とキャリアをデザインする能力を養う科目も配置する。

「専門基礎科目」
・主に基礎的な社会科学に関連する科目、基礎的な分析手法に関する科目を配置し、専門科目を学習するために必要な知識や技能を身に付けさせる。

「専門科目」
・主として、「法学」「経営・経済」という 2 つの領域に係る専門性の高い科目を配置し、体系的に学問内容を身に付けさせるとともに、展開科目を設け、現代社会の諸課題について主体的に探究できる能力を涵養する。
・最終学年では、専門教育科目の教育内容を自ら統合するための卒業研究を必修科目として置く。

2）　本学部の特色

本学部が経営学・経済学及び法学を中心とした社会科学及びそれに関連する人文科学などの学際的に幅広い分野の学問を学ぶことを旨としているのは、企業・国際機関・非営利団体などの経営・活動計画や企画立案のほか、国や地方公共団体の政策立案がこなせる人材の養成を目的としているためです。そこで、入学したら、まず、ゼネラリストになるように勉強し、自分が学びたい分野や進路を見定めたら、スペシャリストを目指す専門的な研究に取り組みます。

【スチューデント・アドバイザー制度】

入学すると、スチューデント・アドバイザー（SA）と呼ぶ担任が付き、初年次セミナー、アカデミックスキルズ及びプレゼミナール等の科目を通して指導を受けます。大学生に必要な研究方法やレポートの書き方を学ぶほか、ゼミナール仲間との交遊を通じて大学生活になじめるようにする狙いがあります。

初年次セミナー、アカデミックスキルズ及びプレゼミナールⅠを 1 年半の間で終えたら、その後はプレゼミナールⅡ、専門ゼミナール等で SA の指導の下で研究をします。プレゼミナールⅡ、専門ゼミナール等の SA は研究や卒論の指導はもちろん、進路相談に乗り、就職活動が始まると、エントリーシートの添削などの世話をしてくれます。このように SA が入学時から卒業まで学生をサポートします。

3）　カリキュラムについて

次に、本学部の教科の組み立てと、履修上の注意について説明します。カリキュラム構成の詳細については、カリキュラム配置図をよく見てください。本学部のカリキュラムは、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の 3 段階から構成されています。

以下に、それぞれの内容を説明します。

①　1 年前期から 2 年前期までに取得できるのは主に基礎科目と専門基礎科目です。
基礎科目、専門基礎科目では、以下の 6 つのメニューを開設しています。
・初年次セミナー、アカデミックスキルズ（1 年必修）
・プレゼミナールⅠ・Ⅱ（2 年必修）
・基礎的な社会科学：経営学概論、経済学概論、法学概論、経営・経済事情、マーケティング論、ミクロ経済学、経営戦略論、マクロ経済学、簿記論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、民法総則、憲法（人権）、憲法（統治）、契約法、物権法、刑法
・分析手法：統計・数理入門、経営・経済のための数学、統計学、データ解析（後期科目）
・外国語：英語コミュニケーションⅢ、Ⅳ、フィールドワーク英語Ⅰ、Ⅱ、中国語コミュニケーションⅢ、Ⅳ、韓国語コミュニケーションⅢ、Ⅳ（※Ⅳは後期科目）
・キャリア形成科目（1 年～3 年）：キャリア入門Ⅰ・Ⅱ、キャリア戦略Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、業界・企業研究Ⅰ・Ⅱ

特に留意すべきは以下の点です。

【初年次セミナー・アカデミックスキルズ】

1 年次前期「初年次セミナー」は、皆さんがこの大学の経営法学部でしっかりと学び、知識を深めて成長できるように設けられた科目です。特に、大学のアドミッションポリシー（学生に求める姿勢や目標）の中でも、「関心を持つこと」「やる気を持つこと」「積極的に取り組む態度」を育てることを大切にしています。

この授業では、まず、ガイダンスやメンタルヘルスについての話を聞く／履修の仕方（授業の選び方や計画の立て方）を学ぶ／上級生と交流し、大学生活の様子を知るなどを行います。

次いで、少人数クラスで、個人で簡単な調査や研究に挑戦します。そのため①課題を見つけ、②情報を集め、③内容を整理して分析し、④考えをまとめるなどを行います。これらの活動は、担任に当たるスチューデントアドバイザー（SA）がサポートしてくれます。大学生活のスタートをスムーズにするための、楽しくて役立つ授業です。1 年次後期の「アカデミックスキルズ」は、大学生として必要なコミュニケーション能力を伸ばすためにグループワークを行う科目です。学生間の議論によって具体的なテーマを決め、実地調査を行うことにより課題発見力・問題解決力が、そして、発表によって表現力が身につきます。

【プレゼミナールⅠ・Ⅱ】

プレゼミナールは、小人数で行われる演習形式の授業です。ここでは、SA の各先生の専門分野の見地から今後の大学の学習に必要とされる内容を学びます。3 年生からは必修科目として専門ゼミナールが始まります。そのための準備をプレゼミナールで整えてください。2 年次前期は「プレゼミナールⅠ」を受講し、2 年次後期は「プレゼミナールⅡ」を受講します。

【基礎的な社会科学】

社会科学の諸学は社会を理解する鍵です。ここではその基礎的な概念、考え方、物事の理解の仕方などを中心としてできるだけ平易に説明します。

法律学は現在の国家や社会の制度的枠組の基本です。専門基礎科目として、法学概論、憲法（人権）、憲法（統治）、民法総則、契約法、物権法、刑法を開設しています。多くの学生にすべてを受講してほしいものですが、特に公務員を目指す皆さんには受講することをお勧めします。

また、経済学では社会を理解するためのモデルを学びます。皆さんが、高校までに学んできた事実中心のものとは違うはずですから、新鮮なものに感じるでしょう。そうは言っても、はじめは高校などでの学習内容と同様な部分もありますが、安心しているとどんどん進んで、後から理解できなくなる恐れがあります。一方、モデルを通して社会事象を見てみると物事は今までの視点とは違うものとなることもあり、驚くでしょう。経済学は多くの人に受講してほしい分野です。特に公務員を目指す学生には、必修の経済学概論を履修したうえで専門基礎科目ではミクロ経済学、マクロ経済学を受講することをお勧めします。

簿記論で学ぶ複式簿記、企業会計原則は世界共通の言語というべきものであり、企業活動の真実を明らかにするものです。現在は単式簿記の国や地方公共団体にも複式会計方式を適用すべきだとの声があります。企業を目指す学生はもちろんですが、現代人の基礎知識として多くの人の受講を望みます。

【基礎的な分析手法】

数学や統計学は取っ付きにくいと感じる人も多いかもしれません。しかし、社会科学では多くの場合いろいろな事象を数式化して検討したり、データを使った分析を行ったりするため、これらは社会科学の理解には欠かせないものです。経営法学科では、統計・数理入門で高校までの学習内容を社会科学の応用事例と共に学び直し、経営・経済のための数学と統計学で新たな分析手法を学びます。また、実際にデータの分析をするにはパソコンを使った分析が必要であるため、データ解析でその基礎を学びます。

【コミュニケーション手段】

語学については少人数教育が徹底されています。本学部では、英語、中国語、韓国語を学ぶことができ、1 年次は英語コミュニケーションⅠと英語コミュニケーションⅡが必修科目となっています。加えて、英語コミュニケーションⅢとⅣ、フィールドワーク英語ⅠとⅡ、中国語コミュニケーションⅠからⅣ、韓国語コミュニケーションⅠからⅣは選択科目となっています。今日では社会に出ると世界を相手に仕事をすることになります。その際のコミュニケーション手段としてこれらの外国語が必要です。授業中だけでなく、課外活動にも積極的に参加して、円滑に国際的なコミュニケーションが図れるよう十分習熟すること

を目指してください。

【キャリア講座】

キャリア講座では、学生が充実したキャリア形成ができるように、1 年次から段階的に体系的なサポートプログラムを提供します。

1　キャリア入門Ⅰ・Ⅱ

学部のキャリア科目のはじまりとして、長期的視点から人生計画を考え、各分野でプロフェッショナルを目指す考え方と方法を学びます。1 年次前期は「キャリア入門Ⅰ」を受講し、1 年次後期は「キャリア入門Ⅱ」を受講します。

2　キャリア戦略Ⅰ・Ⅱ

ビジネスや業界・職種・就活マナー等の基礎知識を学んだ上で、自己分析、面接・グループディスカッション、一般常識など実践的な内容を学びます。2 年次前期は「キャリア戦略Ⅰ」を受講し、2 年次後期は「キャリア戦略Ⅱ」を受講します。

3　キャリア戦略Ⅲ・Ⅳ

1 年次前期の「キャリア戦略Ⅲ」では、自己分析や業界・企業・職種研究を進めつつ、合同企業説明会のまわり方やインターンシップの参加方法、エントリーシートの書き方など就職活動に必要な知識・技能を学びます。3 年次後期の「キャリア戦略Ⅳ」では、学部のキャリア科目の集大成として、就職活動についてのまとめを行い、応募書類の書き方や各種試験対策などを実践を通じて具体的に学んでいきます。

②　2 年後期から 4 年後期までは専門科目の単位を取得します。

2 年後期からは専門科目が始まります。2 年前期まで学んできたことを皆さん自身が総合して、社会に出てからの生き方を固める時期です。自分の好きな科目や得意な分野を確かめて、自分の目指す道を探さなければなりません。

この時期には社会に出てからの仕事をイメージして、自分に何ができるのか、そのためにどのような学生生活をおくるべきかを見定めることが望まれます。

経営法学部では「経済・経営領域」、「法学領域」と、両領域に密接に関連する科目群の「展開科目」で各種の専門科目を学ぶことができます。

【経済・経営領域】

経済・経営領域では、経済学と経営学の専門的な内容を学べます。経済学は**「社会全体や国の仕組み」**に焦点を当てるもので、経済のメカニズムを理解するミクロ経済学、マクロ経済学から、その考え方を社会に応用する財政学、金融論、国際経済学といった科目が用意され、具体的な政策課題に関する理解を深めます。さらに、地域経済論、地方財政論を通じて、地域に対する望ましい政策のあり方を自ら考えることのできる洞察力を養うことができます。

経営学は**「企業や組織の運営」**に焦点を当てます。経営戦略論、経営組織論、グローバルマーケティング論、アントレプレナーシップ論といった科目を通じて、経営の知識と実践力を兼ね備えたリーダーシップ、コミュニケーション力、国際感覚、起業家精神が身につきます。さらに、財務会計、管理会計、ファイナンス論といった科目を通じて、「お金」と経営がどのように結びついているかの感覚も身につけることができます。

【法学領域】

法学領域では、専門的な法律科目及び行政科目などが学べます。法律は国家や社会の基本的なルールとなります。これらはこれから国の形を決めていく有権者としての基本的な知識であり、民主主義を実質化するために不可欠なものです。専門基礎科目で学んだ基本的な法律科目に対して、専門科目で学ぶ法律科目は専門性が高いことから、興味のある法律問題について学ぶことができます。具体的には、法律分野では、不法行為、家族法、消費者法、会社法、不動産法、経済法、国際取引法、労働法、知的財産権法、民

事手続法といった科目が用意されています。行政分野では、行政法総論、行政救済法、を学ぶことができます。

【展開科目】

展開科目には医療福祉経済論、医療政策論、地域医療マネジメント論Ⅰ・Ⅱ、社会保障論といった科目が用意され、我が国の医療・福祉制度の仕組みを体系的に理解し、ヘルスリテラシーを養います。医療・介護保険を中心とした社会保険制度、地域における健康施策など、ウェルビーイング（安寧）に繋がる具体的な医療・福祉の提供体制を総合的に学びます。

また、アメリカ研究、中国研究、韓国研究などの各種地域研究を通じて、国際社会の実情歴史を深く学ぶことができるのもこの領域の特徴です。

これ以外にも、プロジェク研究では大学での学びは、授業中に教授される知識を吸収するだけにとどまらず、自らが気づいた疑問や問題意識を基に主体的に学ぶことも必要です。プロジェクト研究では、学部独自のフロントランナープロジェクト、グローカルリーダー育成補助金制度、早期海外体験プロジェクトなどを通じて、すでに個人プロジェクトを経験した学生及び指導に携わった教員と活発な意見交換や議論を行います。受講生は国内外のフィールドワークの立案方法や予想される学びの成果を検討したうえで、小グループまたは個人で計画を作成することになります。

そして、プロジェクト応用ではプロジェクト研究で策定した個別のフィールドワーク計画を実践するため、経費総額の算定、補助金申請の手続き、プロジェクト終了後の成果発表を企画します。加えて、それらの成果をどのように卒業研究に展開するかについても方針を決定します。国内外に出向いて現地で肌で感じる学びの体験を通じて培う主体的実行力、考えぬく力、他者と協働するためのコミュニケーション力は、最終的には自分自身のキャリア構築の礎となります。

【専門ゼミナール・卒業研究】

3 年次にゼミナールⅠ・Ⅱ、4 年次に卒業研究を受講します。演習形式で特定の先生について特定のテーマを 2 年間学ぶもので、このゼミナールが本格的な研究の場となります。そして、皆さんが大学卒業に当たり卒業研究を行いますが、卒業研究はこのゼミナールで行います。3 年からのゼミナールでの学習成果を結実させるため、ゼミナールでは問題意識を持ってしっかり学んでください。

③　他学部の科目履修も原則的に可能です。

医療福祉学部、科学技術学部の授業科目の履修は、実験などを伴うものも多く、人数に制限がある場合もあります。ゆとりがあってその学部で履修が認められる場合、その成績で単位を認定します。したがって、他学部の科目に関心がある場合には、他学部の授業科目のシラバスも参照してください。

4）　授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表（別頁）

5）　カリキュラムツリー（別頁）

6）　卒業に必要な単位数

卒業までに必要な単位数は、次の表のようになります。

基礎科目	24 単位以上	必修科目が 13 単位。探求･理解プロジェクトの履修要件：選択科目 6 科目から 2 単位以上選択履修すること。
専門基礎科目	32 単位以上	必修科目が 14 単位。
専門科目	48 単位以上	必修科目が 8 単位。
合計	124 単位以上	

このうち必修科目は履修しなければ卒業できない科目ですので、不合格になったら、次の年次以降で必ず合格してください。

また経営法学部では進級要件を設けています。2 年生が終わるまでに、1 年次の必修科目全てを含む合計 44 単位以上の単位を修得できていない場合、3 年に進級ができず留年となりますので気をつけてくだ

さい。

7）　カリキュラム配置図（別頁）

8）　授業科目一覧、卒業要件単位数、カリキュラム対照表（別頁）

9）　履修モデル

将来目指す職業・資格に応じて基本となる履修モデルをいくつか提示します。英語（英語コミュニカ―ションⅠ、英語コミュニカ―ションⅡ）、基礎的な社会科学（法学概論、経済学概論、経営学概論）などを学んだ上で、自身の興味関心に合わせて、授業を選ぶ際の参考にしてください。

（めざす進路）

【国家・地方公務員、一部事務組合等の団体職員】

憲法（人権）、憲法（統治）、民法総則、刑法、政治学、契約法、物権法、消費者法、労働法、行政法総論、行政学、行政救済法、ミクロ経済学、マクロ経済学、地域行政論、財政学、地方財政論、社会保障概論、地域経済論

【銀行・信用金庫・信用組合等の職員】

ミクロ経済学、マクロ経済学、簿記論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、財務会計Ⅰ・Ⅱ、金融論、管理会計、民法総則、民法関係科目（契約法、物権法、消費者法、家族法、不法行為法）、会社法、労働法、不動産法、地域経済論、経営情報論、アントレプレナーシップ論

【農協・漁協等の協同組合の職員、NPO/NGO の職員】

ミクロ経済学、簿記論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、財務会計Ⅰ・Ⅱ、金融論、管理会計、民法総則、民法関係科目（契約法、物権法、消費者法、家族法）、会社法、労働法、不動産法、経営組織論、地域経済論

【国際ビジネスの従事者】

ミクロ経済学、マクロ経済学、マーケティング論、経営戦略論、流通論、ビジネスケース分析、グローバルマーケティング、経営組織論、金融論、国際経済学、国際取引法、各種語学科目（英語、中国語、韓国語）、各種地域研究（アメリカ研究、中国研究、韓国研究）、多文化共生論

【広告・マーケティング業界の従事者】

ミクロ経済学、マーケティング論、経営戦略論、経営組織論、ビジネスケース分析、中小企業論、消費者行動入門、消費者法、会社法、知的財産権法、経営情報論

【その他一般会社の職員】

ミクロ経済学、簿記論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、財務会計Ⅰ・Ⅱ、金融論、管理会計、民法総則、民法関係科目（契約法、物権法、消費者法、家族法）、会社法、労働法、不動産法、経営組織論、地域経済論、中小企業論、アントレプレナーシップ論、経営情報論、流通論、流通政策

（めざす資格）

【行政書士】

憲法（人権）、憲法（統治）、行政法総論、行政救済法、民法総則、物権法、契約法、家族法、会社法、不動産法

【司法書士】

憲法（人権）、憲法（統治）、刑法、民法総則、物権法、契約法、家族法、会社法、不動産法

【宅地建物取引士（宅建）】

民法総則、物権法、契約法、不法行為法、家族法、不動産法

【社会保険労務士】
憲法（人権）、憲法（統治）、民法、労働法、金融論、財政学、社会保障論、医療福祉経済論

【税理士】
簿記論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、財務会計Ⅰ・Ⅱ、管理会計、民法総則、会社法

【ファイナンシャル・プランニング技能士】
ファイナンシャル・プランニング（FP）論、マクロ経済学、金融論、社会保障論、財政学、民法総則、物権法、契約法、家族法、不動産法

【知的財産管理技能士】
知的財産権法、民法総則、会社法、物権法、契約法

10）　資格取得をサポートする補助制度

就職活動を有利に展開し、また、卒業後の安定した人生設計を描いてもらうため、学部では各種の資格試験、検定試験への挑戦を支援しており、受験料補助制度が幅広く運用されています。

この制度は、各種資格試験の受験料・検定料の半額（上限 5,000 円）、合格時は全額（上限 10,000 円）を本学が補助する仕組みです。対象となる資格は、英検（実用英語技能検定）、TOEIC、TOEFL、中国語検定、韓国語能力試験、公認会計士、税理士、社会保険労務士、行政書士、宅地建物取引士、日本漢字能力検定、秘書検定、日商簿記検定、ファイナンシャル・プランニング技能検定、知的財産管理技能士などです。ただし、全額補助は資格級などに制限があります。

また国家・地方公務員を希望する学生向けには、教養科目の受験講座が用意されています。

11）　卒業後の進路

卒業生の主な就職先は次の通りです。

国家公務員（東北地方整備局）／国税専門官（仙台国税局）／仙台市職員（行政）／大崎市職員（行政）／村田町職員／川西町職員／警視庁（行政）／福島県警察／仙台市消防局／東北電力株式会社／株式会社北日本銀行／株式会社大東銀行／あぶくま信用金庫／石巻信用金庫／日本郵便株式会社／日本郵便逓送株式会社／岡三証券株式会社／株式会社藤崎／株式会社ビームス／株式会社日専連／関東グリコ株式会社／ブリヂストンタイヤジャパン株式会社／トヨタ部品宮城共販株式会社／株式会社スズキ自販山形／アソビモ株式会社／テレコムサービス株式会社／イオンリテール株式会社／株式会社ヨークベニマル／株式会社やまや／株式会社ツルハホールディングス／ ALSOK 綜合警備保障株式会社／東洋ワークセキュリティ株式会社／株式会社鳥羽洋行／株式会社サカイ引越センター／株式会社タカカツホールディングス／アークランドサービス株式会社／ P＆G プレステージ合同会社／ベンチャーサポート税理士法人／東日本三菱農機販売株式会社／一建設株式会社／株式会社大商金山牧場／株式会社日本ハウスホールディングス／株式会社桧家ホールディングス／株式会社建装テクノ／株式会社大建ホーム／東和総合住宅株式会社ほか

12）　履修上の諸注意

大学を卒業するためには、学問を修め単位を取得しなければなりません。卒業に必要な単位や科目は大学ごと学部ごとに異なっています。以下に間違えやすいポイントを列挙しておきますので、科目登録時の参考にしてください。

履修の際に注意すること

① 本学部の卒業に必要な単位は 124 単位。
② 必修科目はすべての単位取得が必要。
③ 区分に注意！基礎科目 24 単位、専門基礎科目 32 単位、専門科目 48 単位――これらをクリアしないと全体で 124 単位以上取得しても卒業できません。
④ 選択履修科目に注意。基礎科目に定められている必要な数の選択履修科目を取得していないと卒業できません。
⑤ 3 年への進級には、44 単位以上が必要であり、かつ 1 年次配当の必修科目のすべての単位取得が必要。
⑥ 年間に履修できる単位の上限が定められています。1 年間に合計 48 単位を超えて、履修登録することはできません。また半期（前期または後期）に履修登録できる科目の上限の目安は 24 単位です。

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【経営法学部　経営法学科】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・豊かな教養と人間性を身に付けている。 ・経営学と法学を中心とした社会科学とそれに関連する人文科学等の分野に関して、学際的な知識を有している。 ・社会の対立関係を理解し、調整する能力を持つと同時に、協働の必要性とそのあり方について理解している。
②	「思考・判断」	・自立した社会人として主体的に判断し、行動することができる。 ・変化する社会環境を的確に分析し、対応することができる。
③	「技能・表現」	・経営と法に関する専門的知識と職業的技能を有し、活用できる。 ・自分の意見を持ち、それを他者に伝える表現力を持つ。
④	「関心・意欲・態度」	・社会の諸問題に関心を持ち、それらの解決に積極的に取り組むことができる。 ・グローカルなセンスを身に付け、他者との相互理解・信頼に努めようとする意欲を持つ。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

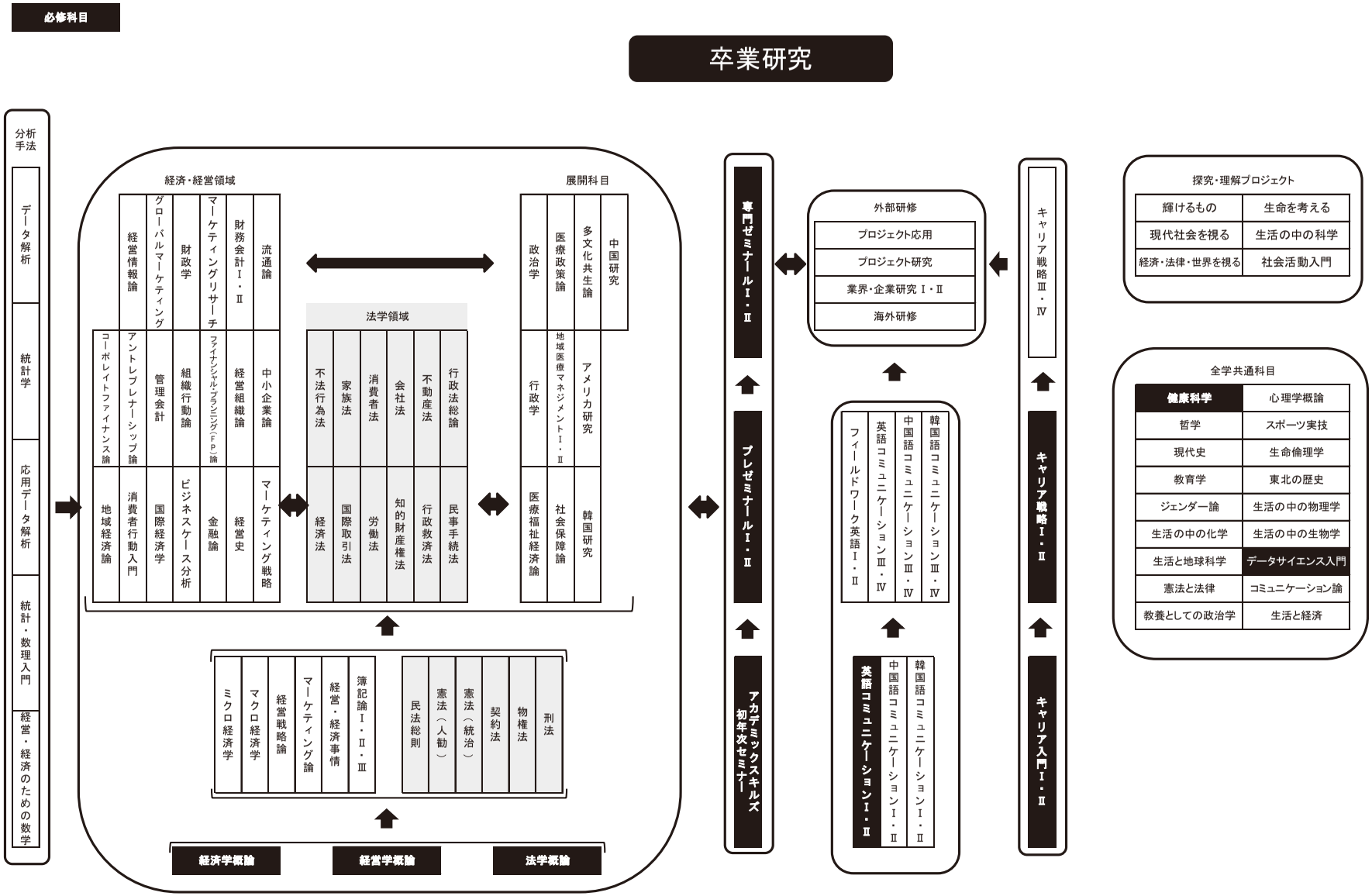
授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2		○			◎
		生命を考える	1 前・1 後		2		○			◎
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		○			◎
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		○			◎
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2		○			◎
		社会活動入門	1 前・1 後		2		○			◎
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			○			◎
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1				◎	○	
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○			◎
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1			◎	○	
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○			◎
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1			◎	○	
		海外研修	1 通		2			◎		○
		スポーツ実技	1 前		1		○			◎
		心理学概論	1 後		2		○			◎
		生命倫理学	1 後		1		○			◎
		健康科学	1 前	1			○			◎
		教育学	1 後		2		○			◎
		哲学	1 後		2		○			◎
		現代史	1 前		2		○			◎
		東北の歴史	1 前		2		○			◎
		ジェンダー論	1 後		2		○			◎
		生活の中の物理学	1 後		2		○			◎
		生活の中の化学	1 前		2		○			◎
		生活の中の生物学	1 前		2		○			◎
		生活と地球科学	1 後		2		○			◎
		データサイエンス入門	1 前	2			○			◎
		コミュニケーション論	1 後		2		○			◎
		憲法と法律	1 後		2		○			◎
		生活と経済	1 後		2		○			◎
		教養としての政治学	1 後		2		○			◎

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	キャリア形成	キャリア入門Ⅰ	1前	2			○			◎
		キャリア入門Ⅱ	1後	2			○			◎
		キャリア戦略Ⅰ	2前	2			○	◎		
		キャリア戦略Ⅱ	2後	2				◎	○	
		キャリア戦略Ⅲ	3前		2			◎	○	
		キャリア戦略Ⅳ	3後		2			◎	○	
		業界・企業研究Ⅰ	2通		1		○			◎
		業界・企業研究Ⅱ	3通		1			◎	○	
専門基礎科目	基幹科目	経営学概論	1前	2			○			◎
		経済学概論	1前	2			○			◎
		法学概論	1前	2			○			◎
		初年次セミナー	1前	2			○	◎		
		アカデミックスキルズ	1後	2			○			◎
		プレゼミナールⅠ	2前	2			○			◎
		プレゼミナールⅡ	2後	2				◎	○	
	経営・経済領域	経営・経済事情	1前		2		○			◎
		マーケティング論	1後		2		○	◎		
		ミクロ経済学	1後		2		○	◎		
		経営戦略論	2前		2		○	◎		
		マクロ経済学	2前		2		○	◎		
		簿記論Ⅰ	1後		4		○	◎		
		簿記論Ⅱ	2前		2		○	◎		
		簿記論Ⅲ	2後		2		○	◎		
	法学領域	民法総則	1後		2		○	◎		
		憲法（人権）	1後		2		○			◎
		憲法（統治）	2前		2		○	◎		
		契約法	2前		2		○	◎		
		物権法	2前		2		○	◎		
		刑法	2前		2		○	◎		
	分析手法	統計・数理入門	1前		2		○			◎
		経営・経済のための数学	1後		2			◎	○	
		統計学	2前		2			◎	○	
		データ解析	2後		2			◎	○	
	外国語	英語コミュニケーションⅢ	2前		1		○			◎
		英語コミュニケーションⅣ	2後		1			◎	○	
		フィールドワーク英語Ⅰ	2前		1			◎	○	
		フィールドワーク英語Ⅱ	2後		1			◎	○	
		中国語コミュニケーションⅢ	2前		1		○			◎
		中国語コミュニケーションⅣ	2後		1			◎	○	
		韓国語コミュニケーションⅢ	2前		1		○			◎
		韓国語コミュニケーションⅣ	2後		1			◎	○	
専門科目	経営・経済領域	流通論	2前		2		○	◎		
		中小企業論	2前		2		○	◎		
		マーケティング戦略論	2前		2		○	◎		
		財務会計Ⅰ	2前		2		○	◎		
		経営組織論	2後		2		○	◎		
		経営史	2後		2		○	◎		
		マーケティングリサーチ	2後		2			◎	○	

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	経営・経済領域	ファイナンシャル・プランニング（FP）論	2後		2		○		◎	
		財務会計Ⅱ	2後		2		○	◎		
		金融論	2後		2		○	◎		
		財政学	2後		2		○	◎		
		組織行動論	3前		2		○	◎		
		ビジネスケース分析	3前		2			◎		○
		グローバルマーケティング	3前		2		○	◎		
		管理会計	3前		2		○	◎		
		国際経済学	3前		2		○	◎		
		経営情報論	3後		2		○	◎		
		アントレプレナーシップ論	3後		2			◎		○
		消費者行動入門	3後		2		○	◎		
		コーポレイト・ファイナンス論	3後		2		○	◎		
		地域経済論	3後		2		○	◎		
	法学領域	不法行為法	2後		2		○	◎		
		家族法	2後		2		○	◎		
		消費者法	2後		2		○	◎		
		会社法	3前		2		○	◎		
		不動産法	3前		2		○	◎		
		行政法総論	3前		2		○	◎		
		経済法	3前		2		○	◎		
		国際取引法	3前		2		○	◎		
		労働法	3後		2		○	◎		
		知的財産権法	3後		2		○	◎		
		行政救済法	3後		2		○	◎		
		民事手続法	3後		2		○	◎		
	展開科目	応用データ解析	3前		2			◎	○	
		政治学	3前		2		○	◎		
		行政学	3後		2		○	◎		
		医療福祉経済論	3前		2		○	◎		
		医療政策論	3後		2		○	◎		
		地域医療マネジメントⅠ	3前		2		○			◎
		地域医療マネジメントⅡ	3後		2		○	◎		
		社会保障論	3前		2		○	◎		
		多文化共生論	3後		2		○	◎		
		韓国研究	3前		2		○	◎		
		中国研究	3後		2		○	◎		
		アメリカ研究	3後		2		○	◎		
		プロジェクト研究	2通		4		○			◎
		プロジェクト応用	3通		4			◎	○	
	専門研究	専門ゼミナールⅠ	3前	2			○			◎
		専門ゼミナールⅡ	3後	2				◎	○	
		卒業研究	4通	4				◎	○	

※ 2024年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025年度シラバスで確認してください。

経営法学部経営法学科カリキュラムツリー〈2025 年度以降　入学者用〉

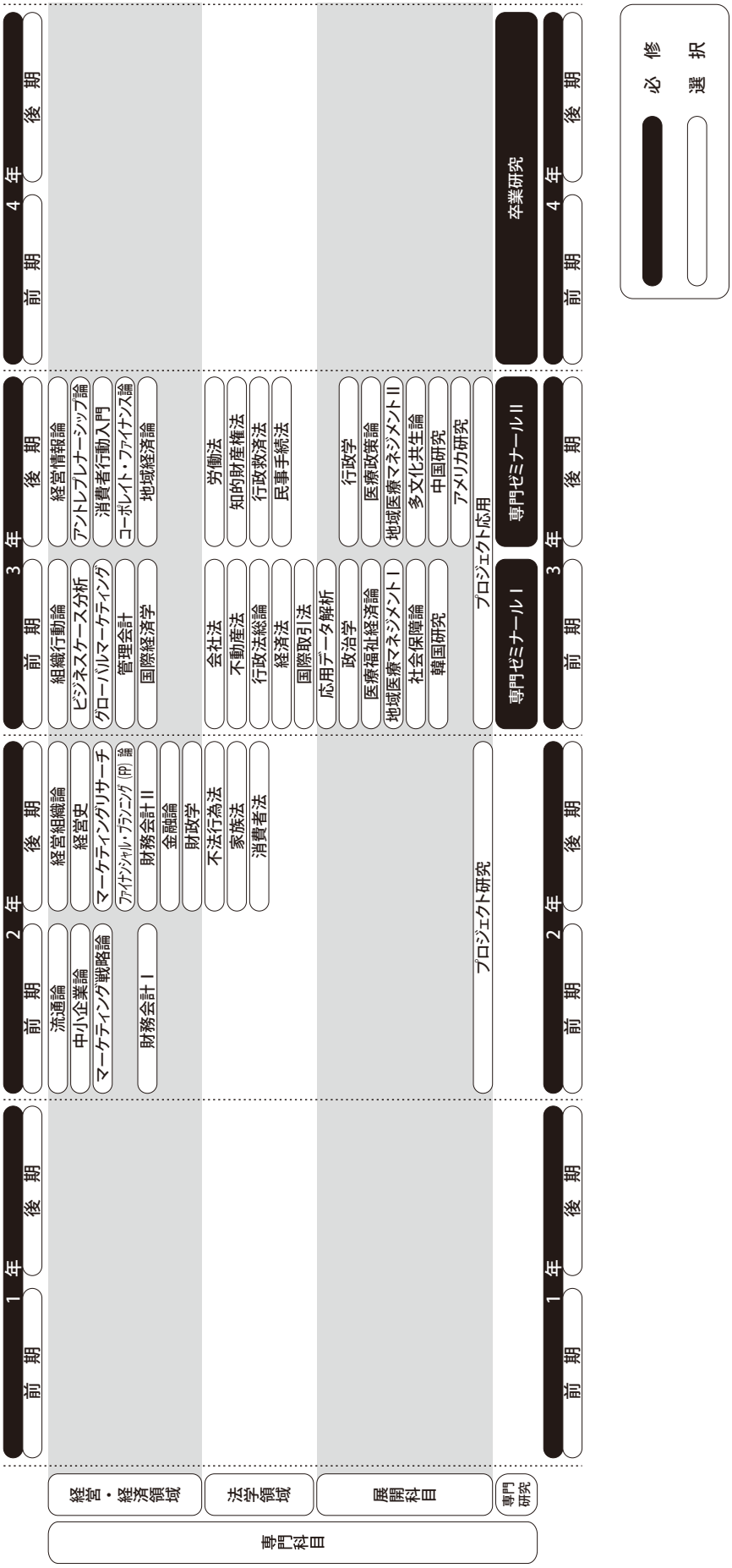


経営法学部　経営法学科　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		海外研修							
		スポーツ実技	心理学概論						
		健康科学	生命倫理学						
		現代史	教育学						
		東北の歴史	哲学						
			ジェンダー論						
		生活の中の化学	生活の中の物理学						
		生活の中の生物学	生活と地球科学						
		データサイエンス入門							
			コミュニケーション論						
			憲法と法律						
			生活と経済						
			教養としての政治学						
	キャリア形成	キャリア入門Ⅰ	キャリア入門Ⅱ	キャリア戦略Ⅰ	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ	キャリア戦略Ⅳ		
				業界・企業研究Ⅰ		業界・企業研究Ⅱ			
専門基礎科目	基幹科目	経営学概論							
		経済学概論							
		法学概論							
		初年次セミナー	アカデミックスキルズ	プレゼミナールⅠ	プレゼミナールⅡ				
	経営・経済領域	経営・経済事情	マーケティング論	経営戦略論					
			ミクロ経済学	マクロ経済学					
			簿記論Ⅰ	簿記論Ⅱ	簿記論Ⅲ				
	法学領域		民法総則	契約法					
				物権法					
				刑法					
			憲法（人権）	憲法（統治）					
	分析手法	統計・数理入門	経営・経済のための数学	統計学	データ解析				
	外国語			英語コミュニケーションⅢ	英語コミュニケーションⅣ				
				フィールドワーク英語Ⅰ	フィールドワーク英語Ⅱ				
				中国語コミュニケーションⅢ	中国語コミュニケーションⅣ				
				韓国語コミュニケーションⅢ	韓国語コミュニケーションⅣ				
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期

必　修
選　択

経営法学部　経営法学科　カリキュラム配置図〈2025年度以降入学者用〉



2025 年度以降入学者用

【経営法学部】
［経営法学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	08	01	1	25	1	1通		2		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	08	01	1	25	2	1前・1後		2		
		現代社会を視る	1	08	01	1	25	3	1前・1後		2		
		生活の中の科学	1	08	01	1	25	4	1前・1後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	08	01	1	25	5	1前・1後		2		
		社会活動入門	1	08	01	1	25	6	1前・1後		2		
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	08	02	1	25	7	1前	1			
		英語コミュニケーションⅡ	1	08	02	1	25	8	1後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	08	02	1	25	9	1前		1		
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	08	02	1	25	10	1後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	08	02	1	25	11	1前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	08	02	1	25	12	1後		1		
		海外研修	1	08	02	1	25	13	1通		2		
		スポーツ実技	1	08	02	1	25	14	1前		1		
		心理学概論	1	08	02	1	25	15	1後		2		
		生命倫理学	1	08	02	1	25	16	1後		1		
		健康科学	1	08	02	1	25	17	1前	1			
		教育学	1	08	02	1	25	18	1後		2		
		哲学	1	08	02	1	25	19	1後		2		
		現代史	1	08	02	1	25	20	1前		2		
		東北の歴史	1	08	02	1	25	21	1前		2		
		ジェンダー論	1	08	02	1	25	22	1後		2		
		生活の中の物理学	1	08	02	1	25	23	1後		2		
		生活の中の化学	1	08	02	1	25	24	1前		2		
		生活の中の生物学	1	08	02	1	25	25	1前		2		
		生活と地球科学	1	08	02	1	25	26	1後		2		
		データサイエンス入門	1	08	02	1	25	27	1前	2			
		コミュニケーション論	1	08	02	1	25	28	1後		2		
		憲法と法律	1	08	02	1	25	29	1後		2		
		生活と経済	1	08	02	1	25	30	1後		2		
		教養としての政治学	1	08	02	1	25	31	1後		2		
	キャリア形成	キャリア入門Ⅰ	1	08	02	1	25	32	1前	2			
		キャリア入門Ⅱ	1	08	02	1	25	33	1後	2			
		キャリア戦略Ⅰ	1	08	02	2	25	34	2前	2			
		キャリア戦略Ⅱ	1	08	02	2	25	35	2後	2			
		キャリア戦略Ⅲ	1	08	02	3	25	36	3前		2		
		キャリア戦略Ⅳ	1	08	02	4	25	37	3後		2		
		業界・企業研究Ⅰ	1	08	02	2	25	38	2通		1		
		業界・企業研究Ⅱ	1	08	02	3	25	39	3通		1		
	基礎科目の合計									13	54	0	24単位以上修得すること。
専門基礎科目	基幹科目	経営学概論	1	08	03	2	25	40	1前	2			
		経済学概論	1	08	03	2	25	41	1前	2			
		法学概論	1	08	03	2	25	42	1前	2			
		初年次セミナー	1	08	03	1	25	43	1前	2			
		アカデミックスキルズ	1	08	03	2	25	44	1後	2			
		プレゼミナールⅠ	1	08	03	2	25	45	2前	2			
		プレゼミナールⅡ	1	08	03	3	25	46	2後	2			
	領域経営・経済	経営・経済事情	1	08	03	1	25	47	1前		2		
		マーケティング論	1	08	03	2	25	48	1後		2		
		ミクロ経済学	1	08	03	2	25	49	1後		2		

2025 年度以降入学者用

【経営法学部】
［経営法学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門基礎科目	経営・経済領域	経営戦略論	1	08	03	2	25	50	2 前		2		
		マクロ経済学	1	08	03	2	25	51	2 前		2		
		簿記論 I	1	08	03	2	25	52	1 後		4		
		簿記論 II	1	08	03	2	25	53	2 前		2		
		簿記論 III	1	08	03	2	25	54	2 後		2		
	法学領域	民法総則	1	08	03	2	25	55	1 後		2		
		憲法（人権）	1	08	03	2	25	56	1 後		2		
		憲法（統治）	1	08	03	2	25	57	2 前		2		
		契約法	1	08	03	2	25	58	2 前		2		
		物権法	1	08	03	2	25	59	2 前		2		
		刑法	1	08	03	2	25	60	2 前		2		
	分析手法	統計・数理入門	1	08	03	1	25	61	1 前		2		
		経営・経済のための数学	1	08	03	2	25	62	1 後		2		
		統計学	1	08	03	2	25	63	2 前		2		
		データ解析	1	08	03	3	25	64	2 後		2		
	外国語	英語コミュニケーションIII	1	08	03	3	25	65	2 前		1		
		英語コミュニケーションIV	1	08	03	4	25	66	2 後		1		
		フィールドワーク英語 I	1	08	03	2	25	67	2 前		1		
		フィールドワーク英語 II	1	08	03	3	25	68	2 後		1		
		中国語コミュニケーションIII	1	08	03	3	25	69	2 前		1		
		中国語コミュニケーションIV	1	08	03	4	25	70	2 後		1		
		韓国語コミュニケーションIII	1	08	03	3	25	71	2 前		1		
		韓国語コミュニケーションIV	1	08	03	4	25	72	2 後		1		
		専門基礎科目の合計								14	46	0	32 単位以上修得すること。
専門科目	経営・経済領域	流通論	1	08	04	2	25	73	2 前		2		
		中小企業論	1	08	04	4	25	74	2 前		2		
		マーケティング戦略論	1	08	04	3	25	75	2 前		2		
		財務会計 I	1	08	04	3	25	76	2 前		2		
		経営組織論	1	08	04	3	25	77	2 後		2		
		経営史	1	08	04	3	25	78	2 後		2		
		マーケティングリサーチ	1	08	04	3	25	79	2 後		2		
		ファイナンシャル・プランニング（FP）論	1	08	04	3	25	80	2 後		2		
		財務会計 II	1	08	04	3	25	81	2 後		2		
		金融論	1	08	04	3	25	82	2 後		2		
		財政学	1	08	04	3	25	83	2 後		2		
		組織行動論	1	08	04	4	25	84	3 前		2		
		ビジネスケース分析	1	08	04	4	25	85	3 前		2		
		グローバルマーケティング	1	08	04	4	25	86	3 前		2		
		管理会計	1	08	04	4	25	87	3 前		2		
		国際経済学	1	08	04	4	25	88	3 前		2		
		経営情報論	1	08	04	4	25	89	3 後		2		
		アントレプレナーシップ論	1	08	04	4	25	90	3 後		2		
		消費者行動入門	1	08	04	4	25	91	3 後		2		
		コーポレイト・ファイナンス論	1	08	04	4	25	92	3 後		2		
		地域経済論	1	08	04	4	25	93	3 後		2		
	法学領域	不法行為法	1	08	04	3	25	94	2 後		2		
		家族法	1	08	04	3	25	95	2 後		2		
		消費者法	1	08	04	3	25	96	2 後		2		
		会社法	1	08	04	4	25	97	3 前		2		
		不動産法	1	08	04	4	25	98	3 前		2		

2025 年度以降入学者用

【経営法学部】
［経営法学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	法学領域	行政法総論	1	08	04	4	25	99	3 前		2		
		経済法	1	08	04	4	25	100	3 前		2		
		国際取引法	1	08	04	3	25	101	3 前		2		
		労働法	1	08	04	4	25	102	3 後		2		
		知的財産権法	1	08	04	4	25	103	3 後		2		
		行政救済法	1	08	04	4	25	104	3 後		2		
		民事手続法	1	08	04	4	25	105	3 後		2		
	展開科目	応用データ解析	1	08	04	4	25	106	3 前		2		
		政治学	1	08	04	2	25	107	3 前		2		
		行政学	1	08	04	4	25	108	3 後		2		
		医療福祉経済論	1	08	04	4	25	109	3 前		2		
		医療政策論	1	08	04	4	25	110	3 後		2		
		地域医療マネジメントⅠ	1	08	04	3	25	111	3 前		2		
		地域医療マネジメントⅡ	1	08	04	4	25	112	3 後		2		
		社会保障論	1	08	04	3	25	113	3 前		2		
		多文化共生論	1	08	04	4	25	114	3 後		2		
		韓国研究	1	08	04	4	25	115	3 前		2		
		中国研究	1	08	04	4	25	116	3 後		2		
		アメリカ研究	1	08	04	4	25	117	3 後		2		
		プロジェクト研究	1	08	04	3	25	118	2 通		4		
		プロジェクト応用	1	08	04	4	25	119	3 通		4		
	専門研究	専門ゼミナールⅠ	1	08	04	3	25	120	3 前	2			
		専門ゼミナールⅡ	1	08	04	3	25	121	3 後	2			
		卒業研究	1	08	04	4	25	122	4 通	4			
	専門科目の合計									8	98	0	48 単位以上修得すること。
	経営法学科の総合計									35	198	0	124 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	
		区分別要件	区分問わず
基礎科目	13	11	※左記に加えて20単位以上
専門基礎科目	14	18	
専門科目	8	40	
小計	35	89	
合計	124		

※教養・基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 20 単位以上を修得しなければならない。

2021～2024 年度入学者用

【経営法学部】
［経営法学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
教養・基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	08	01	1	20	1	1 通		3		6 科目から 2 単位以上修得すること。
		生命を考える	1	08	01	1	20	2	1 前・1 後		2		
		人間文化探求	1	08	01	1	20	3	1 通		2		
		生活の中の科学	1	08	01	1	20	4	1 前・1 後		2		
		地域活動・ボランティア	1	08	01	1	20	5	1 通		2		
		現代社会を視る	1	08	01	1	20	6	1 前・1 後		2		
		ボランティア探求	1	08	01	1	20	7	2 通		2		
		小計（7 科目）							-		15		
	教養科目	現代国語表現	1	08	02	1	20	8	1 前	2			（必修 2 単位）
		哲学	1	08	02	1	20	9	1 前		2		15 科目から 4 単位以上修得すること。
		現代史	1	08	02	1	20	10	1 前		2		
		芸術論	1	08	02	1	20	11	1 前		2		
		文化人類学	1	08	02	1	20	12	1 前		2		
		文学	1	08	02	1	20	13	1 前		2		
		宗教学	1	08	02	1	20	14	1 前		2		
		心理学	1	08	02	1	20	15	1 前		2		
		倫理学	1	08	02	1	20	16	1 前		2		
		健康科学	1	08	02	1	20	17	1 前		2		
		現代思想	1	08	02	1	20	18	1 後		2		
		東北の歴史	1	08	02	1	20	19	1 後		2		
		コミュニケーション論	1	08	02	1	20	20	1 後		2		
		地球科学	1	08	02	1	20	21	1 後		2		
		医学総論	1	08	02	1	20	22	1 後		2		
		スポーツ実技	1	08	02	1	20	23	1 後		1		
		小計（16 科目）							-	2	29		
	外国語	英語基礎 I	1	08	02	1	20	24	1 前	1			（必修 2 単位）
		英語基礎 II	1	08	02	1	20	25	1 後	1			
		英語 I	1	08	02	1	20	26	1 前		1		14 科目から 2 単位以上修得すること。
		英語 II	1	08	02	1	20	27	1 後		1		
		英語 III	1	08	02	2	20	28	2 前		1		
		英語 IV	1	08	02	2	20	29	2 後		1		
		フィールドワーク英語 I	1	08	02	2	20	30	2 前		1		
		フィールドワーク英語 II	1	08	02	2	20	31	2 後		1		
		中国語 I	1	08	02	1	20	32	1 前		1		
		中国語 II	1	08	02	1	20	33	1 後		1		
		中国語 III	1	08	02	2	20	34	2 前		1		
		中国語 IV	1	08	02	2	20	35	2 後		1		
		韓国語 I	1	08	02	1	20	36	1 前		1		
		韓国語 II	1	08	02	1	20	37	1 後		1		
		韓国語 III	1	08	02	2	20	38	2 前		1		
		韓国語 IV	1	08	02	2	20	39	2 後		1		
		海外研修	1	08	02	1	20	40	1･2･3･4 通		2		
		小計（17 科目）							-	2	16		
	特別講座	特別講座 I	1	08	02	1	20	41	1 前		2		
		特別講座 II	1	08	02	1	20	42	1 後		2		
		小計（2 科目）							-		4		
	キャリア形成	キャリア入門 I（入門）	1	08	02	1	20	43	1 前	2			（必修 8 単位）
		キャリア入門 II（ライフデザイン）	1	08	02	1	20	44	1 後	2			
		キャリア戦略 I（キャリア構想）	1	08	02	1	20	45	2 前	2			
		キャリア戦略 II（キャリア構想）	1	08	02	1	20	46	2 後	2			
		キャリア戦略 III（企業研究）	1	08	02	2	20	47	3 前		2		
		キャリア戦略 IV（実践）	1	08	02	2	20	48	3 後		2		
		企業等インターンシップ I	1	08	02	3	20	49	2 通		1		
		企業等インターンシップ II	1	08	02	3	20	50	3 通		1		
		小計（8 科目）							-	8	6		
基礎科目の合計（50 科目）									-	12	70		24 単位以上修得すること。

2021～2024 年度入学者用

【経営法学部】
［経営法学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門基礎科目	基幹科目	法学概論	1	08	03	2	20	51	1 前	2			（必修 14 単位）
		経済学概論	1	08	03	2	20	52	1 前	2			
		経営学概論	1	08	03	2	20	53	1 前	2			
		アカデミックスキルズ I	1	08	03	1	20	54	1 前	2			
		アカデミックスキルズ II	1	08	03	1	20	55	1 後	2			
		基礎ゼミナール I	1	08	03	2	20	56	2 前	2			
		基礎ゼミナール II	1	08	03	2	20	57	2 後	2			
		小計（7 科目）							-	14			
	法学領域	民法総則	1	08	03	2	20	58	1 後		2		
		憲法	1	08	03	2	20	59	1 後		2		
		契約法	1	08	03	2	20	60	2 前		2		
		物権法	1	08	03	2	20	61	2 前		2		
		刑法	1	08	03	2	20	62	2 前		2		
		政治学	1	08	03	2	20	63	2 前		2		
		社会保障概論	1	08	03	2	20	64	2 前		2		
		小計（7 科目）							-		14		
	経済・経営領域	マーケティング論	1	08	03	2	20	65	1 後		2		
		ミクロ経済学	1	08	03	2	20	66	1 後		2		
		マクロ経済学	1	08	03	2	20	67	2 前		2		
		経営戦略論	1	08	03	2	20	68	2 前		2		
		流通論	1	08	03	2	20	69	2 前		2		
		簿記論 I	1	08	03	2	20	70	1 後		4		
		簿記論 II	1	08	03	2	20	71	2 前		2		
		簿記論 III	1	08	03	2	20	72	2 後		2		
		小計（8 科目）							-		18		
	関連科目	社会学概論	1	08	03	2	20	73	1 後		2		
		環境論入門	1	08	03	2	20	74	1 後		2		
		地域文化論	1	08	03	2	20	75	2 前		2		
		小計（3 科目）							-		6		
	分析手法	データ分析入門	1	08	03	2	20	76	1 後		2		
		政策基礎数理 I	1	08	03	2	20	77	1 後		2		
		政策基礎数理 II	1	08	03	2	20	78	2 前		2		
		統計学	1	08	03	2	20	79	2 前		2		
		データ解析	1	08	03	3	20	80	2 後		2		
		小計（5 科目）							-		10		
専門基礎科目の合計（30 科目）									-	14	48		32 単位以上修得すること。
専門科目	法学領域	家族法	1	08	04	3	20	81	2 後		2		
		消費者法	1	08	04	3	20	82	2 後		2		
		会社法	1	08	04	4	20	83	3 前		2		
		不動産法	1	08	04	4	20	84	3 前		2		
		行政法総論	1	08	04	4	20	85	3 前		2		
		行政学	1	08	04	4	20	86	3 前		2		
		労働法	1	08	04	4	20	87	3 後		2		
		知的財産権法	1	08	04	4	20	88	3 後		2		
		行政救済法	1	08	04	4	20	89	3 後		2		
		地域行政論	1	08	04	4	20	90	3 後		2		
		小計（10 科目）							-		20		
	経済・経営領域	経営組織論	1	08	04	3	20	91	2 後		2		
		経営史	1	08	04	3	20	92	2 後		2		
		現代のマーケティング	1	08	04	3	20	93	2 後		2		
		流通政策	1	08	04	3	20	94	2 後		2		
		金融論	1	08	04	3	20	95	2 後		2		
		財政学	1	08	04	3	20	96	2 後		2		
		国際経済学	1	08	04	4	20	97	3 前		2		
		地域経済論	1	08	04	4	20	98	3 後		2		
		中小企業論	1	08	04	4	20	99	3 前		2		

2021～2024 年度入学者用

【経営法学部】
［経営法学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	経済・経営領域	ロジスティック論	1	08	04	4	20	100	3 前		2		
		消費者行動入門	1	08	04	4	20	101	3 前		2		
		起業論	1	08	04	4	20	102	3 後		2		
		国際経営論	1	08	04	4	20	103	3 後		2		
		経営情報論	1	08	04	4	20	104	3 後		2		
		地方財政論	1	08	04	4	20	105	3 後		2		
		財務会計 I	1	08	04	3	20	106	2 前		2		
		財務会計 II	1	08	04	3	20	107	2 後		2		
		管理会計	1	08	04	4	20	108	3 前		2		
		小計（18 科目）							-		36		
	関連科目	国際関係論	1	08	04	3	20	109	2 後		2		
		持続的農業論	1	08	04	3	20	110	2 後		2		
		グリーンツーリズム論	1	08	04	4	20	111	3 前		2		
		アグリビジネス論	1	08	04	4	20	112	3 後		2		
		東北文化論	1	08	04	4	20	113	3 前		2		
		東北の民俗	1	08	04	4	20	114	3 後		2		
		医療福祉経済論	1	08	04	4	20	115	3 前		2		
		医療政策論	1	08	04	4	20	116	3 後		2		
		企業福祉論	1	08	04	4	20	117	3 前		2		
		医療管理学 I	1	08	04	4	20	118	3 前		2		
		医療管理学 II	1	08	04	4	20	119	3 後		2		
		非営利組織論	1	08	04	4	20	120	3 前		2		
		多文化共生論	1	08	04	4	20	121	3 後		2		
		韓国研究	1	08	04	4	20	122	3 前		2		
		中国研究	1	08	04	4	20	123	3 後		2		
		アメリカ研究	1	08	04	4	20	124	3 後		2		
		小計（16 科目）							-		32		
	展開科目	地域探求 I	1	08	04	3	20	125	2 前		2		
		地域探求 II	1	08	04	3	20	126	2 後		2		
		地域連携 I	1	08	04	4	20	127	3 前		2		
		地域連携 II	1	08	04	4	20	128	3 後		2		
		小計（4 科目）							-		8		
	専門研究	専門ゼミナール I	1	08	04	3	20	129	3 前	2			（必修 8 単位）
		専門ゼミナール II	1	08	04	3	20	130	3 後	2			
		卒業研究	1	08	04	4	20	131	4 通	4			
		小計（3 科目）							-	8			
専門科目の合計（51 科目）									-	8	96		48 単位以上修得すること。
総合政策学科の総合計（131 科目）									-	34	214		124 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数 必修	選択科目 区分別要件	区分問わず
教養・基礎科目	12	12	※左記に加えて 20 単位以上
専門基礎科目	14	18	
専門科目	8	40	
小計	34	90	
合計	124		

※教養・基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 20 単位以上を修得しなければならない。

経営法学科カリキュラム対照表

2021～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	※			
生命を考える	1 前・1 後		2	生命を考える	1 前・1 後		2
人間文化探求	1 通		2	※			
生活の中の科学	1 前・1 後		2	生活の中の科学	1 前・1 後		2
地域活動・ボランティア	1 通		2	※			
現代社会を視る	1 前・1 後		2	現代社会を視る	1 前・1 後		2
ボランティア探求	2 通		2	※			
現代国語表現	1 前	2		※			
哲学	1 前		2	哲学	1 後		2
現代史	1 前		2	現代史	1 前		2
芸術論	1 前		2	※			
文化人類学	1 前		2	※			
文学	1 前		2	※			
宗教学	1 前		2	※			
心理学	1 前		2	心理学概論	1 後		2
倫理学	1 前		2	※			
健康科学	1 前		2	※			
現代思想	1 後		2	※			
東北の歴史	1 後		2	東北の歴史	1 前		2
コミュニケーション論	1 後		2	コミュニケーション論	1 後		2
地球科学	1 後		2	生活と地球科学	1 後		2
医学総論	1 後		2	※			
スポーツ実技	1 後		1	スポーツ実技	1 前		1
英語基礎 I	1 前	1		英語コミュニケーション I	1 前	1	
英語基礎 II	1 後	1		英語コミュニケーション II	1 後	1	
英語 I	1 前		1	※			
英語 II	1 後		1	※			
英語 III	2 前		1	英語コミュニケーション III	2 前		1
英語 IV	2 後		1	英語コミュニケーション IV	2 後		1
フィールドワーク英語 I	2 前		1	フィールドワーク英語 I	2 前		1
フィールドワーク英語 II	2 後		1	フィールドワーク英語 II	2 後		1
中国語 I	1 前		1	中国語コミュニケーション I	1 前		1
中国語 II	1 後		1	中国語コミュニケーション II	1 後		1
中国語 III	2 前		1	中国語コミュニケーション III	2 前		1
中国語 IV	2 後		1	中国語コミュニケーション IV	2 後		1
韓国語 I	1 前		1	韓国語コミュニケーション I	1 前		1
韓国語 II	1 後		1	韓国語コミュニケーション II	1 後		1
韓国語 III	2 前		1	韓国語コミュニケーション III	2 前		1
韓国語 IV	2 後		1	韓国語コミュニケーション IV	2 後		1
海外研修	1･2･3･4 通		2	海外研修	1 通		2
特別講座 I	1 前		2	※			
特別講座 II	1 後		2	※			
キャリア入門 I （入門）	1 前	2		キャリア入門 I	1 前	2	
キャリア入門 II （ライフデザイン）	1 後	2		キャリア入門 II	1 後	2	
キャリア戦略 I （キャリア構想）	2 前	2		キャリア戦略 I	2 前	2	
キャリア戦略 II （キャリア構想）	2 後	2		キャリア戦略 II	2 後	2	
キャリア戦略 III （企業研究）	3 前		2	キャリア戦略 III	3 前		2
キャリア戦略 IV （実践）	3 後		2	キャリア戦略 IV	3 後		2
企業等インターンシップ I	2 通		1	業界・企業研究 I	2 通		1
企業等インターンシップ II	3 通		1	業界・企業研究 II	3 通		1
法学概論	1 前	2		法学概論	1 前	2	
経済学概論	1 前	2		経済学概論	1 前	2	
経営学概論	1 前	2		経営学概論	1 前	2	
アカデミックスキルズ I	1 前	2		初年次セミナー	1 前	2	
アカデミックスキルズ II	1 後	2		アカデミックスキルズ	1 後	2	
基礎ゼミナール I	2 前	2		プレゼミナール I	2 前	2	
基礎ゼミナール II	2 後	2		プレゼミナール II	2 後	2	
民法総則	1 後		2	民法総則	1 後		2
憲法	1 後		2	憲法と法律	1 後		2
契約法	2 前		2	契約法	2 前		2
物権法	2 前		2	物権法	2 前		2
刑法	2 前		2	刑法	2 前		2

経営法学科カリキュラム対照表

2021～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
政治学	2 前		2	政治学	3 前		2
社会保障概論	2 前		2	社会保障論	3 前		2
マーケティング論	1 後		2	マーケティング論	1 後		2
ミクロ経済学	1 後		2	ミクロ経済学	1 後		2
マクロ経済学	2 前		2	マクロ経済学	2 前		2
経営戦略論	2 前		2	経営戦略論	2 前		2
流通論	2 前		2	流通論	2 前		2
簿記論Ⅰ	1 後		4	簿記論Ⅰ	1 後		4
簿記論Ⅱ	2 前		2	簿記論Ⅱ	2 前		2
簿記論Ⅲ	2 後		2	簿記論Ⅲ	2 後		2
社会学概論	1 後		2	※			
環境論入門	1 後		2	※			
地域文化論	2 前		2	※			
データ分析入門	1 後		2	※			
政策基礎数理Ⅰ	1 後		2	統計・数理入門	1 前		2
政策基礎数理Ⅱ	2 前		2	経営・経済のための数学	1 後		2
統計学	2 前		2	統計学	2 前		2
データ解析	2 後		2	データ解析	2 後		2
家族法	2 後		2	家族法	2 後		2
消費者法	2 後		2	消費者法	2 後		2
会社法	3 前		2	会社法	3 前		2
不動産法	3 前		2	不動産法	3 前		2
行政法総論	3 前		2	行政法総論	3 前		2
行政学	3 前		2	行政学	3 後		2
労働法	3 後		2	労働法	3 後		2
知的財産権法	3 後		2	知的財産権法	3 後		2
行政救済法	3 後		2	行政救済法	3 後		2
地域行政論	3 後		2	※			
経営組織論	2 後		2	経営組織論	2 後		2
経営史	2 後		2	経営史	2 後		2
現代のマーケティング	2 後		2	マーケティング戦略論	2 前		2
流通政策	2 後		2	※			
金融論	2 後		2	金融論	2 後		2
財政学	2 後		2	財政学	2 後		2
国際経済学	3 前		2	国際経済学	3 前		2
地域経済論	3 後		2	地域経済論	3 後		2
中小企業論	3 前		2	中小企業論	2 前		2
ロジスティック論	3 前		2	ビジネスケース分析	3 前		2
消費者行動入門	3 前		2	消費者行動入門	3 後		2
起業論	3 後		2	アントレプレナーシップ論	3 後		2
国際経営論	3 後		2	グローバルマーケティング	3 前		2
経営情報論	3 後		2	経営情報論	3 後		2
地方財政論	3 後		2	※			
財務会計Ⅰ	2 前		2	財務会計Ⅰ	2 前		2
財務会計Ⅱ	2 後		2	財務会計Ⅱ	2 後		2
管理会計	3 前		2	管理会計	3 前		2
国際関係論	2 後		2	※			
持続的農業論	2 後		2	※			
グリーンツーリズム論	3 前		2	※			
アグリビジネス論	3 後		2	※			
東北文化論	3 前		2	※			
東北の民俗	3 後		2	※			
医療福祉経済論	3 前		2	医療福祉経済論	3 前		2
医療政策論	3 後		2	医療政策論	3 後		2
企業福祉論	3 前		2	※			
医療管理学Ⅰ	3 前		2	地域医療マネジメントⅠ	3 前		2
医療管理学Ⅱ	3 後		2	地域医療マネジメントⅡ	3 後		2
非営利組織論	3 前		2	※			
多文化共生論	3 後		2	多文化共生論	3 後		2
韓国研究	3 前		2	韓国研究	3 前		2
中国研究	3 後		2	中国研究	3 後		2
アメリカ研究	3 後		2	アメリカ研究	3 後		2

経営法学科カリキュラム対照表

2021～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
地域探求Ⅰ	2 前		2	プロジェクト研究	2 通		4
地域探求Ⅱ	2 後		2				
地域連携Ⅰ	3 前		2	プロジェクト応用	3 通		4
地域連携Ⅱ	3 後		2				
専門ゼミナールⅠ	3 前	2		専門ゼミナールⅠ	3 前	2	
専門ゼミナールⅡ	3 後	2		専門ゼミナールⅡ	3 後	2	
卒業研究	4 通	4		卒業研究	4 通	4	
				輝ける者	1 通		2
				経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2
				社会活動入門	1 前・1 後		2
				生命倫理学	1 後		1
				健康科学	1 前	1	
				教育学	1 後		2
				ジェンダー論	1 後		2
				生活の中の物理学	1 後		2
				生活の中の化学	1 前		2
				生活の中の生物学	1 前		2
				データサイエンス入門	1 前	2	
				生活と経済	1 後		2
				教養としての政治学	1 後		2
				経営・経済事情	1 前		2
				憲法（人権）	1 後		2
				憲法（統治）	2 前		2
				マーケティングリサーチ	2 後		2
				ファイナンシャル・プランニング（FP）論	2 後		2
				組織行動論	3 前		2
				コーポレイト・ファイナンス論	3 後		2
				不法行為法	2 後		2
				経済法	3 前		2
				国際取引法	3 前		2
				民事手続法	3 後		2
				応用データ解析	3 前		2

注）※は別途開講する。

旧カリキュラムの単位として認める新カリキュラムの科目の科目区分表（経営法学科）

2021～2024 年度入学者カリキュラム				
授業科目の名称	配当年次	単位数		科目区分
		必修	選択	
生命倫理学	1 後		1	教養・基礎科目
教育学	1 後		2	教養・基礎科目
ジェンダー論	1 後		2	教養・基礎科目
生活の中の物理学	1 後		2	教養・基礎科目
生活の中の化学	1 前		2	教養・基礎科目
生活の中の生物学	1 前		2	教養・基礎科目
憲法（人権）	1 後		2	専門基礎科目
憲法（統治）	2 前		2	専門基礎科目
マーケティングリサーチ	2 後		2	専門科目
ファイナンシャル・プランニング（FP）論	2 後		2	専門科目
組織行動論	3 前		2	専門科目
コーポレイト・ファイナンス論	3 後		2	専門科目
不法行為法	2 後		2	専門科目
経済法	3 前		2	専門科目
国際取引法	3 前		2	専門科目
民事手続法	3 後		2	専門科目

東北文化学園大学経営法学部経営法学科における進級に関する細則

┌2021年2月16日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第1条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第9条の3の規定に基づき、東北文化学園大学経営法学部経営法学科に在籍する学生の進級に関する取扱いについて定めるものとする。

（定義）

第2条　この細則において「留年」とは、次の定義による。

⑴　2年次から3年次への進級が認められなかった場合に、2年次に留め置くこと。

⑵　所定の修業年限（4年）を越えて在学すること。

（進級基準）

第3条　2年次から3年次への進級基準は、次のとおりとする。

⑴　1年次配当の必修科目の単位をすべて修得していること、又は2年次終了時の通算GPAが2.0以上であること。

⑵　1、2年次配当科目のうち、44単位以上を修得していること。

（進級の決定）

第4条　前条の全ての進級基準を満たした学生は、進級とする。

2　前条の進級基準を満たさない学生の進級は、GPA値等を勘案したうえで進級判定会議に諮り、経営法学部教授会の議を経て学長が決定する。

3　進級判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　経営法学科長

⑵　経営法学科から選出された教務委員会委員

⑶　進級基準を満たさない学生のスチューデント・アドバイザー

⑷　その他経営法学科長が必要と認めた者

（留年）

第5条　前条第2項によって進級が認められなかった学生は、留年とする。

（細則の改廃）

第6条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　　則

この細則は、2021年4月1日から施行する。

附　　則

この細則は、2022年9月7日から施行する。

東北文化学園大学経営法学部における履修登録単位数の上限に関する細則

┌2021年2月16日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第1条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第5条の2の規定に基づき、東北文化学園大学経営法学部経営法学科に在籍する学生の履修登録できる単位数の上限について定めるものとする。

（対象科目）

第2条　学生の履修登録の上限単位数の対象となる授業科目（以下「対象科目」という。）は、卒業の要件として履修する授業科目とする。ただし、ただし、次の各号に定める科目は、対象科目から除くことができる。

⑴　別表に定める科目

⑵　4年次学生については、過去に成績がD評価となった科目

（履修登録上限単位数）

第3条　経営法学科における1年間の履修登録の上限単位数は、48単位とする。

（履修登録単位数の特例）

第4条　学部長は、次の各号に該当する学生に対して、前条に定める履修登録単位数の上限を超える履修を認めることができる。

⑴　3年次編入学生及び転学部等学生

⑵　前年度のGPAが3.0以上の学生

2　前項第2号に該当する学生に対して上限を超えて履修を認める単位数は、8単位以内とする。

（雑則）

第5条　この細則に定めるもののほか、授業科目の履修登録の上限に関し必要な事項は、経営法学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第6条　この細則の改廃は、学長が行う。

附　　則

この細則は、2021年4月1日から施行する。

附　　則

この細則は、2025年4月1日から施行する。ただし、2024年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表

【除外科目】

科目名	配当年次	単位数	備考
海外研修	1通	2	
業界・企業研究Ⅰ	2通	1	
業界・企業研究Ⅱ	3通	1	
プロジェクト研究	2通	4	
プロジェクト応用	3通	4	

4.　工学部（科学技術学部）

■本学部の沿革

本学の前身は、1993 年 4 月に東北初の理工系カレッジとして開学した東北科学技術短期大学であり、情報工学科と建築設備環境学科の 2 学科を擁していました。1999 年 4 月、同短大の改組転換によって、本学が開学され、その歴史は本学部が「科学技術学部」として継承してきました。

同短期大学の開学から 30 余年、科学技術学部の設置から 20 年を経た本学部には、臨床工学科も加わり、その体制はさらに充実を見せています。このような背景から、本学部は、工学の知識・技術をもって未来社会の情報、建築、医療に貢献する人材を育成することを明確にし、2021 年 4 月「工学部」と改称し今にいたります。

ここでは、社会のあらゆるシステムの基盤技術である情報に関するエンジニアリング、人々の生活環境の創造に関するエンジニアリング、そして人間の生命（いのち）を守るエンジニアリングという、生活に身近かな工学分野に従事するエンジニアの育成を通じ、人類社会の幸福に貢献していくことを理念としています。

■工学部の目的と学科構成

工学部は上述の理念のもと、実践的教育に基づき、工学に関わる深い見識と高度の技術力を身に付けることに加えて、高い倫理観と豊かな創造力、多面的な分析力と協調性、実社会における具体的な問題把握力と解決能力を持つ、情報・建築・医療領域の人材の育成を目的としています。

その目的の達成のため、工学部には、それぞれ特色のある、「知能情報システム学科」、「建築環境学科」、「臨床工学科」の 3 学科を設置しています。

「知能情報システム学科」は、データサイエンス・情報ネットワークとマルチメディア・知能ロボットの各分野について、幅広いコンピュータの基礎知識に加え、プログラミング力を中核とした実践的な技術力を教授し、豊かな発想力と自在な応用力を身に付けた、高度情報化社会に対応できる人材を育成します。

「建築環境学科」は、建築・インテリア・環境・設備の各分野を核として、環境に配慮した建築空間の構成技術、長寿命化技術の獲得とその実践をとおして、充実した基礎教育と時代に適合した先端教育を行い、建築空間と人間生活の適正な関係の改善に寄与できる人材を育成します。

「臨床工学科」は、臨床工学に関わる医療技術や医療機器開発の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、チーム医療の重要な構成員である臨床工学技士として活動できる人材、さらには新たな医療機器の開発に参画できる人材を育成します。

(1)　知能情報システム学科

現代社会において、人工知能やデータサイエンスに代表される情報技術が、携帯電話、自動運転、病気診断など様々な場面で広く利用されています。たとえば、言葉の通じない外国旅行の時に翻訳ソフトを利用したり、お掃除ロボットで家事を楽にこなしたり、自宅で好きな歌手のコンサートを鑑賞したりすることはもう夢ではなくなりました。コンピュータ技術、情報ネットワーク技術、人工知能技術がこれらを現実にしました。

また、コンピュータを基にしたシステム技術が、福島原発事故現場で人の代わりに危険な作業をするロボット、近い将来の更なる超高齢社会での、身体が不自由な人を助ける介助ロボット、どこでも診断・治療が受けられる遠隔医療システムなどに使われています。

高度な情報化時代をリードし、安全で便利にコンピュータやネットワークを利用する技術、多様なマルチメディア情報を処理するメディア技術、ロボット、医療福祉機器などに使われているシステム技術、全く新しいコンピュータの応用技術などを開発できる若い人材が様々な分野で求められています。この要請に応えるために「知能情報システム学科」のカリキュラムは、コンピュータの基本を理解した上で、それらの応用分野で活躍できる人材を育てることを目的として構成されています。カリキュラムにおける応用分野の教育目的は以下のとおりです。

○　データサイエンス・情報ネットワーク分野では、コンピュータや情報ネットワークを安全に便利に利用するための基本技術を学び、プログラマー、ネットワーク技術者などの情報化社会に役立つ高度な情報技術者を育成します。

この分野では、ネットワーク社会の幅広い分野で活躍できる人材育成を教育目的とし、データサイエ

ンスやネットワークを応用したプログラミングなど高度情報化社会において連携される基本的技術を修得し、学生各自の能力や特性に応じた技術者の養成が行えるようカリキュラムを構成しています。

○　マルチメディア・知能ロボット分野では、情報信号処理、情報デザイン、ロボット工学などの高度な専門技術、および映像や音情報などのマルチメディアをさまざまな分野での応用技術に関して教育を行い、ウェブデザイナー、デジタル情報処理技術者、ロボット開発保守エンジニアなどの高度な専門技術者を養成します。

　この分野では、映像や音楽などのマルチメディア技術のみならず、人工知能などの知識も習得し、幅広い応用分野で活躍できる技術者の養成が行えるようカリキュラムを構成しています。

このように互いに関連する応用分野のカリキュラムを１つの学科に収容することにより、各自にあった分野を選択し、即戦力のあるエンジニアを目指して深く学べることのみならず、関連する多彩な応用分野の知識も得ることで、来たる高度情報化社会、超高齢社会を担う、より広い情報工学の教養と知識と視野を持った柔軟な人材の育成を目指しています。

学科名に知能を冠することは、本学科の教育によって育成される人間も、本学科で学ぶシステムも、環境の変化に柔軟に対応できる高度な適応性を兼ね備えることを意味しています。さらに、理系志向の学生から文系志向の学生まで、多彩な人材の教育に対応するために、すべての分野において導入教育の充実を図ると共に、個々の学生の能力と特性に合わせた柔軟なカリキュラム体系を構成しています。

1）　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・知能情報システム分野の基礎を広く深く理解し、柔軟な対応力を身につけている。

「思考・判断」

・コミュニケーション能力などの社会人基礎力を養い、未来社会に対応できる能力を身につけている。

「技能・表現」

・知能情報システムの多彩な応用分野を広く学び、地域社会の発展に貢献できる力を身につけている。

「関心・意欲・態度」

・広い教養に裏打ちされ、魅力ある人生を創造する人間力を身につけている。

2.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

・知能情報システム分野の基礎と応用を広く深く学び、自ら考え、地域社会、未来社会に貢献し、魅力ある人生を創造したい人。

「知識・技能 」

・高等学校までの教育課程で履修する、国語、英語、数学、情報（処理）等に関連した基礎的な知識・技能を修得していることが望ましい。

「思考力・判断力・表現力」

・知能情報システム分野の知識、技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。

「主体的に、多様な人々と協働して学ぶ態度」

・情報化社会に主体的な問題意識を持ち、多様な人々と協調・協働して人間力を高め、安全で便利な社会を創るために学習する意欲のある人。

求める学習経験

・高等学校までの授業、総合学習、課外活動等を通して、コンピュータや情報技術への興味・関心を持つに至る学習経験を有する。

3.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに定めた目標を達成するため、基礎科目から多彩な専門科目まで体系的に編成し、発展的に学べる教育課程で教育を実施する。

「基礎科目」
・社会的な倫理感と責任感を持ち、広い視野と深い洞察力を備えた人間力を育成する。
「専門基礎科目」
・知能情報システムの基礎を幅広く理解するため、コンピュータの動作原理の基本となるプログラミングに基軸をおいて教育する。
「専門科目」
・知能情報システムの要素技術を多様なシステムに活用するため、インターネット、画像処理、音信号処理、分散処理、コンピュータビジョン、AI、組み込みシステムなどの専門技術を教育する。
「研修科目」
・社会人基礎力を持ち、培った情報技術を活かせるエンジニアを育成する。

2）　授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表（別頁）

3）　カリキュラムツリー（別頁）

4）　カリキュラム配置図（別頁）

5）　授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表（別頁）

6）　東北文化学園大学工学部知能情報システム学科における進級及び卒業研究の履修に関する細則（別頁）

7）　目標とする国家試験・資格

ITパスポート、情報セキュリティマネジメント、基本情報技術者、応用情報技術者、ネットワークスペシャリスト、エンベデッドスペシャリスト、データベーススペシャリスト、マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）

8）　将来の仕事

ソフトウェア産業、コンピュータ関連企業、情報通信・ネットワーク関連企業、エレクトロニクス関連企業、制御関連企業、情報サービス産業、ロボット開発産業、医療福祉系機器産業、医療情報産業、カーエレクトロニクス関連産業、研究・教育機関、国家公務員、地方公務員など

9）　その他（詳細は別に定める）

1. 実験・実習・演習概要
2. 卒業研究テーマ
3. 履修モデル
4. 卒業見込証明書の発行基準に関する規程
5. 他学部等単位認定基準
6. 新設科目の卒業単位への算入規定

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【工学部／科学技術学部　知能情報システム学科】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・知能情報システム分野の基礎を広く深く理解し、柔軟な対応力を身につけている。
②	「思考・判断」	・コミュニケーション能力などの社会人基礎力を養い、未来社会に対応できる能力を身につけている。
③	「技能・表現」	・知能情報システムの多彩な応用分野を広く学び、地域社会の発展に貢献できる力を身につけている。
④	「関心・意欲・態度」	・広い教養に裏打ちされ、魅力ある人生を創造する人間力を身につけている。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

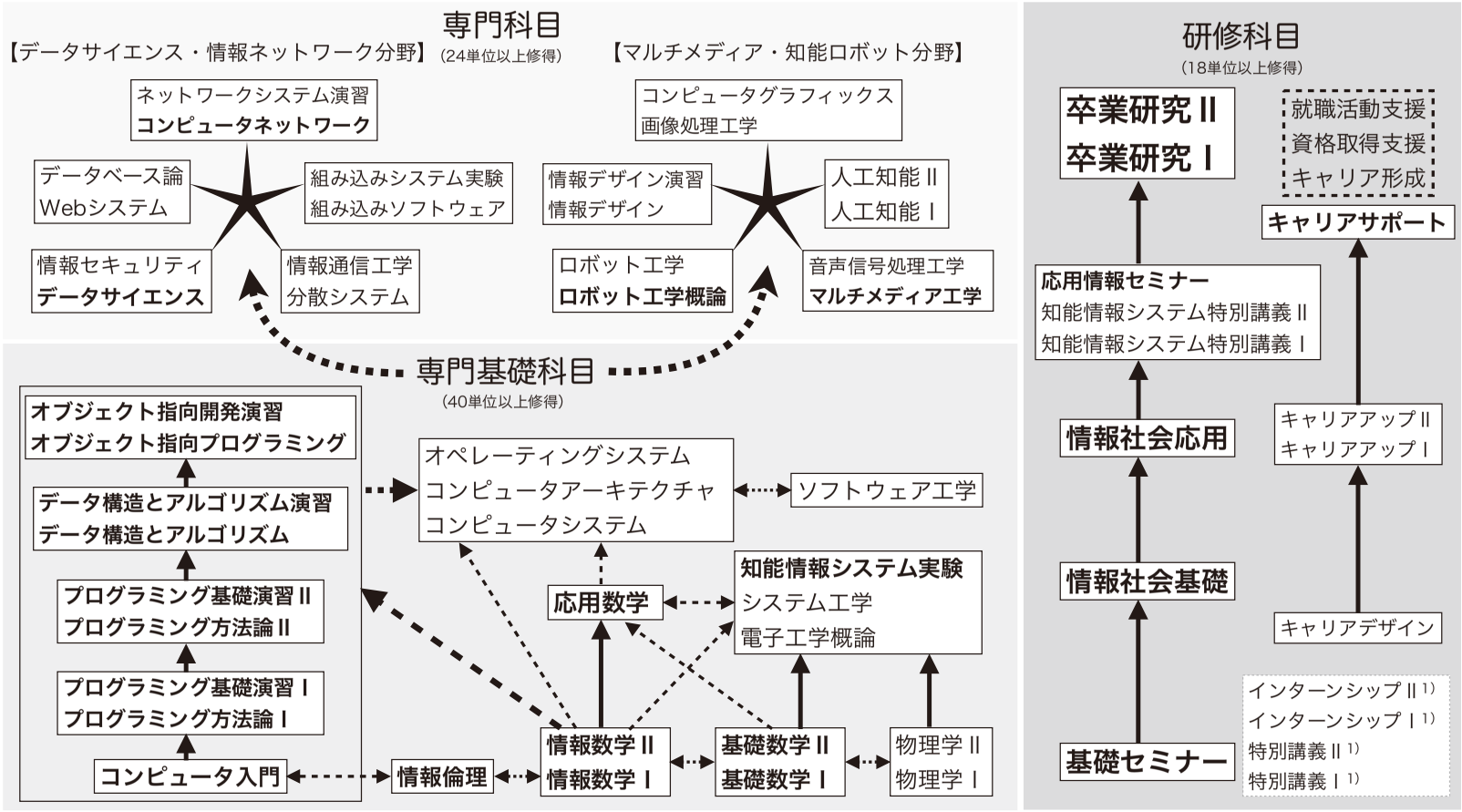
授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2			○		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2			○		○
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2			○		○
		社会活動入門	1 前・1 後		2			○		○
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1				○		
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1				○		
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1			○		
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1			○		
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1			○		
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1			○		
		海外研修	1 通		2			○		◎
		スポーツ実技	1 後		1			○		◎
		心理学概論	1 前		2			○		◎
		生命倫理学	1 後		1			○		◎
		健康科学	1 前	1						○
		教育学	1 前		2			○		◎
		哲学	1 後		2			○		◎
		現代史	1 前		2			○		◎
		東北の歴史	1 後		2			○		◎
		ジェンダー論	1 前		2			○		◎
		生活の中の物理学	1 後		2			○		○
		生活の中の化学	1 前		2			○		○
		生活の中の生物学	1 前		2			○		○
		生活と地球科学	1 後		2			○		○
		データサイエンス入門	1 後	2				○		○
		コミュニケーション論	1 前		2			○		○
		憲法と法律	1 後		2			○		○
		生活と経済	1 前		2			○		○
		教養としての政治学	1 後		2			○		○
専門基礎科目		コンピュータ入門	1 前	2			◎	○		
		基礎数学Ⅰ	1 前	2			◎			○

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目		情報数学Ⅰ	1前	2			◎			○
		情報倫理	1前	2			◎			○
		物理学Ⅰ	1前		2		◎			○
		基礎数学Ⅱ	1後	2			◎			○
		情報数学Ⅱ	1後	2			◎			○
		物理学Ⅱ	1後		2		◎			○
		プログラミング方法論Ⅰ	1後	2			◎		○	
		プログラミング基礎演習Ⅰ	1後	2			◎	○		
		プログラミング方法論Ⅱ	2前	2			◎		○	
		プログラミング基礎演習Ⅱ	2前	2			◎	○		
		電子工学概論	2前		2		◎		○	
		知能情報システム実験	2前	2			◎	○		
		コンピュータシステム	2前		2		◎		○	
		システム工学	2前		2		○		◎	
		応用数学	2後	2			◎			○
		コンピュータアーキテクチャ	2後		2		◎		○	
		データ構造とアルゴリズム	2後	2			◎		○	
		データ構造とアルゴリズム演習	2後	2			◎	○		
		オブジェクト指向プログラミング	2後	2			◎		○	
		オペレーティングシステム	3前		2		◎		○	
		オブジェクト指向開発演習	3前	2			◎	○		
		ソフトウェア工学	3後		2		◎		○	
専門科目	データサイエンス・情報ネットワーク	コンピュータネットワーク	2前	2			○		◎	
		ネットワークシステム演習	2後		2			○	◎	
		情報セキュリティ	3前		2		○		◎	
		データベース論	3前		2		○		◎	
		情報通信工学	3前		2		○		◎	
		組み込みソフトウェア	3前		2		○		◎	
		組み込みシステム実験	3前		2			○	◎	
		分散システム	3後		2		○		◎	
		Web システム	3後		2		○		◎	
		データサイエンス	3後	2			○		◎	
	マルチメディア・知能ロボット	人工知能Ⅰ	2前		2		○		◎	
		ロボット工学概論	2前	2			○		◎	
		ロボット工学	2後		2		○		◎	
		人工知能Ⅱ	2後		2		○		◎	
		マルチメディア工学	2後	2			○		◎	
		画像処理工学	3前		2		○		◎	
		情報デザイン	3前		2		○		◎	
		情報デザイン演習	3後		2			○	◎	
		音響信号処理工学	3後		2		○		◎	
		コンピュータグラフィックス	3後		2		○		◎	
研修科目		基礎セミナー	1前	1			◎	○		
		キャリアデザイン	1前		2			◎		○
		情報社会基礎	2前	1			◎			○
		キャリアアップⅠ	2前		2			◎		○
		キャリアアップⅡ	2後		2			◎		○
		情報社会応用	3前	1			◎			○

授業科目の名称		配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
研修科目	知能情報システム特別講義Ⅰ	3前		1				◎	○
	知能情報システム特別講義Ⅱ	3後		1				◎	○
	キャリアサポート	3後	2				◎		○
	インターンシップⅠ	1・2・3・4通		1			◎		○
	インターンシップⅡ	1・2・3・4通		1			◎		○
	特別講義Ⅰ	1・2・3・4通		1			◎		○
	特別講義Ⅱ	1・2・3・4通		1			◎		○
	応用情報セミナー	3後	1			◎			○
	卒業研究Ⅰ	4前	4				○	◎	
	卒業研究Ⅱ	4後	4				○	◎	

※ 2024 年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025 年度シラバスで確認してください。

工学部 知能情報システム学科 カリキュラムツリー（2025 年度以降入学者用）



基礎科目

（28単位以上修得）

《探求・理解プロジェクト》

輝ける者
生命を考える
生活の中の科学
現代社会を視る
社会活動入門
経済・法律・世界を視る

《全学共通科目》

健康科学	教育学	コミュニケーション論	生活の中の生物学	**英語コミュニケーションⅡ**
生命倫理学	生活と経済	教養としての政治学	生活と地球化学	中国語コミュニケーションⅠ
スポーツ実技	東北の歴史	哲学	**データサイエンス入門**	中国語コミュニケーションⅡ
心理学概論	ジェンダー論	生活の中の物理学	海外研修	韓国語コミュニケーションⅠ
現代史	憲法と法律	生活の中の化学	**英語コミュニケーションⅠ**	韓国語コミュニケーションⅡ

［凡例］
太文字：必修科目
→：先修-後修科目
⇢：関連科目
太さは関連の度合

［脚注］
1) 通年開講の科目

学位授与の方針DP

- 知識・理解　：知能情報システム分野の基礎を広く理解し、柔軟な対応力を身につけている。
- 思考・判断　：コミュニケーション能力などの社会人基礎力を養い、未来社会に対応できる能力を身につけている。
- 技能・表現　：知能情報システムの多彩な応用分野を広く学び、地域社会の発展に貢献できる力を身につけている。
- 関心・意欲・態度：広い教養に裏打ちされ、魅力ある人生を創造する人間力を身につけている。

工学部　知能情報システム学科　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ（必修）	英語コミュニケーションⅡ（必修）						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		海外研修							
		心理学概論	スポーツ実技						
		健康科学（必修）	生命倫理学						
		教育学	哲学						
		現代史	東北の歴史						
		ジェンダー論							
		生活の中の化学	生活の中の物理学						
		生活の中の生物学	生活と地球科学						
			データサイエンス入門（必修）						
		コミュニケーション論	憲法と法律						
		生活と経済	教養としての政治学						
専門基礎科目		コンピューター入門（必修）	基礎数学Ⅱ（必修）	プログラミング方法論Ⅱ（必修）	応用数学（必修）	オブジェクト指向開発演習（必修）			
		基礎数学Ⅰ（必修）	情報数学Ⅱ（必修）	プログラミング基礎演習Ⅱ（必修）	データ構造とアルゴリズム（必修）	オペレーティングシステム			
		情報数学Ⅰ（必修）	プログラミング方法論Ⅰ（必修）	知能情報システム実験（必修）	データ構造とアルゴリズム演習（必修）	ソフトウェア工学			
		情報倫理（必修）	プログラミング基礎演習Ⅰ（必修）	電子工学論	オブジェクト指向プログラミング（必修）				
		物理学Ⅰ	物理学Ⅱ	コンピュータシステム	コンピュータアーキテクチャ				
				システム工学					
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期

必　修
選　択

工学部　知能情報システム学科　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
専門科目	データサイエンス・情報ネットワーク			コンピュータネットワーク	ネットワークシステム演習	情報セキュリティ データベース論 情報通信工学 組み込みソフトウェア 組み込みシステム実験	分散システム Webシステム データサイエンス		
専門科目	マルチメディア・知能ロボット			ロボット工学概論 人工知能 I	マルチメディア工学 ロボット工学 人工知能 II	画像処理工学 情報デザイン	情報デザイン演習 音響信号処理工学 コンピュータグラフィックス		
研修科目		インターンシップ I インターンシップ II 特別講義 I 特別講義 II 基礎セミナー キャリアデザイン		インターンシップ I インターンシップ II 特別講義 I 特別講義 II 情報社会基礎 キャリアアップ I	キャリアアップ II	インターンシップ I インターンシップ II 特別講義 I 特別講義 II 情報社会応用 知能情報システム特別講義 I	応用情報セミナー 知能情報システム特別講義 II キャリアサポート	卒業研究 I インターンシップ I インターンシップ II 特別講義 I 特別講義 II	卒業研究 II
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期

■ 必修
□ 選択

2025 年度以降入学者用

【工学部】
［知能情報システム学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	09	01	1	25	1	1 通		2		選択科目 6 科目から 2 単位以上修得すること。
		生命を考える	1	09	01	1	25	2	1 前・1 後		2		
		現代社会を視る	1	09	01	1	25	3	1 前・1 後		2		
		生活の中の科学	1	09	01	1	25	4	1 前・1 後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	09	01	1	25	5	1 前・1 後		2		
		社会活動入門	1	09	01	1	25	6	1 前・1 後		2		
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	09	02	1	25	7	1 前	1			
		英語コミュニケーションⅡ	1	09	02	1	25	8	1 後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	09	02	1	25	9	1 前		1		
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	09	02	1	25	10	1 後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	09	02	1	25	11	1 前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	09	02	1	25	12	1 後		1		
		海外研修	1	09	02	1	25	13	1 通		2		
		スポーツ実技	1	09	02	1	25	14	1 後		1		
		心理学概論	1	09	02	1	25	15	1 前		2		
		生命倫理学	1	09	02	1	25	16	1 後		1		
		健康科学	1	09	02	1	25	17	1 前	1			
		教育学	1	09	02	1	25	18	1 前		2		
		哲学	1	09	02	1	25	19	1 後		2		
		現代史	1	09	02	1	25	20	1 前		2		
		東北の歴史	1	09	02	1	25	21	1 後		2		
		ジェンダー論	1	09	02	1	25	22	1 前		2		
		生活の中の物理学	1	09	02	1	25	23	1 後		2		
		生活の中の化学	1	09	02	1	25	24	1 前		2		
		生活の中の生物学	1	09	02	1	25	25	1 前		2		
		生活と地球科学	1	09	02	1	25	26	1 後		2		
		データサイエンス入門	1	09	02	1	25	27	1 後	2			
		コミュニケーション論	1	09	02	1	25	28	1 前		2		
		憲法と法律	1	09	02	1	25	29	1 後		2		
		生活と経済	1	09	02	1	25	30	1 前		2		
		教養としての政治学	1	09	02	1	25	31	1 後		2		
		基礎科目の合計								5	48	0	28 単位以上修得すること。
専門基礎科目		コンピュータ入門	1	09	03	1	25	32	1 前	2			
		基礎数学Ⅰ	1	09	03	1	25	33	1 前	2			
		情報数学Ⅰ	1	09	03	1	25	34	1 前	2			
		情報倫理	1	09	03	1	25	35	1 前	2			
		物理学Ⅰ	1	09	03	1	25	36	1 前		2		
		基礎数学Ⅱ	1	09	03	1	25	37	1 後	2			
		情報数学Ⅱ	1	09	03	1	25	38	1 後	2			
		物理学Ⅱ	1	09	03	2	25	39	1 後		2		
		プログラミング方法論Ⅰ	1	09	03	2	25	40	1 後	2			
		プログラミング基礎演習Ⅰ	1	09	03	2	25	41	1 後	2			
		プログラミング方法論Ⅱ	1	09	03	2	25	42	2 前	2			
		プログラミング基礎演習Ⅱ	1	09	03	2	25	43	2 前	2			
		電子工学概論	1	09	03	1	25	44	2 前		2		
		知能情報システム実験	1	09	03	2	25	45	2 前	2			
		コンピュータシステム	1	09	03	2	25	46	2 前		2		
		システム工学	1	09	03	3	25	47	2 前		2		
		応用数学	1	09	03	3	25	48	2 後	2			
		コンピュータアーキテクチャ	1	09	03	2	25	49	2 後		2		
		データ構造とアルゴリズム	1	09	03	3	25	50	2 後	2			
		データ構造とアルゴリズム演習	1	09	03	3	25	51	2 後	2			
		オブジェクト指向プログラミング	1	09	03	2	25	52	2 後	2			
		オペレーティングシステム	1	09	03	3	25	53	3 前		2		
		オブジェクト指向開発演習	1	09	03	3	25	54	3 前	2			
		ソフトウェア工学	1	09	03	3	25	55	3 後		2		
		専門基礎科目の合計								32	16	0	40 単位以上修得すること。

2025 年度以降入学者用

【工学部】
［知能情報システム学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	データサイエンス・情報ネットワーク	コンピュータネットワーク	1	09	04	2	25	56	2前	2			
		ネットワークシステム演習	1	09	04	3	25	57	2後		2		
		情報セキュリティ	1	09	04	3	25	58	3前		2		
		データベース論	1	09	04	4	25	59	3前		2		
		情報通信工学	1	09	04	4	25	60	3前		2		
		組み込みソフトウェア	1	09	04	4	25	61	3前		2		
		組み込みシステム実験	1	09	04	4	25	62	3前		2		
		分散システム	1	09	04	4	25	63	3後		2		
		Ｗｅｂシステム	1	09	04	4	25	64	3後		2		
		データサイエンス	1	09	04	4	25	65	3後	2			
	マルチメディア・知能ロボット	人工知能Ⅰ	1	09	04	3	25	66	2前		2		
		ロボット工学概論	1	09	04	3	25	67	2前	2			
		ロボット工学	1	09	04	4	25	68	2後		2		
		人工知能Ⅱ	1	09	04	4	25	69	2後		2		
		マルチメディア工学	1	09	04	3	25	70	2後	2			
		画像処理工学	1	09	04	4	25	71	3前		2		
		情報デザイン	1	09	04	4	25	72	3前		2		
		情報デザイン演習	1	09	04	4	25	73	3後		2		
		音響信号処理工学	1	09	04	3	25	74	3後		2		
		コンピュータグラフィックス	1	09	04	4	25	75	3後		2		
	専門科目の合計									8	32	0	24 単位以上修得すること。
研修科目		基礎セミナー	1	09	07	1	25	76	1前	1			
		キャリアデザイン	1	09	07	1	25	77	1前		2		
		情報社会基礎	1	09	07	2	25	78	2前	1			
		キャリアアップⅠ	1	09	07	1	25	79	2前		2		
		キャリアアップⅡ	1	09	07	1	25	80	2後		2		
		情報社会応用	1	09	07	3	25	81	3前	1			
		知能情報システム特別講義Ⅰ	1	09	07	1	25	82	3前		1		
		知能情報システム特別講義Ⅱ	1	09	07	1	25	83	3後		1		
		キャリアサポート	1	09	07	1	25	84	3後	2			
		インターンシップⅠ	1	09	07	1	25	85	1･2･3･4通		1		
		インターンシップⅡ	1	09	07	1	25	86	1･2･3･4通		1		
		特別講義Ⅰ	1	09	07	1	25	87	1･2･3･4通		1		
		特別講義Ⅱ	1	09	07	1	25	88	1･2･3･4通		1		
		応用情報セミナー	1	09	07	4	25	89	3後	1			
		卒業研究Ⅰ	1	09	07	4	25	90	4前	4			
		卒業研究Ⅱ	1	09	07	4	25	91	4後	4			
	研修科目の合計									14	12	0	18 単位以上修得すること。
知能情報システム学科の総合計										59	108	0	124 単位以上修得すること。

区　　分	卒業要件単位数 必修	選択 区分別要件	区分問わず
基　礎　科　目	5	23	14
専門基礎科目	32	8	
専　門　科　目	8	16	
研　修　科　目	14	4	
小　　計	59	51	14
合　　計	124		

※必修 59 単位＋選択（区分別要件）51 単位＋選択（区分問わず）14 単位＝ 124 単位

2020～2024 年度入学者用

【工学部／科学技術学部】
［知能情報システム学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	09	01	1	20	1	1 通		3		選択科目 6 科目から 2 単位以上修得すること。
		生命を考える	1	09	01	1	20	2	1 前･1 後		2		
		人間文化探求	1	09	01	1	20	3	1 通		2		
		生活の中の科学	1	09	01	1	20	4	1 前･1 後		2		
		地域活動・ボランティア	1	09	01	1	20	5	1 通		2		
		現代社会を視る	1	09	01	1	20	6	1 前･1 後		2		
		ボランティア探求	1	09	01	1	20	7	2 通		2		
	医療健康科学	医学総論	1	09	02	1	20	8	1 後		2		
		人体の構造と機能	1	09	02	1	20	9	1 後		2		
		スポーツ実技	1	09	02	1	20	10	1 後		1		
		健康科学概論	1	09	02	1	20	11	2 前		2		
		救命救急学	1	09	02	1	20	12	2 後		1		
		精神医学	1	09	02	1	20	13	3 前		2		
		公衆衛生学	1	09	02	1	20	14	4 前		1		
	人文社会科学	心理学概論	1	09	02	1	20	15	1 前		2		
		経済学	1	09	02	1	20	16	1 前		2		
		哲学	1	09	02	1	20	17	1 後		2		
		保健医療福祉概論	1	09	02	1	20	18	2 後		2		
		環境倫理	1	09	02	1	20	19	4 後		2		
	自然科学	基礎物理学	1	09	02	1	20	20	1 前		2		
		基礎数学	1	09	02	1	20	21	1 前		2		
		地球科学	1	09	02	1	20	22	1 後		2		
		基礎化学	1	09	02	1	20	23	2 前		2		
		基礎生物学	1	09	02	1	20	24	2 後		2		
	語学	英語 I	1	09	02	1	20	25	1 前	2			
		英語 II	1	09	02	1	20	26	1 後	2			
		英語 III	1	09	02	1	20	27	2 前		2		
		中国語 I	1	09	02	1	20	28	1 前		2		
		中国語 II	1	09	02	1	20	29	1 後		2		
		韓国語 I	1	09	02	1	20	30	1 前		2		
		韓国語 II	1	09	02	1	20	31	1 後		2		
		海外研修	1	09	02	1	20	32	1･2･3･4通		2		
		基礎科目の合計								4	58	0	28 単位以上修得すること。
専門基礎科目		コンピュータ入門	1	09	03	1	20	33	1 前	2			
		基礎セミナー	1	09	03	1	20	34	1 前	1			
		情報リテラシー	1	09	03	1	20	35	1 前		2		
		線形代数学	1	09	03	1	20	36	1 前		2		
		確率統計学	1	09	03	1	20	37	1 前		2		
		情報倫理	1	09	03	1	20	38	1 前	2			
		数理学	1	09	03	1	20	39	1 後		2		
		微分積分学	1	09	03	1	20	40	1 後		2		
		離散数学	1	09	03	1	20	41	1 後		2		
		物理学	1	09	03	2	20	42	1 後		2		
		電気工学概論	1	09	03	1	20	43	1 後		2		
		プログラミング方法論 I	1	09	03	2	20	44	1 後	2			
		プログラミング基礎演習 I	1	09	03	2	20	45	1 後	2			
		プログラミング方法論 II	1	09	03	2	20	46	2 前	2			
		プログラミング基礎演習 II	1	09	03	2	20	47	2 前		2		
		機械工学概論	1	09	03	2	20	48	2 前		2		
		知能情報システム実験	1	09	03	2	20	49	2 前	2			
		コンピュータシステム	1	09	03	2	20	50	2 前		2		
		応用数学	1	09	03	3	20	51	2 後		2		
		コンピュータアーキテクチャ	1	09	03	2	20	52	2 後		2		
		データ構造とアルゴリズム	1	09	03	3	20	53	2 後	2			
		データ構造とアルゴリズム演習	1	09	03	3	20	54	2 後		2		
		オブジェクト指向プログラミング	1	09	03	2	20	55	2 後	2			
		情報システム開発	1	09	03	3	20	56	3 前		2		
		オペレーティングシステム	1	09	03	3	20	57	3 前		2		
		オブジェクト指向開発演習	1	09	03	3	20	58	3 後		2		
		ソフトウェア工学	1	09	03	3	20	59	3 後		2		
		専門基礎科目の合計								17	36	0	43 単位以上修得すること。

2020～2024 年度入学者用

【工学部／科学技術学部】
［知能情報システム学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	ネットワーク	コンピュータネットワーク	1	09	04	2	20	60	2 前		2		
		ネットワークシステム演習	1	09	04	3	20	61	2 後		2		
		情報セキュリティ	1	09	04	3	20	62	3 前		2		
		データベース論	1	09	04	4	20	63	3 前		2		
		情報通信工学	1	09	04	4	20	64	3 前		2		
		分散システム	1	09	04	4	20	65	3 後		2		
		Ｗｅｂシステム	1	09	04	4	20	66	3 後		2		
	マルチメディア	人工知能	1	09	04	3	20	67	2 前		2		
		神経生理学	1	09	04	3	20	68	2 前		2		
		マルチメディア工学	1	09	04	3	20	69	2 後		2		
		情報デザイン	1	09	04	4	20	70	3 前		2		
		データサイエンス	1	09	04	4	20	71	3 後		2		
		情報デザイン演習	1	09	04	4	20	72	3 後		2		
		コンピュータグラフィックス	1	09	04	4	20	73	3 後		2		
	ロボティクス	システム工学	1	09	04	3	20	74	2 前		2		
		機械 CAD	1	09	04	3	20	75	2 後		2		
		ロボット工学Ⅰ	1	09	04	4	20	76	2 後		2		
		ロボット工学Ⅱ	1	09	04	4	20	77	3 前		2		
		組み込みソフトウェア	1	09	04	4	20	78	3 前		2		
		組み込みシステム実験	1	09	04	4	20	79	3 前		2		
		専門科目の合計								0	40	0	30 単位以上修得すること。
研修科目		キャリアデザイン	1	09	07	1	20	80	1 前		2		
		キャリアアップⅠ	1	09	07	1	20	81	2 前		2		
		キャリアアップⅡ	1	09	07	1	20	82	2 後		2		
		キャリアサポート	1	09	07	1	20	83	3 後	2			
		知能情報システム特別講義Ⅰ	1	09	07	1	20	84	3 前		1		
		知能情報システム特別講義Ⅱ	1	09	07	1	20	85	3 後		1		
		インターンシップⅠ	1	09	07	1	20	86	1･2･3･4通		1		
		インターンシップⅡ	1	09	07	1	20	87	1･2･3･4通		1		
		特別講義Ⅰ	1	09	07	1	20	88	1･2･3･4通		1		
		特別講義Ⅱ	1	09	07	1	20	89	1･2･3･4通		1		
		卒業研究入門	1	09	07	4	20	90	3 後	1			
		卒業研究Ⅰ	1	09	07	4	20	91	4 前	4			
		卒業研究Ⅱ	1	09	07	4	20	92	4 後	4			
		研修科目の合計								11	12	0	17 単位以上修得すること。

区　　分	必修	選択	
		区分要件	区分問わず
基　礎　科　目	4	24	※左記に加えて６単位以上
専門基礎科目	17	26	
専　門　科　目	0	30	
研　修　科　目	11	6	
小　　計	32	86	
合　　計	124		

※基礎科目、専門基礎科目、専門科目及び研修科目から、区分ごとに定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく６単位以上修得しなければならない。

2016～2019 年度入学者用

【科学技術学部】
［知能情報システム学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	医療健康科学	心理学概論	1	09	02	1	16	1	1 前		2		
		医学総論	1	09	02	1	16	2	1 後		2		
		人体の構造と機能	1	09	02	1	16	3	1 後		2		
		スポーツ実技	1	09	02	1	16	4	1 後		1		
		健康科学概論	1	09	02	1	16	5	2 前		2		
		救命救急学	1	09	02	1	16	6	2 後		1		
		精神医学	1	09	02	1	16	7	3 前		2		
		公衆衛生学	1	09	02	1	16	8	4 前		1		
	人文社会科学	情報倫理	1	09	02	1	16	9	1 前	2			
		経済学	1	09	02	1	16	10	1 前		2		
		社会学	1	09	02	1	16	11	1 前		2		
		哲学	1	09	02	1	16	12	1 後		2		
		知財学概論	1	09	02	1	16	13	2 後		2		
		環境倫理	1	09	02	1	16	14	4 後		2		
	自然科学	基礎物理学	1	09	02	1	16	15	1 前		2		
		基礎数学 I	1	09	02	1	16	16	1 前		2		
		基礎数学 II	1	09	02	1	16	17	1 後		2		
		地球科学	1	09	02	1	16	18	1 後		2		
		基礎化学	1	09	02	1	16	19	2 前		2		
		基礎生物学	1	09	02	1	16	20	2 後		2		
	語学	英語 I	1	09	02	1	16	21	1 前	2			
		英語 II	1	09	02	1	16	22	1 後	2			
		英語 III	1	09	02	1	16	23	2 前		2		
		中国語 I	1	09	02	1	16	24	1 前		2		
		中国語 II	1	09	02	1	16	25	1 後		2		
		韓国語 I	1	09	02	1	16	26	1 前		2		
		韓国語 II	1	09	02	1	16	27	1 後		2		
		ドイツ語 I	1	09	02	1	16	28	2 前		2		
		ドイツ語 II	1	09	02	1	16	29	2 後		2		
		フランス語 I	1	09	02	1	16	30	2 前		2		
		フランス語 II	1	09	02	1	16	31	2 後		2		
		海外研修	1	09	02	1	16	32	1･2･3･4 通		2		
	全学共通科目	TBGU プロジェクト I（輝けるもの）	1	09	01	1	16	33	1･2･3･4 通		2		
		TBGU プロジェクト II（地域活動･ボランティア）	1	09	01	1	16	34	1･2･3･4 通		2		
		TBGU プロジェクト III（人間形成）	1	09	01	1	16	35	1･2･3･4 通		2		
	基礎科目の合計									6	61	0	28 単位以上修得すること
専門基礎科目		コンピュータ入門	1	09	03	1	16	36	1 前	2			
		基礎セミナー	1	09	03	1	16	37	1 前	1			
		情報リテラシー	1	09	03	1	16	38	1 前		2		
		線形代数学	1	09	03	1	16	39	1 前		2		
		数理学 I	1	09	03	1	16	40	1 前		2		
		確率統計学	1	09	03	1	16	41	1 前		2		
		微分積分学	1	09	03	1	16	42	1 後		2		
		数理学 II	1	09	03	1	16	43	1 後		2		
		離散数学	1	09	03	1	16	44	1 後		2		
		物理学	1	09	03	2	16	45	1 後		2		
		電気工学概論	1	09	03	1	16	46	1 後		2		
		プログラミング方法論 I	1	09	03	2	16	47	1 後	2			
		プログラミング基礎演習 I	1	09	03	2	16	48	1 後	2			
		プログラミング方法論 II	1	09	03	2	16	49	2 前	2			
		プログラミング基礎演習 II	1	09	03	2	16	50	2 前		2		
		応用数学	1	09	03	3	16	51	2 前		2		
		機械工学概論	1	09	03	2	16	52	2 前		2		
		知能情報システム実験	1	09	03	2	16	53	2 前		2		
		コンピュータシステム	1	09	03	2	16	54	2 前		2		
		コンピュータアーキテクチャ	1	09	03	2	16	55	2 後		2		
		データ構造とアルゴリズム	1	09	03	3	16	56	2 後	2			
		データ構造とアルゴリズム演習	1	09	03	3	16	57	2 後		2		
		オブジェクト指向プログラミング	1	09	03	2	16	58	2 後	2			
		オブジェクト指向開発	1	09	03	3	16	59	3 前		2		
		オペレーティングシステム	1	09	03	3	16	60	3 前		2		
		オブジェクト指向開発演習	1	09	03	3	16	61	3 後		2		
		ソフトウェア工学	1	09	03	3	16	62	3 後		2		
	専門基礎科目の合計									13	40	0	43 単位以上修得すること

2016～2019 年度入学者用

【科学技術学部】
［知能情報システム学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	ネットワーク	コンピュータネットワーク	1	09	04	2	16	63	2 前		2		
		ネットワークシステム演習	1	09	04	3	16	64	2 後		2		
		情報セキュリティ	1	09	04	3	16	65	3 前		2		
		データベース論	1	09	04	4	16	66	3 前		2		
		情報通信工学	1	09	04	4	16	67	3 前		2		
		分散システム	1	09	04	4	16	68	3 後		2		
		Web システム	1	09	04	4	16	69	3 後		2		
	マルチメディア	人工知能	1	09	04	3	16	70	2 前		2		
		マルチメディア工学	1	09	04	3	16	71	2 後		2		
		ニューラルネットワーク	1	09	04	4	16	72	3 前		2		
		情報デザイン	1	09	04	4	16	73	3 前		2		
		情報デザイン演習	1	09	04	4	16	74	3 後		2		
		パターン認識	1	09	04	4	16	75	3 後		2		
		コンピュータグラフィックス	1	09	04	4	16	76	3 後		2		
	バイオロボティクス	機械 CAD	1	09	04	3	16	77	2 後		2		
		バイオメカニクス	1	09	04	3	16	78	2 後		2		
		神経生理学	1	09	04	3	16	79	2 後		2		
		ロボット工学	1	09	04	4	16	80	3 前		2		
		組み込みソフトウェア	1	09	04	4	16	81	3 前		2		
		組み込みシステム実験	1	09	04	4	16	82	3 前		2		
		シミュレーション工学	1	09	04	4	16	83	3 後		2		
専門科目の合計										0	42	0	30 単位以上修得すること
研修科目		キャリアデザイン	1	09	07	1	16	84	1 前		2		
		キャリアアップⅠ	1	09	07	1	16	85	2 前		2		
		キャリアアップⅡ	1	09	07	1	16	86	2 後		2		
		キャリアサポート	1	09	07	1	16	87	3 後	2			
		知能情報システム特別講義Ⅰ	1	09	07	1	16	88	1･2･3･4 前		1		
		知能情報システム特別講義Ⅱ	1	09	07	1	16	89	1･2･3･4 後		1		
		インターンシップⅠ	1	09	07	1	16	90	1･2･3･4 通		1		
		インターンシップⅡ	1	09	07	1	16	91	1･2･3･4 通		1		
		特別講義Ⅰ	1	09	07	1	16	92	1･2･3･4 通		1		
		特別講義Ⅱ	1	09	07	1	16	93	1･2･3･4 通		1		
		卒業研究入門	1	09	07	4	16	94	3 後	1			
		卒業研究Ⅰ	1	09	07	4	16	95	4 前	4			
		卒業研究Ⅱ	1	09	07	4	16	96	4 後	4			
研修科目の合計										11	12	0	17 単位以上修得すること
※区分問わず													6 単位以上修得すること
知能情報システム学科の総合計										30	155	0	卒業要件 124 単位以上修得すること

区　　分	卒業要件単位数 必修	選択 区分要件	区分問わず
基　礎　科　目	6	22	※左記に加えて 6 単位以上
専門基礎科目	13	30	
専　門　科　目	0	30	
研　修　科　目	11	6	
合　　計	124		

※基礎科目、専門基礎科目、専門科目及び研修科目から、区分ごとに定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 6 単位以上を修得しなければならない。

知能情報システム学科カリキュラム対照表

2016～2019 年度入学者用				2020～2024 年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
心理学概論	1 前		2	心理学概論	1 前		2
医学総論	1 後		2	医学総論	1 後		2
人体の構造と機能	1 後		2	人体の構造と機能	1 後		2
スポーツ実技	1 後		1	スポーツ実技	1 後		1
健康科学概論	2 前		2	健康科学概論	2 前		2
救命救急学	2 後		1	救命救急学	2 後		1
精神医学	3 前		2	精神医学	3 前		2
公衆衛生学	4 前		1	公衆衛生学	4 前		1
情報倫理	1 前	2		情報倫理	1 前	2	
経済学	1 前		2	経済学	1 前		2
社会学	1 前		2	※			
哲学	1 後		2	哲学	1 後		2
知財学概論	2 後		2	※			
環境倫理	4 後		2	環境倫理	4 後		2
基礎物理学	1 前		2	基礎物理学	1 前		2
基礎数学 I	1 前		2	※			
基礎数学 II	1 後		2	※			
地球科学	1 後		2	地球科学	1 後		2
基礎化学	2 前		2	基礎化学	2 前		2
基礎生物学	2 後		2	基礎生物学	2 後		2
英語 I	1 前	2		英語 I	1 前	2	
英語 II	1 後	2		英語 II	1 後	2	
英語 III	2 前		2	英語 III	2 前		2
中国語 I	1 前		2	中国語 I	1 前		2
中国語 II	1 後		2	中国語 II	1 後		2
韓国語 I	1 前		2	韓国語 I	1 前		2
韓国語 II	1 後		2	韓国語 II	1 後		2
ドイツ語 I	2 前		2	※			
ドイツ語 II	2 後		2	※			
フランス語 I	2 前		2	※			
フランス語 II	2 後		2	※			
海外研修	1･2･3･4通		2	海外研修	1･2･3･4通		2
TBGU プロジェクト I（輝けるもの）	1･2･3･4通		2	輝ける者	1 通		3
TBGU プロジェクト II（地域活動・ボランティア）	1･2･3･4通		2	※			
TBGU プロジェクト III（人間形成）	1･2･3･4通		2	※			
				地域活動・ボランティア	1 通		2
				人間文化探求	1 通		2
				現代社会を視る	1 前・1 後		2
				生命を考える	1 前・1 後		2
				生活の中の科学	1 前・1 後		2
				ボランティア探求	2 通		2
				保健医療福祉概論	2 後		2
コンピュータ入門	1 前	2		コンピュータ入門	1 前	2	
基礎セミナー	1 前	1		基礎セミナー	1 前	1	
情報リテラシー	1 前		2	情報リテラシー	1 前		2
線形代数学	1 前		2	線形代数学	1 前		2
数理学 I	1 前		2	基礎数学	1 前		2
確率統計学	1 前		2	確率統計学	1 前		2
微分積分学	1 後		2	微分積分学	1 後		2
数理学 II	1 後		2	数理学	1 後		2
離散数学	1 後		2	離散数学	1 後		2
物理学	1 後		2	物理学	1 後		2
電気工学概論	1 後		2	電気工学概論	1 後		2
プログラミング方法論 I	1 後	2		プログラミング方法論 I	1 後	2	
プログラミング基礎演習 I	1 後	2		プログラミング基礎演習 I	1 後	2	
プログラミング方法論 II	2 前	2		プログラミング方法論 II	2 前	2	
プログラミング基礎演習 II	2 前		2	プログラミング基礎演習 II	2 前		2
応用数学	2 前		2	応用数学	2 後		2
機械工学概論	2 前		2	機械工学概論	2 前		2
知能情報システム実験	2 前		2	知能情報システム実験	2 前	2	
コンピュータシステム	2 前		2	コンピュータシステム	2 前		2
コンピュータアーキテクチャ	2 後		2	コンピュータアーキテクチャ	2 後		2
データ構造とアルゴリズム	2 後	2		データ構造とアルゴリズム	2 後	2	
データ構造とアルゴリズム演習	2 後		2	データ構造とアルゴリズム演習	2 後		2

知能情報システム学科カリキュラム対照表

2016～2019 年度入学者用				2020～2024 年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
オブジェクト指向プログラミング	2 後	2		オブジェクト指向プログラミング	2 後	2	
オブジェクト指向開発	3 前		2	情報システム開発	3 前		2
オペレーティングシステム	3 前		2	オペレーティングシステム	3 前		2
オブジェクト指向開発演習	3 後		2	オブジェクト指向開発演習	3 後		2
ソフトウェア工学	3 後		2	ソフトウェア工学	3 後		2
コンピュータネットワーク	2 前		2	コンピュータネットワーク	2 前		2
ネットワークシステム演習	2 後		2	ネットワークシステム演習	2 後		2
情報セキュリティ	3 前		2	情報セキュリティ	3 前		2
データベース論	3 前		2	データベース論	3 前		2
情報通信工学	3 前		2	情報通信工学	3 前		2
分散システム	3 後		2	分散システム	3 後		2
Ｗｅｂシステム	3 後		2	Ｗｅｂシステム	3 後		2
人工知能	2 前		2	人工知能	2 前		2
マルチメディア工学	2 後		2	マルチメディア工学	2 後		2
ニューラルネットワーク	3 前		2	※			
情報デザイン	3 前		2	情報デザイン	3 前		2
情報デザイン演習	3 後		2	情報デザイン演習	3 後		2
パターン認識	3 後		2	※			
コンピュータグラフィックス	3 後		2	コンピュータグラフィックス	3 後		2
機械 CAD	2 後		2	機械 CAD	2 後		2
バイオメカニクス	2 後		2	ロボット工学 I	2 後		2
神経生理学	2 後		2	神経生理学	2 前		2
ロボット工学	3 前		2	ロボット工学 II	3 前		2
組み込みソフトウェア	3 前		2	組み込みソフトウェア	3 前		2
組み込みシステム実験	3 前		2	組み込みシステム実験	3 前		2
シミュレーション工学	3 後		2	データサイエンス	3 後		2
キャリアデザイン	1 前		2	キャリアデザイン	1 前		2
キャリアアップ I	2 前		2	キャリアアップ I	2 前		2
キャリアアップ II	2 後		2	キャリアアップ II	2 後		2
キャリアサポート	3 後	2		キャリアサポート	3 後	2	
知能情報システム特別講義 I	1･2･3･4前		1	知能情報システム特別講義 I	3 前		1
知能情報システム特別講義 II	1･2･3･4後		1	知能情報システム特別講義 II	3 後		1
インターンシップ I	1･2･3･4通		1	インターンシップ I	1･2･3･4通		1
インターンシップ II	1･2･3･4通		1	インターンシップ II	1･2･3･4通		1
特別講義 I	1･2･3･4通		1	特別講義 I	1･2･3･4通		1
特別講義 II	1･2･3･4通		1	特別講義 II	1･2･3･4通		1
卒業研究入門	3 後	1		卒業研究入門	3 後	1	
卒業研究 I	4 前	4		卒業研究 I	4 前	4	
卒業研究 II	4 後	4		卒業研究 II	4 後	4	
				システム工学	2 前		2

※開講しない。

知能情報システム学科カリキュラム対照表

2020～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	※			
生命を考える	1 前・1 後		2	生命を考える	1 前・1 後		2
人間文化探求	1 通		2	※			
生活の中の科学	1 前・1 後		2	生活の中の科学	1 前・1 後		2
地域活動・ボランティア	1 通		2	※			
現代社会を視る	1 前・1 後		2	現代社会を視る	1 前・1 後		2
ボランティア探求	2 通		2	※			
医学総論	1 後		2	※			
人体の構造と機能	1 後		2	※			
スポーツ実技	1 後		1	スポーツ実技	1 後		1
健康科学概論	2 前		2	※			
救命救急学	2 後		1	※			
精神医学	3 前		2	※			
公衆衛生学	4 前		1	※			
心理学概論	1 前		2	心理学概論	1 前		2
経済学	1 前		2	※			
哲学	1 後		2	哲学	1 後		2
保健医療福祉概論	2 後		2	※			
環境倫理	4 後		2	※			
基礎物理学	1 前		2	物理学 II	1 後		2
基礎数学	1 前		2	※			
地球科学	1 後		2	生活と地球科学	1 後		2
基礎化学	2 前		2	生活の中の化学	1 前		2
基礎生物学	2 後		2	生活の中の生物学	1 前		2
英語 I	1 前	2		英語コミュニケーション I	1 前	1	
				英語コミュニケーション II	1 後	1	
英語 II	1 後	2		※			
英語 III	2 前		2	※			
中国語 I	1 前		2	中国語コミュニケーション I	1 前		1
				中国語コミュニケーション II	1 後		1
中国語 II	1 後		2	※			
韓国語 I	1 前		2	韓国語コミュニケーション I	1 前		1
				韓国語コミュニケーション II	1 後		1
韓国語 II	1 後		2	※			
海外研修	1・2・3・4 通		2	海外研修	1 通		2
コンピュータ入門	1 前	2		コンピュータ入門	1 前	2	
基礎セミナー	1 前	1		基礎セミナー	1 前	1	
情報リテラシー	1 前		2	※			
線形代数学	1 前		2	基礎数学 II	1 後	2	
確率統計学	1 前		2	情報数学 I	1 前	2	
情報倫理	1 前	2		情報倫理	1 前	2	
数理学	1 後		2	※			
微分積分学	1 後		2	基礎数学 I	1 前	2	
離散数学	1 後		2	情報数学 II	1 後	2	
物理学	1 後		2	物理学 I	1 前		2
電気工学概論	1 後		2	電子工学概論	2 前		2
プログラミング方法論 I	1 後	2		プログラミング方法論 I	1 後	2	
プログラミング基礎演習 I	1 後	2		プログラミング基礎演習 I	1 後	2	
プログラミング方法論 II	2 前	2		プログラミング方法論 II	2 前	2	
プログラミング基礎演習 II	2 前		2	プログラミング基礎演習 II	2 前	2	
機械工学概論	2 前		2	※			
知能情報システム実験	2 前	2		知能情報システム実験	2 前	2	
コンピュータシステム	2 前		2	コンピュータシステム	2 前		2
応用数学	2 後		2	応用数学	2 後	2	
コンピュータアーキテクチャ	2 後		2	コンピュータアーキテクチャ	2 後		2
データ構造とアルゴリズム	2 後	2		データ構造とアルゴリズム	2 後	2	
データ構造とアルゴリズム演習	2 後		2	データ構造とアルゴリズム演習	2 後	2	
オブジェクト指向プログラミング	2 後	2		オブジェクト指向プログラミング	2 後	2	
情報システム開発	3 前		2	音響信号処理工学	3 後		2
オペレーティングシステム	3 前		2	オペレーティングシステム	3 前		2
オブジェクト指向開発演習	3 後		2	オブジェクト指向開発演習	3 前	2	
ソフトウェア工学	3 後		2	ソフトウェア工学	3 後		2
コンピュータネットワーク	2 前		2	コンピュータネットワーク	2 前	2	
ネットワークシステム演習	2 後		2	ネットワークシステム演習	2 後		2

知能情報システム学科カリキュラム対照表

2020～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
情報セキュリティ	3 前		2	情報セキュリティ	3 前		2
データベース論	3 前		2	データベース論	3 前		2
情報通信工学	3 前		2	情報通信工学	3 前		2
分散システム	3 後		2	分散システム	3 後		2
Ｗｅｂシステム	3 後		2	Ｗｅｂシステム	3 後		2
人工知能	2 前		2	人工知能Ⅰ	2 前		2
神経生理学	2 前		2	※			
マルチメディア工学	2 後		2	マルチメディア工学	2 後	2	
情報デザイン	3 前		2	情報デザイン	3 前		2
データサイエンス	3 後		2	データサイエンス	3 後	2	
情報デザイン演習	3 後		2	情報デザイン演習	3 後		2
コンピュータグラフィックス	3 後		2	コンピュータグラフィックス	3 後		2
システム工学	2 前		2	システム工学	2 前		2
機械 CAD	2 後		2	ロボット工学概論	2 前		2
ロボット工学Ⅰ	2 後		2	画像処理工学	3 前		2
ロボット工学Ⅱ	3 前		2	ロボット工学	2 後	2	
組み込みソフトウェア	3 前		2	組み込みソフトウェア	3 前		2
組み込みシステム実験	3 前		2	組み込みシステム実験	3 前		2
キャリアデザイン	1 前		2	キャリアデザイン	1 前		2
キャリアアップⅠ	2 前		2	キャリアアップⅠ	2 前		2
キャリアアップⅡ	2 後		2	キャリアアップⅡ	2 後		2
キャリアサポート	3 後	2		キャリアサポート	3 後	2	
知能情報システム特別講義Ⅰ	3 前		1	知能情報システム特別講義Ⅰ	3 前		1
知能情報システム特別講義Ⅱ	3 後		1	知能情報システム特別講義Ⅱ	3 後		1
インターンシップⅠ	1・2・3・4 通		1	インターンシップⅠ	1・2・3・4 通		1
インターンシップⅡ	1・2・3・4 通		1	インターンシップⅡ	1・2・3・4 通		1
特別講義Ⅰ	1・2・3・4 通		1	特別講義Ⅰ	1・2・3・4 通		1
特別講義Ⅱ	1・2・3・4 通		1	特別講義Ⅱ	1・2・3・4 通		1
卒業研究入門	3 後	1		応用情報セミナー	3 後	1	
卒業研究Ⅰ	4 前	4		卒業研究Ⅰ	4 前	4	
卒業研究Ⅱ	4 後	4		卒業研究Ⅱ	4 後	4	
				輝ける者	1 通		2
				経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2
				社会活動入門	1 前・1 後		2
				生命倫理学	1 後		1
				健康科学	1 前	1	
				教育学	1 前		2
				現代史	1 前		2
				東北の歴史	1 後		2
				ジェンダー論	1 前		2
				生活の中の物理学	1 後		2
				データサイエンス入門	1 後	2	
				コミュニケーション論	1 前		2
				憲法と法律	1 後		2
				生活と経済	1 前		2
				教養としての政治学	1 後		2
				人工知能Ⅱ	2 後		2
				情報社会基礎	2 前	1	
				情報社会応用	3 前	1	

注）※は別途開講する。

東北文化学園大学工学部知能情報システム学科における進級及び卒業研究の履修に関する細則

┌2021年2月16日┐
└学　長　制　定┘

（趣旨）

第1条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第9条の3及び第13条の規定に基づき、東北文化学園大学工学部知能情報システム学科に在籍する学生の進級及び卒業研究の履修に関して定めるものとする。

（進級基準）

第2条　2年次から3年次への進級基準は、46単位以上修得していること、または、2年次終了時の通算GPAが2.5以上で、かつ、42単位以上修得していることとし、基準を満たさない場合は、2年次に留め置くこととする。

2　2年次転学部・転学科の学生に関する進級基準は、前項の基準に準じる。なお、転学部・転学科時に認定された単位は、すべて修得単位に算入する。

（進級の決定）

第3条　学生の進級は、進級判定会議及び教授会の議を経て、学長が決定する。

2　進級判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　知能情報システム学科長

⑵　その他知能情報システム学科長が必要と認める者若干人

3　学長は、前条第1項に拘らず、教育上適切と判断できる場合に限り、教授会の議を経て、2年次から3年次への進級を認めることができる。

（履修要件）

第4条　4年次配当の「卒業研究Ⅰ」及び「卒業研究Ⅱ」の履修要件は、3年次終了時までに、必修科目14単位以上を含む卒業に必要な科目を95単位以上修得していることとする。

2　学部長は、本条第1項に定める履修条件を満たさない学生で、教育上適切と判断できる場合に限り、「卒業研究Ⅰ」及び「卒業研究Ⅱ」の履修を認めることができる。

（卒業研究科目の配当学期）

第5条　学部長は、教育上適切と判断できる場合に限り、「卒業研究Ⅰ」及び「卒業研究Ⅱ」の配当学期を変更することができる。

（雑則）

第6条　この細則に定めるもののほか、学生の進級及び卒業研究の履修に関し必要な事項は、工学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第7条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　　則

この細則は、2021年4月1日から施行する。

附　　則

この細則は、2022年7月6日から施行する。

東北文化学園大学科学技術学部知能情報システム学科における進級及び卒業研究の履修に関する細則

┌平成 20 年 9 月 10 日┐
└学　長　制　定┘

（趣旨）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 9 条の 3 及び第 13 条の規定に基づき、東北文化学園大学科学技術学部知能情報システム学科に在籍する学生の進級及び卒業研究の履修に関して定めるものとする。

（進級基準）

第 2 条　2 年次から 3 年次への進級基準は、46 単位以上修得していること、または、2 年次終了時の通算 GPA が 2.5 以上で、かつ、42 単位以上修得していることとし、基準を満たさない場合は、2 年次に留め置くこととする。

2　2 年次転学部・転学科の学生に関する進級基準は、前項の基準に準じる。なお、転学部・転学科時に認定された単位は、すべて修得単位に算入する。

（進級の決定）

第 3 条　学生の進級は、進級判定会議及び教授会の議を経て、学長が決定する。

2　進級判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　知能情報システム学科長

⑵　その他知能情報システム学科長が必要と認める者若干人

3　学長は、前条第 1 項に拘らず、教育上適切と判断できる場合に限り、教授会の議を経て、2 年次から 3 年次への進級を認めることができる。

（履修要件）

第 4 条　4 年次配当の「卒業研究Ⅰ」及び「卒業研究Ⅱ」の履修要件は、3 年次終了時までに、必修科目 14 単位以上を含む卒業に必要な科目を 95 単位以上修得していることとする。

2　学部長は、本条第 1 項に定める履修条件を満たさない学生で、教育上適切と判断できる場合に限り、「卒業研究Ⅰ」及び「卒業研究Ⅱ」の履修を認めることができる。

（卒業研究科目の配当学期）

第 5 条　学部長は、教育上適切と判断できる場合に限り、「卒業研究Ⅰ」及び「卒業研究Ⅱ」の配当学期を変更することができる。

（雑則）

第 6 条　この細則に定めるもののほか、学生の進級及び卒業研究の履修に関し必要な事項は、科学技術学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第 7 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　則

この細則は、平成 20 年 9 月 10 日から施行し、平成 20 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

1　この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行し、平成 24 年度入学者から適用する。

2　平成 23 年度以前に科学技術学部知能情報システム学科に入学した者については、改正後の第 4 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この細則は、平成 28 年 2 月 3 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この細則は、平成 28 年 5 月 11 日から施行し、平成 28 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この細則は、2020 年 9 月 15 日から施行する。ただし、改正後の第 4 条第 1 項の規定は 2020 年度に入学した者から適用することとし、2019 年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附　則

この細則は、2021 年 2 月 16 日から施行する。

附　則

この細則は、2022 年 7 月 6 日から施行する。

(2)　建築環境学科

1)　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・建築環境分野における関連専門資格の取得に必要な知識・技能を有する。

「思考・判断」

・建築環境分野に関心を持ち、健康でエコロジカルな建築環境について深く考察できる。

「技能・表現」

・建築環境の構築や改善に寄与できる技能を有する。

「関心・意欲・態度」

・高い倫理観と豊かな想像力を持って、建築環境分野や地域社会に貢献できる力を身につけている。

2.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

・自らの感性やデザイン力を磨き、エコや安全性、快適性に配慮した建築・インテリア・環境・設備の技術を修得したい人。

「知識・技能 」

・国語、英語、数学などの基礎学力に加え、総合学習、課外活動、資格取得等の体験を通して、建築に活用できる基礎的技能を有している人。

「思考力・判断力・表現力」

・物事を多面的かつ倫理的に考察し、柔軟な発想で住環境の創造に貢献する意欲を有し、事実や意見等の情報を読み解き、論理的に思考・判断できる人。また、自分の考えを他者にわかりやすく魅力的に表現できる人。

「主体的に、多様な人々と協働して学ぶ態度」

・人間社会に対して強い好奇心を持ち、幅広い視野で主体的に学び、社会的な要請に応えたいと思う人。また、住環境に問題意識を持ち、多様な人々と協調・協働して人間力を高め、健康的な建築を創る意欲がある人。

求める学習経験

・建築の設計や建設をしている技術者の仕事について、見たり、聴いたり、調べたことがあり、建築のデザインや歴史に深い興味を持ったことがある。

3.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

「基礎科目」

全学共通教育の輝ける者 Principle に基づく、「探求理解プロジェクト」や「育みプロジェクト」をはじめとした科目群は、教養の幅を拡げ、主体的な学びと仲間と協働する人間力を育むために配置している。

「専門基礎科目」

・理数系の基礎教育やアカデミックスキル教育を強化し、アクティブラーニングや体験的なプログラムの導入により、無理なく「専門科目」に導入する構成としている。

・環境技術と社会、産業、職業に関する職業観や技術者倫理を育む。

「専門科目」

2 つの専門家育成コースを用意し、社会に必要とされる専門教育を実施する。

・建築・インテリアコース：インテリアから大規模建築まで、多様な建築の未来を拓くデザイン教育を行う。

・環境・設備コース：エコロジー、省エネルギー、防災等に対応した快適環境を実現する建築エンジニア教育を行う。

「研修科目」

体験的に取り組むプログラムを豊富に用意し、グループティーチングによる手厚い指導により実践力を磨く。またキャリア形成・就職指導にも注力するプログラムを用意する。

「特定実習」
各種資格取得の支援やインターンシップ等の学外での活動を評価する実践力を育む科目として配置している。

当学科は 1999 年 4 月に「環境計画工学科」として発足し、以来、建築環境・設備を総合的に学ぶことの出来る東北地方唯一の学科として、有能な人材を社会に送り出してきました。2013 年度からは学科名称を「建築環境学科」に改訂し、時代の要請に応えるとともに、教育内容の充実を図っています。

◎学科の特徴
《普通科・専門学科・総合学科に対応》
さまざまな学校の出身者に対応できるよう、基礎教育（リメディアル科目など）が充実しており、基礎的な理数系科目を再確認することで、専門科目へのスムースな移行が可能となります。
《充実したグループ指導体制》
少人数ゼミにより丁寧な指導を行います。就職指導にもゼミが生かされ、研究室に 2 年間所属できるのは本学科の特徴です。
《資格取得プログラム》
インテリア、福祉住環境、宅建、施工管理、健康住宅、シックハウス、アメニティ技術など、メニューは多彩。在学中に資格が得られるプログラムです。

2）　授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表（別頁）

3）　カリキュラムツリー（別頁）

4）　カリキュラム配置図（別頁）

5）　授業科目一覧表、卒業要件単位数、カリキュラム対照表（別頁）

在学中に取得可能な資格

【資格取得プログラム】
建築環境学科では、カリキュラムに連動したプログラムで資格取得を徹底サポートしています。本学科が用意している「資格取得プログラム」は、在学中の複数の資格取得を目指すもので、資格取得を希望する学生が、各プログラムの専任教員が主宰する勉強会に参加する形で進めていきます。希望者による課外の勉強会ですので学年は不問、低学年から高学年の学生が同じ目標に向かって意欲的に取り組んでいます。

A.　建築士受験準備　プログラム
■『2 級建築施工管理技士』: 国家資格
卒業後に受験可能な「2 級建築士」資格につながるプログラムで、建築士試験と共通性の高い「2 級建築施工管理技士」の学科試験を在学中に受験します。社会に出てから実地試験に合格すれば、建築施工現場のプロになれる資格です。また、本学科では卒業後の建築士受験プログラムについて、日建学院と提携しており、「2 級建築士」資格の取得、さらには「1 級建築士」資格の取得へ大きなステップとなります。

B.　管工事施工技術者　プログラム
■『2 級管工事施工管理技士』: 国家資格
設備工事のプロ資格である「管工事施工管理技士」資格を目指すプログラムです。在学中早期に、「2 級管工事施工管理技士」の学科試験を受験し、社会に出てから実地試験を受験します。社会的要請の非常に強い設備工事現場の監督になれる資格です。設備工事に関する国家資格最高峰である「1 級管工事施工管理技士」資格につながるプログラムです。「消防設備士」の学習対応にもなります。

C. 宅地建物取引士　プログラム

■『宅地建物取引士』: 国家資格

「宅地建物取引士」とは、宅建業法、民法、建築等に関する法令を学び、不動産の売買・交換・貸借を行う不動産取引の専門家です。建築分野から法律関係まで幅広い内容であることから「マンション管理士」、「管理業務主任者」の取得にも役立ちます。国家資格で難易度も高いですが、社会からの需要は高く就職活動において非常に強い資格です。

D. インテリア関連資格　プログラム

■『インテリア設計士』

在学中に「インテリア設計士」資格を取得し、卒業研修では設計に取り組みながら卒業直後に「2 級建築士」試験を受験できるよう準備を進めます。インテリア関連のメーカーやショールーム、住宅メーカー、設計事務所等で活用できる資格です。「インテリアコーディネーター」や「インテリアプランナー」資格取得にも有利です。

E. 福祉住環境コーディネーター　プログラム

■『福祉住環境コーディネーター』

高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案する「福祉住環境コーディネーター」の 2 級取得を目指します。

F. 健康住宅アドバイザー　プログラム

■『健康住宅アドバイザー』

住宅の衛生環境、維持管理に関する調査・診断、施工の技術者に要求される資格「健康住宅アドバイザー」を取得します。本プログラムでは、「健康な住宅の維持管理の出来る人、健康住宅の販売・住宅リフォーム事業に関係する人材」を養成します。

G. シックハウス診断士　プログラム

■『シックハウス診断士』

「シックハウス診断士」とは、シックハウス症候群についての幅広い知識を身につけ、住宅の調査、室内空気環境の測定などを行う専門家の資格です。プログラムでは「診断士補」を在学中に取得します。「環境計量士」や「公害防止管理者」の取得にも役に立ちます。

H. アメニティ資格　プログラム

■『アメニティスペシャリスト』

「アメニティ資格」は、人が暮らしやすい生活環境の提案・アドバイス等を行うことの出来る資格で、「アメニティスペシャリスト（生理人類士 2 級）」があります。

卒業後に取得可能な資格

【受験資格が得られるもの（建築環境学科で認定を受けている資格）】

■一級建築士
■二級建築士
■木造建築士
■建築設備士
■インテリアプランナー
■建築施工管理技士
■管工事施工管理技士

一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の受験資格・免許登録要件

一級建築士、二級建築士及び木造建築士は、卒業後に受験資格が得られます。但し、この資格試験の受験資格要件を得るためには、在学中に指定された科目の単位を取得する必要があります。（＊高等学校において、指定科目の単位を取得した者は除く）

一級建築士免許登録は卒業後 2 年以上の建築実務の経験年数が必要となります。
二級建築士及び木造建築士は取得単位数により建築実務の経験年数が必要となる場合があります。
次の表は、一級建築士、二級建築士及び木造建築士の受験資格、免許登録を得るための受験資格・免許登録要件と指定科目一覧になります。

〈詳細情報〉
建築士試験（受験資格要件）については、公益財団法人　建築技術教育普及センター（TEL : 03-6261-3310、URL : https://www.jaeic.or.jp/）に問い合わせて下さい。

■一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の受験資格・免許登録要件：指定科目一覧（2025 年度以降入学者）

指定科目の分類（単位数）		指定科目として申請する開講科目				科目履修	取得単位数	備考
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修選択	単位時間	○印記入		
①建築設計製図 実務 0 ～ 2 年 （5 単位以上） 実務 3 ～ 5 年 （3 単位以上）	①建築設計製図 （7 単位以上）	建築インテリア製図 I	1 前	必修	2	○		
		建築インテリア製図 II	1 後	必修	2	○		
		建築インテリア製図 III	2 前	必修	2	○		
		建築インテリア製図 IV	2 後	必修	2	○		
		建築 CAD	2 前	必修	2	○		
		建築 CG	2 後	必修	2	○		
		建築デザイン I	3 前	選択	2			
		建築デザイン II	3 後	選択	2			
		単位数小計			16	取得小計		
②～④ 建築計画、建築環境工学又は建築設備 実務 0 ～ 2 年 （7 単位以上） 実務 3 ～ 5 年 （2 単位以上）	②建築計画 （7 単位以上）	建築探究	1 前	必修	2	○		
		建築計画 I	1 後	必修	2	○		
		建築計画 II	2 前	必修	2	○		
		建築史	1 前	必修	2	○		
		インテリア環境 II	3 前	選択	2			
		居住福祉論	3 後	選択	2			
		単位数小計			12	取得小計		
	③建築環境工学 （2 単位以上）	建築環境工学 I	1 後	必修	2	○		
		建築環境工学 II	2 前	必修	2	○		
		単位数小計			4	取得小計		
	④建築設備 （2 単位以上）	インテリア環境 I	2 後	必修	2	○		
		建築設備 I	2 後	必修	2	○		
		建築設備 II	3 前	必修	2	○		
		空気調和設備	3 後	選択	2			
		給排水設備	3 後	選択	2			
		電気設備	3 後	選択	2			
		単位数小計			12	取得小計		
⑤～⑦ 構造力学、建築一般構造又は建築材料 実務 0 ～ 2 年 （6 単位以上） 実務 3 ～ 5 年 （3 単位以上）	⑤構造力学 （4 単位以上）	構造力学 I	1 後	必修	2	○		
		構造力学 II	2 前	必修	2	○		
		ストラクチャーデザイン	3 後	選択	2			
		単位数小計			6	取得小計		
	⑥建築一般構造 （3 単位以上）	建築構法 I	2 前	必修	2	○		
		建築構法 II	2 後	必修	2	○		
		単位数小計			4	取得小計		
	⑦建築材料 （2 単位以上）	建築材料演習	3 前	必修	2	○		
		単位数小計			2	取得小計		
⑧建築生産 （1 単位以上）	⑧建築生産 （2 単位以上）	建築施工 I	3 前	必修	2	○		
		建築施工 II	3 後	選択	2			
		単位数小計			4	取得小計		
⑨建築法規 （1 単位以上）	⑨建築法規 （1 単位以上）	建築法規 I	2 後	必修	2	○		
		建築法規 II	3 前	必修	2	○		
		単位数小計			4	取得小計		
基本単位数 （①～⑨の単位数合計）		I：一級建築士受験基本要件		30 単位以上		基本単位数合計		注意：①～⑨の各分野科目の最低基準取得単位を満たすこと
		II：二級・木造建築士受験基本要件		20 単位以上				
⑩その他 （適宜）	⑩その他 （適宜）	都市環境デザイン	3 前	必修	2	○		
		設備製図	3 後	選択	2			
		環境設備演習	3 後	選択	2			
		建築実務	4 前	選択	2			
		設備施工	4 前	選択	2			
		設備設計演習	4 前	選択	2			
		単位数小計			12	取得小計		
総単位数 基本単位数＋その他単位数 （①～⑩の単位数合計）		I：一級建築士免許登録要件 （免許登録に必要な建築実務経験年数）		60 単位以上		2 年		注意：①～⑨の一級各分野科目の最低基準取得単位を満たすこと
				50 単位以上		3 年		
				40 単位以上		4 年		
		II：二級・木造建築士免許登録要件 （免許登録に必要な建築実務経験年数）		40 単位以上		0 年		注意：①～⑨の二級・木造各分野科目の最低基準取得単位を満たすこと
				30 単位以上		1 年		
				20 単位以上		2 年		

■一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の受験資格・免許登録要件：指定科目一覧（2024 年度以前入学者）

指定科目の分類（単位数）		指定科目として申請する開講科目				科目履修	取得単位数	備考
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修選択	単位時間	○印記入		
①建築設計製図 実務 0 ～ 2 年 （5 単位以上） 実務 3 ～ 5 年 （3 単位以上）	①建築設計製図 （7 単位以上）	建築インテリア製図	1 後	必修	2	○		
		建築 CAD	2 前	必修	2	○		
		建築 CG	2 後	必修	2	○		
		建築デザイン I	3 前	選択	2			一級建築士 -1 科目以上
		建築デザイン II	3 後	選択	2			
		単位数小計			10	取得小計		
②～④ 建築計画、建築環境工学又は建築設備 実務 0 ～ 2 年 （7 単位以上） 実務 3 ～ 5 年 （2 単位以上）	②建築計画 （7 単位以上）	建築計画 I	1 前	必修	2	○		
		建築史	2 後	必修	2	○		
		建築計画 II	2 後	必修	2	○		
		健康インテリア II	3 前	選択	2			一級建築士 -1 科目以上
		居住福祉計画	4 前	選択	2			
		単位数小計			10	取得小計		
	③建築環境工学 （2 単位以上）	建築環境工学 I	1 後	必修	2	○		
		建築環境工学 II	2 前	必修	2	○		
		健康インテリア設計	3 前	選択	2			
		単位数小計			6	取得小計		
	④建築設備 （2 単位以上）	建築設備 I	2 後	必修	2	○		
		建築設備 II	2 後	必修	2	○		
		空気調和設備	3 前	選択	2			
		給排水設備	3 前	選択	2			
		電気設備	3 後	選択	2			
		単位数小計			10	取得小計		
⑤～⑦ 構造力学、建築一般構造又は建築材料 実務 0 ～ 2 年 （6 単位以上） 実務 3 ～ 5 年 （3 単位以上）	⑤構造力学 （4 単位以上）	構造力学 I	1 後	必修	2	○		
		構造力学 II	2 前	必修	2	○		
		建築構造設計	3 前	選択	2			
		単位数小計			6	取得小計		
	⑥建築一般構造 （3 単位以上）	建築構法 I	1 後	必修	2	○		
		建築構法 II	2 前	必修	2	○		
		単位数小計			4	取得小計		
	⑦建築材料 （2 単位以上）	建築材料構造演習	2 後	必修	2	○		
		単位数小計			2	取得小計		
⑧建築生産 （1 単位以上）	⑧建築生産 （2 単位以上）	建築施工	3 後	必修	2	○		
		単位数小計			2	取得小計		
⑨建築法規 （1 単位以上）	⑨建築法規 （1 単位以上）	建築法規 I	1 後	必修	2	○		
		建築法規 II	2 前	必修	2	○		
		単位数小計			4	取得小計		
基本単位数 （①～⑨の単位数合計）		I：一級建築士受験基本要件		30 単位以上		基本単位数合計		注意：①～⑨の各分野科目の最低基準取得単位を満たすこと
		II：二級・木造建築士受験基本要件		20 単位以上				
⑩その他 （適宜）	⑩その他 （適宜）	インテリア環境 I	1 前	必修	2	○		
		健康インテリア I	2 前	必修	2	○		
		インテリア環境 II	2 後	必修	2	○		
		環境技術と建設産業	3 前	必修	2	○		
		地域環境とまちづくり	4 前	選択	2			
		都市環境設備	3 前	選択	2			
		設備製図	3 後	選択	2			
		環境設備演習	3 後	選択	2			
		健康リフォーム演習	3 後	選択	2			
		設備施工	4 前	選択	2			
		設備設計演習	4 前	選択	2			
		単位数小計			22	取得小計		
総単位数 基本単位数＋その他単位数 （①～⑩の単位数合計）		I：一級建築士免許登録要件 （免許登録に必要な建築実務経験年数）		60 単位以上		2 年		注意：①～⑨の一級各分野科目の最低基準取得単位を満たすこと
				50 単位以上		3 年		
				40 単位以上		4 年		
		II：二級・木造建築士免許登録要件 （免許登録に必要な建築実務経験年数）		40 単位以上		0 年		注意：①～⑨の二級・木造各分野科目の最低基準取得単位を満たすこと
				30 単位以上		1 年		
				20 単位以上		2 年		

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

［工学部／科学技術学部　建築環境学科］

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・建築環境分野における関連専門資格の取得に必要な知識・技能を有する。
②	「思考・判断」	・建築環境分野に関心を持ち、健康でエコロジカルな建築環境について深く考察できる。
③	「技能・表現」	・建築環境の構築や改善に寄与できる技能を有する。
④	「関心・意欲・態度」	・高い倫理観と豊かな想像力を持って、建築環境分野や地域社会に貢献できる力を身につけている。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

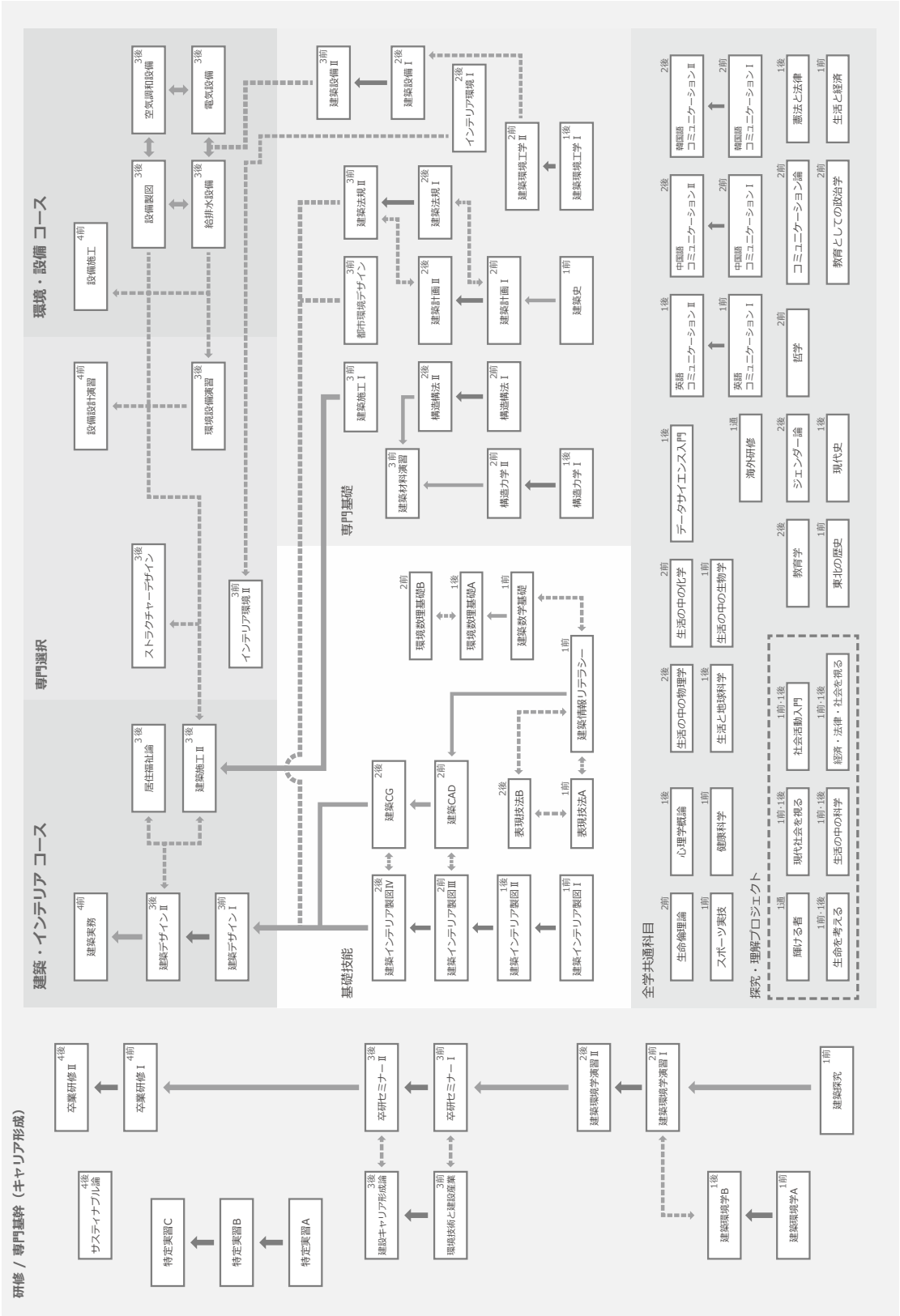
授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2		○			◎
		生命を考える	1 前・1 後		2		○			◎
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		○			◎
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		○			◎
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2		○			◎
		社会活動入門	1 前・1 後		2		○			◎
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1						○
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1						○
		韓国語コミュニケーションⅠ	2 前		1					○
		韓国語コミュニケーションⅡ	2 後		1					○
		中国語コミュニケーションⅠ	2 前		1					○
		中国語コミュニケーションⅡ	2 後		1					○
		海外研修	1 通		2					○
		スポーツ実技	1 前		1					○
		心理学概論	1 後		2			○		
		生命倫理学	2 前		1			○		
		健康科学	1 前	1				○		
		生活の中の物理学	2 後		2			○		
		生活の中の化学	2 前		2				○	
		生活の中の生物学	1 前		2				○	
		生活と地球科学	1 後		2				○	
		データサイエンス入門	1 後	2				○		
		教育学	2 後		2			○		
		哲学	2 前		2			○		
		現代史	1 後		2			○		
		東北の歴史	1 前		2			○		
		ジェンダー論	2 後		2			○		
		コミュニケーション論	2 前		2			○		
		憲法と法律	1 後		2			○		
		生活と経済	1 前		2			○		
		教養としての政治学	2 前		2			○		
専門基礎科目	基礎理論	建築史	1 前	2			◎	○		
		建築計画Ⅰ	1 後	2			◎	○		
		建築環境工学Ⅰ	1 後	2			◎	○		

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	基礎理論	構造力学Ⅰ	1後	2			◎			○
		構造力学Ⅱ	2前	2			◎			○
		建築構法Ⅰ	2前	2			◎			○
		建築計画Ⅱ	2前	2			◎	○		
		建築環境工学Ⅱ	2前	2			◎		○	
		建築法規Ⅰ	2後	2			◎		○	
		建築構法Ⅱ	2後	2			◎			○
		インテリア環境Ⅰ	2後	2			◎			○
		建築設備Ⅰ	2後	2			◎			○
		建築法規Ⅱ	3前	2			◎		○	
		建築施工Ⅰ	3前	2			◎			○
		建築設備Ⅱ	3前	2			◎			○
		建築材料演習	3前	2			○		◎	
		都市環境デザイン	3前	2			◎			○
	基礎技能	建築数学基礎	1前	2			○		◎	
		建築情報リテラシー	1前	2			○		◎	
		表現技法 A	1前	2				◎	○	
		建築インテリア製図Ⅰ	1前	2					◎	○
		環境数理基礎 A	1後	2			◎	○		
		建築インテリア製図Ⅱ	1後	2					◎	○
		建築 CAD	2前	2			○		◎	
		環境数理基礎 B	2前	2			◎	○		
		建築インテリア製図Ⅲ	2前	2					◎	○
		表現技法 B	2後	2				◎	○	
		建築インテリア製図Ⅳ	2後	2					◎	○
		建築 CG	2後	2			○		◎	
専門科目	専門基幹／キャリア形成	建築探究	1前	2					○	◎
		建築環境学 A	1前	2			○			◎
		建築環境学 B	1後	2					○	◎
		建築環境学演習Ⅰ	2前	2				◎		○
		建築環境学演習Ⅱ	2後	2				◎	○	
		環境技術と建設産業	3前	2			◎			○
		建設キャリア形成論	3後	2					○	◎
		サスティナブル論	4後	2				○		◎
	専門選択（実務系科目）	建築デザインⅠ	3前		2			○	◎	
		インテリア環境Ⅱ	3前		2		◎	○		
		建築施工Ⅱ	3後		2		◎		○	
		ストラクチャーデザイン	3後		2		◎		○	
		建築デザインⅡ	3後		2			○	◎	
		居住福祉論	3後		2			◎		○
		空気調和設備	3後		2		◎			○
		給排水設備	3後		2		◎			○
		電気設備	3後		2		◎			○
		設備製図	3後		2		○		◎	
		環境設備演習	3後		2		◎			○
		建築実務	4前		2			○		◎
		設備施工	4前		2		◎			○
		設備設計演習	4前		2		○		◎	

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
研修科目	特定実習	特定実習 A	1・2・3・4 通		1					○
		特定実習 B	1・2・3・4 通		1					○
		特定実習 C	1・2・3・4 通		1					○
	配属研修	卒研セミナー I	3 前	2				○		◎
		卒研セミナー II	3 後	2				○		◎
		卒業研修 I	4 前	4				◎		○
		卒業研修 II	4 後	4				◎		○

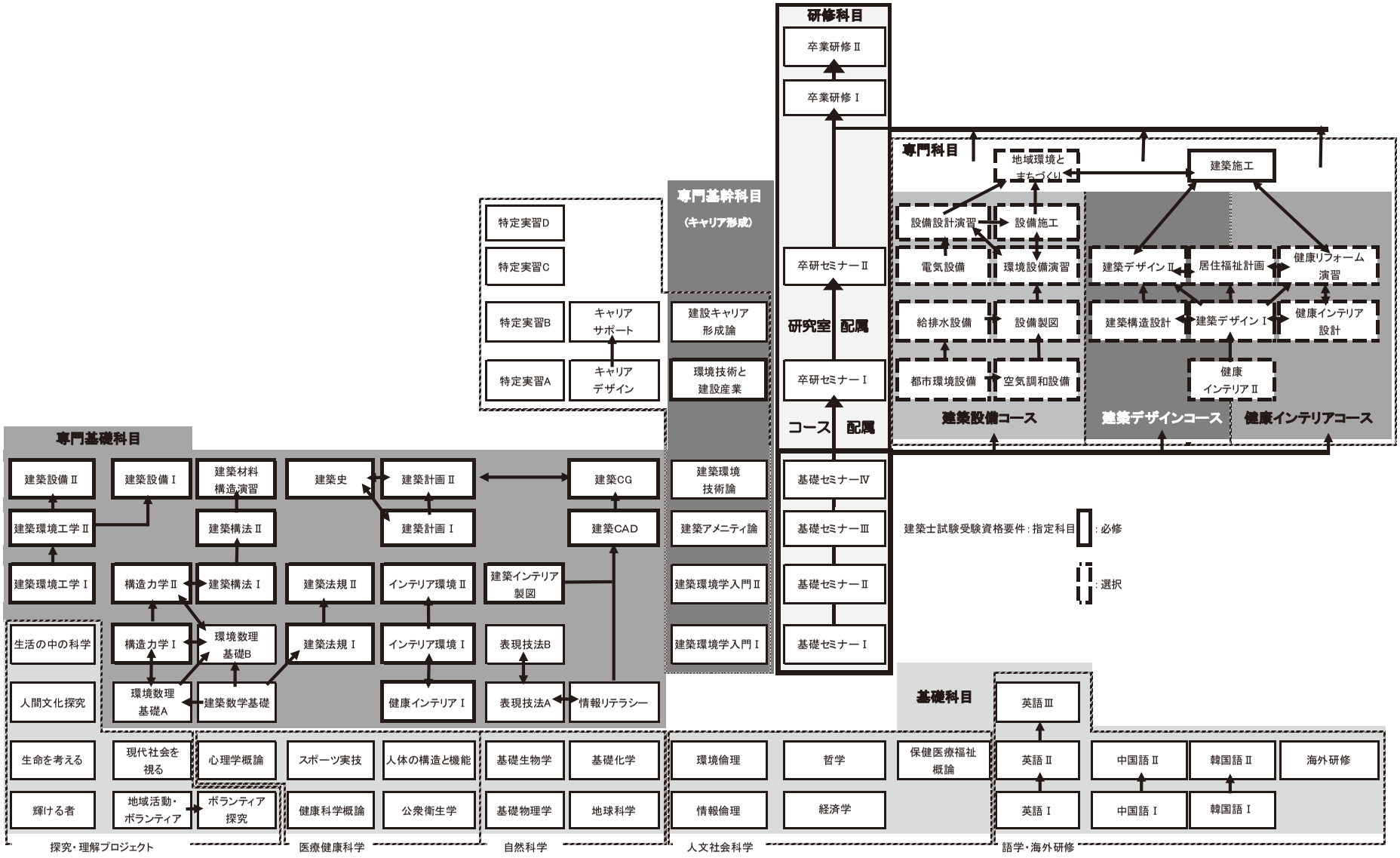
※ 2024 年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025 年度シラバスで確認してください。

カリキュラムツリー（2025 年度以降入学者）



建築環境学科カリキュラムツリー

カリキュラムツリー（2024年度以前入学者）



建築環境学科カリキュラムツリー

工学部　建築環境学科　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		海外研修							
		スポーツ実技	心理学概論	生命倫理学					
		健康科学							
		生活の中の生物学	生活と地球科学	生活の中の化学	生活の中の物理学				
			データサイエンス入門						
		東北の歴史	現代史	哲学	教育学				
					ジェンダー論				
		生活と経済	憲法と法律	コミュニケーション論					
				教養としての政治学					
専門基礎科目	基礎理論	建築史	建築計画Ⅰ	構造力学Ⅱ	建築法規Ⅰ	建築法規Ⅱ			
			建築環境工学Ⅰ	建築構法Ⅰ	建築構法Ⅱ	建築施工Ⅰ			
			構造力学Ⅰ	建築計画Ⅱ	インテリア環境Ⅰ	建築設備Ⅱ			
				建築環境工学Ⅱ	建築設備Ⅰ	建築材料演習			
						都市環境デザイン			
	基礎技能	建築数学基礎	環境数理基礎A	建築CAD	表現技法B				
		建築情報リテラシー	建築インテリア製図Ⅱ	環境数理基礎B	建築インテリア製図Ⅳ				
		表現技法A		建築インテリア製図Ⅲ	建築CG				
		建築インテリア製図Ⅰ							
		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期

必　修

選　択

工学部　建築環境学科　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期
専門科目	専門基幹／キャリア形成	建築探究 建築環境学 A	建築環境学 B	建築環境学演習 I	建築環境学演習 II	環境技術と建設産業	建設キャリア形成論		サスティナブル論
専門科目	専門選択（実務系科目）			専門選択（実務系科目） ○：建築・インテリア ●：設備・環境 （○、●の各指定5科目をセットで選択履修すること）		建築デザイン I ○ インテリア環境 II	建築施工 II ○ ストラクチャーデザイン 建築デザイン II ○ 居住福祉論 ○ 空気調和設備 ● 給排水設備 ● 電気設備 ● 設備製図 ● 環境設備演習	建築実務 ○ 設備施工 ● 設備設計演習	
研修科目	特定実習	特定実習 A 特定実習 B 特定実習 C		特定実習 A 特定実習 B 特定実習 C		特定実習 A 特定実習 B 特定実習 C		特定実習 A 特定実習 B 特定実習 C	
研修科目	配属研修					卒研セミナー I	卒研セミナー II	卒業研修 I	卒業研修 II
		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期

■ 必　修
□ 選　択

2025 年度以降入学者用

【工学部】
［建築環境学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	10	01	1	25	1	1 通		2		選択科目 6 科目から 2 単位以上修得すること。
		生命を考える	1	10	01	1	25	2	1 前・1 後		2		
		現代社会を視る	1	10	01	1	25	3	1 前・1 後		2		
		生活の中の科学	1	10	01	1	25	4	1 前・1 後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	10	01	1	25	5	1 前・1 後		2		
		社会活動入門	1	10	01	1	25	6	1 前・1 後		2		
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	10	02	1	25	7	1 前	1			選択科目 12 科目から 3 単位以上修得すること
		英語コミュニケーションⅡ	1	10	02	1	25	8	1 後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	10	02	1	25	9	2 前		1		
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	10	02	1	25	10	2 後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	10	02	1	25	11	2 前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	10	02	1	25	12	2 後		1		
		海外研修	1	10	02	1	25	13	1 通		2		
		スポーツ実技	1	10	02	1	25	14	1 前		1		
		心理学概論	1	10	02	1	25	15	1 後		2		
		生命倫理学	1	10	02	1	25	16	2 前		1		
		健康科学	1	10	02	1	25	17	1 前	1			
		生活の中の物理学	1	10	02	1	25	18	2 後		2		
		生活の中の化学	1	10	02	1	25	19	2 前		2		
		生活の中の生物学	1	10	02	1	25	20	1 前		2		
		生活と地球科学	1	10	02	1	25	21	1 後		2		
		データサイエンス入門	1	10	02	1	25	22	1 後	2			
		教育学	1	10	02	1	25	23	2 後		2		選択科目 9 科目から 2 単位以上修得すること。
		哲学	1	10	02	1	25	24	2 前		2		
		現代史	1	10	02	1	25	25	1 後		2		
		東北の歴史	1	10	02	1	25	26	1 前		2		
		ジェンダー論	1	10	02	1	25	27	2 後		2		
		コミュニケーション論	1	10	02	1	25	28	2 前		2		
		憲法と法律	1	10	02	1	25	29	1 後		2		
		生活と経済	1	10	02	1	25	30	1 前		2		
		教養としての政治学	1	10	02	1	25	31	2 前		2		
	基礎科目の合計									5	48	0	12 単位以上修得すること。
専門基礎科目	基礎理論	建築史	1	10	03	1	25	32	1 前	2			
		建築計画Ⅰ	1	10	03	1	25	33	1 後	2			
		建築環境工学Ⅰ	1	10	03	1	25	34	1 後	2			
		構造力学Ⅰ	1	10	03	1	25	35	1 後	2			
		構造力学Ⅱ	1	10	03	2	25	36	2 前	2			
		建築構法Ⅰ	1	10	03	2	25	37	2 前	2			
		建築計画Ⅱ	1	10	03	2	25	38	2 前	2			
		建築環境工学Ⅱ	1	10	03	2	25	39	2 前	2			
		建築法規Ⅰ	1	10	03	2	25	40	2 後	2			
		建築構法Ⅱ	1	10	03	2	25	41	2 後	2			
		インテリア環境Ⅰ	1	10	03	2	25	42	2 後	2			
		建築設備Ⅰ	1	10	03	2	25	43	2 後	2			
		建築法規Ⅱ	1	10	03	3	25	44	3 前	2			
		建築施工Ⅰ	1	10	03	3	25	45	3 前	2			
		建築設備Ⅱ	1	10	03	3	25	46	3 前	2			
		建築材料演習	1	10	03	3	25	47	3 前	2			
		都市環境デザイン	1	10	03	3	25	48	3 前	2			
	基礎技能	建築数学基礎	1	10	03	1	25	49	1 前	2			
		建築情報リテラシー	1	10	03	1	25	50	1 前	2			
		表現技法 A	1	10	03	1	25	51	1 前	2			
		建築インテリア製図Ⅰ	1	10	03	1	25	52	1 前	2			
		環境数理基礎 A	1	10	03	1	25	53	1 後	2			
		建築インテリア製図Ⅱ	1	10	03	1	25	54	1 後	2			
		建築 CAD	1	10	03	2	25	55	2 前	2			
		環境数理基礎 B	1	10	03	2	25	56	2 前	2			
		建築インテリア製図Ⅲ	1	10	03	2	25	57	2 前	2			
		表現技法 B	1	10	03	2	25	58	2 後	2			
		建築インテリア製図Ⅳ	1	10	03	2	25	59	2 後	2			
		建築 CG	1	10	03	2	25	60	2 後	2			
	専門基礎科目の合計									58	0	0	58 単位修得すること。

2025 年度以降入学者用

【工学部】
［建築環境学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	専門基幹／キャリア形成	建築探究	1	10	04	1	25	61	1 前	2			
		建築環境学 A	1	10	04	1	25	62	1 前	2			
		建築環境学 B	1	10	04	1	25	63	1 後	2			
		建築環境学演習 I	1	10	04	2	25	64	2 前	2			
		建築環境学演習 II	1	10	04	2	25	65	2 後	2			
		環境技術と建設産業	1	10	04	3	25	66	3 前	2			
		建設キャリア形成論	1	10	04	3	25	67	3 後	2			
		サスティナブル論	1	10	04	3	25	68	4 後	2			
	専門選択（実務系科目）	建築デザイン I	1	10	04	3	25	69	3 前		2		○
		インテリア環境 II	1	10	04	3	25	70	3 前		2		
		建築施工 II	1	10	04	3	25	71	3 後		2		○
		ストラクチャーデザイン	1	10	04	3	25	72	3 後		2		
		建築デザイン II	1	10	04	3	25	73	3 後		2		○
		居住福祉論	1	10	04	3	25	74	3 後		2		○
		空気調和設備	1	10	04	3	25	75	3 後		2		●
		給排水設備	1	10	04	3	25	76	3 後		2		● ○、●の各指定 5 科目をセットで選択履修すること。
		電気設備	1	10	04	3	25	77	3 後		2		●
		設備製図	1	10	04	3	25	78	3 後		2		●
		環境設備演習	1	10	04	3	25	79	3 後		2		○：建築・インテリア
		建築実務	1	10	04	3	25	80	4 前		2		○ ●：設備・環境
		設備施工	1	10	04	3	25	81	4 前		2		●
		設備設計演習	1	10	04	3	25	82	4 前		2		
専門科目の合計										16	28	0	26 単位以上修得すること。
研修科目	特定実習	特定実習 A	1	10	07	1	25	83	1･2･3･4 通		1		
		特定実習 B	1	10	07	1	25	84	1･2･3･4 通		1		
		特定実習 C	1	10	07	1	25	85	1･2･3･4 通		1		
	配属研修	卒研セミナー I	1	10	07	3	25	86	3 前	2			
		卒研セミナー II	1	10	07	3	25	87	3 後	2			
		卒業研修 I	1	10	07	4	25	88	4 前	4			
		卒業研修 II	1	10	07	4	25	89	4 後	4			
研修科目の合計										12	3	0	12 単位以上修得すること。
建築環境学科の総合計										91	79	0	124 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数 必修	選択 区分別要件	選択 区分問わず
基礎科目	5	7	※左記に加えて 16 単位以上
専門基礎科目	58	—	
専門科目	16	10	
研修科目	12	—	
小計	91	17	16
合計	124		

※基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 16 単位以上を修得しなければならない。

2020～2024 年度入学者用

【工学部／科学技術学部】
［建築環境学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	10	01	1	20	1	1通		3		6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	10	01	1	20	2	1前・後		2		
		人間文化探求	1	10	01	1	20	3	1通		2		
		生活の中の科学	1	10	01	1	20	4	1前・後		2		
		地域活動・ボランティア	1	10	01	1	20	5	1通		2		
		現代社会を視る	1	10	01	1	20	6	1前・後		2		
		ボランティア探求	1	10	01	1	20	7	2通		2		15科目から8単位以上修得すること。
	医療健康科学	心理学概論	1	10	02	1	20	8	1前		2		
		人体の構造と機能	1	10	02	1	20	9	1後		2		
		スポーツ実技	1	10	02	1	20	10	1後		1		
		健康科学概論	1	10	02	1	20	11	2前		2		
		公衆衛生学	1	10	02	1	20	12	2前		1		
	人文社会科学	経済学	1	10	02	1	20	13	1前		2		
		哲学	1	10	02	1	20	14	1後		2		
		保健医療福祉概論	1	10	02	1	20	15	2後		2		
		環境倫理	1	10	02	1	20	16	3後		2		
		情報倫理	1	10	02	1	20	17	4前		2		
	自然科学	基礎物理学	1	10	02	1	20	18	1前		2		
		基礎化学	1	10	02	1	20	19	1前		2		
		基礎生物学	1	10	02	1	20	20	1後		2		
		地球科学	1	10	02	1	20	21	1後		2		
	語学	英語Ⅰ	1	10	02	1	20	22	1前		2		8科目から4単位以上修得すること。
		英語Ⅱ	1	10	02	1	20	23	1後		2		
		英語Ⅲ	1	10	02	1	20	24	2前		2		
		中国語Ⅰ	1	10	02	1	20	25	1前		2		
		中国語Ⅱ	1	10	02	1	20	26	1後		2		
		韓国語Ⅰ	1	10	02	1	20	27	1前		2		
		韓国語Ⅱ	1	10	02	1	20	28	1後		2		
		海外研修	1	10	02	1	20	29	1･2･3･4通		2		
	基礎科目の合計									0	57	0	14単位以上修得すること。
専門基礎科目	基礎理論	建築計画Ⅰ	1	10	03	2	20	30	1前	2			
		インテリア環境Ⅰ	1	10	03	2	20	31	1前	2			
		建築構法Ⅰ	1	10	03	2	20	32	1後	2			
		建築法規Ⅰ	1	10	03	2	20	33	1後	2			
		建築環境工学Ⅰ	1	10	03	2	20	34	1後	2			
		構造力学Ⅰ	1	10	03	2	20	35	1後	2			
		健康インテリアⅠ	1	10	03	3	20	36	2前	2			
		建築構法Ⅱ	1	10	03	3	20	37	2前	2			
		建築環境工学Ⅱ	1	10	03	3	20	38	2前	2			
		建築法規Ⅱ	1	10	03	3	20	39	2前	2			
		構造力学Ⅱ	1	10	03	3	20	40	2前	2			
		建築史	1	10	03	3	20	41	2後	2			
		インテリア環境Ⅱ	1	10	03	3	20	42	2後	2			
		建築計画Ⅱ	1	10	03	3	20	43	2後	2			
		建築設備Ⅰ	1	10	03	3	20	44	2後	2			
		建築設備Ⅱ	1	10	03	3	20	45	2後	2			
		建築施工	1	10	03	4	20	46	3後	2			
	基礎技能	建築数学基礎	1	10	03	2	20	47	1前	2			
		情報リテラシー	1	10	03	2	20	48	1前	2			
		表現技法 A	1	10	03	2	20	49	1前	2			
		環境数理基礎 A	1	10	03	2	20	50	1後	2			
		建築インテリア製図	1	10	03	2	20	51	1後	2			
		建築 CAD	1	10	03	3	20	52	2前	2			
		表現技法 B	1	10	03	2	20	53	2前	2			
		環境数理基礎 B	1	10	03	2	20	54	2後	2			
		建築 CG	1	10	03	3	20	55	2後	2			
		建築材料構造演習	1	10	03	3	20	56	2後	2			
	専門基礎科目の合計									54	0	0	54単位修得すること。

2020～2024 年度入学者用

【工学部／科学技術学部】
［建築環境学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	専門基幹	建築環境学入門Ⅰ	1	10	04	2	20	57	1前	2			
		建築環境学入門Ⅱ	1	10	04	2	20	58	1後	2			
		建築アメニティ論	1	10	04	2	20	59	2前	2			
		建築環境技術論	1	10	04	2	20	60	2後	2			
		環境技術と建設産業	1	10	04	2	20	61	3前	2			
		建設キャリア形成論	1	10	04	2	20	62	3後	2			
	専門選択	給排水設備	1	10	04	4	20	63	3前		2		●
		空気調和設備	1	10	04	4	20	64	3前		2		●
		都市環境設備	1	10	04	4	20	65	3前		2		●
		健康インテリアⅡ	1	10	04	4	20	66	3前		2		○ ★
		健康インテリア設計	1	10	04	4	20	67	3前		2		★
		建築構造設計	1	10	04	4	20	68	3前		2		○
		建築デザインⅠ	1	10	04	4	20	69	3前		2		○ ★
		電気設備	1	10	04	4	20	70	3後		2		●
		設備製図	1	10	04	4	20	71	3後		2		
		環境設備演習	1	10	04	4	20	72	3後		2		
		健康リフォーム演習	1	10	04	4	20	73	3後		2		★
		建築デザインⅡ	1	10	04	4	20	74	3後		2		○
		設備施工	1	10	04	4	20	75	4前		2		●
		設備設計演習	1	10	04	4	20	76	4前		2		
		居住福祉計画	1	10	04	4	20	77	4前		2		○ ★
		地域環境とまちづくり	1	10	04	2	20	78	4前		2		
													●、○、★の各指定5科目をセットで修得すること。 ●：建築設備 ○：建築デザイン ★：健康インテリア
	専門科目の合計									12	32		22単位以上修得すること。
研修科目	基礎研修	基礎セミナーⅠ	1	10	07	2	20	79	1前	2			
		基礎セミナーⅡ	1	10	07	2	20	80	1後	2			
		基礎セミナーⅢ	1	10	07	3	20	81	2前	2			
		基礎セミナーⅣ	1	10	07	3	20	82	2後	2			
	キャリア形成	特定実習A	1	10	07	3	20	83	1･2･3･4通		1		
		特定実習B	1	10	07	3	20	84	1･2･3･4通		1		
		特定実習C	1	10	07	3	20	85	1･2･3･4通		1		
		特定実習D	1	10	07	3	20	86	1･2･3･4通		1		
		キャリアデザイン	1	10	07	3	20	87	2後		2		
		キャリアサポート	1	10	07	3	20	88	3前		2		
	配属研修	卒研セミナーⅠ	1	10	07	3	20	89	3前	2			
		卒研セミナーⅡ	1	10	07	3	20	90	3後	2			
		卒業研修Ⅰ	1	10	07	4	20	91	4前	4			
		卒業研修Ⅱ	1	10	07	4	20	92	4後	4			
	研修科目の合計									20	8	0	20単位以上修得すること。
建築環境学科の総合計										86	97	0	卒業要件 124単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数 必修	選択 区分別要件	選択 区分問わず
基礎科目	―	14	※左記に加えて14単位以上
専門基礎科目	54	―	
専門科目	12	10	
研修科目	20	―	
合計	124		

※基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく14単位以上を修得しなければならない。

建築環境学科カリキュラム対照表

2020～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用				
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
		必修	選択			必修	選択	
輝ける者	1 通		3	※				
生命を考える	1 前・1 後		2	生命を考える	1 前・1 後		2	
人間文化探求	1 通		2	※				
生活の中の科学	1 前・1 後		2	生活の中の科学	1 前・1 後		2	
地域活動・ボランティア	1 通		2	※				
現代社会を視る	1 前・1 後		2	現代社会を視る	1 前・1 後		2	
ボランティア探求	2 通		2	※				
心理学概論	1 前		2	心理学概論	1 後		2	
人体の構造と機能	1 後		2	※				
スポーツ実技	1 後		1	スポーツ実技	1 前		1	
健康科学概論	2 前		2	※				
公衆衛生学	2 前		1	※				
経済学	1 前		2	※				
哲学	1 後		2	哲学	2 前		2	
保健医療福祉概論	2 後		2	※				
環境倫理	3 後		2	※				
情報倫理	4 前		2	※				
基礎物理学	1 前		2	生活の中の物理学	2 後		2	
基礎化学	1 前		2	生活の中の化学	2 前		2	
基礎生物学	1 後		2	生活の中の生物学	1 前		2	
地球科学	1 後		2	生活と地球科学	1 後		2	
英語 I	1 前		2	英語コミュニケーション I	1 前	1		
				英語コミュニケーション II	1 後	1		
英語 II	1 後		2	※				
英語 III	2 前		2	※				
中国語 I	1 前		2	中国語コミュニケーション I	2 前		1	
				中国語コミュニケーション II	2 後		1	
中国語 II	1 後		2	※				
韓国語 I	1 前		2	韓国語コミュニケーション I	2 前		1	
				韓国語コミュニケーション II	2 後		1	
韓国語 II	1 後		2	※				
海外研修	1・2・3・4 通		2	海外研修	1 通		2	
建築計画 I	1 前	2		建築計画 I	1 後	2		
インテリア環境 I	1 前	2		インテリア環境 I	2 後	2		
建築構法 I	1 後	2		建築構法 I	2 前	2		
建築法規 I	1 後	2		建築法規 I	2 後	2		
建築環境工学 I	1 後	2		建築環境工学 I	1 後	2		
構造力学 I	1 後	2		構造力学 I	1 後	2		
健康インテリア I	2 前	2		建築インテリア製図 III	2 前	2		
建築構法 II	2 前	2		建築構法 II	2 後	2		
建築環境工学 II	2 前	2		建築環境工学 II	2 前	2		
建築法規 II	2 前	2		建築法規 II	3 前	2		
構造力学 II	2 前	2		構造力学 II	2 前	2		
建築史	2 後	2		建築史	1 前	2		
インテリア環境 II	2 後	2		建築インテリア製図 IV	2 後	2		
建築計画 II	2 後	2		建築計画 II	2 前	2		
建築設備 I	2 後	2		建築設備 I	2 後	2		
建築設備 II	2 後	2		建築設備 II	3 前	2		
建築施工	3 後	2		建築施工 I	3 前	2		
建築数学基礎	1 前	2		建築数学基礎	1 前	2		
情報リテラシー	1 前	2		建築情報リテラシー	1 前	2		
表現技法 A	1 前	2		表現技法 A	1 前	2		
環境数理基礎 A	1 後	2		環境数理基礎 A	1 後	2		
建築インテリア製図	1 後	2		建築インテリア製図 II	1 後	2		
建築 CAD	2 前	2		建築 CAD	2 前	2		

建築環境学科カリキュラム対照表

2020～2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用				
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
		必修	選択			必修	選択	
表現技法 B	2 前	2		表現技法 B	2 後	2		
環境数理基礎 B	2 後	2		環境数理基礎 B	2 前	2		
建築 CG	2 後	2		建築 CG	2 後	2		
建築材料構造演習	2 後	2		建築材料演習	3 前	2		
建築環境学入門 I	1 前	2		建築環境学演習 I	2 前	2		
建築環境学入門 II	1 後	2		建築環境学 A	1 前	2		
建築アメニティ論	2 前	2		インテリア環境 II	3 前		2	
建築環境技術論	2 後	2		建築施工 II	3 後		2	
環境技術と建設産業	3 前	2		環境技術と建設産業	3 前	2		
建設キャリア形成論	3 後	2		建設キャリア形成論	3 後	2		
給排水設備	3 前		2	給排水設備	3 後		2	
空気調和設備	3 前		2	空気調和設備	3 後		2	
都市環境設備	3 前		2	都市環境デザイン	3 前	2		
健康インテリア II	3 前		2	建築実務	4 前		2	
健康インテリア設計	3 前		2	※				
建築構造設計	3 前		2	ストラクチャーデザイン	3 後		2	
建築デザイン I	3 前		2	建築デザイン I	3 前		2	
電気設備	3 後		2	電気設備	3 後		2	
設備製図	3 後		2	設備製図	3 後		2	
環境設備演習	3 後		2	環境設備演習	3 後		2	
健康リフォーム演習	3 後		2	※				
建築デザイン II	3 後		2	建築デザイン II	3 後		2	
設備施工	4 前		2	設備施工	4 前		2	
設備設計演習	4 前		2	設備設計演習	4 前		2	
居住福祉計画	4 前		2	居住福祉論	3 後		2	
地域環境とまちづくり	4 前		2	サスティナブル論	4 後	2		
基礎セミナー I	1 前	2		建築探究	1 前	2		
基礎セミナー II	1 後	2		建築環境学 B	1 後	2		
基礎セミナー III	2 前	2		建築インテリア製図 I	1 前	2		
基礎セミナーIV	2 後	2		建築環境学演習 II	2 後	2		
特定実習 A	1・2・3・4通		1	特定実習 A	1・2・3・4通		1	
特定実習 B	1・2・3・4通		1	特定実習 B	1・2・3・4通		1	
特定実習 C	1・2・3・4通		1	特定実習 C	1・2・3・4通		1	
特定実習 D	1・2・3・4通		1	※				
キャリアデザイン	2 後		2	※				
キャリアサポート	3 前		2	※				
卒研セミナー I	3 前	2		卒研セミナー I	3 前	2		
卒研セミナー II	3 後	2		卒研セミナー II	3 後	2		
卒業研修 I	4 前	4		卒業研修 I	4 前	4		
卒業研修 II	4 後	4		卒業研修 II	4 後	4		
				輝ける者	1 通		2	
				経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2	
				社会活動入門	1 前・1 後		2	
				健康科学	1 前	1		
				生命倫理学	2 前		1	
				データサイエンス入門	1 後	2		
				教育学	2 後		2	
				現代史	1 後		2	
				東北の歴史	1 前		2	
				ジェンダー論	2 後		2	
				コミュニケーション論	2 前		2	
				憲法と法律	1 後		2	
				生活と経済	1 前		2	
				教養としての政治学	2 前		2	

注）※は別途開講する。

東北文化学園大学工学部建築環境学科における進級及び履修の取扱いに関する細則

┌2021年2月16日┐
└学　長　制　定┘

（趣旨）

第1条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第9条の3及び第13条の規定に基づき、東北文化学園大学工学部建築環境学科に在籍する学生の進級及び履修の取扱いについて定めるものとする。

（進級基準）

第2条　3年次から4年次への進級基準は、次のとおりとする。

⑴　1・2年次配当の必修科目の単位を全て修得していること、又は3年次終了時の通算GPAが2.0以上であること。

⑵　3年次までの修得単位数の合計が100単位以上であること。

（進級の決定）

第3条　学生の進級は、建築環境学科進級判定会議（以下、「進級判定会議」という。）及び工学部教授会（以下、「教授会」という。）の議を経て、学長が決定する。

2　前条の基準を満たさない学生の進級については、個別に審査の上、教育上適切と判断できる場合に進級を認めることができる。

3　進級判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　建築環境学科長

⑵　その他建築環境学科長が必要と認める者　若干人

（履修要件及び履修指導）

第4条　1年次、2年次及び3年次終了時に各年次までに配当されている必修科目が未修得又は各年次のGPAが2.0未満の場合は、スチューデント・アドバイザーと個別面談し、履修指導を受けなければならない。

（必修科目の再履修）

第5条　各年次に配当されている必修科目が未修得の場合は、所定の手続きに従い速やかに再履修し、単位を修得しなければならない。

（研修科目の配当学期）

第6条　学部長は、教育上適切と判断できる場合に限り、「卒研セミナーⅠ」、「卒研セミナーⅡ」、「卒業研修Ⅰ」及び「卒業研修Ⅱ」の配当学期を変更することができる。

（雑則）

第7条　この細則に定めるもののほか、学生の履修に関し必要な事項は、工学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第8条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て学長が行う。

附　　則

この細則は、2021年4月1日から施行する。

附　　則

1　この細則は、2022年9月7日から施行し、2023年度入学者から適用する。

2　2022年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東北文化学園大学科学技術学部建築環境学科における進級及び履修の取扱いに関する細則

┌平成 25 年 3 月 6 日┐
└学　長　制　定┘

（趣旨）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 9 条の 3 及び第 13 条の規定に基づき、東北文化学園大学科学技術学部建築環境学科に在籍する学生の進級及び履修の取扱いについて定めるものとする。

（進級基準）

第 2 条　3 年次から 4 年次への進級基準は、100 単位以上修得していることとし、基準を満たさない場合は 3 年次に留め置くこととする。

（進級の決定）

第 3 条　学生の進級は、進級判定会議及び教授会の議を経て、学長が決定する。

2　進級判定会議において、前条の基準を満たさない者について、修得単位数及び GPA 値等を勘案したうえで、進級を認めることができる。

3　進級判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　建築環境学科長

⑵　その他建築環境学科長が必要と認める者　若干人

4　学長は、前条に拘らず、教育上適切と判断できる場合に限り、教授会の議を経て、3 年次から 4 年次への進級を認めることができる。

（履修要件及び履修指導）

第 4 条　各年次における履修要件及び履修指導は、次のとおりとする。

⑴　1 年次、2 年次及び 3 年次終了時に各年次までに配当されている必修科目が単位未修得、又は各年次の GPA が 2.0 未満の場合は、スチューデント・アドバイザー（以下「SA」という。）と個別面談し、履修指導を受けなければならない。

（必修科目の再履修）

第 5 条　各年次に配当されている必修科目が未修得の場合は、所定の手続きに従い速やかに再履修し、単位を修得しなければならない。

（卒業研修科目の配当学期）

第 6 条　学部長は、教育上適切と判断できる場合に限り、「卒業研修Ⅰ」及び「卒業研修Ⅱ」の配当学期を変更することができる。

（雑則）

第 7 条　この細則に定めるもののほか、学生の履修に関し必要な事項は、科学技術学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第 8 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て学長が行う。

附　　則

この細則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附　　則

この細則は、平成 28 年 5 月 11 日から施行し、平成 28 年 4 月 1 日から適用する。

附　　則

1　細則の題名を「東北文化学園大学科学技術学部建築環境学科における履修の取扱いに関する細則」から「東北文化学園大学科学技術学部建築環境学科における進級及び履修の取扱いに関する細則」に改正する

2　この細則は、2020 年 5 月 13 日から施行し、2020 年 4 月 1 日から適用する。

ただし、2019 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　　則

この細則は、2020 年 9 月 15 日から施行する。

附　　則

この細則は、2021 年 2 月 16 日から施行する。

(3)　臨床工学科

臨床工学科は、生命維持管理装置（人工透析装置を含む血液浄化療法装置、人工心肺装置、人工呼吸装置、手術用機器、除細動装置、ペースメーカ、高気圧酸素療法装置等）を中心とした医療機器の操作、安全管理を行い、専門分化したチーム医療を支える臨床工学技士を育成することを主目的とする。また先進的医療機器の研究、開発に必要な知識・技術・研究心を学び、社会に貢献できる能力を養成する。

臨床工学技士は「いのちを支えるエンジニア」と呼ばれ、医療機関において「生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う医療機器のスペシャリスト」として活躍している。発展を続ける医療の中で、医療の高度化を支える医療チームの一員として、医師や看護師と共に働きかつ重要な役割を担っている。専門的な工学知識を持った唯一の医療従事者である。

1988 年臨床工学技士法が制定され、臨床工学技士の養成が始まった。本学科の前身である東北文化学園専門学校臨床工学科は当時全国で 4 校認められた養成校の一つであり、それ以来多くの臨床工学技士を、東北を中心に全国に送り出した。東北の臨床工学技士の半数以上が本専門学校の臨床工学科卒である。本学科は、専門学校で永年にわたって蓄積された、臨床工学技士養成に必要な教育経験、現場で必要とされる知識・技術、国家資格の取得に重要なノウハウ、就職に必要なネットワークを有している。また医療機関・メーカからも厚く信頼されており、全国の他の臨床工学技士養成機関に優るものがある。本臨床工学科は前身の東北文化学園専門学校臨床工学科の、教育、研究、就職に係る伝統・蓄積を引き継いで発展して行く。

1)　ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

臨床工学科では、次の教育理念と目的のもとで教育研究を行う。

1.　教育理念・目的

医療技術と医療機器の高度化に基づく高度医療を支える臨床工学技士の養成を目指す。単なる技術者ではなく、広い教養、豊かな人間性と研究心を持ち、かつチーム医療の一員として働き、新たな医療機器の開発にも参加できる臨床工学技士を育成する。

2.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「知識・理解」

・広い教養と豊かな人間性を有し、生命の尊厳に対し深い理解を示す能力を有している。

「思考・判断」

・臨床工学の進歩に対応可能な理工学的素養を身につけるとともに、その高度化に貢献できる。

「技能・表現」

・臨床工学の専門職としての能力と自覚を持ち、チーム医療の重要な一員として協力し、積極的に行動できる。

「関心・意欲・態度」

・地域社会と連携協力して、地域医療に貢献できる。

3.　入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【求める学生像】

医学と工学、ならびに先端医療に興味・関心があり、医療に携わる意欲、医療人としての人間性や探求心持っている人。

「知識・技能」

臨床工学を学ぶのに必要な基礎学力、特に数学、理科とその活用力を身につけている人。

「思考力・判断力・表現力」

常に努力を怠らない強い意志を持ち、科学的根拠から物事を考え、先端医療に貢献したい人。

「主体的に、多様な人々と協働して学ぶ態度」

チーム医療の一員としての責任と自覚を持ち、何事にも自身から意欲的に取り組む人。

【求める学習経験】

・部活動や課外活動などに積極的に取り組み、その活動を通して他者との連携等、円滑なコミュニケーションができる。

・高校で数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学B、物理基礎、化学基礎、生物基礎を履修していることが望ましい。
・臨床工学技士の資格、仕事などを調べ、同時に医療の他職種についても調べたことがある。

4.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに定めた目標を達成するために体系的・順次的な教育課程を編成し実施する。基礎科目、専門基礎科目、専門科目および研修科目をもって構成する。時系列的にも、概ねこの順に教育が行われる。

「基礎科目」
・大学生にふさわしい教養と豊かな心を身につける教育を行う。

「専門基礎科目」
・工学と医学に関する幅広い知識と技量を身につける教育を行う。

「専門科目」
・臨床工学技士として必要な知識と技量を身につけ、かつチーム医療の一員として活躍できる臨床工学技士を育成する教育を行う。

「研修科目」
・社会人基礎力と研究心を持つ臨床工学技士を育成する教育を行う。

2）　カリキュラムの特徴

【基礎科目】

基礎科目は、探求・理解プロジェクト、医療健康科学、人文・社会科学、自然科学、語学からなる。必修15単位を含む21単位以上の単位取得が必要となる。

基礎科目によって広い教養と豊かな人間力、基礎的な学力を身につけるとともに、地域社会、国際社会、人類の未来に貢献できる能力を養成する。特に工学および医学の専門的理解を構築するための自然科学分野を充実する。

【専門基礎科目】

専門基礎科目は、共通、工学系と医学系に分かれる。共通にある基礎セミナーは初年次教育として、大学で学ぶことの重要性等を理解する。

工学系は、臨床工学に必要な工学的基礎知識に重要な電気・電子・情報処理・機械・システム等について学ぶ。同様に医学系は、臨床工学に必要な医学的基礎になり、人体の構造と機能・病理学・生化学・免疫学、そして臨床心理学等を学ぶ。専門基礎科目から33単位以上を取得する必要がある。

【専門科目】

専門科目は、臨床工学の主たる科目群であり、医用機器、機能代行、臨床医学系、そして多職種連携に分かれている。科目群の医用機器では、生体計測装置や医用治療機器等の原理･構造、安全管理等を学ぶ。機能代行では「生命維持管理装置」の主たる装置である血液浄化装置、呼吸療法装置、体外循環装置について学ぶ。臨床医学系では、臨床医学の中でも呼吸器病学、循環器病学、腎泌尿器学等を中心に学び、臨床工学セミナーにおいては、臨床工学技士の業務内容やチーム医療について、また、臨床実習のための事前準備など多くの単位が盛り込まれ22単位以上を取得する必要がある。

【研修科目】

研修科目は、卒業研究とインターンシップである。研修科目から必修5単位を含む5単位以上の取得が必要である。特色は以下の通りである。

・論理的思考力、企画立案力、実行力養成のための卒業研究
・社会人基礎力養成のためのインターンシップ

3）　臨床実習

【教育目標】

臨床実習の教育目標は、臨床工学技士養成所指導ガイドラインにおいて示されている「医療における臨床工学の重要性を理解し、かつ、患者への対応について臨床現場で学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚する。また、臨床実習前後の到達度評価により、臨床実習に臨むために必要な知識、技術、患者対応及び､臨床実習の効果を確認し､臨床工学技士としての基礎的な実践能力を身につける｡」である。すなわち、養成課程で学んだ知識と技術が医療現場でどのように活かされているかを確認する場である。

また医療従事者としての考え方や患者対応について実践的に学ぶことを目的としている。臨床実習では、臨床工学技士が医療現場で、関係職種との連携を図りながら医療が実施される現場を体験することで、学生が目指す臨床工学技士像を明確にしていくことが重要である。。

【実習の具体的な実施方法】

本学科では、臨床実習を 7 単位として 4 年次前期に配置している。臨床実習は選択科目であり、臨床実習を履修する時は、原則として臨床実習を除く、臨床工学技士の国家試験の受験に必要な科目の単位をすべて修得していなければならない（東北文化学園大学工学部臨床工学科における進級及び履修に関する細則第 4 条）。

臨床実習の具体的な項目として、以下の内容について臨床実習施設各部署において実習する。

指定実習項目

血液浄化療法関連実習	1 単位
呼吸療法関連実習及び循環器関連実習	2 単位
治療機器関連実習及び医療機器管理業務実習	2 単位

残り 2 単位については、本学科において臨床実習前後の技術・知識の到達度評価、臨床実習施設を含めた範囲での実習中並びに実習後の振り返りなどの指導に充てることとする。

上記指定実習項目を満たすために、東北地方の主たる病院を実習施設とし、実務経験の豊富な実習指導者の下で、手術室、集中治療室、人工透析室および医療機器管理室等の実際の医療現場に立ち会い、見学ならびに実習を行う。また、臨床実習に臨む学生が備えるべき接遇や基礎的知識・技術についても実習前の事前学習に努めることとする。

【指導計画】

・実習前後の指導計画

臨床実習の実施にあたっては、臨床工学技士の資格を持たない学生が、臨床実習前の学修と臨床実習の十分な連携及び効果を得られるよう、一定の資質を備えておく必要がある。そのため、臨床実習で行うこととなる行為が確実に実施できるよう、臨床実習に必要な技能・態度を備えていることや、臨床実習の効果を確認するため、確認及び必要な指導を目的として、臨床実習前後の技術・知識の到達度評価を行う。

臨床実習前のガイダンスでは、臨床実習の目的、実習内容、到達目標、実習日誌、学生自己評価表、単位認定方法、事故が生じた場合の対処方法及び連絡方法、傷害保険や損害賠償保険等について学生に周知する。各実習施設においても、実習指導者又は実習責任者がガイダンスを行い、実習施設の概要・特徴、事故が生じた場合の対処方法及び連絡方法等を理解させ、実習計画を確認させる。

4）　授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表（別頁）

5）　カリキュラムツリー（別頁）

6）　カリキュラム配置図（別頁）

7）　授業科目一覧表、卒業要件単位数（別頁）

8）　その他（詳細は別に定める）

・実習概要

・卒業研究

9）　臨床工学科推奨履修モデル I

10）　東北文化学園大学工学部臨床工学科における進級及び臨床実習の履修に関する細則

11）　目標とする国家試験・資格

卒業時に得られる資格

・学士（工学）

・臨床工学技士国家試験受験資格（国家試験受験資格獲得に必要な科目の単位を取得した場合）
・国家試験に合格後、臨床工学技士免許
在学中または卒業後に取得を目指す資格
・第 1 種、第 2 種 ME 技術実力検定

12）　将来の進路

臨床工学技士免許を得て、将来の職場として目指すものは以下のようなものである。
・病院及び診療所等の医療施設
・国及び地方公共団体の医療・保健・福祉行政部門
・大学を含む教育研究機関
・医療機器メーカ

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【工学部／科学技術学部　臨床工学科】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・広い教養と豊かな人間性を有し、生命の尊厳に対し深い理解を示す能力を有している。
②	「思考・判断」	・臨床工学の進歩に対応可能な理工学的素養を身につけるとともに、その高度化に貢献できる。
③	「技能・表現」	・臨床工学の専門職としての能力と自覚を持ち、チーム医療の重要な一員として協力し、積極的に行動できる。
④	「関心・意欲・態度」	・地域社会と連携協力して、地域医療に貢献できる。

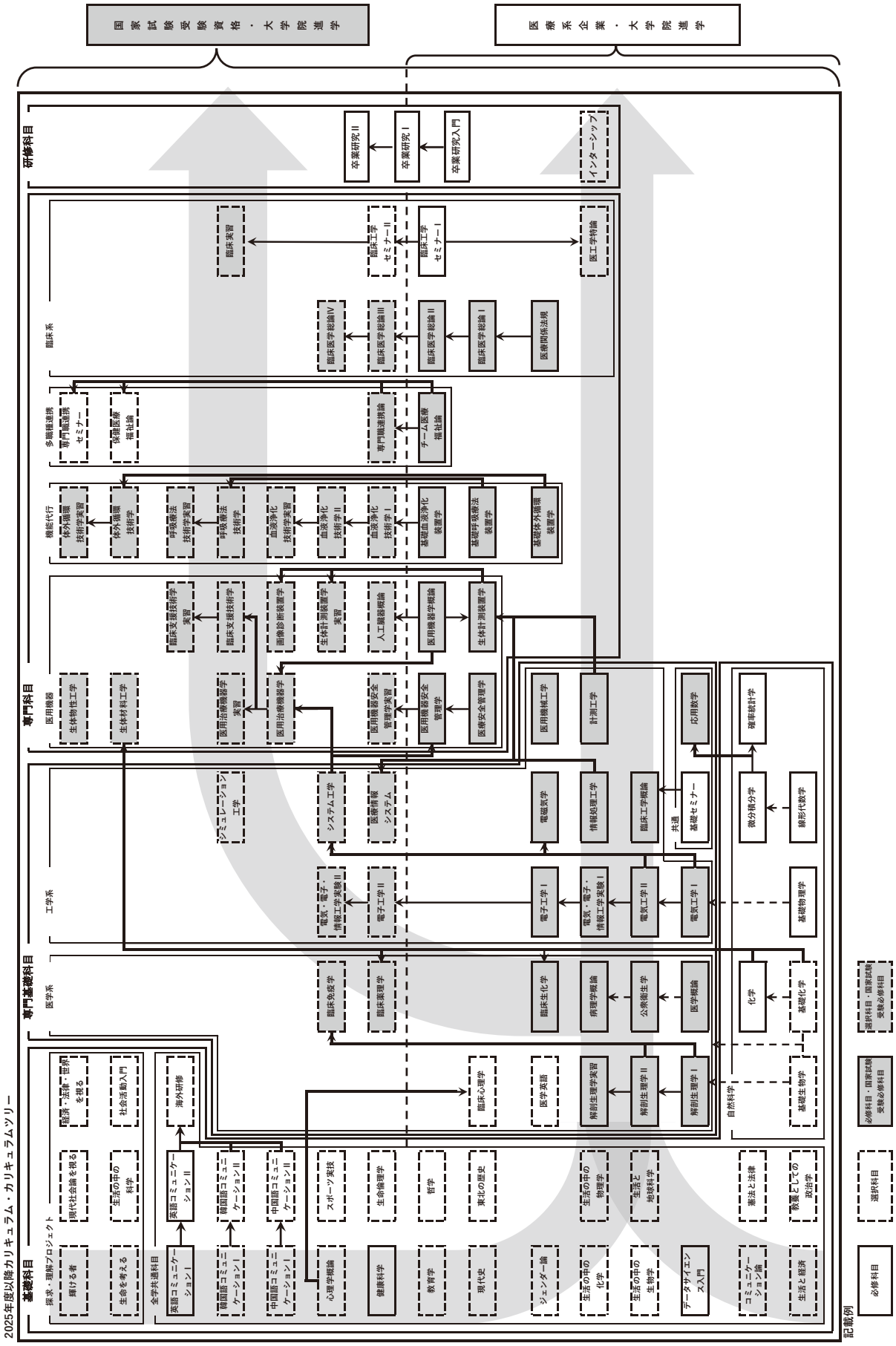
2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2		◎			○
		生命を考える	1 前・1 後		2		◎			○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		◎			○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		◎			○
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2		◎			○
		社会活動入門	1 前・1 後		2		◎			○
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			◎	○		
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1			◎	○		
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		◎			
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		◎			
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		◎			
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		◎			
		海外研修	1 通		2		◎			
		スポーツ実技	1 後		1		◎			
		心理学概論	1 前		2		◎		○	
		生命倫理学	1 後		1		◎			
		健康科学	1 前	1			◎			○
		教育学	1 前		2		◎			
		哲学	1 後		2		◎			
		現代史	1 前		2		◎			
		東北の歴史	1 後		2		◎			
		ジェンダー論	1 前		2		◎			
		生活の中の物理学	1 後		2		◎	○		
		生活の中の化学	1 前		2		◎	○		
		生活の中の生物学	1 前		2		◎	○		
		生活と地球科学	1 後		2		◎	○		
		データサイエンス入門	1 前	2			◎	◎		
		コミュニケーション論	1 前		2		◎		○	
		憲法と法律	1 後		2		◎			
		生活と経済	1 前		2		◎			
		教養としての政治学	1 後		2		◎			
	自然科学	基礎物理学	1 前	2			◎	◎		
		基礎化学	1 前		2		◎	◎		

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	自然科学	基礎生物学	1前		2		◎	◎		
		線形代数学	1前	2			◎	◎		
		微分積分学	1後	2			◎	◎		
		化学	1後	2			◎	◎		
		確率統計学	3前	2			◎	◎		
専門基礎科目	共通	基礎セミナー	1前	1			◎	◎		
		応用数学	2前	2				◎		
	工学系	電気工学Ⅰ	1前	2			○	◎		
		電気工学Ⅱ	1後	2			○	◎		
		電気・電子・情報工学実験Ⅰ	1後	1				◎		
		臨床工学概論	1後	2			○	◎		
		情報処理工学	1後	2			○	◎		
		電磁気学	2前	2				◎		
		電子工学Ⅰ	2前	2			○	◎		
		電子工学Ⅱ	2後		2			◎		
		電気・電子・情報工学実験Ⅱ	2後		1			◎		
		計測工学	2前	2			○	◎		
		医療情報システム	2前		2			◎		
		医用機械工学	2後	2			○	◎		
		システム工学	3前		2			◎		
		シミュレーション工学	3後		2			◎		
	医学系	解剖生理学Ⅰ	1前	2			○	◎		
		解剖生理学Ⅱ	1後	2			○	◎		
		解剖生理学実習	2前	1				◎		
		医学概論	1前	2				◎		◎
		公衆衛生学	1後	2				◎		◎
		臨床生化学	1後	2			○	◎		
		病理学概論	2前	2			○	◎		
		医学英語	3前		1			◎	○	
		臨床心理学	3後		2			◎	○	
		臨床免疫学	3後		2			◎		
		臨床薬理学	3後		2			◎		
専門科目	医用機器	医療安全管理学	1後	2				◎	○	
		医用機器安全管理学	2前	2				◎	○	
		医用機器安全管理学実習	2後		1				◎	○
		医用機器学概論	2前	2			○	◎		
		人工臓器概論	2後		2					○
		生体計測装置学	2前	2				◎	○	
		生体計測装置学実習	2後		1				◎	○
		画像診断装置学	3前		2			◎	○	
		医用治療機器学	3前		2			◎	○	
		医用治療機器学実習	3後		1				◎	○
		臨床支援技術学	3前		2			○	◎	
		臨床支援技術学実習	3後		1			○	◎	
		生体物性工学	3前		2			◎	○	
		生体材料工学	3後		2			◎	○	
	機能代行	基礎血液浄化装置学	2前	2				◎	○	
		血液浄化技術学Ⅰ	2後		1				◎	○

授業科目の名称			配当年次	単位数			デイプロマ・ポリシー（学位授与の方針）対応表（「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	機能代行	血液浄化技術学Ⅱ	3 前		1				◎	○
		血液浄化技術学実習	3 前		1				◎	○
		基礎呼吸療法装置学	2 後	2				◎	○	
		呼吸療法技術学	3 前		2				◎	○
		呼吸療法技術学実習	3 後		1				◎	○
		基礎体外循環装置学	2 後	2				◎	○	
		体外循環技術学	3 前		2				◎	○
		体外循環技術学実習	3 後		1				◎	○
	臨床系	医療関係法規	1 後	2					◎	○
		臨床医学総論Ⅰ	2 前	2				◎	○	
		臨床医学総論Ⅱ	2 後	2				◎	○	
		臨床医学総論Ⅲ	3 前		2			◎	○	
		臨床医学総論Ⅳ	3 後		2			◎	○	
		臨床工学セミナーⅠ	2 後	1					○	○
		臨床工学セミナーⅡ	3 後		1				○	○
	臨床系	臨床実習	4 前		7				○	◎
		医工学特論	4 後		1				◎	
	多職種連携	チーム医療福祉論	1 後	1					◎	◎
		保健医療福祉概論	2 後		2				○	○
		専門職連携論	3 前		2				◎	◎
		専門職連携セミナー	3 後		1				◎	◎
研修科目		インターンシップ	1 通		1				◎	◎
		卒業研究入門	3 後	1			○	◎		
		卒業研究Ⅰ	4 前	2			○	◎		
		卒業研究Ⅱ	4 後	2			○	◎		

※ 2024 年度以前入学者の「授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表」については、2025 年度シラバスで確認してください。

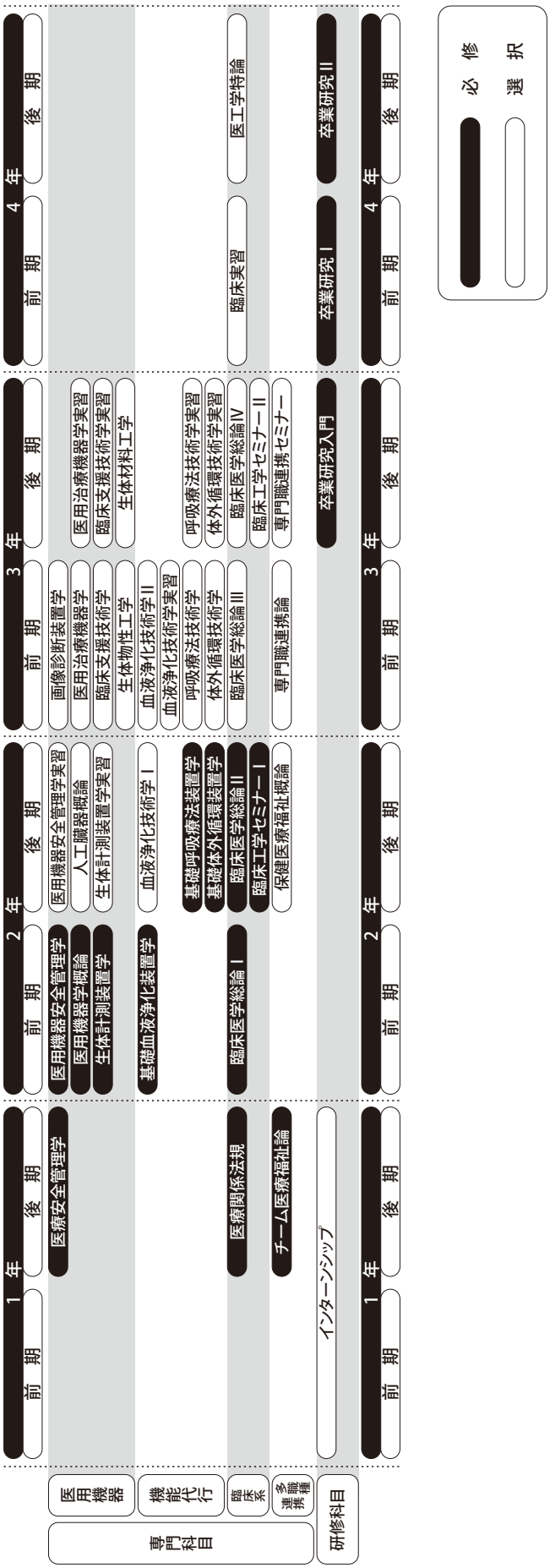

2025年度以降カリキュラム・カリキュラムツリー
国家試験受験資格・大学院進学
医療系企業・大学院進学
基礎科目
探求・理解プロジェクト
輝ける者
生命を考える
現代社会論を得る
生活の中の科学
経済・法律・世界を得る
社会活動入門
全学共通科目
英語コミュニケーションⅠ
海外研修
英語コミュニケーションⅡ
韓国語コミュニケーションⅠ
韓国語コミュニケーションⅡ
中国語コミュニケーションⅠ
中国語コミュニケーションⅡ
スポーツ実技
心理学概論
生命倫理学
健康科学
哲学
教育学
東北の歴史
現代史
ジェンダー論
生活の中の化学
生活の中の物理学
生活の中の生物学
生活と地球科学
データサイエンス入門
憲法と法律
コミュニケーション論
教養としての政治学
生活と経済
専門基礎科目
医学系
臨床心理学
医学英語
解剖生理学実習
解剖生理学Ⅱ
解剖生理学Ⅰ
自然科学
基礎生物学
臨床免疫学
臨床薬理学
臨床生化学
病理学概論
公衆衛生学
医学概論
化学
基礎化学
工学系
情報工学実験Ⅱ
電子工学Ⅱ
電子工学Ⅰ
電気・電子・情報工学実験Ⅰ
電気工学Ⅱ
電気工学Ⅰ
基礎物理学
シミュレーション工学
システム工学
医療情報システム
電磁気学
情報処理工学
臨床工学概論
共通
基礎セミナー
微分積分学
線形代数学
専門科目
医用機器
生体物性工学
生体材料工学
臨床支援技術学実習
臨床支援技術学
医用治療機器学実習
医用治療機器学
医用機器安全管理学実習
医用機器安全管理学
医療安全管理学
画像診断装置学
生体計測装置学実習
人工臓器概論
医用機器学概論
生体計測装置学
医用機械工学
計測工学
応用数学
確率統計学
機能代行
体外循環技術学実習
体外循環技術学
呼吸療法技術学実習
呼吸療法技術学
血液浄化技術学実習
血液浄化技術学Ⅱ
血液浄化技術学Ⅰ
基礎血液浄化装置学
基礎呼吸療法装置学
基礎体外循環装置学
多職種連携
専門職連携セミナー
保健医療推進論
専門職連携論
チーム医療推進論
臨床系
臨床実習
臨床工学セミナーⅡ
臨床工学セミナーⅠ
医工学特論
臨床医学総論Ⅳ
臨床医学総論Ⅲ
臨床医学総論Ⅱ
臨床医学総論Ⅰ
医療関係法規
研修科目
卒業研究Ⅱ
卒業研究Ⅰ
卒業研究入門
インターンシップ
記載例
必修科目
選択科目
必修科目・国家試験受験必修科目
選択科目・国家試験受験必修科目

工学部　臨床工学科　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉

		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者							
		生命を考える	生命を考える						
		現代社会を視る	現代社会を視る						
		生活の中の科学	生活の中の科学						
		経済・法律・世界を視る	経済・法律・世界を視る						
		社会活動入門	社会活動入門						
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ						
		韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ						
		中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ						
		海外研修							
		心理学概論	スポーツ実技						
		健康科学	生命倫理学						
		教育学	哲学						
		現代史	東北の歴史						
		ジェンダー論							
		生活の中の化学	生活の中の物理学						
		生活の中の生物学	生活と地球科学						
		データサイエンス入門							
		コミュニケーション論	憲法と法律						
		生活と経済	教養としての政治学						
	自然科学	基礎物理学	微分積分学			確率統計学			
		基礎化学	化学						
		基礎生物学							
		線形代数学							
	共通	基礎セミナー		応用数学					
専門基礎科目	工学系	電気工学Ⅰ	電気工学Ⅱ	電磁気学	電子工学Ⅱ	システム工学	シミュレーション工学		
			電気・電子・情報工学実験Ⅰ	電子工学Ⅰ	電気・電子・情報工学実験Ⅱ				
			臨床工学概論	計測工学	医用機械工学				
			情報処理工学	医療情報システム					
	医学系	解剖生理学Ⅰ	解剖生理学Ⅱ	解剖生理学実習		医学英語	臨床心理学		
		医学概論	公衆衛生学	病理学概論			臨床免疫学		
			臨床生化学				臨床薬理学		
		1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期

■ 必修
□ 選択

工学部　臨床工学科　カリキュラム配置図〈2025 年度以降入学者用〉



2025 年度以降入学者用

【工学部】［臨床工学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	11	01	1	25	1	1 通		2		選択科目 6 科目から 2 単位以上修得すること。
		生命を考える	1	11	01	1	25	2	1 前・1 後		2		
		現代社会を視る	1	11	01	1	25	3	1 前・1 後		2		
		生活の中の科学	1	11	01	1	25	4	1 前・1 後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	11	01	1	25	5	1 前・1 後		2		
		社会活動入門	1	11	01	1	25	6	1 前・1 後		2		
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	11	02	1	25	7	1 前	1			選択科目 23 科目から 4 単位以上履修すること。
		英語コミュニケーションⅡ	1	11	02	1	25	8	1 後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	11	02	1	25	9	1 前		1		
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	11	02	1	25	10	1 後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	11	02	1	25	11	1 前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	11	02	1	25	12	1 後		1		
		海外研修	1	11	02	1	25	13	1 通		2		
		スポーツ実技	1	11	02	1	25	14	1 後		1		
		心理学概論	1	11	02	1	25	15	1 前		2		
		生命倫理学	1	11	02	1	25	16	1 後		1		
		健康科学	1	11	02	1	25	17	1 前	1			
		教育学	1	11	02	1	25	18	1 前		2		
		哲学	1	11	02	1	25	19	1 後		2		
		現代史	1	11	02	1	25	20	1 前		2		
		東北の歴史	1	11	02	1	25	21	1 後		2		
		ジェンダー論	1	11	02	1	25	22	1 前		2		
		生活の中の物理学	1	11	02	1	25	23	1 後		2		
		生活の中の化学	1	11	02	1	25	24	1 前		2		
		生活の中の生物学	1	11	02	1	25	25	1 前		2		
		生活と地球科学	1	11	02	1	25	26	1 後		2		
		データサイエンス入門	1	11	02	1	25	27	1 前	2			
		コミュニケーション論	1	11	02	1	25	28	1 前		2		
		憲法と法律	1	11	02	1	25	29	1 後		2		
		生活と経済	1	11	02	1	25	30	1 前		2		
		教養としての政治学	1	11	02	1	25	31	1 後		2		
	自然科学	基礎物理学	1	11	02	1	25	32	1 前	2			
		基礎化学	1	11	02	1	25	33	1 前		2		
		基礎生物学	1	11	02	1	25	34	1 前		2		
		線形代数学	1	11	02	1	25	35	1 前	2			
		微分積分学	1	11	02	1	25	36	1 後	2			
		化学	1	11	02	1	25	37	1 後	2			
		確率統計学	1	11	02	1	25	38	3 前	2			
	基礎科目の合計									15	52	0	21 単位以上修得すること。
専門基礎科目	共通	基礎セミナー	1	11	03	1	25	39	1 前	1			
		応用数学	1	11	03	2	25	40	2 前	2			
	工学系	電気工学Ⅰ	1	11	03	2	25	41	1 前	2			
		電気工学Ⅱ	1	11	03	2	25	42	1 後	2			
		電気・電子・情報工学実験Ⅰ	1	11	03	2	25	43	1 後	1			
		臨床工学概論	1	11	03	1	25	44	1 後	2			
		情報処理工学	1	11	03	2	25	45	1 後	2			
		電磁気学	1	11	03	2	25	46	2 前	2			
		電子工学Ⅰ	1	11	03	2	25	47	2 前	2			
		電子工学Ⅱ	1	11	03	2	25	48	2 後		2		
		電気・電子・情報工学実験Ⅱ	1	11	03	2	25	49	2 後		1		
		計測工学	1	11	03	2	25	50	2 前	2			
		医療情報システム	1	11	03	2	25	51	2 前		2		
		医用機械工学	1	11	03	2	25	52	2 後	2			
		システム工学	1	11	03	2	25	53	3 前		2		
		シミュレーション工学	1	11	03	2	25	54	3 後		2		
	医学系	解剖生理学Ⅰ	1	11	03	2	25	55	1 前	2			
		解剖生理学Ⅱ	1	11	03	2	25	56	1 後	2			
		解剖生理学実習	1	11	03	2	25	57	2 前	1			
		医学概論	1	11	03	2	25	58	1 前	2			
		公衆衛生学	1	11	03	2	25	59	1 後	2			
		臨床生化学	1	11	03	2	25	60	1 後	2			
		病理学概論	1	11	03	2	25	61	2 前	2			
		医学英語	1	11	03	2	25	62	3 前		1		
		臨床心理学	1	11	03	2	25	63	3 後		2		
		臨床免疫学	1	11	03	2	25	64	3 後		2		
		臨床薬理学	1	11	03	2	25	65	3 後		2		
	専門基礎科目の合計									33	16	0	33 単位以上修得すること。

2025 年度以降入学者用

【工学部】［臨床工学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	医用機器	医療安全管理学	1	11	04	2	25	66	1 後	2			
		医用機器安全管理学	1	11	04	4	25	67	2 前	2			
		医用機器安全管理学実習	1	11	04	4	25	68	2 後		1		
		医用機器学概論	1	11	04	3	25	69	2 前	2			
		人工臓器概論	1	11	04	3	25	70	2 後		2		
		生体計測装置学	1	11	04	4	25	71	2 前	2			
		生体計測装置学実習	1	11	04	4	25	72	2 後		1		
		画像診断装置学	1	11	04	4	25	73	3 前		2		
		医用治療機器学	1	11	04	4	25	74	3 前		2		
		医用治療機器学実習	1	11	04	4	25	75	3 後		1		
		臨床支援技術学	1	11	04	4	25	76	3 前		2		
		臨床支援技術学実習	1	11	04	4	25	77	3 後		1		
		生体物性工学	1	11	04	3	25	78	3 前		2		
		生体材料工学	1	11	04	3	25	79	3 後		2		
	機能代行	基礎血液浄化装置学	1	11	04	3	25	80	2 前	2			
		血液浄化技術学Ⅰ	1	11	04	4	25	81	2 後		1		
		血液浄化技術学Ⅱ	1	11	04	4	25	82	3 前		1		
		血液浄化技術学実習	1	11	04	4	25	83	3 前		1		
		基礎呼吸療法装置学	1	11	04	3	25	84	2 後	2			
		呼吸療法技術学	1	11	04	4	25	85	3 前		2		
		呼吸療法技術学実習	1	11	04	4	25	86	3 後		1		
		基礎体外循環装置学	1	11	04	3	25	87	2 後	2			
		体外循環技術学	1	11	04	4	25	88	3 前		2		
		体外循環技術学実習	1	11	04	4	25	89	3 後		1		
	臨床系	医療関係法規	1	11	04	4	25	90	1 後	2			
		臨床医学総論Ⅰ	1	11	04	4	25	91	2 前	2			
		臨床医学総論Ⅱ	1	11	04	4	25	92	2 後	2			
		臨床医学総論Ⅲ	1	11	04	4	25	93	3 前		2		
		臨床医学総論Ⅳ	1	11	04	4	25	94	3 後		2		
		臨床工学セミナーⅠ	1	11	04	4	25	95	2 後	1			
		臨床工学セミナーⅡ	1	11	04	4	25	96	3 後		1		
		臨床実習	1	11	04	4	25	97	4 前		7		選択科目 2 科目から 1 単位以上修得すること。
		医工学特論	1	11	04	3	25	98	4 後		1		
	多職種連携	チーム医療福祉論	1	11	04	2	25	99	1 後	1			
		保健医療福祉概論	1	11	04	3	25	100	2 後		2		
		専門職連携論	1	11	04	3	25	101	3 前		2		
		専門職連携セミナー	1	11	04	3	25	102	3 後		1		
専門科目の合計										22	43	0	23 単位以上修得すること。
研修科目		インターンシップ	1	11	07	4	25	103	1 通		1		
		卒業研究入門	1	11	07	4	25	104	3 後	1			
		卒業研究Ⅰ	1	11	07	4	25	105	4 前	2			
		卒業研究Ⅱ	1	11	07	4	25	106	4 後	2			
研修科目の合計										5	1	0	5 単位以上修得すること。
臨床工学科の総合計										75	112	0	124 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数 必修	選択 区分別要件	選択 区分問わず
基礎科目	15	6	※左記に加えて 42 単位以上
専門基礎科目	33	―	
専門科目	22	1	
研修科目	5	―	
小計	75	7	
合計	124		

※基礎科目、専門基礎科目、専門科目及び研修科目から、区分ごとに定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 42 単位以上修得しなければならない。

2023・2024 年度入学者用

【工学部】［臨床工学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	11	01	1	23	1	1 通		3		選択科目６科目から２単位以上修得すること。
		生命を考える	1	11	01	1	23	2	1 前・1 後		2		
		人間文化探求	1	11	01	1	23	3	1 通		2		
		生活の中の科学	1	11	01	1	23	4	1 前・1 後		2		
		地域活動・ボランティア	1	11	01	1	23	5	1 通		2		
		現代社会を視る	1	11	01	1	23	6	1 前・1 後		2		
		ボランティア探求	1	11	01	1	23	7	2 通		2		
	医療健康科学	心理学概論	1	11	02	1	23	8	1 前		2		
		健康科学概論	1	11	02	1	23	9	2 前		2		
		救命救急学概論	1	11	02	1	23	10	2 後	1			
	人文社会科学	経済学	1	11	02	1	23	11	1 前		2		
		哲学	1	11	02	1	23	12	1 後		2		
		環境倫理	1	11	02	1	23	13	4 後		2		
	自然科学	基礎物理学	1	11	02	1	23	14	1 前	2			
		線形代数学	1	11	02	1	23	15	1 前	2			
		微分積分学	1	11	02	1	23	16	1 後	2			
		確率統計学	1	11	02	1	23	17	3 前	2			
		基礎化学	1	11	02	1	23	18	1 前		2		
		化学	1	11	02	1	23	19	1 後	2			
		基礎生物学	1	11	02	1	23	20	1 前		2		
	語学	英語Ⅰ	1	11	02	1	23	21	1 前	2			
		英語Ⅱ	1	11	02	1	23	22	1 後	2			
		英語Ⅲ	1	11	02	1	23	23	2 前		2		
		中国語Ⅰ	1	11	02	1	23	24	1 前		2		
		中国語Ⅱ	1	11	02	1	23	25	1 後		2		
		韓国語Ⅰ	1	11	02	1	23	26	1 前		2		
		韓国語Ⅱ	1	11	02	1	23	27	1 後		2		
		海外研修	1	11	02	1	23	28	1 通		2		
	基礎科目の合計									15	41	0	21 単位以上修得すること。
専門基礎科目	共通	情報リテラシー	1	11	03	1	23	29	1 前		1		
		応用数学	1	11	03	2	23	30	2 前	2			
		基礎セミナー	1	11	03	1	23	31	1 前	1			
	工学系	臨床工学概論	1	11	03	1	23	32	1 前	2			
		電磁気学	1	11	03	2	23	33	2 前	2			
		電気工学Ⅰ	1	11	03	2	23	34	1 前	2			
		電気工学Ⅱ	1	11	03	2	23	35	1 後	2			
		電気・電子・情報工学実験Ⅰ	1	11	03	2	23	36	1 後	1			
		電子工学Ⅰ	1	11	03	2	23	37	2 前	2			
		電子工学Ⅱ	1	11	03	2	23	38	2 後		2		
		電気・電子・情報工学実験Ⅱ	1	11	03	2	23	39	2 後		1		
		医用機械工学	1	11	03	2	23	40	2 後	2			
		計測工学	1	11	03	2	23	41	2 前	2			
		情報処理工学	1	11	03	2	23	42	1 後	2			
		医療情報システム	1	11	03	2	23	43	2 前		2		
		システム工学	1	11	03	2	23	44	3 前		2		
		シミュレーション工学	1	11	03	2	23	45	3 後		2		
	医学系	解剖生理学Ⅰ	1	11	03	2	23	46	1 前	2			
		解剖生理学Ⅱ	1	11	03	2	23	47	1 後	2			
		解剖生理学実習	1	11	03	2	23	48	2 前	1			
		医学概論	1	11	03	2	23	49	1 前	2			
		臨床心理学	1	11	03	2	23	50	3 後		2		
		公衆衛生学	1	11	03	2	23	51	1 後	2			
		病理学概論	1	11	03	2	23	52	2 前	2			
		臨床生化学	1	11	03	2	23	53	1 後	2			
		臨床免疫学	1	11	03	2	23	54	3 後		2		
		臨床薬理学	1	11	03	2	23	55	3 後		2		
		医学英語	1	11	03	3	23	56	3 前		1		
	専門基礎科目の合計									33	17	0	33 単位以上修得すること。

2023・2024 年度入学者用

【工学部】［臨床工学科］

授業科目の名称			ナンバリング 学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	配当年次	単位数 必修	選択	自由	備考
専門科目	医用機器	生体物性工学	1	11	04	3	23	57	3 前		2		
		生体材料工学	1	11	04	3	23	58	3 後		2		
		医用機器学概論	1	11	04	3	23	59	2 前	2			
		人工臓器概論	1	11	04	3	23	60	2 後		2		
		生体計測装置学	1	11	04	4	23	61	2 前	2			
		生体計測装置学実習	1	11	04	4	23	62	2 後		1		
		画像診断装置学	1	11	04	4	23	63	3 前		2		
		医用治療機器学	1	11	04	4	23	64	3 前		2		
		医用治療機器学実習	1	11	04	4	23	65	3 後		1		
		臨床支援技術学	1	11	04	4	23	66	3 前		2		
		臨床支援技術学実習	1	11	04	4	23	67	3 後		1		
		医療安全管理学	1	11	04	2	23	68	1 後	2			
		医用機器安全管理学	1	11	04	4	23	69	2 前	2			
		医用機器安全管理学実習	1	11	04	4	23	70	2 後		1		
	機能代行	基礎血液浄化装置学	1	11	04	3	23	71	2 前	2			
		血液浄化技術学Ⅰ	1	11	04	4	23	72	2 後		1		
		血液浄化技術学Ⅱ	1	11	04	4	23	73	3 前		1		
		血液浄化技術学実習	1	11	04	4	23	74	3 前		1		
		基礎呼吸療法装置学	1	11	04	3	23	75	2 後	2			
		呼吸療法技術学	1	11	04	4	23	76	3 前		2		
		呼吸療法技術学実習	1	11	04	4	23	77	3 後		1		
		基礎体外循環装置学	1	11	04	3	23	78	2 後	2			
		体外循環技術学	1	11	04	4	23	79	3 前		2		
		体外循環技術学実習	1	11	04	4	23	80	3 後		1		
	臨床系	臨床医学総論Ⅰ	1	11	04	4	23	81	2 前	2			
		臨床医学総論Ⅱ	1	11	04	4	23	82	2 後	2			
		臨床医学総論Ⅲ	1	11	04	4	23	83	3 前		2		
		臨床医学総論Ⅳ	1	11	04	4	23	84	3 後		2		
		臨床工学セミナーⅠ	1	11	04	4	23	85	2 後	1			
		臨床工学セミナーⅡ	1	11	04	4	23	86	3 後		1		
		医療関係法規	1	11	04	4	23	87	1 後	2			
		臨床実習	1	11	04	4	23	88	4 前		7		
		医工学論	1	11	04	4	23	89	4 後		2		
	多職種連携	チーム医療福祉論	1	11	04	2	23	90	1 後	1			
		保健医療福祉概論	1	11	04	3	23	91	2 後		2		
		専門職連携論	1	11	04	3	23	92	3 前		2		
		専門職連携セミナー	1	11	04	3	23	93	3 後		1		
専門科目の合計										22	44	0	22 単位以上修得すること。
研修科目		卒業研究入門	1	11	07	4	23	94	3 後	1			
		卒業研究Ⅰ	1	11	07	4	23	95	4 前	2			
		卒業研究Ⅱ	1	11	07	4	23	96	4 後	2			
		インターンシップ	1	11	07	4	23	97	1 通		1		
研修科目の合計										5	1	0	5 単位以上修得すること。

区分	必修	選択 区分要件	選択 区分問わず
基礎科目	15	6	※左記に加えて 43 単位以上
専門基礎科目	33	―	
専門科目	22	―	
研修科目	5	―	
小計	75	6	
合計	124		

※基礎科目、専門基礎科目、専門科目及び研修科目から、区分ごとに定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 43 単位以上修得しなければならない。

2020～2022 年度入学者用

【工学部／科学技術学部】
［臨床工学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	11	01	1	20	1	1通		3		選択科目６科目から２単位以上修得すること。
		生命を考える	1	11	01	1	20	2	1前・1後		2		
		人間文化探求	1	11	01	1	20	3	1通		2		
		生活の中の科学	1	11	01	1	20	4	1前・1後		2		
		地域活動・ボランティア	1	11	01	1	20	5	1通		2		
		現代社会を視る	1	11	01	1	20	6	1前・1後		2		
		ボランティア探求	1	11	01	1	20	7	2通		2		
	医療健康科学	心理学概論	1	11	02	1	20	8	1前		2		
		健康科学概論	1	11	02	1	20	9	2前		2		
		救命救急学概論	1	11	02	1	20	10	2後	1			
	人文社会科学	経済学	1	11	02	1	20	11	1前		2		
		哲学	1	11	02	1	20	12	1後		2		
		環境倫理	1	11	02	1	20	13	4後		2		
	自然科学	基礎物理学	1	11	02	1	20	14	1前	2			
		線形代数学	1	11	02	1	20	15	1前	2			
		微分積分学	1	11	02	1	20	16	1後	2			
		確率統計学	1	11	02	1	20	17	3前	2			
		基礎化学	1	11	02	1	20	18	1前		2		
		化学	1	11	02	1	20	19	1前	2			
		基礎生物学	1	11	02	1	20	20	1前		2		
	語学	英語Ⅰ	1	11	02	1	20	21	1前	2			
		英語Ⅱ	1	11	02	1	20	22	1後	2			
		英語Ⅲ	1	11	02	1	20	23	2前		2		
		中国語Ⅰ	1	11	02	1	20	24	1前		2		
		中国語Ⅱ	1	11	02	1	20	25	1後		2		
		韓国語Ⅰ	1	11	02	1	20	26	1前		2		
		韓国語Ⅱ	1	11	02	1	20	27	1後		2		
		海外研修	1	11	02	1	20	28	1通		2		
	基礎科目の合計									15	41	0	21 単位以上修得すること。
専門基礎科目	共通	情報リテラシー	1	11	03	2	20	29	1前		1		
		応用数学	1	11	03	2	20	30	2前	2			
		基礎セミナー	1	11	03	2	20	31	1前	1			
	工学系	臨床工学概論	1	11	03	2	20	32	1後	2			
		電磁気学	1	11	03	2	20	33	2前	2			
		電気工学Ⅰ	1	11	03	2	20	34	1前	2			
		電気工学Ⅱ	1	11	03	2	20	35	1後	2			
		電気工学実験	1	11	03	2	20	36	1後	1			
		電子工学Ⅰ	1	11	03	2	20	37	2前	2			
		電子工学Ⅱ	1	11	03	2	20	38	2後	2			
		電子工学実験	1	11	03	2	20	39	2後	1			
		医用機械工学Ⅰ	1	11	03	2	20	40	2前	2			
		医用機械工学Ⅱ	1	11	03	2	20	41	2後	2			
		計測工学	1	11	03	2	20	42	2前	2			
		情報処理工学	1	11	03	2	20	43	1後	2			
		医療情報システム	1	11	03	2	20	44	2前		2		
		放射線工学概論	1	11	03	2	20	45	2後		2		
		システム工学	1	11	03	2	20	46	3前		2		
		シミュレーション工学概論	1	11	03	2	20	47	3後		2		
	医学系	医学概論	1	11	03	2	20	48	1前	2			
		臨床心理学	1	11	03	2	20	49	3後		2		
		公衆衛生学	1	11	03	2	20	50	3後	2			
		人体の構造と機能Ⅰ	1	11	03	2	20	51	1前	2			
		人体の構造と機能Ⅱ	1	11	03	2	20	52	1後	2			
		基礎医学実習	1	11	03	2	20	53	1後	1			
		病理学概論	1	11	03	2	20	54	2前	2			
		臨床生化学	1	11	03	2	20	55	1後	2			
		臨床生理学	1	11	03	2	20	56	2前	2			
		臨床免疫学	1	11	03	2	20	57	3後		2		
		臨床薬理学	1	11	03	2	20	58	3後		2		
		看護学概論	1	11	03	2	20	59	3後		2		
		医学英語	1	11	03	3	20	60	3前		1		
	専門基礎科目の合計									40	18	0	44 単位以上修得すること。

2020～2022 年度入学者用

【工学部／科学技術学部】
［臨床工学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	医用機器	生体物性工学	1	11	04	3	20	61	3 前	2			
		生体材料工学	1	11	04	3	20	62	3 前	2			
		医用機器学概論	1	11	04	3	20	63	2 前	2			
		人工臓器概論	1	11	04	3	20	64	1 後		2		
		生体計測装置学	1	11	04	3	20	65	2 後	2			
		生体計測装置学実習	1	11	04	4	20	66	3 前	1			
		画像診断装置学	1	11	04	4	20	67	3 前		2		
		医用治療機器学Ⅰ	1	11	04	3	20	68	2 後	2			
		医用治療機器学Ⅱ	1	11	04	3	20	69	3 前	2			
		医用治療機器学実習	1	11	04	4	20	70	3 前	1			
		医用機器安全管理学Ⅰ	1	11	04	3	20	71	2 前	2			
		医用機器安全管理学Ⅱ	1	11	04	3	20	72	2 後	2			
		医用機器安全管理学実習	1	11	04	4	20	73	2 後	1			
	機能代行	基礎血液浄化装置学	1	11	04	3	20	74	2 前	2			
		血液浄化技術学Ⅰ	1	11	04	4	20	75	2 後		1		
		血液浄化技術学Ⅱ	1	11	04	4	20	76	3 前		1		
		血液浄化技術学実習	1	11	04	4	20	77	3 前		1		
		基礎呼吸療法装置学	1	11	04	3	20	78	3 前	2			
		呼吸療法技術学	1	11	04	4	20	79	3 後		1		
		呼吸療法技術学実習	1	11	04	4	20	80	3 後		1		
		基礎体外循環装置学	1	11	04	3	20	81	2 後	2			
		体外循環技術学	1	11	04	4	20	82	3 前		1		
		体外循環技術学実習	1	11	04	4	20	83	3 後		1		
	臨床系	臨床医学総論Ⅰ	1	11	04	4	20	84	2 前	2			
		臨床医学総論Ⅱ	1	11	04	4	20	85	2 後	2			
		臨床医学総論Ⅲ	1	11	04	4	20	86	3 前		2		
		臨床医学総論Ⅳ	1	11	04	4	20	87	3 後		2		
		臨床工学セミナーⅠ	1	11	04	4	20	88	2 後		1		
		臨床工学セミナーⅡ	1	11	04	4	20	89	3 後		1		
		臨床工学セミナーⅢ	1	11	04	4	20	90	4 前		1		
		医療関係法規	1	11	04	4	20	91	1 後	2			
		臨床実習	1	11	04	4	20	92	4 前		4		
		臨床工学演習	1	11	04	4	20	93	4 後		1		
	多職種連携	チーム医療福祉論	1	11	04	2	20	94	1 後	1			
		保健医療福祉概論	1	11	04	3	20	95	2 後		2		
		専門職連携論	1	11	04	3	20	96	3 前	2			
		専門職連携セミナー	1	11	04	3	20	97	3 後		1		
専門科目の合計										34	26	0	38 単位以上修得すること。
研修科目		卒業研究入門	1	11	07	4	20	98	3 後	1			
		卒業研究Ⅰ	1	11	07	4	20	99	4 前	2			
		卒業研究Ⅱ	1	11	07	4	20	100	4 後	2			
		インターンシップ	1	11	07	4	20	101	1 通		1		
研修科目の合計										5	1	0	5 単位以上修得すること。

区分	必修	選択	
		区分要件	区分問わず
基礎科目	15	6	※左記に加えて 16 単位以上
専門基礎科目	40	4	
専門科目	34	4	
研修科目	5	―	
小計	94	14	
合計	124		

※基礎科目、専門基礎科目、専門科目及び研修科目から、区分ごとに定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 16 単位以上修得しなければならない。

2016～2019 年度入学者用

【科学技術学部】
［臨床工学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	医療健康科学	心理学概論	1	11	02	1	16	1	1 前		2		4 科目から 3 単位以上修得すること。
		スポーツ実技	1	11	02	1	16	2	1 後		1		
		健康科学概論	1	11	02	1	16	3	2 前		2		
		救命救急学概論	1	11	02	1	16	4	2 後		1		
	人文社会科学	情報倫理	1	11	02	1	16	5	1 前		2		6 科目から 4 単位以上修得すること。
		経済学	1	11	02	1	16	6	1 前		2		
		社会学	1	11	02	1	16	7	1 前		2		
		哲学	1	11	02	1	16	8	1 後		2		
		知財学概論	1	11	02	1	16	9	2 後		2		
		環境倫理	1	11	02	1	16	10	4 後		2		
	自然科学	基礎物理学	1	11	02	1	16	11	1 前	2			
		線形代数学	1	11	02	1	16	12	1 前	2			
		微分積分学	1	11	02	1	16	13	1 後	2			
		確率統計学	1	11	02	1	16	14	2 前		2		3 科目から 2 単位以上修得すること。
		基礎化学	1	11	02	1	16	15	1 前		2		
		基礎生物学	1	11	02	1	16	16	1 前		2		
	語学	英語 I	1	11	02	1	16	17	1 前	2			
		英語 II	1	11	02	1	16	18	1 後	2			
		英語 III	1	11	02	1	16	19	2 前		2		
		中国語 I	1	11	02	1	16	20	1 前		2		4 科目から 2 単位以上修得すること。
		中国語 II	1	11	02	1	16	21	1 後		2		
		韓国語 I	1	11	02	1	16	22	1 前		2		
		韓国語 II	1	11	02	1	16	23	1 後		2		
		語学研修	1	11	02	1	16	24	1･2･3･4 通		2		
		医学英語	1	11	02	3	16	25	3 後		1		
	全学共通科目	TBGU プロジェクト I（輝けるもの）	1	11	01	1	16	26	1･2･3･4 通		2		
		TBGU プロジェクト II（地域活動・ボランティア）	1	11	01	1	16	27	1･2･3･4 通		2		
		TBGU プロジェクト II（地域活動・ボランティア）	1	11	01	1	16	28	1･2･3･4 通		2		
基礎科目の合計										10	43	0	23 単位以上修得すること。
専門基礎科目	工学系	情報リテラシー	1	11	03	2	16	29	1 前		1		
		応用数学	1	11	03	2	16	30	2 前	2			
		化学	1	11	03	2	16	31	2 後	2			
		電磁気学	1	11	03	2	16	32	1 前	2			
		医用工学概論	1	11	03	2	16	33	1 後	2			
		電気工学 I	1	11	03	2	16	34	1 前	2			
		電気工学 II	1	11	03	2	16	35	1 後	2			
		電気工学実験	1	11	03	2	16	36	1 後	1			
		電子工学 I	1	11	03	2	16	37	2 前	2			
		電子工学 II	1	11	03	2	16	38	2 後	2			
		電子工学実験	1	11	03	2	16	39	2 後	1			
		医用機械工学 I	1	11	03	2	16	40	2 前	2			
		医用機械工学 II	1	11	03	2	16	41	2 後	2			
		計測工学	1	11	03	2	16	42	2 前	2			
		情報処理工学	1	11	03	2	16	43	2 前		2		
		放射線工学概論	1	11	03	2	16	44	2 後		2		
		システム工学	1	11	03	2	16	45	3 前		2		
	医学系	医学概論	1	11	03	2	16	46	1 前	2			
		公衆衛生学	1	11	03	2	16	47	3 前	2			
		人体の構造と機能 I	1	11	03	2	16	48	1 前	2			
		人体の構造と機能 II	1	11	03	2	16	49	1 後	2			
		基礎医学実習	1	11	03	2	16	50	1 後	1			
		病理学概論	1	11	03	2	16	51	2 前	2			
		臨床生化学	1	11	03	2	16	52	2 前	2			
		臨床生理学	1	11	03	2	16	53	2 前	2			
		臨床免疫学	1	11	03	2	16	54	2 後	2			
		臨床薬理学	1	11	03	2	16	55	2 後	2			
		看護学概論	1	11	03	2	16	56	3 前	2			
専門基礎科目の合計										45	7	0	48 単位以上修得すること。

2016～2019 年度入学者用

【科学技術学部】
［臨床工学科］

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	医用機器	生体物性工学	1	11	04	3	16	57	3 前	2			
		生体材料工学	1	11	04	3	16	58	3 後	2			
		医用機器学概論	1	11	04	3	16	59	2 前	2			
		人工臓器概論	1	11	04	3	16	60	2 前		2		
		生体計測装置学	1	11	04	3	16	61	2 後	2			
		生体計測装置学実習	1	11	04	4	16	62	2 後	1			
		画像診断装置学	1	11	04	4	16	63	3 前		2		
		医用治療機器学Ⅰ	1	11	04	3	16	64	2 後	2			
		医用治療機器学Ⅱ	1	11	04	3	16	65	3 前	2			
		医用治療機器学実習	1	11	04	4	16	66	3 前	1			
		医用機器安全管理学Ⅰ	1	11	04	3	16	67	3 前	2			
		医用機器安全管理学Ⅱ	1	11	04	3	16	68	3 後	2			
		医用機器安全管理学実習	1	11	04	4	16	69	3 後	1			
	機能代行	基礎血液浄化装置学	1	11	04	3	16	70	2 後	2			
		血液浄化技術学	1	11	04	4	16	71	3 前		2		
		血液浄化技術学実習	1	11	04	4	16	72	3 前		1		
		基礎呼吸療法装置学	1	11	04	3	16	73	3 前	2			
		呼吸療法技術学	1	11	04	4	16	74	3 後		2		
		呼吸療法技術学実習	1	11	04	4	16	75	3 後		1		
		基礎体外循環装置学	1	11	04	3	16	76	3 前	2			
		体外循環技術学	1	11	04	4	16	77	3 後		2		
		体外循環技術学実習	1	11	04	4	16	78	3 後		1		
	先端工学	人工知能概論	1	11	04	4	16	79	3 前		2		
		マルチメディア工学概論	1	11	04	4	16	80	3 後		2		
		医療情報システム	1	11	04	4	16	81	4 後		2		
		シミュレーション工学	1	11	04	4	16	82	4 後		2		
	臨床系	臨床医学総論Ⅰ	1	11	04	4	16	83	2 前	2			
		臨床医学総論Ⅱ	1	11	04	4	16	84	2 後	2			
		臨床医学総論Ⅲ	1	11	04	4	16	85	3 前	2			
		臨床医学総論Ⅳ	1	11	04	4	16	86	3 後	2			
		臨床工学セミナーⅠ	1	11	04	4	16	87	1 後	1			
		臨床工学セミナーⅡ	1	11	04	4	16	88	2 後	1			
		臨床工学セミナーⅢ	1	11	04	4	16	89	3 後	1			
		臨床工学セミナーⅣ	1	11	04	4	16	90	4 前	1			
		医療関係法規	1	11	04	4	16	91	1 前	2			
		臨床実習	1	11	04	4	16	92	4 前		4		
	専門科目の合計									39	25	0	52 単位以上修得すること。
研修科目		卒業研究Ⅰ	1	11	07	4	16	93	4 前	2			
		卒業研究Ⅱ	1	11	07	4	16	94	4 後	2			
		インターンシップ	1	11	07	4	16	95	1･2･3･4 通		1		
	研修科目の合計									4	1	0	4 単位以上修得すること。
臨床工学科の総合計										98	76	0	卒業要件 127 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位		
	必修	選択	計
基礎科目	10	13	23
専門基礎科目	45	3	48
専門科目	39	13	52
研修科目	4	―	4
合計	98	29	127

臨床工学科カリキュラム対照表

2019年度以前入学者用				2020～2022年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
心理学概論	1前		2	心理学概論	1前		2
スポーツ実技	1後		1	※			
健康科学概論	2前		2	健康科学概論	2前		2
救命救急学概論	2後		1	救命救急学概論	2後	1	
情報倫理	1前		2	※			
経済学	1前		2	経済学	1前		2
社会学	1前		2	※			
哲学	1後		2	哲学	1後		2
知財学概論	2後		2	※			
環境倫理	4後		2	環境倫理	4後		2
基礎物理学	1前	2		基礎物理学	1前	2	
線形代数学	1前	2		線形代数学	1前	2	
微分積分学	1後	2		微分積分学	1後	2	
確率統計学	2前		2	確率統計学	3前	2	
基礎化学	1前		2	基礎化学	1前		2
基礎生物学	1前		2	基礎生物学	1前		2
英語Ⅰ	1前	2		英語Ⅰ	1前	2	
英語Ⅱ	1後	2		英語Ⅱ	1後	2	
英語Ⅲ	2前		2	英語Ⅲ	2前		2
中国語Ⅰ	1前		2	中国語Ⅰ	1前		2
中国語Ⅱ	1後		2	中国語Ⅱ	1後		2
韓国語Ⅰ	1前		2	韓国語Ⅰ	1前		2
韓国語Ⅱ	1後		2	韓国語Ⅱ	1後		2
語学研修	1･2･3･4通		2	海外研修	1通		2
医学英語	3後		1	医学英語	3前		1
TBGUプロジェクトⅠ（輝けるもの）	1･2･3･4通		2	輝ける者	1通		3
TBGUプロジェクトⅡ（地域活動・ボランティア）	1･2･3･4通		2	※			
TBGUプロジェクトⅢ（人間形成）	1･2･3･4通		2	※			
				地域活動・ボランティア	1通		2
				人間文化探求	1通		2
				現代社会を視る	1前･1後		2
				生命を考える	1前･1後		2
				生活の中の科学	1前･1後		2
				ボランティア探求	2通		2
情報リテラシー	1前		1	情報リテラシー	1前		1
応用数学	2前	2		応用数学	2前	2	
化学	2後	2		化学	1前	2	
電磁気学	1前	2		電磁気学	2前	2	
医用工学概論	1後	2		臨床工学概論	1後	2	
電気工学Ⅰ	1前	2		電気工学Ⅰ	1前	2	
電気工学Ⅱ	1後	2		電気工学Ⅱ	1後	2	
電気工学実験	1後	1		電気工学実験	1後	1	
電子工学Ⅰ	2前	2		電子工学Ⅰ	2前	2	
電子工学Ⅱ	2後	2		電子工学Ⅱ	2後	2	
電子工学実験	2後	1		電子工学実験	2後	1	
医用機械工学Ⅰ	2前	2		医用機械工学Ⅰ	2前	2	
医用機械工学Ⅱ	2後	2		医用機械工学Ⅱ	2後	2	
計測工学	2前	2		計測工学	2前	2	

臨床工学科カリキュラム対照表

2019年度以前入学者用				2020～2022年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
情報処理工学	2前		2	情報処理工学	1後	2	
放射線工学概論	2後		2	放射線工学概論	2後		2
システム工学	3前		2	システム工学	3前		2
医学概論	1前	2		医学概論	1前	2	
公衆衛生学	3前	2		公衆衛生学	3後	2	
人体の構造と機能Ⅰ	1前	2		人体の構造と機能Ⅰ	1前	2	
人体の構造と機能Ⅱ	1後	2		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2	
基礎医学実習	1後	1		基礎医学実習	1後	1	
病理学概論	2前	2		病理学概論	2前	2	
臨床生化学	2前	2		臨床生化学	1後	2	
臨床生理学	2前	2		臨床生理学	2前	2	
臨床免疫学	2後	2		臨床免疫学	3後		2
臨床薬理学	2後	2		臨床薬理学	3後		2
看護学概論	3前	2		看護学概論	3後		2
				基礎セミナー	1前	1	
				臨床心理学	3後		2
生体物性工学	3前	2		生体物性工学	3前	2	
生体材料工学	3後	2		生体材料工学	3前	2	
医用機器学概論	2前	2		医用機器学概論	2前	2	
人工臓器概論	2前		2	人工臓器概論	1後		2
生体計測装置学	2後	2		生体計測装置学	2後	2	
生体計測装置学実習	2後	1		生体計測装置学実習	3前	1	
画像診断装置学	3前		2	画像診断装置学	3前		2
医用治療機器学Ⅰ	2後	2		医用治療機器学Ⅰ	2後	2	
医用治療機器学Ⅱ	3前	2		医用治療機器学Ⅱ	3前	2	
医用治療機器学実習	3前	1		医用治療機器学実習	3前	1	
医用機器安全管理学Ⅰ	3前	2		医用機器安全管理学Ⅰ	2前	2	
医用機器安全管理学Ⅱ	3後	2		医用機器安全管理学Ⅱ	2後	2	
医用機器安全管理学実習	3後	1		医用機器安全管理学実習	2後	1	
基礎血液浄化装置学	2後	2		基礎血液浄化装置学	2前	2	
血液浄化技術学	3前		2	血液浄化技術学Ⅰ	2後		1
				血液浄化技術学Ⅱ	3前		1
血液浄化技術学実習	3前		1	血液浄化技術学実習	3前		1
基礎呼吸療法装置学	3前	2		基礎呼吸療法装置学	3前	2	
呼吸療法技術学	3後		2	※			
呼吸療法技術学実習	3後		1	呼吸療法技術学実習	3後		1
基礎体外循環装置学	3前	2		基礎体外循環装置学	2後	2	
体外循環技術学	3後		2	※			
体外循環技術学実習	3後		1	体外循環技術学実習	3後		1
人工知能概論	3前		2	※			
マルチメディア工学概論	3後		2	※			
医療情報システム	4後		2	医療情報システム	2前		2
シミュレーション工学	4後		2	シミュレーション工学概論	3後		2
臨床医学総論Ⅰ	2前	2		臨床医学総論Ⅰ	2前	2	
臨床医学総論Ⅱ	2後	2		臨床医学総論Ⅱ	2後	2	
臨床医学総論Ⅲ	3前	2		臨床医学総論Ⅲ	3前		2
臨床医学総論Ⅳ	3後	2		臨床医学総論Ⅳ	3後		2
臨床工学セミナーⅠ	1後	1		※			

臨床工学科カリキュラム対照表

2019年度以前入学者用				2020～2022年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
臨床工学セミナーII	2後	1		臨床工学セミナーI	2後		1
臨床工学セミナーIII	3後	1		臨床工学セミナーII	3後		1
臨床工学セミナーIV	4前	1		臨床工学セミナーIII	4前		1
医療関係法規	1前	2		医療関係法規	1後	2	
臨床実習	4前		4	臨床実習	4前		4
				呼吸療法技術学	3後		1
				体外循環技術学	3前		1
				臨床工学演習	4後		1
				チーム医療福祉論	1後	1	
				保健医療福祉概論	2後		2
				専門職連携論	3前	2	
				専門職連携セミナー	3後		1
卒業研究I	4前	2		卒業研究I	4前	2	
卒業研究II	4後	2		卒業研究II	4後	2	
インターンシップ	1･2･3･4通		1	インターンシップ	1通		1
				卒業研究入門	3後	1	

臨床工学科カリキュラム対照表

2020～2022 年度入学者用				2023・2024 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1 通		3	輝ける者	1 通		3
地域活動・ボランティア	1 通		2	地域活動・ボランティア	1 通		2
人間文化探求	1 通		2	人間文化探求	1 通		2
現代社会を視る	1前・1後		2	現代社会を視る	1前・1後		2
生命を考える	1前・1後		2	生命を考える	1前・1後		2
生活の中の科学	1前・1後		2	生活の中の科学	1前・1後		2
ボランティア探求	2 通		2	ボランティア探求	2 通		2
心理学概論	1 前		2	心理学概論	1 前		2
健康科学概論	2 前		2	健康科学概論	2 前		2
救命救急学概論	2 後	1		救命救急学概論	2 後	1	
経済学	1 前		2	経済学	1 前		2
哲学	1 後		2	哲学	1 後		2
環境倫理	4 後		2	環境倫理	4 後		2
基礎物理学	1 前	2		基礎物理学	1 前	2	
線形代数学	1 前	2		線形代数学	1 前	2	
微分積分学	1 後	2		微分積分学	1 後	2	
確率統計学	3 前	2		確率統計学	3 前	2	
基礎化学	1 前		2	基礎化学	1 前		2
化学	1 前	2		化学	1 後	2	
基礎生物学	1 前		2	基礎生物学	1 前		2
英語Ⅰ	1 前	2		英語Ⅰ	1 前	2	
英語Ⅱ	1 後	2		英語Ⅱ	1 後	2	
英語Ⅲ	2 前		2	英語Ⅲ	2 前		2
中国語Ⅰ	1 前		2	中国語Ⅰ	1 前		2
中国語Ⅱ	1 後		2	中国語Ⅱ	1 後		2
韓国語Ⅰ	1 前		2	韓国語Ⅰ	1 前		2
韓国語Ⅱ	1 後		2	韓国語Ⅱ	1 後		2
海外研修	1 通		2	海外研修	1 通		2
情報リテラシー	1 前		1	情報リテラシー	1 前		1
応用数学	2 前	2		応用数学	2 前	2	
基礎セミナー	1 前	1		基礎セミナー	1 前	1	
臨床工学概論	1 後	2		臨床工学概論	1 前	2	
電磁気学	2 前	2		電磁気学	2 前	2	
電気工学Ⅰ	1 前	2		電気工学Ⅰ	1 前	2	
電気工学Ⅱ	1 後	2		電気工学Ⅱ	1 後	2	
電気工学実験	1 後	1		電気・電子・情報工学実験Ⅰ	1 後	1	
電子工学Ⅰ	2 前	2		電子工学Ⅰ	2 前	2	
電子工学Ⅱ	2 後	2		電子工学Ⅱ	2 後		2
電子工学実験	2 後	1		電気・電子・情報工学実験Ⅱ	2 後		1
医用機械工学Ⅰ	2 前	2		※			
医用機械工学Ⅱ	2 後	2		医用機械工学	2 後	2	
計測工学	2 前	2		計測工学	2 前	2	
放射線工学概論	2 後		2	※			
情報処理工学	1 後	2		情報処理工学	1 後	2	
医療情報システム	2 前		2	医療情報システム	2 前		2
システム工学	3 前		2	システム工学	3 前		2
シミュレーション工学概論	3 後		2	シミュレーション工学	3 後		2
人体の構造と機能Ⅰ	1 前	2		解剖生理学Ⅰ	1 前	2	
人体の構造と機能Ⅱ	1 後	2		解剖生理学Ⅱ	1 後	2	

臨床工学科カリキュラム対照表

2020～2022 年度入学者用				2023・2024 年度入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
基礎医学実習	1 後	1		解剖生理学実習	2 前	1	
臨床生理学	2 前	2		※			
医学概論	1 前	2		医学概論	1 前	2	
臨床心理学	3 後		2	臨床心理学	3 後		2
公衆衛生学	3 後	2		公衆衛生学	1 後	2	
病理学概論	2 前	2		病理学概論	2 前	2	
臨床生化学	1 後	2		臨床生化学	1 後	2	
臨床免疫学	3 後		2	臨床免疫学	3 後		2
臨床薬理学	3 後		2	臨床薬理学	3 後		2
看護学概論	3 後		2	※			
医学英語	3 前		1	医学英語	3 前		1
生体物性工学	3 前	2		生体物性工学	3 前		2
生体材料工学	3 前	2		生体材料工学	3 後		2
医用機器学概論	2 前	2		医用機器学概論	2 前	2	
人工臓器概論	1 後		2	人工臓器概論	2 後		2
生体計測装置学	2 後	2		生体計測装置学	2 前	2	
生体計測装置学実習	3 前	1		生体計測装置学実習	2 後		1
画像診断装置学	3 前		2	画像診断装置学	3 前		2
医用治療機器学Ⅰ	2 後	2		※			
医用治療機器学Ⅱ	3 前	2		医用治療機器学	3 前		2
医用治療機器学実習	3 前	1		医用治療機器学実習	3 後		1
				臨床支援技術学	3 前		2
				臨床支援技術学実習	3 後		1
医用機器安全管理学Ⅰ	2 前	2		医療安全管理学	1 後	2	
医用機器安全管理学Ⅱ	2 後	2		医用機器安全管理学	2 前	2	
医用機器安全管理学実習	2 後	1		医用機器安全管理学実習	2 後		1
基礎血液浄化装置学	2 前	2		基礎血液浄化装置学	2 前	2	
血液浄化技術学Ⅰ	2 後		1	血液浄化技術学Ⅰ	2 後		1
血液浄化技術学Ⅱ	3 前		1	血液浄化技術学Ⅱ	3 前		1
血液浄化技術学実習	3 前		1	血液浄化技術学実習	3 前		1
基礎呼吸療法装置学	3 前	2		基礎呼吸療法装置学	2 後	2	
呼吸療法技術学	3 後		1	※			
				呼吸療法技術学	3 前		2
呼吸療法技術学実習	3 後		1	呼吸療法技術学実習	3 後		1
基礎体外循環装置学	2 後	2		基礎体外循環装置学	2 後	2	
体外循環技術学	3 前		1	※			
				体外循環技術学	3 前		2
体外循環技術学実習	3 後		1	体外循環技術学実習	3 後		1
臨床医学総論Ⅰ	2 前	2		臨床医学総論Ⅰ	2 前	2	
臨床医学総論Ⅱ	2 後	2		臨床医学総論Ⅱ	2 後	2	
臨床医学総論Ⅲ	3 前		2	臨床医学総論Ⅲ	3 前		2
臨床医学総論Ⅳ	3 後		2	臨床医学総論Ⅳ	3 後		2
臨床工学セミナーⅠ	2 後		1	臨床工学セミナーⅠ	2 後	1	
臨床工学セミナーⅡ	3 後		1	臨床工学セミナーⅡ	3 後		1
臨床工学セミナーⅢ	4 前		1	※			
医療関係法規	1 後	2		医療関係法規	1 後	2	
臨床実習	4 前		4	臨床実習	4 前		7
臨床工学演習	4 後		1	※			
				医工学論	4 後		2

臨床工学科カリキュラム対照表

2020～2022 年度入学者用				2023・2024 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
チーム医療福祉論	1 後	1		チーム医療福祉論	1 後	1	
保健医療福祉概論	2 後		2	保健医療福祉概論	2 後		2
専門職連携論	3 前	2		専門職連携論	3 前		2
専門職連携セミナー	3 後		1	専門職連携セミナー	3 後		1
卒業研究入門	3 後	1		卒業研究入門	3 後	1	
卒業研究 I	4 前	2		卒業研究 I	4 前	2	
卒業研究 II	4 後	2		卒業研究 II	4 後	2	
インターンシップ	1 通		1	インターンシップ	1 通		1

臨床工学科カリキュラム対照表

2023・2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
輝ける者	1通		3	※			
生命を考える	1前・1後		2	生命を考える	1前・1後		2
人間文化探求	1通		2	※			
生活の中の科学	1前・1後		2	生活の中の科学	1前・1後		2
地域活動・ボランティア	1通		2	※			
現代社会を視る	1前・1後		2	現代社会を視る	1前・1後		2
ボランティア探求	2通		2	※			
心理学概論	1前		2	心理学概論	1前		2
健康科学概論	2前		2	※			
救命救急学概論	2後	1		※			
経済学	1前		2	※			
哲学	1後		2	哲学	1後		2
環境倫理	4後		2	※			
基礎物理学	1前	2		基礎物理学	1前	2	
線形代数学	1前	2		線形代数学	1前	2	
微分積分学	1後	2		微分積分学	1後	2	
確率統計学	3前	2		確率統計学	3前	2	
基礎化学	1前		2	基礎化学	1前		2
化学	1後	2		化学	1後	2	
基礎生物学	1前		2	基礎生物学	1前		2
英語Ⅰ	1前	2		英語コミュニケーションⅠ	1前	1	
				英語コミュニケーションⅡ	1後	1	
英語Ⅱ	1後	2		※			
英語Ⅲ	2前		2	※			
中国語Ⅰ	1前		2	中国語コミュニケーションⅠ	1前		1
				中国語コミュニケーションⅡ	1後		1
中国語Ⅱ	1後		2	※			
韓国語Ⅰ	1前		2	韓国語コミュニケーションⅠ	1前		1
				韓国語コミュニケーションⅡ	1後		1
韓国語Ⅱ	1後		2	※			
海外研修	1通		2	海外研修	1通		2
情報リテラシー	1前		1	※			
応用数学	2前	2		応用数学	2前	2	
基礎セミナー	1前	1		基礎セミナー	1前	1	
臨床工学概論	1前	2		臨床工学概論	1後	2	
電磁気学	2前	2		電磁気学	2前	2	
電気工学Ⅰ	1前	2		電気工学Ⅰ	1前	2	
電気工学Ⅱ	1後	2		電気工学Ⅱ	1後	2	
電気・電子・情報工学実験Ⅰ	1後	1		電気・電子・情報工学実験Ⅰ	1後	1	
電子工学Ⅰ	2前	2		電子工学Ⅰ	2前	2	
電子工学Ⅱ	2後		2	電子工学Ⅱ	2後		2
電気・電子・情報工学実験Ⅱ	2後		1	電気・電子・情報工学実験Ⅱ	2後		1
医用機械工学	2後	2		医用機械工学	2後	2	
計測工学	2前	2		計測工学	2前	2	
情報処理工学	1後	2		情報処理工学	1後	2	
医療情報システム	2前		2	医療情報システム	2前		2
システム工学	3前		2	システム工学	3前		2
シミュレーション工学	3後		2	シミュレーション工学	3後		2
解剖生理学Ⅰ	1前	2		解剖生理学Ⅰ	1前	2	
解剖生理学Ⅱ	1後	2		解剖生理学Ⅱ	1後	2	
解剖生理学実習	2前	1		解剖生理学実習	2前	1	
医学概論	1前	2		医学概論	1前	2	

臨床工学科カリキュラム対照表

2023・2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
臨床心理学	3 後		2	臨床心理学	3 後		2
公衆衛生学	1 後	2		公衆衛生学	1 後	2	
病理学概論	2 前	2		病理学概論	2 前	2	
臨床生化学	1 後	2		臨床生化学	1 後	2	
臨床免疫学	3 後		2	臨床免疫学	3 後		2
臨床薬理学	3 後		2	臨床薬理学	3 後		2
医学英語	3 前		1	医学英語	3 前		1
生体物性工学	3 前		2	生体物性工学	3 前		2
生体材料工学	3 後		2	生体材料工学	3 後		2
医用機器学概論	2 前	2		医用機器学概論	2 前	2	
人工臓器概論	2 後		2	人工臓器概論	2 後		2
生体計測装置学	2 前	2		生体計測装置学	2 前	2	
生体計測装置学実習	2 後		1	生体計測装置学実習	2 後		1
画像診断装置学	3 前		2	画像診断装置学	3 前		2
医用治療機器学	3 前		2	医用治療機器学	3 前		2
医用治療機器学実習	3 後		1	医用治療機器学実習	3 後		1
臨床支援技術学	3 前		2	臨床支援技術学	3 前		2
臨床支援技術学実習	3 後		1	臨床支援技術学実習	3 後		1
医療安全管理学	1 後	2		医療安全管理学	1 後	2	
医用機器安全管理学	2 前	2		医用機器安全管理学	2 前	2	
医用機器安全管理学実習	2 後		1	医用機器安全管理学実習	2 後		1
基礎血液浄化装置学	2 前	2		基礎血液浄化装置学	2 前	2	
血液浄化技術学Ⅰ	2 後		1	血液浄化技術学Ⅰ	2 後		1
血液浄化技術学Ⅱ	3 前		1	血液浄化技術学Ⅱ	3 前		1
血液浄化技術学実習	3 前		1	血液浄化技術学実習	3 前		1
基礎呼吸療法装置学	2 後	2		基礎呼吸療法装置学	2 後	2	
呼吸療法技術学	3 前		2	呼吸療法技術学	3 前		2
呼吸療法技術学実習	3 後		1	呼吸療法技術学実習	3 後		1
基礎体外循環装置学	2 後	2		基礎体外循環装置学	2 後	2	
体外循環技術学	3 前		2	体外循環技術学	3 前		2
体外循環技術学実習	3 後		1	体外循環技術学実習	3 後		1
臨床医学総論Ⅰ	2 前	2		臨床医学総論Ⅰ	2 前	2	
臨床医学総論Ⅱ	2 後	2		臨床医学総論Ⅱ	2 後	2	
臨床医学総論Ⅲ	3 前		2	臨床医学総論Ⅲ	3 前		2
臨床医学総論Ⅳ	3 後		2	臨床医学総論Ⅳ	3 後		2
臨床工学セミナーⅠ	2 後	1		臨床工学セミナーⅠ	2 後	1	
臨床工学セミナーⅡ	3 後		1	臨床工学セミナーⅡ	3 後		1
医療関係法規	1 後	2		医療関係法規	1 後	2	
臨床実習	4 前		7	臨床実習	4 前		7
医工学論	4 後		2	※			
チーム医療福祉論	1 後	1		チーム医療福祉論	1 後	1	
保健医療福祉概論	2 後		2	保健医療福祉概論	2 後		2
専門職連携論	3 前		2	専門職連携論	3 前		2
専門職連携セミナー	3 後		1	専門職連携セミナー	3 後		1
卒業研究入門	3 後	1		卒業研究入門	3 後	1	
卒業研究Ⅰ	4 前	2		卒業研究Ⅰ	4 前	2	
卒業研究Ⅱ	4 後	2		卒業研究Ⅱ	4 後	2	
インターンシップ	1 通		1	インターンシップ	1 通		1
				輝ける者	1 通		2
				経済・法律・世界を視る	1前・1後		2
				社会活動入門	1 前・1 後		2

臨床工学科カリキュラム対照表

2023・2024 年度入学者用				2025 年度以降入学者用			
授業科目の名称	配当年次	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択			必修	選択
				スポーツ実技	1 後		1
				生命倫理学	1 後		1
				健康科学	1 前	1	
				教育学	1 前		2
				現代史	1 前		2
				東北の歴史	1 後		2
				ジェンダー論	1 前		2
				生活の中の物理学	1 後		2
				生活の中の化学	1 前		2
				生活の中の生物学	1 前		2
				生活と地球科学	1 後		2
				データサイエンス入門	1 前	2	
				コミュニケーション論	1 前		2
				憲法と法律	1 後		2
				生活と経済	1 前		2
				教養としての政治学	1 後		2
				医工学特論	4 後		1

注）※は別途開講する。

臨床工学技士国家試験受験資格必修科目（2025 年度カリキュラム）

区分	指定科目	授業科目名	科目区分		配当		形態	必修選択	単位
人体の構造及び機能に該当する科目	解剖学	解剖生理学Ⅰ	専門基礎科目	医学系	1 年	前期	講義	必修	2
		解剖生理学実習※	専門基礎科目	医学系	2 年	前期	実習	必修	0.5 ※
	生理学	解剖生理学Ⅱ	専門基礎科目	医学系	1 年	後期	講義	必修	2
		解剖生理学実習※	専門基礎科目	医学系	2 年	前期	実習	必修	0.5 ※
	生化学①	臨床生化学※	専門基礎科目	医学系	1 年	後期	講義	必修	1 ※
臨床工学に必要な医学的基礎に該当する項目	医学概論	医学概論	専門基礎科目	医学系	1 年	前期	講義	必修	2
	公衆衛生学	公衆衛生学	専門基礎科目	医学系	1 年	後期	講義	必修	2
	病理学	病理学概論	専門基礎科目	医学系	2 年	前期	講義	選択	2
	生化学②	臨床生化学※	専門基礎科目	医学系	1 年	後期	講義	必修	1 ※
	免疫学	臨床免疫学	専門基礎科目	医学系	3 年	後期	講義	選択	2
	薬理学	臨床薬理学	専門基礎科目	医学系	3 年	後期	講義	選択	2
	チーム医療概論	チーム医療福祉論	専門科目	多職種連携	1 年	後期	講義	必修	1
		専門職連携論	専門科目	多職種連携	3 年	前期	講義	選択	2
	関係法規①	医療関係法規※	専門科目	臨床系	1 年	後期	講義	必修	1 ※
臨床工学に必要な理工学的基礎に該当する項目	電気工学	電磁気学	専門基礎科目	工学系	2 年	前期	講義	必修	2
		電気工学Ⅰ	専門基礎科目	工学系	1 年	前期	講義	必修	2
		電気工学Ⅱ	専門基礎科目	工学系	1 年	後期	講義	必修	2
		電気・電子・情報工学実験Ⅰ※	専門基礎科目	工学系	1 年	後期	実験	必修	0.5 ※
	電子工学	電子工学Ⅰ	専門基礎科目	工学系	2 年	前期	講義	必修	2
		電子工学Ⅱ	専門基礎科目	工学系	2 年	後期	講義	選択	2
		電気・電子・情報工学実験Ⅱ※	専門基礎科目	工学系	2 年	後期	実験	選択	0.5 ※
	計測工学	計測工学	専門基礎科目	工学系	2 年	前期	講義	必修	2
	応用数学	応用数学	専門基礎科目	共通	2 年	前期	講義	必修	2
	機械工学	医用機械工学	専門基礎科目	工学系	2 年	後期	講義	必修	2
臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎に該当する科目	医用工学①	情報処理工学	専門基礎科目	工学系	1 年	後期	講義	必修	2
		医療情報システム	専門基礎科目	工学系	2 年	前期	講義	選択	2
		システム工学	専門基礎科目	工学系	3 年	前期	講義	選択	2
		電気・電子・情報工学実験Ⅰ※	専門基礎科目	工学系	1 年	後期	実験	必修	0.5 ※
		電気・電子・情報工学実験Ⅱ※	専門基礎科目	工学系	2 年	後期	実験	選択	0.5 ※
医用生体工学に該当する科目	生体物性工学	生体物性工学	専門科目	医用機器	3 年	前期	講義	選択	2
	医用材料工学	生体材料工学	専門科目	医用機器	3 年	後期	講義	選択	2
	医用工学②	臨床工学概論	専門基礎科目	工学系	1 年	後期	講義	必修	2
		画像診断装置学	専門科目	医用機器	3 年	前期	講義	選択	2
医用機器学及び臨床支援技術に該当する科目	医用機器学概論	医用機器学概論	専門科目	医用機器	2 年	前期	講義	必修	2
		人工臓器概論	専門科目	医用機器	2 年	後期	講義	選択	2
	医用治療機器学①	医用治療機器学※	専門科目	医用機器	3 年	前期	講義	必修	1 ※
		医用治療機器学実習※	専門科目	医用機器	3 年	後期	実習	選択	0.5 ※
	生体計測装置学①	生体計測装置学※	専門科目	医用機器	2 年	前期	講義	必修	1 ※
		生体計測装置学実習※	専門科目	医用機器	2 年	後期	実習	選択	0.5 ※
	臨床支援技術学	臨床支援技術学	専門科目	医用機器	3 年	前期	講義	必修	2
		臨床支援技術学実習	専門科目	医用機器	3 年	後期	実習	選択	1
生体機能代行技術学に該当する科目	生体機能代行装置学	基礎血液浄化装置学	専門科目	機能代行	2 年	前期	講義	必修	2
		血液浄化技術学Ⅰ	専門科目	機能代行	2 年	後期	演習	選択	1
		血液浄化技術学Ⅱ	専門科目	機能代行	3 年	前期	演習	選択	1
		血液浄化技術学実習	専門科目	機能代行	3 年	前期	実習	選択	1
		基礎呼吸療法装置学	専門科目	機能代行	2 年	後期	講義	必修	2
		呼吸療法技術学	専門科目	機能代行	3 年	前期	講義	選択	2
		呼吸療法技術学実習	専門科目	機能代行	3 年	後期	実習	選択	1
		基礎体外循環装置学	専門科目	機能代行	2 年	後期	講義	必修	2
		体外循環技術学	専門科目	機能代行	3 年	前期	講義	選択	2
		体外循環技術学実習	専門科目	機能代行	3 年	後期	実習	選択	1
医療安全管理学に該当する科目	医療安全管理学	医療安全管理学	専門科目	医用機器	1 年	後期	講義	必修	2
		医用機器安全管理学	専門科目	医用機器	2 年	前期	講義	必修	2
		医用機器安全管理学実習	専門科目	医用機器	2 年	後期	実習	選択	1
	医用治療機器学②	医用治療機器学※	専門科目	医用機器	3 年	前期	講義	必修	1 ※
		医用治療機器学実習※	専門科目	医用機器	3 年	後期	実習	選択	0.5 ※
	生体計測装置学②	生体計測装置学※	専門科目	医用機器	2 年	前期	講義	必修	1 ※
		生体計測装置学実習※	専門科目	医用機器	2 年	後期	実習	選択	0.5 ※
	関係法規②	医療関係法規※	専門科目	臨床系	1 年	後期	講義	必修	1 ※
関連臨床医学に該当する科目	臨床医学総論	臨床医学総論Ⅰ	専門科目	臨床系	2 年	前期	講義	必修	2
		臨床医学総論Ⅱ	専門科目	臨床系	2 年	後期	講義	必修	2
		臨床医学総論Ⅲ	専門科目	臨床系	3 年	前期	講義	選択	2
		臨床医学総論Ⅳ	専門科目	臨床系	3 年	後期	講義	選択	2
臨床実習に該当する科目	臨床実習	臨床実習	専門科目	臨床系	4 年	前期	実習	選択	7

※　同科目において、区分する範囲を指導する内容で分けて記載。

履修モデル（標準CEモデル）
（2025年度カリキュラム）

必修科目　｜　必修科目かつ受験資格必修科目　｜　受験資格必修科目　｜　選択必修科目　｜　選択科目

修得単位数　141

2024.03.18

		1年 前期科目	単位	1年 後期科目	単位	2年 前期科目	単位	2年 後期科目	単位	3年 前期科目	単位	3年 後期科目	単位	4年 前期科目	単位	4年 後期科目	単位
基礎科目	探究・理解プロジェクト	輝ける者															
		生命を考える(先発)		生命を考える(後発)													
		現代社会論を視る(先発)		現代社会論を視る(後発)													
		生活の中の科学(先発)	2	生活の中の科学(後発)													
		経済・法律・世界を視る(先発)		経済・法律・世界を視る(後発)													
		社会活動入門(先発)		社会活動入門後発)													
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	1												
		韓国語コミュニケーションⅠ		韓国語コミュニケーションⅡ													
		中国語コミュニケーションⅠ		中国語コミュニケーションⅡ													
		海外研修															
		心理学概論	2	スポーツ実技													
		健康科学	1	生命倫理学													
		教育学		哲学	2												
		現代史		東北の歴史													
		ジェンダー論															
		生活の中の化学		生活の中の物理学													
		生活の中の生物学		生活と地球科学													
		データサイエンス入門	2														
		コミュニケーション論		憲法と法律													
		生活と経済		教養としての政治学													
	自然科学	基礎物理学	2														
		基礎化学	2	化学	2												
		基礎生物学	2														
		線形代数学	2	微分積分学	2					確率統計学	2						
専門基礎科目	共通	基礎セミナー	1			応用数学	2										
	工学系	電気工学Ⅰ	2	電気工学Ⅱ	2	電子工学Ⅰ	2	電子工学Ⅱ	2								
				電気・電子・情報工学実験Ⅰ	1	電磁気学	2	電気・電子・情報工学実験Ⅱ	1								
				臨床工学概論	2	計測工学	2	医用機械工学	2								
				情報処理工学	2	医療情報システム	2			システム工学	2	シミュレーション工学	2				
	医学系	解剖生理学Ⅰ	2	解剖生理学Ⅱ	2	解剖生理学実習	1			医学英語	1	臨床心理学	2				
		医学概論	2	公衆衛生学	2	病理学概論	2					臨床免疫学	2				
				臨床生化学	2							臨床薬理学	2				
専門科目	医用機器			医療安全管理学	2	医用機器安全管理学	2	医用機器安全管理学実習	1	医用治療機器学	2	医用治療機器学実習	1				
						医用機器学概論	2	人工臓器概論	2	臨床支援技術学	2	臨床支援技術学実習	1				
						生体計測装置学	2	生体計測装置学実習	1	画像診断装置学	2						
										生体物性工学	2	生体材料工学	2				
	機能代行					基礎血液浄化装置学	2	血液浄化技術学Ⅰ	1	血液浄化技術学Ⅱ	1						
										血液浄化技術学実習	1						
								基礎体外循環装置学	2	体外循環技術学	2	体外循環技術学実習	1				
								基礎呼吸療法装置学	2	呼吸療法技術学	2	呼吸療法技術学実習	1				
	臨床系			医療関係法規	2	臨床医学総論Ⅰ	2	臨床医学総論Ⅱ	2	臨床医学総論Ⅲ	2	臨床医学総論Ⅳ	2				
								臨床工学セミナーⅠ	1			臨床工学セミナーⅡ	1	臨床実習	7	医工学特論	
	連携			チーム医療福祉論	1			保健医療福祉概論		専門職連携論	2	専門職連携セミナー	1				
研修科目		インターンシップ										卒業研究入門	1	卒業研究Ⅰ	2	卒業研究Ⅱ	2
		1年前期小計	23	1年後期小計	25	2年前期小計	23	2年後期小計	17	3年前期小計	23	3年後期小計	19	4年前期小計	9	4年後期小計	2
		1年次合計			48	2年次合計			40	3年次合計			42	4年次合計			11

科目の名称		単位数	
基礎科目	探究・理解プロジェクト	2	25
	医療健康科学	9	
	自然科学	14	
専門基礎科目	共通	3	49
	工学系	26	
	医学系	20	
専門科目	医用機器	24	62
	機能代行	15	
	臨床系	19	
	連携	4	
研修科目		5	
141			

東北文化学園大学工学部臨床工学科における進級及び履修に関する細則

┌平成 28 年 1 月 7 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 9 条の 3 及び第 13 条の規定に基づき、東北文化学園大学工学部臨床工学科に在籍する学生の進級及び履修に関する取扱いについて定めるものとする。

（進級基準）

第 2 条　2 年次から 3 年次への進級基準は、次のいずれかとする。

⑴　1・2 年次配当の必修科目の単位を全て修得していること。

⑵　2 年次終了時の通算 GPA が 2.5 以上であり、かつ、1・2 年次配当の必修科目のうち未修得科目の単位数が 2 単位以内であること。

（進級の決定）

第 3 条　学生の進級は、臨床工学科進級判定会議（以下、「進級判定会議」という。）及び工学部教授会（以下、「教授会」という。）の議を経て、学長が決定する。

2　前条の基準を満たさない学生の進級については、個別に審査の上、教育上適切と判断できる場合に進級を認めることができる。

3　進級判定会議は、次のとおり組織する。

3　進級判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　臨床工学科長

⑵　その他臨床工学科長が必要と認める者　若干人

（臨床実習の履修）

第 4 条　臨床工学科において、「臨床実習」を履修する時は、原則として「臨床実習」を除く、臨床工学技士の国家試験の受験に必要な科目の単位をすべて修得していなければならない。

（臨床実習の配当学期）

第 5 条　学部長は、教育上適切と判断できる場合に限り、臨床実習の配当学期を変更することができる。

（卒業研究の配当学期）

第 6 条　学部長は、教育上適切と判断できる場合に限り、「卒業研究Ⅰ」及び「卒業研究Ⅱ」の配当学期を変更することができる。

（雑則）

第 7 条　この細則に定めるもののほか、学生の履修に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第 8 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　　則

この細則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

附　　則

1　この細則は、2022 年 9 月 7 日から施行し、2023 年度入学者から適用する。

2　2022 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東北文化学園大学科学技術学部臨床工学科における進級及び履修に関する細則

┌平成 28 年 1 月 7 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 9 条の 3 及び第 13 条の規定に基づき、東北文化学園大学科学技術学部臨床工学科に在籍する学生の進級及び履修に関する取扱いについて定めるものとする。

（進級基準）

第 2 条　2 年次から 3 年次への進級基準は、1 年次及び 2 年次に配当される必修科目の単位をすべて修得していることとし、進級基準を満たさない場合は、2 年次に留め置くことができる。

（進級の決定）

第 3 条　学生の進級は、進級判定会議及び教授会の議を経て、学長が決定する。

2　進級判定会議において、前条の基準を満たさない者について、修得単位数及び GPA 値等を勘案したうえで、進級を認めることができる。

3　進級判定会議は、次のとおり組織する。

⑴　臨床工学科長

⑵　その他臨床工学科長が必要と認める者　若干人

（臨床実習の履修）

第 4 条　臨床工学科において、「臨床実習」を履修する時は、原則として「臨床実習」を除く、臨床工学技士の国家試験の受験に必要な科目の単位をすべて修得していなければならない。

（臨床実習の配当学期）

第 5 条　学部長は、教育上適切と判断できる場合に限り、臨床実習の配当学期を変更することができる。

（卒業研究の配当学期）

第 6 条　学部長は、教育上適切と判断できる場合に限り、「卒業研究Ⅰ」及び「卒業研究Ⅱ」の配当学期を変更することができる。

（細則の改廃）

第 7 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　則

この細則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

1　細則の題名を「東北文化学園大学科学技術学部臨床工学科における進級及び臨床実習の履修に関する細則」から「東北文化学園大学科学技術学部臨床工学科における進級及び履修に関する細則」に改正する。

2　この細則は、2019 年 4 月 10 日から施行し、2019 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この細則は、2020 年 9 月 15 日から施行する。

附　則

この細則は、2021 年 2 月 16 日から施行する。

東北文化学園大学工学部における履修登録単位数の上限に関する細則

┌2021 年 2 月 16 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 5 条の 2 の規定に基づき、東北文化学園大学工学部知能情報システム学科、建築環境学科及び臨床工学科に在籍する学生の履修登録できる単位数の上限について定めるものとする。

（対象科目）

第 2 条　学生の履修登録の上限単位数の対象となる授業科目（以下「対象科目」という。）は、卒業の要件として履修する授業科目（以下「卒業要件科目」という。）とする。ただし、卒業要件科目であって別表に定める科目は、対象科目から除くことができる。

（履修登録上限単位数）

第 3 条　1 年間の履修登録の上限単位数は、知能情報システム学科においては 49 単位、建築環境学科においては 46 単位、臨床工学科においては 49 単位とする。

（履修登録単位数の特例）

第 4 条　学部長は、次の各号に該当する学生に対して、前条に定める履修登録単位数の上限を超える履修を認めることができる。

⑴　3 年次編入学生及び転学部等学生

⑵　前年度の GPA が 3.0 以上の学生

2　前項第 2 号に該当する学生に対して上限を超えて履修を認める単位数は、知能情報システム学科においては 10 単位以内、臨床工学科においては 4 単位以内とする。

（雑則）

第 5 条　この細則に定めるもののほか、授業科目の履修登録の上限に関し必要な事項は、工学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第 6 条　この細則の改廃は、学長が行う。

附　　則

この細則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

附　　則

この細則は、2025 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2024 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表

【知能情報システム学科除外科目】

科目名	配当年次	単位数	備考
輝ける者	1通	2	
生命を考える	1前・1後	2	
現代社会を視る	1前・1後	2	
生活の中の科学	1前・1後	2	
経済・法律・世界を視る	1前・1後	2	
社会活動入門	1前・1後	2	
海外研修	1・2・3・4通	2	
インターンシップⅠ	1・2・3・4通	1	
インターンシップⅡ	1・2・3・4通	1	
特別講義Ⅰ	1・2・3・4通	1	
特別講義Ⅱ	1・2・3・4通	1	

【建築環境学科除外科目】

科目名	配当年次	単位数	備考
輝ける者	1通	2	
生命を考える	1前・1後	2	
現代社会を視る	1前・1後	2	
生活の中の科学	1前・1後	2	
経済・法律・社会を視る	1前・1後	2	
社会活動入門	1前・1後	2	
海外研修	1通	2	
特定実習A	1・2・3・4通	1	
特定実習B	1・2・3・4通	1	
特定実習C	1・2・3・4通	1	
建築環境学A	1前	2	
建築環境学B	1後	2	
建築環境学演習Ⅰ	2前	2	
建築環境学演習Ⅱ	2後	2	
卒研セミナーⅠ	3前	2	
卒研セミナーⅡ	3後	2	

【臨床工学科除外科目】

科目名	配当年次	単位数	備考
輝ける者	1通	2	
生命を考える	1前・1後	2	
現代社会を視る	1前・1後	2	
生活の中の科学	1前・1後	2	
経済・法律・世界を視る	1前・1後	2	
社会活動入門	1前・1後	2	
海外研修	1通	2	
インターンシップ	1通	1	

東北文化学園大学科学技術学部における履修登録単位数の上限に関する細則

┌平成 26 年 3 月 12 日┐
└学　長　制　定┘

（総則）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 5 条の 2 の規定に基づき、東北文化学園大学科学技術学部知能情報システム学科、建築環境学科及び臨床工学科に在籍する学生の履修登録できる単位数の上限について定めるものとする。

（対象科目）

第 2 条　学生の履修登録の上限単位数の対象となる授業科目（以下「対象科目」という。）は、卒業の要件として履修する授業科目（以下「卒業要件科目」という。）とする。ただし、卒業要件科目であって別表に定める科目は、対象科目から除くことができる。

（履修登録上限単位数）

第 3 条　1 年間の履修登録の上限単位数は、知能情報システム学科においては 49 単位、建築環境学科においては 46 単位、臨床工学科においては 49 単位とする。

（履修登録単位数の特例）

第 4 条　学部長は、次の各号に該当する学生に対して、前条に定める履修登録単位数の上限を超える履修を認めることができる。

⑴　3 年次編入学生及び転学部等学生

⑵　前年度の GPA が 3.0 以上の学生

2　前項第 2 号に該当する学生に対して上限を超えて履修を認める単位数は、知能情報システム学科においては 10 単位以内、臨床工学科においては 4 単位以内とする。

（雑則）

第 5 条　この細則に定めるもののほか、授業科目の履修登録の上限に関し必要な事項は、科学技術学部教授会の議を経て、学部長が別に定める。

（細則の改廃）

第 6 条　この細則の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　則

この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行し、平成 26 年度入学者から適用する。

附　則

1　この細則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行し、平成 28 年度入学者から適用する。

2　平成 27 年度以前に科学技術学部知能情報システム学科及び建築環境学科に入学した者については、改正後の別表にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この細則は、2020 年 4 月 1 日から施行し、2020 年度入学者から適用する。ただし、2019 年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表

【知能情報システム学科除外科目】

科目名	配当年次	単位数	備考
輝ける者	1通	3	
生命を考える	1前・1後	2	
人間文化探求	1通	2	
生活の中の科学	1前・1後	2	
地域活動・ボランティア	1通	2	
現代社会を視る	1前・1後	2	
ボランティア探求	2通	2	
海外研修	1・2・3・4通	2	
インターンシップⅠ	1・2・3・4通	1	
インターンシップⅡ	1・2・3・4通	1	
特別講義Ⅰ	1・2・3・4通	1	
特別講義Ⅱ	1・2・3・4通	1	

【建築環境学科除外科目】

科目名	配当年次	単位数	備考
輝ける者	1通	3	
生命を考える	1前・1後	2	
人間文化探求	1通	2	
生活の中の科学	1前・1後	2	
地域活動・ボランティア	1通	2	
現代社会を視る	1前・1後	2	
ボランティア探求	2通	2	
海外研修	1・2・3・4通	2	
特定実習A	1・2・3・4通	1	
特定実習B	1・2・3・4通	1	
特定実習C	1・2・3・4通	1	
特定実習D	1・2・3・4通	1	
基礎セミナーⅠ	1前	2	
基礎セミナーⅡ	1後	2	
基礎セミナーⅢ	2前	2	
基礎セミナーⅣ	2後	2	
卒研セミナーⅠ	3前	2	
卒研セミナーⅡ	3後	2	

【臨床工学科除外科目】

科目名	配当年次	単位数	備考
輝ける者	1通	3	
生命を考える	1前・1後	2	
人間文化探求	1通	2	
生活の中の科学	1前・1後	2	
地域活動・ボランティア	1通	2	
現代社会を視る	1前・1後	2	
ボランティア探求	2通	2	
海外研修	1通	2	
インターンシップ	1通	1	

Ⅵ　諸　規　程

TOHOKU BUNKA GAKUEN

東北文化学園大学学則

┌平成 11 年 3 月 10 日┐
└理　事　会　制　定┘

目次

第 1 章　総則
第 1 節　目的等（第 1 条ー第 1 条の 2）
第 2 節　自己点検及び自己評価（第 2 条）
第 3 節　組織（第 3 条ー第 6 条）
第 4 節　職員及び組織の長（第 7 条ー第 11 条）
第 5 節　大学運営会議及び教授会（第 12 条ー第 14 条）
第 6 節　学年、学期及び休業日（第 15 条ー第 17 条）
第 2 章　学部通則
第 1 節　修業年限及び在学年限（第 18 条・第 19 条）
第 2 節　入学（第 20 条ー第 25 条の 2）
第 3 節　教育課程の編成、履修方法等（第 26 条ー第 35 条）
第 4 節　留学、休学、復学、除籍、退学及び転学（第 36 条ー第 42 条）
第 5 節　卒業及び学位授与（第 43 条･第 44 条）
第 6 節　賞罰（第 45 条ー第 47 条）
第 7 節　入学検定料、入学金、授業料、施設設備費、実験実習費及び教育充実費（第 48 条ー第 56 条）
第 3 章　補則
第 1 節　科目等履修生、研究生、受託生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生（第 57 条ー第 62 条）
第 2 節　公開講座等（第 63 条）
第 3 節　厚生施設（第 64 条）
第 4 節　規則等への委任（第 65 条）
附則

第 1 章　総則

第 1 節　目的等

（目的）

第 1 条　東北文化学園大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、建学の精神である「輝ける者を育む」に則り広く豊かな教養と専門的知識・技術を身につけ、地域社会に根ざし、国家と人類社会の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。

（位置）

第 1 条の 2　本学は、宮城県仙台市青葉区国見六丁目 45 番 1 号に置く。

第 2 節　自己点検及び自己評価

（自己点検及び自己評価）

第 2 条　本学の教育研究の水準の向上を図るとともに、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について、自己点検及び自己評価を行うものとする。

2　自己点検及び自己評価に関し必要な事項は、別に定める。

第 3 節　組織

（学部）

第 3 条　本学に、次に掲げる学部を置く。

医療福祉学部
現代社会学部
経営法学部
工学部

2　前項の学部に置く学科並びに専攻の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員	編入学定員（3 年次）	収容定員
医療福祉学部	リハビリテーション学科	人	人	人
	理学療法学専攻	80		320
	作業療法学専攻	40		160
	言語聴覚学専攻	40		160
	視覚機能学専攻	40		160
	看護学科	80		320
	計	280		1,120
現代社会学部	現代社会学科			
	社会学専攻	70	2	284
	社会福祉学専攻	30	2	124
	計	100	4	408
経営法学部	経営法学科	100	2	404
工学部	知能情報システム学科	40	2	164
	建築環境学科	40	2	164
	臨床工学科	40	―	160
	計	120	4	488
合　　計		600	10	2,420

3　学部及び学科の人材養成その他の教育研究上の目的については、次に掲げるとおりとする。

(1)　医療福祉学部は、広い教養と豊かな人間性を有し生命の尊厳に対し深い理解を示す能力を養うとともに、医療福祉分野の専門能力を備えた専門職としての自覚を持ち、積極的な行動のできる人材を育成することを目的とする。

①　リハビリテーション学科は、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、視覚機能学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれに十分な知識と技能を有し、医療福祉の実践を担う専門能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成する。

②　看護学科は、看護学、保健学の各分野につ

いて、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれに十分な知識と技能を有し、医療福祉の実践を担う専門能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成する。

⑵　現代社会学部現代社会学科は、社会学と社会福祉学の理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれに十分な知識と技能を有し、幅広い視野と柔軟な思考を持った人材、ならびに現代において多様な人々が共に生きる社会の創生に貢献できる人材を育成する。

⑶　経営法学部経営法学科は、法学及び経営学を中心とした社会科学、その他の関連する分野を総合的に教授し、研究することにより、豊かな教養と人間性を養うとともに、日々変化する社会を的確に捉え対応していく能力、地域活性化に資する能力、国際社会で活躍する能力を持った人材を育成する。

⑷　工学部は、実践的教育に基づき、工学に関わる深い見識と高度の技術力を身に付けることに加えて、高い倫理観と豊かな創造力、多面的な分析力と協調性、実社会における具体的な問題把握力と解決能力をもつ、情報・建築・医療領域の人材の育成を目的とする。

①　知能情報システム学科は、ネットワーク、マルチメディア、ロボティクスの各分野について、幅広いコンピュータの基礎知識に加え実践的な技術力を教授し、豊かな発想力と自在な応用力を身に付けた高度情報化社会に対応できる人材を育成する。

②　建築環境学科は、建築デザイン、健康インテリア、建築設備の各分野を核として、環境に配慮した建築空間の構成技術、長寿命化技術の獲得とその実践をとおして、充実した基礎教育と時代に適合した先端教育を行い、建築空間と人間生活の適正な関係の改善に寄与できる人材を育成する。

③　臨床工学科は、臨床工学に関わる医療技術や医療機器開発の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、チーム医療の重要な一員として活動でき、さらに新たな医療機器の開発に参画できる人材を育成する。

（大学院）

第３条の２　本学に、大学院を置く。

２　大学院に関する事項については、東北文化学園大学大学院学則で定める。

（附属施設）

第３条の３　本学に、附属施設として総合発達研究センターを置く。

２　総合発達研究センターに、附属国見の杜クリニックを置く。

３　総合発達研究センターに関する事項については、別に定める。

（総合情報センター）

第４条　本学に、総合情報センターを置く。

２　総合情報センターに関する事項については、別に定める。

（基礎教育センター）

第４条の２　本学に、基礎教育センターを置く。

２　基礎教育センターに関する事項については、別に定める。

（地域連携センター）

第４条の３　本学に、地域連携センターを置く。

２　地域連携センターに関する事項については、別に定める。

（事務局）

第５条　本学に、事務局を置く。

（健康管理センター）

第６条　本学に、健康管理センターを置く。

２　健康管理センターに関する事項については、別に定める。

第４節　職員及び組織の長

（職員）

第７条　本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員を置く。

２　本学に、副学長及び学長補佐を置くことができる。

３　前項に関し必要な事項は、別に定める。

（客員教授）

第７条の２　本学に、客員教授を置くことができる。

２　客員教授に関し必要な事項は、別に定める。

（学部長）

第８条　各学部に、学部長を置き、その学部の教授をもって充てる。

２　学部長に関し必要な事項は、別に定める。

（学生部長）

第９条　本学に、学生部長を置き、教授をもって充てる。

２　学生部長に関し必要な事項は、別に定める。

（教務部長）

第９条の２　本学に、教務部長を置き、教授をもって充てる。

２　教務部長に関し必要な事項は、別に定める。

（総合発達研究センター長）

第９条の３　総合発達研究センターに、センター長を置き、教授をもって充てる。

２　総合発達研究センター長に関し必要な事項は、別に定める。

（総合情報センター長）
第 10 条　総合情報センターに、センター長を置き、教授をもって充てる。
2　総合情報センター長に関し必要な事項は、別に定める。
（基礎教育センター長）
第 10 条の 2　基礎教育センターに、センター長を置き、教授をもって充てる。
2　基礎教育センター長に関し必要な事項は、別に定める。
（地域連携センター長）
第 10 条の 3　地域連携センターに、センター長を置き、教授をもって充てる。
2　地域連携センター長に関し必要な事項は、別に定める。
（健康管理センター所長）
第 11 条　健康管理センターに、所長を置く。
2　健康管理センター所長に関し必要な事項は、別に定める。

第 5 節　大学運営会議及び学部教授会

（大学運営会議）
第 12 条　本学に、大学の運営管理に関する重要事項を審議するため大学運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。
2　運営会議に関し必要な事項は、別に定める。
第 13 条　削除
（教授会）
第 14 条　本学の各学部に、教授会を置く。
2　教授会に関し必要な事項は、別に定める。

第 6 節　学年、学期及び休業日

（学年）
第 15 条　本学の学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
（学期）
第 16 条　前条の学年は、次の 2 学期に分ける。
　前期　4 月 1 日から 9 月 30 日まで
　後期　10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで
（休業日）
第 17 条　休業日は、次のとおりとする。ただし、第 4 号から第 6 号までの休業期間の始期及び終期は、年度により別に定める。
⑴　日曜日及び土曜日
⑵　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
⑶　本学の開学記念日　4 月 27 日
⑷　春季休業
⑸　夏季休業
⑹　冬季休業
2　学長は、必要に応じ臨時に授業を中止又は変更することができる。

第 2 章　学部通則

第 1 節　修業年限及び在学年限

（修業年限）
第 18 条　医療福祉学部、現代社会学部、経営法学部及び工学部の修業年限は、4 年とする。
（在学年限）
第 19 条　学生は、8 年を超えて在学することができない。ただし、第 25 条第 1 項の規定により入学した学生は、在学すべき年数の 2 倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第 2 節　入学

（入学資格）
第 20 条　本学に、入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
⑴　高等学校又は中等教育学校を卒業した者
⑵　通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
⑶　外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
⑷　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
⑸　文部科学大臣の指定した者
⑹　高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
（入学の時期）
第 21 条　本学の入学の時期は、毎年学年の初めとする。ただし、前条第 3 号に規定する者については、学期の初めとすることができる。
（入学の出願）
第 22 条　本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。
（入学者の選考）
第 23 条　本学に、入学を志願する者については、選考の上、各学部教授会の議を経て、学長が合格者を決定する。
（入学の手続）
第 24 条　前条の選考によって入学を決定された者は、所定の期日までに入学に必要な手続をしなけ

ればならない。

（編入学、転入学及び再入学）

第 25 条　次の各号のいずれかに該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、学年の初めで、当該学部の収容定員に余裕のある場合に限り、選考の上、教授会の議を経て、学長は、当該学部の相当年次に編入学、転入学及び再入学を許可することができる。

⑴　大学を卒業した者又は大学に一定期間在学し所定の単位を修得した者。なお、再入学を志願する場合にあって、本学在学期間中に授業料等の未納を有する場合は完済した者

⑵　短期大学及び高等専門学校を卒業した者

⑶　学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 92 条の 3 に定める従前の規程による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校の課程を修了し、又は卒業した者

⑷　専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 56 条に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

（転学部等）

第 25 条の 2　学生が、他の学部又は同一学部内の他の学科若しくは専攻に、転学部又は転学科若しくは転専攻（以下「転学部等」という。）を志願するときは、欠員のある場合に限り、選考の上、受入れ学部教授会の議を経て、学長は、転学部等を許可することができる。ただし、医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚学専攻及び視覚機能学専攻への転学部等は認めない。

2　転学部等に関し必要な事項は、別に定める。

第 3 節　教育課程の編成、履修方法等

（授業科目）

第 26 条　本学の授業科目の種類及び単位数は、別表第 1 のとおりとする。

2　前項の授業科目の履修方法その他の必要な事項は、別に定める。

（履修授業科目の承認）

第 27 条　学生は、学年の初めに履修を希望する授業科目を届け出て承認を得なければならない。

（1 年間の授業期間）

第 28 条　1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

（授業方法）

第 28 条の 2　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2　本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3　本学は、第一項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

（単位の計算方法）

第 29 条　各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

⑴　講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

⑵　実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

2　1 単位の計算の基礎となる授業時間については、教授会の議を経て、学長がこれを決定する。

（単位の認定及び成績の評価）

第 30 条　授業科目を履修した学生に対しては、試験その他適切な方法により学修の成果を評価して、単位を与えるものとする。ただし、演習、実験、実習及び実技は、平常の成績による。

2　授業科目の成績の評価は、S、A、B、C 及び D の 5 種とし、その評点は、100 点を満点として次のとおり定める。

S	90 点以上	合　格
A	80 点以上 90 点未満	合　格
B	70 点以上 80 点未満	合　格
C	60 点以上 70 点未満	合　格
D	60 点未満	不合格

（試験）

第 31 条　試験は、原則として学期末に行う。

（他学部の授業科目の履修）

第 32 条　学生は、所属する学部以外の学部が開設する授業科目を履修しようとするときは、その学部の長の承諾を受けなければならない。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第 33 条　学長は、教育上有益と認めるときは、大学が協議をした他の大学又は短期大学の授業科目を履修することを認めることができる。

2　学生は、前項の他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとするときは、あらかじめ所属す

る学部の長の承認を受けなければならない。

3　前2項の規定に基づき、学生が修得した他の大学又は短期大学の授業科目の単位については、60単位を超えない範囲でその学部で修得したものとみなすことができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第34条　学長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を所属する学部における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2　前項の規定により与えることができる単位数は、前条の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第35条　学長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第31条に定める科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　学長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3　前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

4　第25条の規定により編入学、転入学及び再入学を許可された者の既に履修した授業科目について修得した単位の取扱いについては、教授会の議を経て、学部長が決定するものとする。

第4節　留学、休学、復学、除籍、退学及び転学

（留学）

第36条　外国の大学に留学を志願する者は、あらかじめ所属する学部長に申請し、学長の許可を受けなければならない。

2　前項の外国の大学で履修した授業科目の修得単位は、60単位を限度として、卒業要件単位に認定することができる。

3　第1項の留学期間は、第18条に規定する修業年限及び第19条に規定する在学年限に含めることができる。

4　留学に関し必要な事項は、別に定める。

（休学）

第37条　疾病その他やむを得ない理由により、引き続き2か月以上修学することができない者は、その理由及び期間を具して学部長に申請し、学長の許可を受けて休学することができる。

2　休学の申請は、次の期限までに行わなければならない。

前期　前年度の3月末日

後期　当該年度の9月末日

3　前項の規定にかかわらず、学期の途中で休学の事由が生じた場合は、速やかに申請しなければならない。

4　疾病のため第1項の許可を受けようとするときは、医師の診断書を添付しなければならない。

5　疾病その他やむを得ない理由により修学することが適当でないと認められる者については、学部長からの上申により学長は、休学を命ずることができる。

（休学期間）

第38条　休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

2　休学期間は、継続して2年を、通算して4年を超えることができない。

3　休学期間は、第19条に規定する在学年限に算入しない。

（復学）

第39条　休学期間が満了した者は、復学しなければならない。

2　休学期間中にその理由が消滅した場合は、復学することができる。

3　第1項の規定により復学するときは、あらかじめ学部長に申請し、学長へ届け出なければならない。

4　第2項の規定により復学しようとするときは、あらかじめ学部長に申請し、学長へ願い出なければならない。

5　疾病のため休学した者が復学するときは、医師の診断書を添付しなければならない。

（除籍）

第40条　次の各号のいずれかに該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

⑴　授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

⑵　在学年限を超えた者

⑶　休学の期間を超えてなお復学しない者

⑷　死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者

（退学）

第41条　疾病その他やむを得ない理由により退学しようとする者は、その理由を付して、学部長へ

申請し、学長の許可を受けなければならない。

（転学）

第 42 条　他の大学へ入学又は転学を願い出ようとする者は、学部長に申請し、学長の許可を受けなければならない。

第 5 節　卒業及び学位授与

（卒業）

第 43 条　本学に、4 年以上在学して第 26 条に掲げる所定の授業科目の単位を修得した学生の卒業の認定は、教授会の議を経て、学長が行う。

（学位授与）

第 44 条　本学の学部を卒業した者には、学部及び学科に応じて、次のとおり学士の学位を授与する。

医療福祉学部	リハビリテーション学科	
	理学療法学専攻	学士（理学療法学）
	作業療法学専攻	学士（作業療法学）
	言語聴覚学専攻	学士（言語聴覚学）
	視覚機能学専攻	学士（視覚機能学）
	看護学科	学士（看護学）
現代社会学部	現代社会学科	
	社会学専攻	学士（社会学）
	社会福祉学専攻	学士（社会学）
経営法学部	経営法学科	学士（経営法学）
工学部	知能情報システム学科	学士（工学）
	建築環境学科	学士（工学）
	臨床工学科	学士（工学）

第 6 節　賞罰

（表彰）

第 45 条　学生として表彰に価する行為があった者は、教授会及び運営会議の議を経て、学長が表彰することができる。

（懲戒）

第 46 条　本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会及び運営会議の議を経て、学長が懲戒をするものとする。

（処分）

第 47 条　前条の懲戒処分は、謹慎、停学及び退学とする。ただし、退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対してこれを行う。

⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

⑵　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

⑶　正当な理由がなくて出席が常でない者

⑷　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第 7 節　入学検定料、入学金、授業料、施設設備費、実験実習費及び教育充実費

（入学検定料）

第 48 条　本学に、入学を志願する者は、別表第 2 に定める入学検定料を納付しなければならない。

2　本学に、科目等履修生、研究生、受託生及び聴講生を志願する者は、別表第 3 に定める入学検定料を納付しなければならない。

（入学金）

第 49 条　本学に、入学を許可された者は、別表第 2 又は別表第 3 に定める入学金を納付しなければならない。

（授業料等）

第 50 条　学生は、別表第 2 に定める授業料、施設設備費、実験実習費及び教育充実費（以下「授業料等」という。）を納付しなければならない。

2　科目等履修生、研究生、受託生及び聴講生は、別表第 3 に定める入学検定料、入学金、授業料及び実験実習費を納付しなければならない。

（授業料等の納付期）

第 51 条　授業料等は、次の 2 期に分けて納付しなければならない。ただし、特別の事情があると認められる者は、延納又は分納を認めることがある。

前期分　　4 月中

後期分　　10 月中

（退学、除籍及び停学の場合の授業料等）

第 52 条　学期の中途で退学し、又は除籍された者の当該期分の授業料等は、徴収する。

2　停学期間中の授業料等は、徴収する。

（休学の場合の授業料等）

第 53 条　第 37 条第 2 項に定める期限までに休学を申請し許可された者、又は休学を命ぜられた者は、許可又は命ぜられた学期の授業料等を免除する。

2　第 37 条第 3 項により休学を許可された者の当該学期授業料等は徴収する。

3　第 1 項の規定により授業料等が免除された者は、授業料等が免除される学期ごとに別表第 4 に定める在籍料を納付しなければならない。

4　第 2 項の規定により授業料等を納付した者は、在籍料を免除する。

5　第 3 項の在籍料の納付期は、第 51 条（延納又は分納を除く。）に準ずる。

（復学の場合の授業料等）

第 54 条　学期の中途において復学した者は、復学した月から当該期末までの授業料等を、復学した月に納付しなければならない。

（学年の中途で卒業する場合の授業料等）

第 55 条　学年の中途で卒業する見込みの者は、卒

業する見込みの月までの授業料等を納付するものとする。

（納付した入学検定料等）

第 56 条　既納の入学検定料、入学金、授業料等は、いかなる事情があっても返還しない。ただし、入学を辞退した者から所定の期間内に返還請求があった場合は、既納の授業料等は返還することができる。

第 3 章　補則

第 1 節　科目等履修生、研究生、受託生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生

（科目等履修生）

第 57 条　学長は、本学において行う授業科目の履修を志願する者があるときは、各学部の教育研究に支障のない限り、選考の上、教授会の議を経て、科目等履修生として入学を許可することができる。

2　科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

（研究生）

第 58 条　学長は、本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、各学部の教育研究に支障のない限り、選考の上、教授会の議を経て、研究生として入学を許可することができる。

2　研究生に関し必要な事項は、別に定める。

（受託生）

第 59 条　学長は、本学において、地方公共団体、法人等の長から当該職員に係る特定の専門事項について研究指導の依頼があるときは、各学部の教育研究に支障のない限り、選考の上、教授会の議を経て、受託生として入学を許可することができる。

2　受託生に関し必要な事項は、別に定める。

（聴講生）

第 60 条　学長は、本学において、特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、各学部の教育研究に支障のない限り、選考の上、教授会の議を経て、聴講生として入学を許可することができる。

2　聴講生に関し必要な事項は、別に定める。

（特別聴講学生）

第 61 条　学長は、他の大学の学生又は外国の大学等の学生で、本学において、授業科目の履修を志願する者があるときは、各学部の教育研究に支障のない限り、選考の上、教授会の議を経て、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2　特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

（外国人留学生）

第 62 条　学長は、外国人で、本学において、教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、教授会の議を経て、外国人留学生として入学を許可することができる。

2　外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第 2 節　公開講座等

（公開講座等）

第 63 条　本学は、広く地域社会に生涯学習等の機会を提供するため、公開講座その他の大学開放の事業を行うことがある。

2　公開講座その他の大学開放事業に関し必要な事項は、別に定める。

第 3 節　厚生施設

（厚生施設）

第 64 条　本学に、食堂、学生相談室その他の厚生施設を置く。

2　厚生施設の運営に関し必要な事項は、別に定める。

第 4 節　規則等への委任

（規則等への委任）

第 65 条　この学則及び別に定めのあるもののほか、本学の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この学則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この学則は、平成 11 年 8 月 11 日から施行し、平成 11 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この学則は、平成 11 年 10 月 13 日から施行し、平成 11 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この学則は、平成 12 年 3 月 8 日から施行し、改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜科学技術学部・環境計画工学科＞の規定は、平成 11 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この学則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行し、改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部・保健福祉学科・保健福祉専攻＞及び＜医療福祉学部・保健福祉学科・生活福祉専攻＞の規定は、平成 12 年度の入学者から適用する。

附　則

この学則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第1（第26条関係）の規定は、平成15年度の入学者から適用する。ただし、別表第1に掲げる授業科目のうち、各学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成14年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。
3　改正後の別表第2（第48条～第50条）の規定は、平成15年度の入学者から適用する。

附　則

この学則は、平成15年9月10日から施行し、改正後の別表第1（第26条関係）＜科学技術学部・環境計画工学科＞の規定は、平成15年4月1日から適用する。

附　則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附　則

この学則は、平成16年4月1日から施行し、改正後の別表第1（第26条関係）＜総合政策学部・総合政策学科＞及び＜科学技術学部・応用情報工学科＞の規程は、平成16年度の入学者から適用する。ただし、別表第1に掲げる授業科目のうち、各学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成15年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附　則

この学則は、平成16年9月22日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成17年4月1日から施行する。
2　改正後の別表第1（第26条関係）＜総合政策学部・総合政策学科＞の規定は、平成17年度の入学者から適用する。ただし、別表第1に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成16年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成18年4月1日から施行する。
2　改正後の別表第1（第26条関係）＜科学技術学部・コンピュータサイエンス学科＞及び＜科学技術学部・住環境デザイン学科＞の規定は、平成18年度の入学者から適用する。ただし、別表第1に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成17年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成18年4月1日から施行する。
2　改正後の別表第1（第26条関係）＜医療福祉学部・保健福祉学科・保健福祉専攻＞、＜医療福祉学部・保健福祉学科・生活福祉専攻＞、＜医療福祉学部・保健福祉学科・精神保健福祉専攻＞及び＜総合政策学部・総合政策学科＞の規定は、平成18年度の入学者から適用する。ただし、別表第1に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成17年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成19年4月1日から施行する。
2　改正後の別表第1（第26条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・理学療法学専攻＞及び＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・作業療法学専攻＞の規定は、平成19年度の入学者から適用する。ただし、別表第1に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成18年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附　則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附　則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成20年4月1日から施行する。
2　科学技術学部コンピュータサイエンス学科及び住環境デザイン学科は、改正後の第3条第2項にかかわらず、平成20年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
3　改正後の別表第1（第26条関係）＜科学技術学部・知能情報システム学科＞及び＜科学技術学部・人間環境デザイン学科＞の規定は、平成20年度の入学者から適用する。ただし、別表第1に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成19年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。
4　改正後の別表第2（第48条～第50条）の総合政策学部総合政策学科の授業料等については、平成20年度の入学者から適用する。また、編入学者に関しては、平成22年度の編入学者から適用する。

附　則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成21年4月1日から施行する。
2　改正後の別表第1（第26条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・作業療法学専攻＞、＜医療福祉学部・保健福祉学科・保健福祉専攻＞、＜医療福祉学部・保健福祉学科・生活福祉専攻＞

及び＜医療福祉学部・保健福祉学科・精神保健福祉専攻＞の規定は、平成 21 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 20 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成 20 年 9 月 25 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部保健福祉学科保健福祉専攻＞、＜医療福祉学部保健福祉学科生活福祉専攻＞、＜医療福祉学部保健福祉学科精神保健福祉専攻＞の規定は、平成 21 年度入学者、編入学者、転入学者、転学部者、転学科者及び転専攻者から適用する。

3　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜科学技術学部・人間環境デザイン学科＞の規定は、平成 20 年度入学者から適用する。

附　則

1　この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・理学療法学専攻＞及び＜科学技術学部・知能情報システム学科＞の規定は、平成 21 年度の入学者から適用する。ただし、別表第 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 20 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2　医療福祉学部保健福祉学科精神保健福祉専攻は、改正後の学則にかかわらず、平成 22 年 3 月 31 日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則

1　この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・理学療法学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・作業療法学専攻＞の規定は、平成 22 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 21 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部・保健福祉学科・保健福祉専攻＞の規定は、平成 22 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 21 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜総合政策学部・総合政策学科＞の規定は、平成 22 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 21 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部・看護学科＞の規定は、平成 22 年度入学者から適用する。

附　則

1　この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻＞及び＜医療福祉学部・看護学科＞の規定は、平成 24 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 23 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部・保健福祉学科・保健福祉専攻＞の規定は、平成 24 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 23 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・理学療法学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・作業療法学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・視覚機能学専攻＞＜医療福祉学部・看護学科＞＜医療福祉学部・保健福祉学科・保健福祉専攻＞＜医療福祉学部・保健福祉学

科・生活福祉専攻＞＜総合政策学部・総合政策学科＞＜科学技術学部・知能情報システム学科＞＜科学技術学部・人間環境デザイン学科＞の規定は、平成 24 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 23 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

2　科学技術学部人間環境デザイン学科は、改正後の第 3 条第 2 項にかかわらず、平成 25 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則

1　この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の第 30 条第 2 項の規定については、平成 25 年度の入学者から適用する。ただし、平成 24 年度以前の入学者については、改正後の第 30 条第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・理学療法学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・作業療法学専攻＞＜医療福祉学部・看護学科＞の規定は、平成 26 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 25 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜総合政策学部・総合政策学科＞の規定は、平成 26 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 25 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、別表第 2 の入学検定料については、平成 28 年度入学試験から適用する。

附　則

1　この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻＞の規定は、平成 28 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 27 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜科学技術学部･知能情報システム学科＞及び＜科学技術学部･建築環境学科＞の規定は、平成 28 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 27 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

この学則は、平成 28 年 10 月 25 日から施行する。

附　則

この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この学則は、平成 29 年 9 月 1 日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 2（第 48 条～第 50 条関係）の＜医療福祉学部リハビリテーション学科＞、＜医療福祉学部看護学科＞、＜医療福祉学部保健福祉学科＞、＜総合政策学部総合政策学科＞、＜科学技術学部知能情報システム学科＞、＜科学技術学部建築環境学科＞及び＜科学技術学部臨床工学科＞の授業料等については、平成 31 年度の入学者から適用する。また、＜医療福祉学部保健福祉学科＞、＜総合政策学部総合政策学科＞、＜科学技術学部知能情報システム学科＞及び＜科学技術学部建築環境学科＞の編入学者の授業料等については平成 33 年度の編入学者から適用する。

附　則

1　この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第 1（第 26 条関係）＜医療福祉学部看護学科＞の規定は、平成 31 年度の入学者から適用する。ただし、別表 1 に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 30 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表第1（第26条関係）＜医療福祉学部保健福祉学科生活福祉専攻＞の規定は、平成31年度の入学者から適用する。ただし、別表1に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成30年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附　則

1　この学則は、2020年4月1日から施行する。

2　改正後の別表第1（第26条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・理学療法学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・作業療法学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・視覚機能学専攻＞＜医療福祉学部・看護学科＞＜医療福祉学部・保健福祉学科・保健福祉専攻＞＜医療福祉学部・保健福祉学科・生活福祉専攻＞＜総合政策学部・総合政策学科＞＜科学技術学部・知能情報システム学科＞＜科学技術学部・建築環境学科＞＜科学技術学部・臨床工学科＞の規定は、2020年度の入学者から適用する。ただし、別表1に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、2019年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、2021年4月1日から施行する。

なお、2020年度以前の入学者については、改正後の学則にかかわらず、なお従前の例による。

2　医療福祉学部保健福祉学科保健福祉専攻、医療福祉学部保健福祉学科生活福祉専攻、総合政策学部総合政策学科、科学技術学部知能情報システム学科、科学技術学部建築環境学科、科学技術学部臨床工学科は、改正後の第3条第2項にかかわらず、当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則

この学則は、2021年4月1日から施行する。

附　則

この学則は、2021年4月1日から施行する。

附　則

1　この学則は、2022年2月1日から施行する。

2　改正後の第53条及び別表第4（第53条関係）は、2022年度の入学者から適用する。

附　則

1　この学則は、2023年4月1日から施行する。

2　改正後の別表第1（第26条関係）＜工学部・臨床工学科＞の規定は、2023年度の入学者から適用する。ただし、別表第1に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、2022年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、2024年4月1日から施行する。

2　改正後の別表第1（第26条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・視覚機能学専攻＞の規定は、2024年度の入学者から適用する。ただし、別表第1に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、2023年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附　則

1　この学則は、2025年4月1日から施行する。

2　改正後の別表第1（第26条関係）＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・理学療法学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・作業療法学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻＞＜医療福祉学部・リハビリテーション学科・視覚機能学専攻＞＜医療福祉学部・看護学科＞＜現代社会学部・現代社会学科・社会学専攻＞＜現代社会学部・現代社会学科・社会福祉学専攻＞＜経営法学部・経営法学科＞＜工学部・知能情報システム学科＞＜工学部・建築環境学科＞＜工学部・臨床工学科＞の規定は、2025年度の入学者から適用する。ただし、別表第1に掲げる授業科目のうち、学部の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、2024年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

別表第2（第48条～第50条関係）

入学検定料、入学金、授業料、施設設備費、実験実習費及び教育充実費

（単位　円）

区　分		医療福祉学部		現代社会学部		経営法学部	工学部		
				現代社会学科					
		リハビリテーション学科	看護学科	社会学専攻	社会福祉学専攻	経営法学科	知能情報システム学科	建築環境学科	臨床工学科
入学検定料※		30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
入　学　金		240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000
授　業　料		1,000,000	1,000,000	760,000	760,000	760,000	950,000	950,000	950,000
施設設備費		400,000	400,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	300,000
実験実習費	1年次	210,000	210,000	-	0	-	110,000	110,000	160,000
	2年次	350,000	350,000	-	90,000	-	250,000	250,000	300,000
	3年次	350,000	350,000	-	90,000	-	250,000	250,000	300,000
	4年次	350,000	350,000	-	90,000	-	250,000	250,000	300,000
教育充実費	1年次	-	-	100,000	100,000	18,000	-	-	-
	2年次	-	-	100,000	100,000	98,000	-	-	-
	3年次	-	-	100,000	100,000	98,000	-	-	-
	4年次	-	-	100,000	100,000	98,000	-	-	-

※1　一般選抜試験で2学科（専攻を含む。）又は3学科（専攻を含む。）を併願の場合の入学検定料は、35,000円とする。

※2　大学共通テスト試験利用入試の入学検定料は、15,000円とする。

備考　本学に4年を超えて在学する学生の授業料等については別途定める。

別表第３（第 48 条～第 50 条関係）

入学検定料、入学金、授業料及び実験実習費　（単位　円）

区分		医療福祉学部		現代社会学部	経営法学部	工学部
		リハビリテーション学科	看護学科			
科目等履修生	入学検定料	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	入学金	50,000	50,000	20,000	20,000	50,000
	授業料（1 単位）	25,000	25,000	20,000	20,000	25,000
研究生	入学検定料	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	入学金	50,000	50,000	20,000	20,000	50,000
	授業料（月額）	25,000	25,000	20,000	20,000	25,000
受託生	入学検定料	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	入学金	50,000	50,000	20,000	20,000	50,000
	授業料（月額）	25,000	25,000	20,000	20,000	25,000
聴講生	入学検定料	0	0	0	0	0
	入学金	0	0	0	0	0
	授業料（1 単位）	25,000	25,000	20,000	20,000	25,000

備考　実験実習費及び教育充実費は、必要に応じて徴収することがある。

別表第４（第 53 条関係）

在籍料　（単位　円）

在籍料（各学期）	10,000

東北文化学園大学学位規程

┌平成 14 年 5 月 1 日┐
└学　長　制　定┘

（趣旨）

第１条　学位規則（昭和 28 年文部省令第９号）第 13 条第１項の規定に基づき、東北文化学園大学（以下「本学」という。）が授与する学位については、東北文化学園大学学則（以下「学則」という。）及び東北文化学園大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

（学位の種類）

第２条　本学において授与する学位の種類は、学士、修士及び博士とする。

（専攻分野の名称の付記）

第３条　前条の規定により学士、修士及び博士の学位を授与するに当たっては、次の区分により、専攻分野の名称を付記する。

⑴　学士

医療福祉学部　リハビリテーション学科
　理学療法学専攻　学士（理学療法学）
　作業療法学専攻　学士（作業療法学）
　言語聴覚学専攻　学士（言語聴覚学）
　視覚機能学専攻　学士（視覚機能学）
　看護学科　学士（看護学）
現代社会学部　現代社会学科
　社会学専攻　学士（社会学）
　社会福祉学専攻　学士（社会学）
経営法学部　経営法学科　学士（経営法学）
工学部　知能情報システム学科　学士（工学）
　建築環境学科　学士（工学）
　臨床工学科　学士（工学）

⑵　修士

健康社会システム研究科
　健康福祉専攻　修士（健康福祉）
　生活環境情報専攻　修士（生活環境情報）

⑶　博士

健康社会システム研究科
　健康福祉専攻　博士（健康福祉）
　生活環境情報専攻　博士（生活環境情報）

（学士の学位授与の要件）

第４条　学士の学位は、学則に定めるところにより、本学を卒業した者に授与する。

（修士の学位授与の要件）

第５条　修士の学位は、大学院学則に定めるところにより、博士課程前期２年の課程（以下「前期課程」という。）を修了した者に授与する。

（博士の学位授与の要件）

第６条　博士の学位は、大学院学則に定めるところにより、博士課程後期３年の課程（以下「後期課程」という。）を修了した者に授与する。

２　前項に定めるもののほか、博士の学位は、後期課程を経ない者であっても博士論文の審査に合格し、後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された場合は、これを授与することができる。

（修士論文及び博士論文の提出）

第７条　修士論文及び博士論文（以下「学位論文」という。）は、指定した期日までに研究科長に提出するものとする。

２　研究科長は、前項の学位論文を受理したときは、学位を授与できる者か否かについて、研究科教授会の審査に付さなければならない。

（学位論文）

第８条　学位論文は、１編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

２　研究科教授会は、審査のため必要があるときは、学位論文の副本、訳本、模型、標本等の材料を提出させることができる。

３　研究科教授会は、当該前期課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究の成果を修士論文に代えて提出させることができる。

（後期課程を経ない者の学位授与の申請）

第８条の２　第６条第２項の規定により、博士の学位の授与を申請しようとする者は、学位申請書、学位論文要旨、学位論文審査料等を添え、第３条第３号に定める学位の専攻区分を指定して、論文を、研究科長を経て学長に申請しなければならな

い。なお、学位論文審査料は、別途定める。

2　学長は、前項の学位授与の申請があったときは、学位を授与できる者か否かについて、研究科長に研究科教授会において審査を行うよう付託しなければならない。

（審査委員）

第 9 条　研究科教授会は、第 7 条第 2 項及び第 8 条の 2 第 2 項の規定により学位を授与できる者か否かについて審査に付されたときは、審査する論文ごとに、研究科担当教員の教授のうちから 3 人（必要がある場合には、准教授を含めることができる。）を審査委員（主査 1 人及び副査 2 人とする。）として選出し、その学位論文の審査及び最終試験に当たらせるものとする。

2　研究科教授会は、必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず、前項の審査委員以外の研究科担当教員を、学位論文の審査及び最終試験の審査委員に委嘱することができる。

3　研究科教授会は、必要と認めたときは、学位論文の審査にあたって、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

（審査期間）

第 10 条　博士論文の審査、博士論文の学位の授与に係る最終試験は、博士論文又は学位授与の申請を受理した後 1 年以内に、学位を授与できる者か否かを決定できるよう終了しなければならない。

2　後期課程に 3 年以上在学し、博士論文を提出し受理され、論文審査が当該年度を超えた場合は、引続き在学するか、あるいは単位取得退学するものとする。

3　後期課程を単位取得退学の後、3 年間は博士学位論文審査を申請することができる。

（最終試験）

第 11 条　最終試験は、学位論文の審査が終了した後にその学位論文を中心として、これに関連のある専門分野について、口述その他の方法により行うものとする。

（審査の省略）

第 12 条　審査委員は、学位論文の審査の結果、不合格と判定したときは、最終試験を行わないものとする。

（審査委員の報告）

第 13 条　審査委員は、最終試験が終了したときは、直ちにその結果を文書により研究科教授会に報告しなければならない。

（学位授与の議決）

第 14 条　研究科教授会は、前条の報告に基づき、修士又は博士の学位を授与すべきか否かを審議し、議決するものとする。

2　前項の議決は、研究科教授会の構成員（学位を議決する日において、海外出張中、休職中、1 か月以上の病気療養中の者その他研究科教授会がやむを得ない理由があると認める者を除く。）の 3 分の 2 以上の出席を必要とし、かつ、出席者の 3 分の 2 以上の賛成がなければならない。

（学部長の報告）

第 15 条　学部長は、教授会の議を経て、その学部を卒業し、学士の学位を授与できる者と認定したときは、学長に報告しなければならない。

（研究科長の報告）

第 16 条　研究科長は、研究科教授会において、第 14 条の議決に基づき、修士又は博士の学位を授与できる者と認定したときは、学長に報告しなければならない。

（学士の学位の授与）

第 17 条　学長は、第 15 条の報告に基づき、学士の学位を授与する。

（修士又は博士の学位の授与）

第 18 条　学長は、第 16 条の報告に基づき、修士又は博士の学位を授与する。

（博士論文の公表）

第 19 条　博士の学位を授与された者は、授与された日から 1 年以内に、その博士論文をインターネットの利用により公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に既にインターネットの利用により公表したときは、この限りでない。

2　前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者が、やむを得ない事由で博士論文の全文を公表できないときは、研究科長の承認を得て、全文に代えてその内容を要約したものをインターネットの利用により公表することができる。この場合において、研究科長は当該論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3　第 1 項の規定により公表する場合は、博士論文に「東北文化学園大学審査学位論文（博士）」、前項の規定により公表する場合は、博士論文の要旨に「東北文化学園大学審査学位論文（博士）の要旨」と明記しなければならない。

第 19 条の 2　本学は、博士の学位を授与したときは, 当該博士の学位を授与した日から 3 月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

（報告）

第 20 条　学長は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から 3 月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

（学位の取消し）

第 21 条　本学の学士の学位、修士の学位又は博士の学位を授与された者が、次のいずれかに該当す

るときは、学長は、当該教授会又は研究科教授会の議を経て、既に授与した学位を取消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

⑴　不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき。

⑵　学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為を行ったとき。

2　研究科教授会において前項の議決を行う場合は、第 14 条第 2 項の規定を準用する。

（学位記の様式）

第 22 条　学位記の様式は、別記様式第 1 号から別記様式第 4 号のとおりとする。

（雑則）

第 23 条　この規程に定めるもののほか、学位の授与に関し必要な事項は、学長が定める。

附　則

この規程は、平成 14 年 5 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 15 年 5 月 7 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 19 年 7 月 5 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 21 年 5 月 13 日から施行し、平成 21 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 22 年 4 月 6 日から施行し、平成 22 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 23 年 6 月 8 日から施行し、平成 23 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

1　この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の第 3 条第 1 号の規定にかかわらず、平成 25 年 3 月 31 日に在学する者については、従前の例による。

附　則

この規程は、平成 25 年 7 月 3 日から施行し、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

1　この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の第 3 条第 1 号の規定にかかわらず、2021 年 3 月 31 日に在学する者については、従前の例による。

附　則

この規程は、2024 年 10 月 2 日から施行し、改正後の第 22 条に定める別記様式第 1 号から別記様式第 4 号までの規定は、2025 年 3 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は、2025 年 2 月 19 日から施行する。

別記様式第１号（学士の学位記の様式）

○第　　号

（大学印）

学　　位　　記

氏　　名

年　月　日生

本学○学部○学科所定の課程を修め卒業したことを認め学士（○○）の学位を授与する

年　月　日

東北文化学園大学学長　氏　　名　（学長印）

別記様式第２号（修士の学位記の様式）

○修第　　号

（大学印）

学　　位　　記

氏　　名

年　月　日生

本学大学院健康社会システム研究科○○専攻
博士課程前期２年の課程を修了したことを認め
修士（○○）の学位を授与する

年　月　日

東北文化学園大学学長　氏　　名　（学長印）

別記様式第３号（博士の学位記の様式）

○第　　号

（大学印）

学　　位　　記

氏　　名

年　月　日生

本学大学院健康社会システム研究科○○専攻博士課程後期３年の課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したことを認め博士（○○）の学位を授与する

年　月　日

東北文化学園大学学長　氏　　名　（学長印）

別記様式第４号（論文博士の学位記の様式）

○第　　号

（大学印）

学　　位　　記

氏　　名

年　月　日生

本学に博士論文を提出し所定の審査に合格したので博士（○○）の学位を授与する

年　月　日

東北文化学園大学学長　氏　　名　（学長印）

東北文化学園大学履修規程

┌平成 11 年 3 月 10 日┐
└理　事　会　制　定┘

（趣旨）

第 1 条　この規程は、東北文化学園大学学則（以下「学則」という。）第 26 条第 2 項の規定に基づき、東北文化学園大学（以下「本学」という。）の授業科目の履修方法その他の必要な事項について定めるものとする。

（教育課程の編成）

第 2 条　本学の教育課程は、次の各号に掲げる授業科目をもって編成する。

⑴　基礎科目

⑵　専門基礎科目

⑶　専門科目

⑷　研修科目（工学部）

（授業科目）

第 3 条　本学において開設する授業科目の種類、配当年次及び単位数（必修、選択及び自由）は、学則別表第 1 のとおりとする。

2　授業科目の授業内容等は、学年の初めに、シラバスにおいて学生に周知する。

（単位の計算）

第 4 条　授業科目の単位の計算は、次のとおりとする。

⑴　講義は、15 時間をもって 1 単位とする。

⑵　演習は、15 時間から 30 時間をもって 1 単位とする。

⑶　実験、実習及び実技は、30 時間から 45 時間をもって 1 単位とする。

（履修方法）

第 5 条　学生は、所属する学部学科（専攻）に応じて、基礎科目、専門基礎科目、専門科目及び研修科目から、次により単位を修得しなければならない。

⑴　医療福祉学部

区　分	リハビリテーション学科							
	理学療法学専攻		作業療法学専攻		言語聴覚学専攻		視覚機能学専攻	
	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目
基礎科目	9 単位	11 単位以上	10 単位	8 単位以上	18 単位	8 単位以上	16 単位	9 単位以上
専門基礎科目	39 単位	1 単位以上	42 単位	1 単位以上	36 単位	－	35 単位	1 単位以上
専門科目	64 単位	2 単位以上	68 単位	－	65 単位	－	64 単位	－
計	126 単位以上		129 単位以上		127 単位以上		125 単位以上	

区　分	看　護　学　科	
	必修科目	選択科目
基礎科目	10 単位	7 単位以上
専門基礎科目	34 単位	－
専門科目	54 単位	21 単位以上
計	126 単位以上	

⑵　現代社会学部

区分	現代社会学科							
	社会学専攻				社会福祉学専攻			
	必修	選択			必修	選択		
		選択必修	区分別要件	区分問わず		選択必修	区分別要件	区分問わず
基礎科目	13 単位	4 単位以上	10 単位以上	※2 左記に加えて 20 単位以上	13 単位	4 単位以上	10 単位以上	※2 左記に加えて 20 単位以上
専門基礎科目	20 単位	6 単位以上	※1 39 単位以上		20 単位	6 単位以上	※3 14 単位以上	
専門科目	8 単位	4 単位以上			37 単位	－		
計	124 単位以上				124 単位以上			

※ 1　専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、専門基礎科目及び専門科目から区分に関係なく 39 単位以上を修得しなければならない。

※ 2　基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 20 単位以上を修得しなければならない。

※ 3　専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、専門基礎科目及び専門科目から区分に関係なく 14 単位以上を修得しなければならない。

⑶　経営法学部

区　分	経　営　法　学　科		
	必修科目	選択科目	
		区分別要件	区分問わず
基礎科目	13 単位	11 単位以上	※左記に加えて 20 単位以上
専門基礎科目	14 単位	18 単位以上	
専門科目	8 単位	40 単位以上	
小　計	35 単位	89 単位以上	
計	124 単位以上		

※　基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 20 単位以上を修得しなければならない。

⑷　工学部

区分	知能情報システム学科			建築環境学科			臨床工学科		
	必修科目	選択科目		必修科目	選択科目		必修科目	選択科目	
		区分別要件	区分問わず		区分別要件	区分問わず		区分別要件	区分問わず
基礎科目	5 単位	23 単位以上	※1 左記に加えて 14 単位以上	5 単位	7 単位以上	※2 左記に加えて 16 単位以上	15 単位	6 単位以上	※3 左記に加えて 42 単位以上
専門基礎科目	32 単位	8 単位以上		58 単位	－		33 単位	－	
専門科目	8 単位	16 単位以上		16 単位	10 単位以上		22 単位	1 単位以上	
研修科目	14 単位	4 単位以上		12 単位	－		5 単位	－	
計	124 単位以上			124 単位以上			124 単位以上		

※ 1　基礎科目、専門基礎科目、専門科目及び研修科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 14 単位以上を修得しなければならない。

※ 2　基礎科目、専門基礎科目、専門科目及び研修科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 16 単位以上を修得しなければならない。

※ 3　基礎科目、専門基礎科目、専門科目及び研修科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 42 単位以上を修得しなければならない。

2　学生は、原則として所属学年に配当されている授業科目を履修しなければならない。ただし、学生の履修単位の内容等を考慮して、特に必要があると認めた場合は、この限りではない。

3　授業科目のうち、選択科目の履修方法は、学則別表第１の備考欄に掲げるとおりとする。

（履修登録単位数の上限）

第５条の２　学生が１年間に履修登録できる単位数の上限を定める。履修登録できる単位数の上限は、各学部で別に定める。

（履修手続）

第６条　学生は、毎学年又は毎学期の初めに、履修を希望する授業科目について、履修届を学部長に届け出て、承認を得なければならない。

2　学生は、前項の履修届提出後、指定の期日以外に履修届の内容を変更することはできない。

3　学部長が特に必要と認めた卒業研究等の授業科目の履修手続については、別に定める。

（履修の禁止）

第７条　次に掲げる授業科目は、履修することができない。

⑴　履修届を届け出ていない授業科目

⑵　既に単位を修得した授業科目

⑶　授業時間が重複する授業科目

（履修の取消）

第８条　次の各号のいずれかに該当する者は、履修を取り消すことがある。

⑴　授業料等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者。ただし、延納又は分納の手続を行った場合は除く。

⑵　学期の中途で退学、又は除籍された者。

（成績の評価）

第９条　履修した授業科目の成績の評価は、試験（定期試験、実技試験、小テスト等を含む。）、レポート等により行う。

2　成績の評価は、S、A、B、C 及び D の５種とする。S、A、B 及び C を合格とし、D を不合格とする。

3　成績の評価の結果、合格と認定された授業科目については、所定の単位を与える。

4　第６条第３項の手続きを経て履修した授業科目については、別に定める「卒業研究等に係る履修手続き及び成績評価に関する申合せ」において行う。

5　前各項に定める成績の評価に対応した評価点（グレード・ポイント。以下「GP」という。）を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目の GP の平均値（グレード・ポイント・アベレージ。以下「GPA」という。）を算出する。

評価	GP	100 点満点による区分
S	4	90 点以上
A	3	80 点以上 90 点未満
B	2	70 点以上 80 点未満
C	1	60 点以上 70 点未満
D	0	60 点未満

6　その他、GPA に関する事項は、別に定める。

（履修の放棄）

第９条の２　次のいずれかに該当する者は、当該科目の履修を放棄したものとする。

⑴　定期試験受験を放棄した者

⑵　成績評価に係る課題等を提出しなかった者

⑶　定期試験受験資格が認められなかった者

（成績不振学生に対する修学指導）

第９条の３　成績不振学生には修学指導を行うこととし、修学指導に関し必要な事項は、別に定める。

（他学部の授業科目の履修）

第 10 条　学生は、所属する学部以外の学部が開設する授業科目を履修することができる。

2　前項の規定により授業科目を履修しようとする者は、他学部履修願を学部長に願い出て、その許可を受けなければならない。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修）

第 11 条　学生は、他の大学又は短期大学における授業科目を履修することができる。

2　前項の規定により授業科目を履修しようとする者は、他大学等履修願を学部長に願い出て、その許可を受けなければならない。

（大学以外の教育施設等における学修）

第 12 条　学生は、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修をすることができる。

2　前項の規定により学修しようとする者は、教育施設等学修願を学部長に願い出て、その許可を受けなければならない。

（雑則）

第 13 条　この規程に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は、教授会及び大学運営会議の議を経て、学長が別に定める。

（規程の改廃）

第 14 条　この規程の改廃は、教務委員会及び大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　則

この規程は、平成 11 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 12 年４月１日から施行し、改正後の第５条第１項第１号の保健福祉学科の項の規定は、平成 12 年度の入学者から適用する。

附　則

1　この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 14 年度以前に入学した者については、改正後の第 2 条及び第 5 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この規程は、平成 16 年 3 月 3 日から施行し、平成 15 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 16 年 10 月 6 日から施行し、平成 16 年 10 月 1 日から適用する。

附　則

1　この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 16 年度以前に入学した者については、改正後の第 5 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 17 年度以前に入学した者については、改正後の第 5 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この規程は、平成 18 年 12 月 6 日から施行し、平成 18 年 10 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

1　この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 21 年度以前に医療福祉学部保健福祉学科精神保健福祉専攻に入学した者については、改正後の第 5 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 23 年度以前に医療福祉学部保健福祉学科精神保健福祉専攻に入学した者については、改正後の第 5 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の第 9 条第 2 項の規定については、平成 25 年度の入学者から適用する。ただし、平成 24 年度以前に入学した者については、改正後の第 9 条第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 25 年度以前に入学した者については、改正後の第 5 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3　改正後の第 5 条の 2、第 9 条第 5 項及び第 6 項の規定については、平成 26 年度の入学者から適用する。

附　則

1　この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 27 年度以前に科学技術学部知能情報システム学科及び建築環境学科に入学した者については、改正後の第 5 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3　改正後の第 9 条の 3 の規定については、平成 28 年 1 月 7 日から施行する。

附　則

1　この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 30 年度以前に医療福祉学部看護学科及び保健福祉学科生活福祉専攻に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この規程は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

2　2019 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

2　2020 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この規程は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

2　2021 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この規程は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

2　2022 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この規程は、2024 年 4 月 1 日から施行する。

2　2023 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この規程は、2025 年 4 月 1 日から施行する。

2　2024 年度以前に入学した者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東北文化学園大学における成績評価平均値（GPA）に関する細則

┌平成 26 年 3 月 5 日┐
└学　長　制　定┘

（趣旨）

第 1 条　この細則は、東北文化学園大学履修規程第 9 条第 6 項に基づき、成績評価平均値（グレード・ポイント・アベレージ。以下「GPA」という。）の取扱いについて、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第 2 条　この細則において GPA とは、授業科目の成績の評価 5 段階（S、A、B、C、D）に対応した評価点（グレードポイント。以下「GP」という。）を付与して算出する 1 単位あたりの成績評価平均値をいう。

（対象科目）

第 3 条　GPA の対象科目は次のとおりとする。

⑴　卒業要件に係わる科目。

⑵　他学部履修、単位互換により履修した科目で卒業要件に係わる科目。

⑶　転学部等により単位認定された科目は、GPA 対象外科目とする。ただし、転学部等以降に修得した科目は GPA 対象科目とする。

⑷　単位認定科目「認」で評価された科目は GPA の対象科目から除外する。

（配点）

第 4 条　評価された成績は段階ごとに、次に掲げる GP を配点する。

評価 （100 点満点による区分）	合否基準	GP
S（90～100）	合格	4
A（80～ 89）		3
B（70～ 79）		2
C（60～ 69）		1
D（ 0～ 59）	不合格	0

（GPA の種類及び計算方法）

第 5 条　GPA は、次の各号に区分し、当該各号に定める方法により計算する。この場合において、計算値は、小数点以下第 2 位を四捨五入して表記する。

⑴　年度学期 GPA ＝ $\dfrac{\text{当該年度の学期の「S」の単位数×4点＋「A」の単位数×3点＋「B」の単位数×2点＋「C」の単位数×1点}}{\text{当該年度の学期の総履修登録単位数}}$

⑵　年度　GPA ＝ $\dfrac{\text{当該年度の「S」の単位数×4点＋「A」の単位数×3点＋「B」の単位数×2点＋「C」の単位数×1点}}{\text{当該年度の総履修登録単位数}}$

⑶　通算　GPA ＝ $\dfrac{\text{全期間（学期）の「S」の単位数×4点＋「A」の単位数×3点＋「B」の単位数×2点＋「C」の単位数×1点}}{\text{全期間（全学期）の総履修登録単位数}}$

（履修の取消し）

第 6 条　履修届提出後、指定の期間内にのみ履修を取り消すことができる。ただし、必修科目の履修取り消しの申請は認めない。

（再履修科目及び履修放棄科目における GPA の取扱い）

第 7 条　指定の期日までに履修を取り消さず、履修放棄した科目の成績は、不合格として扱う。また、不合格判定を受けた再履修科目は、総履修登録単位数に累積する。

（GPA の記載）

第 8 条　GPA は、成績証明書並びに学生及び保護者に通知する成績表に記載する。なお、この場合の GPA は、第 5 条第 3 号に規定する通算 GPA とする。

（細則の改廃）

第 9 条　この細則の改廃は、教務委員会の議を経て、大学運営会議が行う。

附　則

この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行し、平成 26 年度入学者から適用する。

附　則

この細則は、2021 年 4 月 1 日から施行し、2021 年度入学者から適用する。

東北文化学園大学試験規程

┌平成 18 年 1 月 11 日┐
└学　長　制　定┘

（趣旨）

第 1 条　この規程は、東北文化学園大学履修規程第 10 条第 2 項の規定に基づき、定期試験、追試験及び再試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第 2 条　この規程において、次の用語の定義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

⑴「試験」とは、学期末に行う定期試験、追試験及び再試験のことを言う。

⑵「定期試験」とは、授業科目を履修した学生に対して決められた期間に行う試験のことを言う。

⑶「追試験」とは、第 15 条に定める事由により、定期試験を受けることができなかった者に対して行う試験のことを言う。

⑷「再試験」とは、定期試験の結果、不合格になった科目について担当教員の承認を得た者に対して行う試験のことを言う。

（定期試験の時期）

第 3 条　定期試験は、年 2 回とし、期間を定めて

行う。

2　前項の規定にかかわらず、授業科目によっては、定期試験を年 1 回とすることがある。

（試験時間）

第 4 条　試験時間は、60 分以上 80 分以下とし、出題教員が指定する。

2　試験の開始終了時刻は、次の時間とする。

時　限	時　間
1 時限	8 : 50〜10 : 10
2 時限	10 : 40〜12 : 00
3 時限	13 : 10〜14 : 30
4 時限	15 : 00〜16 : 20
5 時限	16 : 50〜18 : 10

（試験日程及び試験室）

第 5 条　試験の日程及び試験室は、試験開始の 1 週間前までに、試験時間割を教務課指定の掲示板に掲示する。

（試験事務室）

第 6 条　試験期間中は、試験に関する業務を行う試験事務室を置く。

（受験の禁止）

第 7 条　次のいずれかに該当する者は、試験を受けることができない。

⑴　当該学期の履修登録期間及び履修変更期間に当該授業科目の履修登録をしてない者

⑵　当該授業科目の出席時間数が、その総時間数の 3 分の 2 に達していない者

⑶　当該学期の授業料等を納入していない者

⑷　懲戒処分期間中の者

（受験資格の証明）

第 8 条　受験者は、試験中、必ず学生証を机上に提示しなければならない。

2　学生証を忘れた場合は、仮学生証発行手数料を添えて、教務課から「仮学生証」の交付を受けなければならない。

3 「仮学生証」は、当該試験期間中に 3 回まで発行することができ、発行日当日のみ有効とする。

（遅刻及び退室）

第 9 条　遅刻した者は、試験開始時刻後 20 分以内に限り入室を認める。

2　試験開始時刻後 30 分を経過し、かつ監督者が許可した場合は、退室することができる。なお、一旦退室した者は、再入室することはできない。

3　試験中に体調を崩した場合は、挙手をして監督者に知らせる。

（試験座席）

第 10 条　試験を受ける場合は、指定された席に座らなければならない。ただし、監督者から特に指示があった場合は、それに従わなければならない。

（持込物）

第 11 条　試験中は、筆記用具及び当該試験において持込みを許可された物以外を机上に置くことはできない。

2　持込みを許可された物の貸借は認めない。

3　携帯電話等は電源を切り、座席の下又は鞄の中にしまわなければならない。

4　機能付腕時計等（翻訳、計算等の機能がある物）の持込みは認めない。また、アラーム設定は解除しなければならない。

（答案用紙）

第 12 条　監督者の開始の合図とともに、答案用紙に学籍番号及び氏名を記入し、試験を開始する。

2　受験した者は、すべて答案用紙を提出しなければならない。また、受験を放棄する場合であっても提出しなければならない。

（定期試験の評価）

第 13 条　定期試験の評価は、100 点満点として評価する。

（不正行為）

第 14 条　試験において不正行為があった場合は、本学懲戒規程に基づき所定の手続きを経て、処分を決定する。

（追試験の受験資格）

第 15 条　追試験は、次のいずれかに該当する事由により、当該学期の定期試験を受けることができなかった場合に限り受験資格を与える。

区分	事　　由	必要提出書類
1	疾病及び怪我等により欠席した場合	医師の診断書
2	公共交通機関の遅延により欠席した場合	遅延証明書
3	試験当日の事故・災害により欠席した場合	事故証明書等
4	忌引き（3 親等までの家族に限る。）	保証人の証明書（会葬御礼葉書等）
5	就職試験により欠席した場合	求人先又はキャリアサポートセンターの証明書

2　次のいずれかに該当する場合は、追試験の受験を認めない。

⑴　明らかに自己の不注意による場合（試験時間割の見間違い、寝坊等）

⑵　交通渋滞による場合

⑶　家業又はアルバイトによる場合

（追試験の手続及び実施）

第 16 条　追試験を受けようとする場合は、当該試験日の翌日までに追試験願に、前条第 1 項に掲げる必要提出書類を添えて、教務課で所定の手続を行い、学部長の許可を受けなければならない。

2　追試験の実施は、定期試験に準じて行う。

（追試験の評価）

第 17 条　追試験の評価は、定期試験に準ずる。

（再試験の手続及び実施）

第 18 条　再試験を受けようとする場合は、当該科目の担当教員の許可を受けなければならない。ただし、懲戒処分により定期試験を受験できなかった場合の再試験受験は認めない。

2　当該科目の担当教員は、再試験を行う場合、再試験対象者名を教務課に報告しなければならない。

3　再試験を許可された者は、教務課に再試験受験料（1 科目 1,000 円）を納めなければならない。

4　再試験の実施は、その都度別に指定する。

（再試験の特例）

第 19 条　個人的な事情で定期試験を受けることができなかった者に対して、当該科目の担当教員の判断により、再試験を認めることがある。

（再試験の評価）

第 20 条　再試験の評価は、100 点満点とし、60 点を上限とする。

（雑則）

第 21 条　この規程に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は、教授会及び大学運営会議の議を経て、学長が別に定める。

（規程の改廃）

第 22 条　この規程の改廃は、教務委員会の議を経て、大学運営会議が行う。

附　則

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

定期試験受験者心得

平成 11 年 9 月 1 日教務委員会決定
平成 11 年 12 月 1 日改正
平成 12 年 7 月 4 日改正
平成 13 年 1 月 9 日改正
平成 18 年 11 月 15 日改正
平成 19 年 3 月 14 日改正
平成 19 年 6 月 20 日改正
2022 年 7 月 26 日改正

（受験上の注意事項）

1.　試験中は、必ず机上に「学生証」を置いてください。試験中に監督者が本人確認をします。

⑴「学生証」を忘れた場合は、試験が無効になることがあるので注意すること。

万一、学生証を忘れた場合は、試験開始前の場合は、教務課に発行手数料 200 円分の証紙を添えて「仮学生証」の発行を願い出ること。また、試験開始後に学生証を忘れたことに気づいた場合は、試験監督者に「仮学生証」の発行を願い出、試験終了後、発行手数料 200 円分を添えて教務課に申し出ること。

⑵「仮学生証」で受験した場合は、受験日の翌日までに、教務課で「仮学生証」と学生証の照合および検印を受けること。（学生証を紛失した場合は、速やかに学生証再発行願書を提出すること。）

なお、この手続きを怠った場合は、受験した試験の評価が無効若しくは、保留となるので注意すること。

2.　受験者は試験開始 5 分前までに所定の試験室に入室してください。

⑴　試験の座席は指定されているとおり着席すること。

⑵　試験監督者から特に指定があった場合はそれに従うこと。

3.　試験に遅刻した場合は、試験開始時刻 20 分以内に限り受験を認めます。

4.　筆記用具、腕時計（*「機能付」は除く）、出題教員により持込みを許可されたもの以外は持ち込み禁止です。かばんや携帯電話等は座席の下に置いてください。

*「機能付」……辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの。アラーム設定は必ず解除しておくこと。

5.　配布した答案紙は持ち帰らず、必ず監督者に提出してください。

6.　試験中、監督者へ質問する場合は、挙手してください。また体調が悪くなり退室する場合も挙手等で監督者に知らせてください。

7.　試験中の受験者間の私語、持込みを許可されたものの貸借等の交渉は一切認めません。

8.　試験開始 30 分後より途中退室が認められることがあります。答案紙を監督者に提出してから、速やかに退室してください。ただし、試験終了時刻 10 分前からの退出は出来ません。

9.　試験室及び試験室廊下では静粛にし、他の受験者の迷惑になる行動は慎んでください。

（不正行為の禁止について）

10.　試験中、受験者は厳正な態度で試験に臨んでください。

11.　不正行為もしくは『不正を疑われるような行為』を行った者は、学則に沿って試験期間中に受験した全ての科目の成績が無効となり、さらに『停学』を含む厳重な懲戒処分を受けることになります。また、試験室で指摘された場合に限らず、採点の際に発見された場合も不正行為と認定され、懲戒処分の対象となる場合があります。

　試験中、次のような行為は絶対に行わないよう注意してください。

【不正行為と認定される事例】

⑴　代理受験をさせた場合および代理受験をした場合。

⑵　他人のために解答及びメモなどを書いた場合、または他人に解答及びメモなどを書いてもらった場合。

⑶　他人の答案を見た場合、または他人に答案を見せた場合。

⑷　持込みを許可されていないものを机上に出している、または使用した場合。

⑸　持込みを許可されたものを、試験監督者の許可を得ずに貸借している場合。

⑹　持込みを許可されたものや、机などに不正な書き込みをしている場合。

⑺　私語や挙動不審な者で、注意を受けても改めない場合。

⑻　試験監督者の許可なく座席を離れた場合。

⑼　答案を持ち帰った場合。

⑽　その他、試験監督者の指示に従わない場合。

（追・再試験について）

12.　追試験・再試験受験手続については、学生便覧及び学生手帳の「東北文化学園大学履修規程」、「東北文化学園試験規程」を確認してください。

　また、再試験（受験手数料 1,000 円）は、必ず実施されるものではありません。

　なお、再試験をレポート等の課題提出とする場合もありますが、この場合も再試験受験手続を行ってください。

13.　再試験中は、必ず机上に「学生証」・「再試験受験許可書・再試験受験申請書（教員提出用）」を置いてください。試験中に監督者が本人確認をします。

　なお、「再試験受験申請書（教員提出用）」は、監督者が回収します。

14.　再試験がレポート等の課題提出になる場合は、提出する課題に「再試験受験申請書（教員提出用）」を添付して、当該科目の担当教員に提出してください。

15.　その他、定期試験に関することは、あらかじめ本学の学則、履修規程、試験規程を熟読しておくよう心がけてください。

東北文化学園大学学生懲戒規程

┌平成 17 年 5 月 11 日┐
└学　　長　　制　　定┘

（目的）

第 1 条　この規程は、東北文化学園大学学則（以下「学則」という。）第 46 条及び第 47 条の規定に基づき、学生の懲戒に関し、必要な事項を定める。

（懲戒）

第 2 条　東北文化学園大学（以下「本学」という。）の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、当該学生の所属する教授会（以下「教授会」という。）及び大学運営会議の議を経て、学長が懲戒を行う。

（懲戒の種類）

第 3 条　懲戒処分は、次のとおりとする。

⑴　訓告　学生の行った行為を戒めて事後の反省を求め、将来にわたってそのようなことのないよう、口頭及び文書により注意すること。

⑵　謹慎　一定期間の授業への出席及び施設の利用を認めないこと。

⑶　停学　有期又は無期の期間、登校を認めないこと。

⑷　退学　学則第 47 条に基づき退学させること。この場合、再入学は認めない。

2　謹慎及び停学期間は、学則第 19 条に定める在学年限に算入するが、学則第 18 条に定める修業年限には原則算入しない。

（自宅待機）

第 4 条　学長は、当該学生の所属する学部の学部長（以下「学部長」という。）の意見を聞き、当該学生に対する処分が決定するまでの間、当該学生に自宅待機を命じることができる。

2　自宅待機中の学生に教育的配慮が必要な場合、学生の不利益にならないよう措置を講ずるものとする。

3　自宅待機の期間は、謹慎又は停学の期間に含めることができる。

（謹慎）

第 5 条　謹慎は、学生の行為に対し、教職員の指導により矯正可能と認められ、改悛するものと判断したときに、1 か月以内の期間を定めて行う。

（停学）

第 6 条　停学は、次のいずれかに該当する者に対し、事件又は事故等の内容、責任の軽重等により、1 か月から無期の期間を定めて行う。

⑴　試験期間中に不正行為を行った者

⑵　窃盗、万引き等を行った者

⑶　人の生命、身体に損傷を及ぼすなどの重大な交通事故を起こした者

⑷　その他本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者

2　前項第 1 号の規定により停学となった場合は、当該試験期間中の試験は全て、無効とする。

（謹慎及び停学期間中の指導方法等並びに修業年限への算入）

第 7 条　謹慎及び停学の期間中における指導方法等については、教授会において定めるものとし、学部長はその定めを学長に報告する。

2　学長は、学部長から、教授会において指導の実が上がり、謹慎及び停学の期間を修業年限に算入することが適当と報告があった場合は、謹慎及び停学の期間を修業年限に算入することができる。

（謹慎及び停学の通知）

第 8 条　学長は、謹慎及び停学が決定した学生に対して、謹慎及び停学の期間を記載した文書で通知する。

（停学の解除及び通知）

第 9 条　無期停学の解除及び停学期間の短縮については、指導の実、改悛の状況等を考慮し、教授会及び大学運営会議の議を経て、学長が決定し、文書で通知する。

（退学）

第 10 条　退学は、学則第 47 条ただし書の規定に該当し、その程度の著しいもののほか、次のいずれかに該当する者に対してこれを行う。

⑴　殺人、傷害等の粗暴な行為があった者

⑵　常習的な窃盗又は計画的、扇動的若しくはそそのかしによって他人を巻き込んで犯すような行為を行った者

⑶　故意又は重大な過失により交通事故を起こし、他人を死亡させ、又は重傷を負わせた者

（退学の通知）

第 11 条　学長は、退学が決定した学生に対して文書で通知する。

（懲戒の発議及び手続）

第 12 条　学生部長は、学生の懲戒の対象と成りうる行為を知り得たときは、速やかに学長及び学部長に報告するものとする。

2　懲戒処分の実施手続きは、次のとおりとする。

⑴　学長は、学生の行為が懲戒の対象と成りうると判断したときは、学生部長に対して速やかに学生委員会を招集し、調査することを指示する。

⑵　学生部長は、学生委員会に調査班を設置する。

①　調査班は、当該学生の所属する学部以外の学生委員 2 人及びスチューデントアドバイザーにより構成され、学生部長が指名する学生委員が主査となる。

②　調査班は、事実確認及び当該学生に対する事情聴取並びに学生の事件等に対する弁明の聴取（学生の不服申立ての聴取を含む）を行い、懲戒処分に関する意見書を作成し、学生委員会に報告する。

③　懲戒処分に関する意見書には、懲戒処分の根拠となる事実の確認、懲戒処分の相当性に関する判断及び懲戒処分の量定に関する判断が含まれる。

⑶　学生部長は、調査班による調査結果の報告及びそれまでの対応について、学生委員会で審議の上、処分の要否を決定し、その結果を学長及び学部長に報告する。

なお、懲戒処分を要する場合は、懲戒処分の案を作成し、教授会に付議する。

⑷　教授会は、学生委員会の懲戒処分の案について審議し、その結果を学生委員会に報告するとともに大学運営会議に付議する。ただし、懲戒処分の内容に疑義が生じた場合は、学生委員会に再調査を依頼する。

⑸　大学運営会議は、教授会の懲戒処分の案について審議する。ただし、懲戒処分の内容に疑義が生じた場合は、学生委員会に再調査を依頼する。

⑹　学長は、教授会及び大学運営会議の審議結果を考慮した上で、懲戒処分を決定し、当該学生に申し渡しを行う。

⑺　前各号の実施手続きは、非公開とする。

（懲戒手続き中の学籍の異動）

第 13 条　学長は、懲戒対象行為を行った学生が、学則第 41 条に定める願出による退学を申し出た場合、前条の第 1 号から第 6 号に規定する懲戒処分の実施手続きが行われている期間にはこれを受理しない。

2　懲戒処分決定後の退学の申し出は、当該学生が学部長に申請し、学長の許可を受けなければならない。

3　懲戒処分の終了前に前項の手続きにより退学した者の再入学は、認めない。

（懲戒処分の公示）

第 14 条　学長は、懲戒処分及びその対象行為につ

いて公示することができる。

2　懲戒処分を受けた学生の氏名、学籍番号は、非公開とする。ただし、学長がその必要を認めたときは、この限りでない。

（関係者の守秘義務）

第 15 条　学生の懲戒に関する事項にかかわった教職員は、当該事項についての秘密を漏らしてはならない。

（履歴への記載）

第 16 条　懲戒処分を受けた学生に係る次に掲げる証明書等には、懲戒の有無、その内容等は記載しないものとする。

⑴　本学が作成する成績証明書その他の証明書

⑵　学生が就職、進学に際して、本学関係者が作成する推薦書類等

（その他の教育的措置）

第 17 条　学長は、学生の行為が懲戒処分には至らないと判断された場合でも、教育上必要と認めたときは、当該学生に対し厳重注意を行うことができる。

（庶務）

第 18 条　学生の懲戒に関する庶務は、学生課において処理する。

（規程の改廃）

第 19 条　この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

（雑則）

第 20 条　この規程に定めるもののほか、学生の懲戒に関し必要な事項は、大学運営会議の議を経て、学長が定める。

附　則

この規程は、平成 17 年 5 月 11 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 21 年 3 月 4 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 21 年 7 月 8 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 27 年 7 月 1 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は、2020 年 1 月 8 日から施行する。

東北文化学園大学転学部又は転学科若しくは転専攻規程

┌平成 18 年 2 月 1 日┐
└学　長　制　定┘

（趣旨）

第 1 条　この規程は、東北文化学園大学学則第 25 条の 2 の第 2 項に基づき、学生が、他の学部又は同一学部内の他の学科若しくは専攻に、転学部又は転学科若しくは転専攻（以下「転学部等」という。）する場合の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

（転学部等の志願資格）

第 2 条　転学部等の志願資格は、各学部において別に定める。

（転学部等の時期）

第 3 条　転学部等の時期は、学年の初めとする。

（志願の受理）

第 4 条　学生から、転学部等の志願があったときは、受入れ学科又は専攻に欠員がある場合に限り、受理する。

（志願方法）

第 5 条　転学部等を志願する者は、次に掲げる書類を、学長に願い出なければならない。

⑴　志願書

⑵　成績証明書

⑶　健康診断書

⑷　その他必要と認める書類

（転学部等の選考）

第 6 条　転学部等を志願する者の選考は、受入れ学部教授会が行い、学長が転学部等を許可する。

（転学部等の手続）

第 7 条　前条の選考によって転学部等を許可された者は、所定の期日までに学籍異動手数料（20,000 円）を納入の上、転学部等に必要な手続をしなければならない。

（単位の認定）

第 8 条　転学部等を許可された者の既に修得した授業科目の単位の取扱いについては、受入れ学部教授会の議を経て、学部長が決定するものとする。

（雑則）

第 9 条　この規程に定めるもののほか、転学部等に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学部長が別に定める。

附　則

この取扱いは、平成 18 年 2 月 1 日から施行し、平成 17 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この取扱いは、平成 22 年 5 月 12 日から施行する。

東北文化学園大学の公認欠席の取扱いに関する申合せ

┌平成 21 年 1 月 8 日┐
└学　長　制　定┘

（趣旨）

第 1 条　この申合せは、東北文化学園大学に在学する学生の授業等の公認欠席の取扱いについて定め

るものとする。

（公認欠席の定義）

第２条　公認欠席とは、特別な事由により欠席し、かつ所定の手続きに基づく承認を受けた場合のことをいう。

（特別の事由）

第３条　公認欠席に該当する特別な事由は、次に掲げるとおりとする。

⑴　忌引

⑵　正課外活動

⑶　就職活動

⑷　通学区間の交通機関の運休もしくは遅延

⑸　罹災

⑹　別表１に掲げる学校保健安全法施行規則第18条第１項第１号及び第２号に規定されている感染症罹患

（手続）

第４条　公認欠席の認定を受けようとする学生は、教務委員会において別に定める「公認欠席届」に別表２に掲げる書類を添え、教務課に提出しなければならない。ただし、正課外活動が事由の場合は、学生課に提出することとする。

２　公認欠席の認定を受けようとする学生は、別表２に掲げる確認者等の承認を受けなければならない。

（認定欠席日数）

第５条　公認欠席とすることのできる日数は、別表２に掲げる日数とする。

（公認欠席した授業の取扱い）

第６条　「公認欠席届」が提出された授業科目担当教員は、欠席した授業に関し、補講その他の特別な配慮をするものとする。ただし、国家資格等の単位取得のための指定時間を満たす必要がある場合は、定められた時間数の補講をするものとする。

（公認欠席に準じる特別措置）

第７条　学生が次に掲げる事由により、止むを得ず授業を欠席する場合、本人の欠席届に基づき、授業担当教員は、公認欠席に準じた特別な配慮をすることができる。

⑴　別表１に掲げる学校保健安全法施行規則第18条第１項第３号に定める第三種感染症のうち、その他の感染症に罹患した疑いがあると健康管理センター所長が認めた場合

⑵　裁判員に選任された場合

（雑則）

第８条　この申合せに定めるものの他、公認欠席の取扱いに関し必要な事項は教務委員会の議を経るものとする。ただし、別表１の改廃は、健康管理センター所長が行い、教務委員会に報告するものとする。

（規程の改廃）

第９条　この申合せの改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附　則

この申合せは、平成21年１月８日から施行する。なお、公認欠席の取扱いについて（申合せ）は廃止する。

附　則

この申合せは、平成24年１月11日から施行し、平成23年10月１日から適用する。

附　則

この申合せは、平成25年５月１日から施行し、平成25年４月１日から適用する。

附　則

この申合せは、平成28年１月７日から施行する。

附　則

この申合せは、平成30年７月４日から施行し、平成30年４月１日から適用する。

附　則

この申合せは、2020年２月12日から施行する。

附　則

この申合せは、2024年４月１日から施行する。

別表 1

	感染症の種類	認定日数の目安	備考
学校保健安全法施行規則第18条第1項第1号に定める第一種感染症	エボラ出血熱	治癒するまで	・学校保健安全法施行規則第 18 条第 2 項に規定する「新型インフルエンザ等感染症」、「指定感染症」及び「新感染症」は、第一種の感染症とみなす。
	クリミア・コンゴ出血熱		
	痘そう		
	南米出血熱		
	ペスト		
	マールブルグ病		
	ラッサ熱		
	急性灰白髄炎		
	ジフテリア		
	重症急性呼吸器症候群 （病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）		
	鳥インフルエンザ （病原体がインフルエンザ A ウィルスであって血清亜型が H5N1 であるものに限る）		
学校保健安全法施行規則第18条第1項第2号に定める第二種感染症	インフルエンザ （鳥インフルエンザ（H5N1））を除く	発症（38 度程度の発熱）した後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日を経過するまで	・認定日数については、症状により健康管理センター所長が感染の恐れがないと認めたときはこの限りではない
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または 5 日間の適正な抗菌薬療法が終了するまで	
	麻疹	解熱した後 3 日を経過するまで	
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が始まったのち 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで	
	風疹	発疹が消失するまで	
	水痘	すべての発疹が痂皮化するまで	
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後 2 日を経過するまで	
	結核	症状により、健康管理センター所長が感染のおそれがないと認めた日数	
	髄膜炎菌性髄膜炎	症状により、健康管理センター所長が感染のおそれがないと認めた日数	
学校保健安全法施行規則第18条第1項第3号に定める第三種感染症	コレラ	症状により、健康管理センター所長が感染のおそれがないと認めた日数 ※その他の感染症については感染の拡大を防ぐために必要があると健康管理センター所長が認めた場合に限る	
	細菌性赤痢		
	腸管出血性大腸菌感染症		
	腸チフス		
	パラチフス		
	流行性角結膜炎		
	急性出血性結膜炎		
	その他の感染症【主治医から登校を控えるよう指示された場合のみ（流行性嘔吐下痢症、マイコプラズマ肺炎、溶連菌感染症等）】		

別表 2

欠席事由	認定日数	添付する書類	確認者等	備考
忌引	配偶者　7 日以内 1 親等　7 日以内 2 親等　3 日以内 3 親等　1 日以内	会葬御礼通知等	指導教員（スチューデント・アドバイザー含む）	3 親等以内の親族
正課外活動への参加	大会等に出場する期間で、必要と認められる最小限度の日数		サークル顧問又は学生部長	原則として、学外行事参加願いが事前に提出されているもの
就職活動	試験当日	日付、要件等が明記された書類及び就職試験報告書	指導教員（スチューデント・アドバイザー含む）及びキャリアサポートセンター	
公共交通機関の運休・遅延	当日	運休証明書・遅延証明書	教務部教務課	
罹災した場合	登校が可能となるまでの日数		教務部教務課	自己都合によらない不可抗力の事故等が対象
学校保健安全法施行規則第 18 条第 1 項及び第 2 項に規定する感染症罹患	別表 1 に定める認定日数の目安に準じる	医療機関が発行した診断書、又は登校許可証明書	健康管理センター所長又は保健室看護師	・インフルエンザに限り薬剤情報提供文書等も添付する書類として認める ・インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症に限り、健康管理センター所長が認めた書類の提出、画像の提供その他の方法をもって添付する書類に代えることができる

東北文化学園大学授業料等特別措置制度規程

┌平成 21 年 2 月 18 日┐
└理　事　会　制　定┘

（趣旨）

第 1 条　この規程は、東北文化学園大学学則（以下「学則」という。）第 50 条第 1 項別表第 2 の備考の規定に基づき、東北文化学園大学（以下「大学」という。）に修業年限を超えて在学し、かつ学修意欲のある学生に対して適用するための授業料等特別措置制度（以下「特別措置」という。）に関して、必要な事項を定めるものとする。

（特別措置の対象）

第 2 条　特別措置の対象は、次のすべてを満たす者とする。

⑴　休学期間を除き大学に修業年限を超えて在学し、かつ、3 年次以上に在学している者。ただし、学則第 25 条第 1 項の規定により編入学した者は、在学すべき年数を超えて在学する者

⑵　既修得単位が 80 単位以上の者

⑶　特別措置申請時において授業料等を完納している者

⑷　特別措置申請時までに懲戒処分を受けていない者

（特別措置の方法）

第 3 条　特別措置は、次のとおりとする。

⑴　授業料、施設設備費、実験実習費及び教育充実費（以下、「授業料等」という。）は、別表に定める。

⑵　特別措置による授業料等は、学期の中途で休学、退学又は除籍しても返還しない。

⑶　特別措置による授業料等は、学則第 51 条に定める期日までに納付しなければならない。

⑷　特別措置による授業料等の延納又は分納は、原則認めない。

（特別措置の申請）

第 4 条　特別措置を申請しようとする者は、所定の期日までに、次に掲げる書類を学長に提出しなければならない。

⑴　授業料等特別措置申請書

⑵　成績証明書

⑶　その他必要と認める書類

（特別措置対象者の選考）

第 5 条　特別措置を志願する者の選考は、教務委員会が行い、学長が決定する。

（特別措置の停止）

第 6 条　特別措置の対象である者が次の各号のいずれかに該当する場合、特別措置を停止する。

⑴　修学状況に怠慢等があると学長が認めたとき。

⑵　その他、学長が特別措置の対象者として不適当であると認めたとき。

2　前項第 1 号又は第 2 号に該当し、特別措置の停止を受けた者は、学則第 50 条第 1 項別表第 2 に規定する授業料等を納付しなければならない。

（庶務）

第 7 条　特別措置に関する庶務は、教務部教務課において処理する。

（雑則）

第 8 条　この規程に定めるもののほか、この規程の実施するために必要な事項は、学長が定めるものとする。

（規程の改廃）

第 9 条　この規程の改廃は、学長の意見を聞いて、理事会が行う。

附　則

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

1　この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の別表にかかわらず、科学技術学部人間環境デザイン学科に平成 25 年 3 月 31 日に在学する者については、従前の別表を適用する。

附　則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

1　この規程は、2023 年 10 月 24 日から施行し、2024 年 4 月 1 日に特別措置の対象となる学生から適用する。

2　この規程の施行日の前日において、本学に在籍し現に改正前のこの規程による特別措置の対象となっている者で施行日以降も引き続いて在籍する者については、2024 年 3 月 31 日までは、なお、従前の例による。

別表　　授業料、施設設備費、実験実習費及び教育充実費

2020 年度以前入学者　　（単位：円）

区　分	医療福祉学部			総合政策学部	科学技術学部		
	リハビリテーション学科	看護学科	保健福祉学科	総合政策学科	知能情報システム学科	建築環境学科	臨床工学科
授業料（1 単位）	25,000	25,000	20,000	20,000	25,000	25,000	25,000
施設設備費（半期）	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
実験実習費（半期）	150,000	150,000	100,000	50,000	150,000	150,000	150,000

備考　実験実習費は、実習等を伴う科目を履修する場合に徴収する。

2021 年度以降入学者　　（単位：円）

区　分	医療福祉学部		現代社会学部		経営法学部	工学部		
	リハビリテーション学科	看護学科	現代社会学科		経営法学科	知能情報システム学科	建築環境学科	臨床工学科
			社会学専攻	社会福祉学専攻				
授業料（1単位）	25,000	25,000	20,000	20,000	20,000	25,000	25,000	25,000
施設設備費（半期）	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
実験実習費（半期）	175,000	175,000	—	45,000	—	125,000	125,000	150,000
教育充実費（半期）	—	—	50,000	50,000	49,000	—	—	—

備考　実験実習費及び教育充実費は、学科・専攻が別に定める科目を履修する場合に徴収する。

東北文化学園大学授業料等特別措置制度規程実施細則

┌平成 21 年 12 月 2 日┐
└学　長　制　定┘

第 1 条　この実施細則は、東北文化学園大学授業料等特別措置制度規程（以下「本規程」という。）第 8 条に基づき定める。

第 2 条　転学部学生、転学科学生及び転専攻学生は、転学部等前の在学年数を通算して 4 年を超えた場合、本規程第 2 条第 1 号の対象とする。

第 3 条　特別措置の申請は、年度又は学期ごとに行うものとする。

第 4 条　実験実習費及び教育充実費については、学期単位にて徴収する。

第 5 条　実験実習科目の履修科目数については、原則として、学期ごとに 2 科目を限度とする。ただし、看護学科においては、配当年次が 3 年後期～4 年前期及び 4 年通年の実験実習科目のうち、3 科目を限度とする。なお、対象科目は、教育課程毎に別に定めるものとする。

第 6 条　通年科目を履修する場合は、原則として、前期申請期間に後期分を合わせて申請することとする。

第 7 条　履修科目の配当年次・学期が、通年または 2 年にまたがる場合は、年度ごとに履修手続きをとるものとする。

第 8 条　通年または 2 年にまたがる科目を履修中の場合、本規程の申請にあたってはあらためて科目の履修手続きを行い、単位数に相当する授業料を納めるものとする。

附　則

この申合せは、平成 21 年 12 月 2 日から施行し、平成 21 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この申合せは、平成 23 年 11 月 9 日から施行し、平成 23 年 10 月 1 日から適用する。

附　則

この申合せは、平成 24 年 12 月 5 日から施行し、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この申合せは、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

1　この実施細則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。

2　この実施細則の施行に伴い、「東北文化学園大学授業料等特別措置制度規程適用基準及び運用に係る申合せ（平成21年12月2日大学運営会議制定）」は廃止する。

東北文化学園大学気象条件等非常時における授業等の取扱いに関する申合せ

┌平成 22 年 1 月 6 日┐
└学　長　制　定┘

1.　この申合せは、宮城県内に暴風警報、大雨警報、大雪警報等の警報（以下「警報」という。）が発令された場合及び大規模地震等の不測の事態が生じた場合に、学生の事故防止を目的として、授業、定期試験等（以下「授業等」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

2.　警報等が発令された場合の授業等の取扱いについては、次のとおりとする。

警報解除時刻	授業等の取扱い
午前 7 時までに解除され、公共交通機関（仙台駅発着の仙山線）が運行した場合	平常どおり授業等を行う
午前 7 時から午前 10 時までに解除され、公共交通機関（仙台駅発着の仙山線）が運行した場合	1 時限及び 2 時限目は休講とし、3 時限目から授業等を行う
午前 10 時までに警報が解除されず、公共交通機関（仙台駅発着の仙山線）が運行しない場合	当日の授業等は休講とする

注 1）　警報は、仙台管区気象台が発表する警報による

注 2）　警報の発令・解除及び運行の確認は、テレビ、ラジオ等の報道による

⑴　学生の登校後に警報が発令され、かつ公共交通機関（仙台駅発着の仙山線）が運休となった場合は、次の時限以降の全ての授業を休講とする。

⑵　台風等の影響で前各号の適用が見込まれる場合は、状況を勘案し、別途判断する。

3.　気象条件等による休講措置の判断は、学長が行う。学長に事故があるときは、学長の指名する者がこれに代わるものとする。

4.　休講等措置の周知方法は、次のとおりとする。
⑴　教務部から、各学部、学科へ連絡する。
⑵　教務部は、学生に対して掲示等により速やかに周知する。
　ただし、授業等実施中の場合は、各科目担当教員を通じて周知する。
⑶　当日の授業担当非常勤講師については、教務部から電話等により速やかに周知する。
⑷　東北文化学園大学のホームページに掲載する。
5.　実習、インターンシップ等の場合は、各実習先の指示に従うものとする。
6.　東北地方に大規模地震が発生し、公共交通機関（仙台駅発着の仙山線）が運休となった場合は、警報発令時の取扱いに準じた措置を講ずる。

附　則

この申合せは、平成 22 年 1 月 6 日から施行する。

東北文化学園大学総合情報センター図書館利用規程

┌平成 11 年 3 月 10 日┐
└理　事　会　制　定┘

（趣旨）
第 1 条　この規程は、東北文化学園大学総合情報センター規程第 8 条の規定に基づき、東北文化学園大学総合情報センター図書館（以下「図書館」という。）の利用について定めるものとする。
（利用者）
第 2 条　図書館を利用できる者（以下「利用者」という。）は、次の各号に掲げる者とする。
⑴　東北文化学園大学（以下「大学」という。）の教職員
⑵　大学の学生
⑶　総合情報センター長（以下「センター長」という。）が特に許可した者（以下「特別許可者」という。）
（開館日）
第 3 条　センター長は、次の各号に掲げる日（以下「休館日」という。）を除き、開館するものとする。
⑴　日曜日
⑵　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
⑶　大学の定める休業日
⑷　その他センター長の定める日
2　センター長が必要と認めたときは、前項に定める休館日を臨時に変更することができる。
（開館時間）
第 4 条　図書館の開館時間は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めたときは、これを変更することができる。
⑴　月曜日から金曜日
　午前 8 時 40 分から午後 9 時まで
⑵　土曜日
　午前 9 時から午後 6 時まで
（館内閲覧）
第 5 条　図書館に配架されている図書館資料は、自由に書架から取り出し、閲覧することができる。
2　閲覧した図書館資料は、当日の閉館時刻までに、所定の場所に返納しなければならない。
（館外貸出）
第 6 条　館外貸出は、所定の手続を経て、館外へ帯出して閲覧するものとする。ただし、次の各号に掲げる図書館資料は、特別の理由があってセンター長が認めた場合を除き、館外貸出を行わない。
⑴　貴重図書
⑵　貸出禁止のある図書館資料
⑶　雑誌の最新号及び新聞
⑷　マイクロ資料
⑸　視聴覚資料
⑹　その他センター長が指定した資料
2　館外貸出は、次のとおりとする。
⑴　一般貸出
⑵　研究用貸出
（一般貸出）
第 7 条　一般貸出の図書の冊数及び貸出期間は、次表のとおりとする。

区　　分	貸出限度冊数（1 人当り）	貸出期間
教　職　員	10 冊	30 日
大学院の学生	10 冊	30 日
大学の学生	5 冊	14 日
特別許可者	3 冊	14 日

2　前項の規定にかかわらず、センター長が必要と認めたときは、貸出図書冊数又は貸出期間を変更することができる。
3　第 1 項の貸出期間を超えて返納したときは、超過日数と同日数だけ次の貸出を停止することがある。
（貸出予約）
第 8 条　貸出を希望する図書が貸出中の場合は、所定の手続を経て予約することができる。
（転貸の禁止）
第 9 条　館外貸出図書は、貸出を受けた者が保管の責任を負い、これを転貸してはならない。
（貸出図書の返却）
第 10 条　館外貸出図書は、所定の期日までに、返却しなければならない。
2　教職員、学生等で貸出を受けた者がその身分又は資格を失った場合は、直ちに返却しなければな

らない。

（研究用長期貸出）

第 11 条　教員は、教育研究上必要とする場合、図書館が受け入れた図書（以下「研究用図書」という。）を、次の各号により所定の手続を経て長期に貸出を受けることができる。

⑴　共同利用を図る目的で学部研究室（以下「研究室等」という。）に備え付ける図書

⑵　研究費で購入した特定の教員が専用する図書（1 人 300 冊以内）

⑶　研究室等を通して図書館に寄付された図書

（管理責任者）

第 12 条　前条により貸出を受けた研究室等は、管理責任者を定め、研究用図書の保管の責任を負うものとする。

2　管理責任者は、次の各号に掲げる者とする。

⑴　研究室等で図書を共用する場合は、当該研究室等ごとに定められた教職員

⑵　特定の教員が専用する場合は、当該教員

3　研究室等で前項第 1 号の管理責任者を定めたとき又は変更したときは、速やかにその職名及び氏名をセンター長に届け出なければならない。

（文献複写）

第 13 条　文献複写についての必要な事項は、別に定める。

（電子媒体資料の利用）

第 14 条　電子媒体資料の利用についての必要な事項は、別に定める。

（展示及び掲示）

第 15 条　図書館内に展示又は掲示をしようとする者は、センター長の許可を受けるものとする。

（弁償）

第 16 条　利用者は、利用中の図書、物品若しくは施設を汚損、破損又は亡失したときは、センター長の指示に従い、速やかにその損害を弁償しなければならない。ただし、センター長がやむを得ないものと認めたときは、免除することができる。

（規程の改廃）

第 17 条　この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

第 18 条　この規程に定めるもののほか、図書館の利用について必要な事項は、大学運営会議の議を経て、学長が別に定める。

附　則

この規程は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 11 年 10 月 6 日から施行し、平成 11 年 9 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 15 年 7 月 2 日から施行し、平成 15 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 19 年 4 月 4 日から施行し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 21 年 3 月 4 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は、2024 年 2 月 28 日から施行する。

東北文化学園大学基礎教育センター施設等利用規程

┌平成 27 年 10 月 7 日┐
└学　長　制　定┘

（趣旨）

第 1 条　この規程は、東北文化学園大学基礎教育センター規程第 11 条の規定に基づき、東北文化学園大学基礎教育センター（以下「センター」という。）の施設・設備等（以下「施設等」という。）利用について定めるものとする。

（利用者）

第 2 条　センター施設等を利用できる者（以下「利用者」という。）は、次の各号に掲げる者とする。

⑴　東北文化学園大学（以下「大学」という。）及び東北文化学園大学大学院（以下「大学院」という。）の学生

⑵　大学及び大学院の教職員

⑶　基礎教育センター長（以下「センター長」という。）が特に許可した者

（利用可能日）

第 3 条　センター施設等は、次の各号に掲げる日を除き、利用することができる。ただし、センター長が必要と認めたときは、これを変更することができる。

⑴　日曜日

⑵　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

⑶　大学の定める休業日（土曜日を除く）

⑷　その他センター長の定める日

（利用時間）

第 4 条　センター施設等の利用時間は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めたときは、これを変更することができる。

⑴　月曜日から金曜日
　　午前8時40分から午後9時まで
⑵　土曜日
　　午前9時から午後6時まで
（利用者の遵守事項）
第5条　利用者は、次の各号を遵守しなければならない。
⑴　センター施設等の備品等は、センターの外に持ち出さないこと
⑵　センター施設等内の座席を鞄や衣類等で占有しないこと
⑶　飲料以外の飲食はしないこと
⑷　他の利用者に迷惑を及ぼす行為を行わないこと
⑸　その他センター職員の指示に従うこと
（ボックススペース及びEスペースの使用）
第6条　センター施設等内のボックススペース及びEスペースを使用する場合は、「Eサポ 各スペース予約票」を提出することで予約するものとする。ただし、予約をしていなくても、その時点で使用希望のスペースに予約が入っていない場合は使用できるものとする。
（ノートパソコンの利用）
第7条　センター施設等のノートパソコンは、「Eサポ機材貸出簿」に必要事項を記入し利用することができる。
2　ノートパソコンの利用は、センター施設等内のみとする。また、ノートパソコン利用等に関する必要な事項は別に定める。
（展示及び掲示）
第8条　センター施設等内に展示又は掲示する場合は、予めセンター長の許可を受けるものとする。
（弁償）
第9条　利用者は、利用中のセンター管理のパソコン、器具等もしくは施設を汚損、破損又は滅失したときは、センター長の指示に従い、速やかにその損害を弁償しなければならない。ただし、センター長がやむを得ない事由によるものと認めた場合は、これを免除することができる。
（その他）
第10条　学校法人東北文化学園大学の教職員、学生及びそれらが主管する団体が、学術・教育・文化活動等を目的としてセンター施設等を使用する場合については、別に定める。
（規程の改廃）
第11条　この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。
附　則
この規程は、平成27年10月7日から施行し、平成27年4月1日から適用する。
附　則
この規程は、2020年4月1日から施行する。
附　則
1　規程の題名を「東北文化学園大学教育支援センター利用規程」から「東北文化学園大学基礎教育センター施設等利用規程」に改正する。
2　この規程は、2021年4月1日から施行する。

東北文化学園大学学友会会則

┌平成11年3月10日┐
└制　　定┘

目次
第1章　総則（第1条ー第4条）
第2章　役員（第5条ー第6条）
第3章　機関（第7条）
第4章　運営協議会及び役員会（第8条ー第10条）
第5章　学生会代表者会議（第11条ー第13条）
第6章　課外活動委員会（第14条ー第15条）
第7章　文化学園祭実行委員会（第16条）
第8章　卒業アルバム作成委員会（第17条）
第9章　学生リーダー会（第18条）
第10章　広報委員会（第19条）
第11章　会計（第20条ー第24条）
第12章　雑則（第25条ー第26条）
附則

第1章　総則
第1条　本会は、東北文化学園大学学友会と称する。
第2条　本会は、会員相互の親睦を図るとともに、文化、体育及び学生生活の向上に資することを目的とする。
2　本会は、前項の目的を達成するため次の事業を行う。
⑴　文化活動、体育活動、及びこれらの課外活動に対する支援
⑵　各学科専攻における課外活動の支援
⑶　正会員の学友会活動の顕彰（顕彰方法は別に定める。）
⑷　その他、本会の目的を達成するために必要な事業
第3条　本会は、事務局を東北文化学園大学（以下「本学」という。）内に置く。
第4条　本会は、次の会員をもって組織する。
⑴　正 会 員　本学の学生
⑵　特別会員　本学に所属する教職員

第2章　役員
第5条　本会に、次の役員を置く。
⑴　会長　学生部長

⑵　副会長　学生委員会委員長代行、学生会代表者会議議長
⑶　役員　学生会代表者会議副議長１人
⑷　役員　第７条第１項⑷～⑻の各機関の代表者及び副代表者１人
⑸　幹事　学生委員会委員、大学事務局教務部長
⑹　監事　２人
⑺　顧問　若干人
2　会長は、本会を代表し、会務を掌理する。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
4　幹事は、本会のそれぞれの機関を分担して担当し、その活動に助言及び指導を行うとともに、役員相互の連絡調整にあたる。
5　監事は、特別会員の中から会長が任命し、本会の会計及び会務を監査する。
6　顧問は、学長及び会長経験者とし、必要に応じて会長が任命し運営協議会に出席し意見を述べることができる。
第６条　監事の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。また、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
2　顧問の任期は定めないが、本人の申し出により辞することができる。

第３章　機関

第７条　本会に、次の機関を置く。
⑴　運営協議会
⑵　役員会
⑶　学生会代表者会議
⑷　課外活動委員会
⑸　文化学園祭実行委員会
⑹　卒業アルバム作成委員会
⑺　学生リーダー会
⑻　広報委員会
2　前項第４号に以下の部会を置く。
⑴　運動部会
⑵　文化部会

第４章　運営協議会及び役員会

第８条　運営協議会は、本会の最高議決機関とする。
2　運営協議会は、次の構成員をもって組織する。
⑴　役員会構成員
⑵　学生会代表者会議構成員
3　運営協議会は、次に掲げる事項を審議し、決定する。
⑴　本会の事業に関する事項
⑵　予算及び決算に関する事項
⑶　会則の改廃に関する事項
⑷　その他、本会の運営に関する重要事項
4　運営協議会は、会長が招集し、議長となる。
5　運営協議会は、構成員の２分の１以上の出席がなければ会議を開き議決することができない。ただし、出席できない構成員が委任状（電子メールも可）を提出したときは、委任状をもって出席と見なすことができる。
6　運営協議会の議事は、出席した構成員の３分の２以上の同意をもって決する。
第９条　運営協議会は、年１回定例に開くものとする。
2　会長は、次に掲げる場合、臨時に運営協議会を開かなければならない。
⑴　構成員の３分の１以上から要求があった場合
⑵　会長が必要と認めた場合
第10条　役員会は、本会の執行機関とする。
2　役員会は、第５条第１項に定める役員を構成員として組織する。
3　役員会は、本会の運営及び次の各号に係る事項を審議する。
⑴　運営協議会にて決定された事業の執行に関すること
⑵　運営協議会にて決定された予算の管理に関すること
⑶　運営協議会に提出する議案の作成に関すること
⑷　その他、本会事業の執行に関する重要事項
4　役員会は、会長が招集し議長となる。
5　役員会は、構成員の３分の２以上の出席がなければ、会議を開き議決することができない。
6　役員会の議事は、出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第５章　学生会代表者会議

第11条　学生会代表者会議は、各学科専攻の正会員の意見を学友会活動に反映させる機関とし、次の構成員をもって組織する。
⑴　議長
⑵　各学科専攻の学年毎に２人ずつ選出された学生
2　前項２号の学生から、学科専攻ごとに学生代表者１人を互選にて選出する。
3　議長は、本会議の構成員の互選によって定め、学生会代表者会議を統括する。
4　議長は、必要に応じた人数の副議長を選任することができる。副議長は議長を補佐し、議長に事故があった場合は代行を務める。
5　学生会代表者会議は、議長が招集する。
6　学生会代表者会議は、構成員過半数の出席がな

ければ会議を開き議決することができない。ただし、出席できない構成員が委任状（電子メールも可）を提出したときは、委任状をもって出席と見なすことができる。

7　学生会代表者会議の議事は、出席した構成員の3分の2以上の同意をもって決する。

第12条　学生会代表者会議は、年1回定例に開くものとする。

第13条　議長は、次に掲げる場合、臨時に学生会代表者会議を開かなければならない。

⑴　構成員の3分の1以上から要求があった場合

⑵　議長が必要と認めた場合

第6章　課外活動委員会

第14条　課外活動委員会は、サークル及び同好会に関する事項を審議する機関とする。

2　課外活動委員会は、次の委員をもって組織する。

⑴　委員長

⑵　運動部会長

⑶　文化部会長

⑷　各サークル代表者

3　課外活動委員会の委員長は、各サークルの代表者の互選によって定め、課外活動委員会を統括する。

4　運動部会長と文化部会長は副委員長を兼ねる。副委員長は委員長を補佐し、議長に事故があった場合は代行を務める。

5　課外活動委員会は、委員長が招集し、議長を指名する。

6　課外活動委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開き議決することができない。

7　課外活動委員会の議事は、出席した委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

8　サークル及び同好会については、別に定める。

第15条　課外活動委員会に、スポーツ大会実行委員会を置く。

2　スポーツ大会実行委員会は、次の委員をもって組織する。

⑴　実施種目運動部代表者

⑵　正会員有志　若干人

3　委員長は、前項の委員の互選によって定め、スポーツ大会実行委員会を統括する。

4　スポーツ大会実行委員会は、委員長が招集する。

第7章　文化学園祭実行委員会

第16条　文化学園祭実行委員会は、文化学園祭の企画、運営等を行う機関とする。

2　文化学園祭実行委員会は、若干人の正会員有志（以下「委員」という。）をもって組織する。

3　文化学園祭実行委員会の委員長は、前項の委員の互選によって定め、文化学園祭実行委員会を統括する。

4　委員長は、必要に応じた人数の副委員長を選任することができる。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があった場合は代行を務める。

5　文化学園祭実行委員会は、委員長が招集し、議長を指名する。

6　文化学園祭実行委員会は、委員の2分の1以上の出席がなければ会議を開き議決することができない。

7　文化学園祭実行委員会の議事は、出席した委員の3分の2以上の同意をもって決する。

8　委員長は、必要に応じ委員以外の者を出席させ意見を聴くことができる。

第8章　卒業アルバム作成委員会

第17条　卒業アルバム作成委員会は、正会員の意見を十分に反映させ、当該卒業年度生の卒業アルバム作成を行う機関とする。

2　卒業アルバム作成委員会は、卒業年次の学生会代表者会議構成員及び若干人の正会員有志（以下「委員」という。）をもって組織する。

3　卒業アルバム作成委員会の委員長は、委員の互選によって定め、卒業アルバム作成委員会を統括する。

4　委員長は、必要に応じた人数の副委員長を選任することができる。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があった場合は代行を務める。

5　卒業アルバム作成委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

6　卒業アルバム作成委員会は、委員3分の2以上の出席がなければ会議を開き議決することができない。

7　卒業アルバム作成委員会の議事は、出席した委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第9章　学生リーダー会

第18条　学生リーダー会は、大学と協同し新入生学外研修の企画、運営等を行う機関とする。また、本学のオープンキャンパスや保護者懇談会など、学生スタッフが必要な際の活動において、積極的かつ優先的に参加することとする。

2　学生リーダー会は、若干人の正会員有志（以下「学生リーダー」という。）をもって組織する。

3　学生リーダー会代表（以下「トップリーダー」という。）は、学生リーダーの互選によって定め、学生リーダー会を統括する。

4　トップリーダーは必要に応じた人数の学生リーダー会副代表を選任することができる。副代表はトップリーダーを補佐し、トップリーダーに事故があった場合は代行を務める。
5　新入生学外研修等を運営するにあたり、学生スタッフ数を必要とする場合、運営補助を目的として学生リーダーとは別に学生サポーターを募集できるものとする。
6　学生リーダー会は、トップリーダーが招集し、議長を指名する。
7　学生リーダー会は、学生リーダーの 2 分の 1 以上の出席がなければ会議を開き議決することができない。
8　学生リーダー会の議事は、出席した学生リーダーの 3 分の 2 以上の同意をもって決定する。

第 10 章　広報委員会

第 19 条　広報委員会は、「東北文化学園大学学友会」が行っている活動、収支決算報告及び大学生活などを取材し、在学生やその保護者、近隣高校及び地域住民に対して広報する機関とする。
2　広報委員会は、若干人の正会員有志（以下「委員」という。）をもって組織する。
3　委員長は、委員の互選によって定め、広報委員会を統括する。
4　広報委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
5　委員長は、必要に応じた人数の副委員長を選任することができる。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があった場合は代行を務める。
6　広報委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ会議を開き議決することができない。
7　広報委員会の議事は、出席した委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第 11 章　会計

第 20 条　本会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
第 21 条　本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもって充てる。
第 22 条　本会の会費は次のとおりとする。また、特別会員については、賛助金
を募るものとする。
⑴　正 会 員　年額 10,000 円
⑵　特別会員　賛助金　一口　1,000 円から
2　正会員の会費は、毎年度前期に納入するものとする。
3　特別会員の賛助金は、毎年前期の始めに募るものとするが、年間を通じて受け付けることができる。
4　休学中の正会員の年度会費は、徴収しない。
5　徴収の方法については、会長が別に定める。
第 23 条　本会の会計は、会計年度の終了時に監事の監査をうけなければならない。
第 24 条　本会の決算は公示する。

第 12 章　雑則

第 25 条　本会の庶務は、事務局において処理する。
第 26 条　この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、運営協議会の議を経て、会長が別に定める。

附　則

この会則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この会則は、平成 18 年 7 月 21 日から施行し、平成 18 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この会則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 18 条の規定は平成 19 年 12 月 12 日から施行する。

附　則

この会則は、平成 20 年 9 月 25 日から施行する。

附　則

この会則は、平成 21 年 2 月 20 日から施行する。

附　則

この会則は、平成 22 年 6 月 23 日から施行し、平成 22 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この会則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この会則は、平成 28 年 7 月 6 日から施行し、平成 28 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この会則は、平成 29 年 7 月 6 日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この会則は、平成 30 年 7 月 5 日から施行する。

東北文化学園大学学友会サークルに関する細則

（平成 11 年 3 月 10 日制定）

（設置）

第 1 条　学友会に、正会員の自主的な課外活動の場として運動部会及び文化部会を置く。
2　運動部会及び文化部会にサークルを置く。
3　運動部会及び文化部会に部会長を置く。部会長は、所属する各サークルの代表者の互選によって定め、各部会を統括する。

（結成）

第 2 条　サークルを結成しようとする場合は、5 人

以上の正会員が顧問を推挙の上、4か月以上の同好会活動を経て、サークル承認申請書（様式第1号）を課外活動委員会（以下「委員会」という。）に提出し、委員会の審議を経て、役員会において承認されなければならない。

2　正会員は、文化部会及び運動部会のサークルに、原則それぞれ1サークルに限り登録することができる。ただし、それぞれのサークル顧問が特に認めた場合はこの限りではない。

3　同好会については、別に定める。

（継続）

第3条　サークルは、活動を継続しようとするときは、年度始めに次の書類を委員会に提出し、委員会及び役員会の審議を経て、運営協議会において承認されなければならない。

⑴　会計報告書

⑵　年間活動報告書

⑶　次年度予算申請書

⑷　次年度年間活動方針

⑸　サークル員名簿

2　前項の書類の提出がない場合には、継続の意思がないものとみなし、解散審議の対象となる。

3　サークルを継続する場合は、以下の条件の全てを有していなければならない。

⑴　団体として活動することにより、所属する正会員が多くの利益を共有できること

⑵　社会人としての人格形成に有益であり、公共の福祉に反しないこと

⑶　所属する正会員が、継続申請時に5人以上であること

⑷　前年度にサークルとして以下の活動を行っていること

①　運動部においては、公式試合への出場又は学内外行事への積極的な参加

②　文化部においては、公の場で団体としての発表と活動又は学内外行事への積極的な参加

⑸　前年度の予算執行が適切であること

（学内施設の利用）

第4条　サークルとして承認された場合は、所定の施設使用願いを学生課に提出し学内施設を使用することができる。

（活動支援）

第5条　サークルは、活動の発展拡大及び対外活動を鑑み、学友会予算から、活動費用の支援を受けることができる。

（同好会への移行）

第6条　サークルの同好会への移行は、サークルの自主的な判断に基づくものである場合に限り、委員会の審議を経て、役員会において承認する。

（休部）

第7条　サークル員が、年度始めの継続申請時に5人に満たない場合は、委員会及び役員会の審議を経て休部とみなすこととする。

2　休部とみなされたサークルは、学内施設を使用することはできない。

3　休部とみなされたサークルは、学友会予算からの活動費支援が停止される。

（解散）

第8条　サークルは、次の各号の一つに該当する場合は、委員会及び役員会の議を経て解散となる。ただし、会長が特に必要と認めた場合はこの限りではない。

⑴　著しく公共の福祉に反した場合

⑵　休部となり、次年度継続申請時に所属する正会員が5人に満たない場合

⑶　委員会で定めるペナルティを科され、その解散基準に達した場合

⑷　自主的に解散を希望する場合

2　解散しようとするサークルは、解散届及びサークル解散手続書類確認書を委員会に提出するものとする。

3　ペナルティに関しては、別に定める。

（届出及び報告）

第9条　サークルは、以下の事由がある場合には、所定の様式にて学生課に届け出なければならない。

⑴　代表者を変更する場合　　代表者変更届

⑵　顧問が変更となる場合　　サークル・同好会顧問変更届

⑶　連盟及び協会等に加入する場合　　連盟等加入届

⑷　学外で開催される大会及び行事等に参加する場合　　外行事参加願及び学外行事参加者名簿

⑸　遠征及び合宿をする場合　　同上

⑹　学外で開催された大会及び行事等に参加した場合　　諸行事・大会結果報告書

附　則

1　この細則は、平成11年4月1日から適用する。ただし、第3条第1号の規定は、平成12年4月1日から適用する。

2　当分の間、第2条第1項及び第3条の規定による人数については、当該規定によらないことができるものとする。ただし、委員会の審議を経て、運営協議会において承認されなければならない。

附　則

1　この細則は、平成21年2月20日から適用する。

2　学友会課外活動委員会の同好会及びサークルに関する申合せ（平成14年7月23日、学友会運営協議会承認）は、廃止する。

附　則

この細則は、平成 26 年 7 月 16 日から施行し、平成 26 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この細則は、平成 29 年 7 月 6 日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

東北文化学園大学学友会同好会に関する細則

┌平成 21 年 2 月 20 日┐
└制　　定┘

（設置）

第 1 条　学友会に、正会員の自主的な課外活動の場として同好会を置く。

（結成）

第 2 条　同好会を結成しようとする場合は、5 人以上の正会員が顧問を推挙の上、同好会承認申請書を学生課に提出し、課外活動委員会（以下「委員会」という。）の審議を経て、役員会において承認されなければならない。

2　同好会は、以下の条件を有していなければならない。

⑴　団体として活動することにより、所属する正会員が多くの利益を共有できること。

⑵　社会人としての人格形成に有益であり、公共の福祉に反しないこと。

（継続）

第 3 条　同好会は、活動を継続しようとするときは、年度始めに次の書類を委員会に提出し、委員会及び役員会の審議を経て、運営協議会において承認されなければならない。

⑴　年間活動報告

⑵　次年度年間活動方針

⑶　同好会員名簿

2　前項の書類の提出がない場合には、継続の意思がないものとみなし、解散審議の対象となる。

（学内施設の利用）

第 4 条　同好会として承認された場合は、所定の施設使用願いを学生課に提出し学内施設を使用することができる。ただし、原則としてサークルの使用を優先する。

（サークルへの移行）

第 5 条　同好会として 4 か月以上の活動を行い、第 2 条第 2 項及び以下の条件の全てを満たす場合は、サークルへの移行を申請することができる。

⑴　既存の本学施設等を利用することにより活動が十分可能であること

⑵　申請までに同好会として以下の活動を行っていること

①　運動部においては、練習試合等の対外試合

②　文化部においては、公の場（大学祭を含む）における団体としての発表又は活動

⑶　サークル移行後に、以下の活動を行えること

①　学内外行事への積極的な参加

②　運動部においては、公式な対外試合への参加

③　文化部においては、公の場（大学祭を含む）で日頃の成果を発表又は活動

2　同好会がサークルへの移行を申請する場合は、次の書類を委員会に提出し、委員会の審議を経て、役員会において承認されなければならない。

⑴　サークル承認申請書

⑵　年間活動報告書

⑶　次年度予算申請書

⑷　次年度年間活動方針

（休部）

第 6 条　同好会は、継続申請時に所属する正会員が 5 人に満たない場合は、委員会及び役員会の議を経て休部とみなすこととする。

2　休部とみなされた同好会は、学内施設を使用することはできない。

（解散）

第 7 条　同好会は、次の各号の一つに該当する場合は、委員会及び役員会の議を経て解散となる。ただし、会長が特に必要と認めた場合はこの限りではない。

⑴　著しく公共の福祉に反した場合

⑵　休部となり、次年度継続申請時に所属する正会員が 5 人に満たない場合

⑶　委員会で定めるペナルティを科され、その解散基準に達した場合

⑷　自主的に解散を希望する場合

2　解散しようとする同好会は、解散届を委員会に提出するものとする。

3　ペナルティに関しては、別に定める。

（届出及び報告）

第 8 条　同好会は、以下の事由がある場合には、指定の様式にて学生課に届け出なければならない。

⑴　代表者を変更する場合　　代表者変更届

⑵　顧問が変更となる場合　　サークル・同好会顧問変更届

⑶　連盟及び協会等に加入する場合　　連盟等加入届

⑷　学外で開催される大会及び行事等に参加する場合　学外行事参加願及び学外行事参加者名簿

⑸　遠征及び合宿をする場合　　同上

⑹　学外で開催された大会及び行事等に参加した場合　　諸行事・大会結果報告書

附　則

1　この細則は、平成 21 年 2 月 20 日から適用する。

2　学友会課外活動委員会の同好会及びサークルに関する申合せ（平成 14 年 7 月 23 日、学友会運営協議会承認）は、廃止する。

附　則

この細則は、平成 29 年 7 月 6 日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

東北文化学園大学学友会会長特別賞に関する申合せ

┌平成 26 年 7 月 16 日┐
└運 営 協 議 会 制 定┘

（趣旨）

第 1 条　この申合せは、東北文化学園大学学友会（以下「学友会」という）会則第 2 条第 2 項第 3 号に基づき、会長特別賞の表彰等に関し、必要な事項を定めるものとする。

（表彰の対象）

第 2 条　学友会会長特別賞の表彰は、課外活動等の成果が特に顕著で、学友会の名誉を著しく高めたと認められる者であって、次の各号のいずれかに該当する正会員に対し行う。

⑴　国際的又は全国的規模のスポーツ競技会等に出場し、優秀な成績を修めた者

⑵　芸術文化活動において、国際的又は全国的規模の審査等で優秀な成績を修めた者

⑶　その他、前各号に準じ表彰に値する行為等があったと認められる者

（推薦）

第 3 条　学友会会長特別賞候補者の推薦は、別紙様式により正会員または特別会員が行うものとする。

2　推薦の受付は、東北文化学園大学（以下「本学」という）内の所定の場所において行う。

（選考）

第 4 条　学友会会長特別賞の選考は、東北文化学園大学学生委員会の議を経て会長が行う。

（表彰の形式）

第 5 条　表彰は、会長が表彰状を授与することにより行う。

2　会長は、表彰状にあわせて、副賞を授与することができる。

3　副賞の金額は、10,000 円から 15,000 円程度とする。

（表彰の時期）

第 6 条　表彰の時期は、原則として年 2 回（前期・後期）とする。

（庶務）

第 7 条　学友会会長特別賞に関する庶務は、学友会事務局において処理する。

（雑則）

第 8 条　この申合せに定めるもののほか、学友会会長特別賞に関し必要な事項は運営協議会の議を経て、会長が別に定める。

（申合せの改廃）

第 9 条　この申合せの改廃は、運営協議会の議を経て会長が行う。

附　則

この申合せは、平成 26 年 7 月 16 日から施行し、平成 26 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この申合せは、平成 28 年 7 月 6 日から施行し、平成 28 年 4 月 1 日から適用する。

東北文化学園大学学友会における弔意及び見舞金の贈与等に関する申合せ

┌平成 26 年 7 月 16 日┐
└運 営 協 議 会 制 定┘

（趣旨）

第 1 条　この申合せは、東北文化学園大学学友会（以下「学友会」という）が行う弔意及び見舞金の贈与等に関し、必要な事項を定めるものとする。

（弔意）

第 2 条　会長は、正会員が逝去したときは、その遺族に対して香典 1 万円、供花 2 万円程度（実費）、弔電により弔意を表する。

（見舞金）

第 3 条　会長は、学友会または学友会に所属する団体が主催する行事等において事故が発生したときは、その負傷者が入院した場合に対して見舞金を贈ることができる。

2　見舞金贈与の基準及び金額は、以下のとおりとする。

基準	金額
入院日数が 7 日未満	10,000 円
入院日数が 7 日以上 14 日未満	20,000 円
入院日数が 14 日以上 30 日未満	30,000 円
入院日数が 30 日以上	50,000 円

3　見舞金は、治療終了後に贈るものとする。ただし、特別の事情があると認められたときは、この限りではない。

（雑則）

第 4 条　この申合せに定めるもののほか、弔意及び見舞金に関し必要な事項は、運営協議会の議を経て、会長が別に定める。

（申合せの改廃）

第 5 条　この申合せの改廃は、運営協議会の議を経て行う。

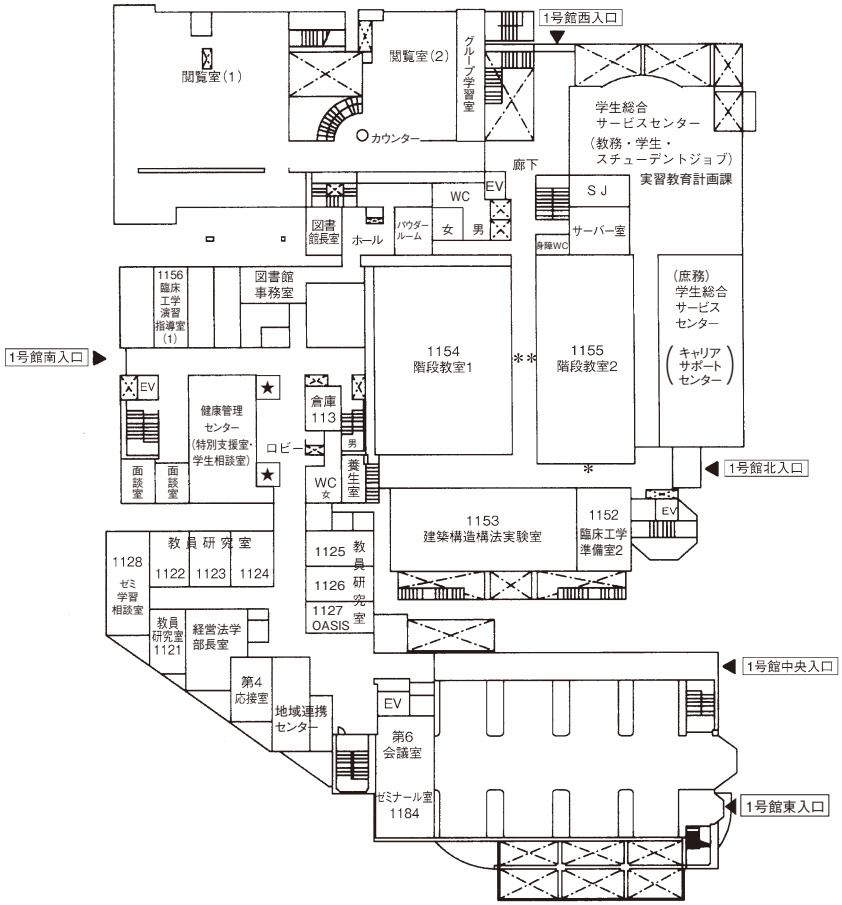
附　則

この申合せは、平成 26 年 7 月 16 日から施行し、平成 26 年 4 月 1 日から適用する。

Ⅶ　校舎案内・防災ガイド

TOHOKU BUNKA GAKUEN

東北文化学園大学校舎配置図



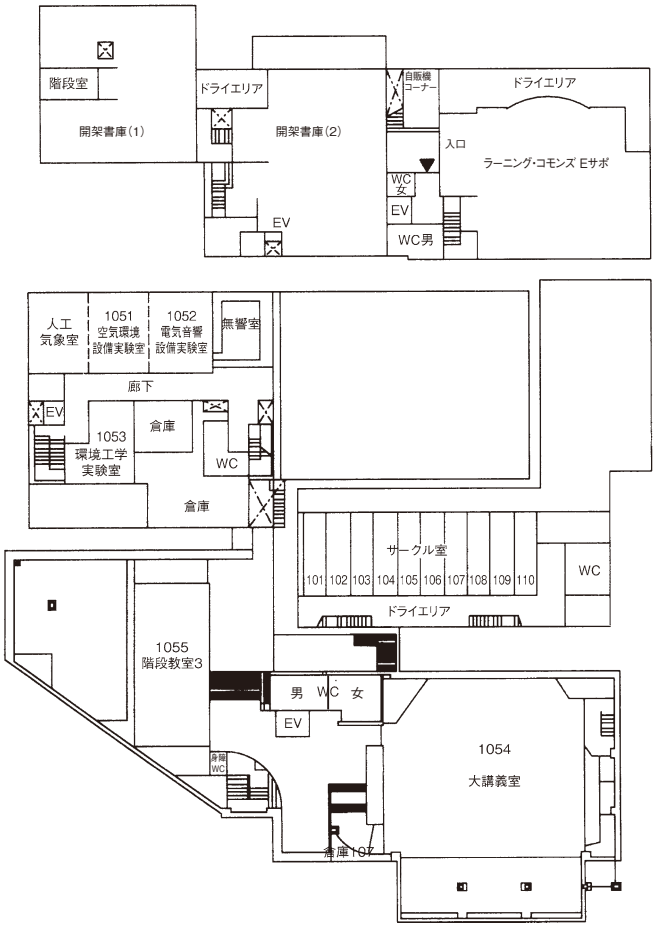
1 号 館

【1 階】

- 学生総合サービスセンター
  (庶務・教務・学生・実習教育計画課・スチューデントジョブ・キャリアサポートセンター)
- 図書館閲覧室
- 階段教室１・２
- 建築構造構法実験室
- 経営法学部長室
- 教員研究室
- 面談室
- 健康管理センター
  (特別支援室・学生相談室)
- 臨床工学演習指導室(1)
- 臨床工学準備室(2)

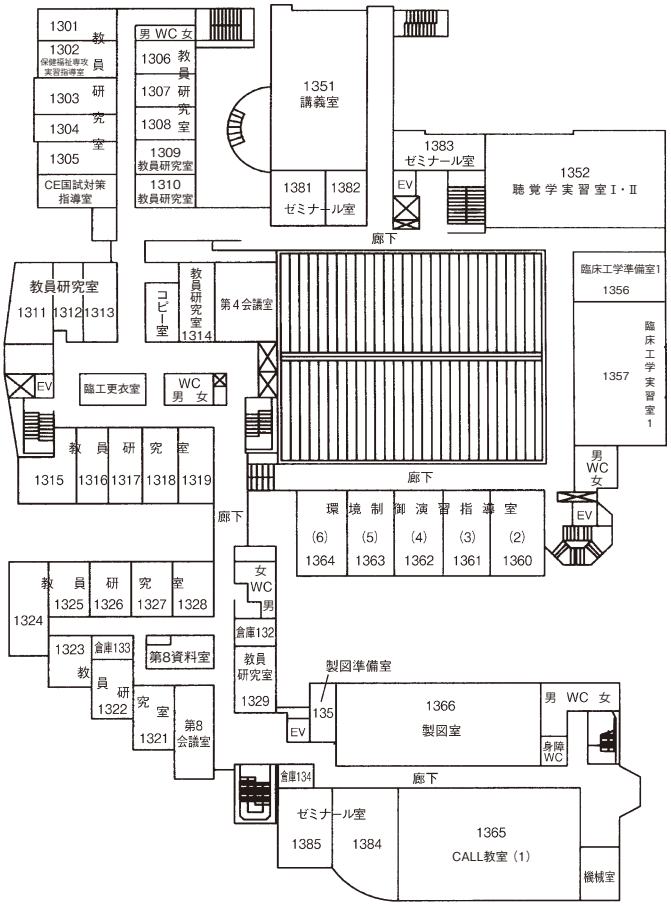
＊ 掲示板(経営法学部用・工学部/科学技術学部用)

★ 証明書自動発行機



【地下１階】

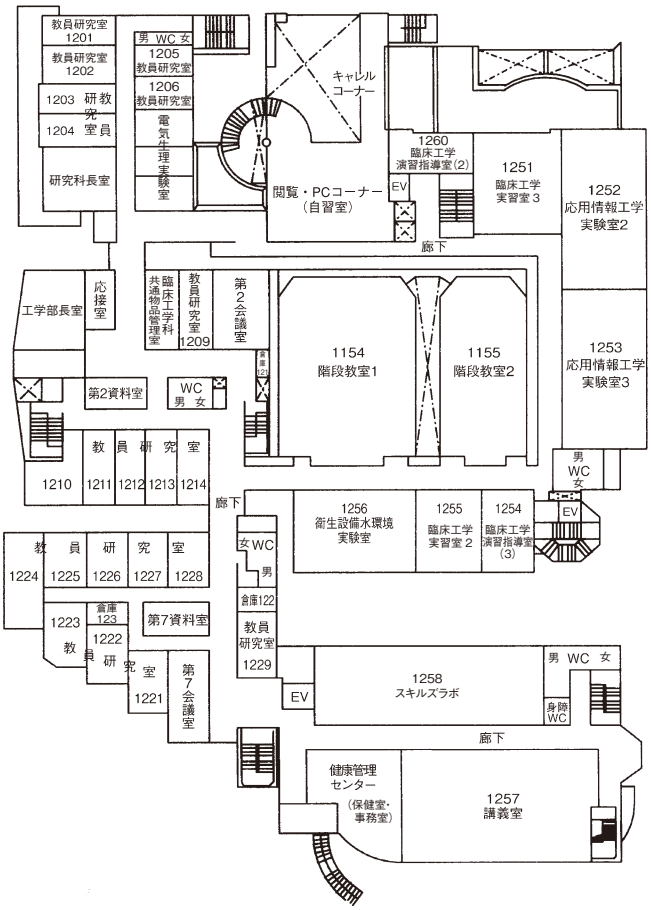
- 大講義室
- 階段教室３
- 人工気象室
- 空気環境設備実験室
- 電気音響設備実験室
- 無響室
- 自動販売機コーナー
- 図書館書庫
- サークル室
- ラーニング・コモンズ Eサポ



1 号 館

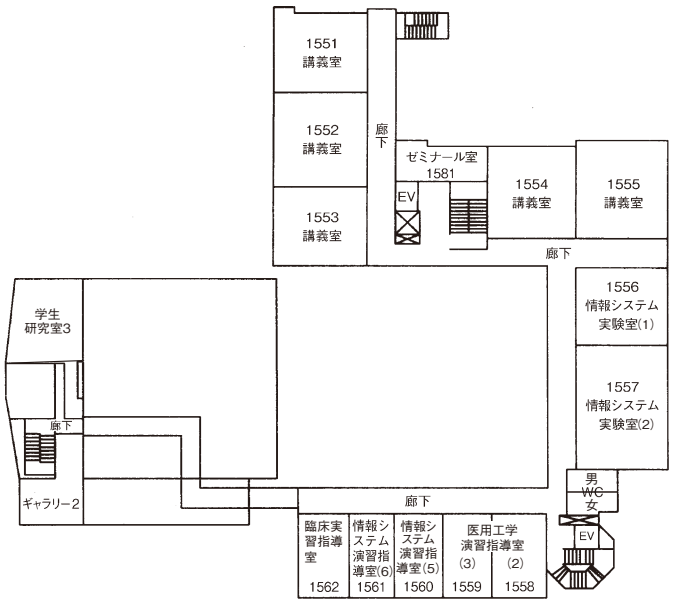
【3 階】

- 講義室
- 臨床工学実習室1・臨床工学準備室1
- 環境制御演習指導室（2）～（6）
- ゼミナール室
- 教員研究室
- 保健福祉セミナー室
- CALL教室（1）
- 聴覚学実習室Ⅰ・Ⅱ
- 製図室
- 更衣室



【2 階】

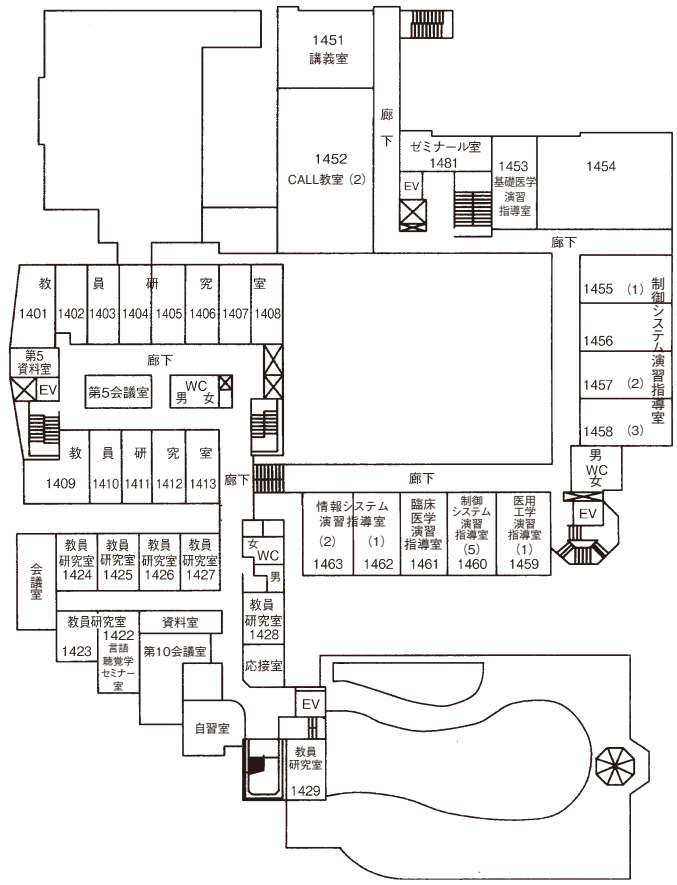
- 階段教室1・2
- 講義室
- 閲覧・PC コーナー（自習室）
- 応用情報工学実験室 2～3
- 衛生設備水環境実験室
- 心理検査室
- 電気生理実験室
- 研究科長室
- 工学部長室
- 教員研究室
- 健康管理センター（保健室･事務室）
- スキルズラボ
- 臨床工学実習室 2～3
- 臨床工学演習指導室 2～3



1 号 館

【5 階】

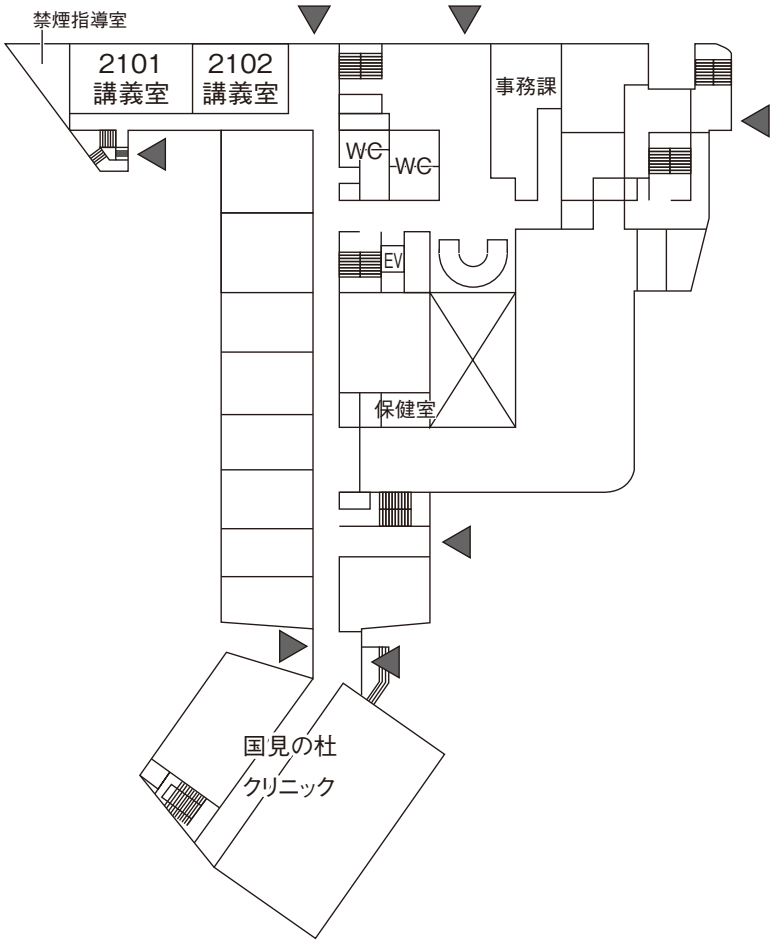
- 講義室
- ゼミナール室
- 情報システム実験室(1)～(2)
- 情報システム演習指導室(5･6)
- 学生研究室
- 言語聴覚実習対策室
- 医用工学演習指導室(2･3)
- ギャラリー2



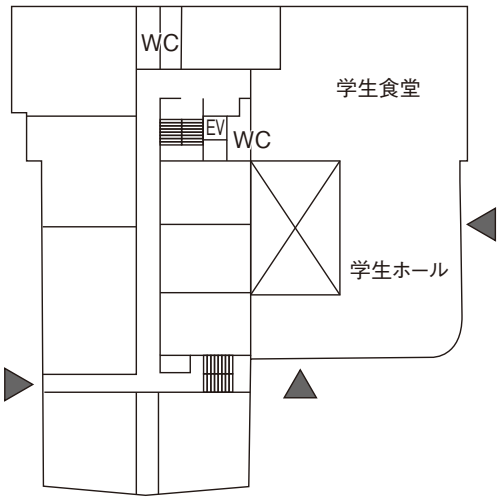
【4 階】

- 講義室
- CALL教室(2)
- 情報システム演習指導室 (1･2)
- 制御システム演習指導室 (1～3･5)
- 学生研究室
- 教員研究室
- ゼミナール室
- 言語聴覚学セミナー室
- 基礎医学演習指導室
- 医用工学演習指導室(1)
- 臨床医学演習指導室
- 自習室

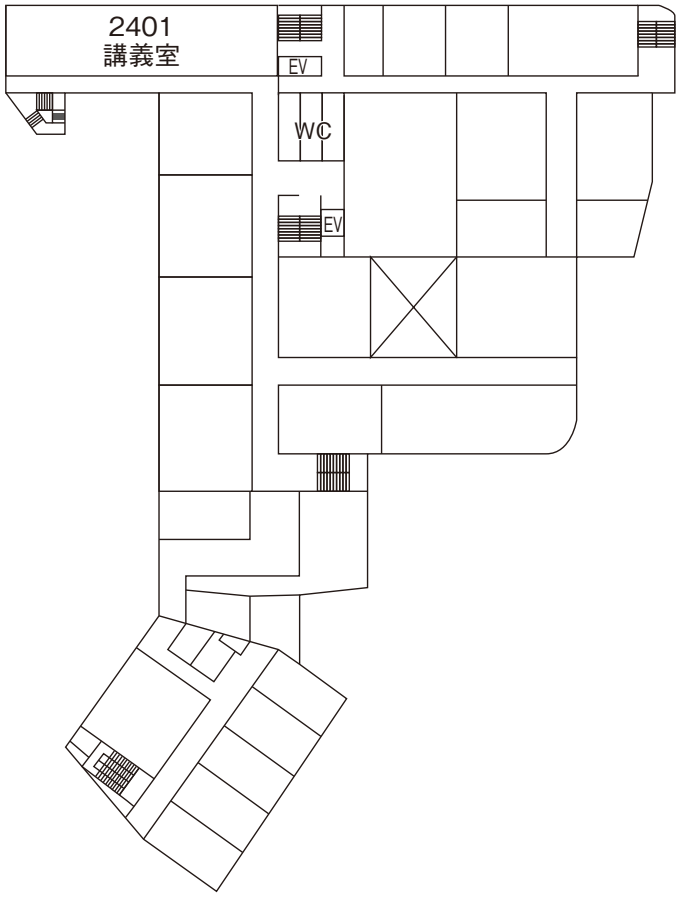
2 号 館



【 1 階 】
- ●講義室
- ●事務課（専門学校）
- ●保健室

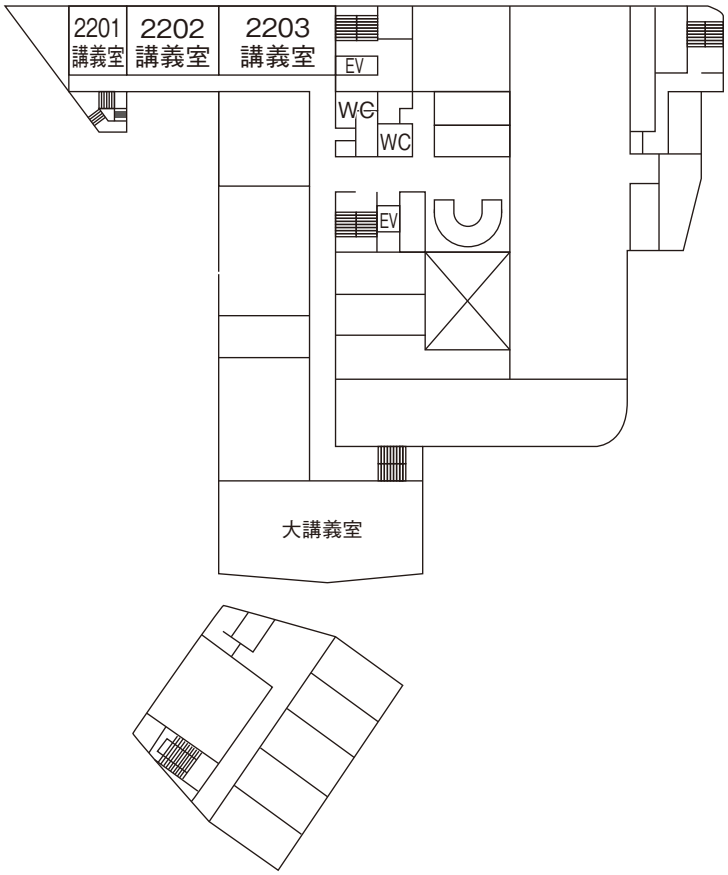


【 地下 1 階 】
- ●学生食堂
- ●学生ホール



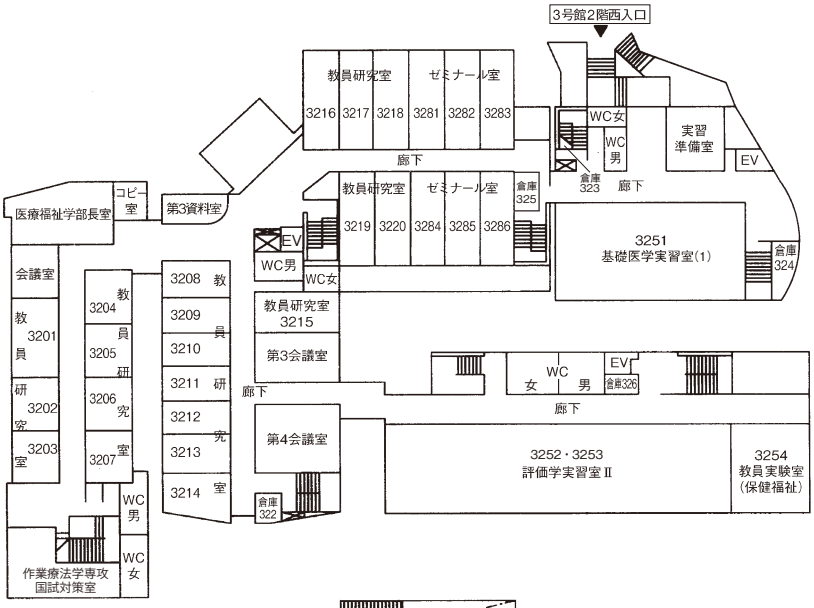
2 号 館

【 4 階 】
●講義室



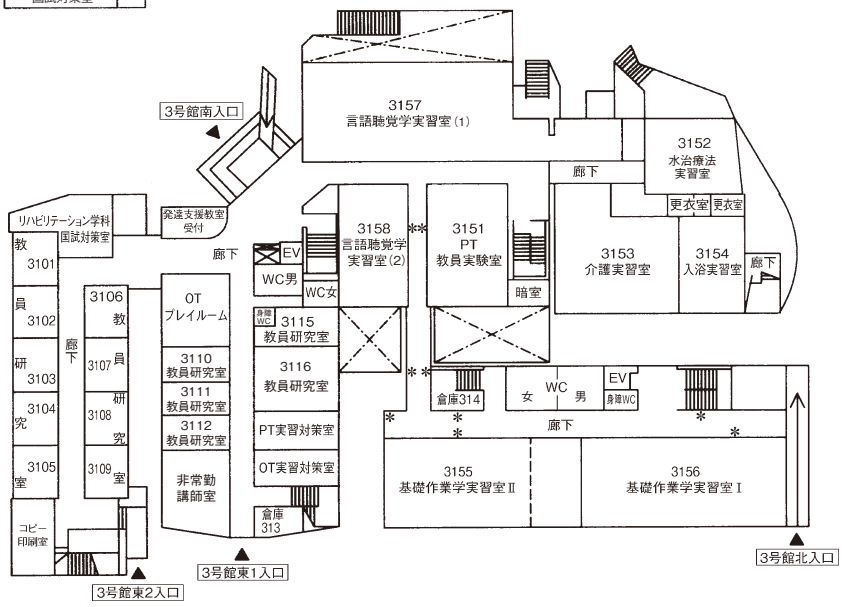
【 2 階 】
●講義室

3 号 館



【２ 階】

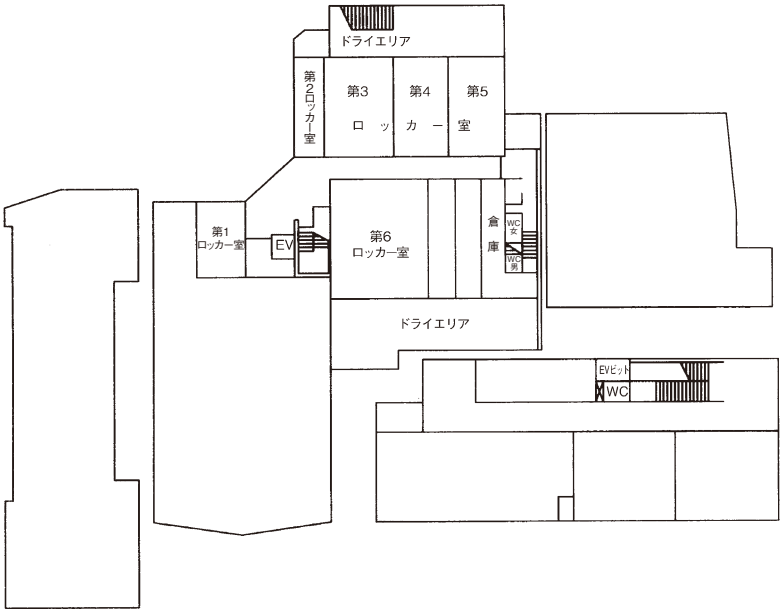
- 基礎医学実習室(1)
- 実習準備室
- ゼミナール室
- 医療福祉学部長室
- 教員研究室
- 評価学実習室Ⅱ
- 作業療法学専攻
  国試対策室



【１ 階】

- 基礎作業学実習室(Ⅰ)・(Ⅱ)
- 介護実習室
- 入浴実習室
- 水治療室
- 教員研究室
- 非常勤講師室
- PT実習対策室
- OT実習対策室
- リハビリテーション学科
  国試対策室
- 言語聴覚学実習室(1)・(2)
- OTプレイルーム

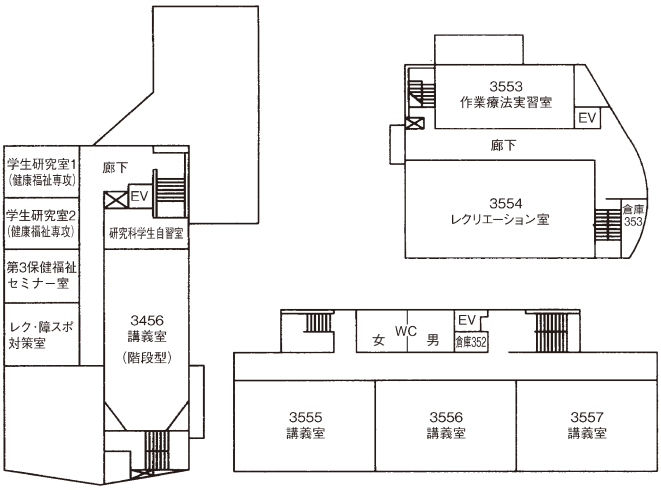
＊掲示板(医療福祉学部・
　　現代社会学部用)



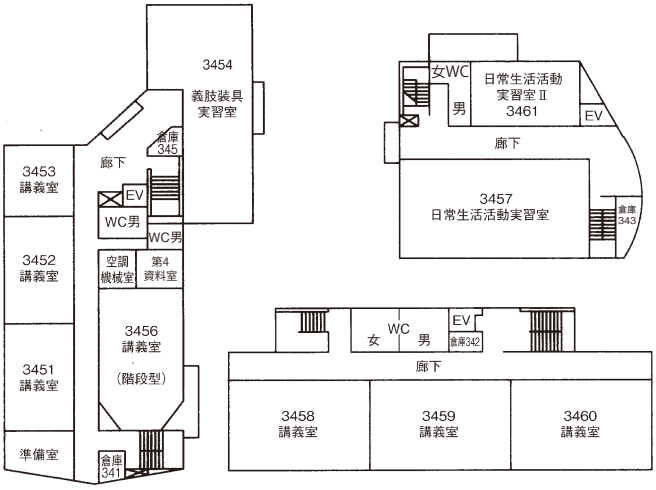
【地下１階】

- ロッカールーム

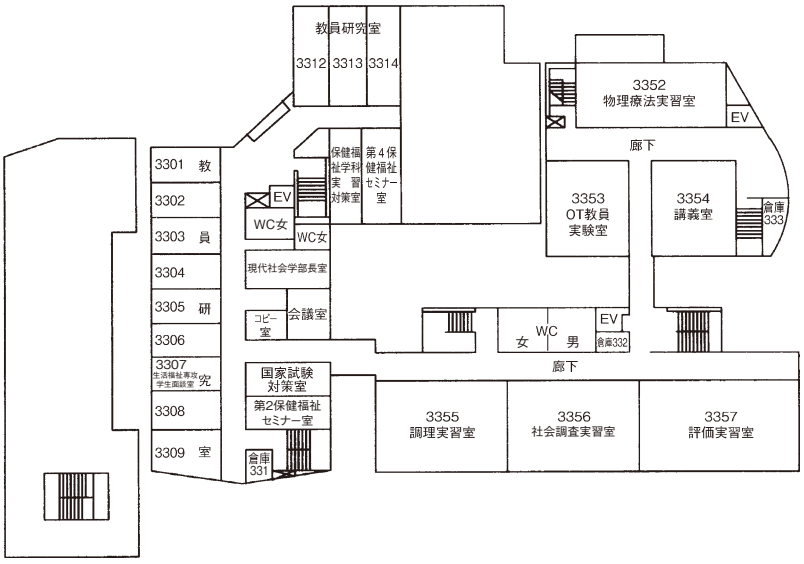
3 号 館



【5 階】
- 講義室
- 学生研究室
- レクリエーション室
- 作業療法実習室
- 保健福祉セミナー室
- レク・障スポ対策室
- 研究科学生自習室

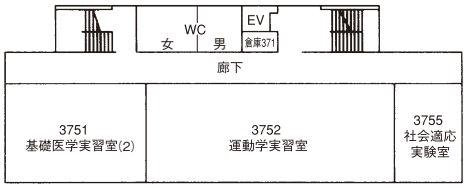


【4 階】
- 講義室
- 義肢装具実習室
- 日常生活活動実習室
- 準備室

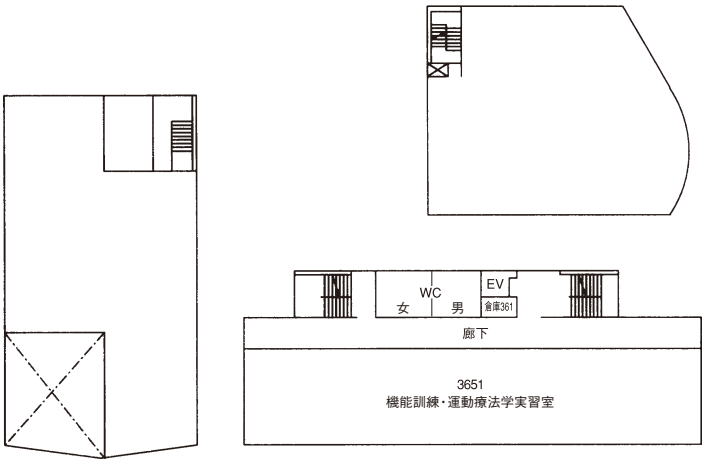


【3 階】
- 講義室
- 物理療法実習室
- 調理実習室
- 社会調査実習室
- 評価実習室
- 現代社会学部長室
- 教員研究室
- 保健福祉セミナー
- 保健福祉学科実習指導室
- OT教員実験室
- 保健福祉学科国家試験対策室

3 号 館



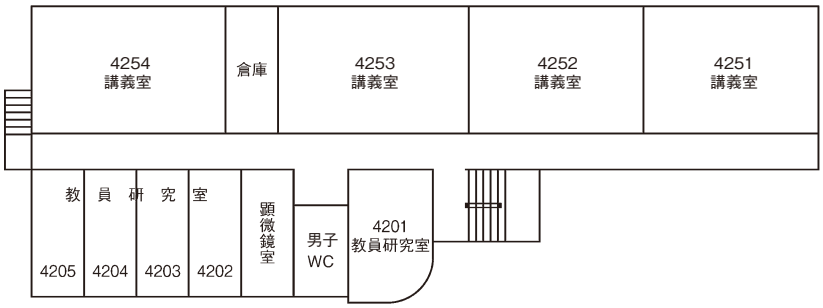
【7 階】
- 基礎医学実習室(2)
- 運動学実習室
- 社会適応実験室



【6 階】
- 機能訓練・
  運動療法学実習室

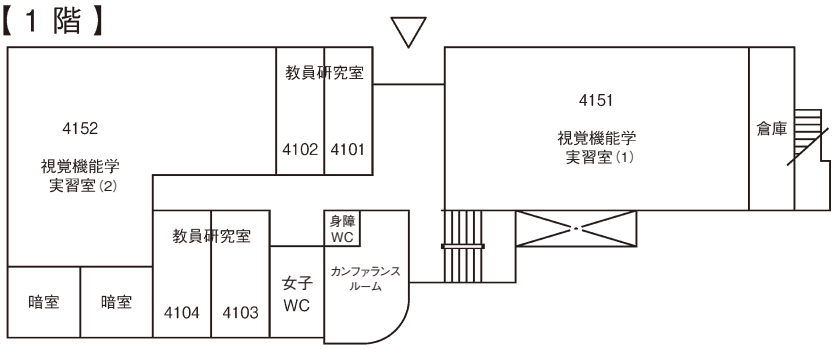
4 号 館

【２階】



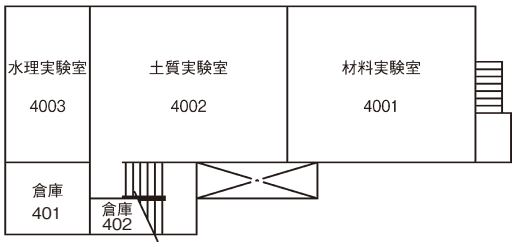
【２階】
- 講義室
- 教員研究室

【１階】

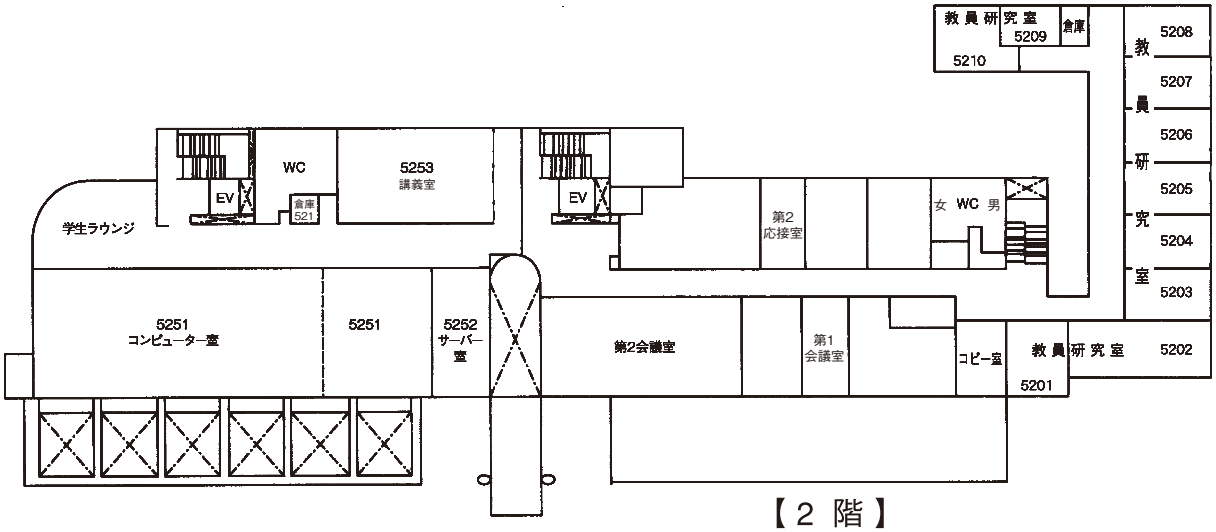


【１階】
- 視覚機能学実習室
- 教員研究室

【地下１階（専門学校）】
- 水理実験室
- 土質実験室
- 材料実験室

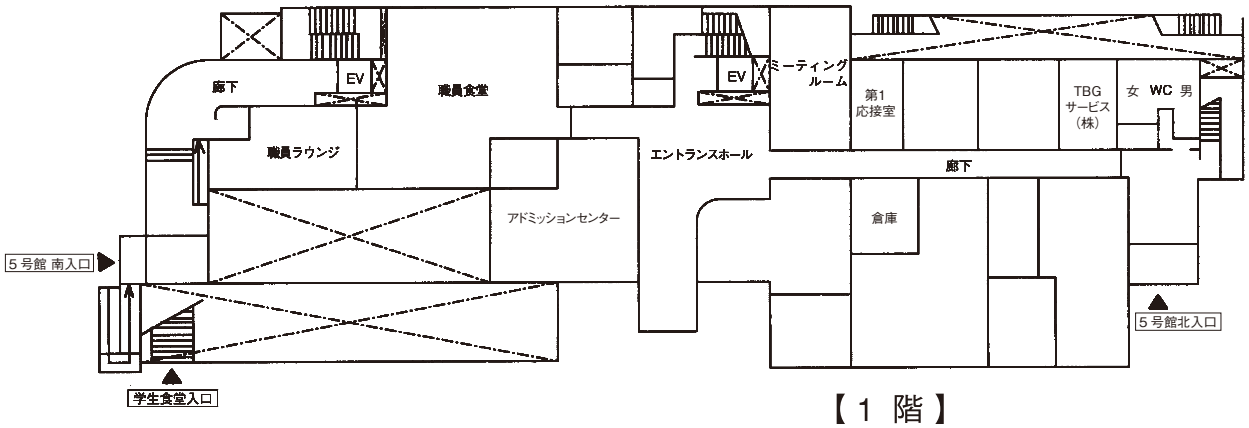


5 号 館



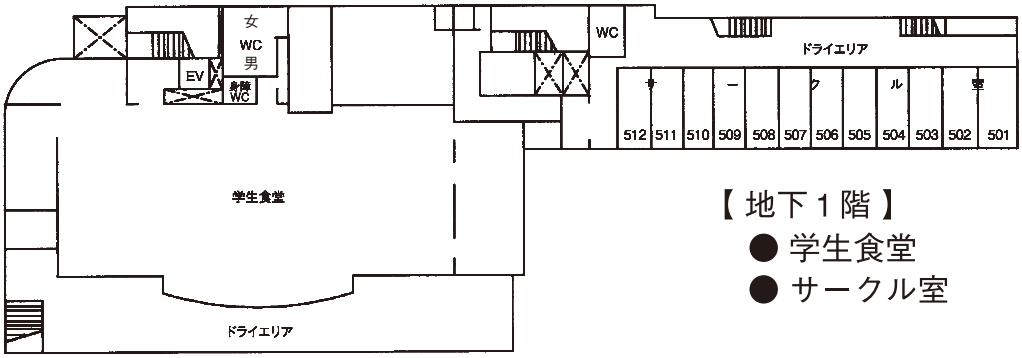
【２ 階】

- コンピューター室
- 講義室
- サーバー室
- 教員研究室



【１ 階】

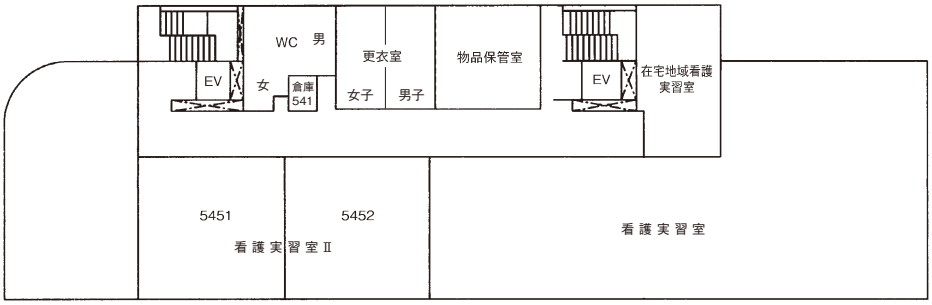
- 職員食堂
- TBGサービス(株)



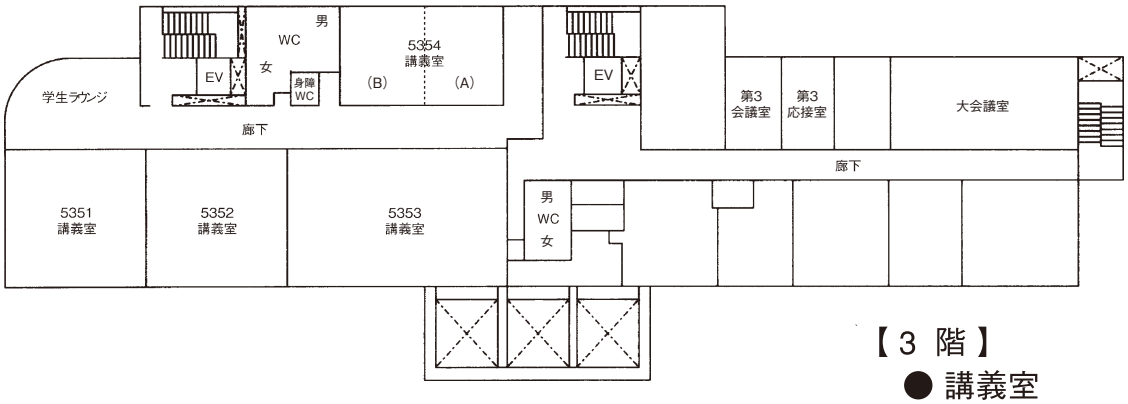
【地下１階】

- 学生食堂
- サークル室

5 号 館

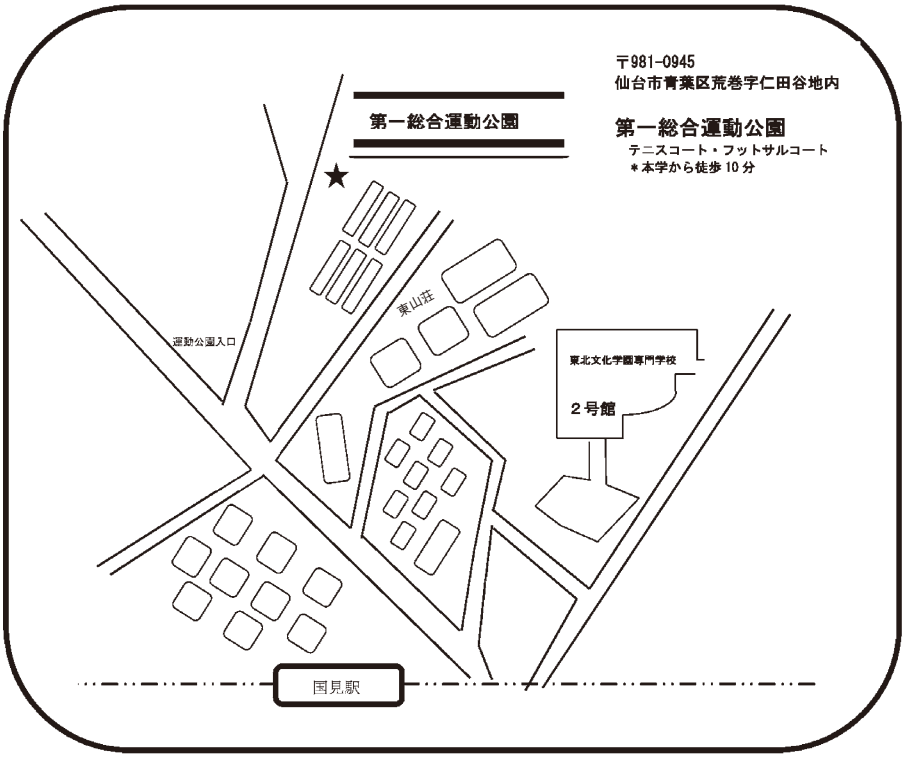


【４階】
- 看護実習室
- 看護実習室Ⅱ
- 在宅地域看護実習室
- 更衣室



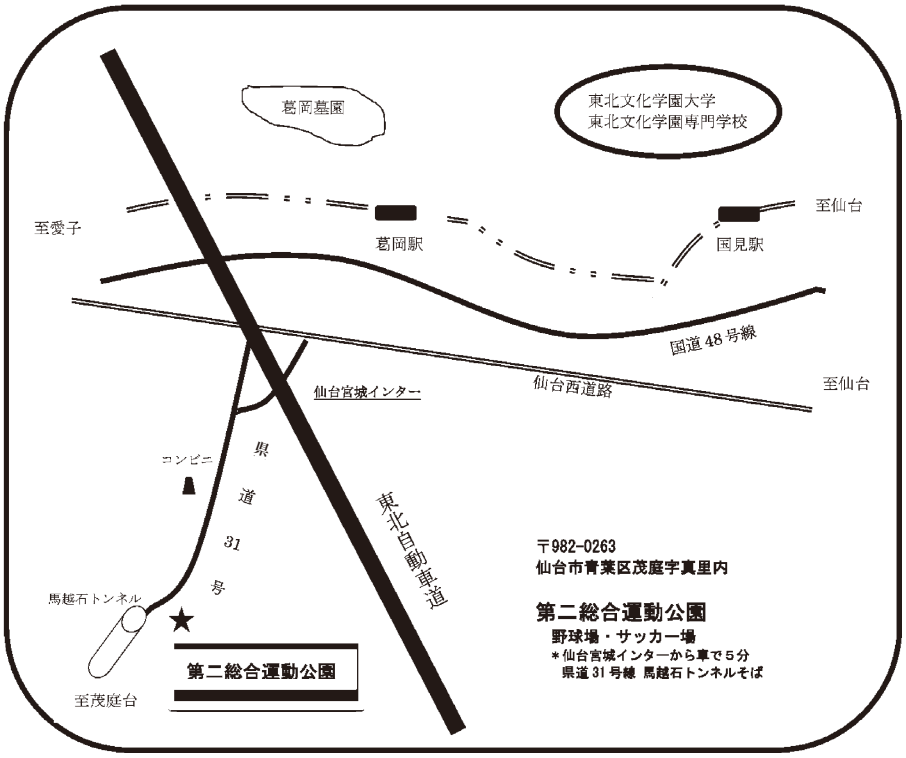
【３階】
- 講義室

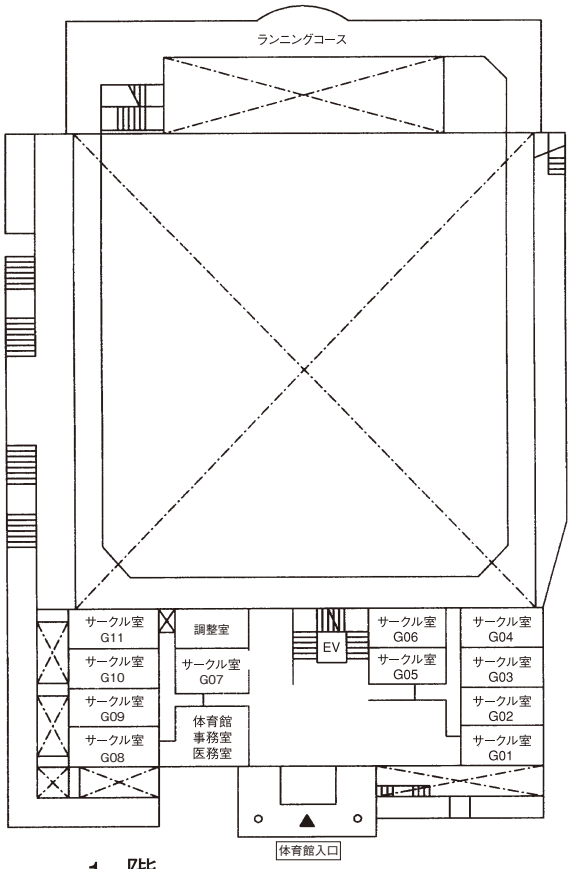
総合運動公園



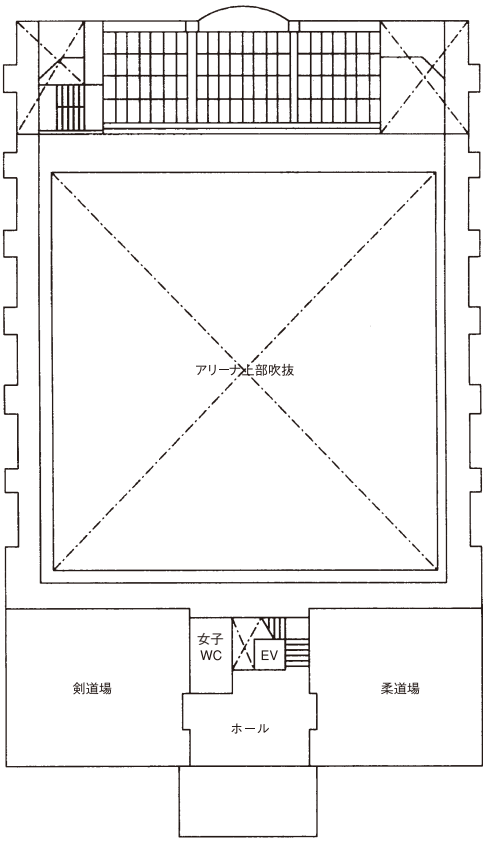
【第一総合運動公園】
- ●テニスコート
- ●フットサルコート

【第二総合運動公園】
- ●野球場
- ●サッカー場

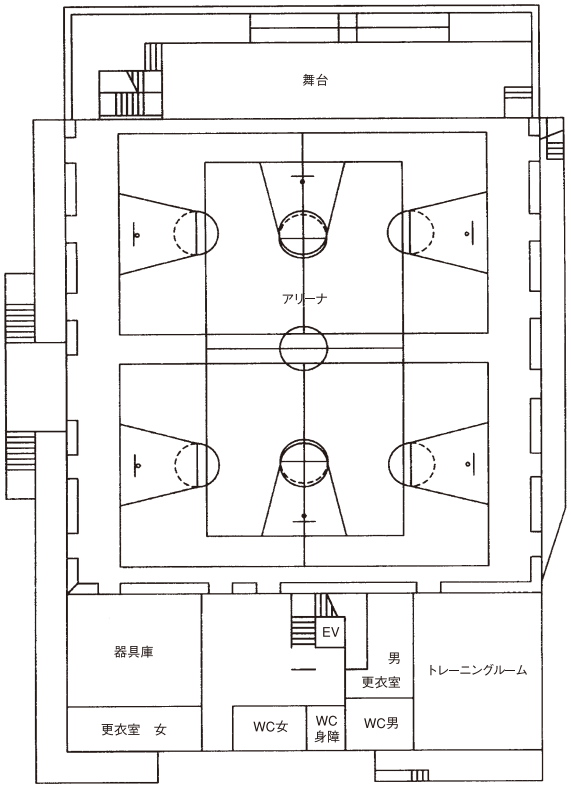




1 階



2 階



地下1階

体 育 館

【 地下１階 】
- ● アリーナ
- ● トレーニングルーム
- ● 更衣室
- ● 器具庫

【 1 階 】
- ● サークル室
- ● ランニングコース

【 2 階 】
- ● 柔道場
- ● 剣道場

防　災　ガ　イ　ド

災害に備えて

2011 年 3 月 11 日東日本大震災が発生しました。このような巨大災害でなくとも突然起きる災害、事故から自らの身を守ることがとても重要となります。各自適切な対処が出来るように日頃より備えて下さい。

災害用伝言ダイヤル「171」の利用方法

災害発生時（震度 6 弱以上の地震など）には、NTT の災害用伝言ダイヤルサービスが開始されます。事前契約などは一切不要ですから、被災した場合の安否の確認や連絡に活用出来ます。

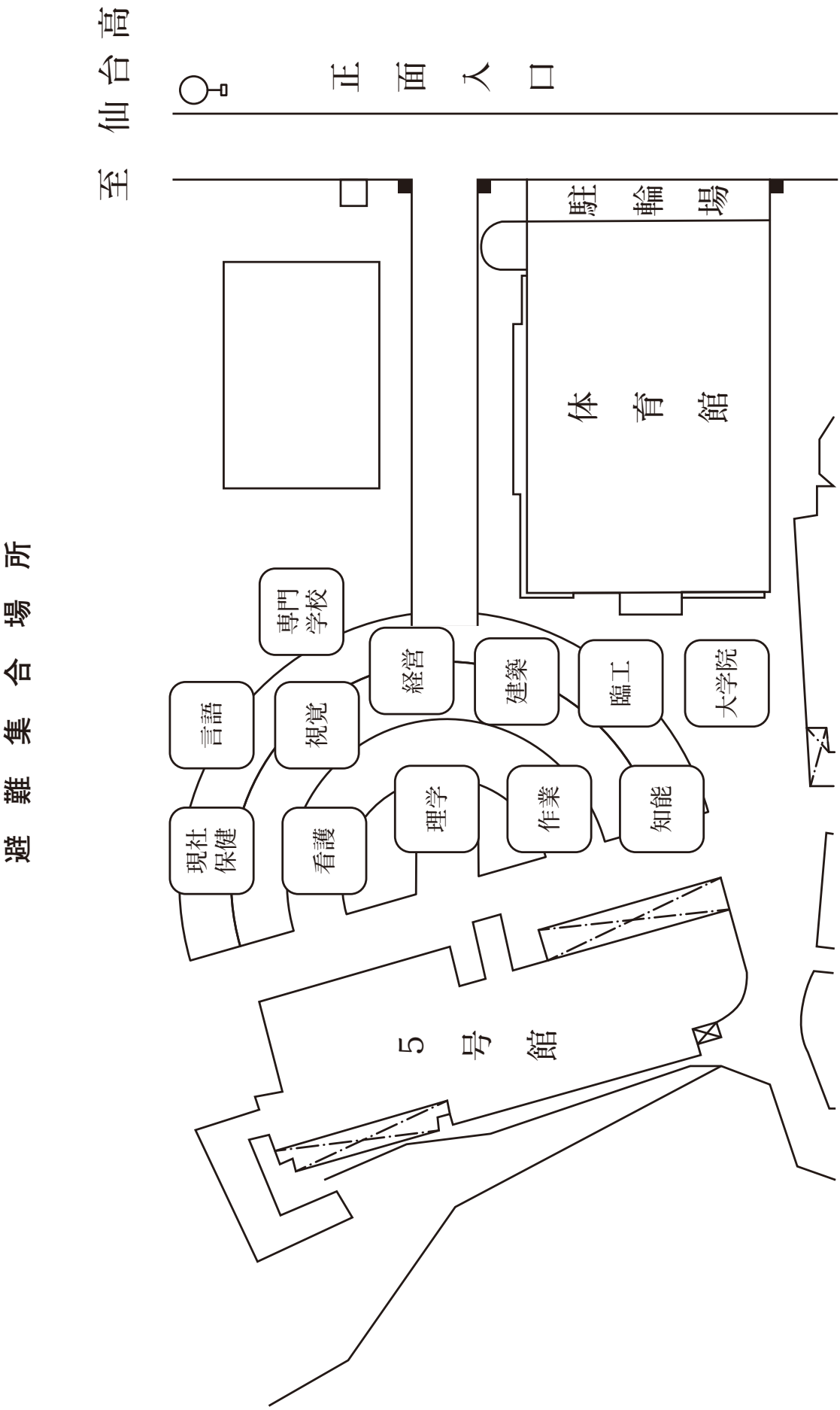
安否を登録する場合	安否を確認する場合
『①⑦①』にダイヤルする	
▼ガイダンスが流れます	
録音の場合『①』	再生の場合『②』
▼ガイダンスが流れます	
（×××）×××－××××	

※電話番号は市外局番からダイヤルして下さい。

他にも携帯各社で災害用伝言板サービスがあります。いざというときに使用できるよう携帯各社の使い方を確かめておく必要があります。

別途配布「震災対応マニュアル」参照。大学 HP からも確認できます。

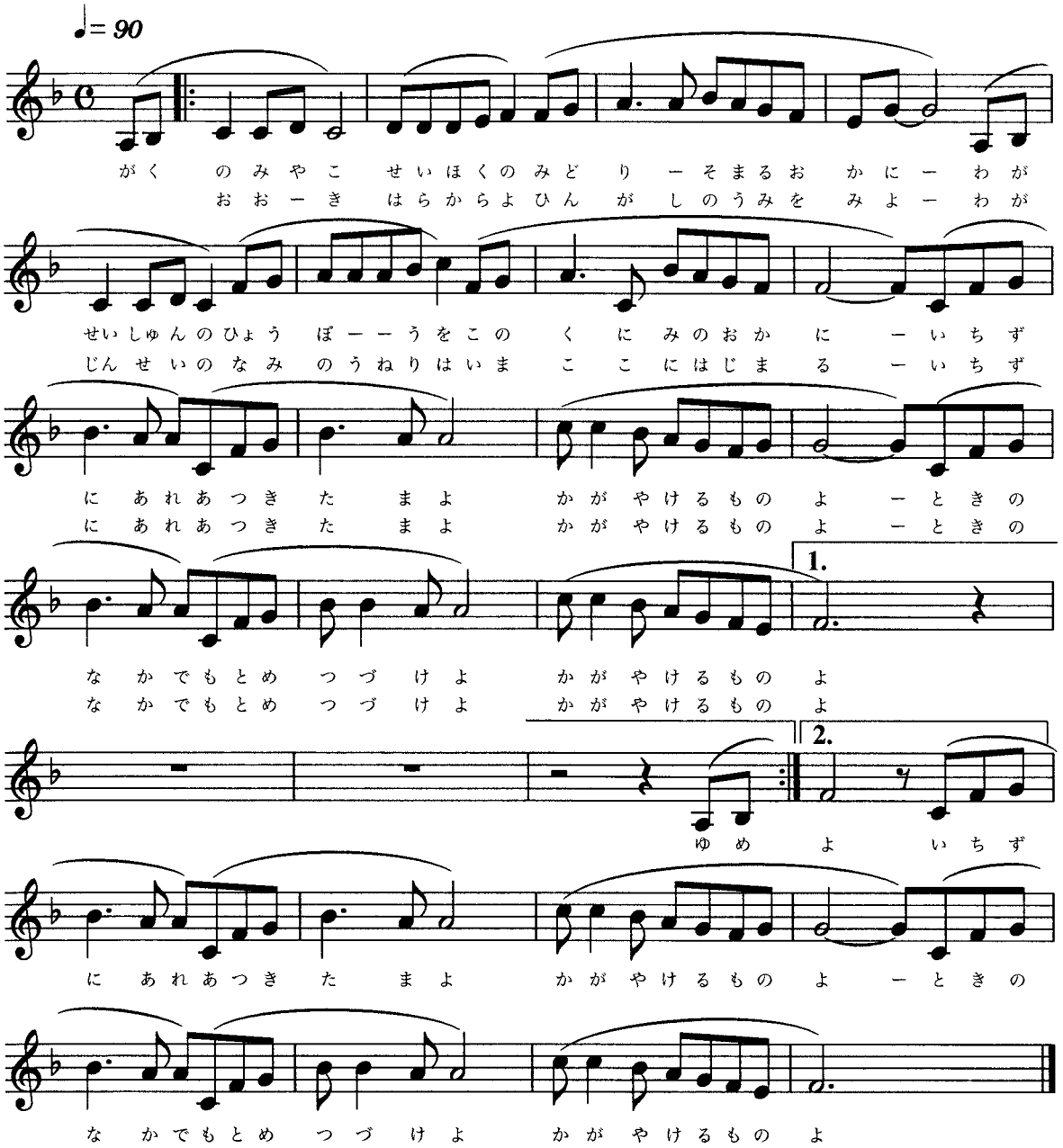
災害時、キャンパス内の避難場所


避難集合場所
至仙台高
正面入口
駐輪場
体育館
専門学校
言語
視覚
経営
建築
臨工
大学院
現社保健
看護
理学
作業
知能
5号館

学　園　歌

－ 輝ける者 －

作詞・作曲：さとう宗幸



一、

学の都　西北の
緑そまる丘に
わが青春の標榜を
この国見の丘に
一途にあれ　熱き魂よ
輝ける者よ
時代の中で　求め続けよ
輝ける者よ

二、

夢多き　はらからよ
東の海を見よ
わが人生の波のうねりは
今ここにはじまる
一途にあれ　熱き魂よ
輝ける者よ
時代の中で　求め続けよ
輝ける者よ

東北文化学園大学
TOHOKU BUNKA GAKUEN UNIVERSITY

教務課・学生課

981-8551　仙台市青葉区国見6丁目45－1
TEL 022-233-6116　　FAX 022-233-6419
教務課　kyomu@office.tbgu.ac.jp
学生課　gakusei@office.tbgu.ac.jp